

青森県埋蔵文化財調査報告書 第262集

# 畑内遺跡 V

－八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）に伴う遺跡発掘調査報告－

1999年3月

青森県教育委員会





青森県埋蔵文化財調査報告書 第262集

# 畑内遺跡 V

－八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）に伴う遺跡発掘調査報告－

1999年3月

青森県教育委員会







第55号竖穴住居跡完掘（上空から）



第55号竖穴住居跡出土遺物





第1号配石遺構とピット群（上空から）



弥生時代初頭の土器群



# 序

南郷村の新井田川流域には数多くの遺跡が分布しています。

この報告書は、八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）の実施に先立ち、事業地内に所在する南郷村畑内遺跡を発掘調査した結果をまとめたものです。調査では、縄文土器、石器をはじめとして、弥生時代の土器・土製品、縄文時代の竪穴住居跡やフラスコ状土坑等が検出されました。

この度の調査によって、畑内遺跡で生活していた人々の貴重な資料を得ることができました。

今後、この調査によって得られた成果が、地域社会の文化財として広く活用されることを願っております。

おわりに、日頃から埋蔵文化財の保護に対し御理解を賜っている農林水産省東北農政局八戸平原開拓建設事業所並びに南郷村、同村教育委員会及び調査の実施及び報告書の刊行にあたって種々御指導、御協力をいただいた調査指導員をはじめ、関係各位に対して厚くお礼申し上げます。

平成11年 3月

青森県教育委員会

教育長 松森 永祐

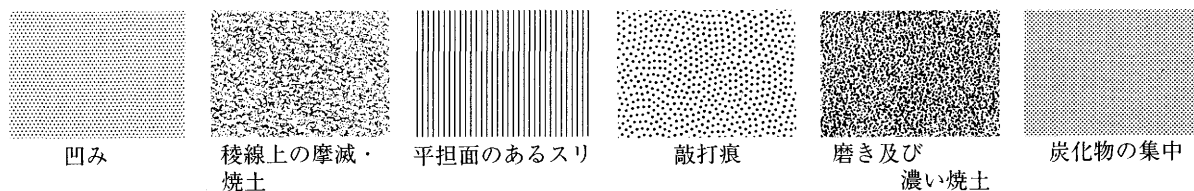




# 例 言

- 1 本報告書は、平成9年度に実施した南郷村畑内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、平成4年3月に青森県教育委員会が編集発行した『青森県遺跡地図』に遺跡番号65002として登録されている。
- 3 本報告書の執筆者は、依頼原稿については文頭に記載し、その他は文末に記してある。
- 4 試料の分析、鑑定については、次の方々に依頼した（順不同、敬称略）。

石器の石質鑑定	八戸市文化財審議委員	松山 力
放射性炭素年代測定	学習院大学教授	木越 邦彦
出土炭化材の樹種同定	木工舎「ゆい」	高橋 利彦
- 5 本書に掲載した地形図（遺跡位置図）は、建設省国土地理院発行の5万分の1の地形図「三戸・階上岳」を複写したものである。
- 6 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお、写真の縮尺は統一していない。
- 7 調査に至る経過については「畑内Ⅰ」～「畑内Ⅳ」と同様であるので、ここでは省略した。
- 8 遺構・遺物の文・図中での表現は、原則として次の様式・基準によった。
  - (1) 遺構内外堆積土の注記には、「新版標準土色帖」（小山、竹原；1994）を用いた。
  - (2) 遺物には観察表・計測値を付した。計測値の単位は石器類はcm、重量はgである。
  - (3) 図中で使用したスクリーントーンの表示は次のとおりである。



- (4) 遺物分布図の記号は次のとおりである。 ● 土器 ▲ 礫・石器
- 9 引用・参考文献については本文末に納めた。
- 10 発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 11 発掘調査及び本報告書作成にあたって、下記の諸氏から御協力・御助言を得た（順不同、敬称略）  
阿部明彦、安部 実、飯島伸一、板橋範芳、岩越宏典、奥山一絵、工藤雅樹、児玉大成、木幡成雄、小谷地肇、佐藤庄一、菅原哲文、須藤 隆、仙庭伸久、中村 大、新岡 巖、花海義人、羽生淳子、藤井安正、村木 淳、矢島敬之、安田忠市、森 淳、高田和徳、久保田滋子、星 雅之、津嶋智弘、稲野裕介、大渡賢一、工藤 武、渡部 紀、小川淳一、山岸洋一、角張淳一、高木 晃、榊 剛、坂口 隆、谷口康浩、設楽博巳、阿部芳郎、中村直美

# 目 次

序	
例 言	
目 次	
第Ⅰ章 調査要項	3
第Ⅱ章 調査の方法と調査の経過	4
第1節 調査の方法	4
第2節 調査の経過	5
第Ⅲ章 遺跡の環境	7
第1節 周辺の遺跡	7
第2節 基本土層	8
第Ⅳ章 検出遺構と出土遺物	10
第1節 検出遺構と遺構内出土遺物	10
1 竪穴住居跡	10
2 土坑	81
3 土器埋設遺構	167
4 焼土遺構	191
5 性格不明の遺構	201
6 屋外炉	201
7 集石遺構	216
8 配石遺構	218
第2節 遺構外出土遺物	224
1 土器	224
2 土偶	232
3 石器、石製品	252
第3節 B捨場（西捨場）出土土器	257
第Ⅴ章 自然科学的分析	309
第1節 学習院大学放射性炭素年代測定結果報告書（学習院大学教授 木越 邦彦）	309
第2節 畑内遺跡出土炭化材の樹種同定（木工舎「ゆい」 高橋 利彦）	310
第Ⅵ章 まとめ	312
写真図版	347
報告書抄録	455



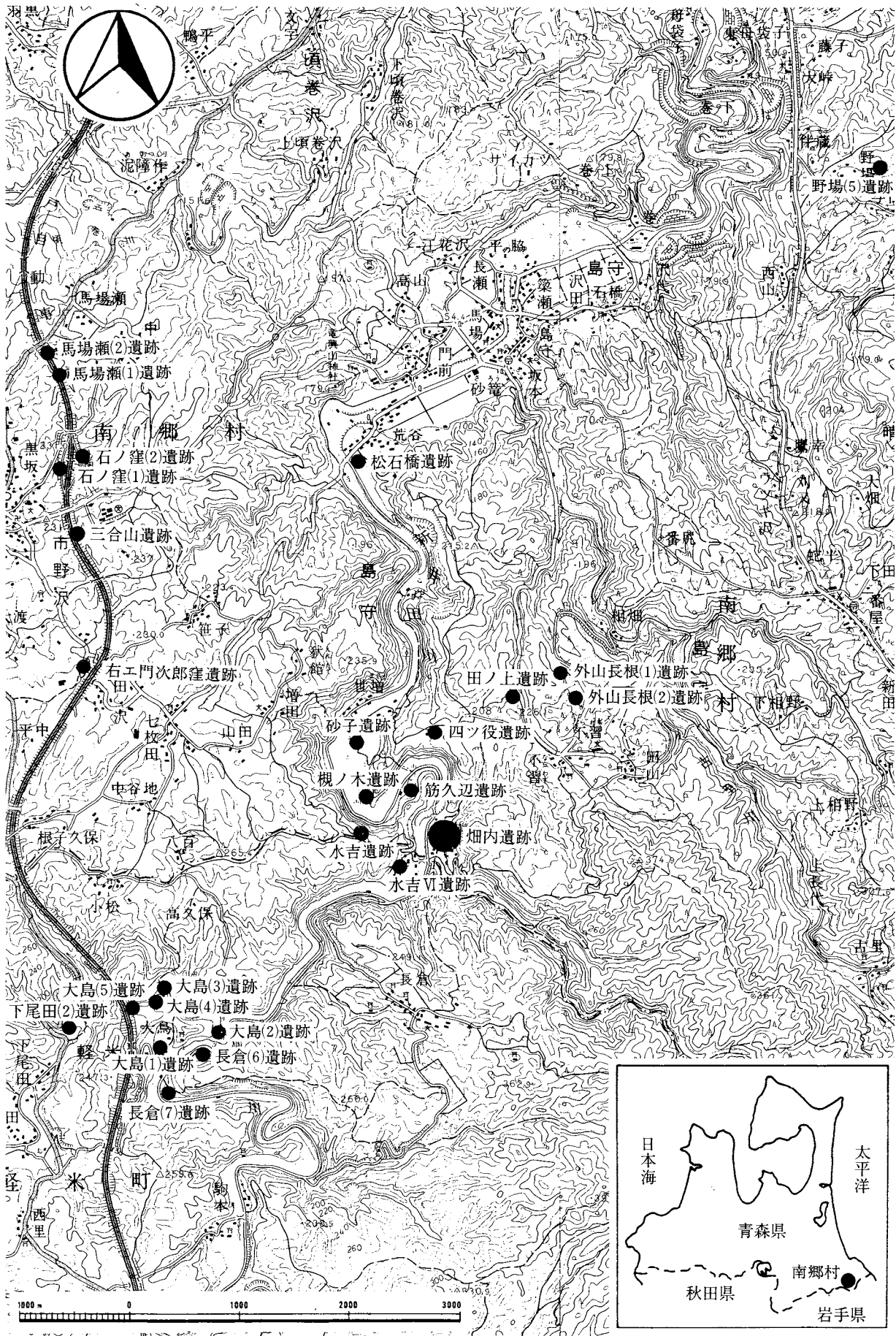


図1 遺跡位置図

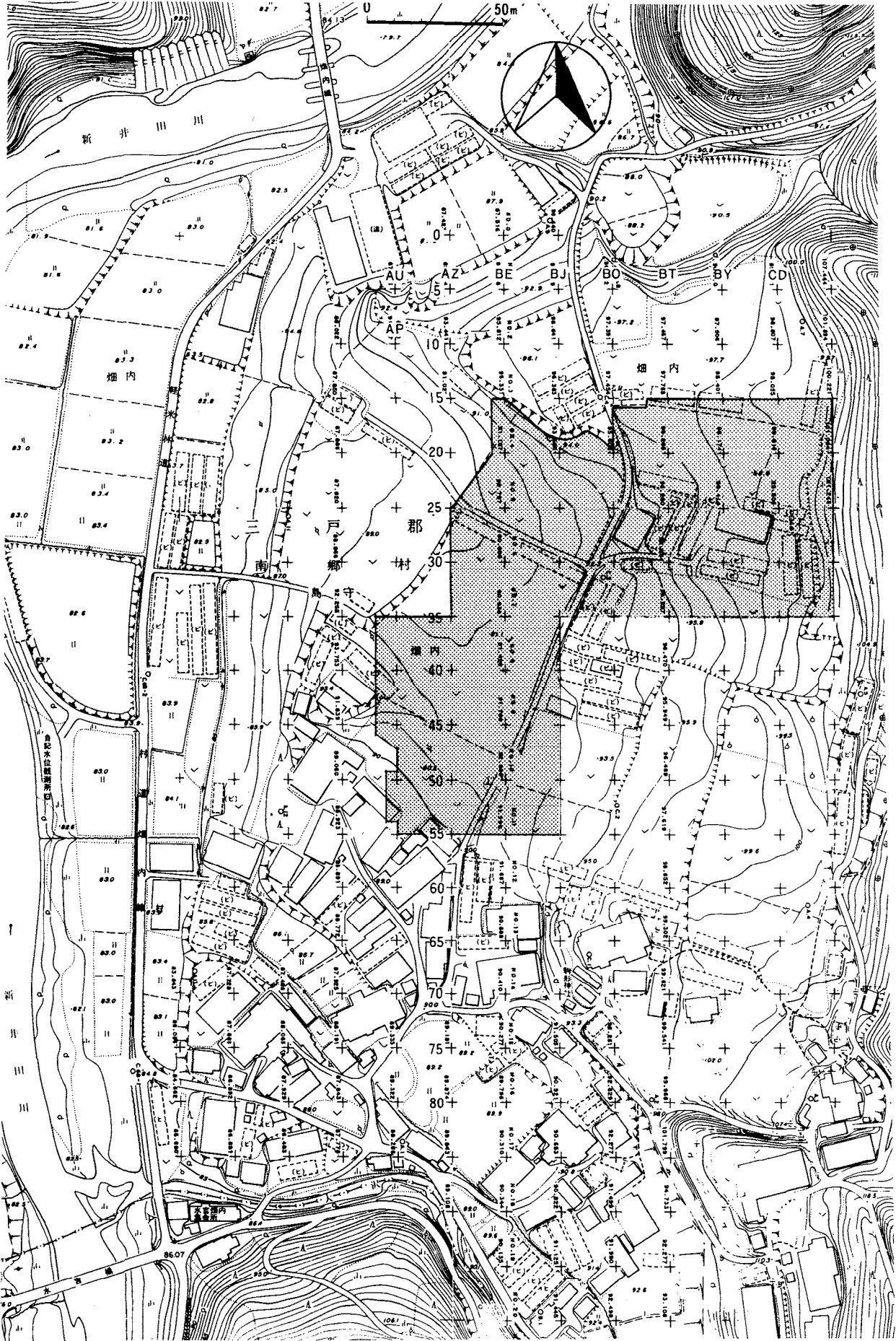


図2 グリッド配置及び調査範囲図

# 第 I 章 調査要項

## 1 調査目的

八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）の実施に先立ち、当該地区に所在する南郷村畑内遺跡の埋蔵文化財の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

## 2 発掘調査期間

平成9年5月1日から同年11月14日まで

（当初予定平成9年5月1日から同年10月31日まで）

## 3 遺跡名及び所在地

畑内遺跡 三戸郡南郷村大字島守字畑内4番地、外

## 4 調査対象面積

15,000平方メートル

## 5 調査委託者

東北農政局八戸平原開拓建設事業所

## 6 調査受託者

青森県教育委員会

## 7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

## 8 調査協力機関

南郷村教育委員会、三八教育事務所

## 9 調査参加者

調査指導員 村越 潔 青森大学教授（考古学）

調査協力員 市澤 輝次郎 南郷村教育委員会教育長

調査員 松山 力 八戸市文化財審議委員（地質学）

上村 四郎 南郷村歴史民俗資料館研究員（考古学）

小林 和彦 八戸市縄文学習館主任主査兼学芸員（動物考古学）

## 10 調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター

調査第四課 課長 木村 鐵次郎（現、調査第三課 課長）

主事 笹森 一朗（現、文化財保護主査）

主事 佐々木雅裕（現、文化財保護主事）

主事 茅野 嘉雄（現、文化財保護主事）

調査補助員 柿崎 悟 柴田 君仁（平成10年3月退職）

佐藤 公子 高子 幾子（平成10年12月退職）

堤 淳子 上野 寿子（平成11年3月退職）

杉田 幸子（平成11年3月退職）

## 第Ⅱ章 調査の方法と調査の経過

### 第1節 調査の方法

#### 1 調査区域の設定

畑内遺跡は、平成4年度の発掘調査に伴う範囲確認調査によって、面積が6万6千平方メートルにのぼる広大な遺跡であることが確認された。平成4年度に基準点測量及び水準点測量とともに、調査区の設定とした遺跡全体に20mのメッシュを地図上に組、遺跡にも南北に3本ほど通して基準杭を設置することを測量会社へ委託した。

調査区は座標北を基準に、4×4mを1単位と、東西方向をアルファベット2文字で東から西へA、A B、A Cというように、また、南北方向を北から南へ算用数字で表し、両者の組合せ（北西隅）で呼称している。

#### 2 発掘調査

- 1) グリッド単位で発掘区を拡張する方法を採った。
- 2) 粗掘りは、層位的・段階的に進め、遺構・遺物を確認してから、下層の掘り下げについて判断した。
- 3) 試掘的に先行して部分的に粗掘りを進め、遺物の出土のみられない地域は一部重機も併用して粗掘りを行った。
- 4) 土層観察は、各地点ごとに南北方向と東西方向にそれぞれ土層観察用のベルトを設定した。

#### 3 実測図の作成

- 1) 遺構については、4分法・2分法によって土層観察用のベルトを設定し、精査した。
- 2) 遺構の実測図（平面図・断面図）は、住居跡・土坑は縮尺20分の1、屋内炉・屋外炉・土器埋設遺構は縮尺10分の1を原則として作成した。
- 3) 遺構内出土遺物については、各遺構の実測図と同縮尺を原則とし、必要に応じて分布図・断面図等を作成した。
- 4) 遺構外出土遺物については、復元可能な土器及び口縁部大破片はレベル・ポイントを記録し、他は原則として各層ごとに各グリッド単位で一括して取り上げた。
- 5) 調査区の基本土層については、必要に応じて縮尺20分の1の実測図を作成した。

#### 4 写真撮影

- 1) 遺構については、確認状況・土層断面・遺物出土状況・完掘状況等を中心に撮影した。
- 2) その他必要に応じて、基本層序、遺跡の状況・調査状況についても記録した。
- 3) 使用カメラは35ミリカメラで、フィルムはモノクロームとカラーリバーサル（スライド）の2種類のフィルムを主に使用した。

## 第2節 調査の経過

畑内遺跡の発掘調査は、平成4年度から行われているので、平成4年度～7年度の調査の概要と平成9年度の調査経過を以下に述べることにする。

### 1 平成4年度概要

平成4年度の調査期間は5月6日から11月13日までで、調査日数は126日であった。検出遺構は竪穴住居跡16軒（縄文時代前期から中期初頭13軒、弥生時代3軒）、フラスコ状土坑115基（縄文時代前期）、土坑15基、その他集石遺構・屋外炉・土器埋設遺構（縄文時代前期）等である。また、縄文時代前期後半の捨場が2箇所検出され、それぞれ東捨場・西捨場と呼称した。出土遺物は段ボール箱で土器1,200箱、石器31箱、動物遺存体等25箱にのぼった。遺物の大部分は捨場からの出土で、その多くは西捨場の出土であり、縄文時代前期円筒下層式である。弥生時代の住居跡は前期砂沢式の時期に属する。

### 2 平成5年度概要

平成5年度の調査期間は5月10日から8月27日までで、調査日数は71日であった。検出遺構は竪穴住居跡27軒（縄文時代前期から中期26軒、弥生時代1軒）フラスコ状土坑110基（縄文時代前期）、土坑43基である。出土遺物は段ボール箱で土器396箱、石器30箱、動物遺存体等7箱である。遺物の多くは4年度から継続調査した西捨場からのものである。

### 3 平成6年度概要

平成6年度の調査期間は9月26日から11月11日までで、調査日数は31日であった。検出遺構は竪穴住居跡7軒、フラスコ状土坑9基、土坑12基、その他集石遺構・屋外炉である。出土遺物は段ボール箱で土器80箱、石器5箱である。

### 4 平成7年度概要

平成7年度の調査期間は7月3日から11月2日までで、調査日数は 日であった。検出遺構は竪穴住居跡2軒（弥生時代前期）、屋外炉・土器埋設遺構などで、円筒下層a式の捨場と円筒下層d式の捨場が新たに検出された。出土遺物は段ボール箱で土器250箱、石器25箱である。

### 5 平成9年度調査経過

平成9年5月1日、発掘調査器材を現地に搬入し、調査区内の環境整備を行うとともに、グリッド設定の杭打ちを行いながら、平成7年度に検出された円筒下層a式の捨場から調査を開始した。5月中旬、遺物の取り上げがほぼ終了すると中振浮石層上面から遺構が検出されはじめ、縄文時代前期と思われる大型の竪穴住居跡が検出された。同じく平成7年度に検出された円筒下層d式の捨場の精査も開始した。捨場からは多量の土器・石器類が出土し、下方の平坦部からは弥生土器が集中して検出され始めた。

6月上旬、グリッド付近に南北方向のトレンチを設定し粗掘りを開始した。その結果土石流層を挟み上層に弥生時代から縄文時代後期にかけての文化層が、下層に縄文時代前・中期の文化層が認められたため、上層の遺構確認に努めることになった。弥生時代の管玉や縄文時代後期と思われる配石遺構などが検出されたが遺構・遺物量ともそれほど多くはなかった。

7月も引き続き捨場の遺物取り上げと周辺の遺構確認精査に努めた。

8月上旬、砂子遺跡の平成9年度の調査終了に伴い、東側の調査区の掘り下げを開始した。調査区は斜面崩落土に覆われていたため、重機により粗掘りを行い順次拡幅していった。火山灰の混土層が耕作土と思われる畠跡が検出された。火山灰は白頭山火山灰か十和田a火山灰と思われ、時代は平安時代の所産と考えられた。東捨場の南側延長部からは多量の円筒土器・石器とともに埋設土器が検出されている。平坦部からは竪穴住居跡や土坑が検出され、台地縁辺部からはフラスコ状土坑が検出され始めた。9月上旬、捨場からの多量の遺物と遺構内の遺物量の多さ、また、かなりの深さのフラスコ状土坑の精査に時間をとられ調査は遅れがちになった。天候には恵まれたが10月下旬までに検出された遺構の精査を終了することができず、11月14日まで調査期間を延長して遺構の精査に努めることとなった。11月14日、機材の撤収・遺物の搬出等を行い、平成9年度の調査の全日程を終了した。

(笹森 一朗)



## 第Ⅲ章 遺跡の環境

### 第1節 周辺の遺跡

畑内遺跡は岩手県と青森県の県境にあり、その源を岩手県に発する新井田川の右岸の河岸段丘上に位置し、周辺には多数の遺跡が存在している。

本遺跡の西側を流れる新井田川の岩手県側の左岸には水吉Ⅵ遺跡、尾根を挟んだ左岸には筋久辺遺跡、その尾根上の丘陵地には水吉遺跡、対岸の右岸には槻ノ木遺跡・砂子遺跡、尾根上の丘陵地には四ツ役遺跡が存在する。また、新井田川を下ると松石橋遺跡、野場(5)遺跡といった遺跡が存在し、八戸平原開拓建設事業関連で発掘調査が実施されている。

岩手県の水吉Ⅵ遺跡は平成3年度から5年度にかけて発掘調査が行われ、縄文時代・奈良時代・及び中世の集落跡が発見されている。筋久辺遺跡は平成3年度に調査が行われ、多数の土壙や屋外炉が検出されたが、住居跡は確認されず、キャンプ・サイトのな場所であったと推察される。水吉遺跡は平成8年度に調査が行われ、縄文時代後・晩期の竪穴住居跡やフラスコ状土坑、溝状土坑などが検出され、生活の場と狩猟の場であったことが確認されている。槻ノ木遺跡は平成7年度に試掘調査が行われたが、縄文土器が少数出土しただけで、遺構は検出されなかった。キャンプ・サイトのな遺跡と推察される。砂子遺跡は、槻ノ木遺跡同様平成7年度に試掘調査が行われ、畠跡が検出されている。平成9年度に本調査が行われ、中世から近世にかけてと思われる畠跡が広範囲に検出された。引き続き行われた平成10年度の調査では畠跡の下に平安時代の集落跡が検出され、一段上位の段丘面からは縄文時代の溝状土坑等が検出されている。四ツ役遺跡は平成6年度に発掘調査が行われ、竪穴住居跡、屋外炉、埋設土器などが検出され、縄文時代中期から晩期にかけての集落跡であることが判明している。松石橋遺跡においては発掘調査が行われていないが、開田工事により遠賀川系土器が発見された。野場(5)遺跡は平成4年度に発掘調査が行われている。また、南郷村では東北縦貫自動車道八戸線建設事業に伴う発掘調査が昭和54・55年度に実施され、右エ門次郎窪、三合山遺跡、石ノ窪(1)・(2)遺跡、馬場瀬(1)・(2)遺跡が調査されている。

南郷村内の遺跡の分布は村内全体に散在してみられるが、集中の割合を見ると新井田川流域に集中し、かつ、大規模な遺跡が存在する。近年、新井田川(岩手県側では雪谷川)流域において数多くの遺跡の発掘調査が行われている。今後これらの遺跡から検出された遺構・遺物を比較・検討することによって、新井田川(雪谷川)流域に住んでいた先史時代の人々の交流を含めた生活の実態が明らかになってくるものと思われる。

(笹森 一朗)

## 第2節 基本土層

遺跡の基本土層については、畑内遺跡Ⅰですでに述べられているが、平成9年度の発掘においてこれまで確認されていなかった層位が確認されたことから、改めてここに述べることにする。

平成9年度の調査においては必要に応じて各所で基本土層の観察用の深掘を行った。代表的なものが図3-1である。図3-1は畑内通跡Ⅰに掲載された、平坦面北側の基本土層であり、2はBZ-35付近の土層堆積図である。この箇所は畑内遺跡Ⅰで調査された平場を南側に拡張した部分であり、概ね北側と同様の堆積状況が確認できた。3はAZ-45付近の土層堆積図である。基本的な層順や内容は同様であるが、いくつか違う点があるので以下に詳述する。

第Ⅰ層 黒褐色土10YR2/2 粒径2~5mmの鈍い黄褐色の浮石を中量混入する。近年の耕作土と考えられ、平場のⅠ層に対応する。

第Ⅱ層 黒褐色土10YR2/3 粒径2mm程度の黄褐色浮石を少量含む。

第Ⅲ層 黒色土10YR1.7/1 粒径2mm程度の黄褐色浮石を少量混入する。また、Ⅲ層とⅣ層との境あたりには炭灰色(10YR8/1)浮石が微量に含まれている。概ね平場のⅡ層に対応。

第Ⅳ層 黒褐色土10YR2/2 粒径5mm程度の黄褐色浮石を中量含む。絶文時代後期から弥生・平安時代までの遺物包含層であり、概ね平場のⅡ層に対応。

第Ⅴ層 暗褐色土10YR3/3 南部浮石・十和田b浮石・八戸火山灰の浮石など様々な時期の浮石を大量に含んでいる。地質調査員の松山力氏によればこの層は水によって流されてきた土ではないかということである。厚いところで30~40cmの層厚を持ちながら南方へ続いていく層である。弥生・平安時代の遺構はこの面から掘り込んでいるものと思われる。

第Ⅵ層 黒褐色土10YR2/3 粒径3mmの明黄褐色浮石を微量混入。全体に砂質の層である。円筒下d層式の遺物を主に包含する層である。平場のⅢ層に対応

第Ⅶ層 黒褐色土10YR2/2 粒径5から8mmの黄褐色浮石を少量含む。縄文時代前期の遺物包含層であり概ね平場のⅢ層に対応する。

第Ⅷ層 中礫浮石層 概ね平場のⅣ層に対応する。

第Ⅸ層 黒色土10YR1.7/1 粒径6mm程度の褐色浮石粒を中量混入。しまりのある層である。平場のⅤ層に対応する。

第Ⅹ層 南部浮石層。平場のⅥ層に対応する。

第Ⅺ層 黒褐色土10YR2/3平場のⅦ層に対応する。

第ⅩⅡ層 鈍い黄褐色土10YR4/3 しまりのある粘土質層である。平場のⅧ層に対応する。

第ⅩⅢ層 褐色土10YR4/4 粘土質土層である。

なお、Ⅺ層以下の地層についてと土層全般のことについては改めて地質の調査員である松山力氏と検討する必要があるため、次回以降の報告で詳述することとする。

(茅野 嘉雄)

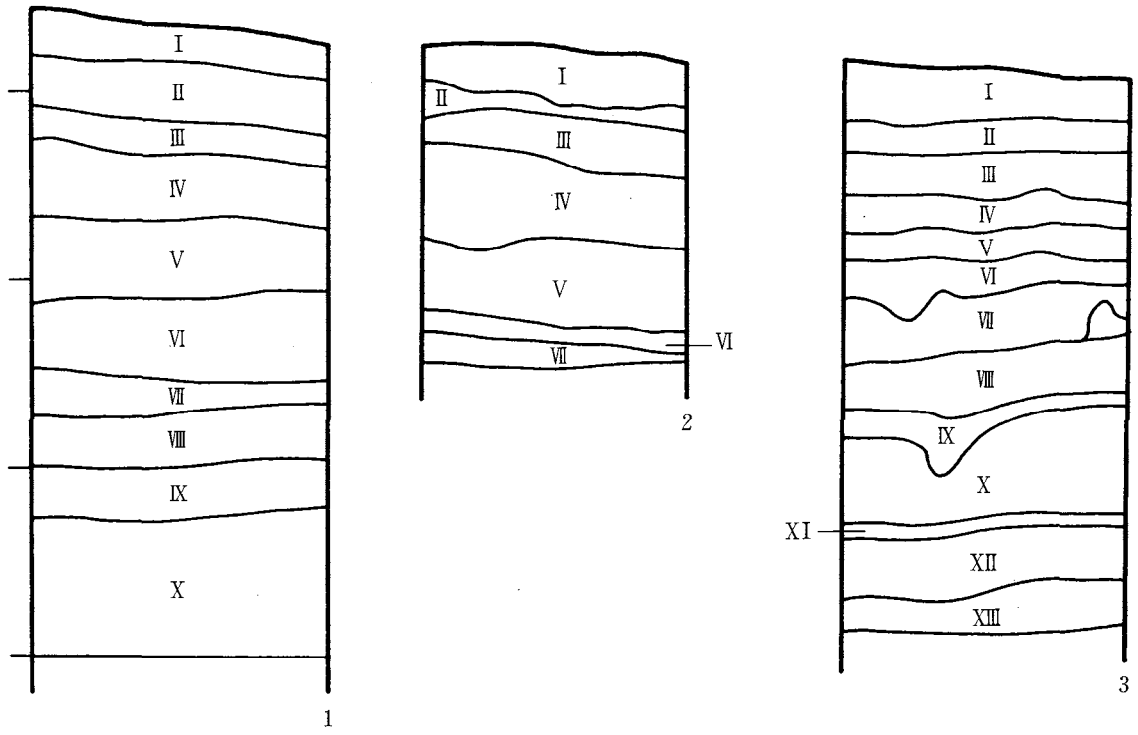


图3 基本土层图

## 第Ⅳ章 検出遺構と出土遺物

本遺跡の発掘調査で検出した遺構は、縄文時代の竪穴住居跡が20軒（第60・61・72号竪穴住居跡は未精査のため除く）、土坑72基、土器埋設遺構28基、焼土遺構78基、屋外炉2基、集石遺構4基、配石遺構1基等が検出された。以下、遺構毎に記述する。

### 第1節 検出遺構と遺構内出土遺物

#### 1 竪穴住居跡

##### 第55号竪穴住居跡

[位置] A T～A V-37～39グリッドに位置する。

[確認] 第八層（中掘浮石層）に黒色・長楕円形の広がりとして確認した。

[重複] 北側で第396号土坑と切り合い関係にある。本住居跡の覆土が土坑の覆土を一部切っていたことから本住居跡の方が新しく構築されたものと判断される。また、柱穴の切り合い関係や張り床・炉のレベル差等から本住居跡は少なくとも2回の建て替えを行ったものと考えられる。その変遷図を図6に示す。なお、記述の都合により古い方から55a、55b、55c住居跡と呼称することにする

[平面形・規模] 55a住居跡は平面形がはっきりしないが、壁柱穴の配置等をみる限り55b住居跡とほぼ同じ様な、概ね小判型を呈していると推測される。長軸は推定で8 m40cm、短軸は推定で4 m90cmである。55b住居跡は長軸8 m40cm、短軸5 m10cmの小判型を呈する。55c住居跡は一番新しい住居跡であり長軸13 m30cm・短軸6 m60cmのやや不整な長楕円形を呈する。

[堆積土] 51層に分層された。基本的には55c住居跡の覆土であるが、覆土14層は55c住居跡・15層は55b住居跡・18層は55a住居跡の貼り床の土である。堆積状況としては自然堆積と人為堆積の両方がくみ合わさっているようである。9・11層には褐色粘土のブロックが大量に混ざっており、1・8層には炭化物が混入している。なお遺物は覆土中位層（1・6・8・9・11・13層等）、から主に出土している。したがってこれらの層は遺物とともに投げ込まれた土であると考えられる。

[壁] 55a・b住居跡は住居拡張の際にほとんど失われている。55c住居跡の壁は斜面上方（西側）で最大約100cm残存し、東側で最大約50cm残存している。ほぼ直角からやや外側に傾くくらいに立ち上がっている。

[床面] 土層観察面で3枚の床面が確認できたが、全面にわたって確認することはできなかった。いずれの床面も粘質土からなる貼り床が構築されている。また、貼床に使用されている土は全面にわたり一定ではなく場所により違いが見られた。

[炉] 3時期あわせて11基確認した。基本的には地床炉であるが、中には炭化物が不整な円形状に集中している炉も確認（炉3と7）された。炉の配置としては2と5以外はそれぞれの時期の長軸のってくるようである。

[柱穴] 55a住居跡は支柱穴が6本、壁柱穴が推定で19本確認されている。55b住居跡は支柱穴が6本、

壁柱穴が推定で54本確認されている。55a・b住居跡には平面プラン南側の外側に2本の柱穴が伴っている(P140・141・143)。性格等は不明であるが、出入り口等の施設である可能性がある。55c住居跡は主柱穴が11本壁柱穴が推定39本確認されている。なお、各時期の柱穴配置や間隔等は図6に表す。  
[施設] 上記柱穴以外に55b住居跡の壁柱穴の間をつなぐようにして周溝が確認された。

[出土遺物] 平箱で約10箱、破片数にして約500個・重量にして約25kgの遺物が出土した。遺物出土状況図を図5に示すが、点を取ったものだけの図であり、点を取らずに取り上げた遺物も多数存在する。それらの点を落とさなかった遺物のほとんどは住居跡をイチ区に分割してとりあげた。遺物は主にハ・ニ・ホ・ヘ区より多量に出土し、特にハ区から復元個体がまとまって出土している。また、出土状況図の、点以外の線で囲まれた範囲は、1個体がそのままつぶれたような状況で出土したため、その範囲を計測したものである。遺物の出土状況としては覆土中位層よりまとまって出土した一群と確認面付近から出土している上位層の遺物とが、垂直分布において離れたレベルより出土していると読みとることもできる。しかしながら、ハ区とニ区の境界付近において遺物が集中的に廃棄され、かなりの厚みを持っており、上層遺物との区別が付きにくくなっている。上層の遺物については図中の番号に丸印を付けておいたが、下層の遺物に比べると量的に劣るので、はっきりとした変異等があるかどうかは今後E捨て場の遺物整理作業が進めば明らかになると思われる。出土遺物の概要は以下の通りである。1～64は復元個体と、口縁部破片である。

口縁部に結節回転文を施文するもの。(1～39・43・44)

1～20は胴部にLRを横位から斜位に回転施文し、口唇部には胴部と同様の原体を回転施文しているものであるが、20は原体が全体にはっきりしない。口縁部文様帯の幅は3を除いておおよそ5～6cmである。また、底部に文様を有するものは4と9である。4は編み物のようなものの圧痕であり、9はLRを回転施文している。21は胴部文様帯RLRを横位回転施文している。口縁部は一部失われているものの、おそらく2個一対の波状をなしており、波頂部には爪形の刺突が加えられている。底部にはLRを回転施文している。22～30は胴部にLRを回転施文し、口唇部に各種工具による刻み・刺突が加えられるものである。22・28は細長い棒状の工具を斜めに押しつけているものである。24・25・30はやや太めの円筒形の工具を使用している。23・27・32は口唇部に上方からの刺突が加えられたものである。26は板状の工具を断続的に押し引きしている。29は口唇部にLRを回転施文した後に沈線を引いたものである。

34～39・43・44は口唇部に文様を施文しないものである。35は胴部に網目状撚り糸文が施文されている。38は小型土器である。口縁部に山形の突起を一つ持つ。

口縁部文様帯を持たず、地文を全面に施文しているもの(40～42と45～58)LRを横位回転施文するもの(40・42・45・48～55・58)とRLを横位回転施文するもの(41)撚り糸文を施文するもの(56・57)、無節の縄を横位回転施文したもの(46・47)がある。口唇部には胴部と同様の原体を回転施文したもの(40～42・45・48・49・56)と、爪のような工具による刻みが加えられるもの(46・47)、棒状工具による斜めの刻み(52)、沈線を施文するもの(53)がある。口縁部の形態は平縁のものが多いが、波状を呈するもの(52・53)も見受けられる。

口縁部文様帯に沈線を施文するもの(61～64)

61・63は平行沈線のみであり地文はLRの横位回転施文である。62・63は平行沈線間に鋸歯状の沈

線が施文されているものである。

59は口縁部直下が無文帯であり口唇部には指頭状の工具による刻みが加えられているものである。60は口縁部直下に単軸絡条体第1類Rを横位回転施文した後に同様の原体の側面を口縁部に押圧している。このような文様を施文する土器は円筒下層ではd式に増加するものであり、a式期にはほとんど見られない。

胴部破片と底部付近の破片。(65～111)

65～85・88～103は胴部にLRを横位～斜位に回転施文するものである。65～67は口縁部付近の破片であり、結節回転文が施文されている。また85・73は口縁部付近の破片ではないが、胴部に結節回転文が施文されている。特に73は胴部中位、底部付近の2カ所に結節回転文が帯状に施文されている。102・103はLR横位回転施文後に沈線を施文したものである。100には隆帯が張り付けられ、上下裾部に沈線が施文されている。また、隆帯上には斜位にLRの側面圧痕が施文されている。底部に文様があるものは14点あり、そのうちLRを回転施文するものが8点(71・74・78・93・94・95・97)であり、編み物等の圧痕が看取されるものが6点(69・70・71・73・96・105)である。89の表面には縄文施文後に竹管様の工具により放射状に広がる沈線が施文されている。

86・87は底部付近の破片であり、表面には結節回転文が施文されている。86は大型品の可能性がある。104～109は絡条帯による原体を回転施文したものである。104・105・107は単軸絡条体第1類Rを縦位に回転施文している。特に105は条間が広い。106は短軸絡条体第1類LRLを斜位に回転施文している。108・109は多軸絡条体を縦位から斜位に回転施文している。110・111は底部の破片である110は底面に編み物の圧痕があり、底部内面中央部が乳頭状に隆起している。111の底部にはLRが回転施文されている。なお、底部付近の破片および復元個体には、内外面に炭化物の付着が観られるものがあったが、その中でも特徴的であるのは底部内面見込み付近のタール状の炭化物である。この炭化物は底部内面下端から約3～8cmの広さで帯状に付着していることが多く、中には割れ口にもべったりと付着しているものも見られる。また、底部内面中央部にはほとんど付着しない。このような炭化物の付着状況は小林正史氏によればシチューのような水面下で焦げ付くような煮込む料理に使われたことが考えられるという。また、容量によって使用法も変化するらしく、大型で深いものには上記のような炭化物の付き方はあまり見られないことから、山菜類を湯がいたりナッツ類を灰汁抜きするなどの、ゆでる作業に使われたと考えられている(小林1998)。55号住居跡の土器についても、1・2・30等の大型品には上記のような炭化物の付き方は見られず、しかも、炭化物の付着は顕著ではない。

土製品・ミニチュア土器(112～116)

112～114は円盤状土製品である。すべて胴部破片の割れ口を擦ることで形状を整えている。112はLRを回転施文、113はRLRを回転施文・114はLRを回転施文した後に結節回転文を施文している。112は無孔・114は有孔である。115は球状土製品である。半分ほど欠失している。表面には沈線により文様が描かれている。116はミニチュア土器である。破片であるため全体形状はうかがえないが、波状口縁のようである。文様は施文されていない。

石器(117～)

フレイク等を含めて57点の出土である。石鏃は12点出土している。内9点が平基・三角形の石鏃である。そのほかは基部がやや丸みを帯びるもの・台形状の基部を持つものがあるが、基本的に無茎の石



鏃である。125は石槍である。平坦な剝離により丁寧に両面調整が施されている。130は石鏃に類する石器であるが、縁辺の調整加工が急斜であり、器体中央に及んでいないのと、尖頭部の作りが石鏃に比べて甘い感じがする。131～135は石匙である。131は器体両側縁にやや平坦な調整剝離による刃部を作出している。なお、裏面には使用によるものと思われる光沢が観察された。123は器体右側縁に刃こぼれ状の微細剝離が看取された。136～143は器体の一部に連続的な二次調整剝離を施した石器である（不定形剝片石器）。144～147は剝片である。149は石核である。150の右側縁には使用に伴うものと思われる稜線の摩滅が看取された。151・152はスリ石である。

#### 出土遺物のまとめ

##### 1 土器の文様について

本住居跡から出土した土器の文様別の比率は図7-1～4のようになった。なお、掲載した遺物については遺物数量により比率を出し、掲載外遺物については部位、文様別の重量比を出してみた。まず掲載遺物についてであるが、口縁部については結節回転文を施文するものが65%と最も多い。その次にLRの横位回転が多く17%であり、順に沈線（9%）、単軸絡条体1類（3%）、Lの横位回転（3%）、無文（1%）、その他と続いていく。口唇部については有文のもの（70%）と無文のもの（30%）に大きく分けられ、さらに有文のものは縄文を転がすもの（44%）と何らかの施文具により施文されるもの（26%）との2つに大別できる。次に胴部であるが、LRを横位に回転施文するものが圧倒的に多く、84%である。以下単軸絡条体1類5%、RL横回転4%、結節回転文3%、複節斜縄文2%多軸絡条体2%というふうに続いていく。次に底部であるが、底面には大きく有文（40%）と無文（60%）のものがあり、有文のものは縄文を回転するもの（20%）と、網代のようなものの圧痕（20%）が見られるものの2つに大別できる。また、図示は出来なかったものの、底部内面に縄文を転がすものも少数であるが存在している。次に、掲載外土器の重量比を見ると、口縁部は結節回転文が83%と最も多く、ついでLR横位回転が15%、単軸絡条体1類が2%の順である。胴部はLRの横位回転が72%と最も多く、次いで結節回転文が6%、RL横位回転が1%、複節斜縄文が1%、多軸絡条体が1%未満、不明が20%となっている。このうち、結節回転文については一部を除き大部分が口縁部文様帯のものなので、口縁部の結節回転文の比率はもう少しあがることになる。また、結節回転文の下位に施文されている原体のほとんどはLRの横位回転であるので、胴部破片におけるLRの比率も上がることになる。

以上本住居跡出土土器の文様について大まかにまとめてみたが、これらの土器は、口縁部に結節回転文を施文するものが多くその他に地文のみのも、沈線による文様帯、縄の側面圧痕等を持っている。胴部はLRを横位回転するものが優勢であるが、単軸絡条体1類や多軸絡条体なども見られる。底部に文様を持つものがある。等の文様の諸特徴を持っている。

##### 2 土器の形態について

口縁部から底部まで残存している個体について口径・底径・器高の3つの属性の関係を図7-5に表した。また、図7-6・7は破片資料について口径、底径を復元し、グラフ化したものである。

これらのグラフからは次のことが読みとれる。底径については10cmをピークとして、8cmから13cmの間に多く分布している。口径については、14cmをピークとし、20cmあたりまでに集まる傾向が見られるが、10cm未満のものと25cm越えるあたりのものでやや集まる傾向も見られる。次に復元個体につ

いてはどうであろうか。5はX軸で器高と口径の関係・Y軸で口径と底径の関係を表している。このグラフ上には4つのまとまりが想定でき、それらは14~17の様な器形で表されるものである。

共通した特徴としては口径と底径の比が1.5以上になるということである。つまり純粋な円筒形というより、底部から口縁にかけてのラインが、外側に開きながら立ち上がる形態がほとんどであることがわかる。底部形態については従来からいわれているように底部付近でやや張り出す形や、上げ底ふうの形、等が特徴的である。また、底部と胴部の接合部分であるが、底部の上に、胴部パーツが置かれる様な形で、接合しているものがほとんどである。また、胴部の接合痕については粘土の板を円筒形に輪積みし、上方から下方へと粘土をのぼしながらかぶせている様子が観察されている。なお、68の破片については胴部破片のため上下が逆になる可能性がある。

[小結]本住居跡から出土した遺物は文様要素等より概ね円筒下層a式に比定されるものである。また、本住居跡廃絶後に住居跡覆土の上に大規模な土器廃棄ブロック（E捨て場）が形成されているが、それらの遺物と本住居跡の遺物とは、大きな時間差はないと考えられるもののやはり分離される可能性があることが遺物の垂直分布図等から考えられる。したがって本住居跡は中振浮石層の降下よりも後の、円筒下層a式期に埋没過程にあったと考えられる。

（茅野 嘉雄）

#### 第56号竪穴住居跡（図8・33・45）

[位置] BQ・R・S-16・17グリッドに位置する。

[確認] V層上面で不整の暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整の楕円形を呈し、長軸657cm、短軸460cm、確認面からの深さ14cmを計測する。

[堆積土] 6層に分層された。

[壁] 壁は床面から緩やかに立ち上がる。

[床面] ほほ平坦である。特に踏み固められた様子は認められない。

[炉] 長軸線上東側に不整の地床炉が1基検出された。覆土中に焼土の堆積は顕著に認められなかった。

[柱穴] ピットは合計3基検出されたが、柱穴かどうかは明確に確認できなかった。

[その他の施設] なし。

[出土遺物] 土器片が点出土したがそのうち図示し得たのは21点である。1~6は口縁部片。口縁部に結節回転文を施文する。3・5は口唇部に刺突を施す。7~17も口縁部片。7・8・14は縄の側面押圧に結節回転文を施文する。9・10・11は側面圧痕に複数列の刺突を施文する。12・13は口縁部文様帯の幅が比較的狭く、縄の側面圧痕に1~2列の刺突を施文するものである。15・16は隆帯を持つもので、15は隆帯上に棒状施文具による2列の刺突を、16は隆帯上に縦位の側面圧痕を施す。17は地文縄文に沈線を施文するものである。18・19は胴部片。18は単軸絡条体第1類、19は単節LR斜縄文に沈線を施す。20・21は底部破片。2点共単節RL斜縄文を施す。

図示し得た石器は2点である。1・2共に器体の一部に整形のための剝離が見られる。1は器体右側縁に、使用によるものと思われる幅の狭い磨滅が看取される。幅は最大3mmであり表面は滑らかで

ある。器体上部左側縁には抉りが入れている。器体下端部は摺理面であり、そこから数回の小さな剝離が施されている。

[小結] 出土遺物に偏りは認められない。縄文時代前期の竪穴住居跡と思われるが、詳細な時期は不明。

(笹森 一朗)

#### 第57号竪穴住居跡 (図9・33)

[位置] BX・Y-18・19グリッドにおいて第53号土器埋設遺構に隣接して位置する。

[確認] 第V層上面で黒色土の円形を呈する落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 規模は長軸330cm、短軸260cmを計測し、形態は北東方向に長い楕円形を呈する。確認面からの深さは36cmを計測する。

[堆積土] 覆土はレンズ状堆積を呈し、5層に分層された。

[壁] 壁は床面から比較的直立した立ち上がりを示す。

[床面] 第V層下位を床面として構築する。平坦な地床であるが、中央部が深く壁に近づくに従い幾分浅くなる。また、硬化面は認められない。

[炉] 明確に炉跡と判断できるものは検出されなかった。

[柱穴] 住居跡内には合計29基のピットが検出された。このうちPit 1が深さ36cm、Pit 3が37cmを計測し、支柱穴になるものと思われる。

[その他の施設] なし。

[出土遺物] 第57号竪穴住居跡における遺物の分布状況は図9に示す通り、覆土内に散在する傾向が看取される。その数は土器片37点、石器22点と少ない。土器は器形を窺えるものは存在せず、図示し得たのは破片は5点である。図33は土器の拓影図である。1は口唇部形態が尖頭状を呈し、口縁部直下に単節LRの側面圧痕により直線的文様を創出する。2～4は胴部破片である。2は節の粗大な単節LRを横位に施す。3は単節LRを施す。器面の磨耗が著しい。4は胴部が外反する器形を呈し、単軸絡条体第1類を施文する。5は底部破片で、単軸絡条体1類を施す。

図46に主要な石器13点を示す。その内訳は石鏃1点、石錐1点、不定形剥片11点である。1は平基無茎式石鏃である。両側縁は基部側が直線的で先端が外湾する。表面に素材の比較的大きな剝離面を留め、先端部を折損する。2は石錐で、側縁に連続的な調整を加え先端部を作出している。先端部を折損する。3～13は不定形剥片で、二次調整を施すものが4点(3～6)含まれる。縦長の形態を特徴とするものが半数を占め、背面を構成する剝離面から、同一打面より剝離されたことを示すもの、打面を転移したことを示すものにと分類される。

[小結] 遺物の出土状況から本遺構は円筒下層d式期以前に構築されたことが窺える。

(佐々木 雅裕)

#### 第58号竪穴住居跡（図10・33）

[位置] B V・W-15グリッドにおいて第62・63号竪穴住居跡の北西側に隣接して確認されている。

[確認] V層上面で円形の黒色土の楕円形を呈する落ち込みとして確認した。

[重複] 第77号竪穴住居跡及び第 号土坑と重複関係にあるが、本遺構が先行する。

[平面形・規模] 規模は長軸290cm、短軸210cmを計測し、平面形態は東西方向に長い不整な隅丸長方形を呈する。また、確認面からの深さは30cmを計測する。

[堆積土] 覆土はレンズ状堆積を呈し、6層に分層された。覆土中に第77号竪穴住居跡及び第 号土坑が構築され、第77号竪穴住居跡は10層に、第 号土坑は3層に分層された。

[壁] 東側を除き壁は床面から比較的直立した立ち上がりを示す。

[床面] 第V層下位を床面として構築する。比較的平坦な地床であるが中央部が深く、壁に近づくに従い幾分浅くなるように思われる。また、硬化面は認められない。

[炉] 明確に炉跡と判断できるものは検出されなかった。

[柱穴] 床面から柱穴と判断できるものは検出されなかったが、第77号竪穴住居跡床面で検出されたピットに本遺構に帰属するものが含まれている可能性もある。

[その他の施設] なし。

[出土遺物] 第58号竪穴住居跡及び第77号竪穴住居跡における遺物の分布状況は、図10に示す通り散在する傾向が窺える。その数は土器片16点、石器一点と少ない。分布状況から判断して本遺構に帰属すると考えられる遺物は、土器片1点（図33-2）であり、帰属が判別できない遺物とともに図33に示した。1～5は口縁部破片である。1は口唇部形態が角頭状を呈する。口唇部に単節LRを施し、口縁部直下に結節回転文及び単節LRを施文する。2～4は口縁部が緩く外反し、端部が波状を呈する深鉢形土器の同一個体資料である。波頂部及び口唇部に指頭状の押圧を施し、口縁部下位に単節LRを施文する。5は口唇部形態が尖頭状を呈する。口唇部外側に半截竹管状の施文具による連続刺突を施し、その下位に単節LRの側面圧痕により幾何学的文様を創出する。6～9は胴部破片である。6は器面に斜方向のケズリまたはナデ調整による細かな擦痕を顕著に残す。胎土は浮石粒を若干含むが緻密である。7は単節LRを施し、内面に指頭状の圧痕及び黒色の付着物が認められる。8は頸部付近で外反する器形を呈する。外反する部分に隆帯を設け、その下位に単節LRを施す。9は多軸絡条体を縦方向に施す。

[小結] 遺物の出土状況から円筒下層d式期以前に構築されたことが窺える。

（佐々木 雅裕）

#### 第77号竪穴住居跡（図10）

[位置] B V・W-15グリッドにおいて第62・63号竪穴住居跡の北西側に隣接して確認されている。

[確認] 第58号住居跡の床面精査段階において重複関係にあることが確認された。

[重複] 第58号竪穴住居跡と重複関係にあり、第58号竪穴住居跡が先行する。

[平面形・規模] 規模は長軸190cm、短軸175cmを計測し、平面形態は南北方向に長い楕円形を呈する。また、確認面からの深さは45cmを計測する。

[堆積土] 第58号竪穴住居跡の覆土を掘り込んで構築する。覆土はレンズ状堆積を呈し、10層に分層

された。また覆土最下層の Pit 2・18付近において炭化物が検出された。

[壁] 壁は床面から比較的直立した立ち上がりを示す。

[床面] 比較的平坦な地床であり、第V層下位を床面として構築する。また、硬化面は認められない。

[炉] 明確に炉跡と判断できるものは検出されなかった。

[柱穴] ピットは合計27基検出されたが、明確に支柱穴と判断できるものは検出されなかった。これらの中に第58号竪穴住居跡に帰属するものが含まれている可能性も考えられる。

[その他の施設] 周溝が壁の内側に全周する。

[出土遺物] 第58号竪穴住居跡及び第77号竪穴住居跡における遺物の分布状況は、図10に示す通り、覆土内に散在する傾向が窺える。その数は僅かに土器片16点と少ない。分布状況から判断して第77号竪穴住居跡に帰属すると考えられる遺物は土器片5点、石器数点であり、このうち図示し得たのは土器片2点(図33-10・11)である。10・11は底部破片である。10は緩く外反して立ち上がる器形を呈する。節の粗大な単節LRを横方向に施す。11は単節LRを横方向に施し、胴部最下位を無文にする。

[小結] 遺物の出土状況から円筒下層d式期以前に構築されたことが窺える。

(佐々木 雅裕)

#### 第59号竪穴住居跡(図11・34)

[位置] BT・U-14・15グリッドに位置する。

[確認] 第V層上面で黒色土の円形を呈する落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 削平により北側の一部を消失するが、平面形は長軸240cm、推定短軸215cmの円形を呈するものと思われる。また、確認面からの深さは23cmを計測する。

[堆積土] 覆土はレンズ状堆積を呈し、13層に分層された。

[壁] 壁は床面から緩やかな立ち上がりを示す。

[床面] 比較的平坦な地床であり、第V層下位を床面として構築する。また、硬化面は認められない。

[炉] 明確に炉跡と判断できるものは認められなかった。

[柱穴] 小ピットが3基検出された。いずれも深さが6cm~10cmと浅く、明確に柱穴と判断できるものではない。

[施設] なし。

[出土遺物] 第59号竪穴住居跡における遺物の分布状況は図11に示す通り、住居跡南東側に散在する程度で、その数も土器片27点と少ない。土器は器形を窺えるものは存在せず、図示し得たのは10点である。図34は拓影図である。1~5は口縁部破片である。1は口唇部形態が円頭状を呈し、口縁部下位に単節RLを横位方向に施す。2は口縁が緩く外反し、口唇部形態が円頭状を呈する。口縁部下位に結束第1種を羽状に施す。3は口唇部形態が円頭状を呈する。器面の観察から、口縁部下位に単節RLを施した後、その表面に薄く粘土を貼付し、再び単節RLを横方向に施す工程が看取される。4は口唇部形態が円頭状を呈し、無節Rの側面圧痕を2条1対で横位に施し、直線的文様を創出する。5は口唇部形態が尖頭状を呈し、口縁部直下の幅の狭い文様帯に単節RL・LRの側面圧痕を2条1対で横位に施し、直線的文様を創出する。さらに、この文様帯下位に結束第1種を羽状に施す。6~

8は胴部破片である。6は頸部が外側に僅かな屈曲を示し、口縁部が直立する形態を呈する。頸部に縦位方向の単節L R側面圧痕により区画帯を構成し、この区画帯内に同一原体による側面圧痕を横位に充填する。さらに、その下位に同一原体の側面圧痕を連続して縦位方向に施す。また、内面に指頭状の圧痕が、胎土中には金雲母が顕著に認められる。7は結束第1種を羽状に施す。8は条間隔がやや広く節の粗大な単節R Lを施し、さらに内面にも単節R Lを施す。9・10は底部破片である。9は単節R Lを施し、10には単軸絡条体第1 A類を施し、木目状の文様を表出する。

[小結] 遺物の出土状況から円筒下層d式期以前に構築されたことが窺える。

(佐々木 雅裕)

#### 第62号竪穴住居跡 (図12・34～36・46～48)

[位置] BW-16グリッドにおいて第58号竪穴住居跡・第64号竪穴住居跡に隣接して確認されている。

[確認] 第V層上面で黒色土の不整形を呈する落ち込みとして確認した。

[重複] 第63号竪穴住居跡と重複関係にあるが、本遺構が先行する。

[平面形・規模] 平面形は長軸400cm、短軸340cmの不整形を呈する。また、確認面からの深さは55cmを計測する。

[堆積土] 覆土中に第63号竪穴住居跡が構築されている。覆土はレンズ状堆積を呈し、21層に分層された。第8・9・11層に代表される覆土の堆積状況は南方向から北方向への傾斜を示しているが、10層を境界に堆積状況に変化が認められる。また、住居跡中央部付近の覆土最下層において、長軸115cm、短軸70cmの範囲で焼土が検出された。

[壁] 南側を除き、壁は床面から比較的直立した立ち上がりを示す。

[床面] 第V層下位を床面として構築する。比較的平坦な地床であるが、中央部が深く壁に近づくに従い幾分浅くなる。また、硬化面は認められない。

[炉] 住居跡中央部の位置において、北東から南西方向に長い楕円形の掘込炉を検出した。その規模は長軸90cm、短軸70cm、深さ19cmを計測し、覆土は5層に分層された。また、掘込炉の南西側はPit 4・5と重複関係にあるが、掘込炉が先行する。

[柱穴] 第62・63号竪穴住居跡の床面において検出されたピットは合計42基であるが、これらの配置状況からは支柱穴を明確に判別できない。一方、住居跡の北側にPit 8・9・13、Pit 10～12で構成される弧状を呈する二重の配列が認められる。さらに、その北側には周溝が位置することから、立て替え・拡張が行われた可能性も考えられる。

[その他の施設] 北壁の内側に周溝が検出された。平面形状の変換点付近を境界に断絶が認められる。

[出土遺物] 第62号竪穴住居跡及び第63号竪穴住居跡における遺物の分布状況は、図12に示す通り、覆土内に散在する傾向が窺える。その数は土器片32点、石器・礫58点であり、分布状況から判断して第62号竪穴住居跡に帰属すると考えられる遺物は、器形を窺える土器が1点、土器片14点、石器・礫46点である。このうち図示し得たのは器形を窺える土器1点(図36—32)、土器片14点(図34・35—1～5・7・9・12・15・19・21・23・26・28)、石器9点(図47・48—2・4～11)であり、これらを帰属が判別できない遺物とともに示す。

図36—32は口縁部が外反し、胴部で膨らむ器形を呈する。口唇部形態が角頭状を呈し、口唇部に指

頭状の押圧を施す。口縁部下位に位置する比較的幅の広い文様帯に結節回転文を施し、その下位に節の粗大な単節LRを横方向に施す。また、胎土に粒子の細かな黄褐色浮石粒が顕著に認められる。図34・35は拓影図である。1～7は口縁部破片である。1は頸部で屈折し、口縁部が直立する器形を呈する。口唇部形態が円頭状を呈し、口縁部下位に単節LRを横方向に施す。内面に指頭状の圧痕が、また胎土中には黄褐色浮石粒が顕著に認められる。2・3は口縁が緩く外反し、端部が小波状を呈する深鉢形土器の同一個体資料である。口唇部形態が角頭状を呈し、口唇部に指頭状の押圧を加える。口縁部下位に節の粗大な単節LRを横方向に施文する。4は口唇部形態が角頭状を呈し、口唇部及び口縁部下位に単節LRを施す。5は口唇部形態が角頭状で端部が小波状を呈する。口縁部下位及び内面に単節LRを施す。6・7は口縁が緩く外反する器形を呈する。6は口唇部形態が角頭状を呈し、単節LRを横方向に施す。7は口唇部形態が円頭状を呈し、結束第1種を羽状に施す。

8・9・15・16・17・19・21～23・25～29は胴部破片である。8は器面に横・斜方向のケズリまたはナデ調整による細かな擦痕を顕著に残す。胎土は砂粒をあまり含まず緻密である。9は単節LRを横方向に施す。器面に斜位方向のケズリまたはナデ調整による擦痕を残し、内面には指頭状の圧痕が認められる。15は無節Lを横方向に施し、内面に整形の際に胎土中の岩片が引きずられた痕跡が縦・斜位方向に認められる。また、胎土に粒子の細かな石英粒が顕著に認められる。16は単節RLを施す。内面に斜位方向のナデ調整による擦痕が顕著に認められる。17は節の粗い単節LRを横方向に施し、さらに内面にも同様に施す。19は節の粗大な単節LRを斜位方向に施し、内面にナデ調整による擦痕が顕著に認められる。21は単節LRを横方向に施す。内面の剝離が著しい。22は節の粗い単節LRを施し、器面が黒色を呈する。23は結節回転文を施し、25には節の粗い前々段合捺を横方向に施す。26は単節LRに無節Rを巻き絡げた附加条を斜位方向に施文する。器面が磨耗し、内面の剝離が著しい。27は単節LRの側面圧痕を3条施し、直線的文様を創出する。28は結束第1種を羽状に施し、29には結束第2種を施す。

10～12は底部資料である。10は胴部及び底部中央に節の粗大な単節RLを施す。さらに底面には木葉痕が認められる。11は単節LRを施す。12は底部から大きく外反して開く器形を呈する。器面に篋状工具によるものと思われる横方向の整形痕を顕著に残す。胎土は黒褐色を呈し、石英を多量に含む点の特徴とする。

図47・48に主要な石器9点を示す。1は背面に原礫面を残す比較的大型で厚手の剝片を素材とし、その背面側の一側縁に、比較的深い急斜度の連続的な調整を加え、直線的な刃部を作出する。4は節理面に沿って剝離・分割された粘盤岩製の角礫状碎片を素材とし、右側縁正面側に粗い調整を施している。全体の形状は短冊形で、表裏に原礫面と節理面を大きく残している。5は節理面に沿って分離・分割された礫を、6・9は比較的扁平な礫を素材とする。素材の鋭角で直線的な一側縁に表裏両面から比較的粗い調整を施す。その側縁は使用痕と思われる擦痕が顕著に認められ、稜線部分が平坦になる。7・8・10・11は断面形状が三角形状及び四角形状を呈する礫を素材とする。素材の鋭角で直線的な一側縁に使用痕と思われる擦痕が顕著に認められ、側縁が平坦になる。その平坦面の幅は6～10cmを計測する。

[小結] 平面形状、並びに覆土堆積状況、柱穴配列及び周溝の断絶性から、建て替え・拡張が行われた可能性も考えられるが、変遷及び重複関係を明確に判別できない。また、遺物の出土状況から本遺



構は円筒下層 d 式期以前に構築されたことが窺える。

(佐々木 雅裕)

#### 第63号竪穴住居跡 (図12・35・36)

[位置] BW-16グリッドにおいて第62号竪穴住居跡に重複して確認されている。

[確認] 第62号住居跡の床面精査段階において重複関係にあることが確認された。

[重複] 第62号竪穴住居跡と重複関係にあり、第62号竪穴住居跡が先行する。

[平面形・規模] 規模は長軸165cm、短軸160cmを計測し、平面形態は円形を呈する。また、確認面からの深さは42cmを計測する。

[堆積土] 第62号竪穴住居跡の覆土を掘り込んで構築する。覆土はレンズ状堆積を呈し、3層に分層される。また、覆土下層において長軸80cm、短軸50cmの範囲で焼土を検出した。

[壁] 西壁は床面から比較的直立した立ち上がりを示しているがその一方で、東壁は緩やかな立ち上がりを示している。

[床面] 第VI層上位を床面として構築する。床面全体に硬化が認められる。

[炉] 明確に炉跡と判断できるものは検出されなかった。

[柱穴] 床面より合計5基のピットが検出されたが、これらは第62号竪穴住居跡に帰属する可能性がある。

[その他の施設] 北東壁の内側に周溝が検出されている。南西側にも同様に周溝が伴うものと考えられるが、確認には至らなかった。また、北東側には張出部が設けられる。

[出土遺物] 第62号竪穴住居跡及び第63号竪穴住居跡における遺物の分布状況は、図12に示す通り、覆土内に散在する傾向が窺える。その数は土器片32点、石器・礫58点であり、分布状況から判断して第63号竪穴住居跡に帰属すると考えられる遺物は、器形を窺える土器が1点、土器片が6点、石器・礫が12点である。このうち図示し得たのは、器形を窺える土器1点(図35-31)、土器片6点(図35-13・14・18・20・24・30)、石器2点(図47-1・2)である。

図35は拓影図で、このうち13・14・18・20・24・30は胴部破片である。13は無節Lを横方向に施し、内面に斜位方向の整形痕が認められる。14は無節Lを横方向に施し、胎土に粒子の細かな石英粒が顕著に認められる。18は条間幅の広い節の粗い単節LRを横方向に施し、内面に指頭状の圧痕が認められる。20は外側に弱く屈折する器形を呈し、節の粗い単節LRを横方向に施す。胎土に粒子の粗い長石粒を混入する。24は節の粗い前々段合燃を横方向に施す。30は単軸絡条体第1類を縦方向に施す。31は口唇部形態が角頭状を呈し、口縁部下位に節の粗大な前々段合燃を横方向に施す。胎土に石英粒を混入し、器面には黒色の付着物が顕著に認められる。

図 に主要な石器2点を示す。2は断面が三角形状を呈し、鋭利な両側縁に微細な剝離痕が部分的に認められる。背面を構成する剝離面は上・横方向からの剝離を示しており、打面を転移したことが窺える。3は左側縁を折損する。素材末端の背面側に部分的な調整が加えられている。

(佐々木 雅裕)

第64号竪穴住居跡（図11・37・38・47）

[位置] BW・X-16・17グリッドにおいて第62・63号竪穴住居跡の南東側に隣接して確認された。

[確認] 第V層上面で黒色土の円形を呈する落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 削平により南西側の一部を消失しているが、平面形は南北軸210cm、東西軸220cmの不整な楕円形を呈する。確認面からの深さは34cmを計測する。

[堆積土] 覆土はレンズ状堆積を呈し、11層に分層された。第9層で焼土の混入が認められた。

[壁] 南西側を除き床面から比較的直立した立ち上がりを示す。

[床面] 比較的平坦な地床であり、第V層下位を床面として構築する。また、硬化面は認められない。

[炉] 明確に炉跡と判断できるものは検出されなかった。

[柱穴] 床面からピットが14基検出された。これらの配置は住居跡の北東側を中心とする円上に巡っている。

[施設] なし。

[出土遺物] 第64号竪穴住居跡における遺物の分布状況は、図11に示す通り住居跡東側部分に集中する傾向が看取される。その数は器形を復元し得る土器が3点、土器片267点、石器15点で、検出された竪穴住居跡の中でもある程度の量的纏まりを示す。図37は土器の拓影図で、22点を図示した。1～5は口縁部下位に結節回転文を施す一群である。1は口縁部が緩く外反する形態で口唇部形態が角頭状を呈する。口唇部に竹管状の施文具による押引文が連続的に加えられ、口縁部下位に棒状の施文具による連続的な円形刺突を施す隆帯を設ける。2は口唇部形態が角頭状を呈し、口唇部に篋状の施文具による押引文が施される。3・4は口縁部が緩く外反し、口唇部形態が円頭状を呈する。口縁部外側に僅かに肥厚が認められる。5は口唇部形態が角頭状を呈し、口縁部下位に単節LRを下地に半截竹管状の施文具により幅広の並行沈線を描出する。

6～8は口縁部が外反する形態を呈し、口縁部下位に位置する幅広の文様帯に幾何学的文様を創出する。6・7は同一個体資料である。口唇部に無節Lの側面圧痕を連続的に施す。口縁部下位に結束第1種の異方向施文により幾何学的文様を創出し、その下位に単軸絡条体第1類を横方向に施す。8は口唇部形態が角頭状を呈し、口縁部外側に僅かに肥厚が認められる。また、口縁部下位に単節RLの側面圧痕を横位・斜位方向に施し三角形を基調とした文様を創出する。9は直立する器形を呈し、口縁部下位に結束第1種による羽状縄文を下地に、同一原体の側面圧痕により直線の文様を創出する。また、その下位に結束第1種が羽状に施される。

10～17は口縁部下位に位置する比較的幅の狭い文様帯に直線的・幾何学的文様を創出する。10は口唇部形態が僅かに円い尖頭状で、口縁部が緩く外反し端部が小波状を呈する。口唇部に単節LRを施し、口縁部下位に単節RLの側面圧痕により幾何学的文様を創出する。また、その下位に多軸絡条体を縦方向に施文する。11は口縁部が緩く外反し端部が小波状を呈する。口縁部下位に単節LR及び無節Rの側面圧痕と竹管状施文具による押引文で構成する区画帯を設ける。この区画帯上位の幅の狭い文様帯に単節LRの側面圧痕により幾何学的文様を創出し、また区画帯の下位には単軸絡条体第1A類を施し、木目状の文様を表出する。12は口唇部が尖頭状の形態で、端部が緩やかな小波状を呈する。口縁部下位に棒状施文具による円形刺突を交互に施す隆帯が設けられ、その上位に単軸絡条体の側面

圧痕により幾何学的文様が創出される。また隆帯の下位に多軸絡条体が縦位に施される。13は口唇部に単節LRを施し、口縁部下位に棒状施文具による斜位方向からの刺突を施す隆帯が設けられる。隆帯上位に2条1対の無節R・L側面圧痕と棒状施文具による刺突を施し、また隆帯下位に結束第1種を羽状に施す。14は口唇部形態が僅に円い尖頭状を呈し、口唇部に単節LRを施す。口縁部下位に微隆帯が設けられ、隆帯上位の幅の狭い口縁部文様帯に無節Lの側面圧痕と棒状施文具による連続刺突を施す。さらに隆帯下位に多軸絡条体を施す。15は口唇部に単節RLを施し、口縁部下位に多軸絡条体の側面圧痕と棒状施文具による斜位方向からの刺突で構成する区画帯を設ける。この区画帯上位の幅の狭い口縁部文様帯に単軸絡条体第6A類を施し、また区画帯の下位に単軸絡条体第1A類を施し木目状に表出する。16・17は口縁部直下の幅の狭い文様帯に縄文原体の側面圧痕を並行に施す。16は口唇部に棒状施文具による刻目を施す。口縁部直下の幅の狭い文様帯に単節RL・LRの側面圧痕を3条施し、この下位に結束第1種を羽状に施す。

18・19は胴部破片である。18は緩く外反する器形を呈し、横位沈線の上下に竹管状施文具による円形刺突を連続的に施す。19は緩く外傾する胴部に単軸絡条体第5類を施す。20・21は底部破片で、20は多軸絡条体を、21には結束第1種を羽状に施す。

図38-22・23は土器の復元個体資料である。22は口唇部形態が角頭状を呈し、口唇部に多軸絡条体を施す。口縁部下位に多軸絡条体の側面圧痕と棒状施文具による押引文で構成される区画帯を設け、区画帯上位の幅の狭い文様帯に結束第1種の異方向施文により幾何学的文様を創出する。また区画帯の下位に多軸絡条体を施す。23・24は器体上半部を大きく欠失する。23は多軸絡条体を胴部最下位まで施す。24は単軸絡条体第1A類を施し、木目状の文様を表出する。内面にミガキ調整を丁寧に施す。また断面は三重構造を呈し、繊維を多量に含む黒色の中心層を繊維を含まない明黄褐色の表層が覆う。

図48に主要な石器3点を示す。その内訳は石鏃2点、不定形剥片1点である。1・2は凸基無茎式石鏃である。1は裏面側に素材の比較的大きな剝離面を留めている。2は基部が逆三角形の形態をなし、両側縁が内側に僅かに外反する。3は背面に大きく原礫面を残す不定形剥片である。

[小結] 遺物の出土状況から円筒下層d式期以前に構築されたことが窺える。

(佐々木 雅裕)

#### 第65号竪穴住居跡 (図13・38)

[位置] CB・C-14・15グリッドに位置する。

[確認] V層上面で円形の黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸410cm、短軸290cm、張り出し部の短軸130cm、深さ36cmを計測する。

[堆積土] 10層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[壁] 壁は床面から緩やかに立ち上がっている。

[床面] 中央部に向かってやや傾斜している。特に踏み固められた様子は認められない。

[炉] 明確な炉は検出されなかった。

[柱穴] 壁際等に8基の小ピットが検出された。

[その他の施設] 南西部に出入口と思われる張り出し部を検出した。

[出土遺物] 土器が張り出し部付近から纏まって出土している。1は底部及び胴部の約半分を欠失する。口縁下部に隆帯を施し、隆帯の両端部に竹管様の施文具による円形の刺突文を巡らす。幅広の口縁部には結節回転文が施文される。出土した破片がすべて接合している。円筒下層b式の深鉢形土器である。

石器は磨石が1点出土している。

[小結] 出土遺物から縄文時代前期（円筒下層b式期）には埋没過程にあった住居跡と思われる。

(笹森 一郎)

#### 第66号竪穴住居跡（図16）

[位置] BG-16・17グリッドに位置する。

[確認] 灰白色粘土（八戸火山灰層）に暗褐色・方形の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 南西約半分以上を削平されているため、全体形状をはかりかねるが、平面形は概ね隅丸の長方形と思われる。長軸は北西-南東方向であり280cm、短軸は残存している範囲では126cm、である。

[堆積土] 4層に分層されが、2層は重機による削平を受けた際の客土である。

[壁] 南西側約半分は削平されており、壁は残っていない。北東側（斜面上方）は比較的残りがよく、約60cm程である。やや外傾しつつ垂直に立ち上がっている。

[床面] 八戸火山灰層に掘り込まれており、概ね平坦である。貼り床は確認できなかった。

[炉] 確認されなかった。

[柱穴] 住居跡四隅と各辺の中間部、住居跡中央部に各1基づつとその他に1基、合計6基確認されている。計測値は別表に記す。

[その他の施設] 上記以外に壁際の柱穴間をつなぐような形で周溝が確認された。

[出土遺物] なし。

[小結] 覆土中および床面より遺物が出土しなかったので詳細な時期は判然としないが、隣接する第69号竪穴住居跡と平面形・柱穴配置・周溝の配置等共通する点の多いこと、また、斜面の上側、下側には縄文時代前期後葉（円筒下層d式）の大規模な捨て場形成されていることなどから、本住居跡は縄文時代前期末葉以前の住居跡である可能性がある。

(茅野 嘉雄)

#### 第67号竪穴住居跡（図14・39・40・47・48）

[位置] BK・L-21・22グリッドに位置する。

[確認] V層上面で円形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 南側の一部を削平により欠失するため全容をうかがうことができないが、1辺330cm程の隅丸方形を呈するものと思われる。

[堆積土] 17層に分層された。



[壁] 北、西壁は床面からやや急に立ち上がり、東壁は緩やかに立ち上がっている。

[床面] ほぼ平坦である。一部堅緻な部分が認められる。

[炉] 認められなかった。

[柱穴] 壁際及び床面から8基のピットを検出した。柱穴かどうかは不明。

[その他の施設] 北西壁際に貯蔵穴と思われる大きめのピットを検出した。平面形は隅丸方形を呈するものと思われ、長軸86cm短軸66cm床面からの深さ36cmである。

[出土遺物] 床面及び覆土中から多量の遺物が出土した。図示し得た土器は28点である。1～14は口縁部片。1～4・6は口縁部に結節回転文を施文する。5は口縁下部に隆帯を有し、隆帯上に沈線及び円形の刺突を施文している。口縁部には結節回転文を施文する。7～10・12・13は斜縄文が施文され、7は無節Rの斜縄文が施文される。11・14は縄の側面圧痕が施文される。15～19は胴部片。15は尖底部付近と思われる。16・17は隆帯を有し、16はやや幅の狭い隆帯上に波状の側面圧痕が施文され、17は幅の広い隆帯上に縄の端部による円形の押圧痕が施される。18は縦位の撚糸文が施文される。19は側面押圧痕を挟み縦位の爪形様の刺突が施される。20～24は底部付近。21～23は胴部に斜縄文が施文され、24は結節回転文が施文される。25は底部及び口縁の一部を欠失する。口縁下部に隆帯を有し、隆帯上に波状に側面圧痕を施文する。口縁部は結節回転文が施される。26は口縁部を欠失する。隆帯を有し、隆帯上に棒状施文具による楕円形の刺突を施す。27は口縁及び胴部上半を欠失する。胴部にはRL斜縄文が施文される。28は底部。胴部には結節回転文が施文される。

[小結] 出土遺物は覆土中に混在している。縄文時代前期後葉には埋没過程にあった住居跡と思われる。

(笹森 一郎)

#### 第68号竪穴住居跡 (図15・39)

[位置] B L-22・23グリッドに位置する。

[確認] V層上面で長方形の黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第375号土坑と重複しており、本住居跡が先行する。

[平面形・規模] 北及び東壁の一部を第375号土坑に切られているが、推定長軸280cm、短軸208cmの隅丸長方形を呈するものと思われ、確認面からの深さは86cmである。

[堆積土] 53層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

[壁] 床面から東壁が急に、南・西壁がやや急に立ち上がっている。

[床面] ほぼ平坦である。全体的に踏み固められて堅緻である。

[炉] 明確な炉跡は認められない。

[柱穴] 壁際に8基の小ピットが検出された。柱穴かどうかは不明。

[その他の施設] なし。

[出土遺物] 覆土中から土器片が出土しているが、ほとんど覆土上層からの出土である。図示し得た土器は13点である。1・2は口縁部破片。1は口縁部に結節回転文が施文され、口唇部に縄の端部による楕円形の押圧が施される。2は側面圧痕間に幾何学的に側面圧痕が施される。口唇部にも側面圧痕が施される。3～13は胴部片。3～7は地文縄文に結節回転文が施文され、5は微高な隆帯を有す

る。8～13は縄文が施文されるもので、12は単軸絡条体、13は羽状縄文が施文され、他は斜縄文が施文される。

[小結] 遺物はほとんどが覆土上層からの出土である。出土遺物等から縄文時代前期後葉以前に廃絶された住居跡と思われる。

(笹森 一朗)

#### 第69号竪穴住居跡 (図17)

[位置] BG・H-18グリッドに位置する。

[確認] 褐色土(中礫浮石混じり)に黒色・隅丸長方形の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は概ね隅丸の長方形であり、長軸310cm、短軸250cmである。

[堆積土] 4層に分層された。上部に攪乱を受けている。4層は硬くしまっている部分があったので貼り床の可能性はあるが平面的に確認できなかった。

[壁] 斜面上部下部共に完掘時で50cmほど残存している。壁はやや外傾しつつほぼ直角に立ち上がる。

[床面] 本住居跡は斜面に構築されているため褐色粘土質層(XI層)に掘り込んでいる部分と南部浮石層に掘り込んでいる部分が見受けられる。斜面の下方(南東側)に向かって堆積土4層が厚くなったいるが、この層の直下に南部浮石層が露出しているためその部分を覆うために敷かれた部分的な貼り床と思われる。

[炉] 確認されなかった。

[柱穴] 四隅に各1本、短辺の中間に各1本ずつ、中央よりやや南東寄りに1基、その他に8基、計15基確認された。計測値は別表に記す。

[その他の施設] 北東側の壁際に柱穴間をつなぐような形で周溝を確認した。

[出土遺物] 床面近くより扁平な礫が出土している他は遺物は出土していない。

[小結] 図示し得るような遺物は出土していないが、覆土上層に円筒下層d式期の捨て場が形成されているため縄文時代前期末葉よりも以前の住居跡と考えられる。

#### 第70号竪穴住居跡 (図17・40・41)

[位置] CD・E-19グリッドに位置する。

[確認] 南部浮石層に黒色・隅丸方形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸の方形ないし台形である。長軸は220cm、短軸は最小で150cm最大で220cmである。

[堆積土] 11層に分層された。

[壁] 床面から約20cmほど残存しており、やや外傾しながら立ち上がる。

[床面] 概ね平坦である。貼り床は確認されなかった。

[炉] 確認されなかった。

[柱穴] 四隅に各1本ずつと、それぞれの間中に1本ずつ、その他に4本の計12基が確認された。

[その他の施設] 壁際に柱穴間をつなぐように周溝が確認された。

[出土遺物] 覆土中より口縁部に結節回転文を施文した縄文時代前期（円筒下層 a 式？）の土器片と石鏃・剥片・石刀・頁岩製のチップが多数出土している。土器片はすべて覆土1層上部よりの出土である。遺物は床面から覆土の上部まで出土しているが、遺物の垂直分布図をみると壁際から中央部に向かってほぼ皿状に遺物が分布していることがわかる。また遺物の垂直分布図と土層堆積図を見比べると、遺物は概ね覆土1層と2層に分布していることがわかる。さらに、層の違いによる遺物の差異は認められないこと等より、少なくともこの二つの層がある程度近接した時間の中で、おそらく人為的に投げ込まれた土である可能性があるものと思われる。

（茅野 嘉雄）

#### 第71号竪穴住居跡（図17・40・41）

[位置] C F-18・19グリッドに位置する。

[確認] V層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸273cm、短軸207cmの隅丸の長方形を呈し、確認面からの深さは22cmを計測する。

[堆積土] 3層に分層された。

[壁] 床面からやや急に立ち上がる。

[床面] ほぼ平坦である。特に踏み固められた様子は認められない。

[炉] 明確な炉跡は認められない。

[柱穴] 壁際に23基のピットが検出された。壁柱穴の可能性が高い。

[その他の施設] なし。

[出土遺物] 図示し得た土器片は3点で、いずれも細片である。石器は覆土中より石鏃が1点・石匙1点等が出土している。

[小結] 縄文時代前期頃の住居跡と思われるが、詳細な時期は不明である。

（笹森 一期）

#### 第73号竪穴住居跡（図18・42・49）

[位置] A W・X-41グリッドに位置する。

[確認] 南部浮石層に黒色・隅丸長方形の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸315cm、短軸205cmのを呈し、確認面からの深さは約50cmを計測する。

[堆積土] 確認面において平面プランの縁近くに焼土がブロック状に堆積している箇所が確認されている（覆土3層）。したがって1層および2層は人為堆積の可能性がある。

[壁] 南側において約50cm残存し、後は概ね40cmほど残存している。床面よりほぼ垂直に立ち上がっている。

[床面] 南部浮石層を床面としており概ね平らである。貼り床は存在しなかった。

[炉] なし。

[柱穴] 計14本確認された。

[その他の施設] 壁際に柱穴間をつなぐようにして周溝が確認された。また周溝M1はP4を横切るようにして配置されている。

[出土遺物] 縄文時代前期の土器が出土している。床面出土遺物は皆無である。ほとんどが上部に存在する捨て場の土器が流れ込んだものと考えられる。1～14・16は口縁部に結節回転文を施文する土器である。胴部には16を除きLRが横位回転施文される。16の胴部には単軸絡条体第1類Rが縦位に回転施文される。口唇部に文様のあるものは8点ある。9は板状の工具による押し引きであり、10・11は棒状工具による口唇部上面への刺突である。そのほかはすべてLRを回転施文している。15は口縁部直下に無文帯を有し、その下位には短軸絡条体第1類Rをおおよそ縦位に回転施文している。16以降は胴部および底部の破片であるが、胴部文様は原体により大きく2つに分けられる。17～20・35～38は胴部にLRを横位回転施文せるものである。20には隆帯が張り付けられており下側の裾部には沈線が施される。また隆帯上には工具による刺突が加えられている。35・36は底部付近の破片であり底面にはLRが回転施文されている。21・22・27は隆帯である。胴部の文様は21・27は結節回転文、22は不明である。21の隆帯上には沈線、22の隆帯上にはLRの側面圧痕、27の隆帯上には指頭状の圧痕が連続的に施される。23～26・28～30・32～34は絡条体を回転施文したものである。25・32を除きあとは単軸絡条体第1類を回転施文している。ただし29は交差するように2回施文しているため見かけ上網目状に見える。39は底部の破片であり、底面には編み物の圧痕が看取される。41も底部の破片であるが、口台のような段が作られているのが特徴である。40は円盤状土製品である。LRを回転施文した胴部破片を利用している。

[小結] 出土遺物と確認時の状況等により本住居跡は円筒下層a～b式以前の住居跡であると推測される。  
(茅野 嘉雄)

#### 第74号竪穴住居跡 (図18)

[位置] AU・V-42グリッドに位置する。

[確認] 南部浮石層に黒色・不整な円形の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整な円形であり、長軸250cm、短軸220cmである。

[堆積土] 4層に分層された。2層は床面に確認された炭化物の集中である。

[壁] 斜面上方で約20cm残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。斜面下方(東側)では削平され、壁は残っていない。

[床面] 概ね平坦である。貼り床は確認できなかった。

[炉] なし。

[柱穴] なし。

[その他の施設] なし。

[出土遺物] 床面からミニチュア時の破片が出土している。時期は不明である。

[小結] 遺物の出土をみるが、明確な構築時期は特定できない。

(茅野 嘉雄)

第75号竪穴住居跡 (図19)

[位置] AX・Y-43・44グリッドに位置する。

[確認] 褐色粘土層および南部浮石層に黒色の落ち込みとして確認したが、上部がほとんど削平されており、斜面の上方においてかろうじて壁が残る他は柱穴のみの確認となった。

[重複] なし。

[平面形・規模] 概ね隅丸の長方形であり、長軸560cm、短軸390cmである。

[堆積土] 4層に分層されたものの、前述のとおり覆土のほとんどが削平されている。

[壁] 斜面上方で約40cm残存している。斜めに立ち上がる。

[床面] 削平を受けていないところでは概ね平坦である。貼り床は確認できなかった。

[炉] 中央部に2ヶ所確認された。地床炉である。

[柱穴] 壁際に並ぶようにして30基、その他に13基確認された。

[その他の施設] 斜面上方の削平を免れたところで、壁際に柱穴をつなぐように周溝が確認された。

[出土遺物] なし。

[小結] 出土遺物がないため明確な時期は決めかねるが、壁際に柱穴と周溝が巡る点が55b住居跡に類似していることや、確認状況等から、縄文時代前期中葉以降の住居跡であると考えられる。

(茅野 嘉雄)

第76号竪穴住居跡 (図19・43～45・49)

[位置] AW・X-42グリッドに位置する。

[確認] 南部浮石層に黒色・隅丸方形の落ち込みとして確認した。

[重複] 確認されなかったが、柱穴や、周溝の配置などから、本住居跡は少なくとも1回の建て替えが行われていたと考えられる。

[平面形・規模] 平面形はやや不整な隅丸方形である。長軸は290cm、短軸は220cmである。

[堆積土] 層に分層された。隣接する第73号竪穴住居跡同様確認面でのプランの縁に焼土がブロック状に堆積しているのが確認された。

[壁] 40～50cm残存している。床面からやや外側に傾きながら立ち上がっている。

[床面] XI層を床面としている。概ね平坦である。

[炉] 確認されなかった。

[柱穴] 計15本確認された。内7本が周溝内や壁際に配置されているのが特徴である。

[その他の施設] 柱穴をつなぐように周溝が確認された。

[出土遺物] 縄文土器・石器が出土している。床面からの出土遺物はなく、主に覆土1、2、3、6層からの出土である。本住居跡覆土の上には円筒下層a～b式期の捨て場が形成されていたが、本住居跡の遺物はその捨て場の遺物が流れ込んだものと考えられる。出土した遺物はほとんどが破片であり、復元されたのは19の1点のみである。結節回転文を口縁部に施文するもの・地紋のみのもの・絡条体を回転施文するもの・隆帯を持つものが存在する。結節回転文を施文するものは13点図示したが7・8・33のように隆帯を持ち、その上下に施文するものも存在している。地文のみのものは15・19である。15はLLを横位回転施文しており、19はLRを横位回転施文している。絡条体を用いている

ものには単軸絡条体第1類を用いているものが多いが、12や20のように単軸絡条体第5類や第1a類を回転施文するものも存在している。隆帯を持つものについては隆帯上に沈線による文様を施文したり縄文を回転施文したりとバラエティがある。

石器は合計 点出土しているが、図示したのは5点である。石鏃が4点、不定形石器が1点出土している。58は器体左側縁に急斜な角度の調整剝離によって刃部を形成している。

[小結] 出土遺物と確認時の状況等により本住居跡は円筒下層a～b式期の住居跡であると考えられる。

(茅野 嘉雄)





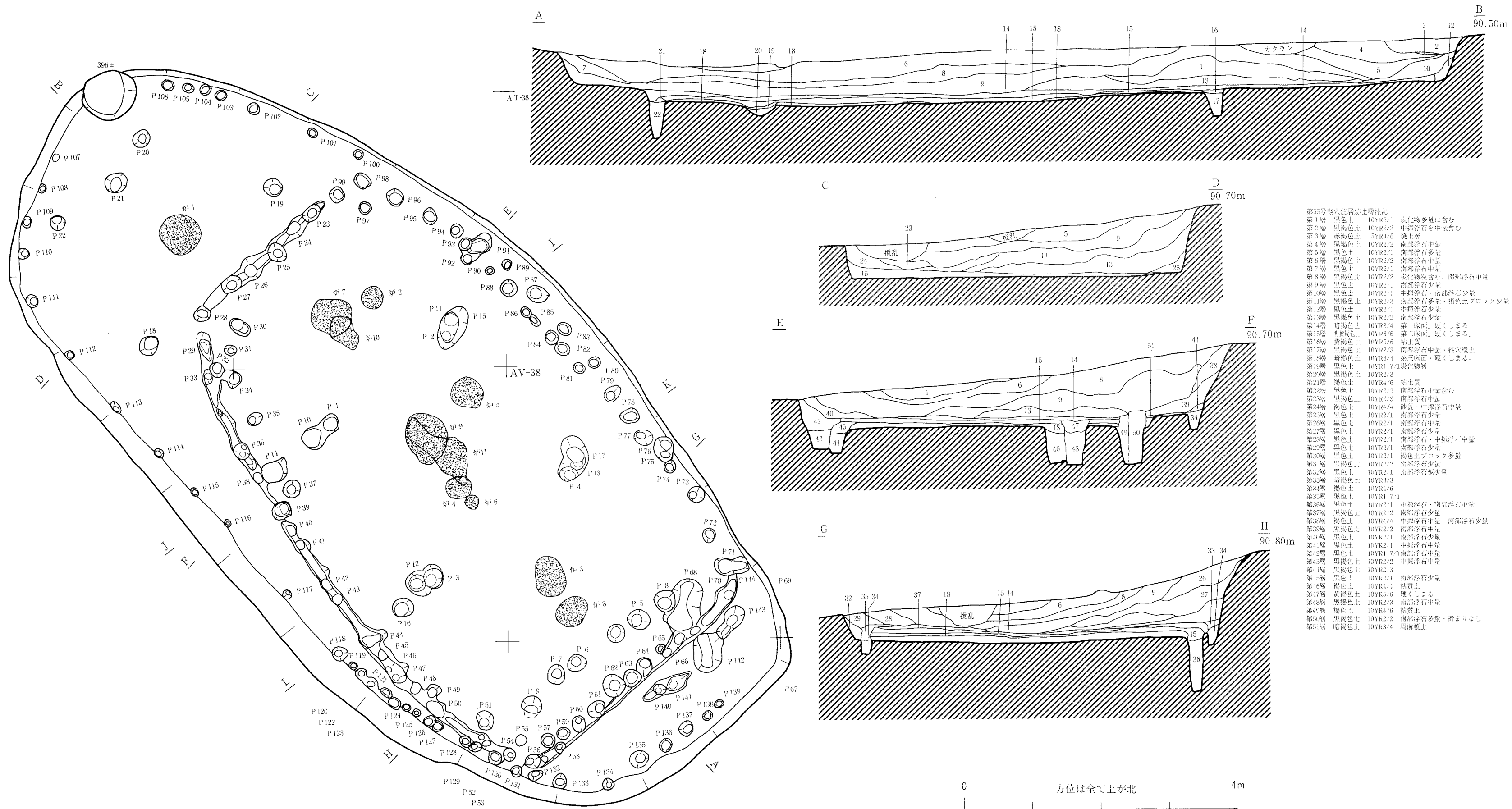
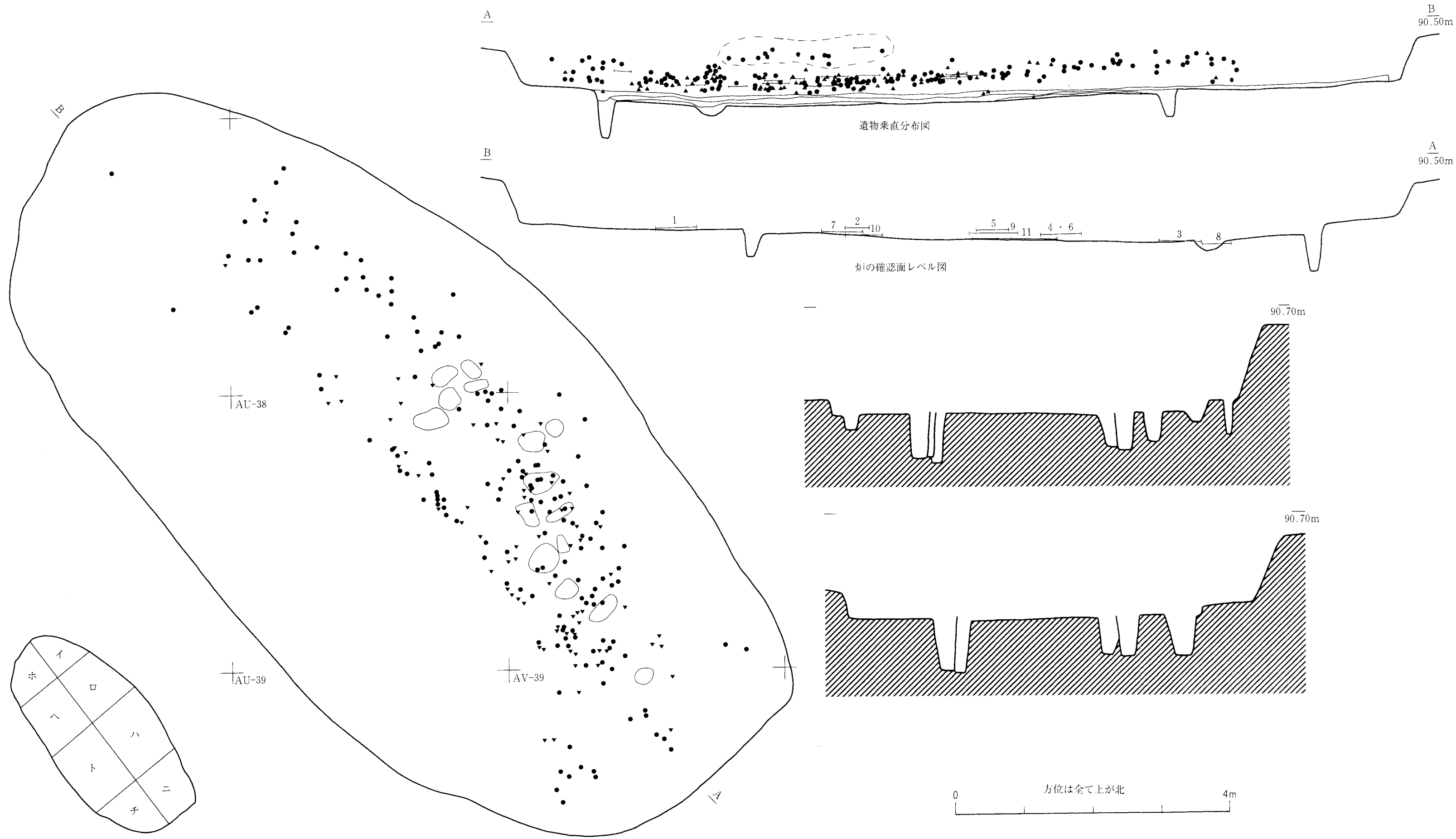


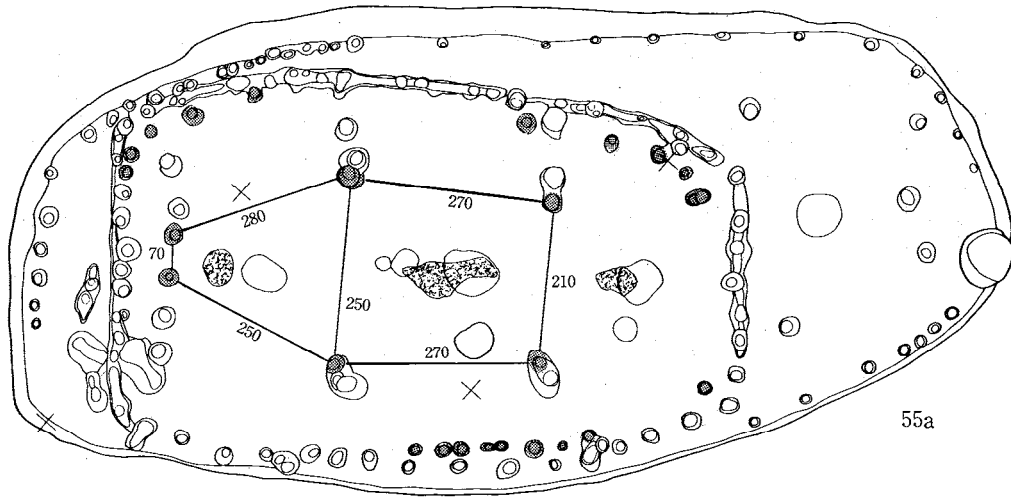
図4 第55号竪穴住居跡



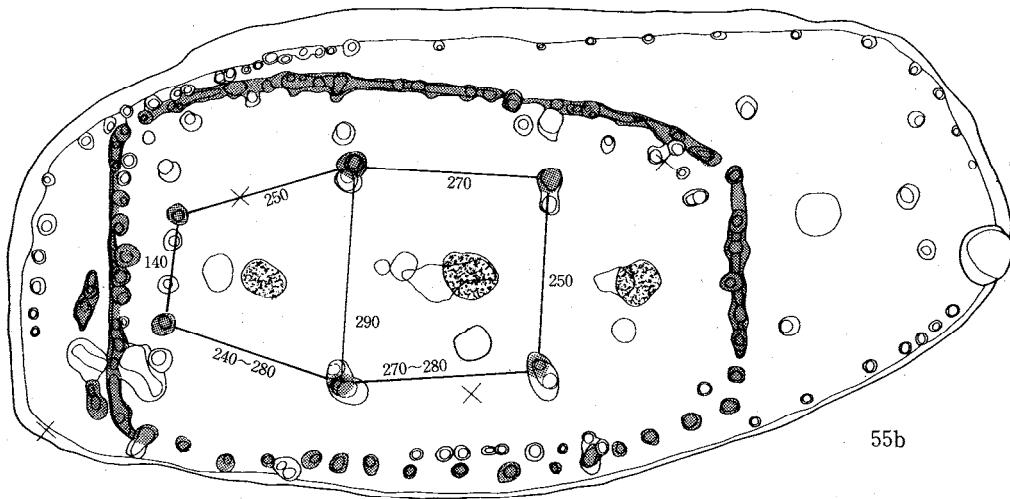
55号竪穴住居跡ピット計測表

ピットNo.	開口部径	深さ			
1	27×26	55	81	18×13	37
2	33×30	77	82	23×18	16
3	36×30	55	83	21×18	45
4	34×20	72	84	21×18	29
5	33×30	82	85	18×11	14
6	30×25	45	86	16×13	20
7	30×25	56	87	33×23	26
8	33×31	59	88	26×25	
9	30×25	45	89	16×13	43
10	33×33	62	90	13×10	24
11	25×25	80	91	40×26	28
12	40×26	63	92	16×18	36
13	36×23	81	93	20×16	32
14	46×30	63	94	21×20	
15	66×36	80	95	26×20	24
16	31×30	68	96	26×25	34
17	43×33	70	97	20×18	33
18	33×26	59	98	26×20	23
19	28×26	76	99	25×23	36
20	26×23	67	100	15×13	22
21	33×31	67	101	16×13	22
22	21×21	59	102	18×16	17
23	26×20	32	103	18×13	10
24	33×23	24	104	16×15	7
25	30×25	45	105	18×13	13
26	33×30	27	106	18×15	12
27	30×23	44	107	11×8	44
28	25×23	39	108	15×11	31
29	40×20		109	16×13	39
30	33×20		110	16×15	33
31	18×16	27	111	20×16	46
32	23×21	45	112	15×13	50
33	23×16		113	20×11	63
34	25×23	32	114	16×11	42
35	23×18	40	115	15×11	52
36	23×21		116	11×10	23
37	26×23	60	117	11×13	51
38	23×13	36	118	23×21	51
39	30×28	34	119	13×11	
40	30×20	30	120	16×15	8
41	26×23	33	121	23×16	17
42	30×13	29	122	20×11	15
43	26×13	35	123	21×15	36
44	41×30	60	124	13×11	16
45	23×23	20	125	31×10	15
46	23×16	39	126	20×16	17
47	20×17	30	127	16×16	13
48	23×20	36	128	18×14	37
49	23×17	41	129	20×11	31
50	40×23	64	130	23×20	51
51	30×25	45	131	16×16	30
52	20×16	33	132	23×13	27
53	16×13	30	133	21×20	23
54	16×15	34	134	16×16	57
55	18×15	16	135	30×23	48
56	25×20	43	136	20×16	22
57	21×20	24	137	21×20	54
58	16×15	17	138	16×13	15
59	20×18	32	139	16×11	5
60	23×20	20	140	20×16	30
61	30×23	41	141	40×26	33
62	33×33	42	142	56×40	27
63	26×23	50	143	53×26	42
64	26×25		144	93×16	25
65	15×11	33			
66	16×15	33			
67	25×23	28			
68	80×46	40			
69	23×15	54			
70	27×23	8			
71	50×23				
72	21×18	60			
73	25×23	55			
74	20×16	23			
75	23×16	44			
76	27×20	44			
77	27×23				
78	30×23	20			
79	26×20	41			
80	18×13	14			

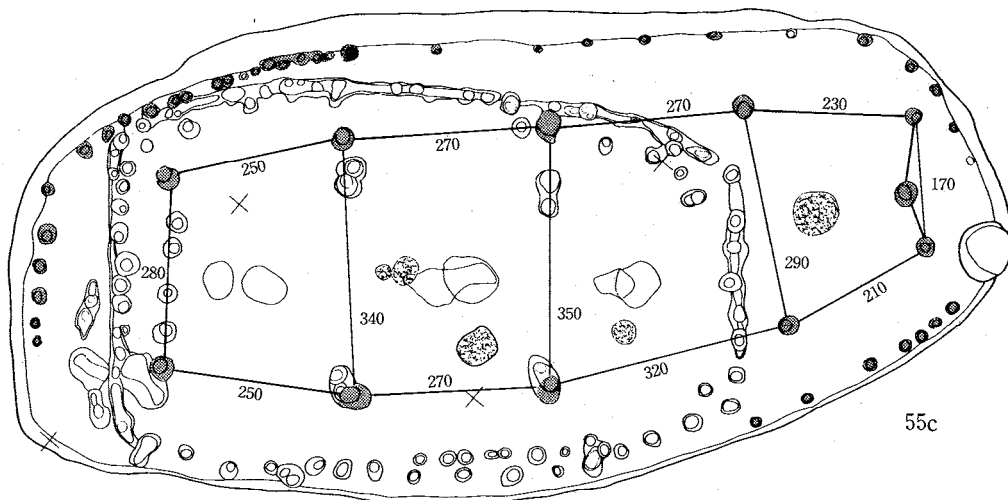
図5 第55号竪穴住居跡遺物出土状況



55a



55b



55c

数字の単位はcm

図6 第55号竪穴住居跡変遷想定図

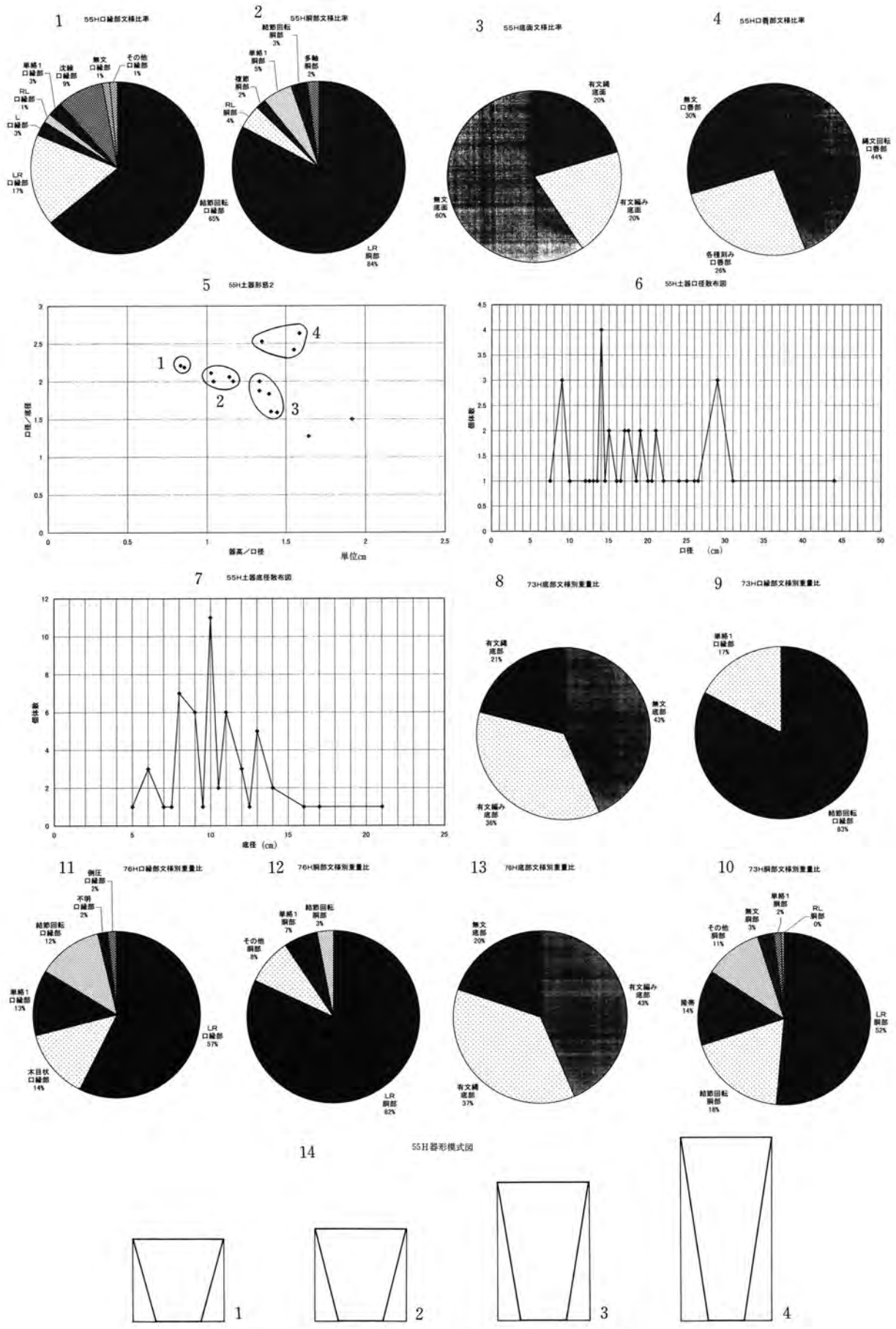


図7 第55・73・76号竪穴住居跡出土土器グラフ

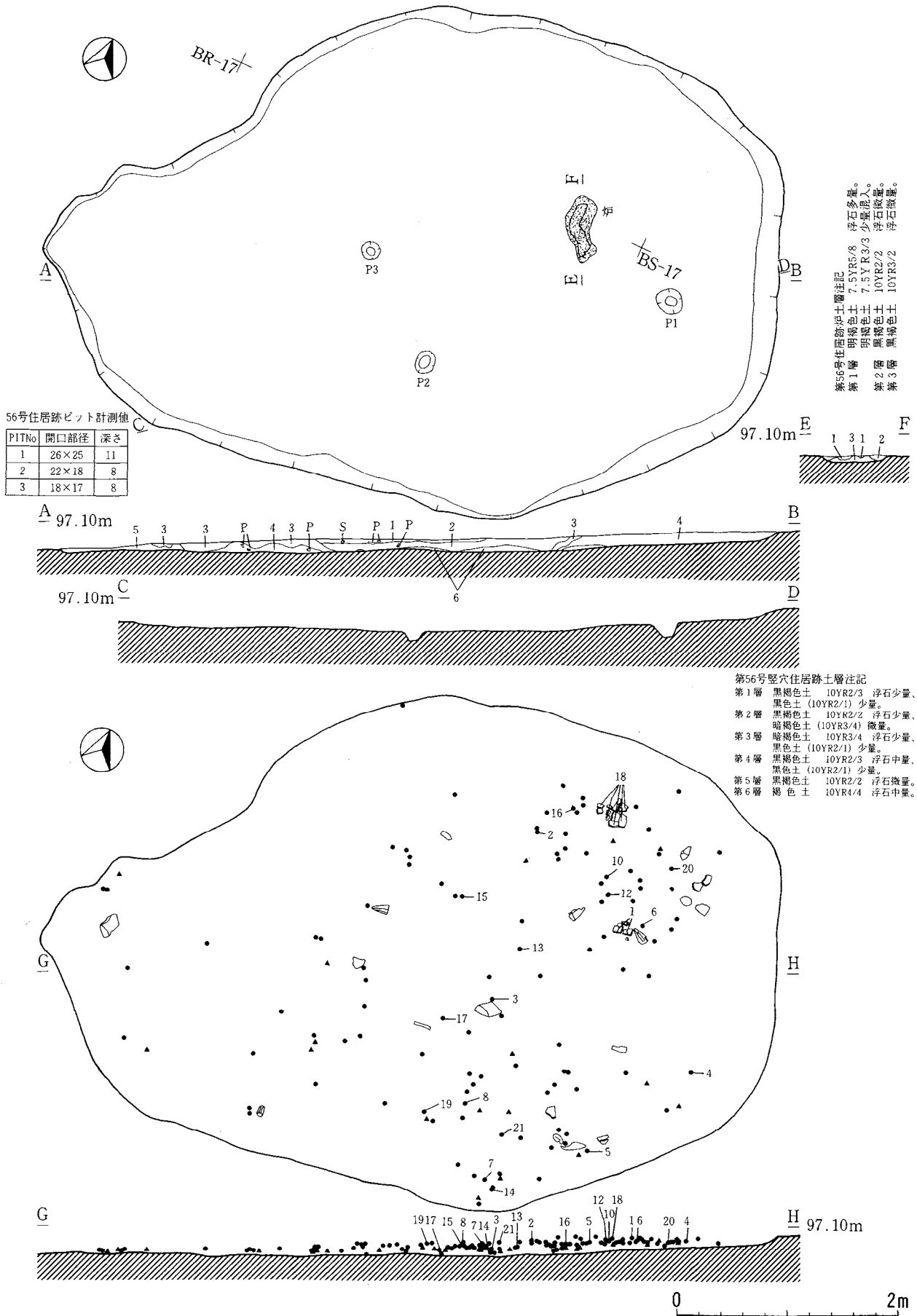
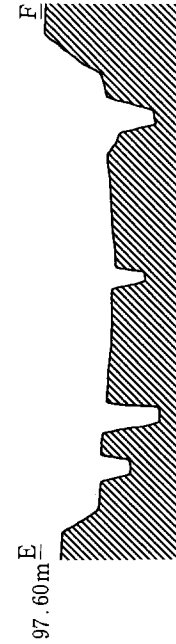
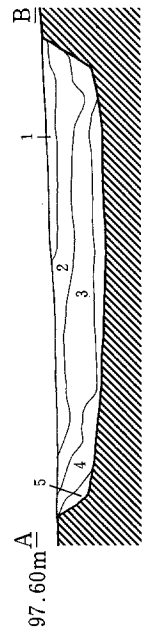
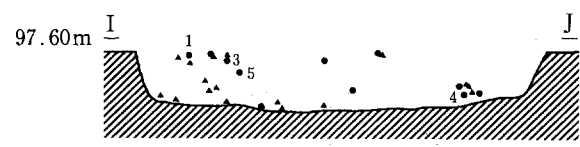
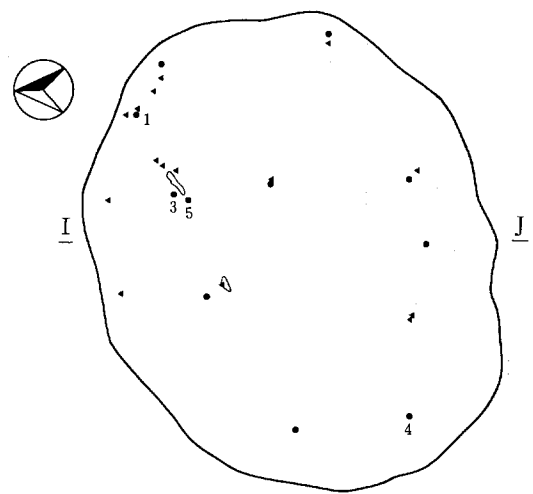
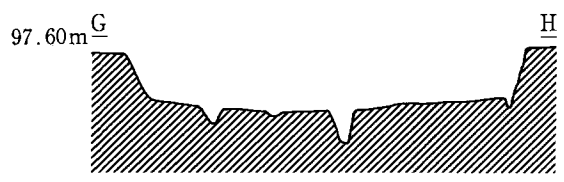
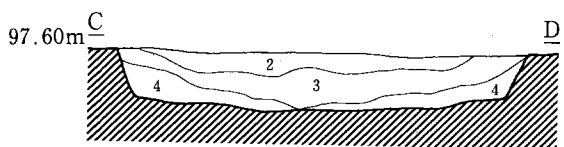
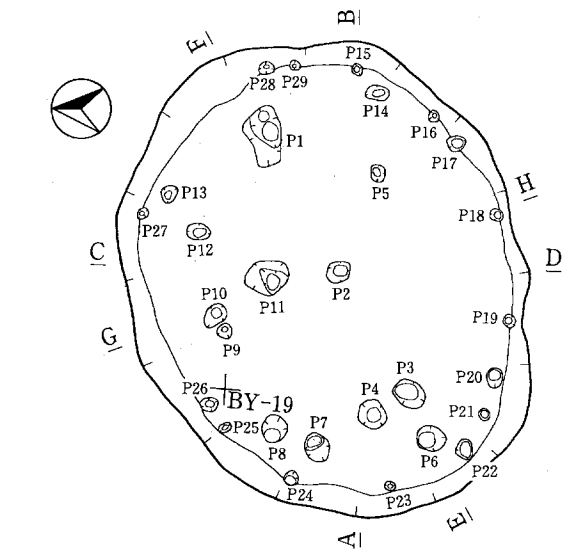


図8 第56号竪穴住居跡





第57号竖穴住居跡土層注記  
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 浮石中量、炭化物微量。  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 浮石中量、炭化物微量。  
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 浮石中量、炭化物微量。  
 第4層 黒褐色土 10YR2/2 浮石少量、炭化物微量。  
 第5層 黒褐色土 10YR2/3 浮石多量。

57号住居跡ピット計測値

PITNo	開口部径	深さ
1	40×25	36
2	15×14	21
3	18×22	37
4	20×20	35
5	12×9	24
6	20×16	21
7	20×15	8
8	18×16	30
9	10×10	10
10	12×15	13
11	30×23	28
12	15×11	9
13	12×10	6
14	10×15	8
15	8×7	15
16	8×7	6
17	16×10	10
18	9×8	8
19	9×8	3
20	12×10	18
21	8×7	8
22	14×11	12
23	7×6	12
24	10×10	1
25	8×7	8
26	12×10	7
27	7×5	8
28	10×7	13
29	8×6	4

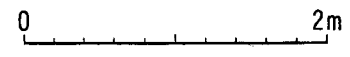
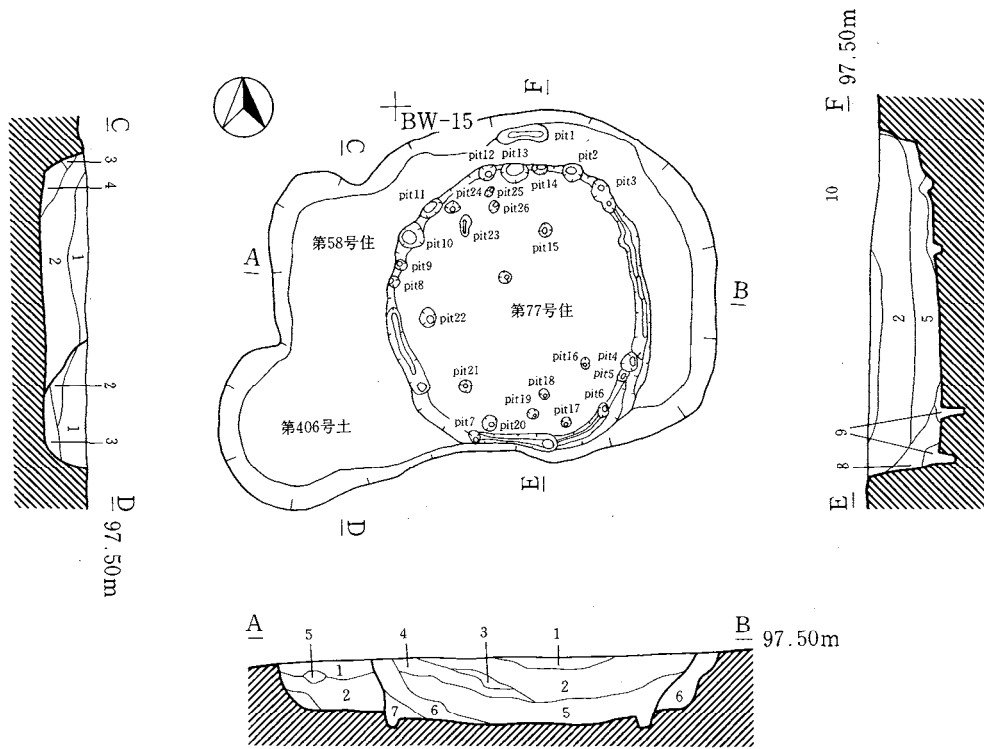


図9 第57号竖穴住居跡



第58号竪穴住居跡土層注記

- 第1層 黒色土 10YR2/1 浮石粒少量混入。
- 第2層 黒色土 10YR2/1 浮石粒少量混入。
- 第3層 明黄褐色土 10YR6/8 浮石粒層。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 浮石粒中量混入。
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 浮石粒中量混入。
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 浮石粒中量混入。

第406号土土層注記

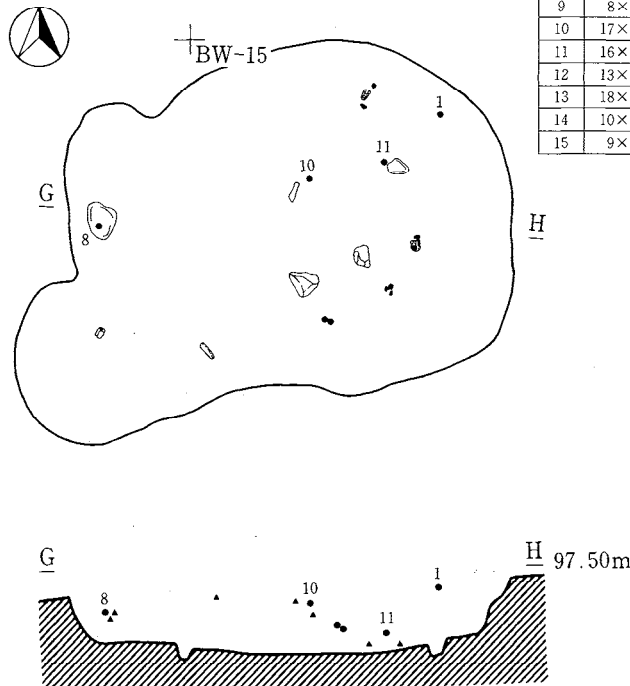
- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 浮石粒少量混入。
- 第2層 黒色土 10YR2/1 浮石粒微量混入。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 浮石粒微量混入。

第77号竪穴住居跡土層注記

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物微量、浮石粒微量混入。
- 第2層 黒色土 10YR2/1 炭化物微量、浮石粒少量混入。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物微量、浮石粒微量混入。
- 第4層 黒色土 10YR2/1 炭化物微量、浮石粒微量混入。
- 第5層 黒色土 10YR2/1 炭化物微量、浮石粒少量混入。
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 浮石粒中量混入。
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 浮石粒少量混入。
- 第8層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物極微量、浮石粒少量混入。
- 第9層 暗褐色土 10YR3/3 浮石粒中量混入。
- 第10層 暗褐色土 10YR3/3 浮石粒中量混入。

第58・77号竪穴住居跡ピット計測表

PITNo	開口部径	深さ	PITNo	開口部径	深さ
1	34×10	9.5	16	8×5	4
2	14×12	2.5	17	7×6	2.5
3	23×9	7	18	7×6	5
4	13×11	9	19	8×6	5
5	8×5	6.5	20	11×10	21
6	10×7	6	21	8×8	12.5
7	9×6	3.5	22	13×11	5
8	7×7	3	23	15×7	9
9	8×6	4	24	11×8	19
10	17×17	4	25	8×5	2.5
11	16×8	5	26	8×6	4.5
12	13×10	14	27	8×8	4.5
13	18×13	3			
14	10×6	3.5			
15	9×9	2.5			



0 2m

図10 第58・77号竪穴住居跡

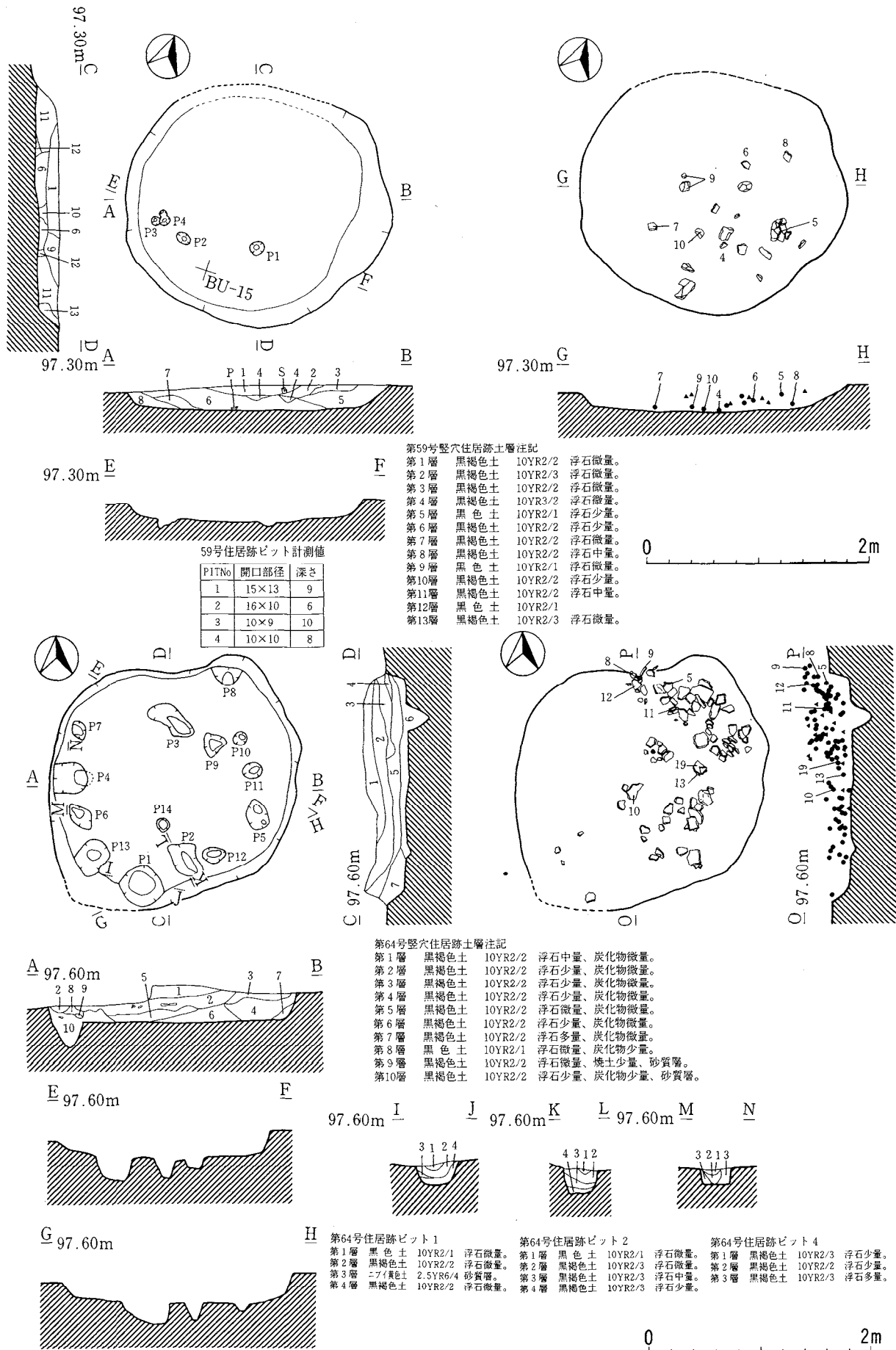


図11 第59・64号竖穴住居跡

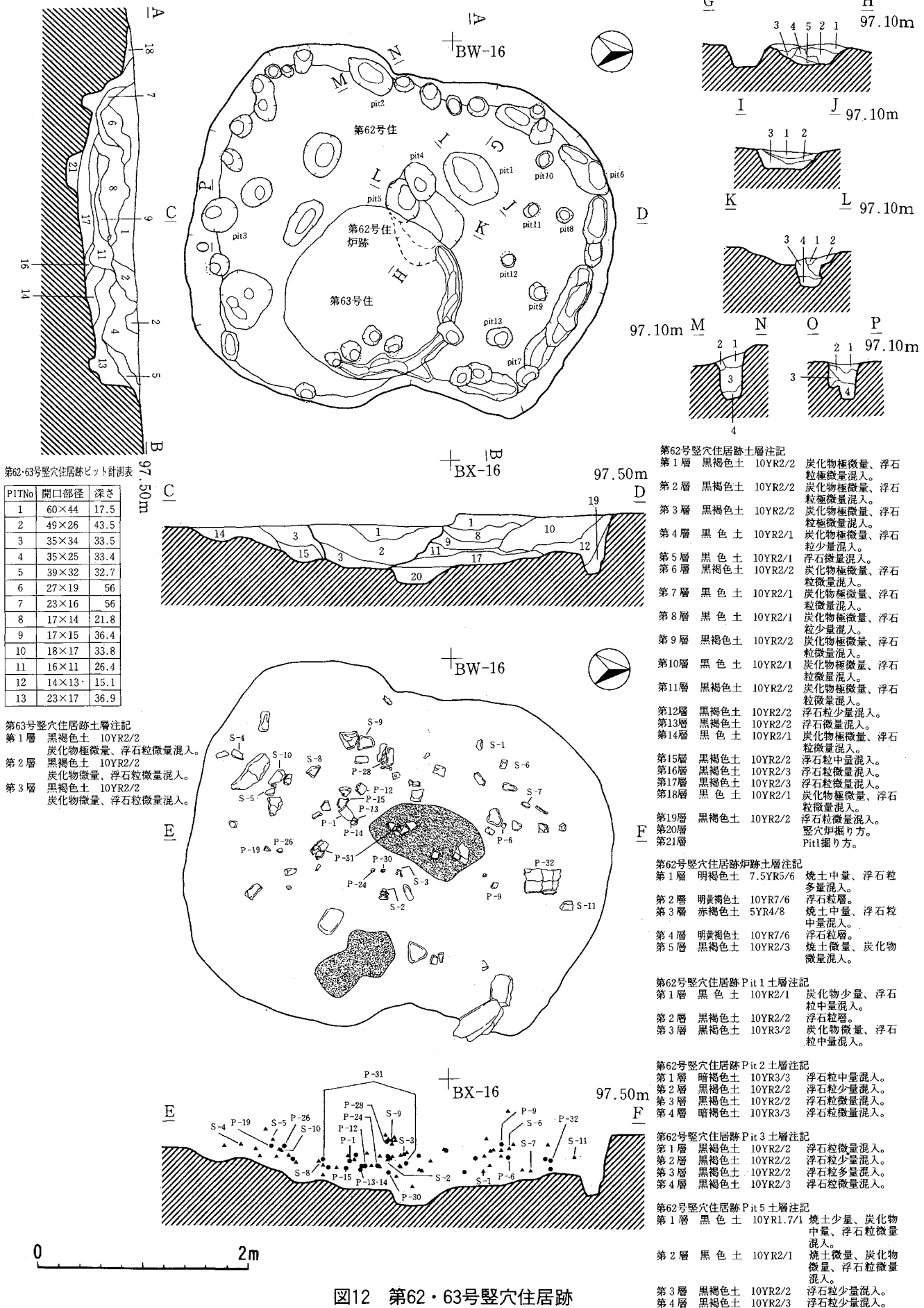


図12 第62・63号竪穴住居跡

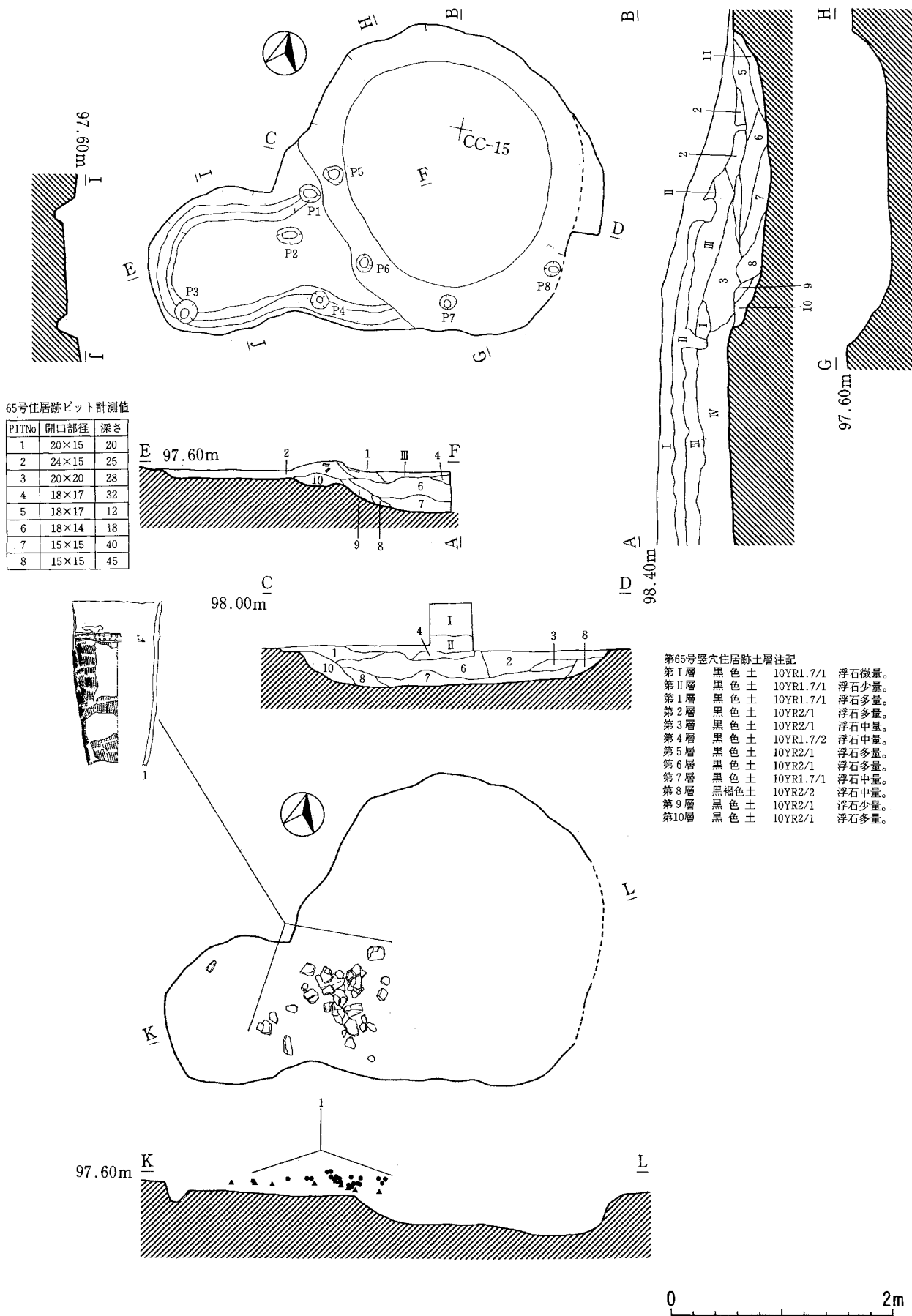


図13 第65号竖穴住居跡

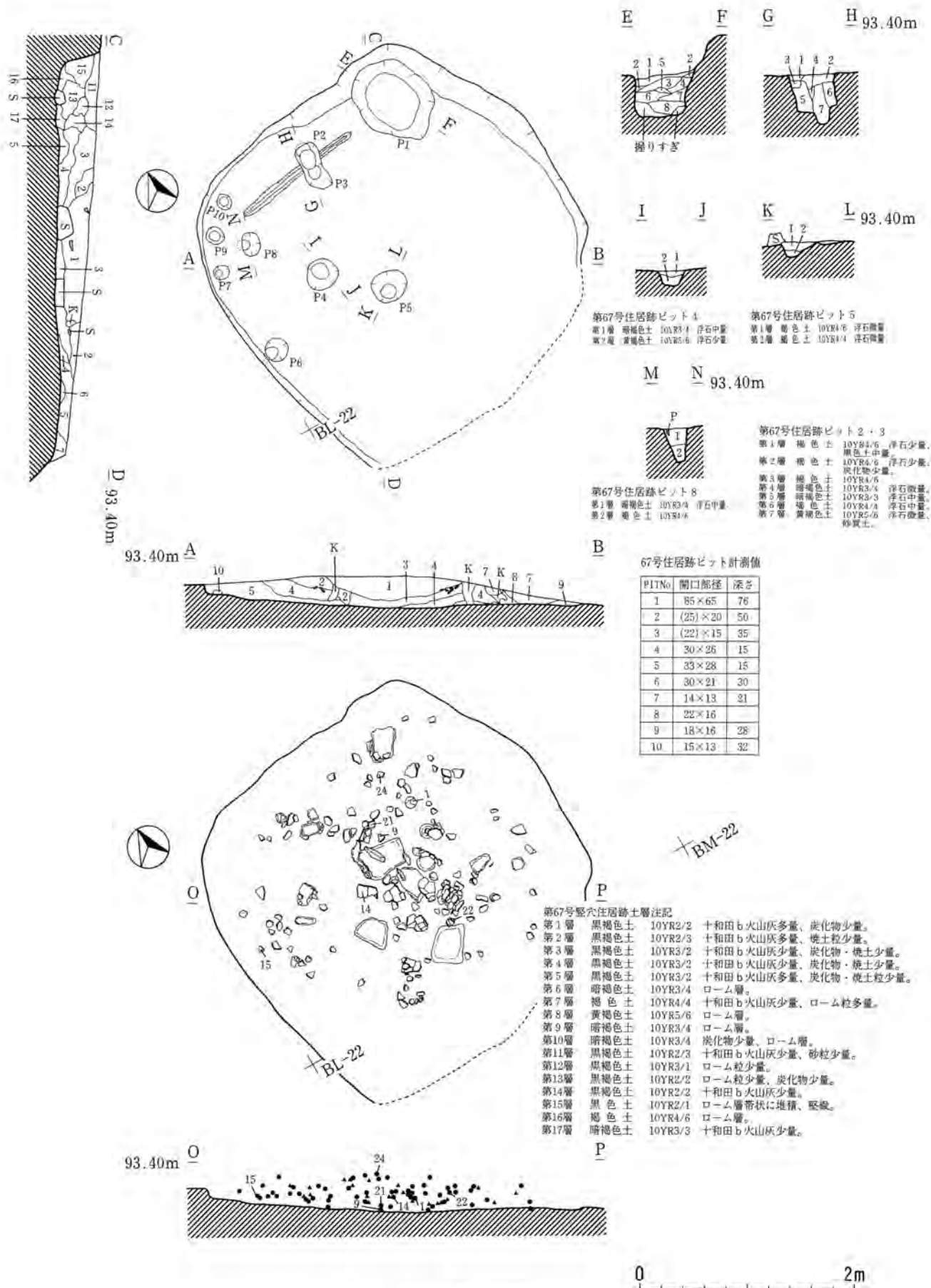
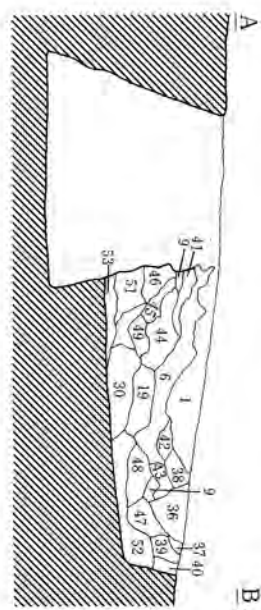


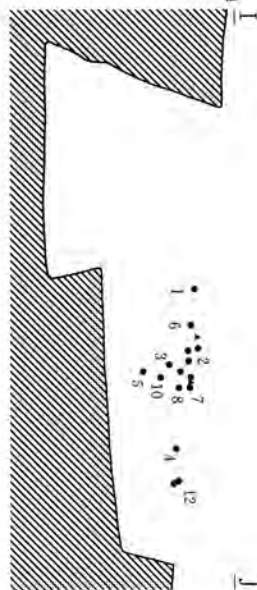
図14 第67号堅穴住居跡





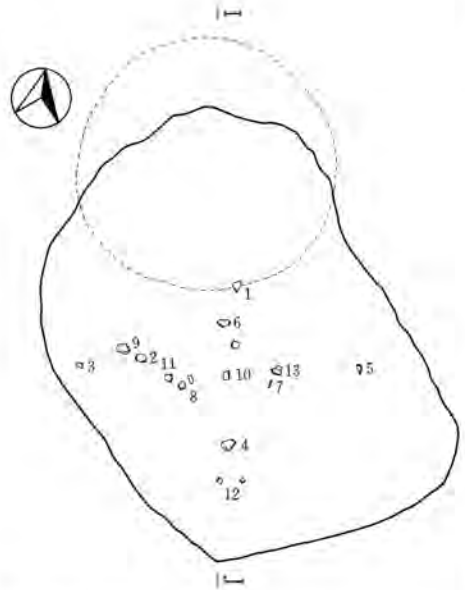
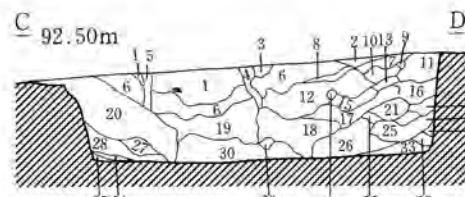
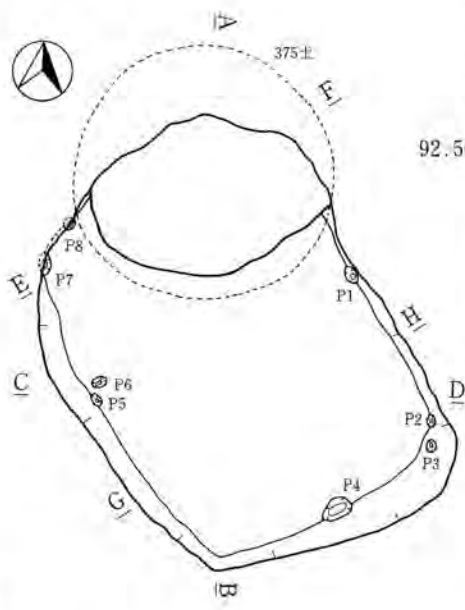
第67号住居跡ピット計測値

PITNo	開口部径	深さ
1	12×7	26
2	7×5	81
3	8×8	65
4	22×13	17
5	9×7	23
6	10×7	31
7	14×7	11
8	7×7	20



第68号住居跡ピット計測値

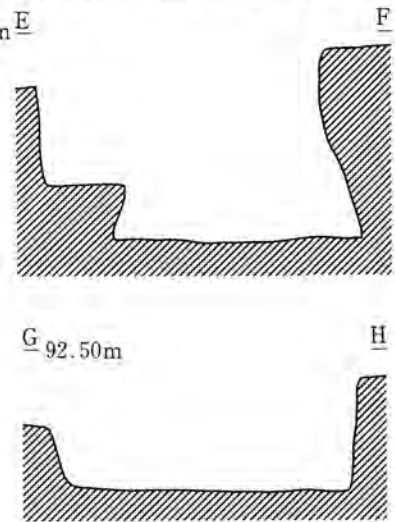
PITNo	開口部径	深さ
1	42×37	18
2	40×28	25
3	46×18	21
4	31×27	31
5	28×19	14
6	28×17	25
7	19×13	18
8	29×16	13
9	22×17	15
10	18×12	16
11	18×15	9
12	22×16	16
13	35×28	31
14	13×12	16



第67号住居跡ピット1

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石少量。
- 第2層 明黄褐色土 10YR6/8 浮石微量。
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 浮石微量。覆土2層混入。
- 第4層 明黄褐色土 10YR6/6 浮石微量。
- 第5層 浅黄褐色土 10YR8/3 浮石微量。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4 浮石微量。
- 第7層 黄褐色土 10YR5/8 浮石微量。
- 第8層 暗褐色土 10YR3/3 浮石微量。覆土7層中量。

92.50m



第68号竖穴住居跡土層注記

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石中量。
- 第2層 黄褐色土 10YR2/2 浮石少量。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 におい黄褐色土 (10YR5/4) 微量。
- 第4層 黄褐色土 10YR2/2 浮石少量。
- 第5層 黒色土 10YR2/1 浮石微量。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 浮石中量、十和田b火山灰微量。
- 第7層 暗褐色土 10YR3/4 浮石少量。
- 第8層 褐色土 10YR4/4 浮石微量、黄褐色土 (10YR5-6+5/4) 微量。
- 第9層 黄褐色土 10YR2/2 浮石微量。
- 第10層 暗褐色土 10YR3/4 浮石少量、におい黄褐色土 (10YR5/4) 微量。
- 第11層 黄褐色土 10YR2/3 浮石微量、砂粒土状に混在。
- 第12層 黄褐色土 10YR2/2 浮石少量、十和田b火山灰微量、におい黄褐色土 (10YR5/4) 微量。
- 第13層 暗褐色土 10YR3/3 浮石微量。
- 第14層 黄褐色土 10YR2/2 浮石微量。
- 第15層 暗褐色土 10YR3/4 浮石極微量、十和田b火山灰微量。
- 第16層 暗褐色土 10YR3/4 浮石極微量。
- 第17層 暗褐色土 10YR3/3 浮石極微量。
- 第18層 黄褐色土 10YR2/3 浮石極微量、十和田b火山灰微量。
- 第19層 黄褐色土 10YR2/2 浮石少量、褐色土 (10YR5/4) 微量。
- 第20層 黄褐色土 10YR2/2 浮石少量。
- 第21層 暗褐色土 10YR3/3 浮石微量、十和田b火山灰微量。
- 第22層 黄褐色土 10YR2/3 浮石微量。
- 第23層 褐色土 10YR4/4 浮石微量、におい黄褐色土 (10YR5/4) 微量。
- 第24層 暗褐色土 10YR3/4 浮石微量。
- 第25層 暗褐色土 10YR3/4 浮石少量。
- 第26層 暗褐色土 10YR3/3 浮石微量。
- 第27層 暗褐色土 10YR2/3 浮石微量。
- 第28層 黄褐色土 10YR2/2 浮石少量、暗褐色土 (10YR3/4) 少量。
- 第29層 暗褐色土 10YR3/4 浮石少量。
- 第30層 暗褐色土 10YR3/4 浮石少量、暗褐色土 (10YR3/4) 少量。
- 第31層 黒色土 10YR1.7/1 浮石微量。
- 第32層 黄褐色土 10YR2/3 浮石微量。
- 第33層 黒色土 10YR1.7/1 浮石微量、褐色土 (10YR4/4) 微量。
- 第34層 黄褐色土 10YR2/2 浮石微量、暗褐色土 (10YR3/4) 微量。
- 第35層 におい黄褐色土 10YR5/3 浮石微量。
- 第36層 黄褐色土 10YR2/2 浮石中量。
- 第37層 黒色土 10YR2/1 浮石微量。
- 第38層 暗褐色土 10YR3/3 浮石少量、におい黄褐色土 (10YR5/4) 微量。
- 第39層 暗褐色土 10YR2/3 浮石少量。
- 第40層 黒色土 10YR2/1 浮石少量。
- 第41層 灰黄褐色土 10YR6/4 浮石少量、褐色土 (10YR4/4) 中量。
- 第42層 黄褐色土 10YR3/2 浮石少量、におい黄褐色土 (10YR5/4) 微量。
- 第43層 暗褐色土 10YR3/3 浮石少量、褐色土 (10YR4/4) 少量。
- 第44層 黄褐色土 10YR2/3 浮石中量、十和田b火山灰微量。
- 第45層 暗褐色土 10YR3/4 浮石微量、褐色土 (10YR4/4) 少量。
- 第46層 暗褐色土 10YR3/4 浮石微量。
- 第47層 暗褐色土 10YR3/3 浮石少量。
- 第48層 暗褐色土 10YR3/3 浮石少量。
- 第49層 暗褐色土 10YR3/4 浮石微量、褐色土 (10YR4/4) 少量。
- 第50層 暗褐色土 10YR3/3 浮石少量。
- 第51層 褐色土 10YR4/4 浮石少量。
- 第52層 黄褐色土 10YR2/2 浮石微量。
- 第53層 黄褐色土 10YR2/2 浮石中量。

0 2m

図15 第68号竖穴住居跡

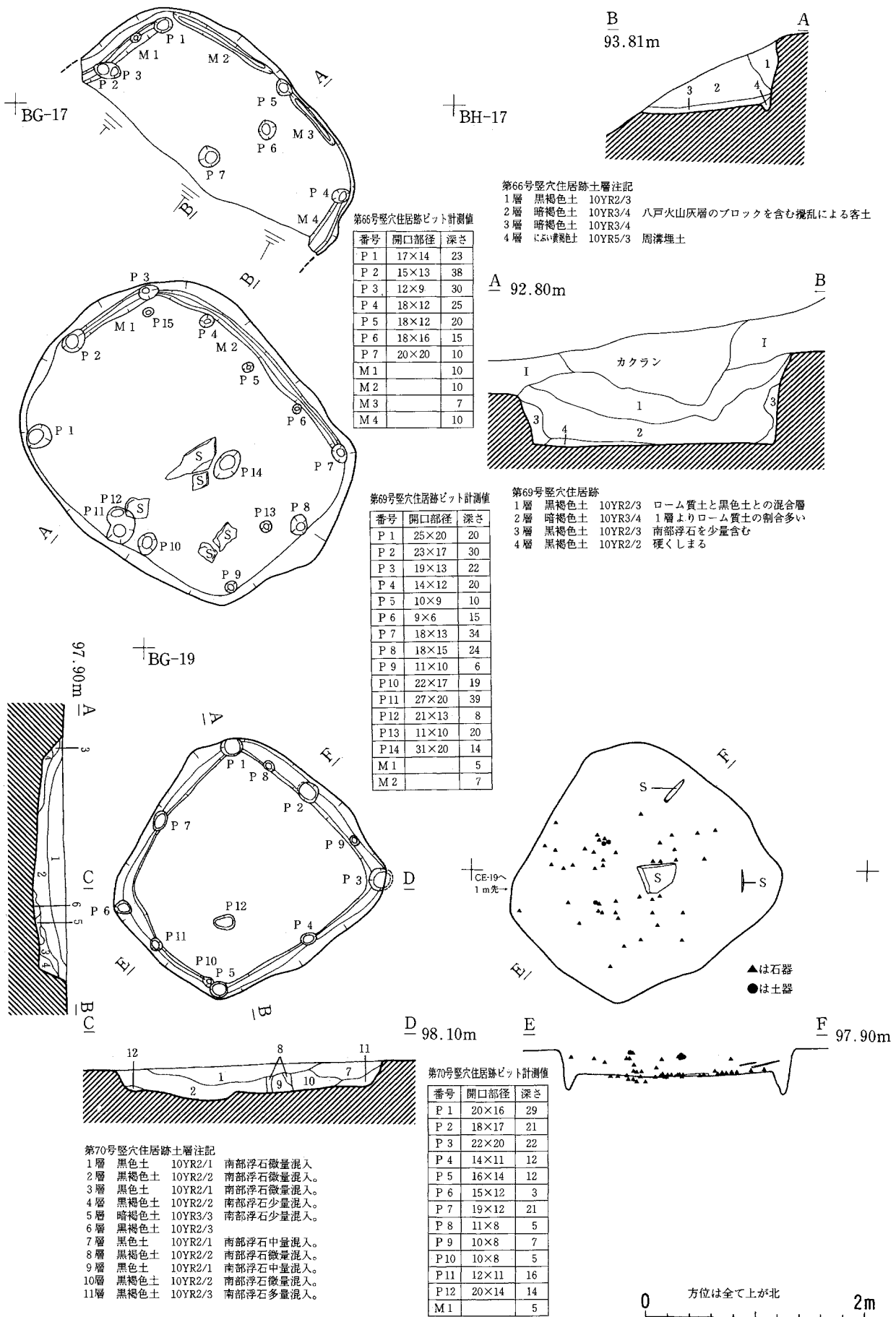
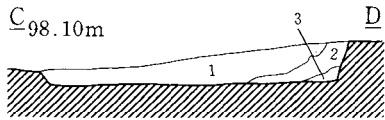
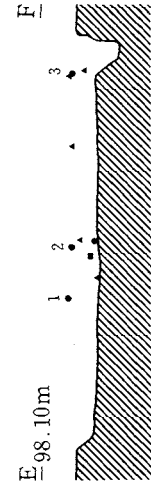
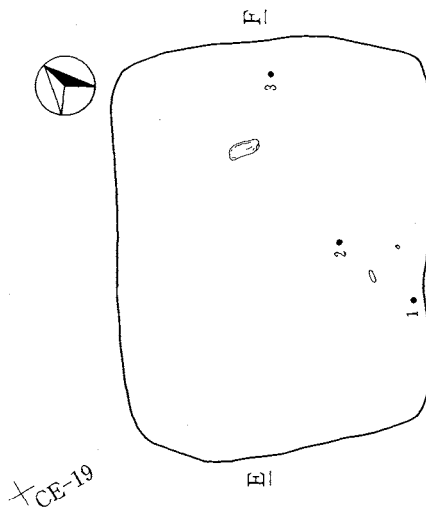
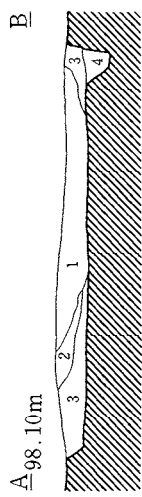
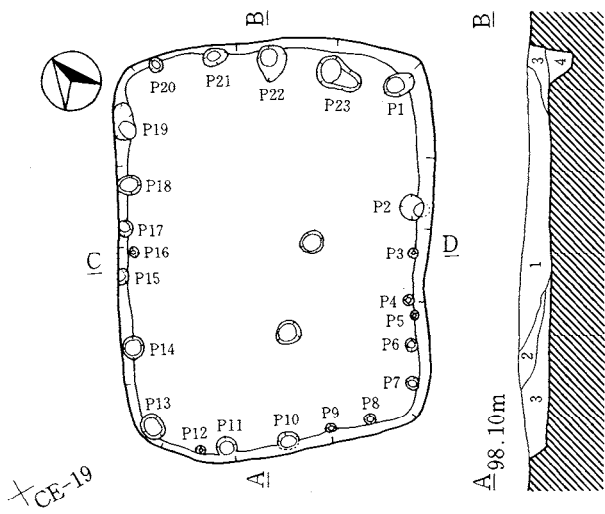


図16 第66・69・70号住居跡



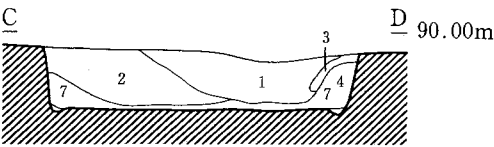
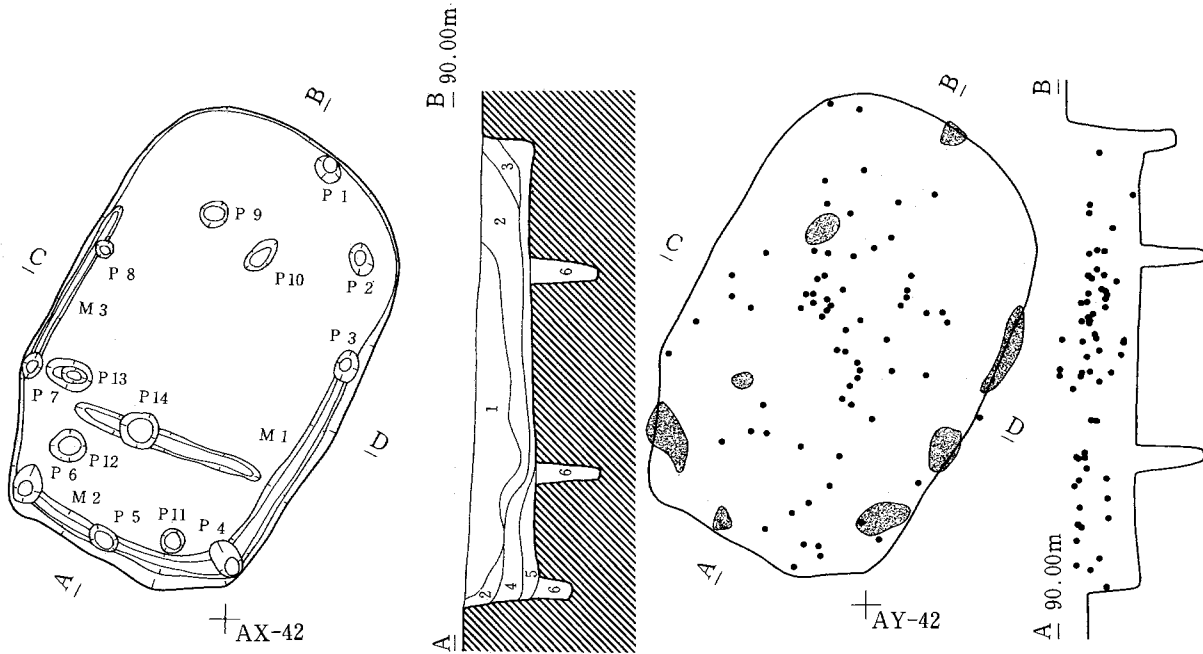
第71号住居跡土層注記  
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 十和田b火山灰少量、砂粒多量。  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 十和田b火山灰少量、砂粒多量。  
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 十和田b火山灰多量。  
 第4層 黒色土 10YR2/1 炭化物多量、砂粒少量。

71号住居跡ピット計測値

PITNo	開口部径	深さ
1	25×15	30
2	18×15	18
3	6×6	7
4	8×7	14
5	6×6	8
6	9×8	9
7	9×9	13
8	8×7	6
9	8×5	2
10	14×9	15
11	13×12	13
12	6×5	2
13	18×14	14
14	16×12	10
15	10×7	12
16	7×5	3
17	10×10	8
18	15×11	18
19	10×10	26
20	9×7	4
21	12×11	9
22	22×20	16
23	30×18	29
24	15×13	20
25	16×15	10

図17 第71号竪穴住居跡





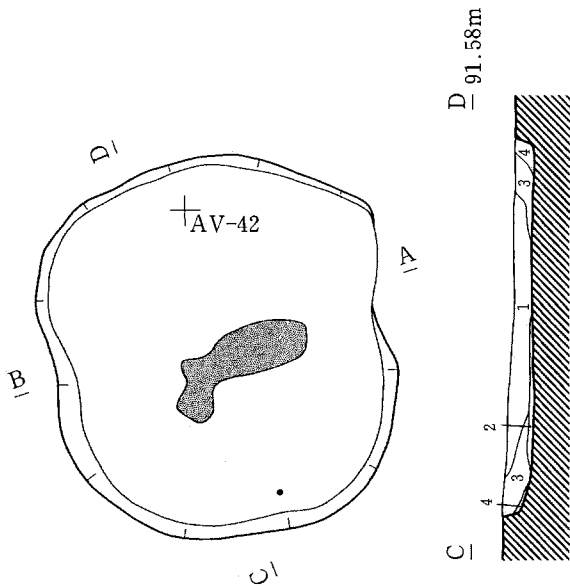
第73号竪穴住居跡土層注記  
 1層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石中量含む。  
 2層 黒色土 10YR2/1  
 3層 黒褐色土 10YR2/3 被熱した中振浮石を大量に含む。  
 4層 黒色土 10YR2/1 南部浮石多量に含む。

第73号竪穴住居跡ピット計測値

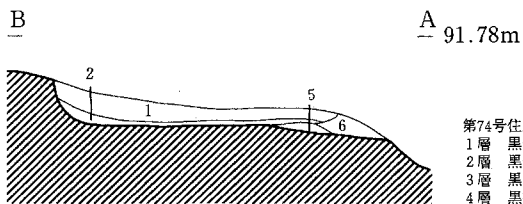
番号	開口部径	深さ
P 1	20×15	53
P 2	22×14	30
P 3	21×15	49
P 4	26×18	45
P 5	21×14	24
P 6	26×20	50
P 7	18×13	5
P 8	13×12	10
P 9	20×18	30
P 10	25×14	50
P 11	17×16	15
P 12	24×21	35
P 13	32×20	40
P 14	26×24	50
M 1		10
M 2		10
M 3		10
M 4		10

第76号竪穴住居跡ピット計測値

番号	開口部径	深さ
P 1	12×7	25
P 2	10×10	37
P 3	13×9	30
P 4	12×9	20
P 5	18×13	25
P 6	15×14	25
P 7	19×15	30
P 8	19×25	13
P 9	21×16	43
P 10	27×23	24
P 11	13×12	15
P 12	12×10	10
P 13	11×8	10
P 14	27×11	30
M 1		5
M 2		5
M 3		4
M 4		4
M 5		4



第74号竪穴住居跡出土遺物



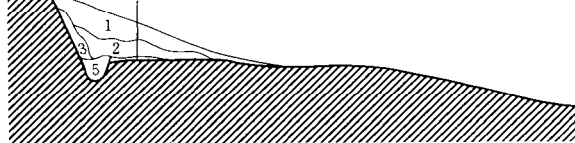
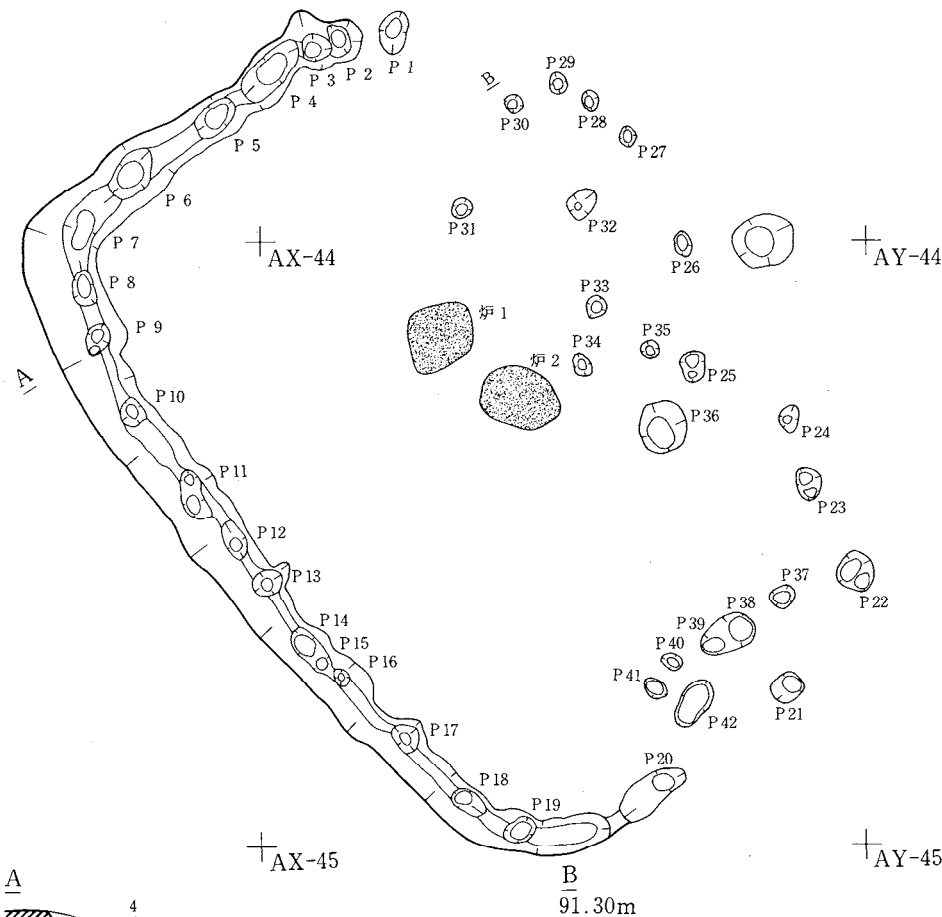
第74号住居跡土層注記  
 1層 黒色土 10YR2/1 南部浮石を中量含む。  
 2層 黒色土 10YR1.7/1 南部浮石を少量含む。炭化物を含む。ややしまりがある。  
 3層 黒色土 10YR2/1 南部浮石と中振浮石を少量含む。  
 4層 黒褐色土 10YR2/3 南部浮石を多量に含む。

0 方位は全て上が北 2m

図18 第73・74号住居跡

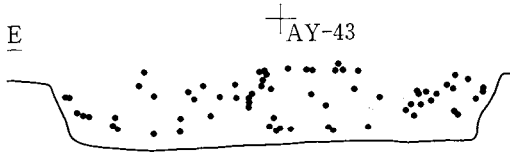
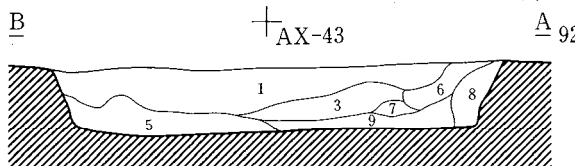
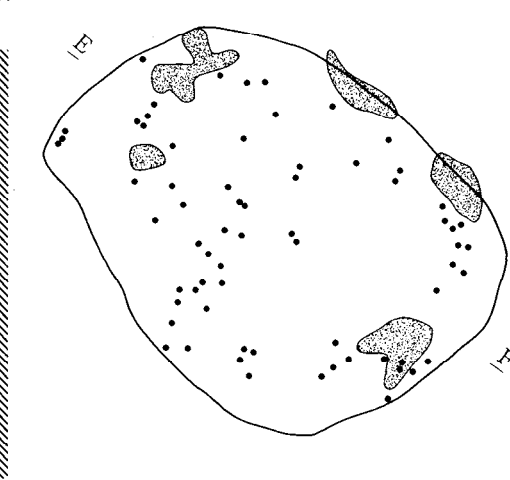
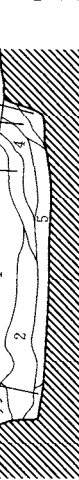
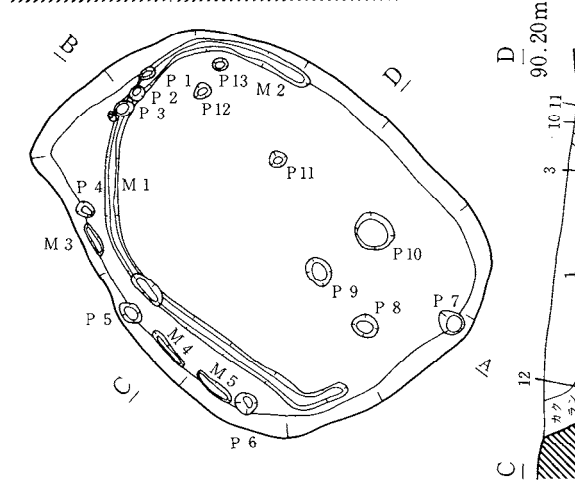
第75号竪穴住居跡ピット計測値

番号	開口部径	深さ
P 1	30×18	17
P 2	22×12	19
P 3	18×16	42
P 4	48×22	29
P 5	32×18	30
P 6	38×23	43
P 7	26×10	17
P 8	23×13	17
P 9	23×15	36
P 10	17×16	48
P 11	35×13	57
P 12	26×14	56
P 13	21×17	38
P 14	22×16	44
P 15	14×13	22
P 16	13×10	42
P 17	20×16	62
P 18	25×14	17
P 19	19×18	42
P 20	50×18	26
P 21	21×18	39
P 22	28×26	47
P 23	22×17	23
P 24	18×13	11
P 25	21×15	19
P 26	17×11	10
P 27	14×12	28
P 28	15×12	8
P 29	15×12	11
P 30	13×13	13
P 31	15×13	22
P 32	21×17	13
P 33	16×14	27
P 34	17×12	17
P 35	12×12	27
P 36	34×32	37
P 37	18×14	31
P 38	23×20	40
P 39	18×17	28
P 40	14×11	24
P 41	18×12	57
P 42	35×17	15
P 43	41×33	17
M 1		13



第75号住居跡土層注記

- 1層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石を少量含む。
- 2層 黒褐色土 10YR2/3 中頻浮石・南部浮石を微量含む。
- 3層 暗褐色土 10YR3/4 粘性あり。壁土(X層)の崩落土。
- 4層 黒褐色土 10YR2/3 しまりのある土。
- 5層 黒褐色土 10YR2/2 壁柱穴覆土。



第76号竪穴住居跡土層注記

- 1層 黒色土 10YR2/1 南部浮石を中量含む。
- 2層 黒褐色土 10YR2/3 南部浮石多量に含む。
- 3層 黒褐色土 10YR2/3 南部浮石少量含む。
- 4層 黒褐色土 10YR2/2
- 5層 黒色土 10YR2/1
- 6層 黒褐色土 10YR2/2 焼土ブロック含む。
- 7層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石少量含む。
- 8層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石多量含む。
- 9層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石中量含む。
- 10層 黒褐色土 10YR2/3 焼土多量に含む。
- 11層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石中量含む。
- 12層 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック。

0 方位は全て上が北 2m

図19 第75・76号住居跡

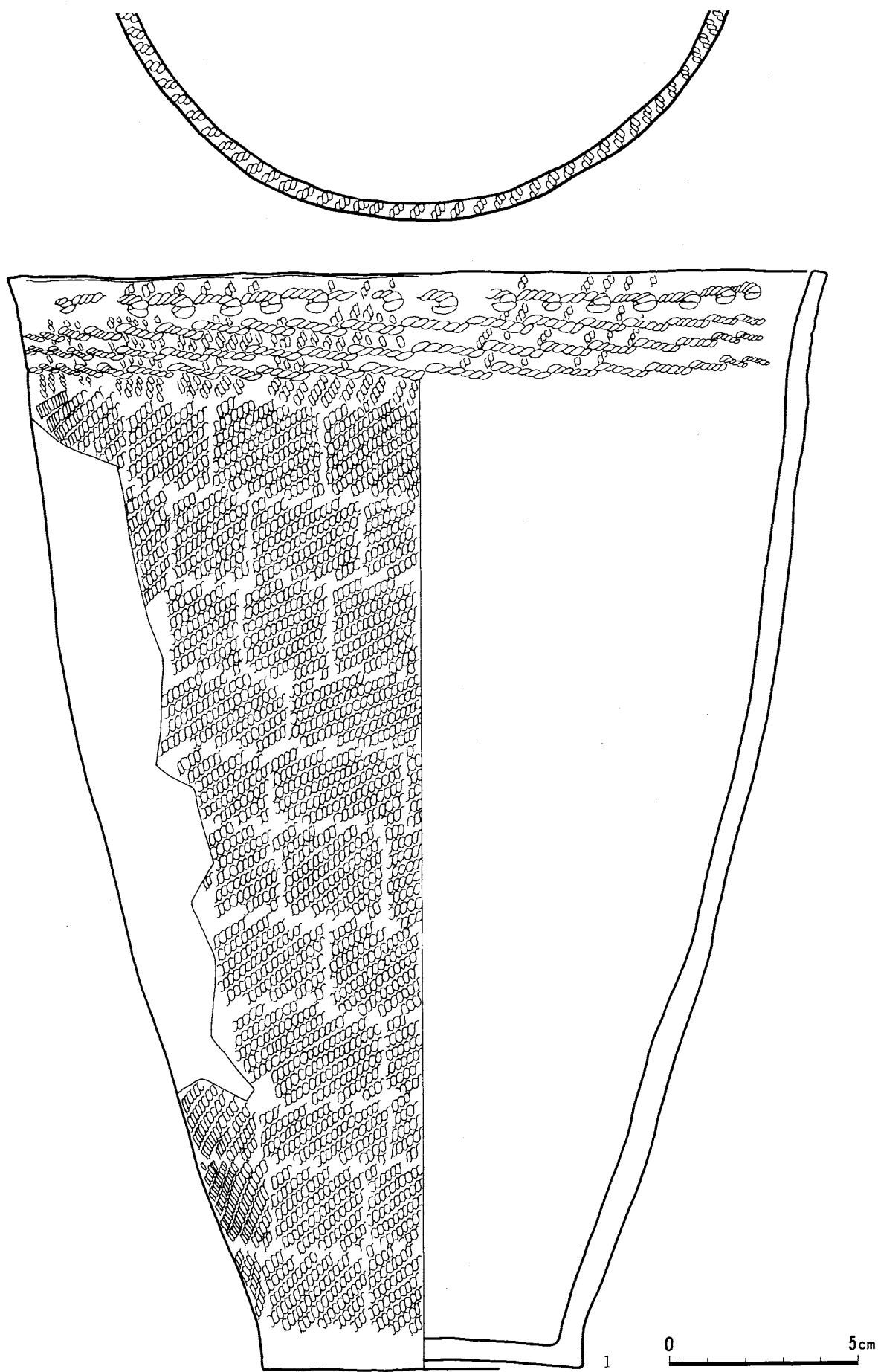


图20 第55号竖穴住居跡出土遺物①

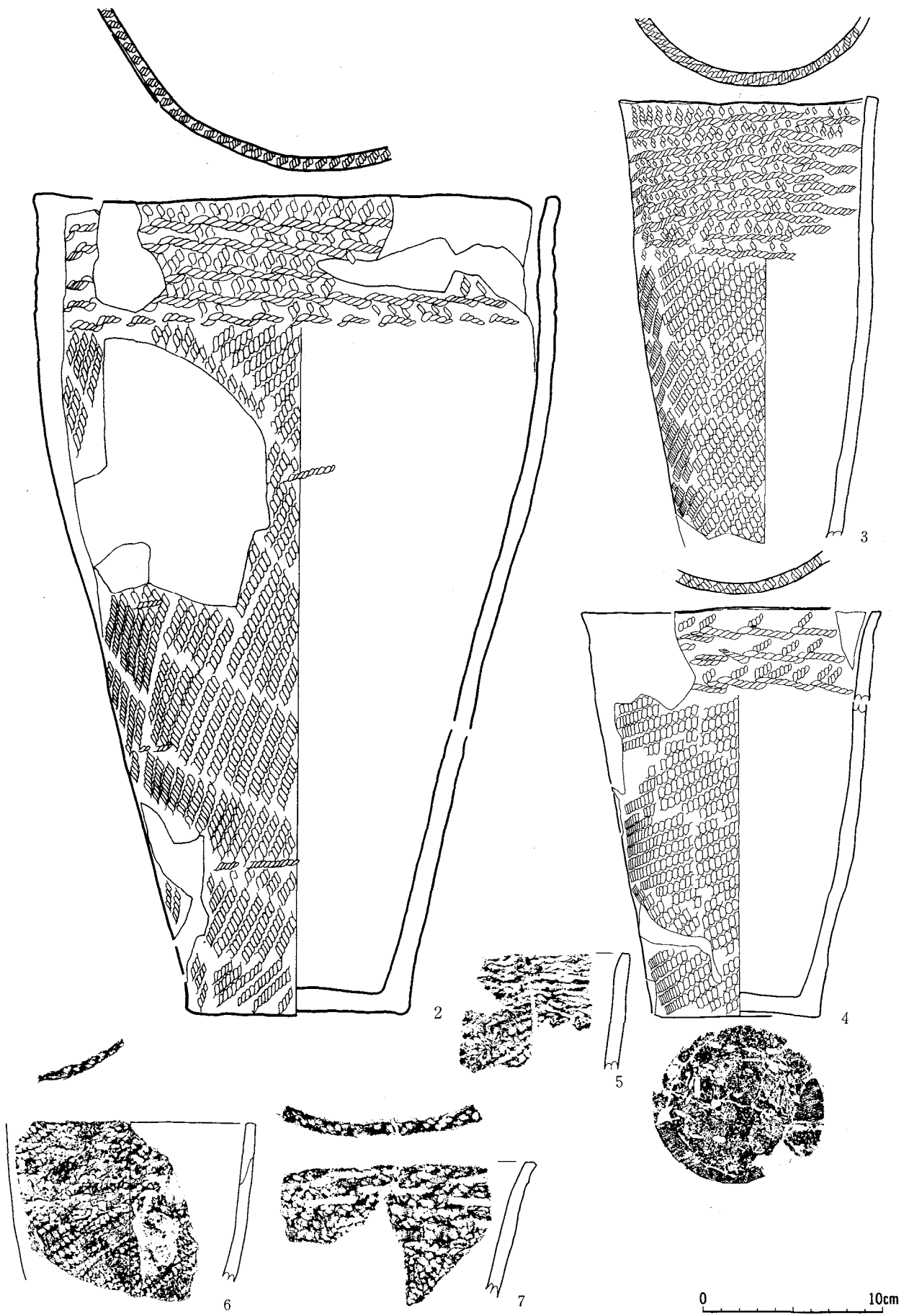


图21 第55号竖穴住居迹出土遺物②



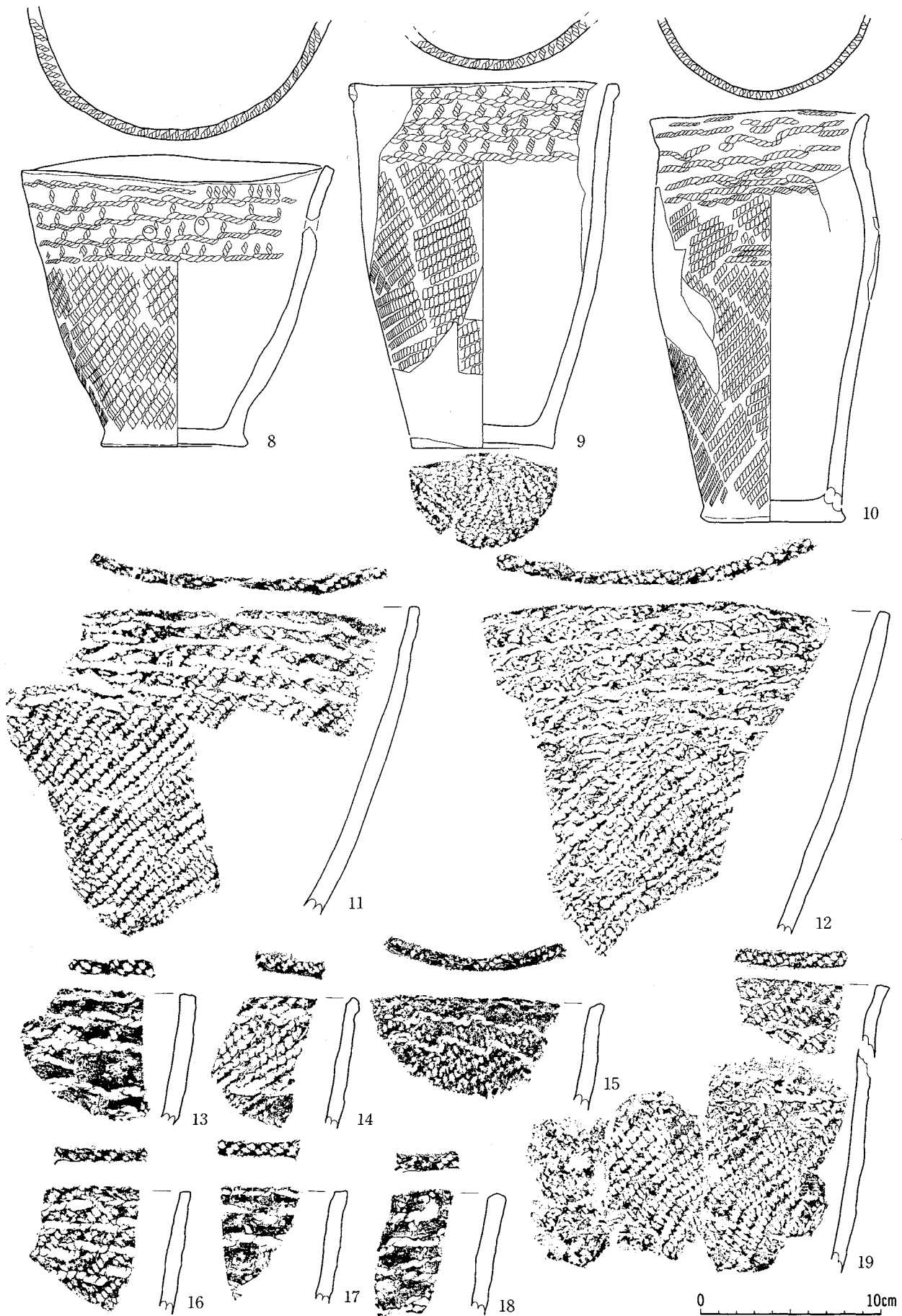


图22 第55号竖穴住居跡出土遺物③

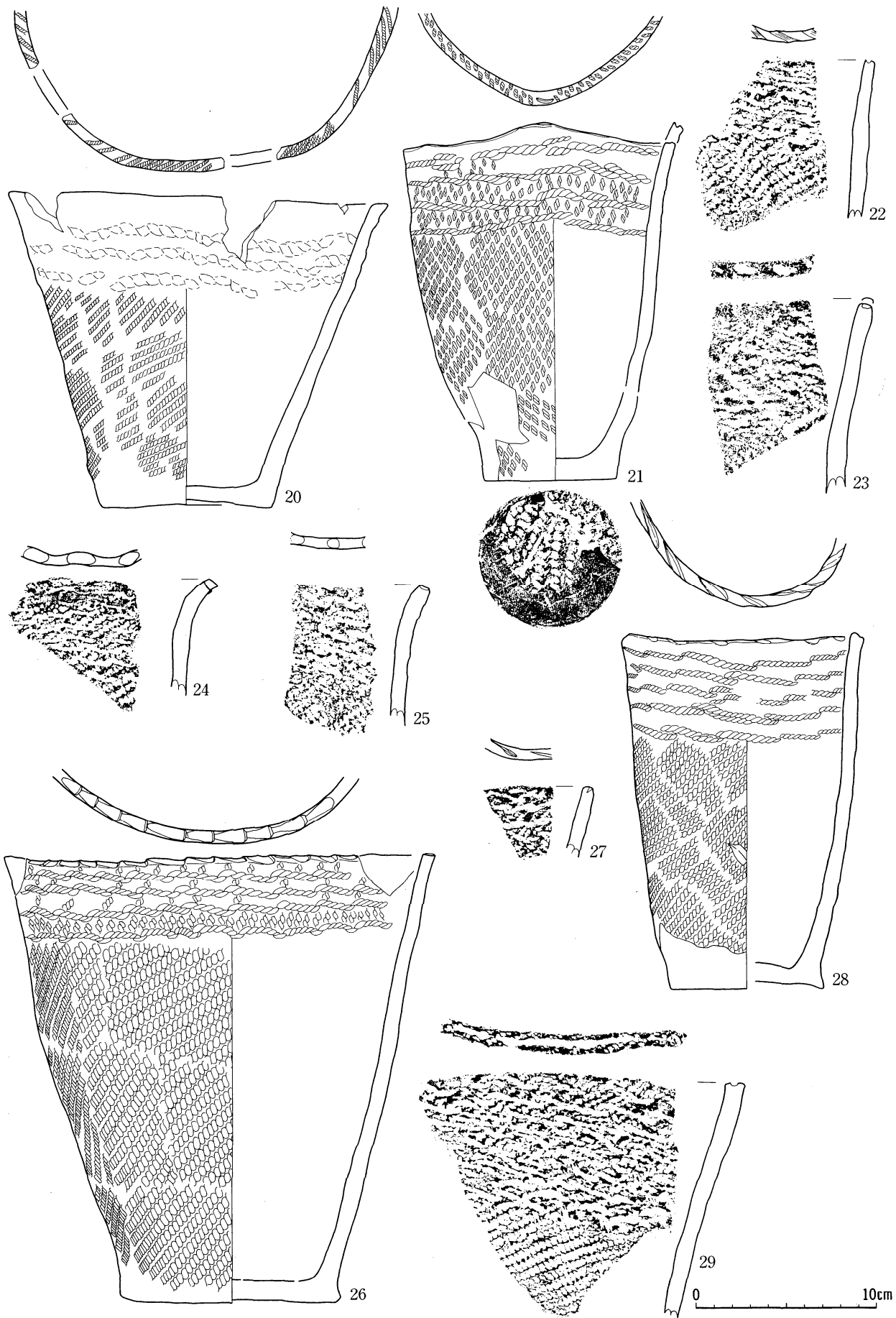


图23 第55号竖穴住居迹出土遗物④

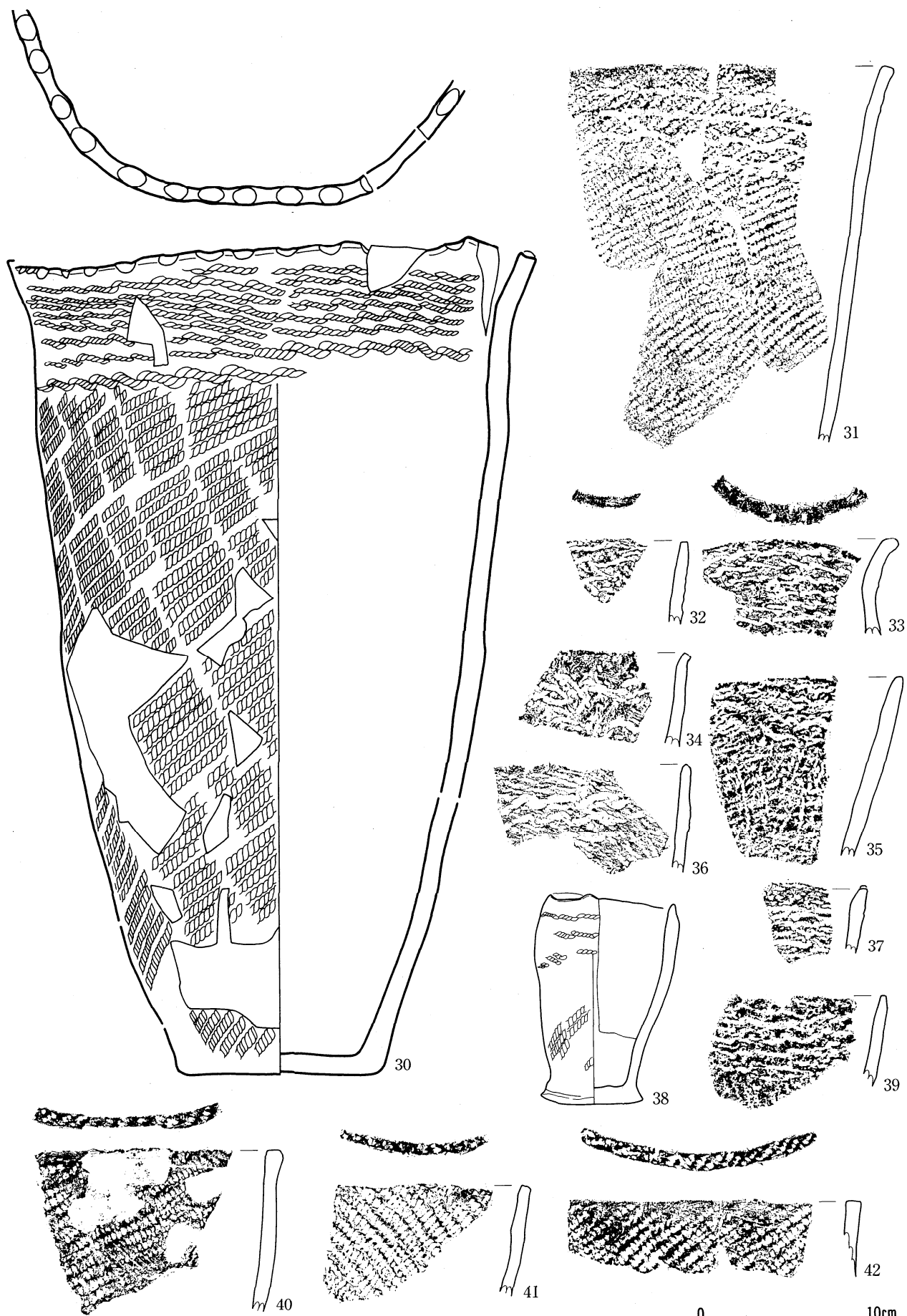


图24 第55号竖穴住居跡出土遺物⑤

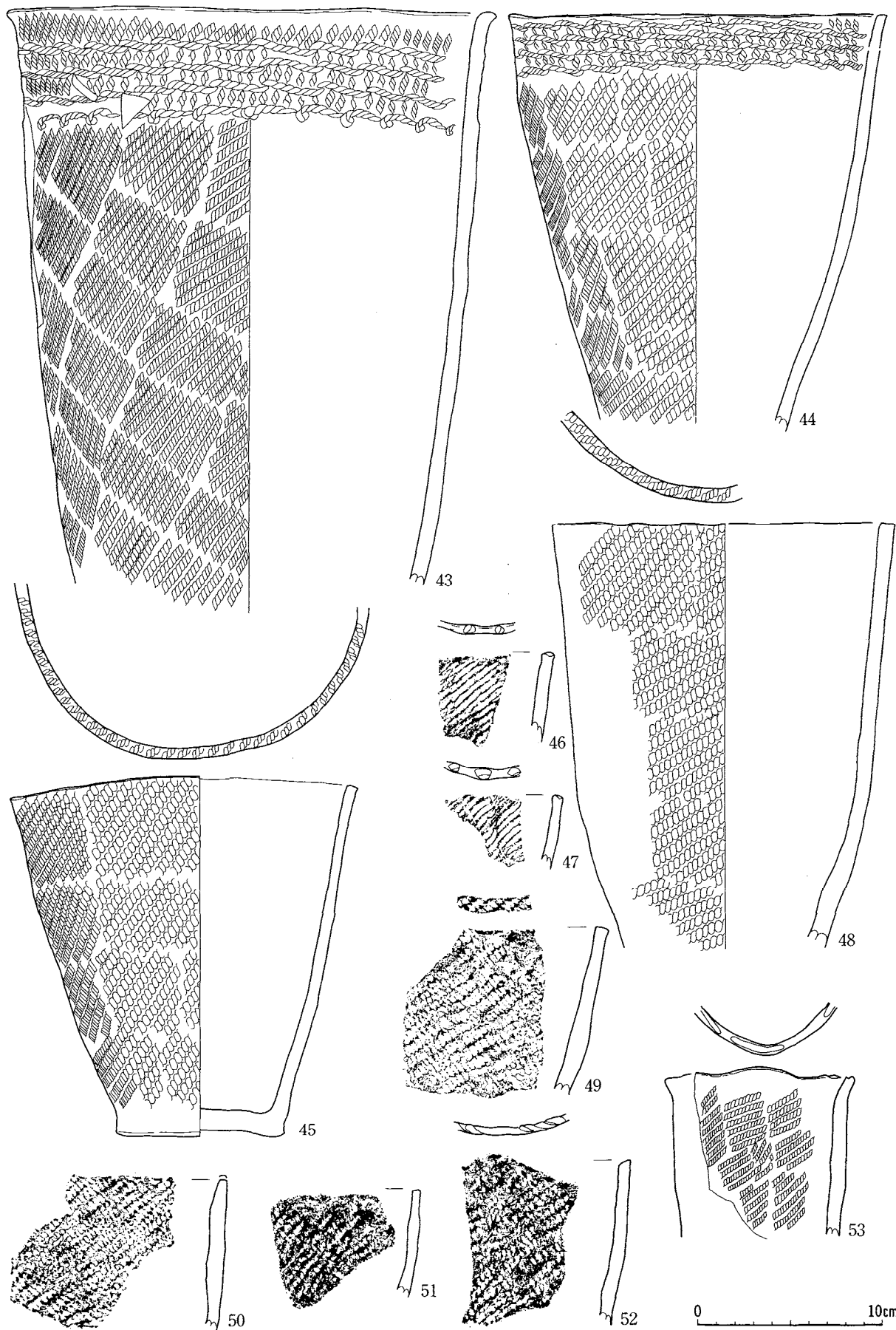


图25 第55号竖穴住居跡出土遺物⑥

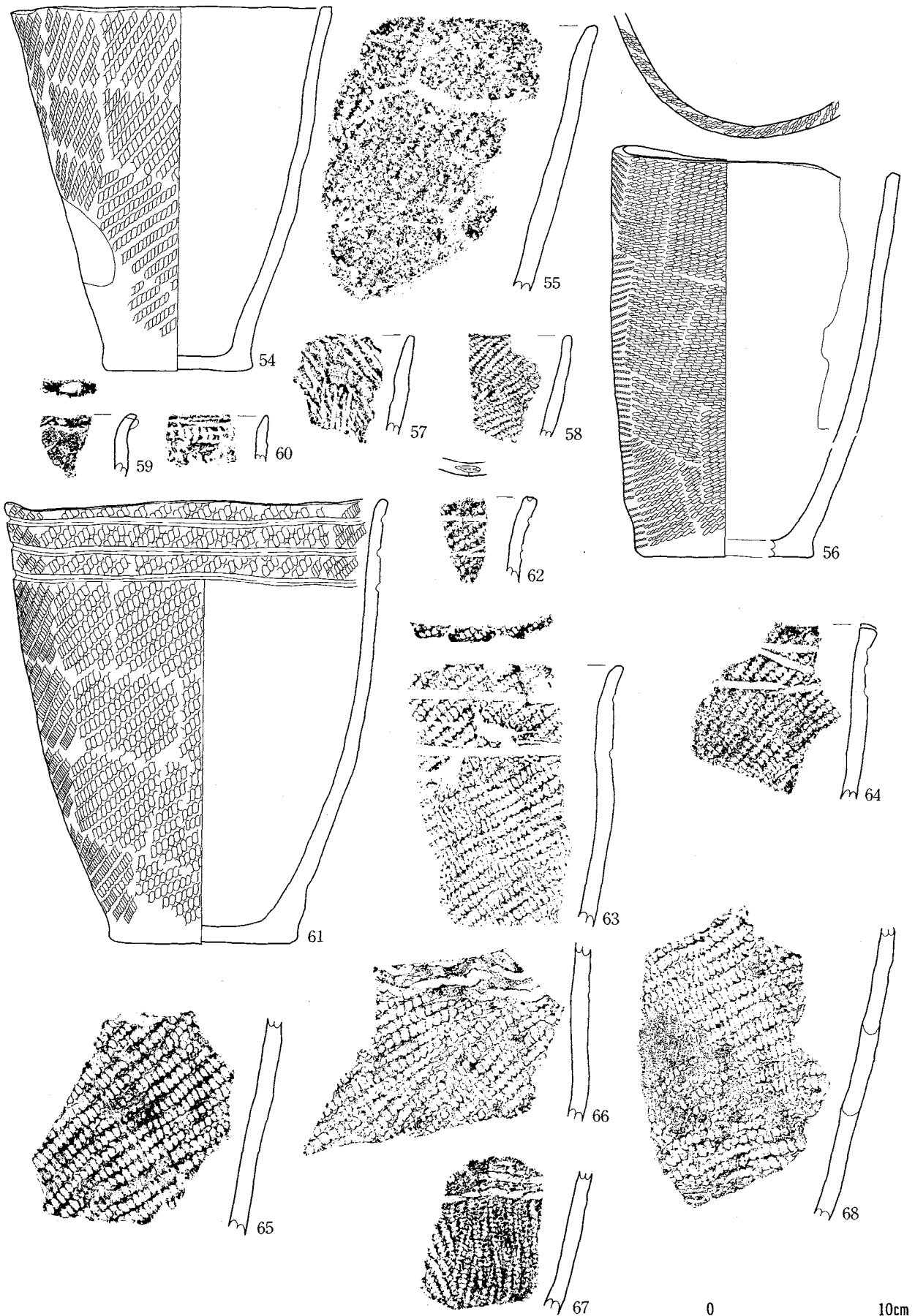


图26 第55号豎穴住居跡出土遺物⑦

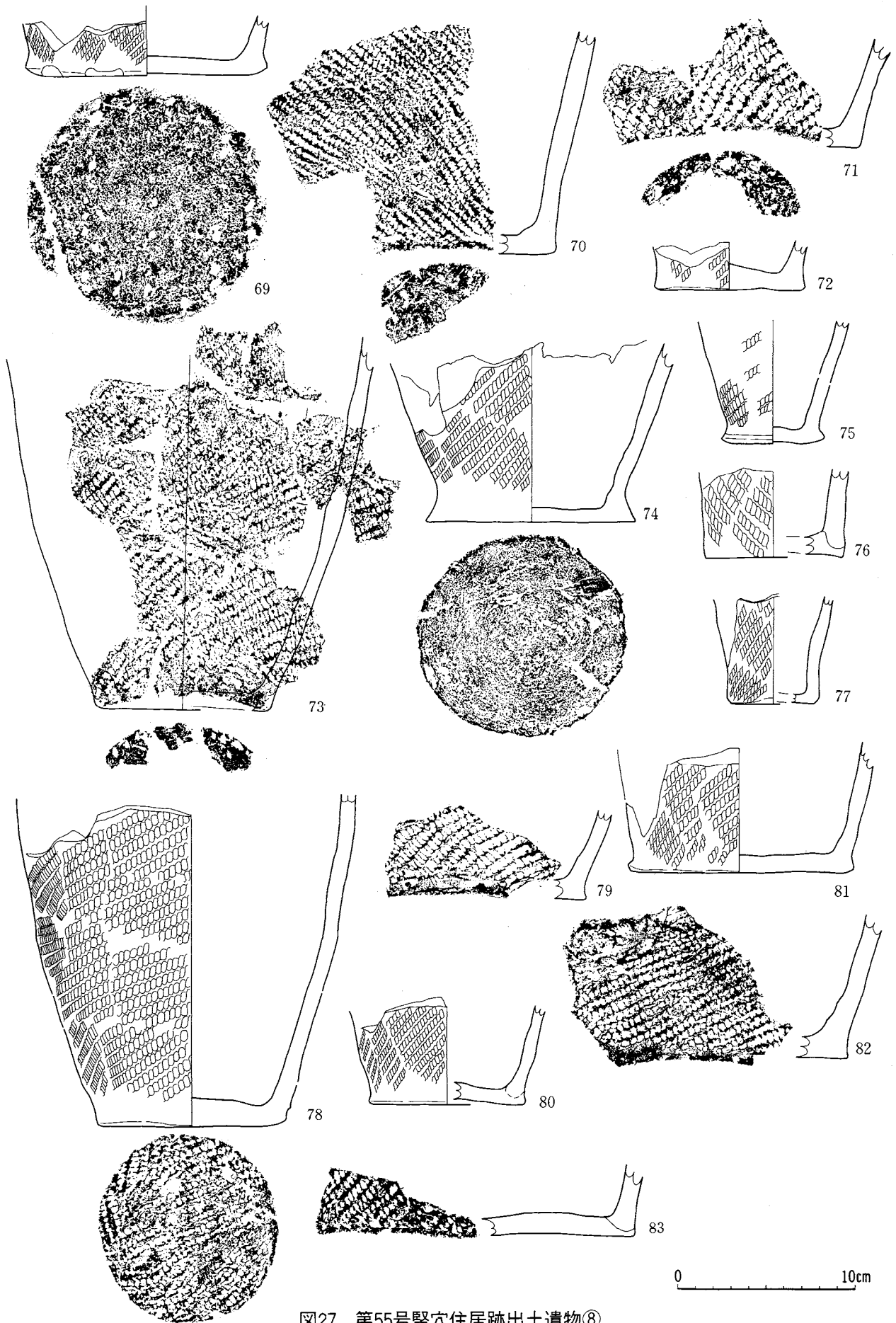


图27 第55号竖穴住居迹出土遗物⑧

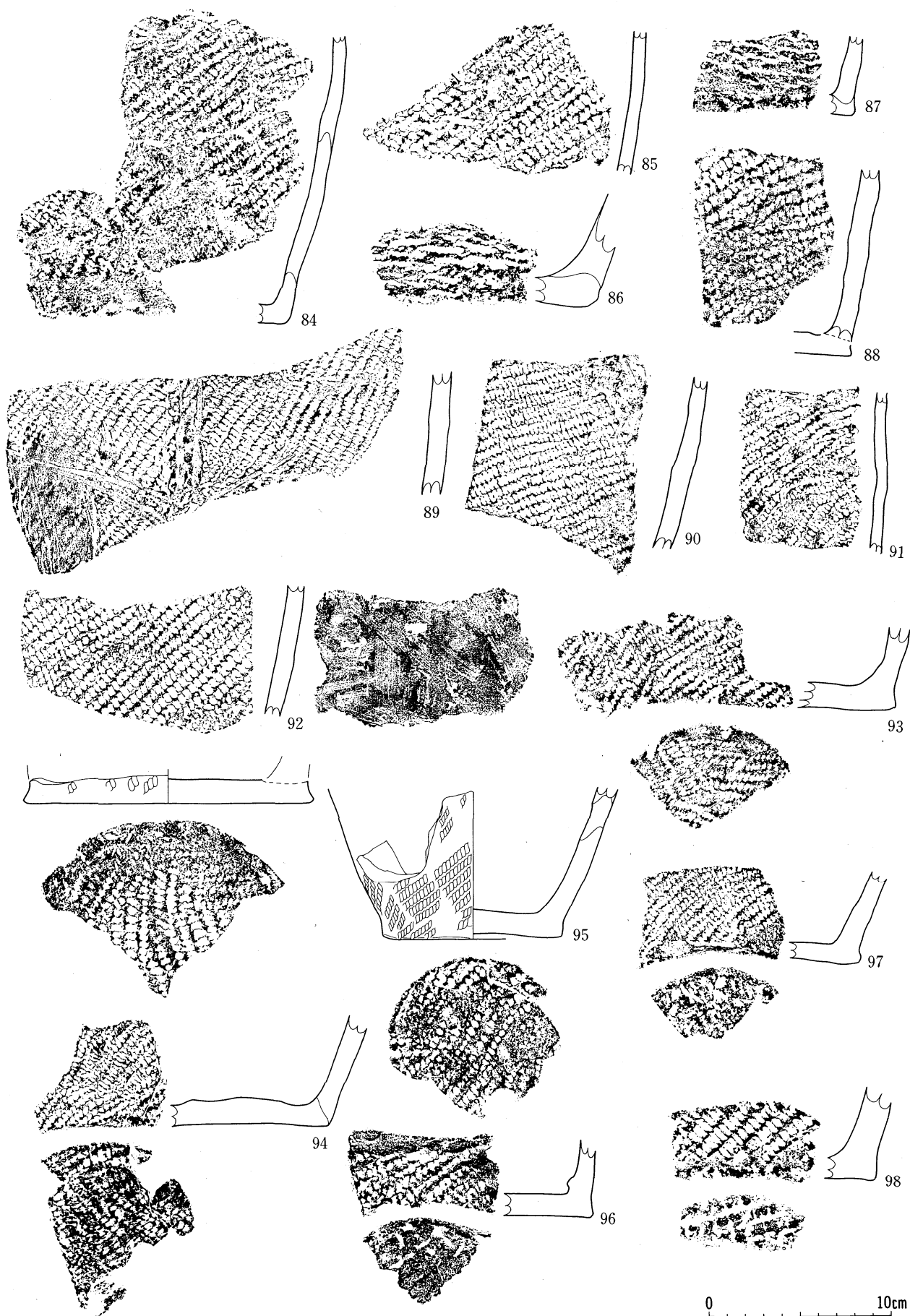


图28 第55号竖穴住居迹出土遺物⑨



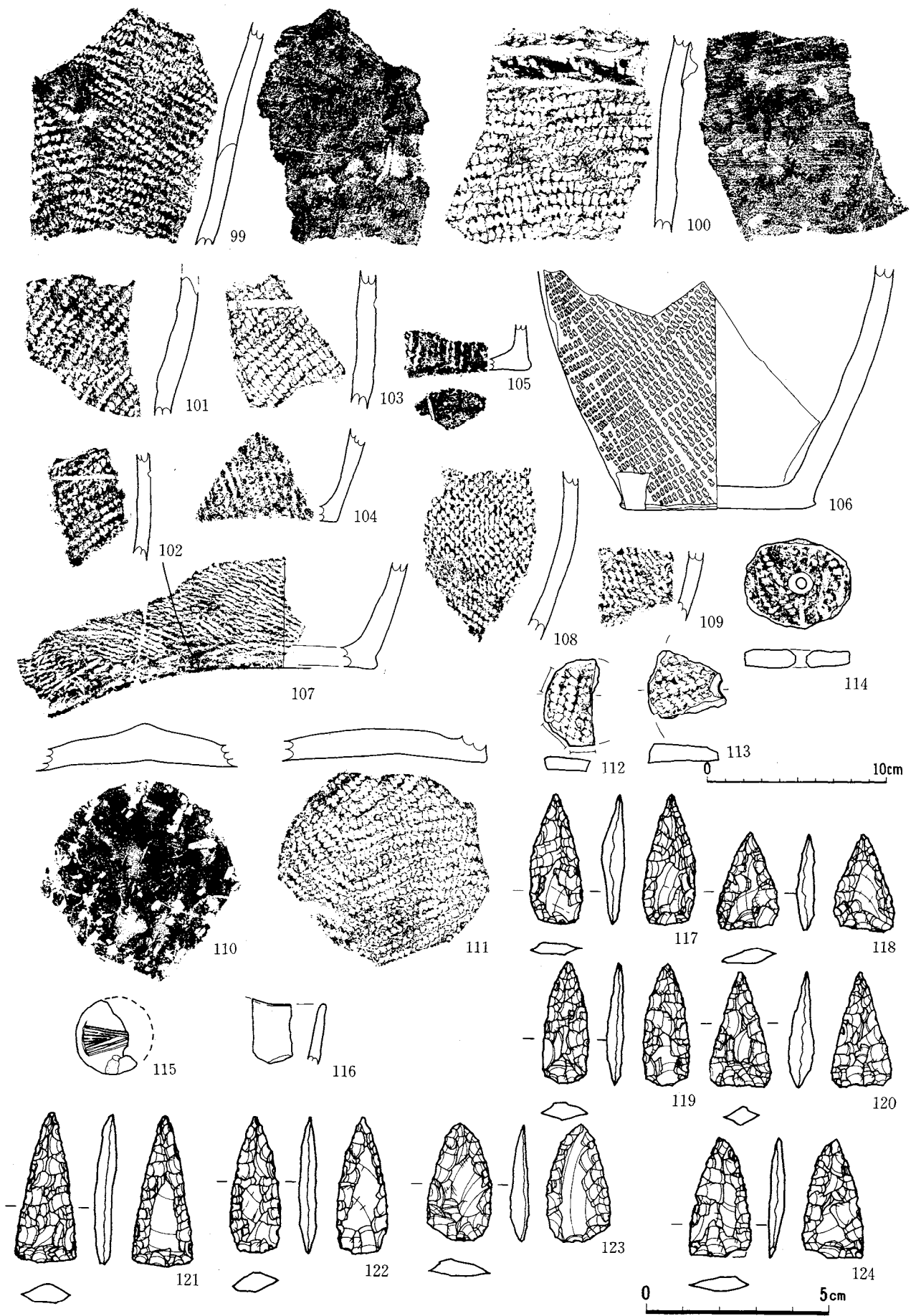


图29 第55号竖穴住居跡出土遺物⑩

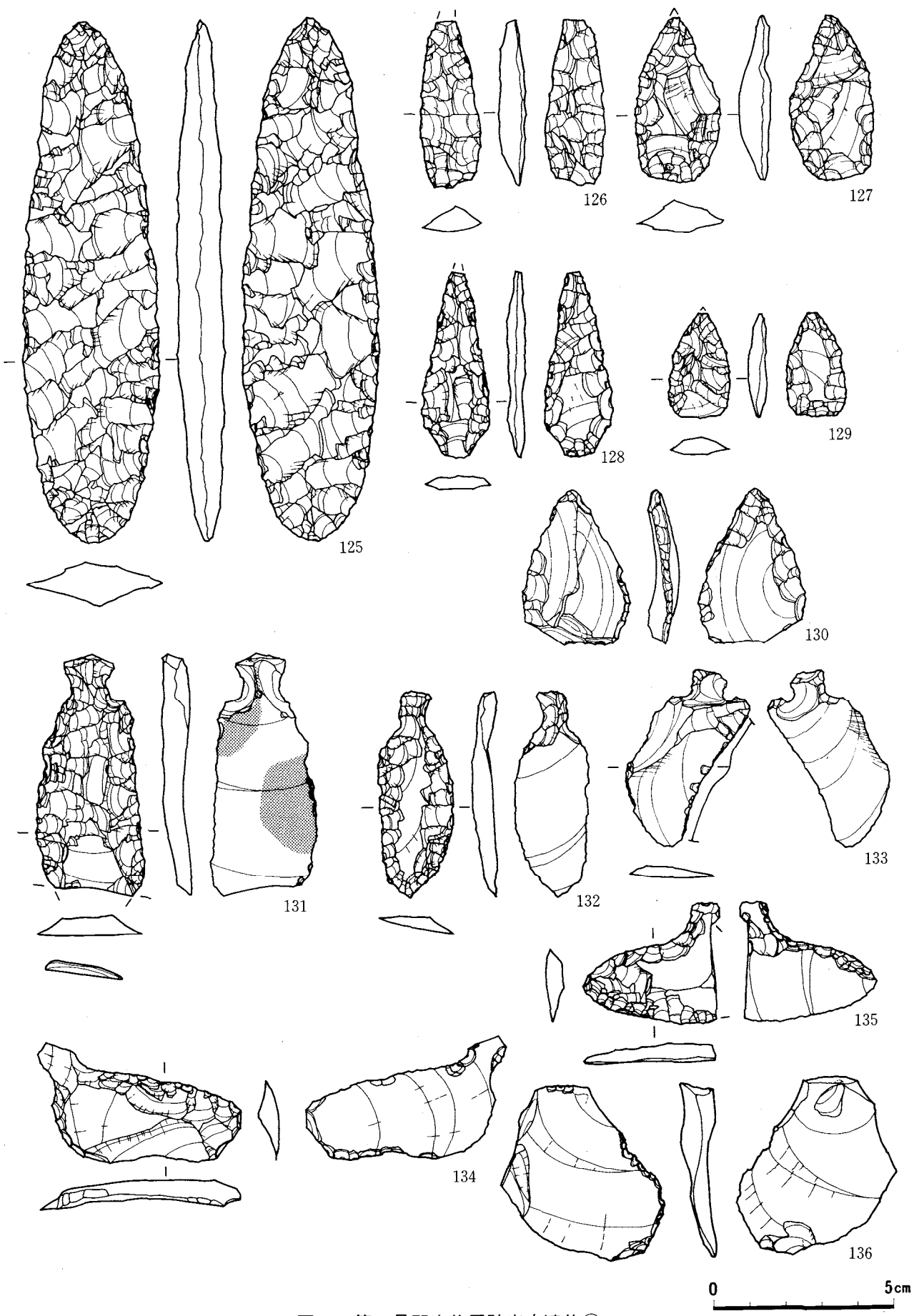


图30 第55号竖穴住居跡出土遺物①

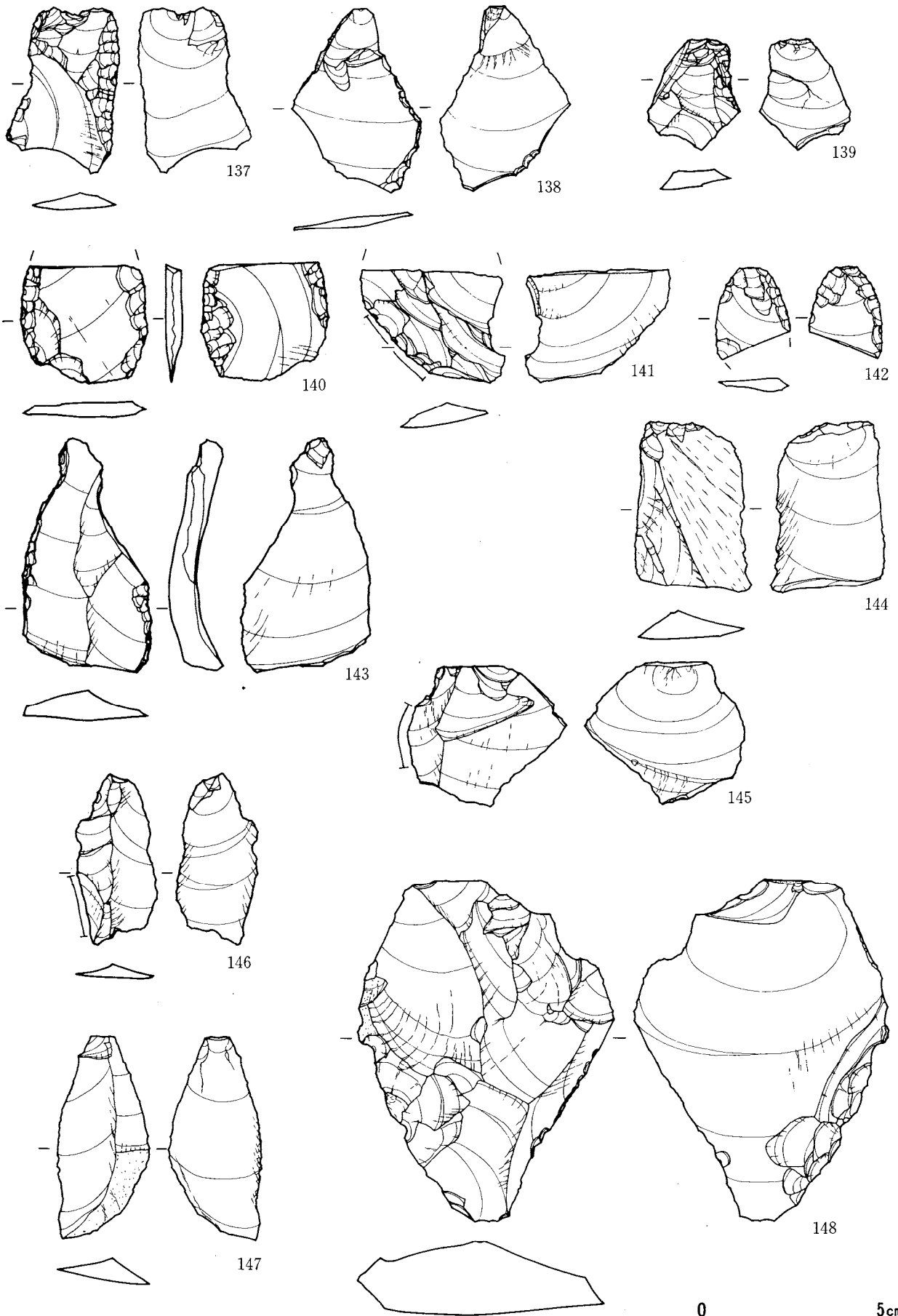


图31 第55号竖穴住居跡出土遺物⑫

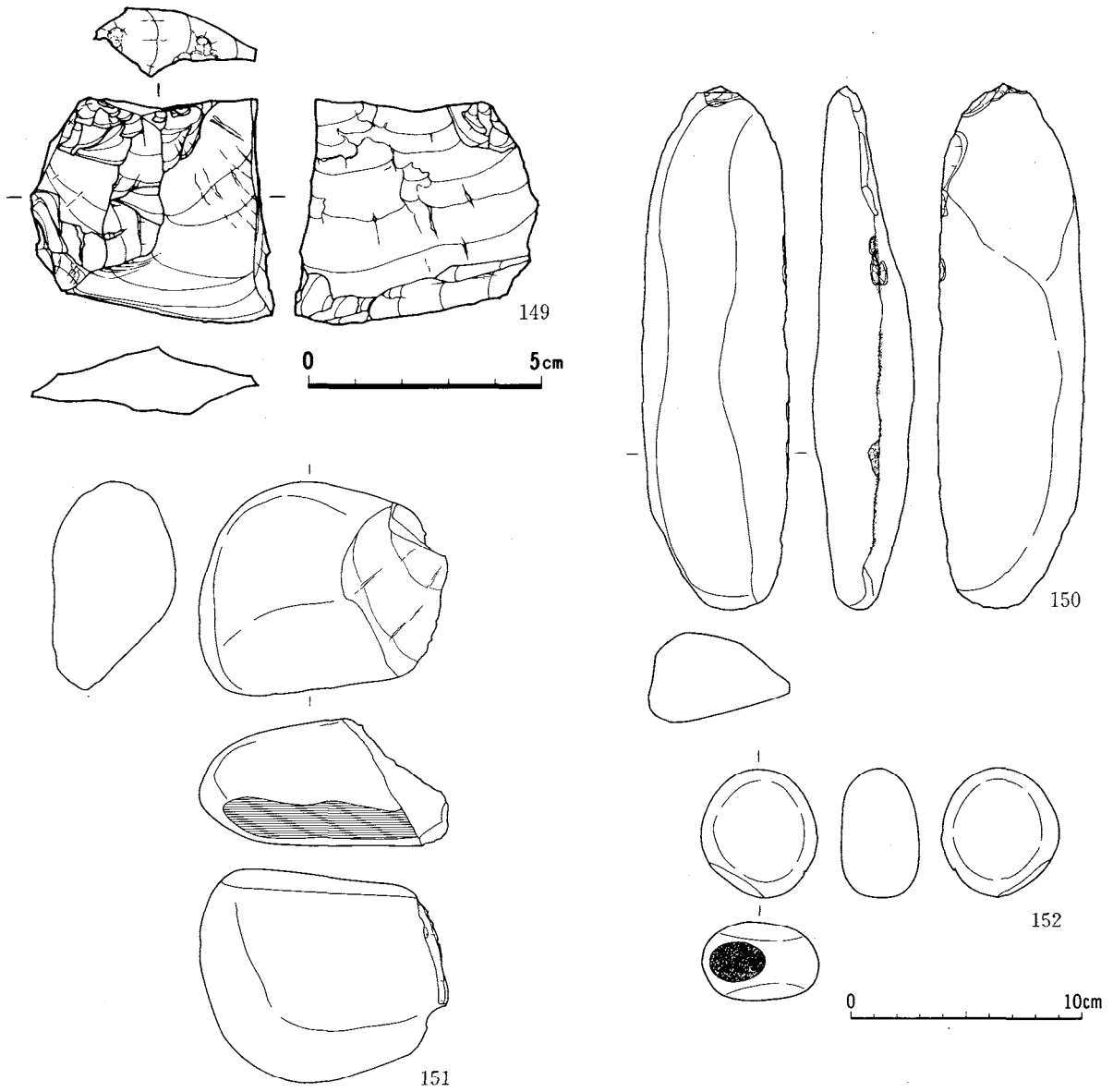


图32 第55号竖穴住居跡出土遺物⑬

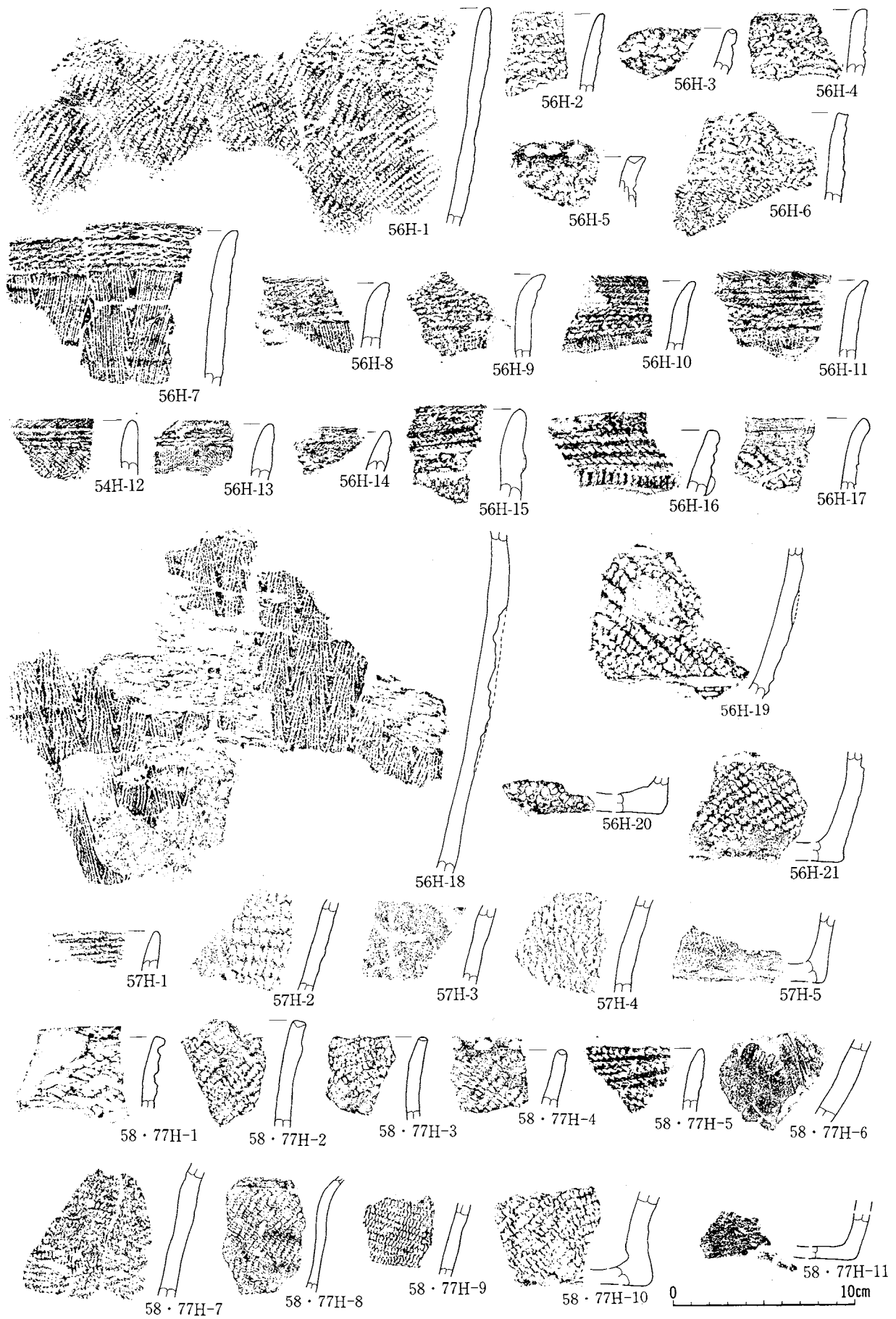


图33 第56·57·58·77号竖穴住居迹出土土器

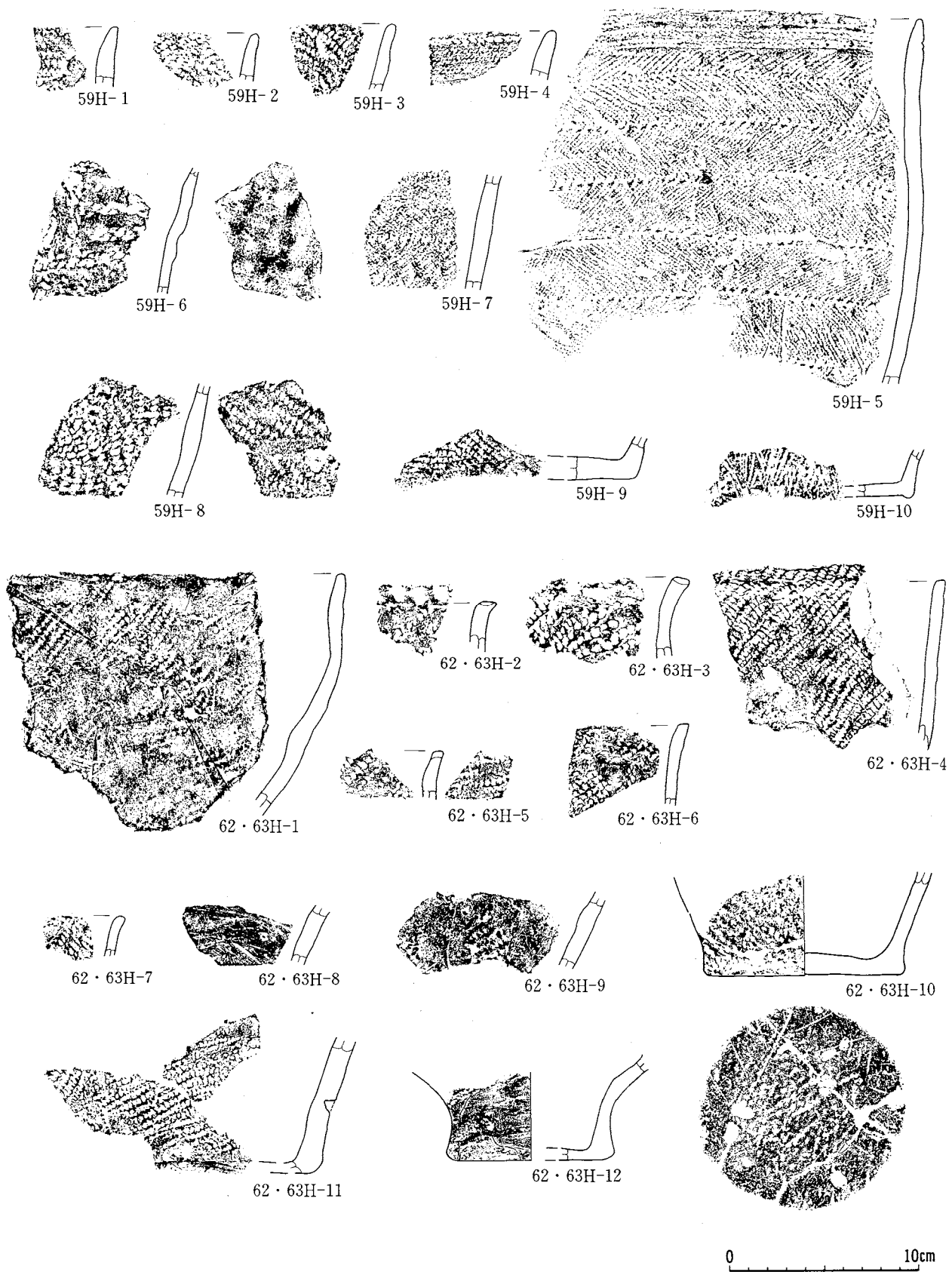


图34 第59·62·63号竖穴住居迹出土土器

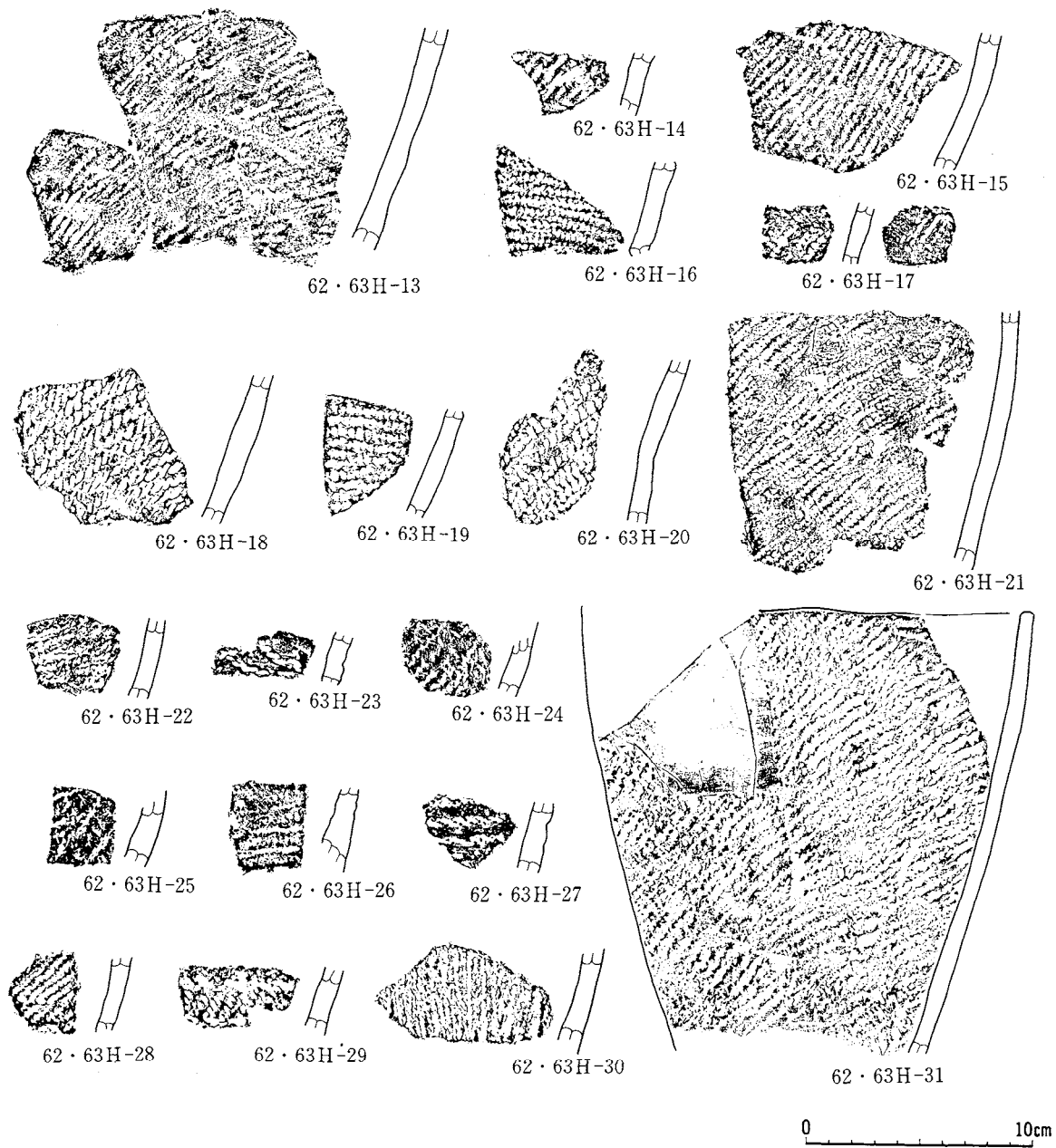
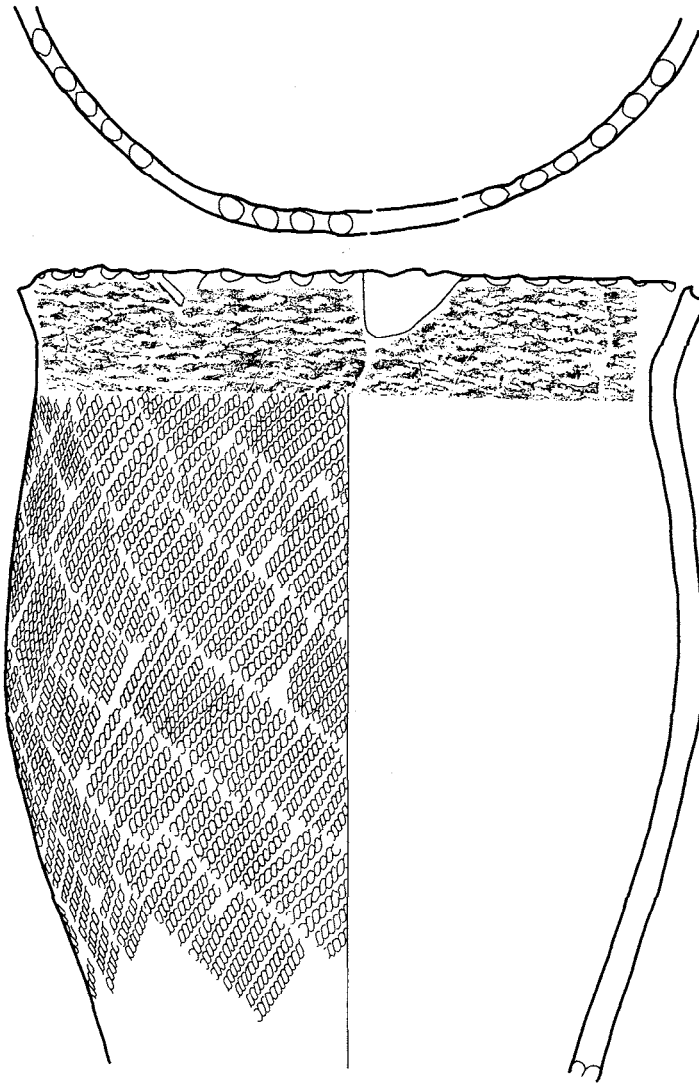


图35 第62·63号竖穴住居迹出土土器



62·63H-32

0 10cm

图36 第62·63号竖穴住居迹出土土器



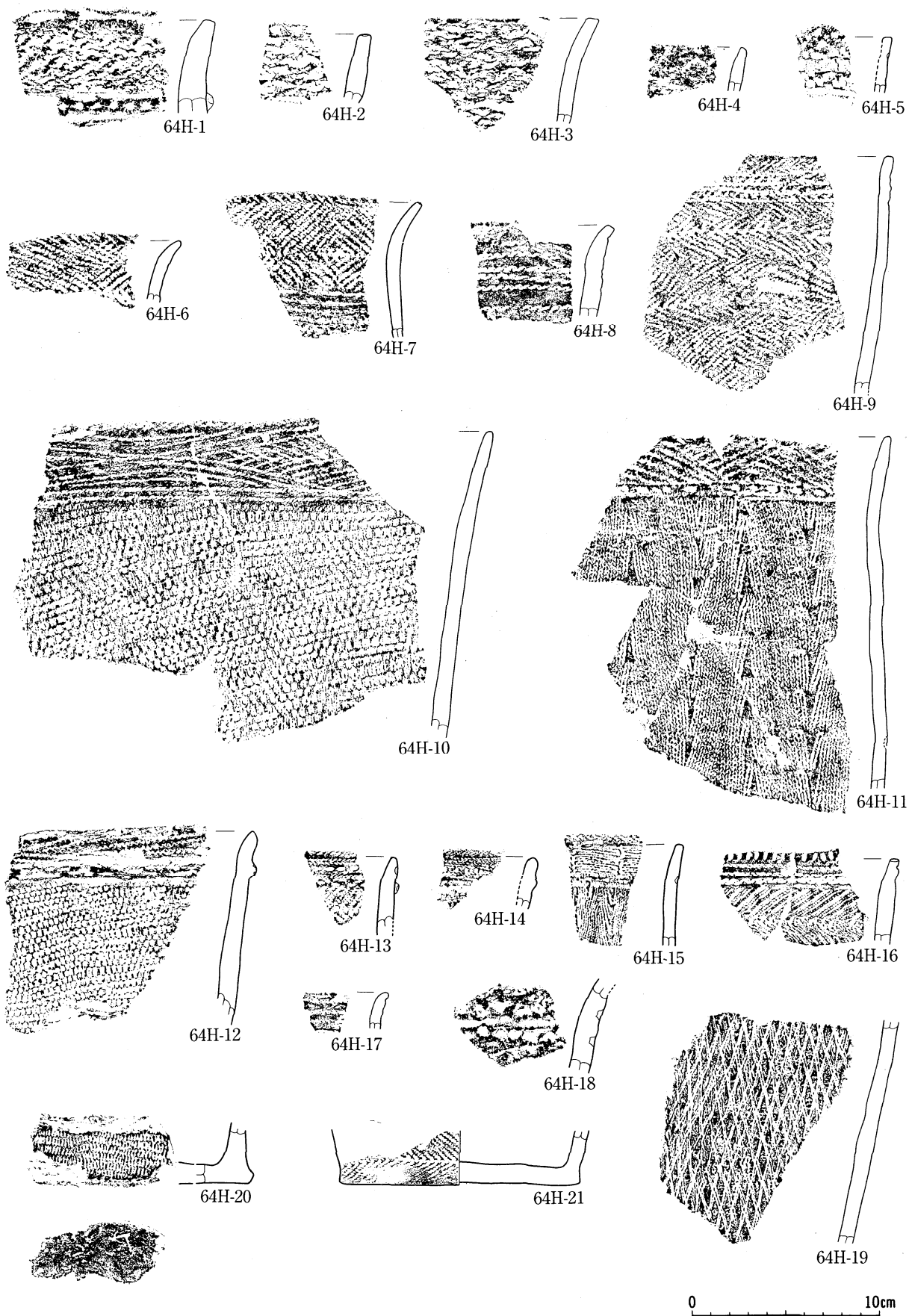


图37 第64号竖穴住居迹出土土器

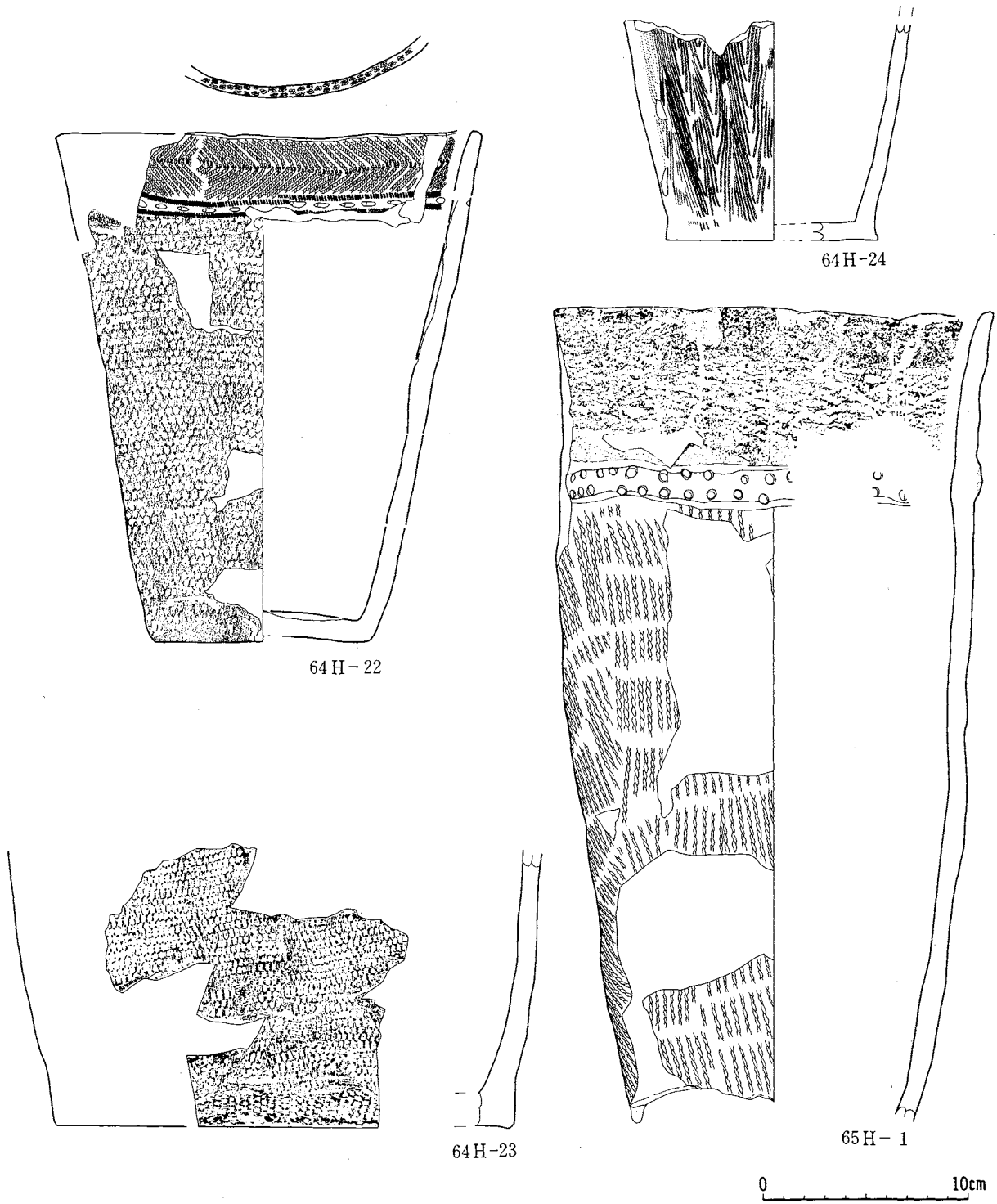


图38 第64·65号竖穴住居迹出土土器

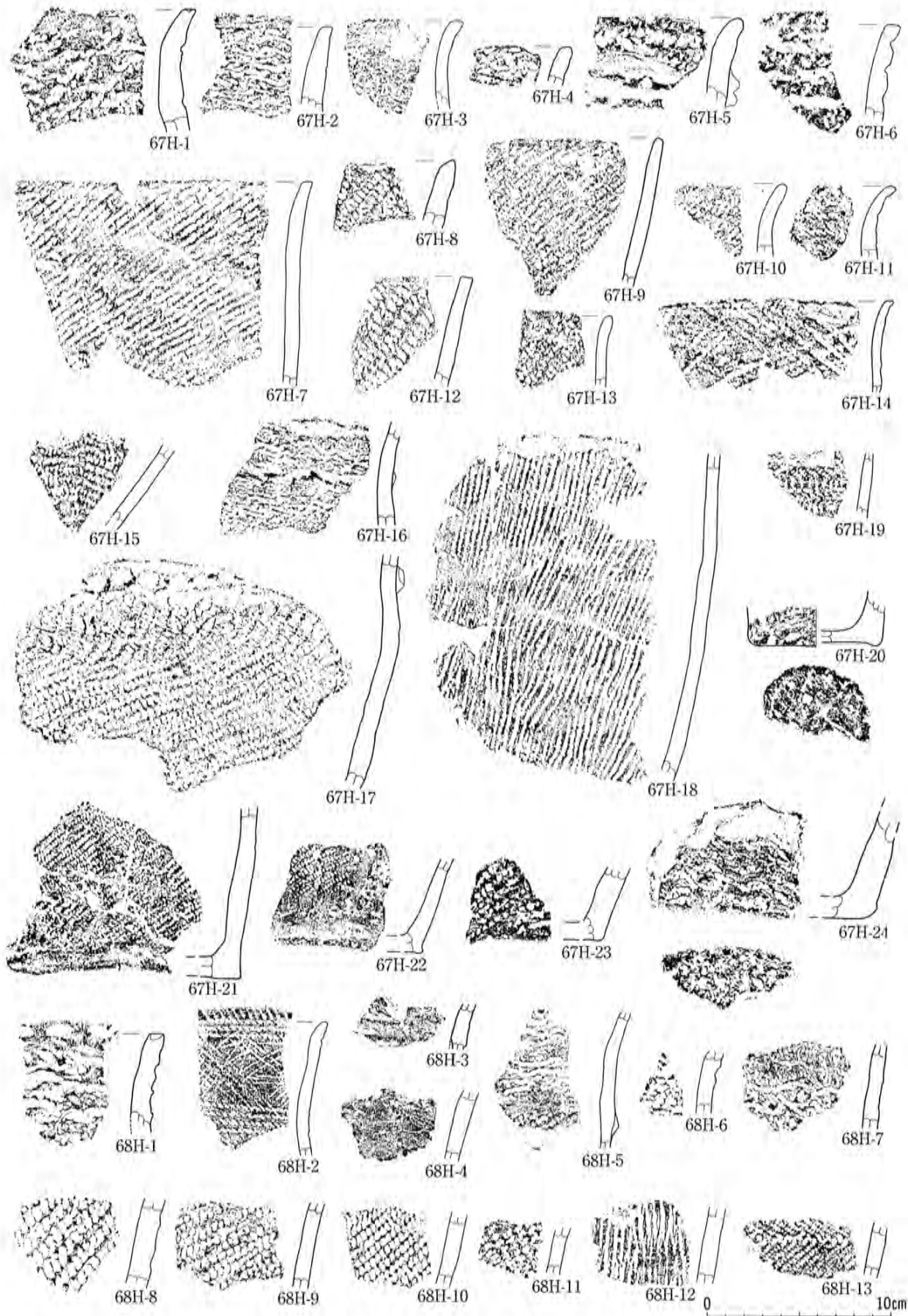


图39 第67·68号竖穴住居跡出土土器

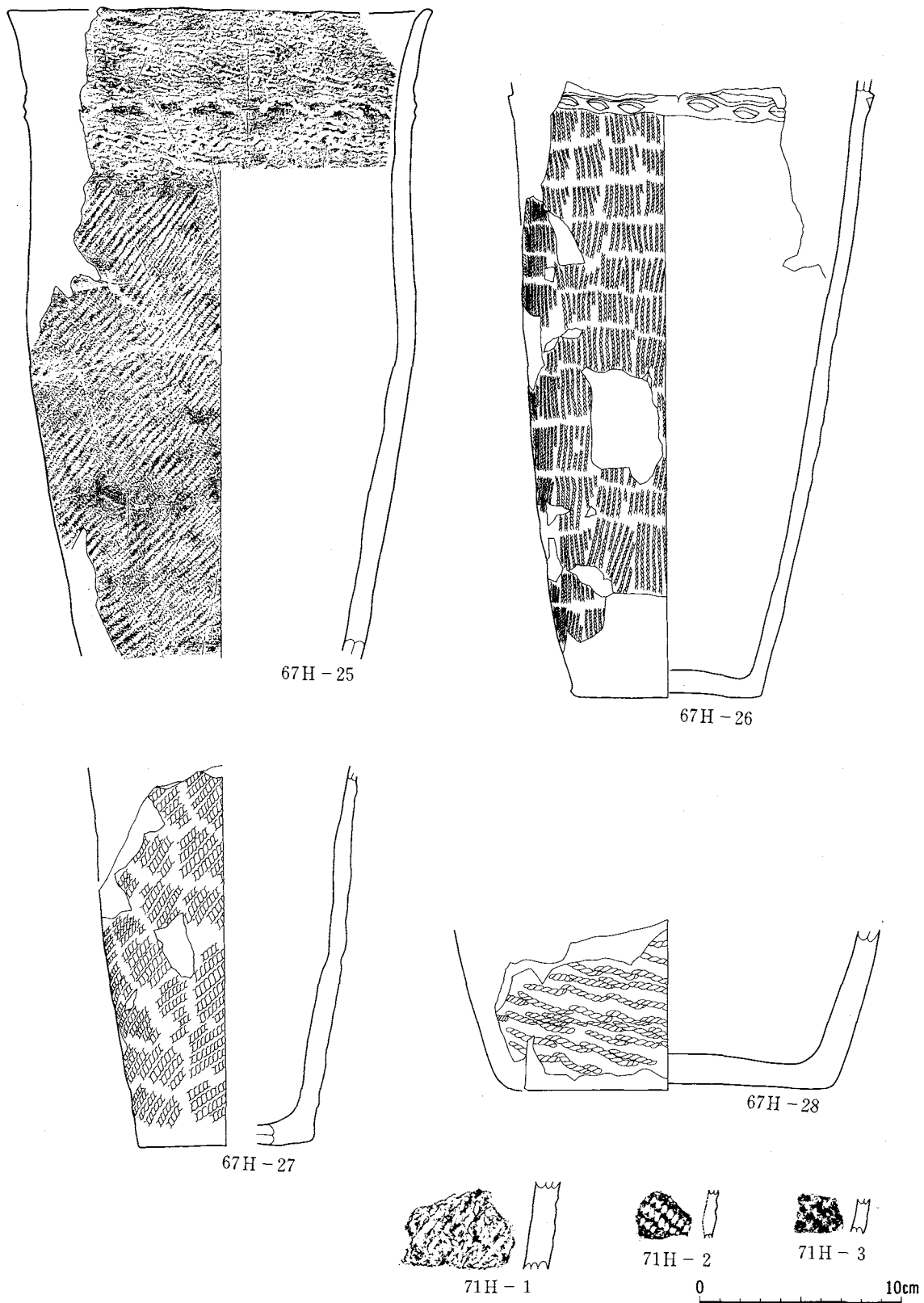


图40 第67·71号竖穴住居迹出土土器

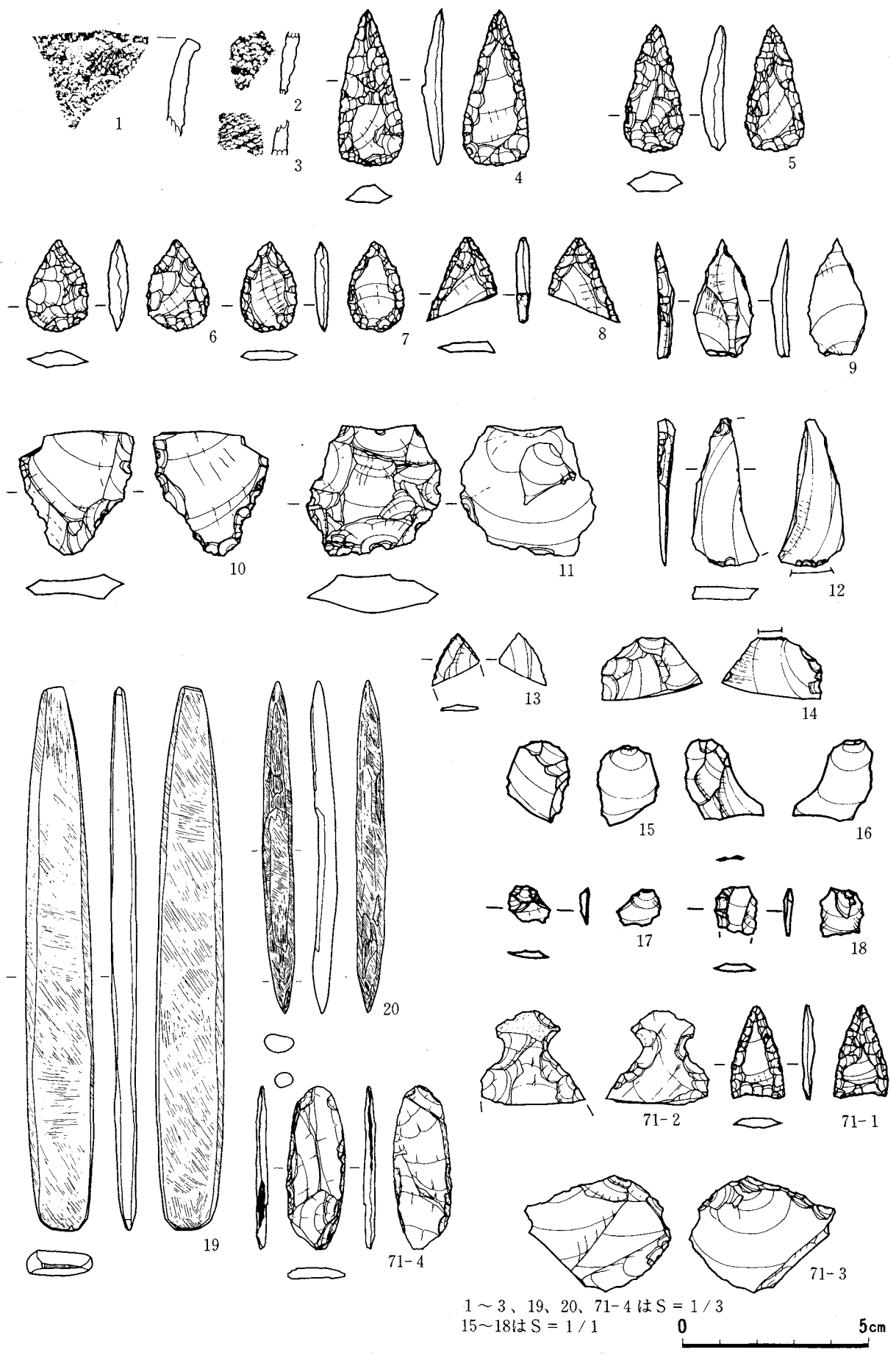


図41 第70・71号住居跡出土遺物①

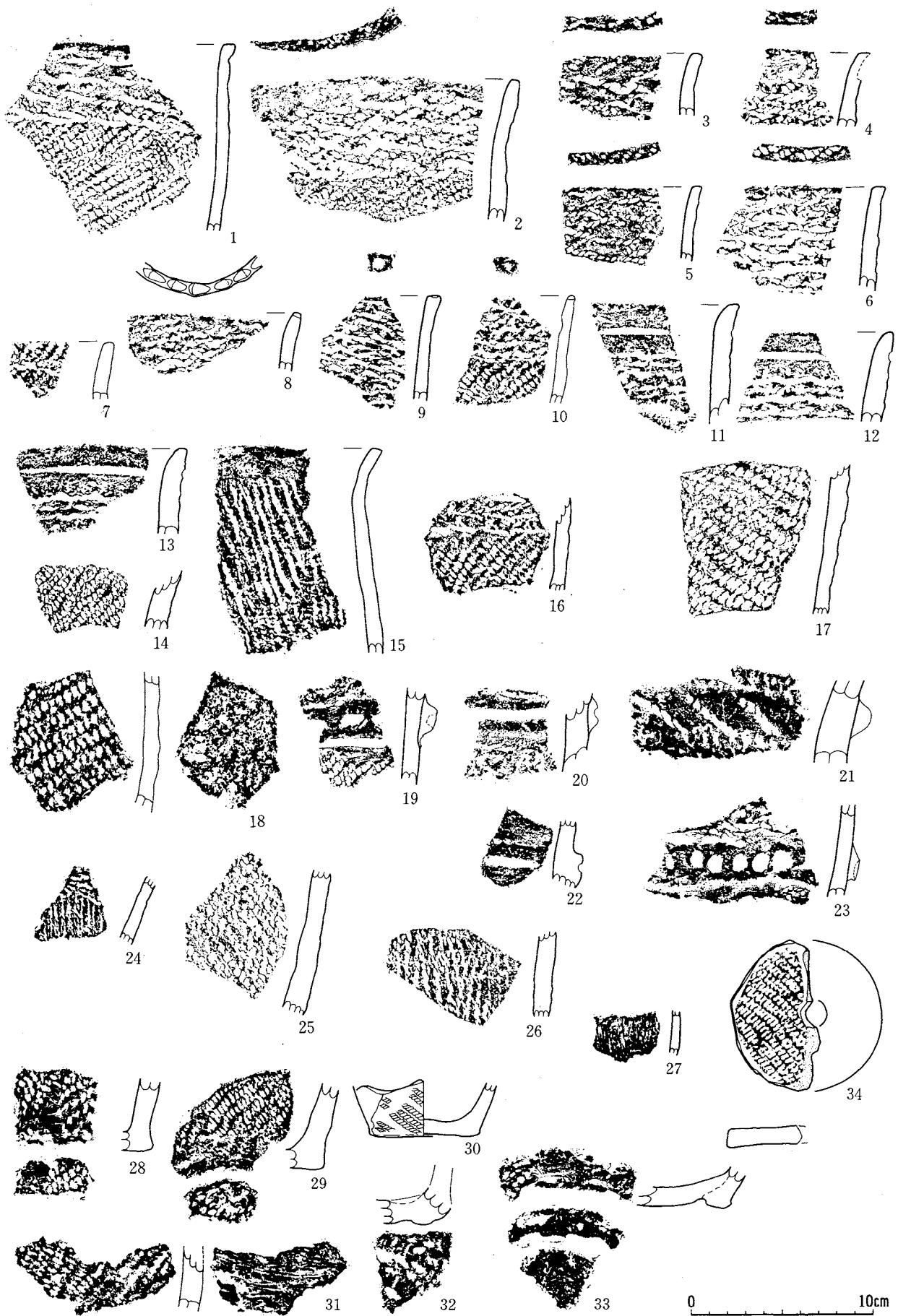


图42 第73号竖穴住居跡出土遺物①

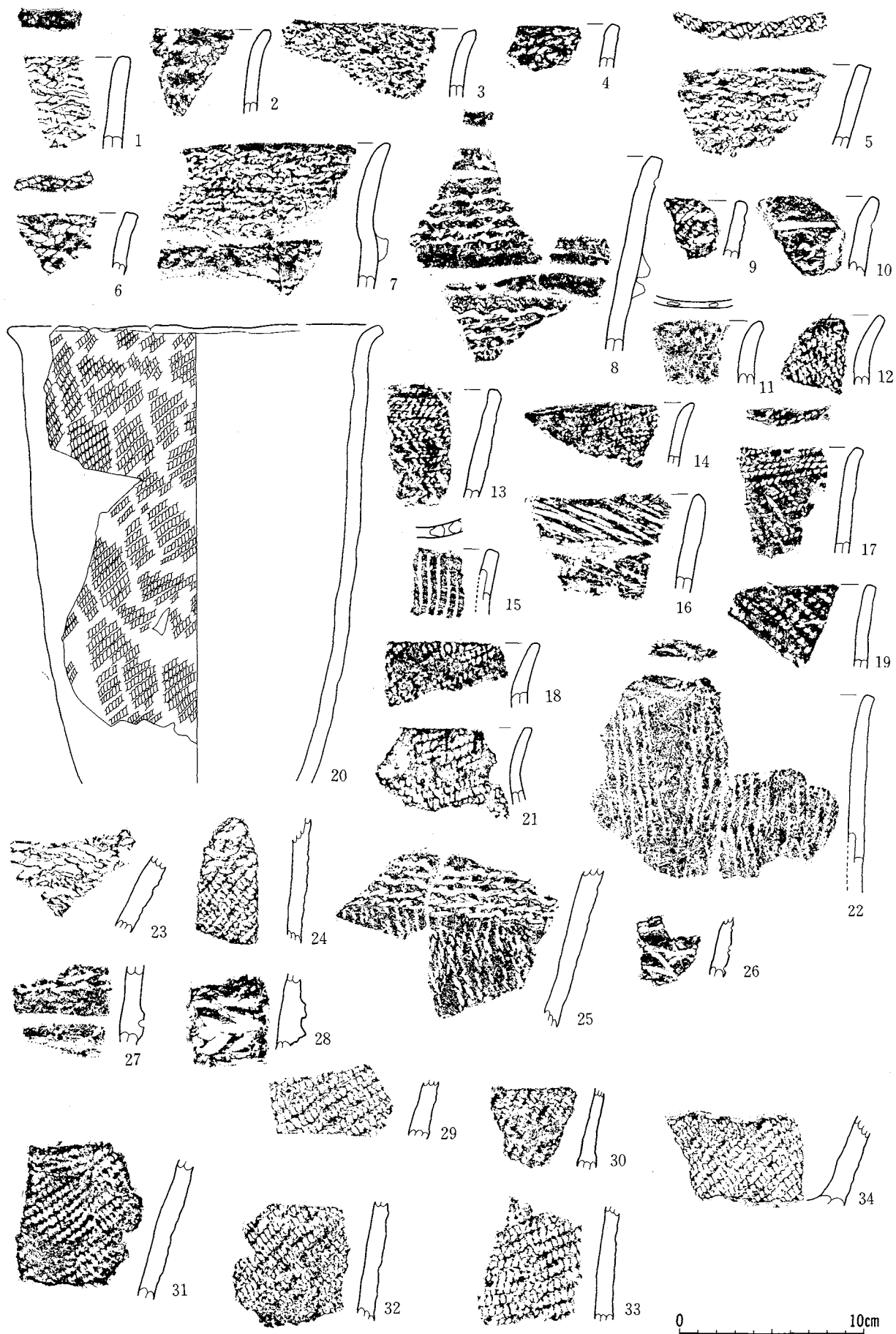


图43 第76号竖穴住居跡出土遺物①

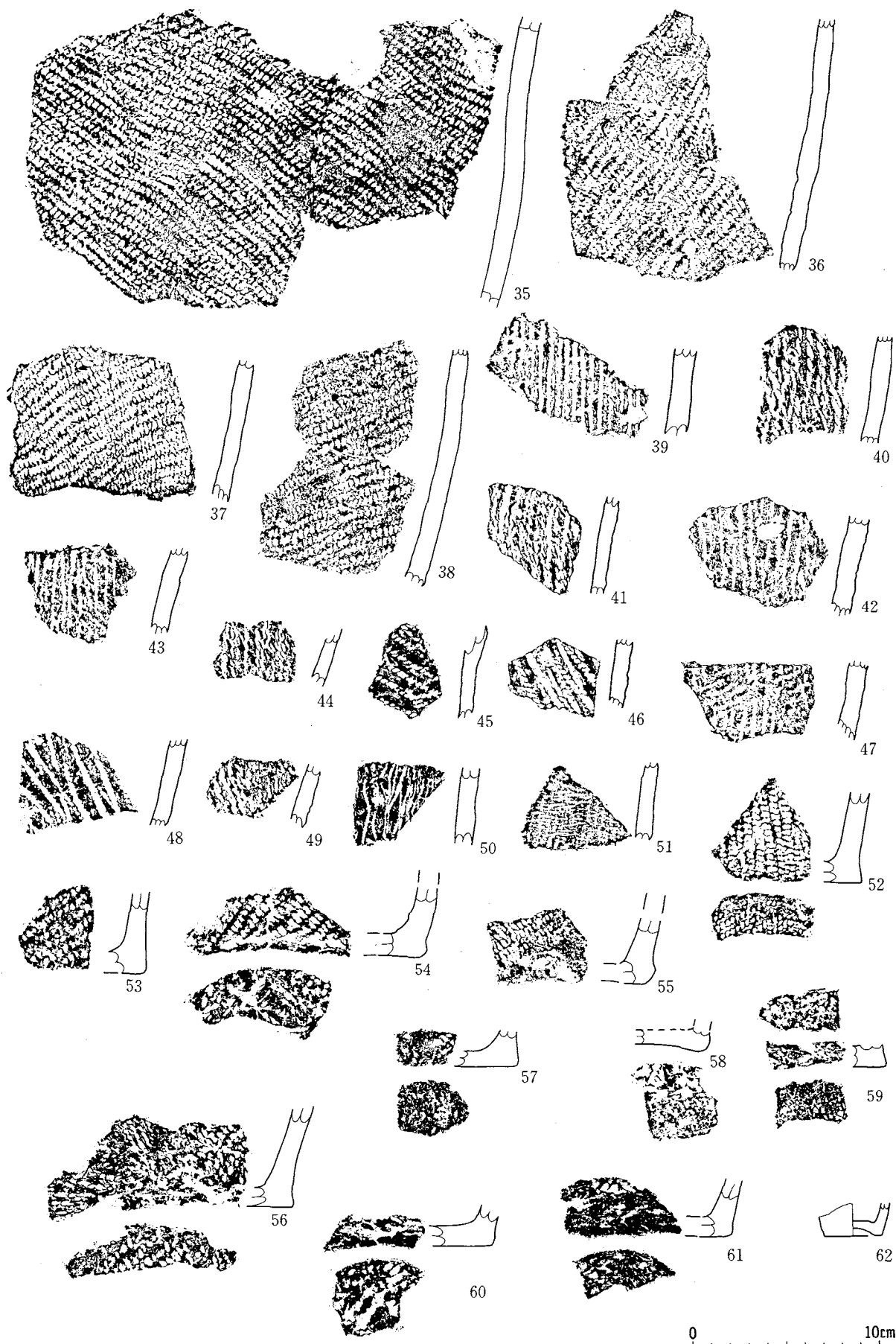


图44 第76号竖穴住居跡出土遺物②



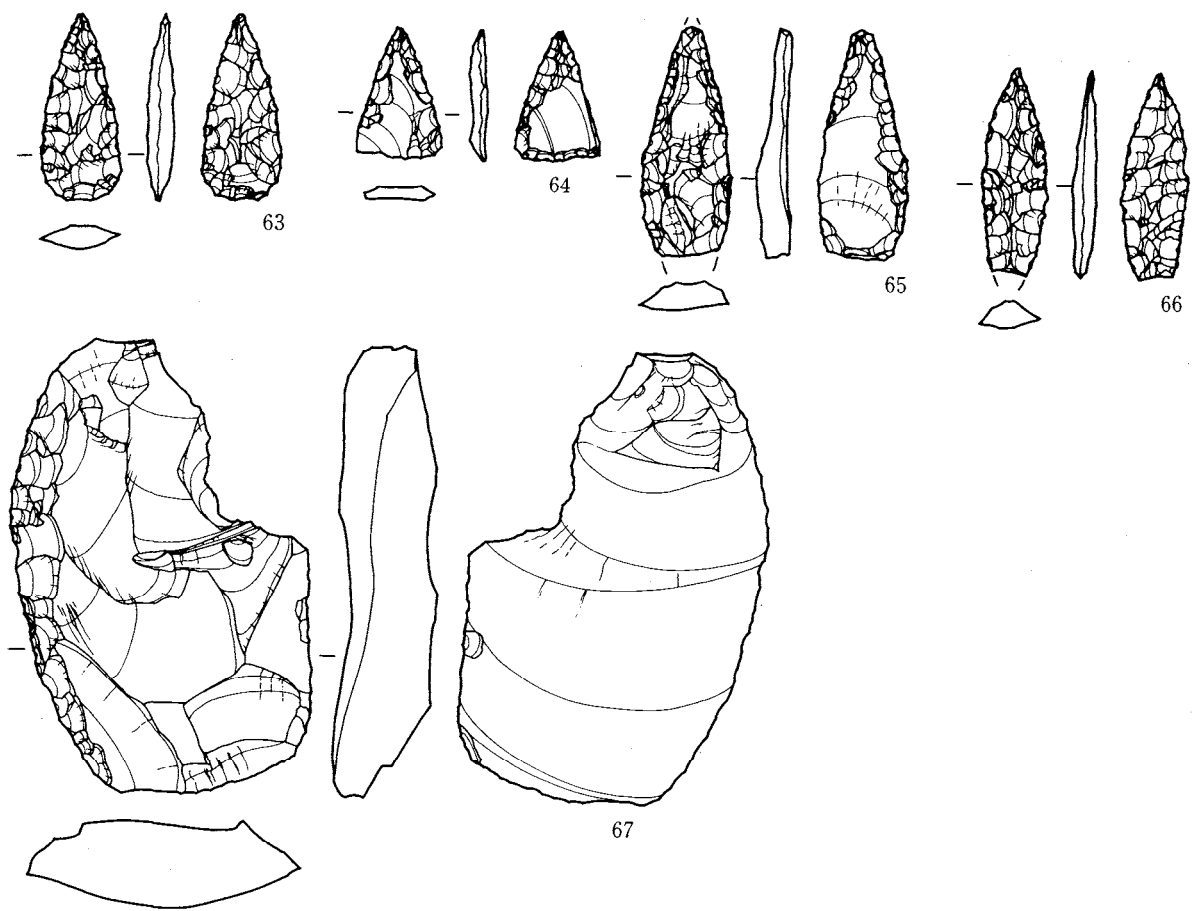


図45 第76号竖穴住居跡出土遺物③

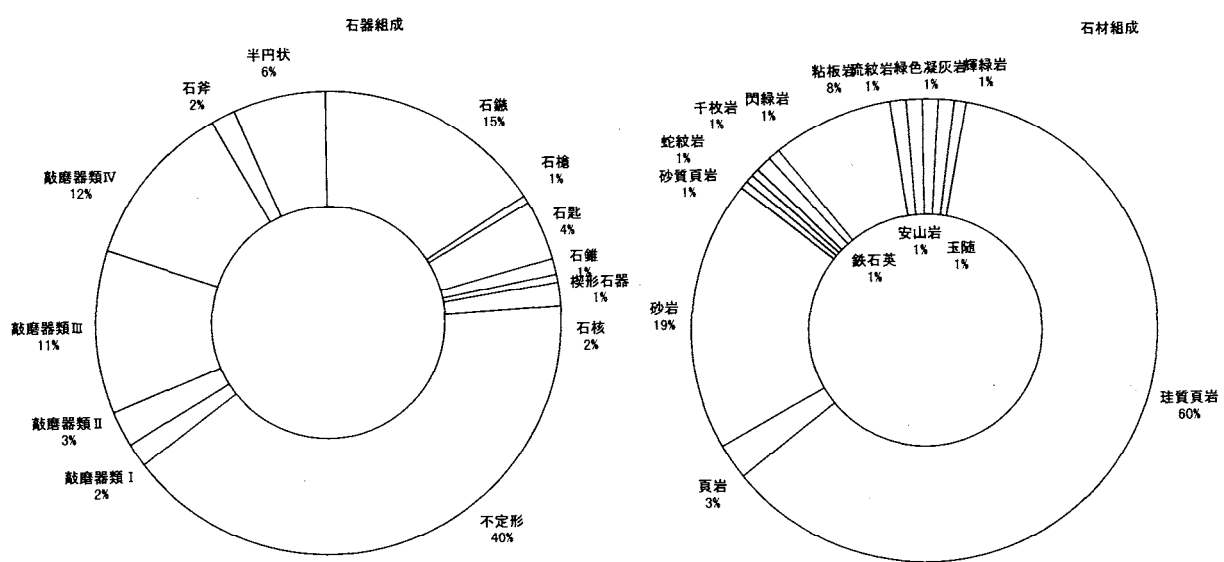


表1. 石器グラフ

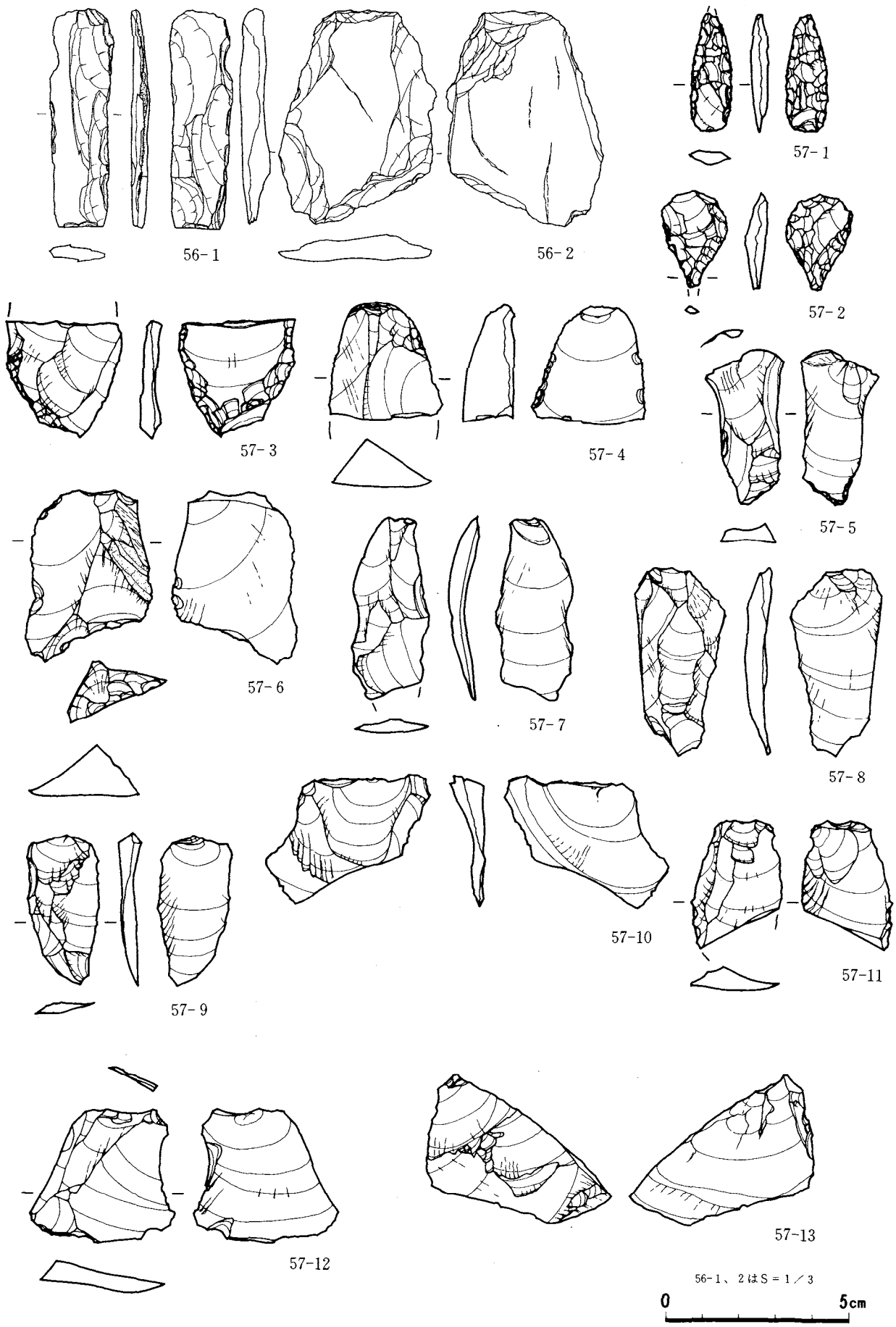


图46 豎穴住居跡出土石器①

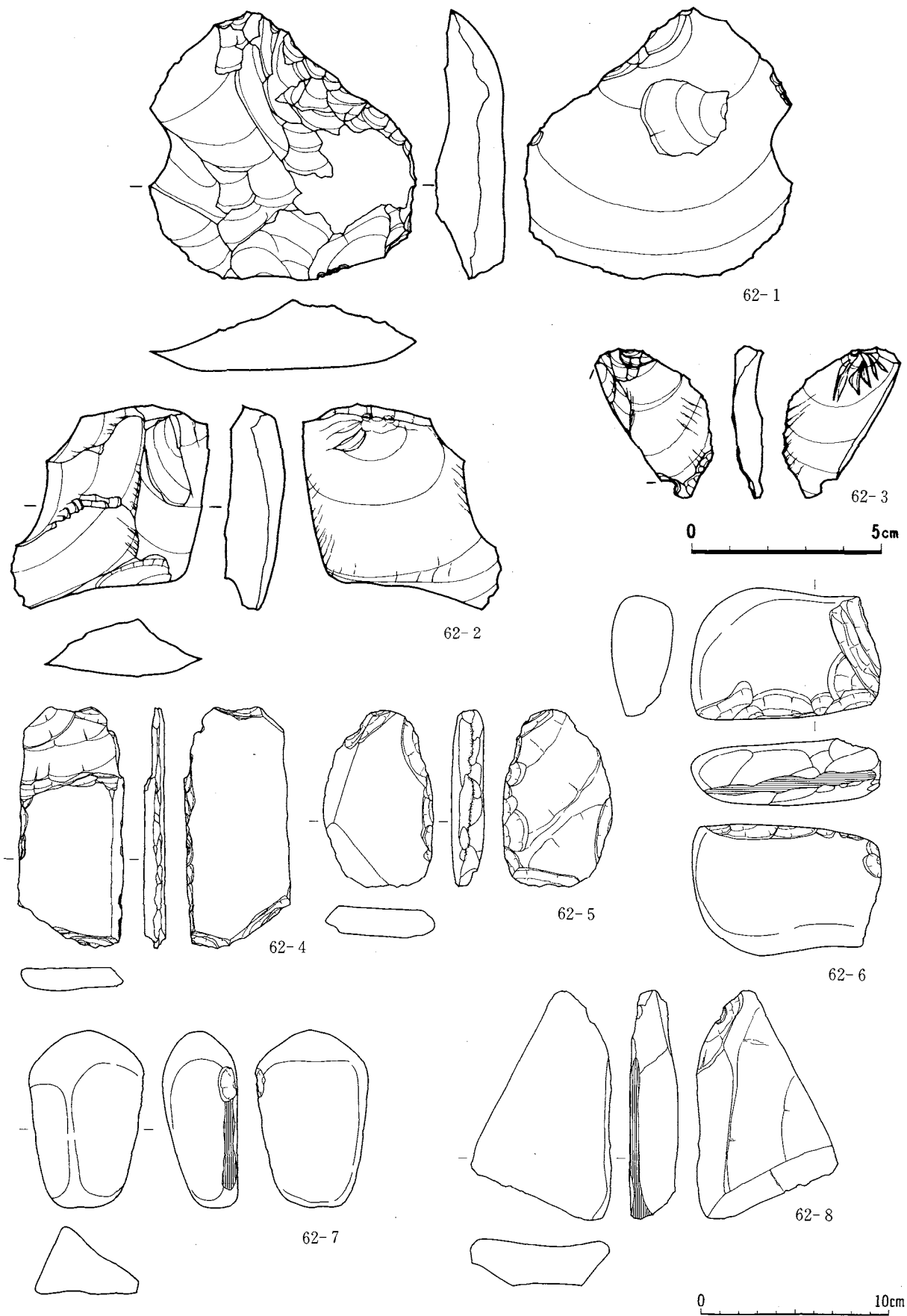


图47 豎穴住居跡出土石器②

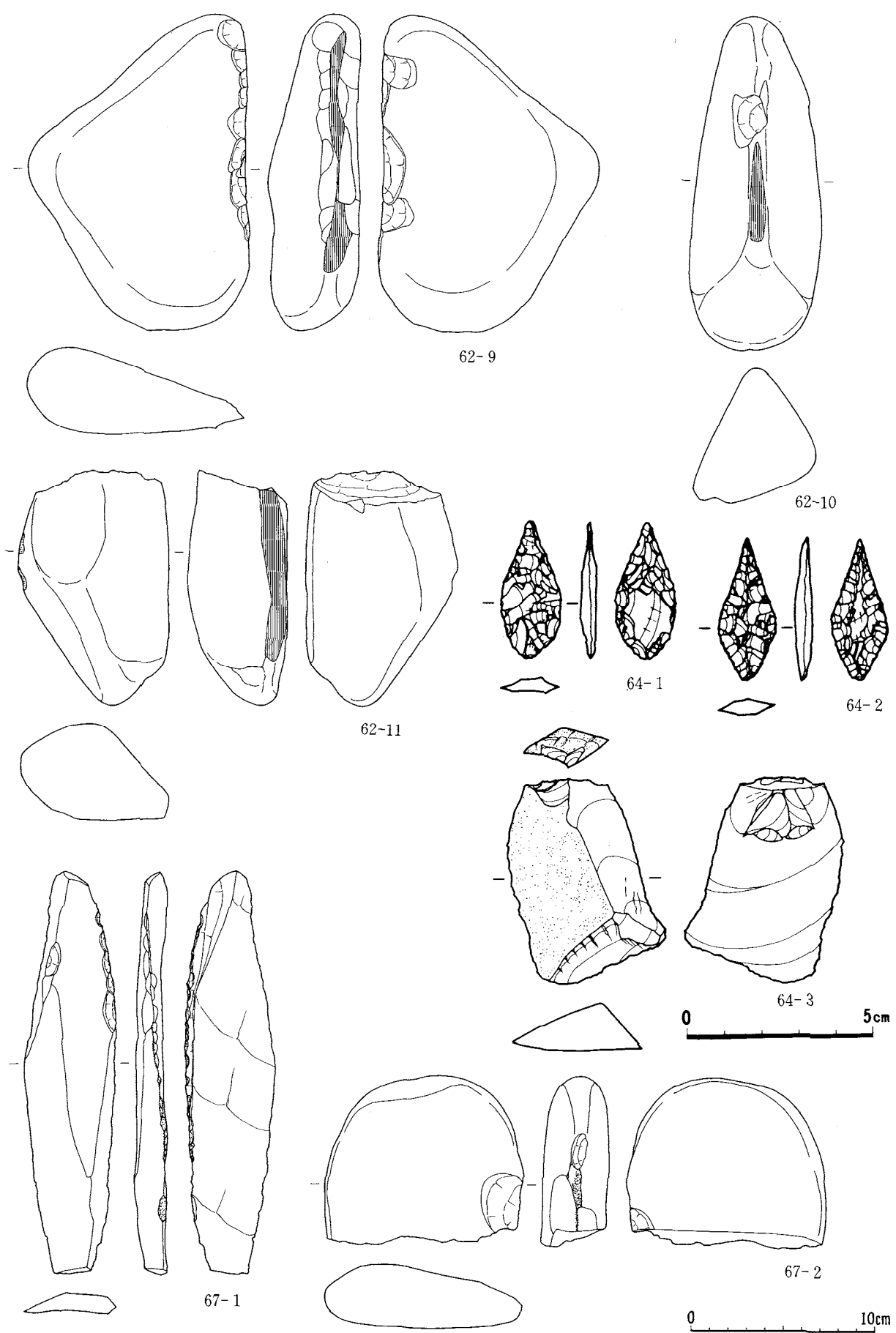


图48 豎穴住居跡出土石器③

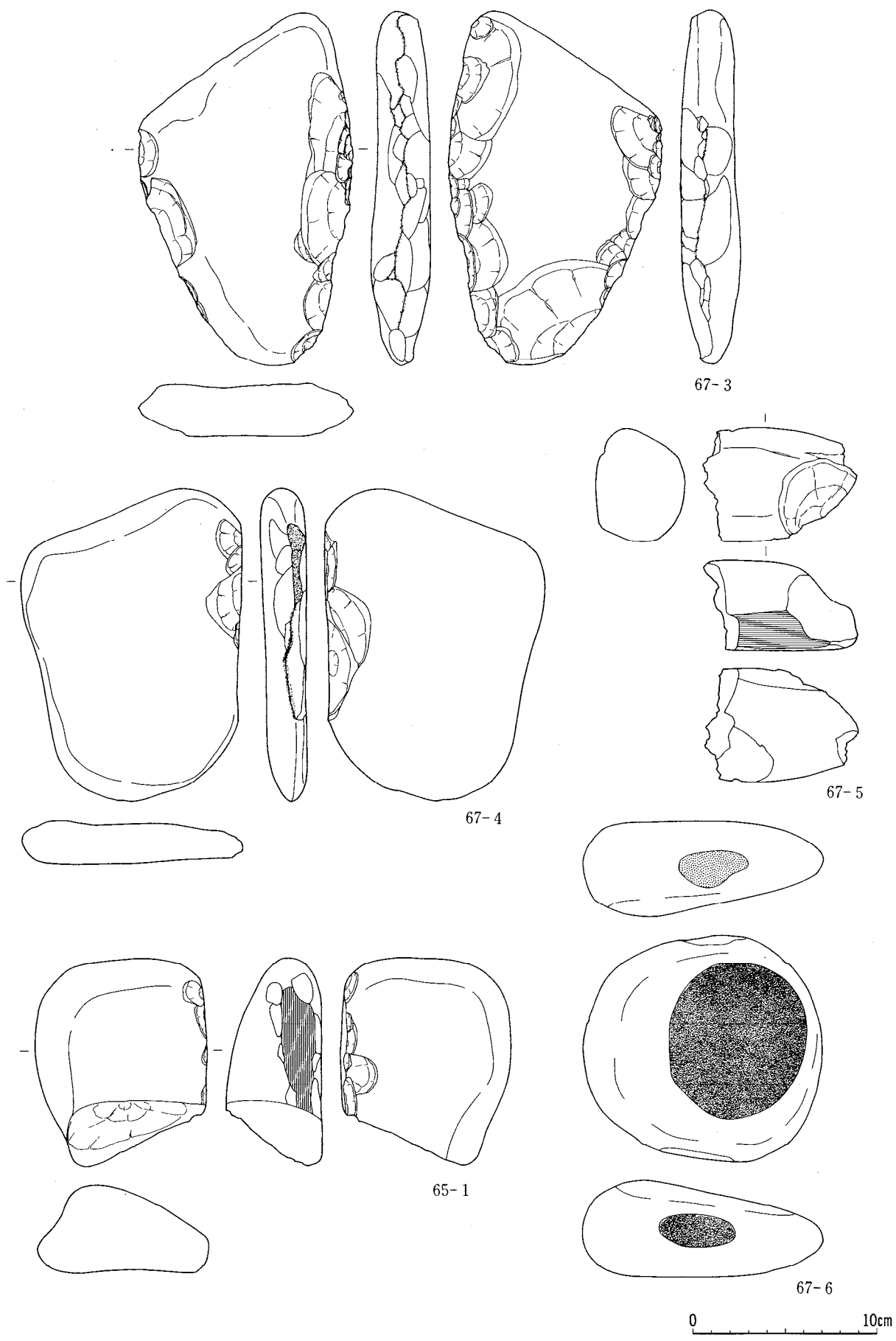


图49 豎穴住居跡出土石器④

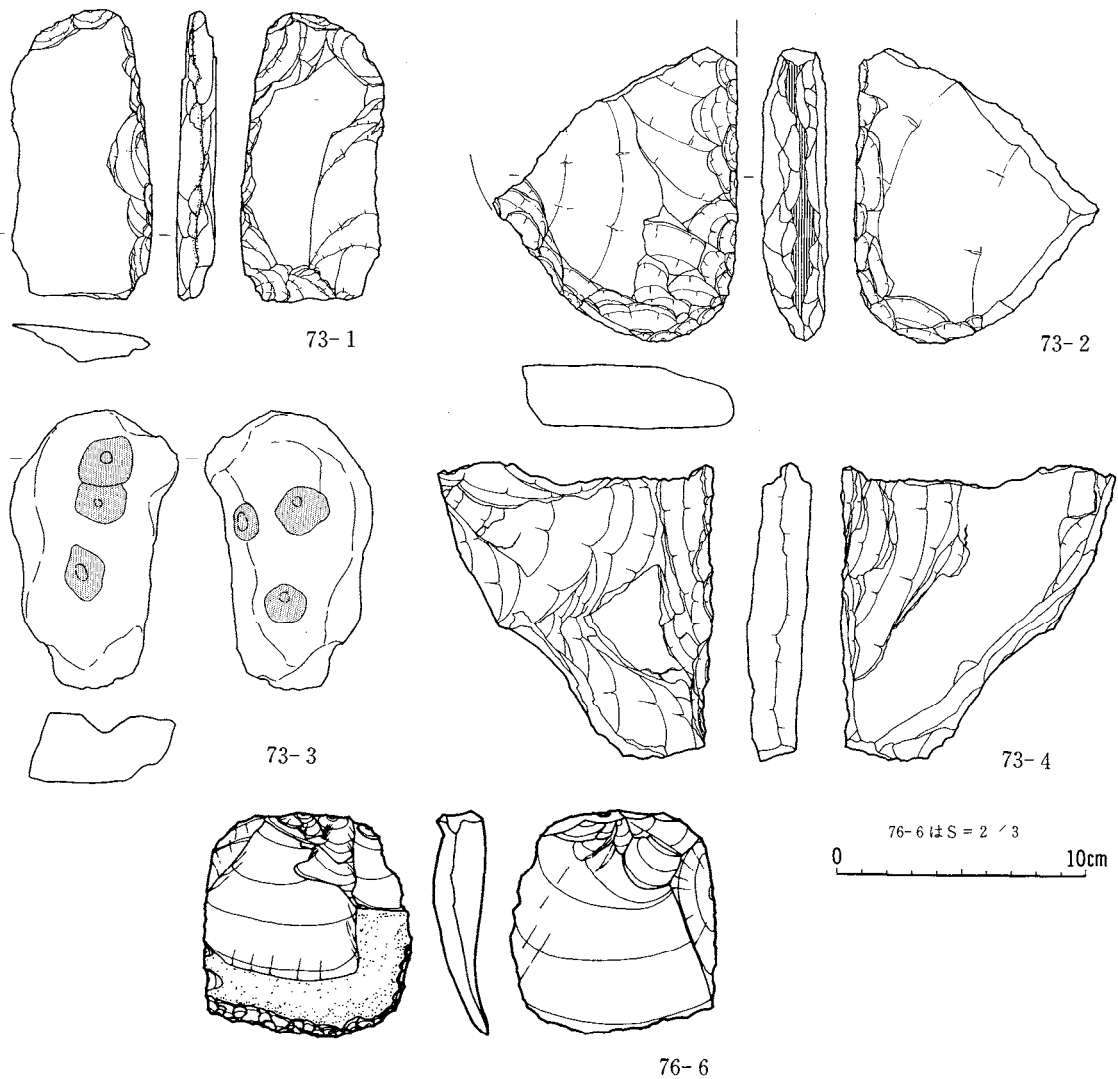


図50 竪穴住居跡内出土石器⑤

竪穴住居跡出土石器観察表

図版NO	出土位置	整理番号	層位	大分類	細分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(mm)	石質	備考
55-117	55H	7	S-1	石鏃	I b	36	15	6	2.8	珪質頁岩	
55-118	55H	12	P-181	石鏃	I b	27	17	5	1.8	珪質頁岩	
55-119	55H	13	P-185	石鏃	I c	33	13	5	2.1	珪質頁岩	
55-120	55H	11	P-194	石鏃	I b	32	17	7	2.5	珪質頁岩	
55-121	55H	14	S-8620	石鏃	I b	42	17	5	3.2	珪質頁岩	
55-122	55H	6	P-106	石鏃	I c	38	14	6	2.7	珪質頁岩	
55-124	55H	5	P-103	石鏃	I b	33	17	3	2	珪質頁岩	
55-125	55H	8	H/S-1	石槍		140.4	38	13	72.5	珪質頁岩	
55-126	55H	30	へ区中層	石鏃	I b	46	16.5	7	5.3	珪質頁岩	
55-127	55H	34	へ区中層	石鏃	I c	46	23.5	9	8	珪質頁岩	
55-128	55H	4	縦セツS-1	石鏃	I d	51	19	6	4.4	珪質頁岩	
55-129	55H	29	へ区中層	石鏃	I b	29	16.5	4.5	2.5	珪質頁岩	
55-130	55H	26	へ区中層	不定形	I a	47.5	29.5	8	8.9	珪質頁岩	
55-131	55H	10	へ区上層	石匙	I b	67	30	8	15.3	珪質頁岩	光沢
55-132	55H	1	へ区上層	石匙	I b	57	21	4	5.2	珪質頁岩	
55-133	55H	27	へ区中層	石匙	IV	49	33.5	3.5	4	珪質頁岩	
55-134	55H	3	へ区上層	石匙	II	34	56	5	8.8	珪質頁岩	
55-135	55H	2	P-189	石匙	II	34	37	6	5.6	珪質頁岩	
55-136	55H	16	P-178	不定形	I b	49	45	8	12.6	珪質頁岩	
55-137	55H	24	へ区中層	不定形	I b	45	30.5	4.5	5.3	珪質頁岩	
55-138	55H	22	へ区中層	不定形	I b	50	35	3	5.4	珪質頁岩	
55-139	55H	20	へ区中層	不定形	III	30	25	5	3.7	珪質頁岩	
55-140	55H	9	中層	不定形	I b	37	34	3	6.1	珪質頁岩	
55-141	55H	25	へ区中層	不定形	II	31	39.5	5.5	7.6	珪質頁岩	
55-142	55H	23	へ区中層	不定形	I b	25	20	3.5	1.9	珪質頁岩	
55-143	55H	17	P-197	不定形	I a	63	35	7	18	珪質頁岩	
55-144	55H	28	へ区中層	不定形	III	46	31	7.5	11.5	珪質頁岩	

55-145	55H	18	^区中層	不定形	II	38	43		13.1	珪質頁岩	
55-146	55H	21	^区中層	不定形	II	46	21.5	3.5	4.2	珪質頁岩	
55-147	55H	19	^区中層	不定形	III	55	25	6.5	8.4	珪質頁岩	
55-148	55H	35		不定形	III	92.5	69.5	20	30.5	珪質頁岩	
55-149	55H	15	P-196	石核		48	49	15	41.7	玉髓	
55-150	55H	33		敲磨器類	IVa1	227	63	40	583.9	頁岩	
55-151	55H	32		敲磨器類	IIIb	105	91	54	589.2	砂岩	
55-152	55H	31		敲磨器類	IVb	56	51	33	125.4	砂岩	
56-1	56H	1	S-12	敲磨器類	IVa2	120	33	9	53.2	粘板岩	
56-2	56H	2	S-14	敲磨器類	IVa1	116	85	16	186.4	粘板岩	
57-13	57H	10	S-13	不定形	III	33	46	10	8.4	珪質頁岩	
57-1	57H	2		石鏃	I b	32	11	5	1.8	珪質頁岩	
57-2	57H	1	床面	石鏃		26	18	5	2.1	珪質頁岩	
57-3	57H	11	S-8	不定形	I b	31	31	5.5	4.6	珪質頁岩	
57-4	57H	7		不定形	II	32	31	14	11.6	珪質頁岩	
57-5	57H	5		不定形	II	42	20.5	5	5.6	珪質頁岩	
57-5	57H	13		不定形	III	36	39.5	5.5	9.9	珪質頁岩	
57-6	57H	8		不定形	I a	43	32	14	18.2	珪質頁岩	
57-7	57H	4	S-9	不定形	III	31	25	6	5.7	珪質頁岩	
57-7	57H	12		不定形	III	48	19	5	4.3	珪質頁岩	
57-8	57H	3	S-5	不定形	III	50	24	6	6.4	珪質頁岩	
57-9	57H	6		不定形	III	40	19	6	3	珪質頁岩	
57-10	57H	9		不定形	III	32	35	9	4.9	珪質頁岩	
62-1	62H	1	S-46	不定形	I a	70.5	71	18	85.7	珪質頁岩	
62-2	62H	2		不定形	III	47	47	14	39.5	珪質頁岩	
62-3	62H	3	S-9	不定形	III	32	25	8	6.4	珪質頁岩	
62-4	62H	5	S-22	敲磨器類	IVa1	129	56	11	122.8	粘板岩	
62-5	62H	6	S-25	半円状	II	95	59	13	103	砂岩	
62-6	62H	10	S-48	敲磨器類	IIIb	101	70	33	312.7	砂岩	
62-7	62H	11	S-53	敲磨器類	IIIc	95	61	40	231.2	砂岩	
62-8	62H	8	S-29	敲磨器類	IIIc	118	75	25	224.3	砂岩	
62-9	62H	9	S-34	敲磨器類	IIIb	171	118	48	881.8	砂岩	
62-10	62H	7	S-27	敲磨器類	IIIc	183	70	82	877	砂岩	
62-11	62H	4	S-1	敲磨器類	IIIc	129	83	56	601.8	砂岩	
64-1	64H	1	S-2	石鏃	I d	37	16	5	2.4	珪質頁岩	
64-2	64H	2	S-8	石鏃	I d	36	15	5	2.2	珪質頁岩	
64-3	64H	3	S-5	不定形	III	55.5	37	13	28.6	珪質頁岩	
65-1	65H	1	S-4	敲磨器類	IIIc	110	93	53	572.6	砂岩	
67-1	67H	3		敲磨器類	IVa1	211	84	14	269.5	粘板岩	
67-2	67H	4		敲磨器類	IVb	91	108	34	509.5	砂岩	
67-3	67H	2	S-6	敲磨器類	IVb	190	116	32	722.7	砂岩	
67-4	67H	5		敲磨器類	IIIb	163	121	27	678.2	砂岩	
67-5	67H	1	S-3	敲磨器類	IIIb	82	62	50	260.7	砂岩	被熱
67-6	67H		S-18	敲磨器類	II b	129	123	52	1176.8	砂岩	
70-1	71H	1		石鏃	I b	25	14	3	1	鉄石英	
70-2	71H	3		石匙	IV	25	28	6	4.2	珪質頁岩	
70-3	71H	2		不定形	III	30.5	37	11	12.1	珪質頁岩	
70-4	70H	8		石鏃	?	31	15.5	4	1.9	珪質頁岩	
70-4	71H	4		敲磨器類	IVa2	88.5	32	6	24	粘板岩	
70-5	70H	6		石鏃	I c	34	16	5	2.9	珪質頁岩	
70-6	70H	4		石鏃	I c	25	16.5	5	1.9	珪質頁岩	
70-7	70H	3		石鏃	I c	24	15	4	1.6	珪質頁岩	
70-8	70H	5		石鏃	?	19	15.5	4	1.1	珪質頁岩	
70-9	70H	7		石鏃	I b	42	17	5	3.3	珪質頁岩	
70-10	70H	1		不定形	I a	35	30	6	5.7	珪質頁岩	
70-11	70H	2		不定形	III	35	35	12	16.1	珪質頁岩	
70-12	70H	9		不定形	I b	4	17.5	3.5		珪質頁岩	
70-13	70H	10		不定形	I a	14	12.5	1.5		珪質頁岩	
70-14	70H	11		不定形	I b	17	27			珪質頁岩	
70-15	70H	12		不定形	III	15	11			珪質頁岩	
70-16	70H	13		不定形	III	14.5	14			珪質頁岩	
70-17	70H	14		不定形	III	9	7	1.5		珪質頁岩	
70-18	70H	15		不定形	III	6	7	2		珪質頁岩	
70-19	70H	16		石刀?		295	36	15	248	粘板岩	
70-20	70H	17		棒状石製品		180	165	12	52.4	粘板岩	
73-1	73H	1		半円状	II	116	56	14	117.8	千枚岩	
73-2	73H	2		敲磨器類	IIIa	118	98	26	383.4	安山岩	
73-3	73H	4		敲磨器類	I	111	67	40	343.3	安山岩	
73-4	73H	3		敲磨器類	IVa1	120	110	23	361.9	粘板岩	
76-63	76H	2		石鏃	?	40	13	5	2.2	珪質頁岩	
76-64	76H	3		石鏃	I c	37	16	6	2.9	珪質頁岩	
76-65	76H	4		石鏃	I b	44.5	18	6	4.9	珪質頁岩	
76-66	76H	5		石鏃	I b	25	17	3	1.3	珪質頁岩	
76-67	76H	1		不定形	I a	43	40	9	17.2	珪質頁岩	
76-68	76H	6		不定形	I a	89	58	19	91	珪質頁岩	

## 2 土坑

### 第312号土坑 (図51)

[位置] AT・U-39グリッドに位置する。

[確認] 第Ⅶ層上面に第Ⅷ層(中振浮石)の円形の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形であり、開口部直径は160cmである。

[覆土] 6層に分層された。自然堆積の様相を呈する。1層は中振浮石層を主体とする層である。

[壁] 底面付近はほぼ垂直に立ち上がり、底からやや広がりながら開口する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 石鏃1点、不定形剥片石器が1点出土している。いずれも確認面からの出土である。2の側縁の一部には刃こぼれ状の微細な剝離が看取された。また、覆土中からは礫が2点出土しているが、人為的な加工痕や使用痕跡は見られなかった。また、5層上面から炭化物が出土している。放射性炭素年代等の詳細は第Ⅵ章に記す。

[小結] 中振浮石層が覆土上層にかぶっているため中振浮石降下以前(円筒下層a式以前)の土坑と思われる。(茅野 嘉雄)

### 第313号土坑 (図51)

[位置] AW・X-35グリッドに位置する。

[確認] 暗褐色土に黒色土の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、直径は88cmである。

[覆土] 2層に分層された。

[壁] 壁は底面からやや広がりながら開口する。

[底面] 概ね平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 土器片が数点出土している。石器は3点の出土である。1はおそらく石匙の欠損品である。縦長剥片を素材としており、表面には器体中央部まで届くような長く平坦な調整剝離が施されている。端部はやや尖り気味である。腹面には調整剝離は見られない。2は器体左側縁に連続的な調整剝離がなされている。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが性格等は不明。(茅野 嘉雄)

### 第314号土坑 (図51)

[位置] AX-35グリッドに位置する。

[確認] 暗褐色土に黒褐色土の広がりとして確認した。

[重複] なし。



[平面形・規模] 直径約160cmの円形を呈する。

[覆土] 5層に分層された。概ね自然堆積の様相を呈する。

[壁] 壁は底面より約10～20cm残存しており、やや斜めに立ち上がる。

[底面] 概ね平坦である。

[施設] なし。

[遺物] なし。

[小結] 明確な時期は特定できない。

(茅野 嘉雄)

#### 第315号土坑 (図51)

[位置] A Y-35グリッドに位置する。

[確認] 暗褐色土に黒褐色土の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 直径約130cmの円形を呈する。

[覆土] 3層に分層された。概ね自然堆積の様相を呈する。

[壁] 壁は確認面から約40cm弱残存しており、ほぼ垂直に立ち上がっている。

[底面] 概ね平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 覆土中から礫が出土しているが、明確な加工・使用痕跡は確認されなかった。

[小結] 明確な時期は特定できない。

(茅野 嘉雄)

#### 第316号土坑 (図51)

[位置] A V-36・37グリッドに位置する。

[確認] 第Ⅷ層(中礫浮石)上に黒色・円形の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸160cm、短軸140の不整な円形である。

[覆土] 3層に分層された。

[壁] 底面より緩やかに斜めに立ち上がる。

[底面] 南から北に向かって傾斜している。

[施設] なし。

[遺物] なし。

[小結] 明確な時期は特定できない。

(茅野 嘉雄)

#### 第318号土坑 (図52・70)

[位置] B S-16グリッドに位置する。

[確認] 第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面とも円形を呈する。

[規模] 規模は開口部で100cm×98cm。底面は178cm×170cm。深さ111cmである。

[覆土] 18層に分層された。第1・3・4・5・6層中に焼土を含む。

[壁・断面] 壁は底面よりやや鋭角に立ち上がり、確認面より下部に括れを有するフラスコ形を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 土器片が多数出土しているが、図示し得たのは11点である。石器は凹み石が1点出土している。表裏両面に円形の敲打痕を2つもっている。また、側面には敲打による平坦面と凹みが看取される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

(佐々木 雅裕)

#### 第319号土坑 (図52・70)

[位置] BV-15グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し長軸124cm×短軸113cm。深さ53cmである。

[覆土] 7層に分層された。

[壁] 壁は底面より緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 土器片が数点出土しているが、図示し得たのは7点である。

[小結] 縄文時代の土坑であるが性格等は不明。

(笹森 一朗)

#### 第320号土坑 (図52・70)

[位置] BS・T-18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第323号土坑と重複しており、本土坑が先行する。

[平面形・規模] 楕円形を呈するものと思われる。推定長軸150cm、短軸100cm、深さ20cmである。

[覆土] 3層に分層された。第3層中に多量の炭化物が含まれる。

[壁] 壁は底面より緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 覆土1・2層中より土器片が数点出土している。円筒下層a式土器である。

[小結] 縄文時代前期の土坑墓と思われる。

第321号土坑（図52）

- [位置] BU・V-14グリッドに位置する。  
[確認] 第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。  
[重複] 第327号土坑と重複しているが新旧関係は不明。  
[平面形規模] 楕円形を呈し、長軸136cm、推定短軸90cm。深さ28cmである。  
[覆土] 6層に分層された。  
[壁・断面] 壁は底面より緩やかに立ち上がる。  
[底面] ほぼ平坦である。  
[施設] なし。  
[遺物] 縄文土器の細片が出土している。  
[小結] 縄文時代の土坑と思われるが、詳細な時期、性格等は不明。

（笹森 一郎）

第322号土坑（図52）

- [位置] BQ-19・20グリッドに位置する。  
[確認] 第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。  
[重複] なし。  
[平面形] 開口部及び底面とも円形を呈する。  
[規模] 開口部で102cm×80cm。底面は166cm×160cm。深さ77cmである。  
[覆土] 8層に分層された。第5層中に多量の焼土を含む。  
[壁・断面] 壁は底面より鋭角的に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。  
[底面] ほぼ平坦である。  
[施設] なし。  
[遺物] 第4・5層中よりほぼ1個体分の深鉢形土器が出土している。焼土中から炭化物・骨粉が出土している。石器類は3点出土している。1は周縁に浅い角度の調整剝離が連続的に施される。縦長剝片を素材としており、バルブの部分は端部からの調整剝離により除去されている。3は長円形の礫の長軸両端を片側からの剝離により打ち欠きその後左側縁に表面からの調整剝離を施し、機能面を作出している。  
[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

（佐々木 雅裕）

第323号土坑（図52・71）

- [位置] BS・T-18グリッドに位置する。  
[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。  
[重複] 第320号土坑と重複しており、本土坑の方が後出する。  
[平面形] 開口部は及び底面は円形を呈する。  
[規模] 開口部で114cm×100cm。底面は230cm×222cm。深さ170cmである。

[覆土] 27層に分層された。第2・6・11・14層中に焼土、第3・13・19層中に炭化物を多量に含む。

[壁・断面] 壁は底面より鋭角的に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央部に深さ14cmの円形の小ピットが検出された。

[遺物] 第16層中より土器片が多量に出土している。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第324号土坑 (図53・72・73)

[位置] B T・U-17・18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部は不整の円形、底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で122cm×110cm。底面は224cm×196cm。深さ154cmである。

[覆土] 20層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面よりやや鋭角的に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] 多少凸凹して、西側から東側にかけて傾斜している。

[施設] なし。

[遺物] 第3層中より土器片が出土している。石器は6点出土している。1～3は不定形剥片石器である。4は器体右側縁からの大きな剥離によりできた側縁の稜線上に使用の痕跡が見られる。5は断面台形状で角の取れた礫の直線的な側縁をスリ面として使用している。6は器体の端部付近に敲打痕を持っている。

[小結] 縄文時代の前期のフラスコ状土坑である。

#### 第325号土坑 (図53・74・75)

[位置] B U・V-17グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で112cm×106cm。底面は258cm×256cm。深さ254cmである。

[覆土] 25層に分層された。第18層中に多量の炭化物を含む。

[壁・断面] 壁は底面よりやや鋭角的に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 第17層中より土器が多量に出土している。第3a層中より歯、第23層中より骨片・歯、第22層中より骨片、第24層中より骨片が出土している。1～5は不定形石器である。器体側縁の一部に連続的な調整剥離を施している。3は縦長剥片の端部に腹面から急斜な剥離が連続的に施される、エンドスクレイパー様の石器である。6は六角柱状摂理の角柱礫の端部に擦痕が看取されるものである。

擦痕は表面がつるつるした状態であり、裏面から表面に向かって片減りのため傾斜している。7は半円状打製石器である。半円状の側縁には剝離は見られない。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第326号土坑 (図54・75)

[位置] B X・Y-15グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で96cm×80cm。底面は164cm×156cm。深さ160cmである。

[覆土] 12層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 第7層中より土器が多量に出土している。石器は石鏃が1点、半円状扁平打製石器が1点、磨製石斧の基部が1点出土している。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第327号土坑 (図52)

[位置] B U・V-15グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第321号土坑と重複しているが新旧関係は不明。

[平面形・規模] ほぼ円形を呈するものと思われる。推定長軸90cm、推定短軸80cm、深さ35cmである。

[覆土] 4層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面より緩やかに立ち上がる。断面は箱形を呈する。

[底面] 平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 縄文土器の細片が出土している。

[小結] 縄文時代の土坑であるが性格等は不明。

#### 第328号土坑 (図54・76)

[位置] B Q・R-16グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で104cm×93cm。底面は234cm×234cm。深さ173cmである。

[覆土] 19層に分層された。第12層中に焼土を含む。

[壁・断面] 壁は底面やや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 土器片及び剥片が2点出土している。1・2は剥片の端部にやや急角度な調整剥離が施されている、いわゆるエンドスクレイパーの刃部の一部である。3はやや扁平な楕円形の礫の側縁を両面からの剥離により機能面を作出している。機能面にはスリ痕が看取される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第329号土坑 (図54)

[位置] B T-16グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は楕円形を呈する。

[規模] 開口部で105cm×75cm。底面は130cm×98cm。深さ50cmである。

[覆土] 9層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 縄文時代のフラスコ状土坑と思われる。

#### 第330号土坑 (図55・76)

[位置] B T-17グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で88cm×82cm。底面は193cm×182cm。深さ140cmである。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[覆土] 19層に分層された。第18層中に多量の炭化物を含む。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 底部を欠失する土器及び石器類が出土している。1は断面三角形の礫の一側縁に平坦なスリ面が看取されるものである。2は左右側縁と下端側縁を調整剥離と敲打によって形作っている。上端側縁には敲打痕は見られず、浅い角度の剥離により刃部断面が鋭角に作出されている。3は凹み石である。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

第332号土坑（図54・76）

[位置] BQ・R-19グリッドに位置する。

[確認] 第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で162cm×162cm。底面は170cm×158cm。深さ25cmである。

[覆土] 3層に分層された。

[壁・断面] 壁は北側が底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 覆土中より土器片が2点出土している。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑と思われる。

第333号土坑（図55・77）

[位置] BP-20・21グリッドに位置する。

[確認] 第Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で130cm×127cm。底面は208cm×190cm。深さ112cmである。

[覆土] 20層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾して立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は完形個体が1点及び土器片が出土している。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

第334号土坑（図56・77）

[位置] BO・P-21グリッドに位置する。

[確認] 第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整な円形を呈する。開口部で187cm×156cm。底面は168cm×138cm。深さ34cmである。

[覆土] 9層に分層された。

[壁] 壁は底面からやや急に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 土器片が2点出土している。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが詳細な時期は不明。

#### 第335号土坑 (図56・77)

[位置] BM・N-22グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で122cm×106cm。底面は190cm×180cm。深さ180cmである。

[覆土] 22層に分層された。第6・19層中に多量の炭化物を含む。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央に深さ10cmの円形の小ピットを検出した。

[遺物] 底面から胴部上半を欠失する土器が出土している。石器類は不定形石器が1点出土している。下半部は欠損している。両側縁には角度の浅い調整剥離が連続的に施され、先端を先鋭に仕上げている。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第336号土坑 (図56)

[位置] BZ・CA-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸長方形を呈し、長軸118cm、短軸107cm、深さ20cmである。

[覆土] 3層に分層された。第1層中に焼土を多量に含む。

[壁] 壁は底面からやや急に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが、詳細な時期・性格は不明。

#### 第337号土坑 (図56)

[位置] BY-17・18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈するものと思われる。推定長軸110cm、短軸100cm、深さ45cmである。

[覆土] 5層に分層された。

[壁] 壁は底面からやや急に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。



[施設] なし。

[遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが、詳細な時期・性格は不明。

#### 第338号土坑 (図56)

[位置] B X - 17・18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈する。長軸166cm、短軸130cm、深さ50cmである。

[覆土] 10層に分層された。

[壁] 壁は底面から急に立ち上がる。

[底面] ほほ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが、詳細な時期・性格は不明。

#### 第339号土坑 (図57・78)

[位置] B S - 16・17グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で115cm×104cm。底面は197cm×185cm。深さ180cmである。

[覆土] 27層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] 中央部に向かってやや傾斜している。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は土器片が多量に、石器類も出土している。覆土下層より炭化物・骨片が出土している。1・2は側縁に平坦なすり面を持つものである。2は直線的な側縁と半円状の側縁両方に両面からの調整剝離が看取される。直線的な側縁には平坦なすり面が看取され、半円状の側縁には敲打痕が看取される。また、器体中央部には長軸方向に帯状の敲打痕が看取される。この痕跡は上端の抉り状の調整剝離の部分まで続いている。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第340号土坑 (図57・79)

[位置] B Y - 20グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で198cm×194cm。底面は190cm×190cm。深さ206cmである。

[覆土] 33層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 覆土第3層中より土器片が多量に出土している。完形個体は1点出土している。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第341号土坑 (図58・80・81)

[位置] BW・X-20グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で205cm×186cm。底面は210cm×210cm。深さ166cmである。

[覆土] 25層に分層された。第9・10・17層中に焼土の混入が認められる。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は完形個体が4点、底部を欠失する土器が1点出土している他、土器片及び石器類が多量に出土している。また、覆土中より骨片、炭化クルミが出土している。1は器体周縁に腹面からの急斜で足の長い調整剥離が施されている。いわゆるラウンドスクレイパーである。分厚い剥片を素材としており、背面には自然面が一部残っている。下端部側縁はやや嘴状に作出されている。3～5は器体側縁に平坦で幅の広いスリ面を持っている。3はスリ面と反対側の側縁を両面からの剥離により半円状に作り出している。4と5は同一個体であり、接合した。厚手の楕円礫の側縁に幅広のスリ面が看取される。また、折れ面には側面スリ面側に明瞭な使用痕跡(スリ)が2点共に看取される。これらのスリ面は折損以前のスリ面と比べると表面がかなり滑らかである。6は欠損品であるため全体形状は不明である。しかし器体両側縁には表裏両面から急斜な角度で調整剥離が施されており、さらに敲打により稜線が叩きつぶされていることが看取された。何かの基部の可能性を示唆しておく。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第342号土坑 (図58)

[位置] BY・Z-19・20グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長円形を呈する。長軸206cm、短軸140cm、深さ112cmである。

[覆土] 10層に分層された。

[壁] 壁は底面からやや急に立ち上がる。

[底面] 凸凹している。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが、詳細な時期・性格は不明。

#### 第343号土坑 (図56)

[位置] B X・Y-17グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で第337・338号土坑として確認した。

[重複] 第337・338号土坑と重複しているが判明したが、新旧関係は不明。

[平面形・規模] 楕円形を呈するものと思われる。推定長軸155cm、推定短軸112cm、深さ50cmである。

[覆土] 分層できなかった。

[壁・断面] 壁は底面からやや急に立ち上がり、断面は箱形を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが、詳細な時期・性格は不明。

#### 第344号土坑 (図58・82)

[位置] B M・N-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で174cm×152cm。底面は235cm×215cm。深さ74cmである。

[覆土] 40層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央に深さ17cmの円形の小ピットが検出された。

[遺物] 遺物は土器片が出土しているが、図示し得たのは3点である。1は地文斜縄文に2条の側面圧痕が施文される。2は羽状縄文が施文される。3は斜縄文である。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第345号土坑 (図59・82)

[位置] B M・N-18・19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で141cm×132cm。底面は220cm×220cm。深さ90cmである。

[覆土] 62層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや鋭角的に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は土器片が出土しているが、図示し得たのは4点である。1は口縁部片。幅広の口縁部に縦・横・斜位の側面圧痕が施文される。2・3も口縁部片。2は無文で、胎土に金雲母を多量に含んでいる。3は側面圧痕が施文される。4は口縁及び胴部上半を欠失する。胴部には撚糸文が施文される。

[小結] 縄文時代のフラスコ状土坑である。

#### 第346号土坑 (図59・82)

[位置] BL-17・18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面でいぶい黄橙色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で200cm×166cm。底面は195cm×185cm。深さ56cmである。

[覆土] 29層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央に深さ7cmの楕円形の小ピットが検出された。

[遺物] 遺物は土器片が出土しているが、図示し得たのは1点である。1は口縁下部に太めの側面圧痕を施し、幅広の口縁部に横・斜位の側面圧痕を施す

[小結] 縄文時代のフラスコ状土坑である。

#### 第348号土坑 (図59・82・83・101)

[位置] BL-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で118cm×103cm。底面は250cm×238cm。深さ120cmである。

[覆土] 16層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央に深さ15cmの円形の小ピットが検出された。

[遺物] 遺物は完形個体が1点、土器片・剥片石器類が出土している。1は1は石鏃であるが、先端部が錐状に突起しており石錐の可能性もある。2は縦長剥片の一側縁に浅い角度の調整剥離が連続的

に施されている。4・5は楕円礫の一側縁を敲打と両面からの剝離により弧状に仕上げしており、他の側縁にはスリによる平坦面が看取される。2点は接合しており、それぞれの折れ面には側縁スリ面側に使用痕が看取される。6は扁平な楕円礫の一側縁に両面からの調整剝離を施している。側面稜線にはスリ痕が看取される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第349号土坑 (図60・84)

[位置] B L・M-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で210cm×180cm。底面は247cm×230cm。深さ124cmである。

[覆土] 33層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央に深さ10cmの円形の小ピットが検出された。

[遺物] 図示し得た遺物は略完形個体を含めて9点。1は底部を欠失する深鉢形土器。口縁部には結節回転文と側面圧痕が施文される。胴部は上位から中位にかけて結節回転及び斜縄文が施文され、下位には羽状縄文が施文される。2も底部を欠失する。口縁部は多軸絡条体の側面圧痕が施文され、胴部には多軸絡条体が縦位施文される。3は底部付近。胴部には羽状縄文が施文される。4は口縁及び胴部の一部を欠失する。口縁部は側面圧痕が施され、胴部は羽状縄文が施文される。5は口縁部の一部を欠失する小型の深鉢形土器。口縁部は側面圧痕が施され、胴部は羽状縄文が施文される。6～9は口縁部片。6は側面圧痕を施した後羽状縄文を施文している。7・8は側面圧痕が施文される。9は口縁部に単軸絡条体を横位施文し、胴部は木目状撚糸文が施文される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第350号土坑 (図60)

[位置] B L・M-17・18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で192cm×180cm。底面は240cm×220cm。深さ120cmである。

[覆土] 56層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央に深さ7cmの円形の小ピットが検出された。

[遺物] 遺物は剥片が出土している。

[小結] 縄文時代のフラスコ状土坑である。

#### 第354号土坑 (図61)

[位置] BN-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第355号土坑と重複しており、本土坑が後出する。

[平面形・規模] ほぼ円形を呈する。長軸156cm、短軸130cm、深さ7cmである。

[覆土] 8層に分層された。

[壁] 壁は底面から緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面東側に深さ8cmの小ピットを検出した。

[遺物] 出土していない。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが、詳細な時期・性格は不明。

#### 第355号土坑 (図61)

[位置] BN-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第354号土坑と重複しているが、本土坑の方が先行する。

[平面形・規模] 不整な円形を呈するものと思われる。推定長軸156cm、短軸120cm、深さ15cmである。

[覆土] 10層に分層された。

[壁] 壁は底面からやや急に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが、詳細な時期・性格は不明。

#### 第356号土坑 (図61)

[位置] BN-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第355号土坑と重複しているが、新旧関係は不明。

[平面形・規模] 楕円形を呈するものと思われる。推定長軸112cm、推定短軸82cm、深さ15cmである。

[覆土] 4層に分層された。

[壁] 壁は底面から急に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが、詳細な時期・性格は不明。

第357号土坑 (図61)

[位置] BN-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] ほぼ円形を呈する。開口部で147cm×135cm。底面は137cm×130cm。深さ13cmである。

[覆土] 4層に分層された。

[壁] 壁は底面から緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 底面から礫が4点出土している。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが、詳細な時期・性格は不明。

第358号土坑 (図60)

[位置] BN-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で158cm×134cm。底面は146cm×142cm。深さ26cmである。

[覆土] 39層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央に深さ7cmの小ピットを検出した。

[遺物] 図示し得るような遺物は出土していない。

[小結] 縄文時代のフラスコ状土坑と思われる。

第361号土坑 (図61・85)

[位置] BO-20グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で106cm×100cm。底面は180cm×180cm。深さ86cmである。

[覆土] 39層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央から深さ12cmの小ピットが検出された。

[遺物] 図示し得た土器片は2点。1は口縁部破片。口縁部には結節回転文が施文される。口縁下部の隆帯を欠失する。2も口縁部破片。口縁部は2本1対の側面圧痕が施され、上端部には斜縄文が施

される。口縁下部の微隆帯上に棒状施文具による斜方向からの刺突が施される。胴部は結節の斜縄文。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第362号土坑 (図62・85)

[位置] B O - 19・20グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で110cm×98cm。底面は210cm×204cm。深さ127cmである。

[覆土] 28層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほほ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 図示し得た土器片は3点。3点共同一団体と思われる。口縁部には側面圧痕が施文され条間に円形刺突も施文される。口縁下部の微隆帯上に棒状工具による斜方向からの連続刺突が施される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第363号土坑 (図55・85)

[位置] B O ・ P - 20グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第333号土坑と底部で一部分重複しているが、新旧関係は不明である。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で86cm×74cm。底面は223cm×214cm。深さ148cmである。

[覆土] 29層に分層された。第20層中に焼土を含む。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほほ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は土器片及び剥片石器が1点出土している。1は略完形の深鉢形土器。口縁部には単軸絡条体の側面圧痕が2条施文される。胴部は結束の羽状縄文。2～5は口縁部片。2は波状を呈し、地文斜縄文に結節回転文を施文する。口唇部には斜方向からの刺突が施される。3～5も地文斜縄文に結節回転文が施文され、4は裏面にも斜縄文が施文される。6～8も口縁部片。6は羽状縄文に側面圧痕が施文され、口唇部に斜縄文が施文される。7は2本1対の側面圧痕の条間に連続の円形刺突が施文される。8は内面に波状の隆帯が貼付される。9は完形の鉢形土器。口縁部には2種類の側面圧痕が施文される。胴部には羽状縄文が施される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。



第365号土坑 (図62・85・101)

[位置] B O・P-19・20グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第398号土坑と重複しており、本土坑が後出する。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で86cm×73cm。底面は186cm×170cm。深さ120cmである。

[覆土] 34層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほほ平坦である。

[施設] 底面中央から深さ13cmの小ピットが検出された。

[遺物] 遺物は略完形個体1個と土器片及び石器類が出土している。粘板岩の礫を素材として側縁から数箇所に剝離が施されている。下端部には擦痕が若干看取される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

第366号土坑 (図62・86・101)

[位置] B N・O-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は楕円形を呈する。

[規模] 開口部で136cm×110cm。底面は210cm×198cm。深さ90cmである。

[覆土] 31層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほほ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は底面付近より完形個体が3個と底部を欠失する土器が1点、口縁部を欠失する土器が1点及び石器類が出土している。1は底部を欠失する深鉢形土器で波状口縁を呈する。口縁下部の隆帯上に棒状施文具による楕円形の刺突を施す。口縁部は2本1対の側面圧痕が横・斜位に施文される。胴部は結束の羽状縄文が施文される。2は口縁部片。地文斜縄文に結節回転文が施文され、口唇部には斜縄文が施文される。3～12も口縁部片。縦・横・斜位の側面圧痕が施されるもので、9・11は長方形様に施文される。同一個体と思われる。15～17は側面圧痕が施文される。18は完形の深鉢形土器。口縁部は緩やかな波状を呈し、やや外反している。口縁部には結節回転文が施文され、胴部は羽状縄文が施文される。19は口縁及び胴部下半の一部を欠失する。口縁下部に2本1対の側面圧痕が施文され、口縁部は羽状縄文が施文される。胴部には羽状縄文が施され、底部付近には結節回転文が施文される。20は口縁の一部を欠失する。全体に羽状縄文が施文される。21は口縁及び胴部上半を欠失する。羽状縄文が施文される。

図示し得た石器は1点。1は石錐である。縦長剥片の側縁に急斜な調整剝離を連続的に施し、先端部には入念な剝離により錐部が作出されている。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

第367号土坑 (図63・87)

[位置] B O-18・19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で108cm×90cm。底面は176cm×162cm。深さ88cmである。

[覆土] 25層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面に一部張りだし部を有する。

[遺物] 図示し得た土器片は2点。1は口縁部片。地文斜縄文に側面圧痕が施文され、口唇部に斜縄文が施文される。2も口縁部片。2種類の縄及び単軸絡条体の側面圧痕が施文され、口唇部に斜縄文が施文される。胴部は木目状撚糸文。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

第368号土坑 (図63・87)

[位置] B M・N-20グリッドに位置する

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で100cm×100cm。底面は214cm×208cm。深さ153cmである。

[覆土] 25層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 図示し得た土器片は2点。1は波状を呈する口縁部片。太めの縄の側面圧痕が施される。2も口縁部片。口縁下部の微高な隆帯上に連続刺突が施される。口縁部には側面圧痕が施され、口唇部には斜縄文が施文される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

第369号土坑 (図63・87)

[位置] B O-17グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で130cm×100cm。底面は216cm×204cm。深さ120cmである。

[覆土] 12層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は完形個体が2点と土器片が出土している。図示し得たのは

[小結] 縄文時代前期後葉のフラスコ状土坑である。

#### 第370号土坑（図64・87）

[位置] B O-18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[規模] 開口部で195cm×82cm。底面は194cm×190cm。深さ102cmである。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[覆土] 16層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 図示し得た遺物は土器片が1点である。1は口縁部片。口縁部には結節回転文が施文され、胴部は結節回転による羽状縄文が施文される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第375号土坑（図65・102）

[位置] B L-22・23グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第68号竪穴住居跡と重複している。本土坑が後出する。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で150cm×110cm。底面は170cm×116cm。深さ122cmである。

[覆土] 36層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は石器類が出土している。1は板状摂理により分割された礫の側縁に調整剝離を加えて断面鋭角な機能面を作出している。半円状扁平打製石器の範疇に入る石器である。2は楕円礫の側縁に両面からの剝離により礫器状の機能面を作出している。機能面の稜線上にはスリ痕が見られる。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

第376号土坑 (図64・88・102)

[位置] B V-18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で124cm×116cm。底面は230cm×218cm。深さ166cmである。

[覆土] 24層に分層された。第14層中に焼土を少量含む。底面東側に炭化物が認められた。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は完形個体が1点と土器片及び石器類が出土している。また、覆土中より骨片が出土している。図示し得た土器は27点である。1～10は口縁部破片。1・2・4～7は地文斜縄文に結節回転文を施文する。3は幅広の浅い沈線を、8は並行沈線間に鋸歯状の沈線が施される。9は斜縄文が、10は撚糸文が施文される。11は完形個体の深鉢形土器。口縁部は縄と単軸絡条体の側面圧痕が交互に施文される。口縁下部の微隆帯上に棒状施文具による斜方向からの刺突が施される。胴部は結束第1種が施される。12～20も口縁部破片。12・13は同一個体と思われる。口唇部に斜縄文を施する。口縁部に4条の側面圧痕を施し、胴部には結束第1種が施される。14・15・17は2～3条の側面圧痕が施される。16は波状を呈する口縁部破片。口縁上端と下端に2本1対の側面圧痕が施される。口縁下部の微隆帯上に棒状施文具による連続刺突が施される。18・19は口縁部には横・斜位の側面圧痕が施され、口縁下部に微隆帯を有する。18は隆帯上に棒状施文具による刺突文を有する。19は隆帯上に側面圧痕が施されるもので、口縁部には斜位の側面圧痕が施文される。20は波状口縁を呈する。側面圧痕間に小さな円形刺突を施す。21は胴部破片。格子状の斜縄文が施文される。22は口縁部破片。口縁上端部に単軸絡条体の側面圧痕が施され、胴部は木目状撚糸文が施文される。隆帯部分が欠落している。23は口縁がやや内湾している器形。口縁部には側面圧痕が施される。胴部は結束第1種。24・25は胴部に結束第1種が施され、24は口縁部に2条の側面圧痕が施される。26は口縁がやや外反する器形。単節が施される。27は波状口縁を呈する。口縁部に6条の並行沈線が施す。頸部には2条の並行沈線が2条施文され、条間に2条の鋸歯状沈線が施文される。頂部に上下2個の粘土粒の貼付がみられるが上部の1個が欠落している。胎土は緻密で焼成はとても堅緻である。

石器は3点図示できた。1は石鏃のような石器であるが先端部が先鋭でないことや基部の調整剝離が他の石鏃に比べ、急角度であり厚みがあることなどから不定形石器に組み入れられる。2・3は縦長剝片である。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

第379号土坑 (図64・90)

[位置] B O-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で明黄褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で130cm×110cm。底面は173cm×160cm。深さ88cmである。

[覆土] 27層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほほ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は略完形個体1点と土器片が出土している。1は口縁部を一部欠失する深鉢形土器。口縁下部に2条の側面圧痕を施文する。口縁部は幾何学様の側面圧痕を施文する。胴部は結節界転文と羽状縄文が施文される。2は胴部上半を欠失する。胴部文様は縦位の撚糸文が施文される。3も胴部上半を欠失する。羽状縄文が施文される。4・5は口縁部片。4は菱形様の羽状縄文、5は波状の側面圧痕が施文される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第380号土坑 (図65・90～92)

[位置] BX-20グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で96cm×86cm。底面は216cm×216cm。深さ190cmである。

[覆土] 31層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほほ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は底部付近の北側の壁寄りから完形個体4点と土器片が出土しているが、図示し得たのは22点である。1～14は口縁部片。1は地文斜縄文に横位の沈線が施文され、口唇部には斜縄文が施文される。2・3・12は口縁下部の微高な隆帯上に刺突が施される。口縁部は2・12が縄の側面圧痕、3は単軸絡条体の側面圧痕である。4・5同一個体。2列の微高な隆帯上に斜方向の刺突を有し、口縁部は側面圧痕が施文される。6は微高な隆帯上に斜位方向から深めの刺突が施され、口縁部は4条の深めの側面圧痕が施される。7は隆帯を有し、口縁部は側面圧痕が施文される。8は側面圧痕の条間と口縁上端に斜方向からの刺突を有する。2点ともに胴部は羽状縄文が施文される。9は地文縄文の口縁上端に側面圧痕を有する。10は波状口縁を呈する。微高な隆帯上に半裁竹管様の施文具により、押し引き状に刺突を施す。口縁部は側面圧痕が施される。11は2条の側面圧痕が施され、胴部は羽状縄文が施文される。13は幅広の隆帯の上下両端に半裁竹管様の施文具による押し引き様の刺突を有し、その間に多軸絡条体の側面圧痕を施文する。口縁部は上部にコイル状縄文の側面圧痕、下部に多軸絡条体の側面圧痕が施され、その間に半裁竹管によると思われる斜方向からの刺突が施文される。14はLR斜縄文が施文される。15は底部を欠失する。口縁部は結節回転による羽状縄文が施文され、胴部にも結節回転による羽状縄文が施文される。16は口縁の一部を欠失する。口縁部は矢羽根状に側面圧

痕が施文される。胴部は結束の羽状縄文が施文される。17も口縁の一部を欠失する。波状口縁を呈し、2条の側面圧痕と頂部から垂下するように縦位の側面圧痕が施文される。18は略完形の深鉢形土器。口縁部は側面圧痕が施文される。胴部は羽状縄文が施文される。19は胴部下半を欠失する。口縁部は波状を呈し、単節の側面圧痕を施文する。胴部は結束の斜縄文を施文する。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第381号土坑 (図66)

[位置] A Z・B A-28グリッドに位置する。

[確認] 第V層上面で黒色・楕円形の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸134cm、短軸84cmの楕円形である

[覆土] 単層である。

[壁・断面] 壁は底面よりやや斜めに立ち上がる。

[底面] 概ね平坦である。

[施設] なし。

[遺物] なし。

[小結] 確認の状況や隣接する第382号土坑の出土遺物等より縄文時代晩期終末期から弥生時代前期初頭にかけての時期の土坑と思われる。

(茅野 嘉雄)

#### 第382号土坑 (図66)

[位置] B A-28グリッドに位置する。

[確認] 第V層上面で黒色の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸86cm、短軸70の不整な円形を呈する。

[覆土] 単層である。

[壁・断面] 斜めに立ち上がる。

[底面] 2カ所に凹凸があるが概ね平坦である。

[施設] 認められない。

[遺物] 図示できるものではないが、土器片が1片壁際から出土した。第384号土坑出土の遺物に胎土・調整等が似ている。

[小結] 出土遺物より縄文時代晩期終末期から弥生時代前期初頭の時期の土坑であると思われる。

(茅野 嘉雄)

#### 第384号土坑 (図66・93)

[位置] B A-24・25グリッドに位置する。

[確認] 弥生遺物集中区の遺物を取り上げた後、V層上面に黒褐色土の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸240cm・短軸130cmの不整な楕円形を呈する。

[堆積土] 単層である。ほぼⅣ層の土と同様であり、出土遺物は包含層の遺物と接合するものが多い。したがって本遺構の覆土は人為堆積土であると考えられる。

[壁] 下場に明確な屈曲点を持たずに緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは約30cmである。

[底面] 皿状である。

[施設] なし。

[出土遺物] 弥生時代前期初頭の土器破片多数と若干の石器が出土している。土器は、甕、鉢、浅鉢、壺の4器種が出土している。甕と鉢の区別は、破片がほとんどであるので判然としないが、1はおそらく甕の口縁部であると考えられる。頸部に極わずかなくびれを持ち、胴部は口縁部径とほぼ同様な径を最大部で持ち、底部へとつながると考えられる。口縁は波状を呈し、波頂部には刻みが見られる。頸部には横位に幅約6mmの沈線が施される。先端の丸い施文具により施文されており、沈線底部には刷毛目のような細かい線が施文方向に沿って看取される。3～6は甕または鉢の胴部と考えられるものである。7～14は鉢の口縁部および胴部である。12は波状口縁であり、波頂部は無文であるが、他の部分には口唇部をまたぐ刻みが看取される。主文様は波状工字文であり、沈線間に刺突が充填されている。地文はやや立ち気味に斜行するLRである。15～24は浅鉢の破片である。変形工字文を施すものがほとんどである。2・25～34は壺の破片である。ほとんどが頸部から肩部にかけての破片である。31・32は同一個体である平行工字文の沈線内に刺突がなされている。本土坑出土土器について特徴的なことは甕以外のすべての器種に赤色顔料の塗布が見られることである。特に煮炊き用の鉢に関してはそのほとんどに塗布されていると言っても良い。また、壺や浅鉢などにも、はっきりとはしないが、沈線間や、変形工字文の交点の刺突部等にその痕跡が見られる。炭化物の付着に関しては、鉢の内外面にタール状に付着している個体が多く確認された。石器は3点出土している。3点共に不定形石器であり、側縁に角度の浅い調整剝離による刃部が作出されている。

[小結] 出土遺物より弥生時代前期初頭の遺構であると考えられる。

(茅野 嘉雄)

#### 第387号土坑 (図66・94・102)

[位置] AT-39グリッドに位置する。

[確認] XI層上面で明褐色、時褐色土の広がりとして確認した。

[重複] 第388号土坑と重複しており、本土坑の方が先行する。

[平面形・規模] 全体形状はつかめないが、残存している分の長軸90cm・短軸110cmであり、平面形はおそらく楕円形であると思われる。

[堆積土] 2層に分層された。覆土1層は褐色粘土質土が投げ込まれている。人為堆積の様相を呈する。

[壁] 確認面から約20cm残存しており、底面よりほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 概ね平坦である。

[施設] 確認されなかった。

[出土遺物] 石鏃1点と土器の破片が出土している。2は表面にLRを横位回転施文している。

[小結] 出土遺物が少ないため時期は明確ではない。

(茅野 嘉雄)

#### 第388号土坑 (図66・94)

[位置] AT-39グリッドに位置する。

[確認] XI層上面に暗褐色、褐色土の広がりとして確認した。

[重複] 第387号土坑と重複しており、本土坑が後出する。

[平面形] 開口部は円形、底面はやや不整な円形である。

[規模] 開口部で直径約1m、底面で長軸140cm・短軸120cm、確認面からの深さ cm。

[堆積土] 6層に分層された。概ね自然堆積の様相を呈する。

[壁・断面] 開口部に向かって持ち送り気味に立ち上がる。断面形は概ねフラスコ型であるが、やや底面と開口部とにずれが生じている。

[底面] 概ね平坦である。

[施設] なし。

[出土遺物] 底面より土器片が出土している。表面にはLRを横位回転施文している。

[小結] 出土遺物等より縄文時代前期のフラスコ状土坑であると考えられる。

(茅野 嘉雄)

#### 第389号土坑 (図66)

[位置] AT-40グリッドに位置する。

[確認] XI層上面に暗褐色土の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸140cm・短軸94cmの長円形である。

[堆積土] 3層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

[壁] ほほ垂直に立ち上がる。

[底面] 概ね平坦である。

[施設] 確認されなかった。

[出土遺物] なし。

[小結] 出土遺物等の時期決定要素にかけるが、確認時の状況より縄文時代前期の遺構と考えられる。

(茅野 嘉雄)

#### 第392号土坑 (図67・94・102)

[位置] BK-17・18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。



[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で165cm×142cm。底面は227cm×220cm。深さ73cmである。

[覆土] 19層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや鋭角に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央に深さ14cmの小ピットが検出された。

[遺物] 遺物は土器片及び石器類が出土している。図示し得た土器片は2点。1は口縁部破片。口縁部と口縁下部の隆帯上に側面圧痕が施される。2も口縁部破片。口縁上端部では斜位、その下部では横位に側面圧痕が施される。

石器は2点図示し得た。1は半円状扁平打製石器である。機能面に看取されるスリ痕は比較的広い。2は表面が全体的に磨かれている。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

(笹森 一朗)

#### 第393号土坑 (図67)

[位置] AV-42・43グリッドに位置する。

[確認] X層上面に黒褐色土の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸180cm短軸66cmの長楕円形である。

[堆積土] 2層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

[壁] やや斜めに立ち上がる。

[底面] 北東側に向かって傾斜している。

[施設] 確認されなかった。

[出土遺物] なし。

[小結] 所属時期は明らかではない。

(茅野 嘉雄)

#### 第394号土坑 (図67)

[位置] BU・V-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、長軸114cm。短軸110cm。深さ27cmである。

[覆土] 8層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面から急に立ち上がり、断面は箱状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 剥片石器が1点出土している。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが詳細な時期・性格は不明。

第396号土坑 (図66)

[位置] A T-37グリッドに位置する。

[確認] 第55号竪穴住居跡の床面および壁面に黒色土の広がりとして確認した。

[重複] 第55号住居跡と切り合い関係にあり、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 開口部直径約80cm底面直径約60cmの円形を呈する。

[堆積土] 3層に分層された。

[壁] 55号住居跡の確認面より約60cm残存しており、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底] 概ね平坦である。

[施設] なし。

[出土遺物] なし。

[小結] 本遺構は中頼浮石層を掘り込んでおり、なおかつ第55号住居跡に切られているため、所属時期は円筒下層 a 式期にあたると思われる。

(茅野 嘉雄)

第397号土坑 (図67・94)

[位置] B L-22グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で87cm×80cm。底面は154cm×150cm。深さ90cmである。

[覆土] 18層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は略完形個体が1点と土器片が出土している。1は底部の一部を欠失する深鉢形土器。口縁部はL R斜縄文が施文され、口唇部にはR L斜縄文が施文される。頸部から下に結束回転文が、その下部には羽状縄文が施文される。2・3は口縁部破片。2は口縁部に矢羽状にコイル縄文の側面圧痕を施文し口縁下部の微隆帯上に棒状施文具による円形刺突を施す。胴部には多軸絡条体を施す。3は口縁部に側面圧痕を施文し微隆帯上に棒状工具による円形刺突を施す。胴部は結束第1種。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

(笹森 一朗)

第398号土坑 (図67・94・95・102・103)

[位置] B P-19・20グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第365号土坑と重複しており、本土坑が先行する。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で85cm×80cm。底面は174cm×170cm。深さ105cmである。

[覆土] 22層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面に深さ8cmの小ピットが検出された。

[遺物] 遺物は底面付近より完形個体が2点と土器片及び石器類が出土している。覆土中からは骨片、炭化クルミも出土している。図示し得た土器は8点である。1～5は口縁部破片。1は複節の斜縄文を施文する。2は地文縄文で口縁下部に側面圧痕を施す。3・4は同一個体と思われる。口縁下部の微隆帯に2列の斜方向からの刺突を施す。口縁部は側面圧痕が施される。胴部は網目状撚糸文が施文される。7も口縁下部に微高な隆帯を有するが、隆帯上には縄の側面圧痕が施され、口縁部にも側面圧痕が施文される。胴部は網目状撚糸文。6・7は略完形品の深鉢形土器である。6は口縁下部に微隆帯を有し、その上に1列の斜方向からの刺突が施文される。口縁部は側面横圧痕が施され、口縁上端部には斜位の側面圧痕が施文される。7はやや幅広の微隆帯上に2列の斜方向からの刺突を有し、口縁部には側面圧痕が施文される。8は胴部上半を欠失する。胴部には羽状縄文が施文される。

石器は5点図示できた。1は楔形石器である。4は磨製石斧である。3と5は扁平な礫の直線的な側縁に剝離とスリ痕が看取される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第399号土坑 (図68・95・103)

[位置] B P・Q-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 一部401号土坑と重複しているが、新旧関係は不明。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で118cm×96cm。底面は170cm×160cm。深さ80cmである。

[覆土] 26層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は土器片及び剝片石器が出土している。図示し得た土器は1点である。1は底部及び胴部下半。羽状縄文を施文する。

石器は2点である。1は石匙である。器体周縁には比較的急角度な調整剝離が施されている。2は半円状扁平打製石器である表面の一部に擦痕が見られる。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第400号土坑 (図69・95・103)

[位置] B P-18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 一部第402号土坑と重複しているが、新旧関係は不明。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で162cm×145cm。底面は203cm×198cm。深さ118cmである。

[覆土] 49層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央部に深さ23cmの小ピットが検出された。

[遺物] 遺物は土器片及び剥片が出土している。図示し得た土器は7点である。1は底部及び胴部・口縁部の一部を欠失する。地文斜縄文に結節回転文を施文する。2は口縁部破片。口唇部に斜位の刻み目を有する。幅広の並行沈線を3条施文する。3も口縁部破片。結節回転文を施文する。4は略完形品。山形の波状口縁を呈する。口唇部に側面圧痕を有する。胴部は単節LR斜縄文。5～7も口縁部破片。口縁下部に微隆帯を有し、隆帯上に刺突が施される。口縁部は側面圧痕が施され、6は円形刺突も施される。

図示し得た石器は1点である。1は縦長剥片の一部にノッチ状の剝離が施されている。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

(笹森 一朗)

#### 第401号土坑 (図68・95・103)

[位置] BQ-19グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で93cm×80cm。底面は148cm×137cm。深さ74cmである。

[覆土] 28層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は土器片及び剥片石器が出土している。図示し得た土器は4点である。全て口縁部片。1は地文斜縄文に結節回転文を施文する。2・3は結束による羽状縄文を施文する。4は波状口縁を呈する。口縁下部に2条の側面圧痕を施し、条間に円形の刺突を施文する。口縁部は山形の側面圧痕が施される。

石器は1点の出土である。1は分厚い縦長剥片を素材としたエンドスクレイパーである。背面には自然面が残る。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第402号土坑 (図69・95)

[位置] BP-17・18グリッドに位置する。

[確認] 第Ⅳ層上面で褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 一部第400号土坑と重複しているが、新旧関係は不明。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で70cm×60cm。底面は116cm×104cm。深さ80cmである。

[覆土] 16層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は土器片が数点出土しているが図示し得たのは1点である。1は口縁部破片。口縁下部に断面三角形の隆帯を有し、その上半に斜方向からの刺突を有する。口縁部には側面圧痕が施され、口唇部には斜縄文が施文される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第403号土坑 (図68・96・103)

[位置] B P-18グリッドに位置する。

[確認] 第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で106cm×90cm。底面は170cm×170cm。深さ68cmである。

[覆土] 22層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] 底面中央部に深さ20cmの小ピットとそこから延びる溝が2条検出された。

[遺物] 遺物は土器片および石器類が出土している。図示し得た土器は3点である。1は口縁部片。結節回転文が施文され、裏面にも斜縄文が施文される。口唇部に側面圧痕が施される。2も口縁部片。縦位の隆帯を有する。口縁部は側面圧痕が施文される。3は胴部片。不整な羽状縄文が施される。

石器は2点出土した。1は板状の礫の直線的な側縁に両面からの調整剝離を施している。側縁の稜線上にはスリ痕が見られる。2は楕円形の礫の上下両端に敲打痕が看取される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

#### 第404号土坑 (図67)

[位置] AU-41グリッドに位置する。

[確認] X I層上面に黒褐色土の広がりとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長軸132cm・短軸120cmのやや不整な円形である。

[堆積土] 8層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[壁] 確認面から約60cm残存しており、底面より20cm位のところでやや内側に傾くものの、概ね垂

直に立ち上がっている。

[底面] 概ね平坦である。

[施設] 確認されなかった。

[出土遺物] なし。

[小結] 所属時期は明確ではない。

(茅野 嘉雄)

#### 第405号土坑 (図69・96・104)

[位置] B P-18グリッドに位置する。

[確認] 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形] 開口部及び底面は円形を呈する。

[規模] 開口部で96cm×86cm。底面は200cm×190cm。深さ106cmである。

[覆土] 22層に分層された。

[壁・断面] 壁は底面からやや内湾気味に立ち上がり、断面はフラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[施設] なし。

[遺物] 遺物は略完形土器が1個体と土器片及び石器類が出土している。1は略完形の深鉢形土器。口縁部に2本1対の縦の隆帯を有する。単軸絡条体の側面圧痕と円形の刺突を有する。口頸部には結節回転文と円形の刺突が施文される。胴部は単軸絡条体第1A類が施される。2～11・14は口縁部破片。2は口縁部に2本1対の側面圧痕を3条施し下の条間に連続した押し引き様の刺突を施す。胴部は結束第1類が施される。3～5は同一個体と思われる。波状口縁を呈し側面圧痕が施される。胴部は結束第1類が施される。6～8は側面圧痕が施される。7は口縁上端と下端に半裁竹管状の施文具による刺突が施される。9～11は波状口縁を呈し隆帯を有する。隆帯上には側面圧痕が施される。隆帯による区画内は側面圧痕が施される。胴部は単軸絡条体第1A類が施される。波状頂部の口頸部に楕円形の透かし穴を有する。15も隆帯を有し隆帯上に円形の刺突が施文される。隆帯による区画内に側面圧痕が施される。胴部は単軸絡条体1A類と縦位の結節回転文が施文される。14はミニチュア土器と思われる。口縁上端及び口唇部に楕円形の刺突が施され、刺突の下に円孔が施される。13は胴部破片。多軸絡条体が施文される。

石器は5点出土している。1・2は半円状扁平打製石器である。双方とも欠損しているが、3の折れ面にはスリ痕が観られる。この石器の側縁には欠損前の使用痕が側縁稜線上に見られるが幅は狭い。4は凹み石であり、5は扁平な円礫の側面に敲打痕が帯状に看取される。

[小結] 縄文時代前期のフラスコ状土坑である。

(笹森 一朗)

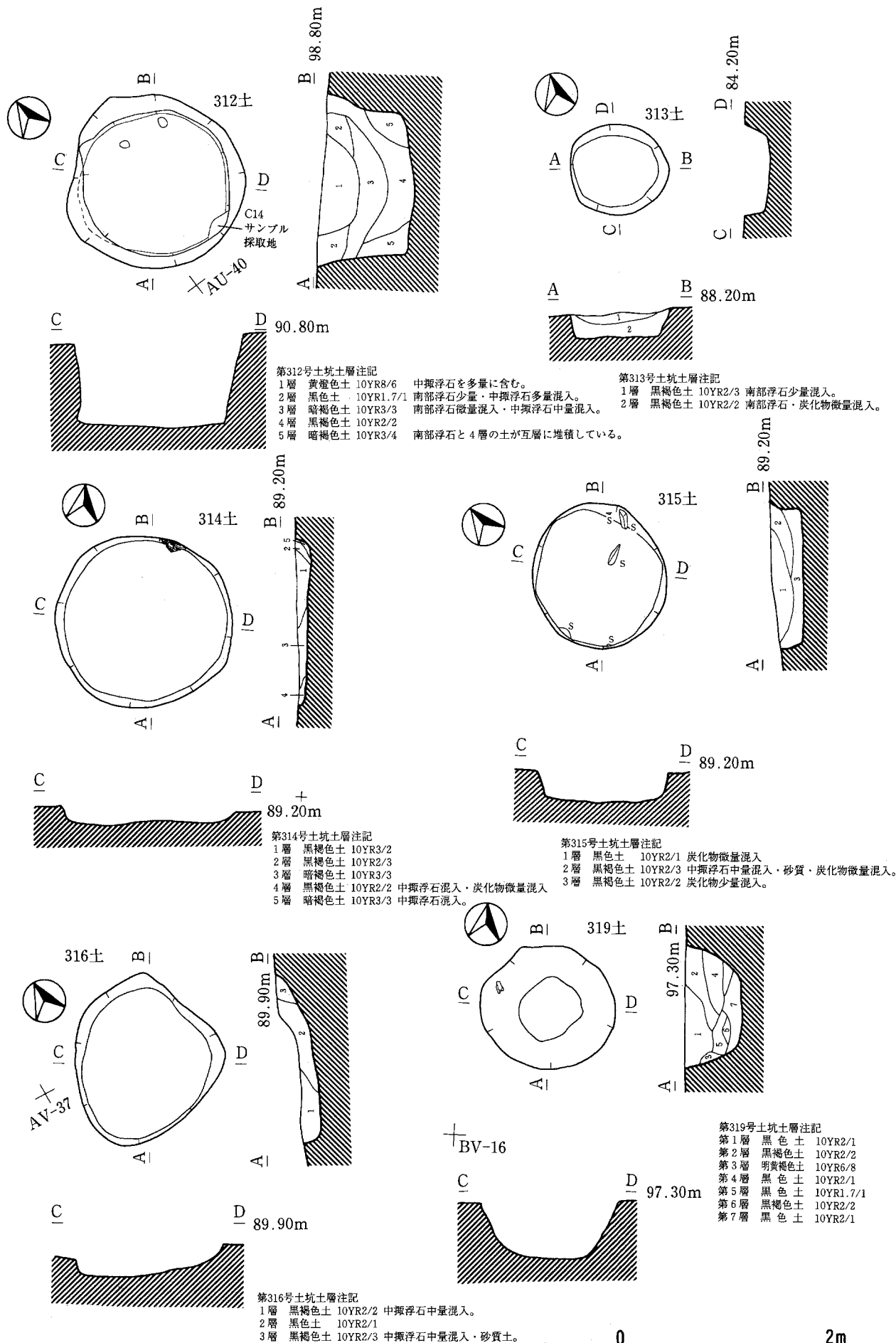


図51 第312・313・314・315・316・319号土坑

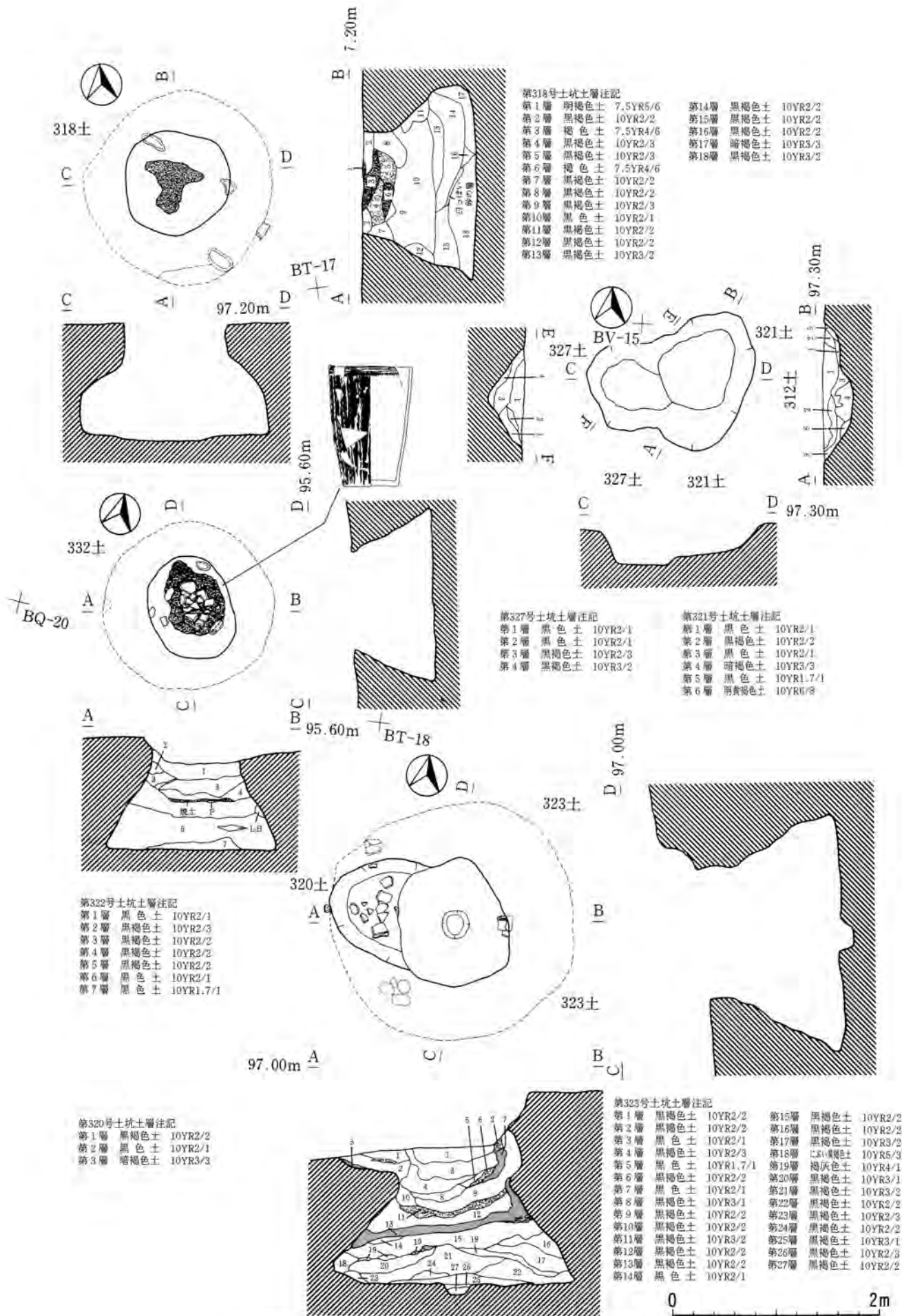
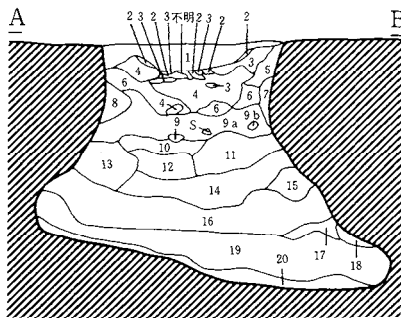
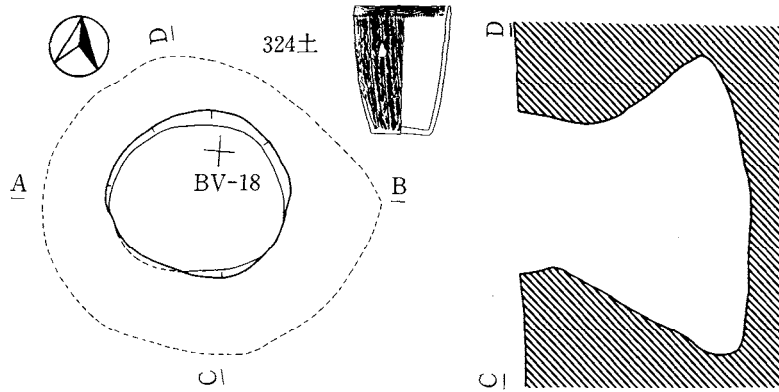


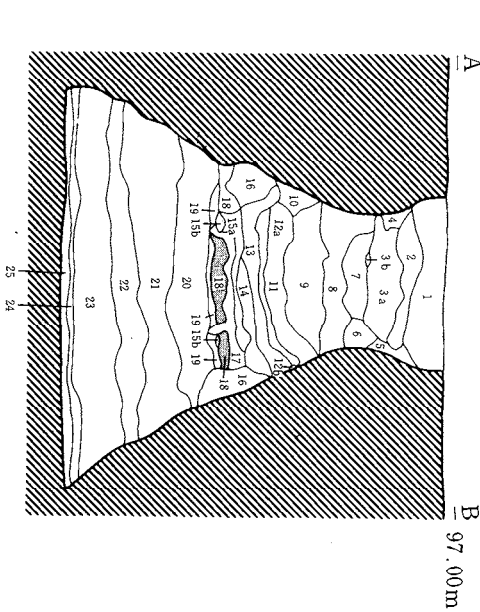
图52 第318·320·321·322·323·327号土坑





第324号土坑土層注記

第1層	黑褐色土	10YR2/2	第11層	黑褐色土	10YR2/2
第2層	灰褐色土	10YR6/3	第12層	黑褐色土	10YR2/3
第3層	黑褐色土	10YR2/3	第13層	黑色土	10YR2/1
第4層	褐色土	10YR4/6	第14層	黑褐色土	10YR2/2
第5層	黑褐色土	10YR2/2	第15層	黑褐色土	10YR2/3
第6層	黑色土	10YR2/1	第16層	黑褐色土	10YR2/2
第7層	暗褐色土	10YR3/3	第17層	暗褐色土	10YR3/3
第8層	黑褐色土	10YR3/2	第18層	灰褐色土	10YR7/3
第9a層	黑褐色土	10YR2/2	第19層	暗褐色土	10YR3/3
第9b層	灰褐色土	10YR4/3	第20層	暗褐色土	10YR3/4
第10層	黑褐色土	10YR2/2			



第325号土坑土層注記

第1層	黑褐色土	10YR2/2	第16層	黑褐色土	10YR2/3
第2層	黑褐色土	10YR2/2	第17層	黑色土	10YR1.7/1
第3層	黑褐色土	10YR2/3	第18層	黑褐色土	10YR2/2
第3a層	褐色土	10YR4/4	第19層	黑褐色土	10YR2/3
第3b層	黑色土	10YR2/1	第20層	黑褐色土	10YR2/2
第4層	黑褐色土	10YR2/2	第21層	黑褐色土	10YR2/2
第5層	黑褐色土	10YR2/2	第22層	黑褐色土	10YR3/1
第6層	黑褐色土	10YR2/3	第23層	黑褐色土	10YR3/1
第7層	暗褐色土	10YR3/3	第24層	黑褐色土	10YR2/3
第8層	黑褐色土	10YR3/2	第25層	灰黃褐色土	10YR5/2
第9層	黑褐色土	10YR2/2			
第10層	黑褐色土	10YR3/2			
第11層	黑褐色土	10YR2/2			
第12層	黑褐色土	10YR2/2			
第12a層	暗褐色土	10YR3/4			
第12b層	暗褐色土	10YR3/4			
第13層	黑褐色土	10YR2/3			
第14層	灰褐色土	10YR5/4			
第15a層	暗褐色土	10YR3/4			
第15b層	褐色土	10YR4/4			

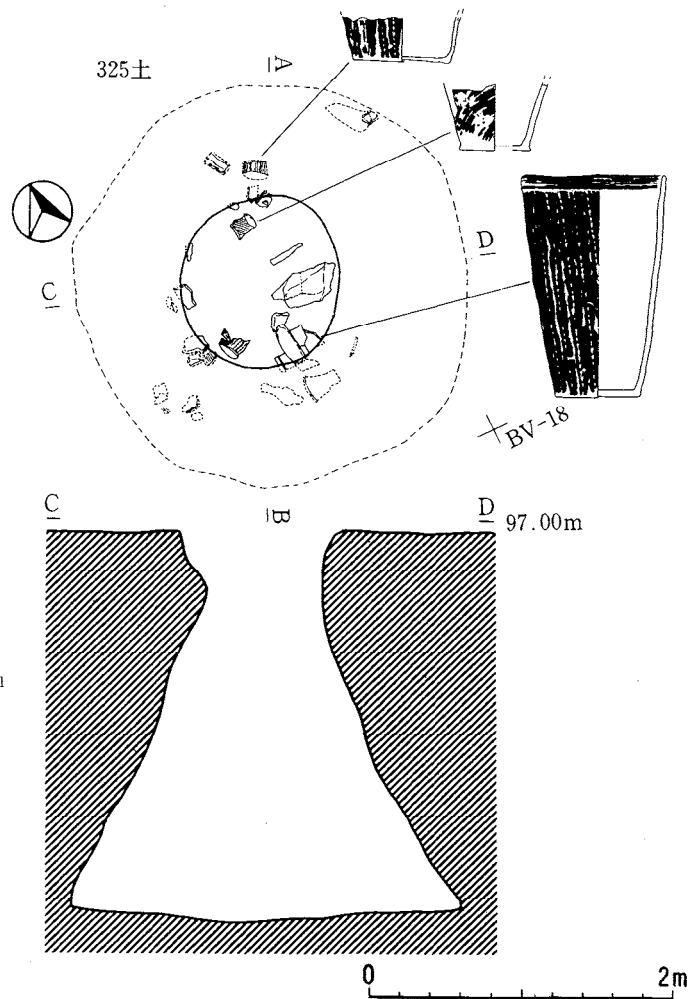


图53 第324·325号土坑

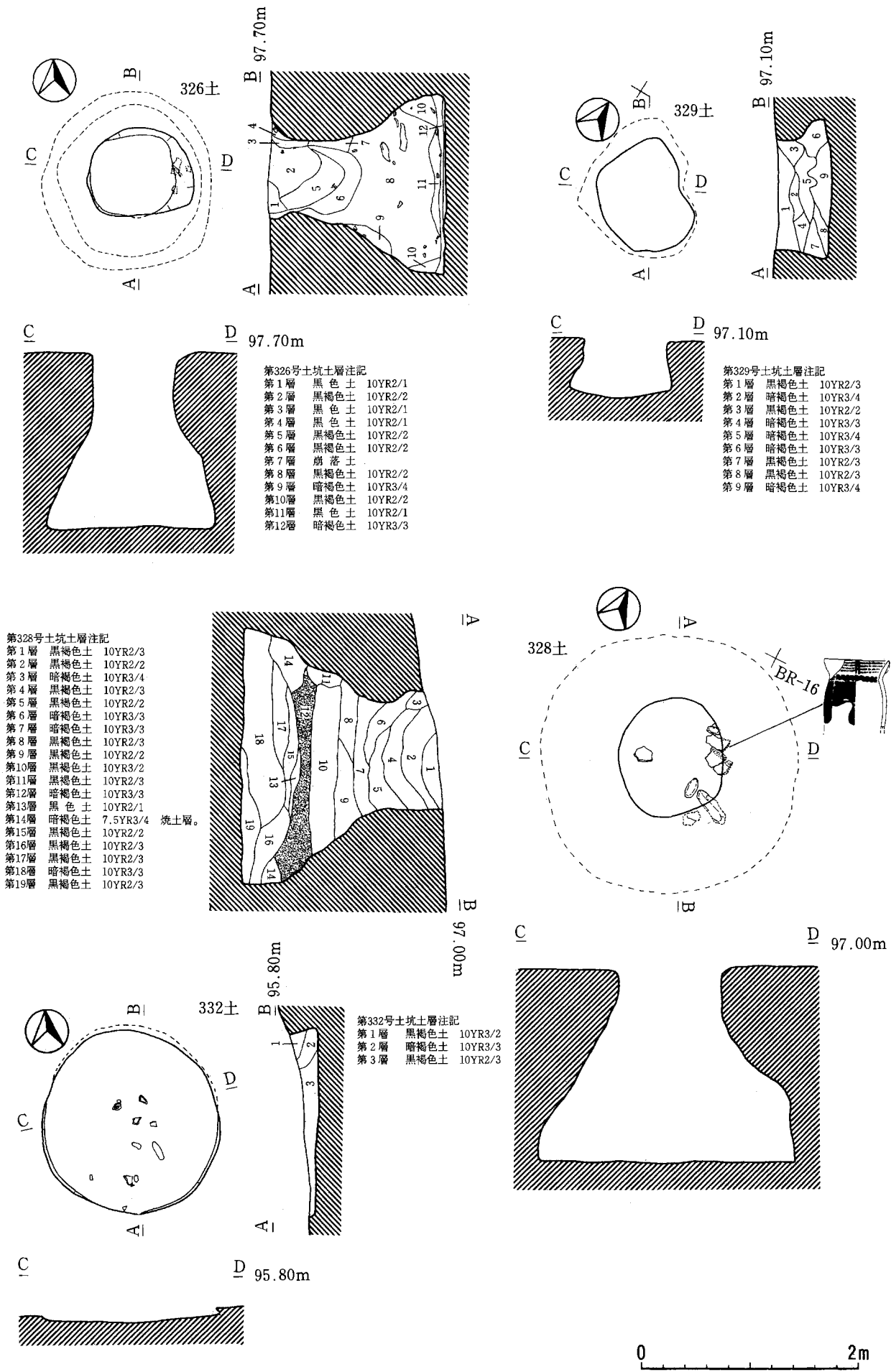


图54 第326·328·329·332号土坑

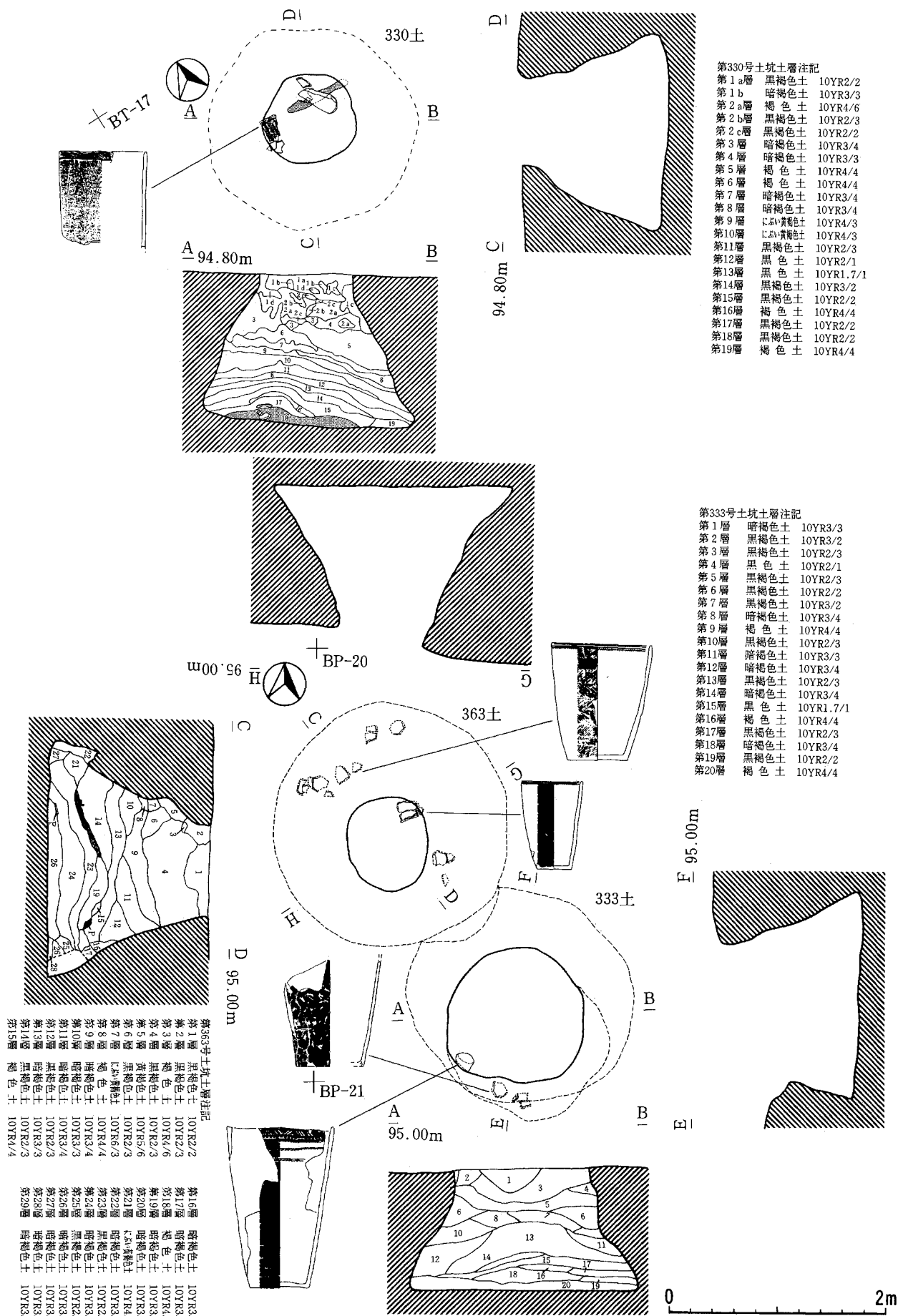


图55 第330·333·363号土坑

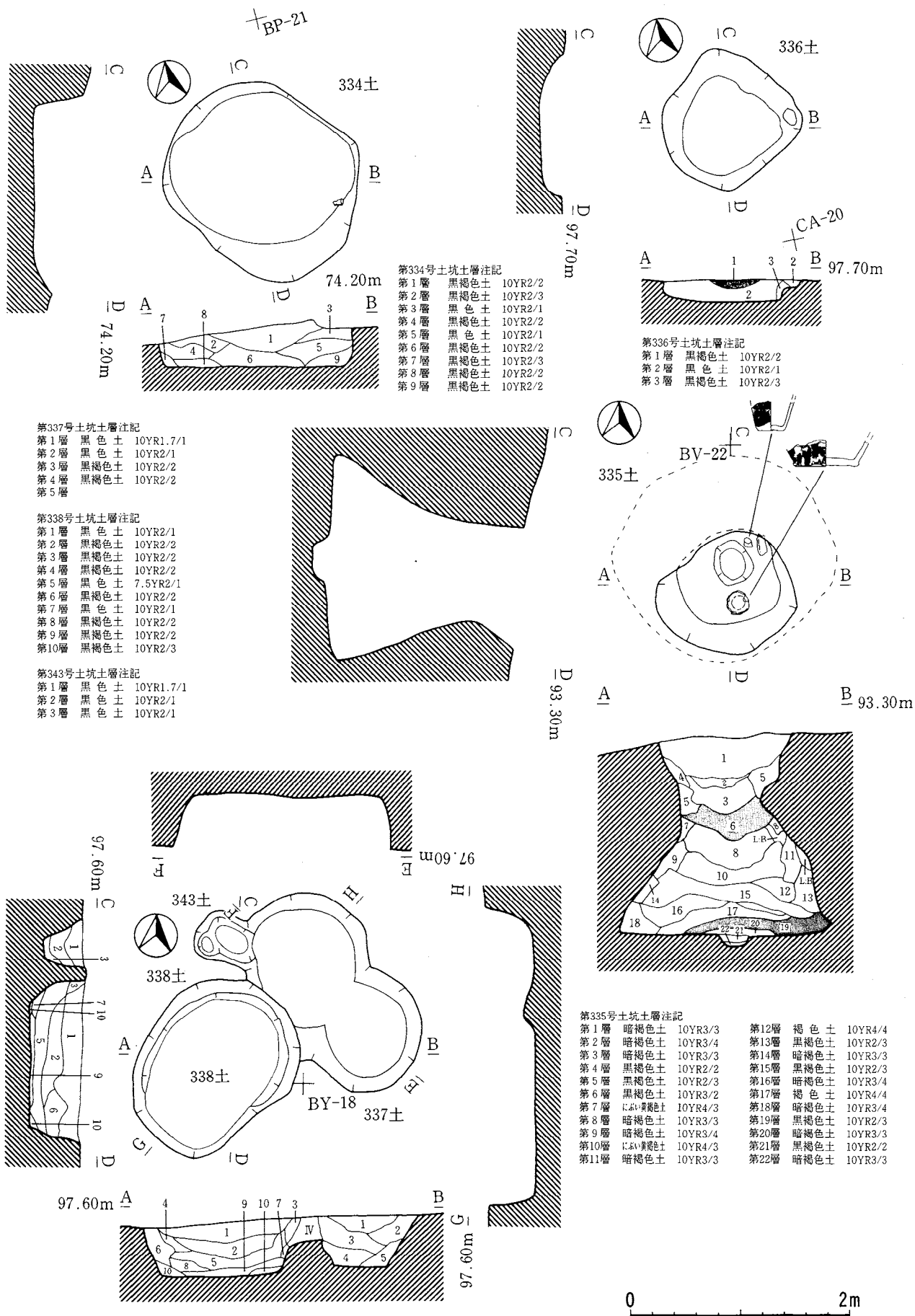
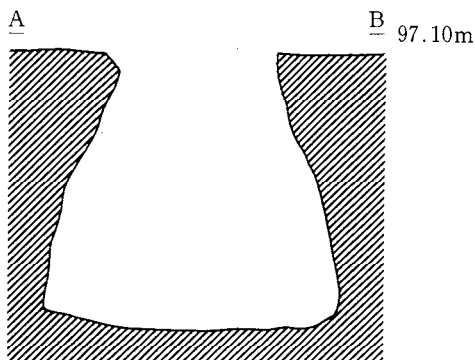
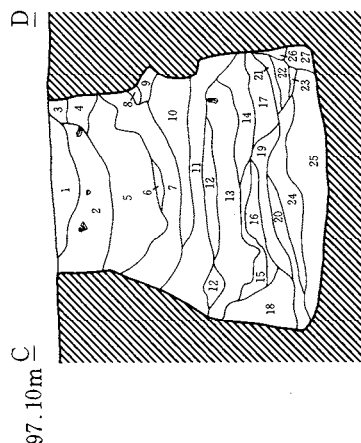
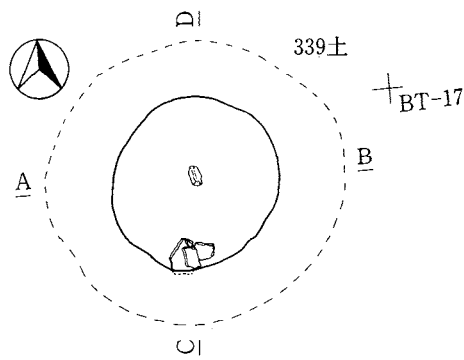
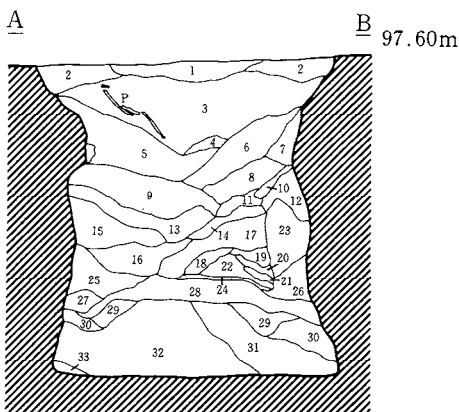
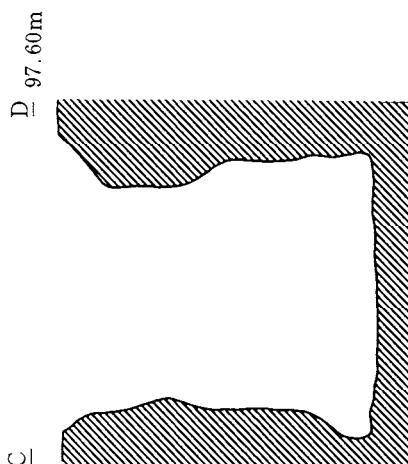
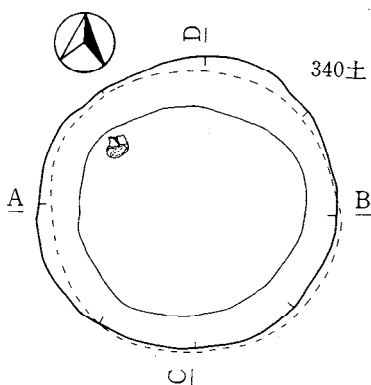


图56 第334·335·336·337·338·343号土坑



第339号土坑土層注記

第1層	黑褐色土	10YR2/2	第15層	灰褐色土	10YR6/4
第2層	黑褐色土	10YR2/2	第16層	黑褐色土	10YR2/2
第3層	黑褐色土	10YR2/3	第17層	黑褐色土	10YR2/2
第4層	黑褐色土	10YR2/3	第18層	灰褐色土	10YR4/3
第5層	黑褐色土	10YR2/2	第19層	暗褐色土	10YR3/3
第6層	暗褐色土	10YR3/4	第20層	黑褐色土	10YR2/3
第7層	黑褐色土	10YR2/3	第21層	灰褐色土	10YR4/3
第8層	褐色土	10YR4/6	第22層	暗褐色土	10YR3/3
第9層	黑褐色土	10YR2/3	第23層	黑褐色土	10YR2/3
第10層	黑褐色土	10YR2/2	第24層	黑褐色土	10YR2/2
第11層	黑褐色土	10YR2/2	第25層	灰褐色土	10YR4/3
第12層	黑褐色土	10YR2/3	第26層	暗褐色土	10YR3/4
第13層	灰褐色土	10YR4/3	第27層	黑褐色土	10YR2/2
第14層	暗褐色土	10YR3/3			



第340号土坑土層注記

第1層	黑色土	10YR1.7/1	第18層	黑色土	10YR2/1
第2層	黑色土	10YR2/1	第19層	黄褐色土	10YR5/8
第3層	黑褐色土	10YR2/2	第20層	黑色土	10YR2/1
第4層	暗褐色土	10YR3/3	第21層	褐色土	10YR4/6
第5層	黑褐色土	10YR2/3	第22層	黑褐色土	10YR2/2
第6層	黑色土	10YR2/1	第23層	黄褐色土	10YR5/6
第7層	明黄褐色土	10YR7/6	第24層	黄褐色土	10YR5/8
第8層	黑褐色土	10YR2/2	第25層	褐色土	10YR4/6
第9層	黑褐色土	10YR3/2	第26層	灰褐色土	10YR6/4
第10層	明黄褐色土	10YR7/6	第27層	灰褐色土	10YR7/2
第11層	黑色土	10YR2/1	第28層	黑褐色土	10YR2/2
第12層	暗褐色土	10YR3/4	第29層	暗褐色土	10YR3/4
第13層	黑褐色土	10YR2/3	第30層	灰白色土	10YR8/1
第14層	黑褐色土	10YR2/2	第31層	黑褐色土	10YR2/2
第15層	褐色土	10YR4/6	第32層	黑褐色土	10YR3/2
第16層	黑褐色土	10YR3/2	第33層	灰褐色土	10YR6/3
第17層	黑褐色土	10YR3/2			

0 2m

图57 第339·340号土坑

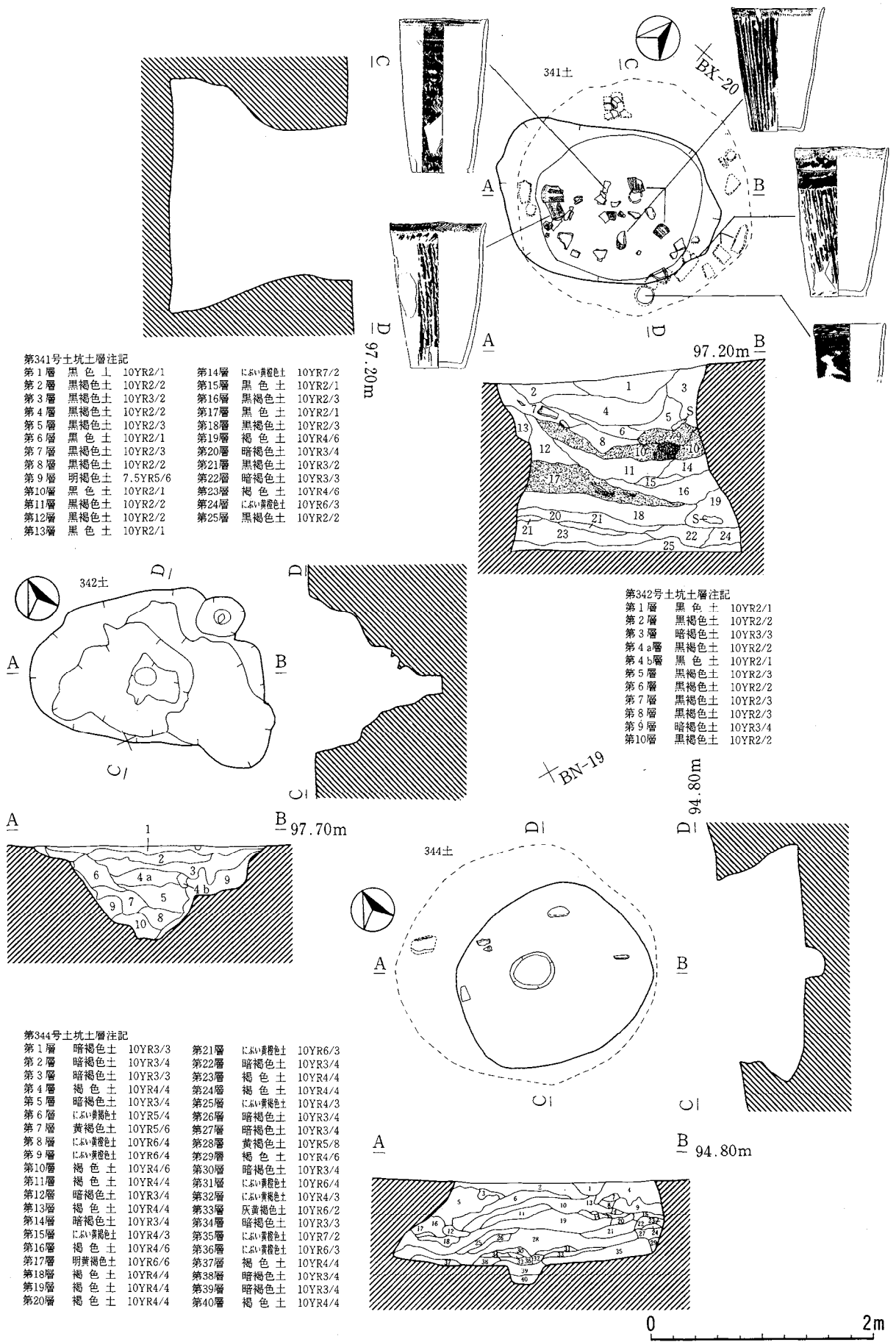
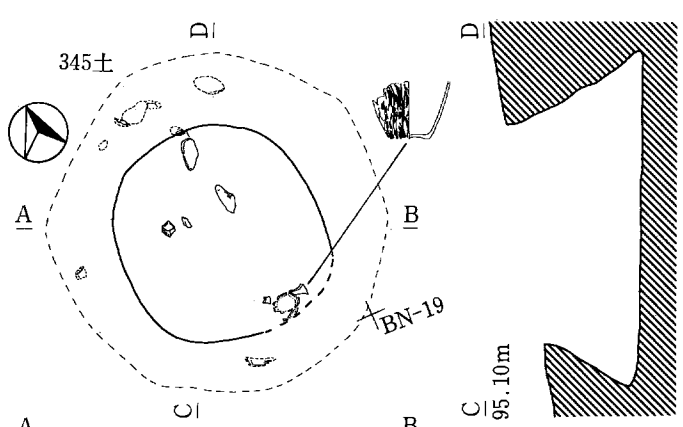
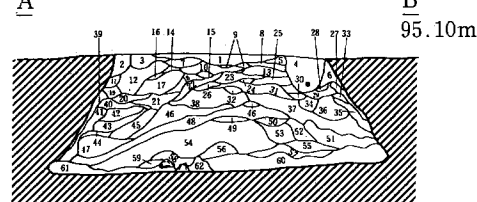


图58 第341·342·344号土坑

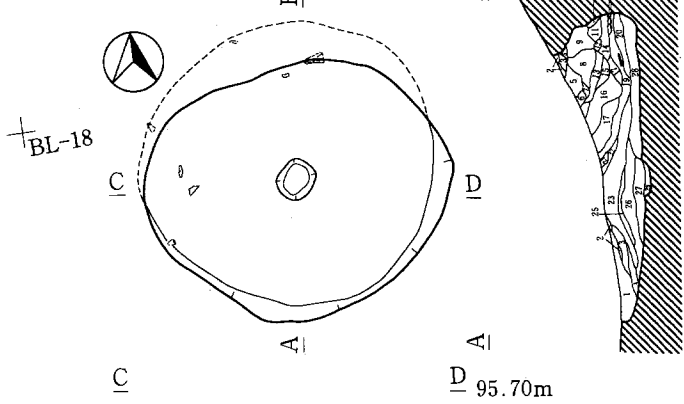


第345号土坑土層注記

第1層	黒褐色土	10YR3/2	第18層	にぶい黄褐色土	10YR5/3
第2層	黒褐色土	10YR2/3	第19層	褐色土	10YR4/4
第3層	黒褐色土	10YR2/3	第20層	暗褐色土	10YR3/4
第4層	にぶい黄褐色土	10YR6/3	第21層	暗褐色土	10YR3/4
第5層	暗褐色土	10YR3/4	第22層	にぶい黄褐色土	10YR5/3
第6層	暗褐色土	10YR3/3	第23層	暗褐色土	10YR3/4
第7層	暗褐色土	10YR3/3	第24層	にぶい黄褐色土	10YR6/3
第8層	暗褐色土	10YR3/4	第25層	暗褐色土	10YR3/4
第9層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	第26層	黒褐色土	10YR2/3
第10層	黒褐色土	10YR3/2	第27層	褐色土	10YR4/4
第11層	褐色土	10YR4/4	第28層	にぶい黄褐色土	10YR4/3
第12層	暗褐色土	10YR3/4	第29層	にぶい黄褐色土	10YR5/4
第13層	暗褐色土	10YR3/3	第30層	暗褐色土	10YR3/4
第14層	暗褐色土	10YR3/3	第31層	にぶい黄褐色土	10YR5/4
第15層	暗褐色土	10YR3/3	第32層	灰黄褐色土	10YR6/2
第16層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	第33層	褐色土	10YR4/4
第17層	黒褐色土	10YR2/3	第34層	にぶい黄褐色土	10YR5/3

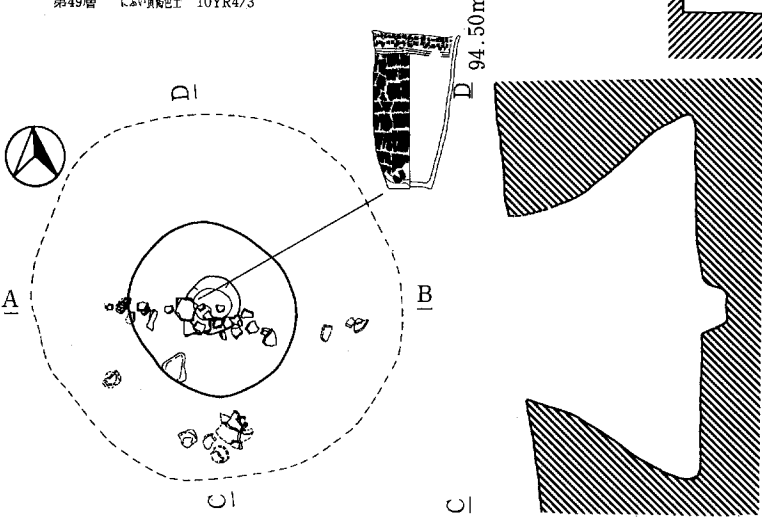


第35層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	第50層	にぶい黄褐色土	10YR4/3
第36層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	第51層	にぶい黄褐色土	10YR5/3
第37層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	第52層	にぶい黄褐色土	10YR4/3
第38層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	第53層	にぶい黄褐色土	10YR5/4
第39層	暗褐色土	10YR3/4	第54層	にぶい黄褐色土	10YR5/3
第40層	暗褐色土	10YR3/4	第55層	にぶい黄褐色土	10YR5/3
第41層	灰黄褐色土	10YR5/2	第56層	褐色土	10YR4/4
第42層	灰黄褐色土	10YR5/2	第57層	褐色土	10YR4/3
第43層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	第58層	褐色土	10YR5/4
第44層	灰黄褐色土	10YR5/2	第59層	褐色土	10YR4/4
第45層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	第60層	褐色土	10YR4/4
第46層	にぶい黄褐色土	10YR6/3	第61層	褐色土	10YR4/4
第47層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	第62層	褐色土	10YR4/4
第48層	にぶい黄褐色土	10YR4/3			
第49層	にぶい黄褐色土	10YR4/3			



第346号土坑土層注記

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	第18層	暗褐色土	10YR3/3
第2層	八戸火山灰		第19層	黒褐色土	10YR2/2
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	第20層	黒褐色土	10YR2/2
第4層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	第21層	暗褐色土	10YR3/3
第5層	暗褐色土	10YR3/3	第22層	暗褐色土	10YR3/4
第6層	黒褐色土	10YR3/2	第23層	にぶい黄褐色土	10YR4/3
第7層	黒褐色土	10YR3/2	第24層	暗褐色土	10YR3/3
第8層	暗褐色土	10YR3/3	第25層	にぶい黄褐色土	10YR5/4
第9層	黒褐色土	10YR2/2	第26層	暗褐色土	10YR3/3
第10層	黒褐色土	10YR2/2	第27層	暗褐色土	10YR3/4
第11層	黒褐色土	10YR2/2	第28層	にぶい黄褐色土	10YR4/3
第12層	暗褐色土	10YR3/3	第29層	にぶい黄褐色土	10YR5/3
第13層	暗褐色土	10YR3/4			
第14層	黒褐色土	10YR3/2			
第15層	黒褐色土	10YR2/2			
第16層	黒褐色土	10YR2/3			
第17層	黒褐色土	10YR2/2			
第18層	暗褐色土	10YR3/3			
第19層	黒褐色土	10YR3/2			
第20層	にぶい黄褐色土	10YR4/3			
第21層	黒褐色土	10YR2/3			
第22層	暗褐色土	10YR3/4			
第23層	にぶい黄褐色土	10YR4/3			
第24層	暗褐色土	10YR3/3			
第25層	にぶい黄褐色土	10YR5/4			
第26層	暗褐色土	10YR3/3			
第27層	暗褐色土	10YR3/4			
第28層	にぶい黄褐色土	10YR4/3			
第29層	にぶい黄褐色土	10YR5/3			



第348号土坑土層注記

第1層	黒褐色土	10YR2/2	第8層	黒褐色土	10YR3/2
第2層	黒褐色土	10YR2/3	第9層	黒褐色土	10YR2/2
第3層	暗褐色土	10YR3/3	第10層	黒褐色土	10YR2/3
第4層	黒褐色土	10YR2/3	第11層	黒褐色土	10YR2/2
第5層	暗褐色土	10YR3/3	第12層	黒褐色土	10YR2/2
第6層	黒褐色土	10YR3/2	第13層	黒褐色土	10YR2/2
第7層	褐色土	10YR4/4	第14層	黒褐色土	10YR2/3
第8層	黒褐色土	10YR3/2	第15層	黒褐色土	10YR2/2
第9層	黒褐色土	10YR2/2	第16層	暗褐色土	10YR3/3

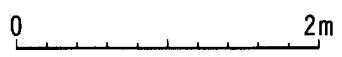
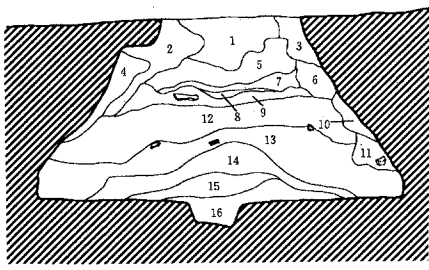


図59 第345・346・348号土坑

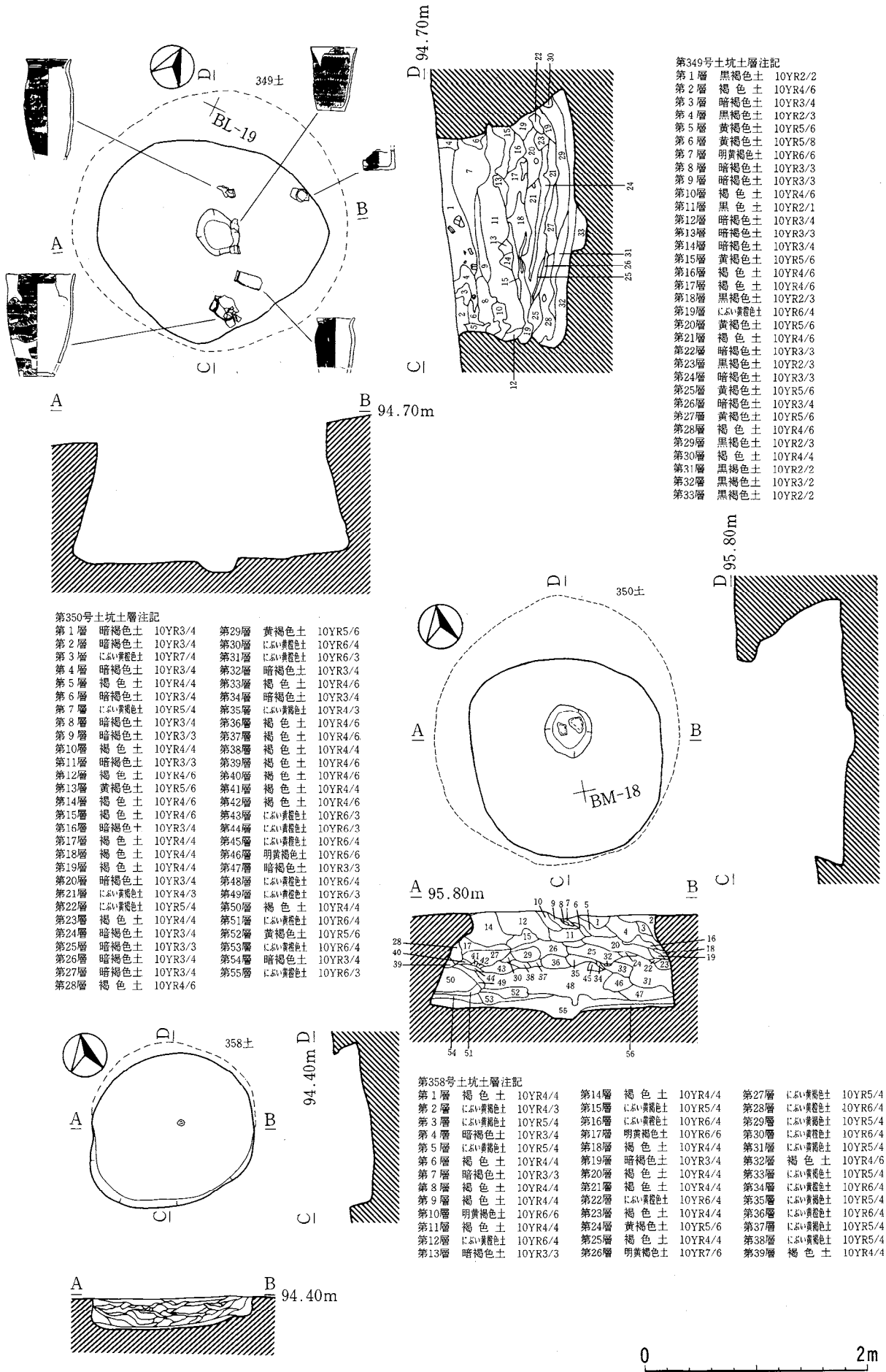


图60 第349·350·358号土坑





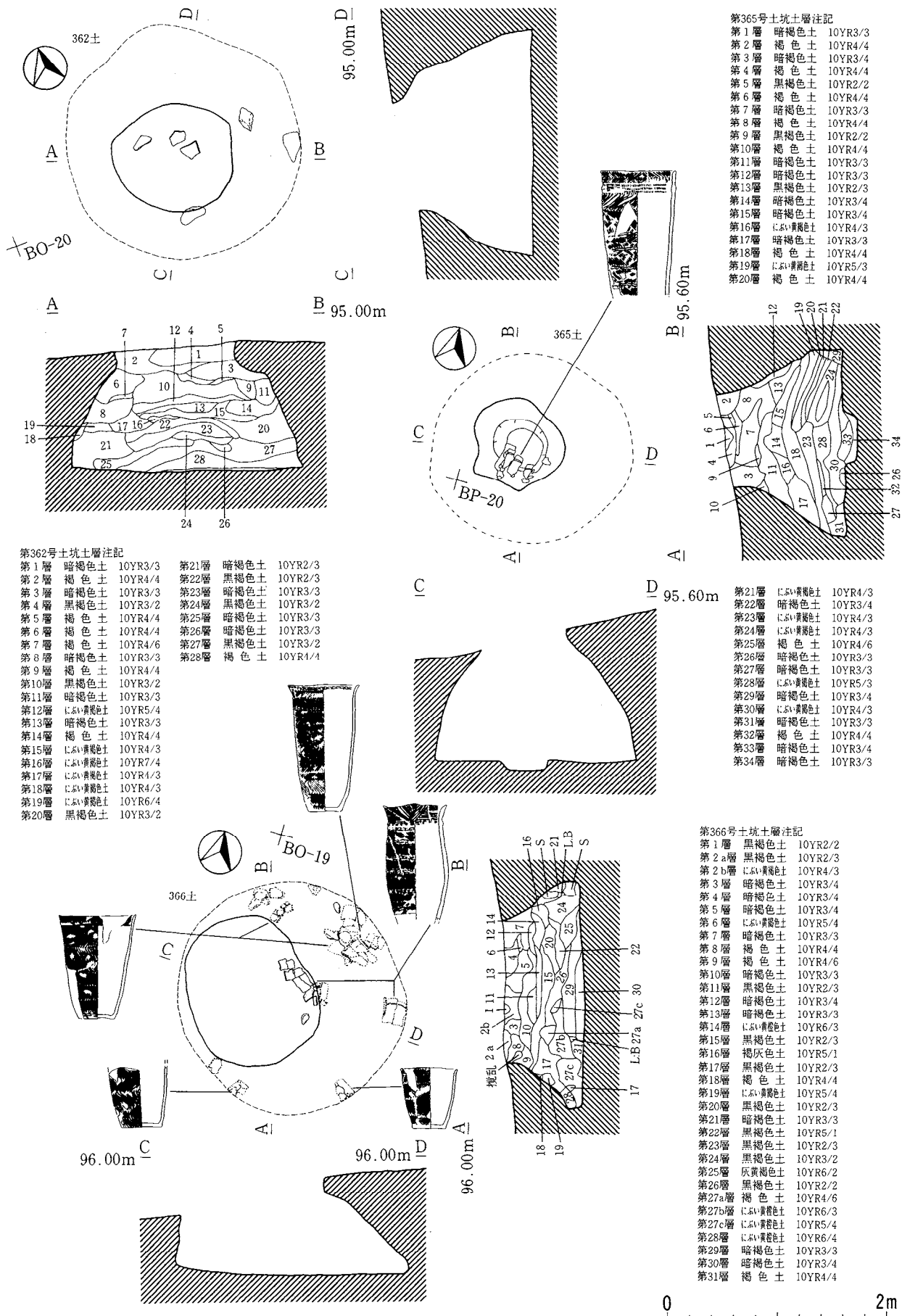
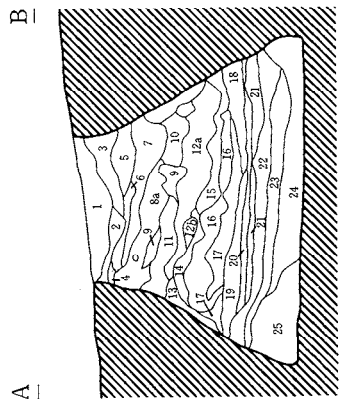
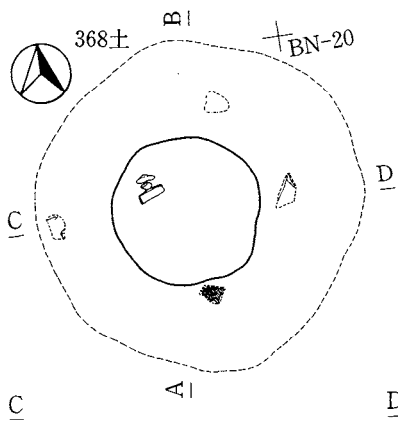
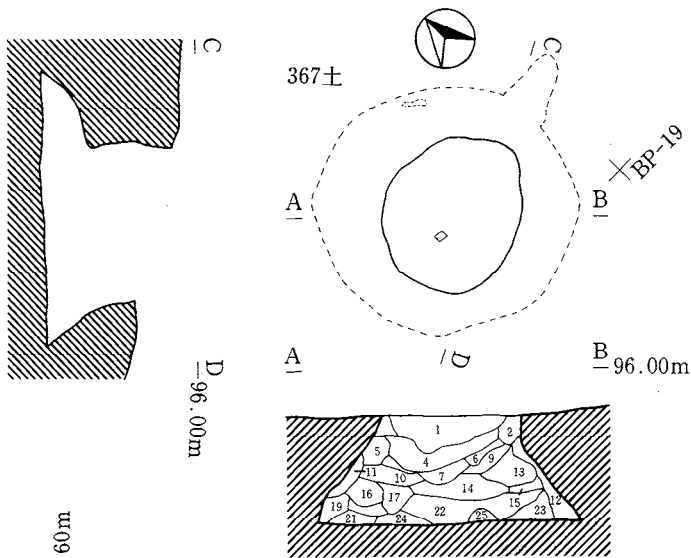


图62 第362·365·366号土坑

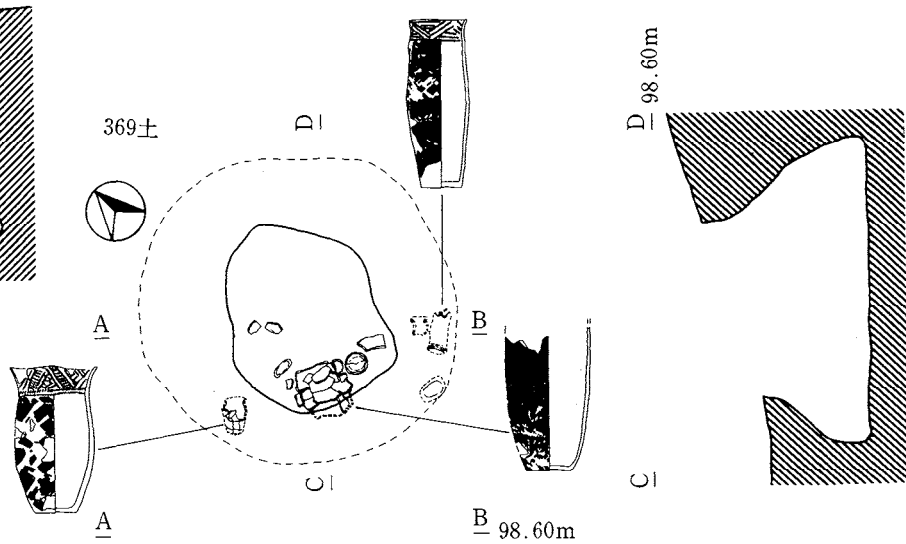
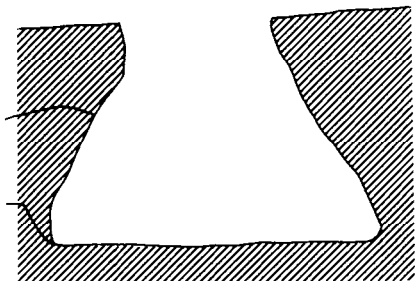
第367号土坑土層注記

第1層	暗褐色土	10YR3/3	第14層	暗褐色土	10YR3/3
第2層	褐色土	10YR4/4	第15層	褐色土	10YR4/4
第3層	褐色土	10YR4/4	第16層	褐色土	10YR4/6
第4層	褐色土	10YR4/4	第17層	暗褐色土	10YR3/4
第5層	褐色土	10YR4/4	第18層	暗褐色土	10YR3/4
第6層	褐色土	10YR4/6	第19層	褐色土	10YR4/4
第7層	褐色土	10YR4/4	第20層	灰黃褐色土	10YR5/4
第8層	黃褐色土	10YR5/6	第21層	暗褐色土	10YR3/4
第9層	褐色土	10YR4/4	第22層	暗褐色土	10YR3/3
第10層	褐色土	10YR4/6	第23層	褐色土	10YR4/4
第11層	褐色土	10YR4/4	第24層	暗褐色土	10YR3/4
第12層	褐色土	10YR4/6	第25層	褐色土	10YR4/6
第13層	褐色土	10YR4/6			



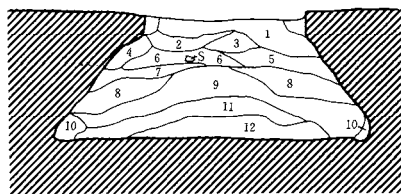
第368号土坑土層注記

第1層	黑褐色土	10YR2/3	第13層	暗褐色土	10YR3/4
第2層	暗褐色土	10YR3/4	第14層	黑褐色土	10YR2/2
第3層	暗褐色土	10YR3/4	第15層	黑褐色土	10YR2/3
第4層	暗褐色土	10YR3/3	第16層	暗褐色土	10YR3/3
第5層	褐色土	10YR4/4	第17層	黑褐色土	10YR2/2
第6層	暗褐色土	10YR3/2	第18層	黑褐色土	10YR2/3
第7層	暗褐色土	10YR3/3	第19層	黑褐色土	10YR2/3
第8a層	褐色土	10YR4/4	第20層	暗褐色土	10YR3/2
第8b層	褐色土	10YR2/2	第21層	黑褐色土	10YR2/33
第9層	黑褐色土	10YR2/2	第22層	灰黃褐色土	10YR6/3
第10層	褐色土	10YR4/4	第23層	灰黃褐色土	10YR6/3
第11層	暗褐色土	10YR3/3	第24層	灰黃褐色土	10YR6/2
第12a層	暗褐色土	10YR3/4	第25層	灰黃褐色土	10YR5/4
第12b層	灰黃褐色土	10YR6/4			
第12c層	灰黃褐色土	10YR5/4			



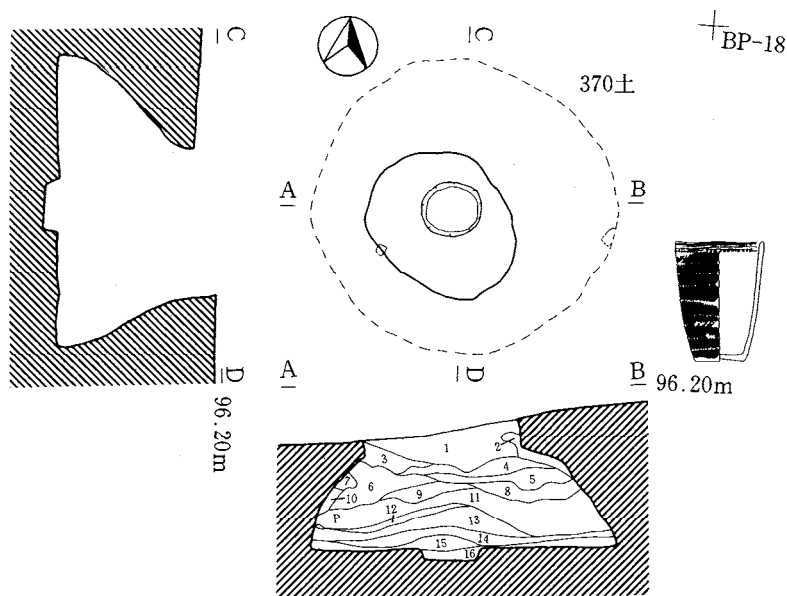
第369号土坑土層注記

第1層	暗褐色土	10YR3/3
第2層	黑褐色土	10YR2/2
第3層	暗褐色土	10YR3/4
第4層	暗褐色土	10YR3/4
第5層	灰黃褐色土	10YR4/3
第6層	褐色土	10YR4/4
第7層	暗褐色土	10YR3/3
第8層	黑褐色土	10YR2/2
第9層	暗褐色土	10YR3/2
第10層	灰黃褐色土	10YR5/4
第11層	黑褐色土	10YR2/3
第12層	褐色土	10YR4/6



0 2m

图63 第367·368·369号土坑

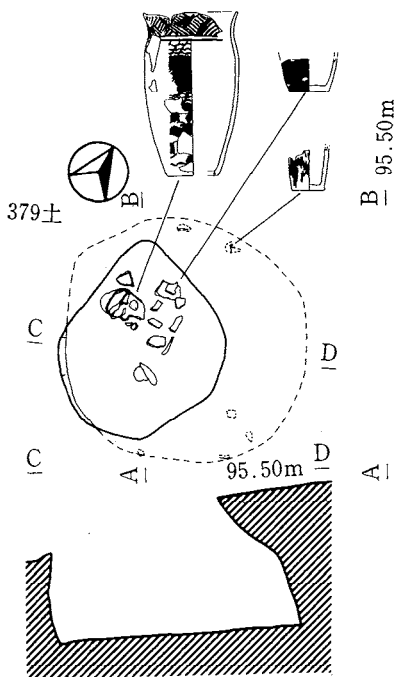
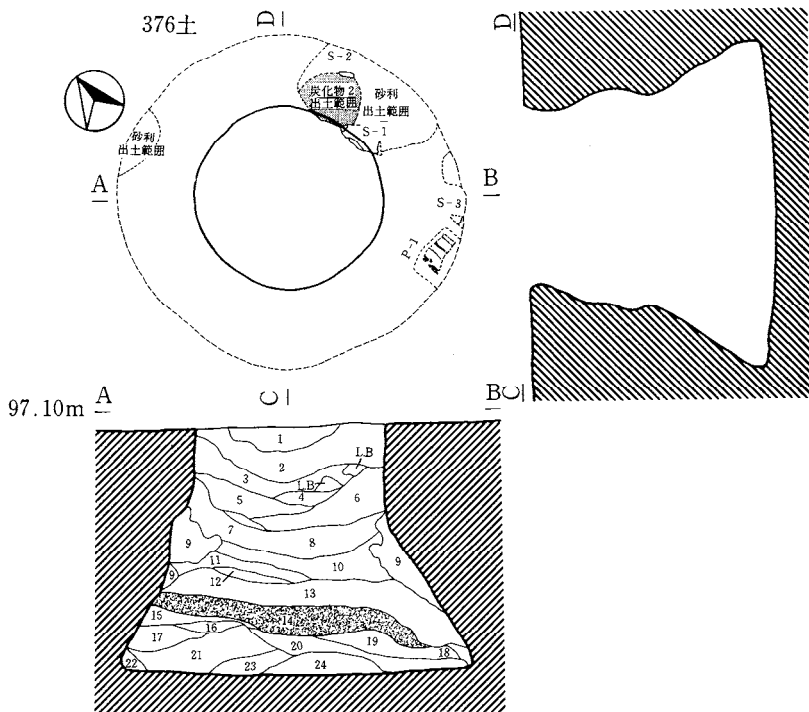


第370号土坑土層注記

- 第1層 黑褐色土 10YR2/3
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4
- 第3層 黑褐色土 10YR2/2
- 第4層 黑褐色土 10YR2/2
- 第5層 黑褐色土 10YR2/3
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3
- 第7層 黑褐色土 10YR2/2
- 第8層 黑褐色土 10YR2/2
- 第9層 暗褐色土 10YR3/3
- 第10層 暗褐色土 10YR3/3
- 第11層 灰青褐色土 10YR5/4
- 第12層 暗褐色土 10YR3/2
- 第13層 灰青褐色土 10YR4/3
- 第14層 灰青褐色土 10YR6/4
- 第15層 暗褐色土 10YR3/4
- 第16層 暗褐色土 10YR4/4

第376号土坑土層注記

- 第1層 黑褐色土 10YR2/2
- 第2層 黑褐色土 10YR2/3
- 第3層 黑褐色土 10YR2/1
- 第4層 黑褐色土 10YR2/2
- 第5層 黑褐色土 10YR2/3
- 第6層 黑褐色土 10YR2/2
- 第7層 黑色土 10YR2/1
- 第8層 黑色土 10YR2/1
- 第9層 黑色土 10YR1.7/1
- 第10層 黑褐色土 10YR2/2
- 第11層 黑色土 10YR2/1
- 第12層 黑褐色土 10YR2/2
- 第13層 黑褐色土 10YR2/2
- 第14層 黑褐色土 10YR2/3
- 第15層 黑褐色土 10YR2/2
- 第16層 黑色土 10YR1.7/1
- 第17層 浮石層
- 第18層 灰青褐色土 10YR5/4
- 第19層 黑褐色土 10YR2/2
- 第20層 黑褐色土 10YR2/3
- 第21層 黑褐色土 10YR3/2
- 第22層 暗褐色土 10YR3/3
- 第23層 黑色土 10YR2/1
- 第24層 黑褐色土 10YR2/2

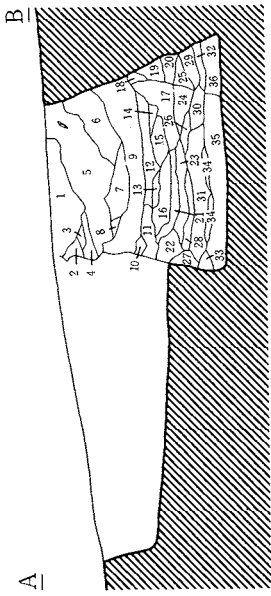
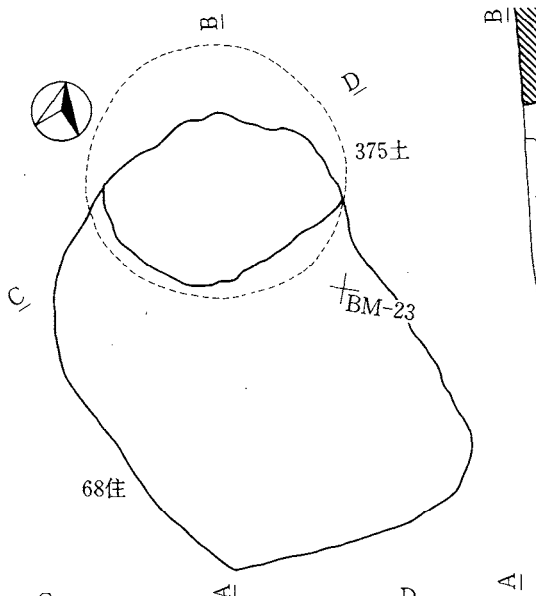


第379号土坑土層注記

- 第1層 明黃褐色土 10YR6/6
- 第2層 灰青褐色土 10YR5/4
- 第3層 灰青褐色土 10YR5/4
- 第4層 灰青褐色土 10YR6/3
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3
- 第6層 褐色土 10YR4/6
- 第7層 暗褐色土 10YR3/4
- 第8層 灰青褐色土 10YR6/3
- 第9層 明黃褐色土 10YR6/6
- 第10層 黑褐色土 10YR2/3
- 第11層 暗褐色土 10YR3/3
- 第12層 暗褐色土 10YR3/3
- 第13層 暗褐色土 10YR3/3
- 第14層 灰青褐色土 10YR5/3
- 第15層 灰青褐色土 10YR5/4
- 第16層 褐色土 10YR4/4
- 第17層 暗褐色土 10YR3/4
- 第18層 灰青褐色土 10YR4/3
- 第19層 灰青褐色土 10YR4/3
- 第20層 暗褐色土 10YR3/3
- 第21層 灰青褐色土 10YR5/4
- 第22層 灰青褐色土 10YR4/3
- 第23層 褐色土 10YR4/4
- 第24層 褐色土 10YR4/4
- 第25層 灰青褐色土 10YR6/3
- 第26層 褐色土 10YR4/4
- 第27層 褐色土 10YR4/4

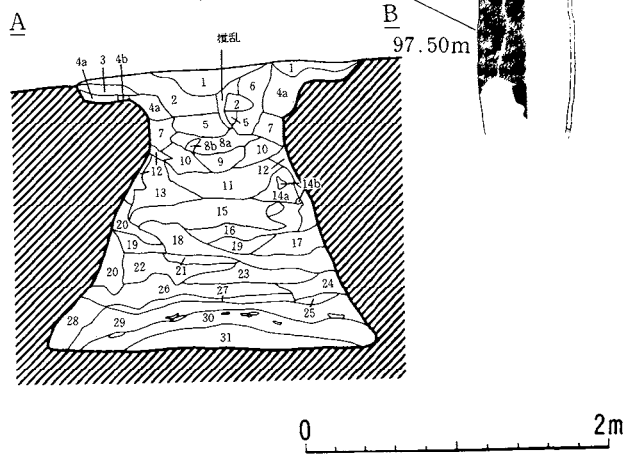
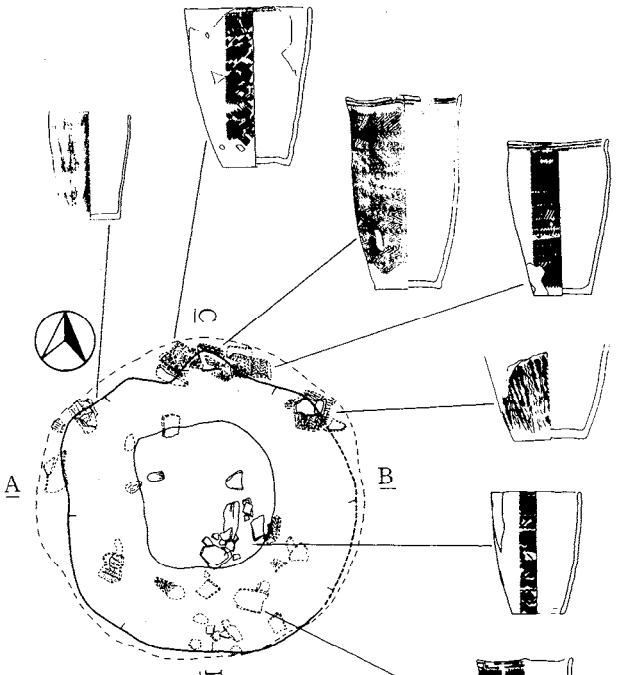
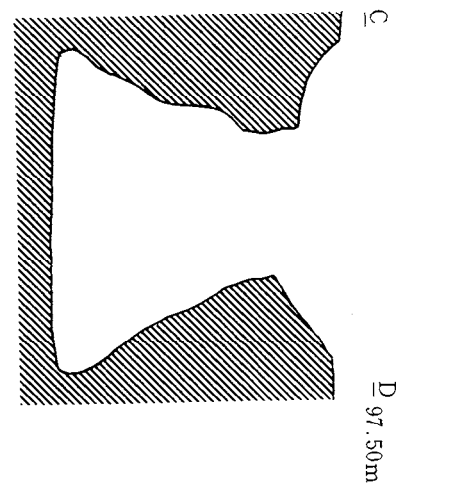
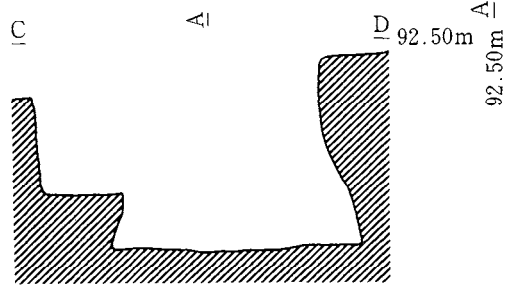


图64 第370·376·379号土坑



第375号土坑土層注記

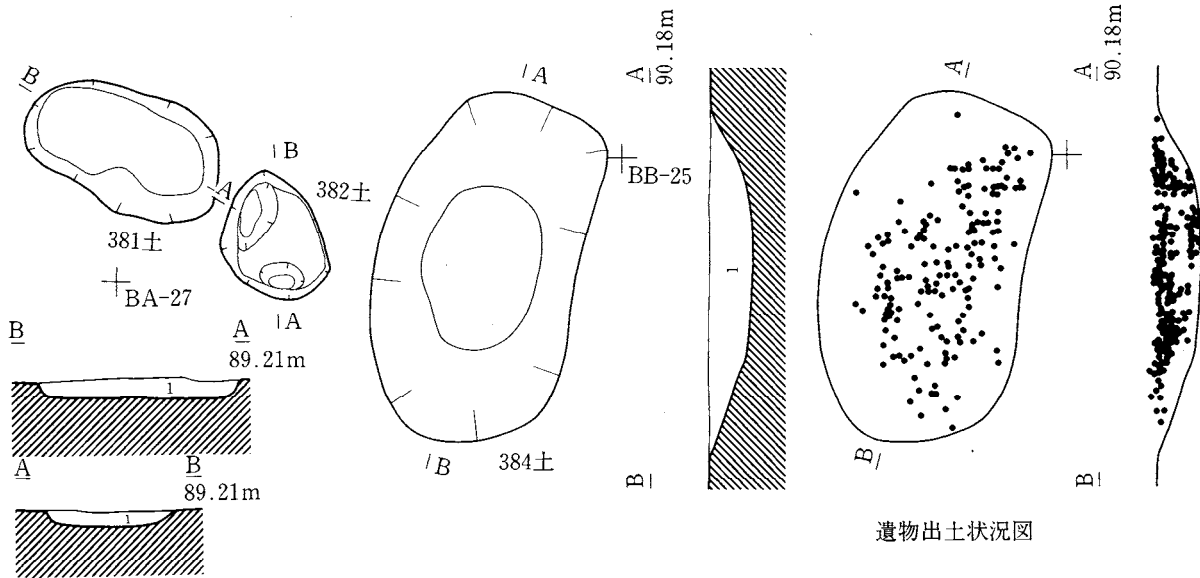
第1層	黑褐色土	10YR2/3	第19層	明黃褐色土	10YR7/6
第2層	黑褐色土	10YR2/3	第20層	暗褐色土	10YR3/4
第3層	黑褐色土	10YR3/2	第21層	黑褐色土	10YR3/2
第4層	暗褐色土	10YR3/3	第22層	暗褐色土	10YR3/3
第5層	黑褐色土	10YR3/2	第23層	黑褐色土	10YR3/2
第6層	黑褐色土	10YR2/2	第24層	褐色土	10YR4/6
第7層	黑褐色土	10YR3/2	第25層	黃褐色土	10YR5/6
第8層	黑褐色土	10YR2/2	第26層	暗褐色土	10YR3/3
第9層	暗褐色土	10YR3/3	第27層	黑褐色土	10YR3/2
第10層	褐色土	10YR4/4	第28層	暗褐色土	10YR3/3
第11層	黑褐色土	10YR2/3	第29層	暗褐色土	10YR3/3
第12層	黑褐色土	10YR2/2	第30層	暗褐色土	10YR3/3
第13層	暗褐色土	10YR3/4	第31層	黑褐色土	10YR3/2
第14層	暗褐色土	10YR3/4	第32層	明黃褐色土	10YR6/6
第15層	黑褐色土	10YR2/2	第33層	黑褐色土	10YR3/2
第16層	暗褐色土	10YR3/3	第34層	暗褐色土	10YR3/4
第17層	暗褐色土	10YR3/3	第35層	黑褐色土	10YR3/2
第18層	褐色土	10YR4/4	第36層	黑褐色土	10YR3/2



第380号土坑土層注記

第1層	黑色土	10YR1.7	第15層	暗褐色土	10YR3/3
第2層	黑色土	10YR2/1	第16層	灰黃褐色土	10YR4/2
第3層	黑褐色土	10YR3/2	第17層	灰黃褐色土	10YR4/2
第4a層	暗褐色土	10YR3/3	第18層	黑褐色土	10YR2/3
第4b層	暗褐色土	10YR5/3	第19層	黑褐色土	10YR3/2
第5層	黑褐色土	10YR2/2	第20層	褐色土	10YR4/4
第6層	黑褐色土	10YR2/2	第21層	暗褐色土	10YR6/3
第7層	暗褐色土	10YR3/3	第22層	黑褐色土	10YR3/2
第8a層	黑褐色土	10YR2/3	第23層	暗褐色土	10YR6/3
第8b層	暗褐色土	10YR4/3	第24層	暗褐色土	10YR3/3
第9層	黑褐色土	10YR2/3	第25層	黑色土	10YR2/1
第10層	黑褐色土	10YR3/2	第26層	暗褐色土	10YR6/3
第11層	暗褐色土	10YR4/3	第27層	暗褐色土	10YR3/3
第12層	褐色土	10YR4/6	第28層	暗褐色土	10YR3/3
第13層	黑褐色土	10YR3/2	第29層	黑褐色土	10YR2/3
第14a層	暗褐色土	10YR3/3	第30層	黑褐色土	10YR2/2
第14b層	褐色土	10YR4/4	第31層	黑褐色土	10YR2/2

图65 第375·380号土坑



遺物出土状況図

第381号土坑土層注記

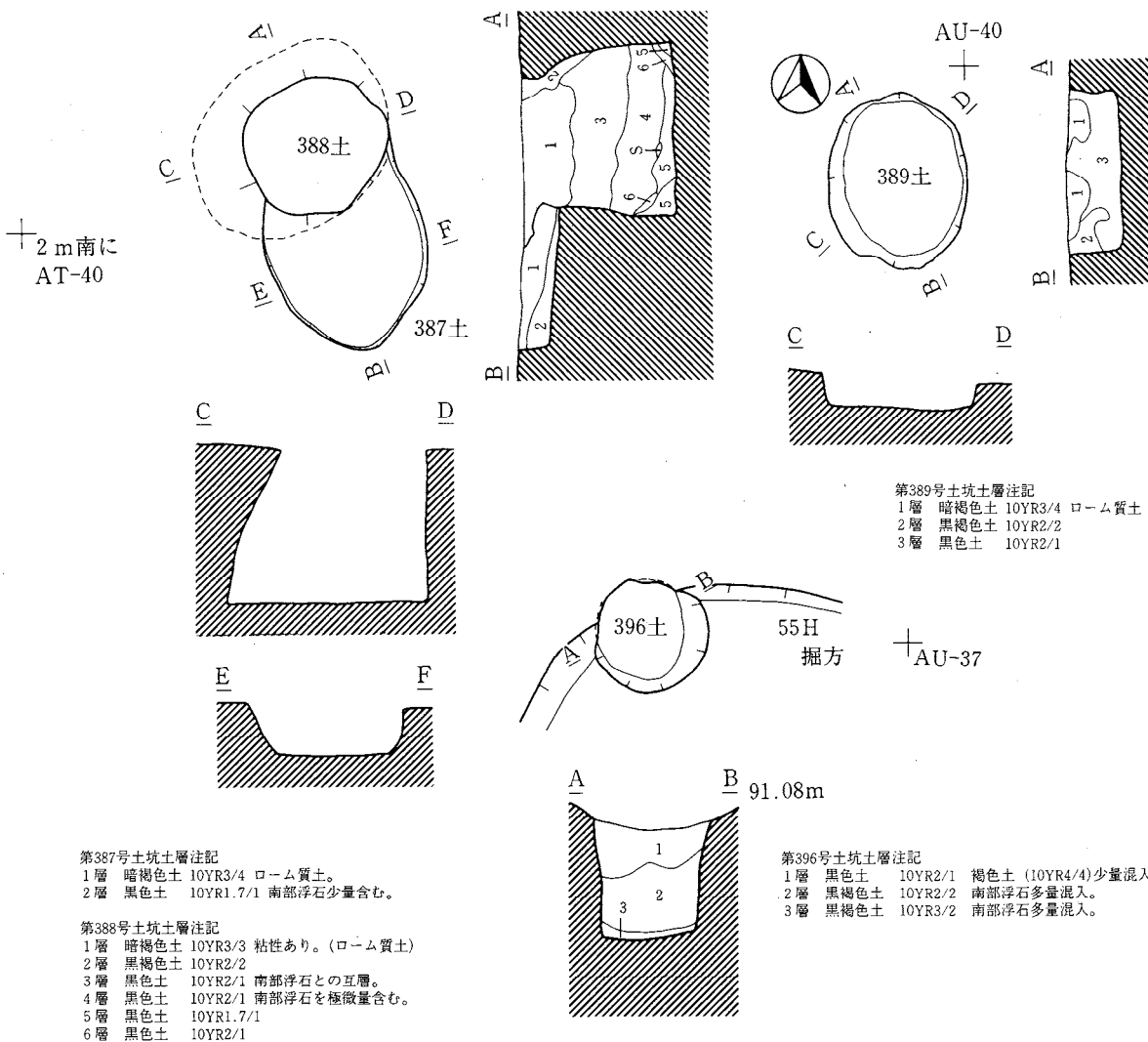
1層 黒色土 10YR1.7/1 黄褐色浮石を少量含む。(IV層に相当?)

第384号土坑土層注記

1層 黒色土 10YR2/1 遺物を多量に含む。

第382号土坑土層注記

1層 黒色土 10YR1.7/1 黄褐色浮石を少量含む。(IV層に相当?)



第389号土坑土層注記

1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム質土  
2層 黒褐色土 10YR2/2  
3層 黒色土 10YR2/1

第387号土坑土層注記

1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム質土。  
2層 黒色土 10YR1.7/1 南部浮石少量含む。

第388号土坑土層注記

1層 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり。(ローム質土)  
2層 黒褐色土 10YR2/2  
3層 黒色土 10YR2/1 南部浮石との互層。  
4層 黒色土 10YR2/1 南部浮石を極微量含む。  
5層 黒色土 10YR1.7/1  
6層 黒色土 10YR2/1

第396号土坑土層注記

1層 黒色土 10YR2/1 褐色土 (10YR4/4) 少量混入。  
2層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石多量混入。  
3層 黒褐色土 10YR3/2 南部浮石多量混入。

図版上が北



図66 第381・382・384・388・389・396号土坑

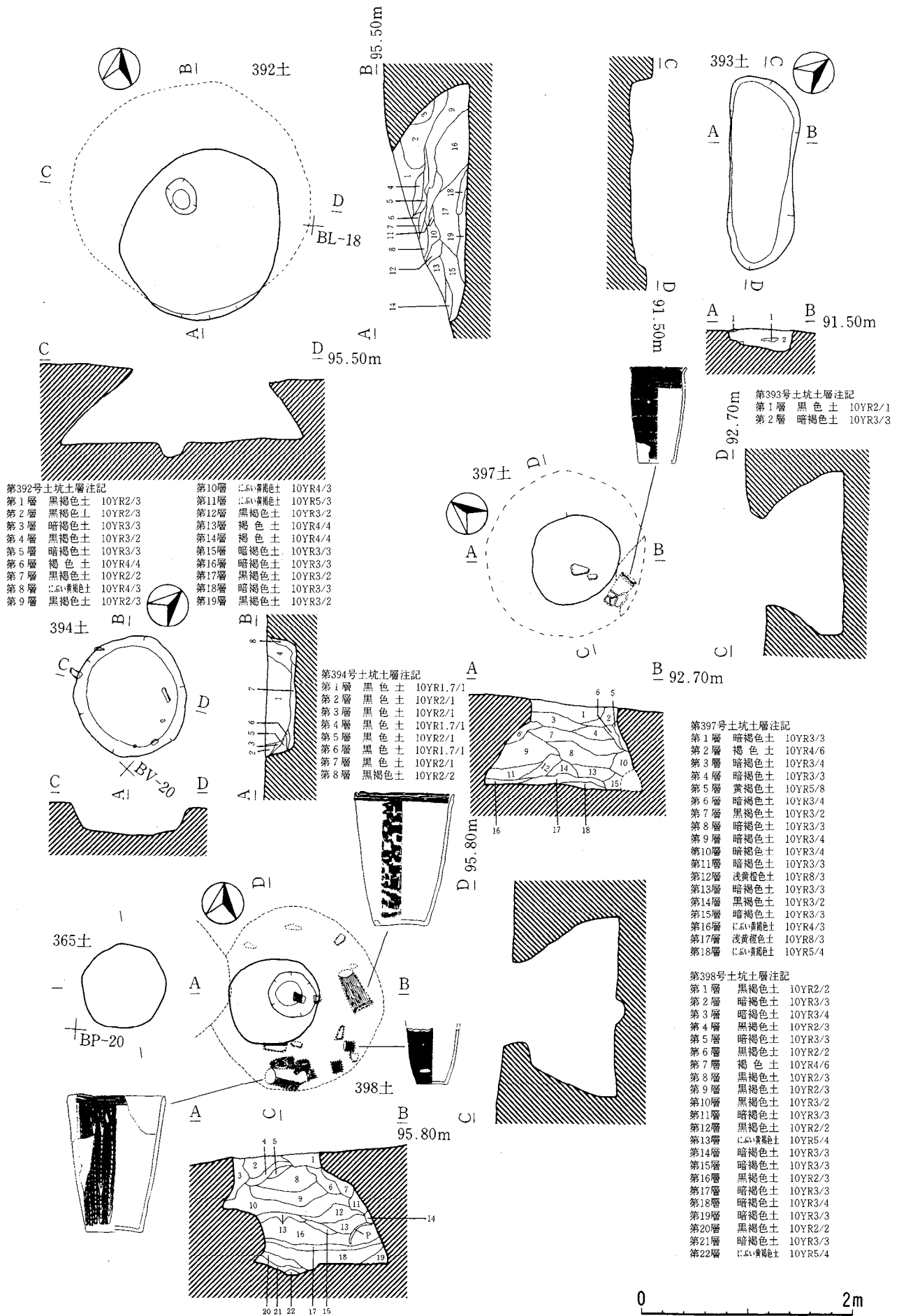


图67 第392·393·394·397·398号土坑

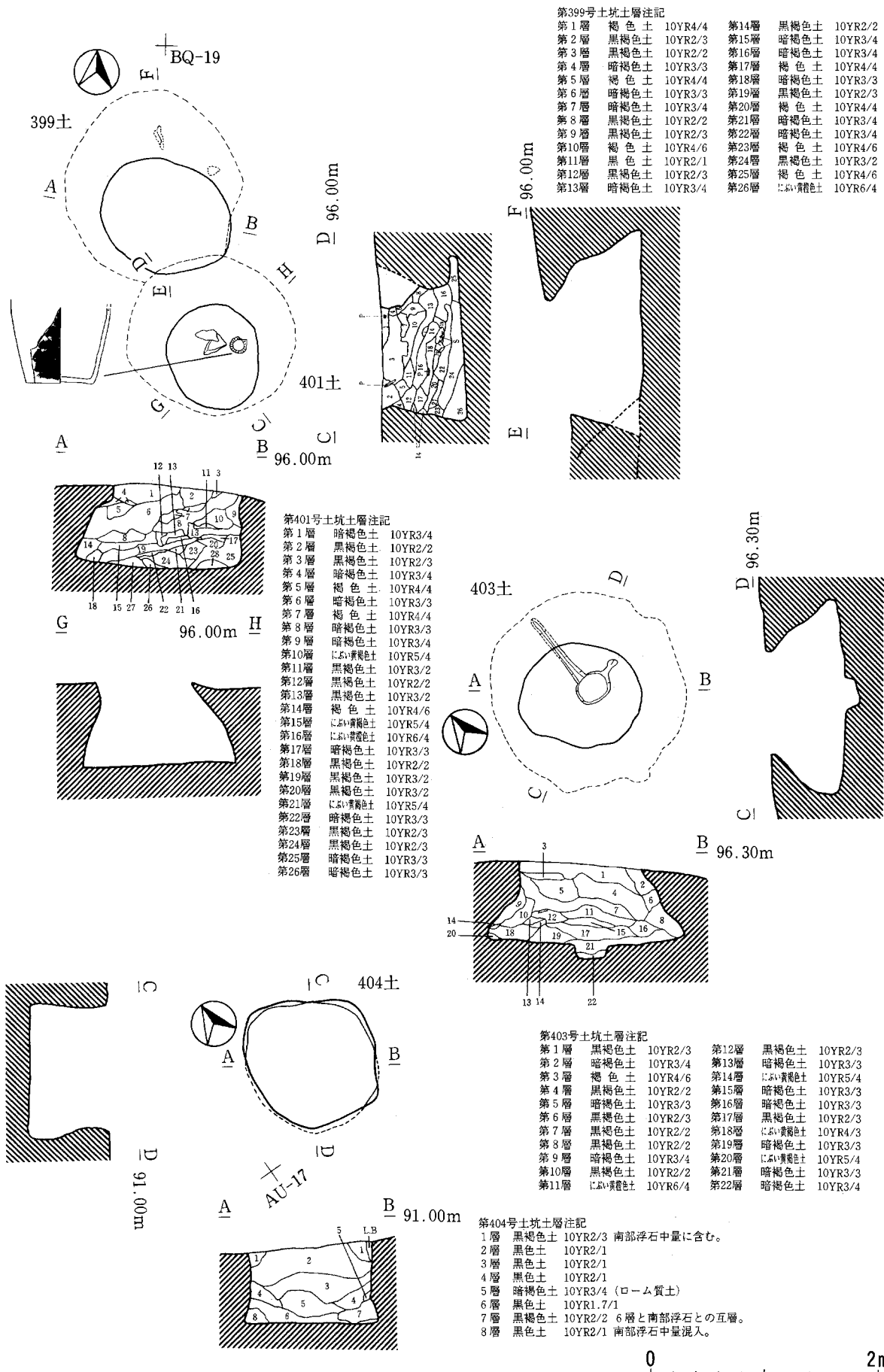
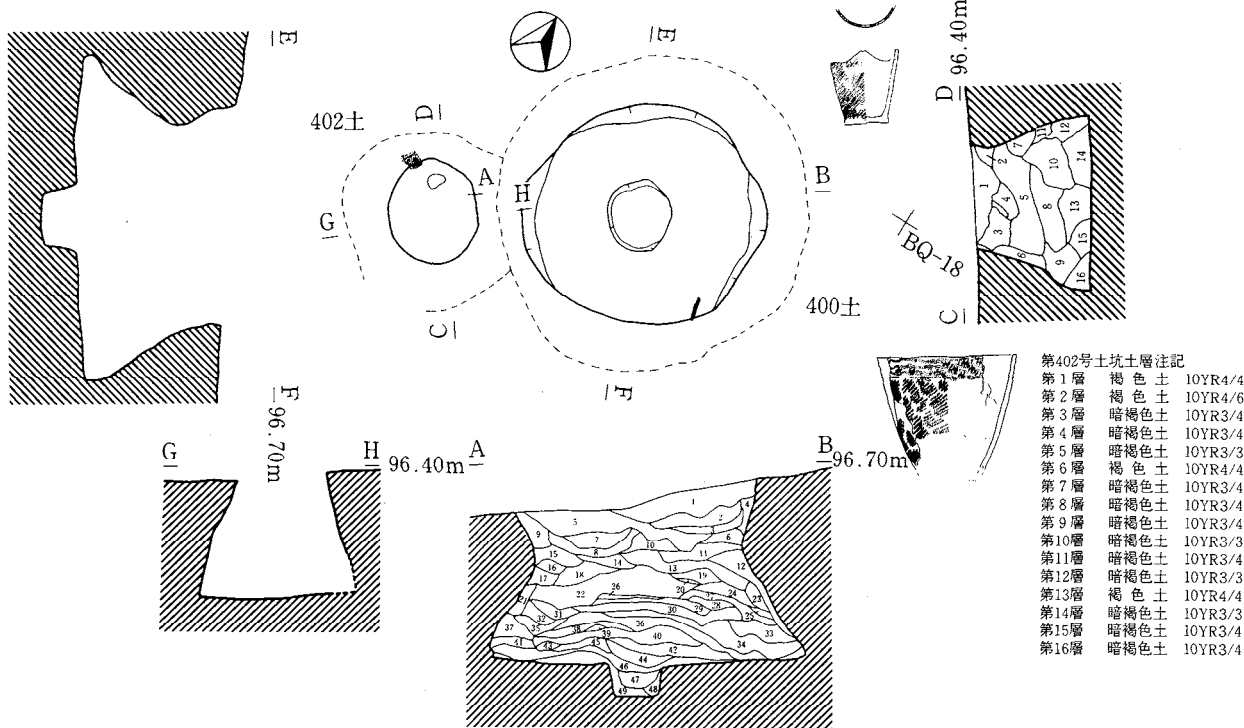
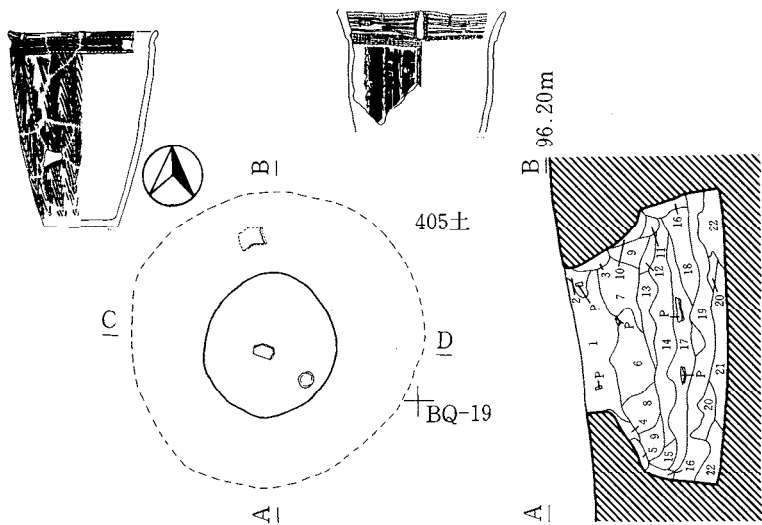


図68 第399・401・403・404号土坑

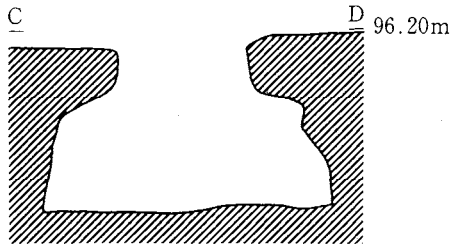




- 第402号土坑土層注記
- 第1層 褐色土 10YR4/4
  - 第2層 褐色土 10YR4/6
  - 第3層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第4層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第5層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第6層 褐色土 10YR4/4
  - 第7層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第8層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第9層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第10層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第11層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第12層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第13層 褐色土 10YR4/4
  - 第14層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第15層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第16層 暗褐色土 10YR3/4



- 第400号土坑土層注記
- 第1層 黑褐色土 10YR2/2
  - 第2層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第3層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第4層 褐色土 10YR4/6
  - 第5層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第6層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第7層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第8層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第9層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第10層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第11層 黑褐色土 10YR2/2
  - 第12層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第13層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第14層 黑色土 10YR2/1
  - 第15層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第16層 褐色土 10YR4/6
  - 第17層 褐色土 10YR4/4
  - 第18層 褐色土 10YR4/6
  - 第19層 黑色土 10YR2/1
  - 第20層 褐色土 10YR4/6
  - 第21層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第22層 黑褐色土 10YR2/2
  - 第23層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第24層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第25層 褐色土 10YR4/6
  - 第26層 褐色土 10YR4/6
  - 第27層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第28層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第29層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第30層 褐色土 10YR4/4
  - 第31層 褐色土 10YR4/6
  - 第32層 黄褐色土 10YR5/6
  - 第33層 黄褐色土 10YR5/6
  - 第34層 黑褐色土 10YR2/2
  - 第35層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第36層 褐色土 10YR4/6
  - 第37層 褐色土 10YR4/4
  - 第38層 黑褐色土 10YR2/2
  - 第39層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第40層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第41層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第42層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第43層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第44層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第45層 黑褐色土 10YR3/2
  - 第46層 黑褐色土 10YR3/2
  - 第47層 褐色土 10YR4/4
  - 第48層 黑色土 10YR6/4
  - 第49層 暗褐色土 10YR3/3



- 第405号土坑土層注記
- 第1層 黑褐色土 10YR2/2
  - 第2層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第3層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第4層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第5層 黑色土 10YR6/4
  - 第6層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第7層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第8層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第9層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第10層 黑色土 10YR4/3
  - 第11層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第12層 黑色土 10YR6/4
  - 第13層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第14層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第15層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第16層 暗褐色土 10YR3/4
  - 第17層 黑褐色土 10YR2/3
  - 第18層 黑色土 10YR4/3
  - 第19層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第20層 褐色土 10YR4/6
  - 第21層 暗褐色土 10YR3/3
  - 第22層 黑色土 10YR6/4



图69 第400·402·405号土坑

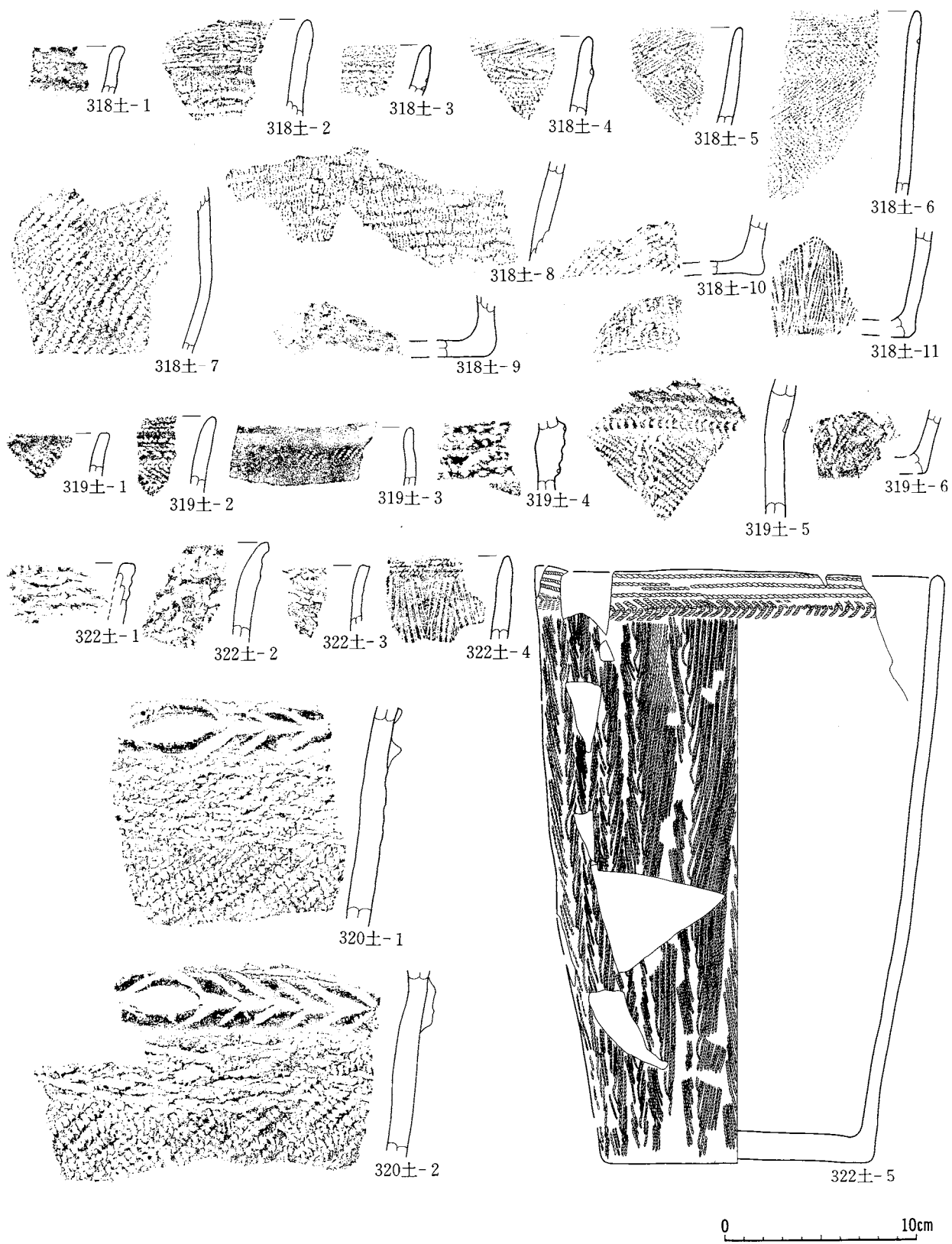


图70 第318·319·320·322号土坑出土土器

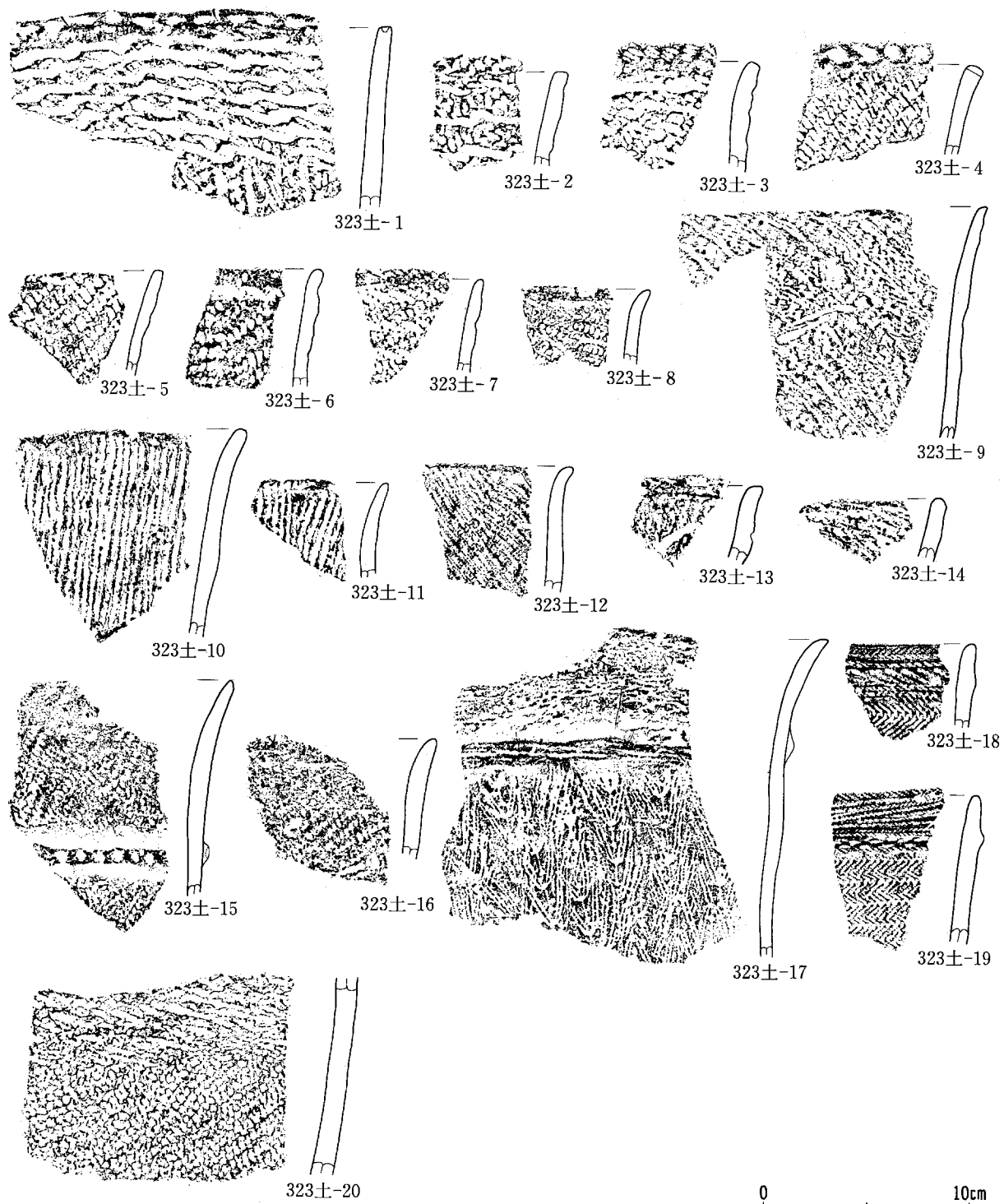


图71 第323号土坑出土土器

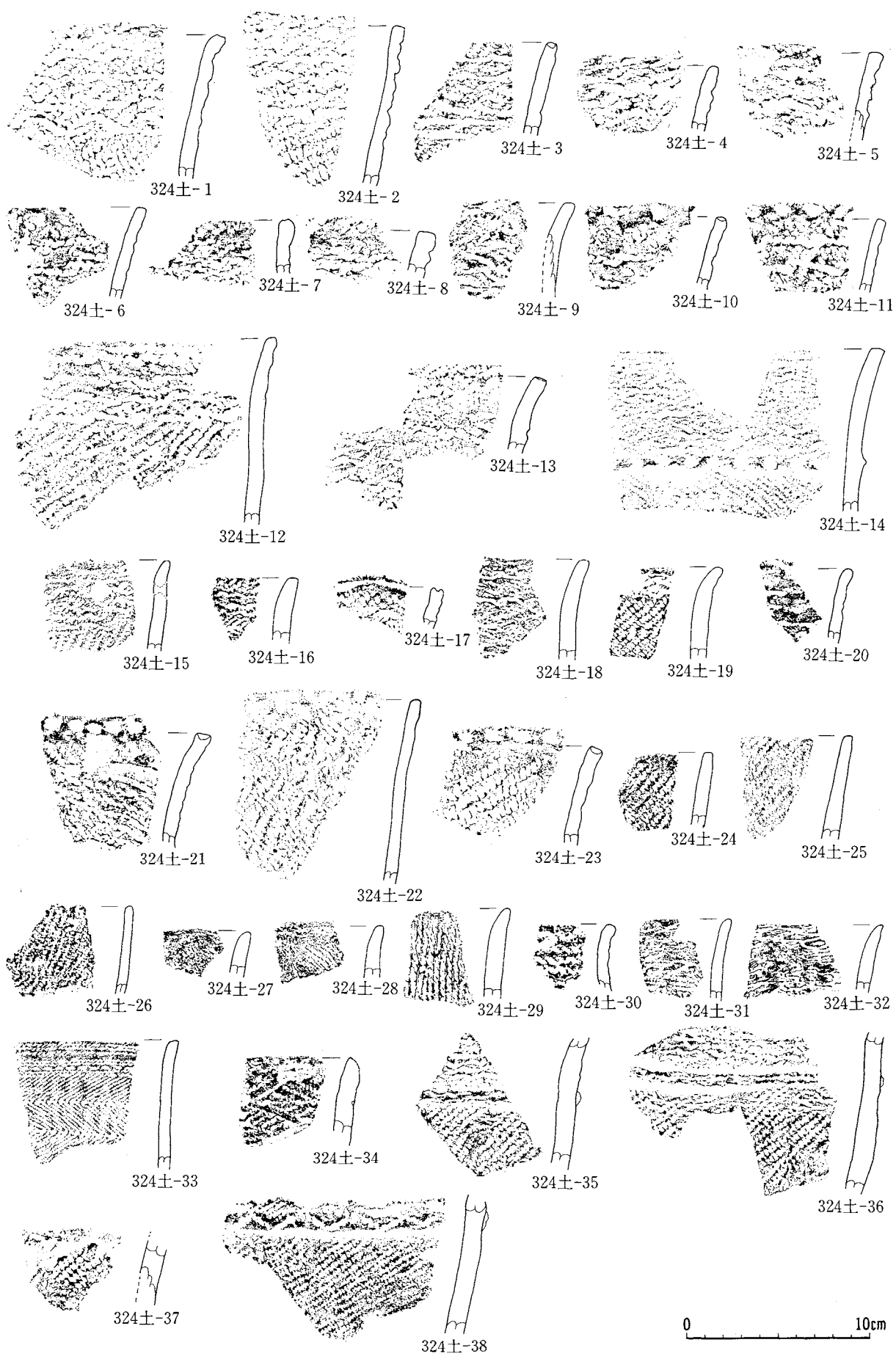


图72 第324号土坑出土土器

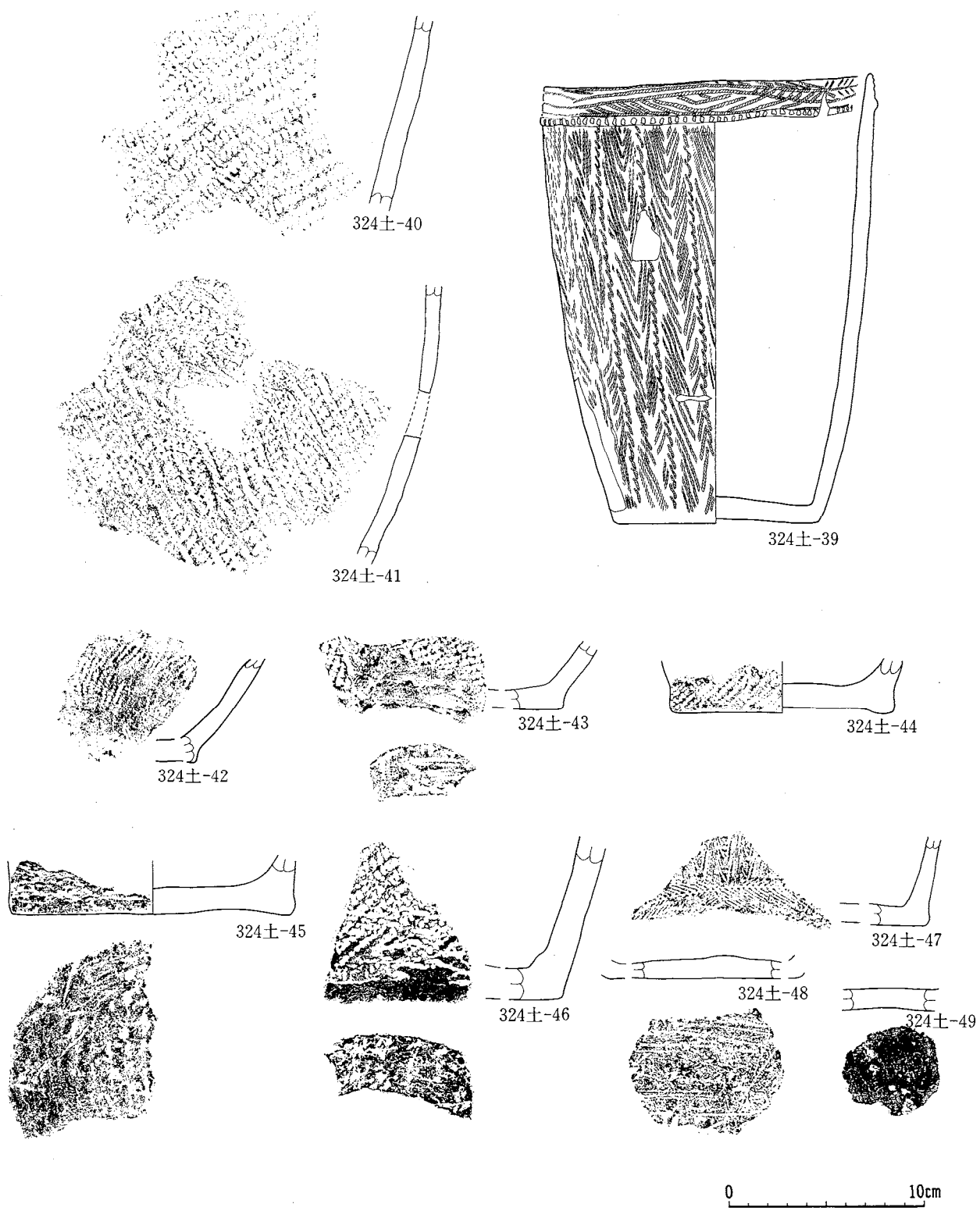


图73 第324号土坑出土土器

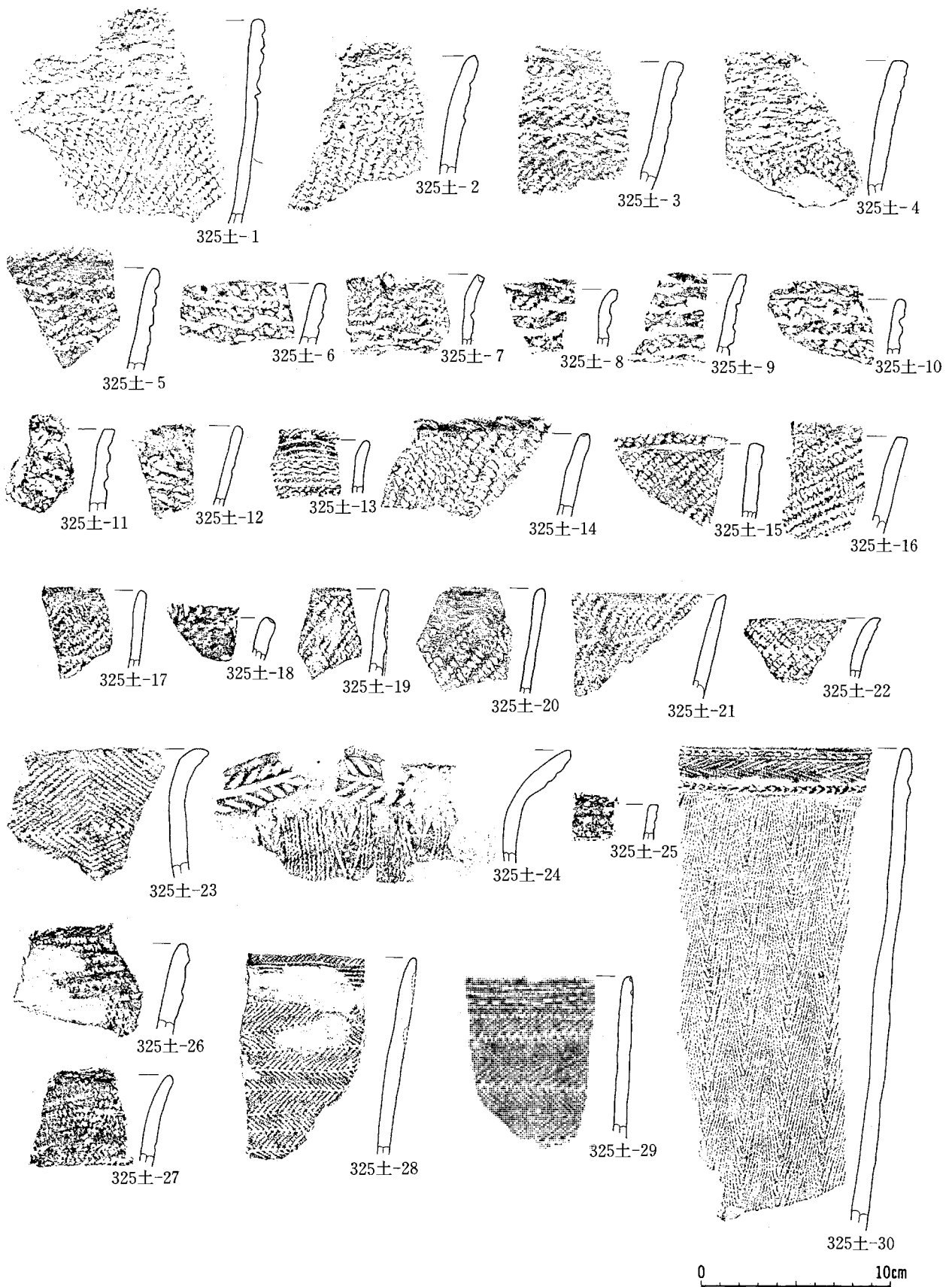


图74 第325号土坑出土土器

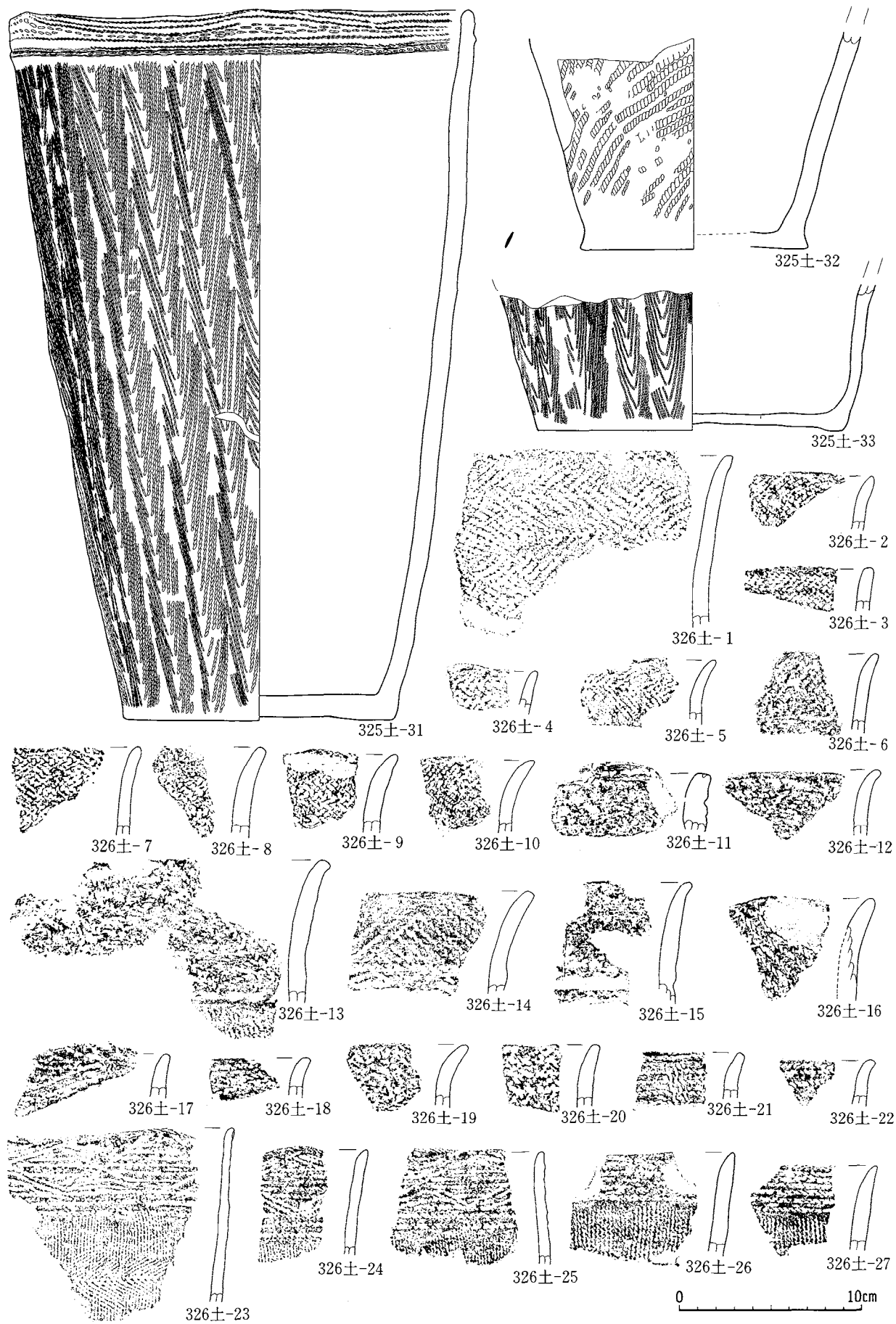


图75 第325·326号土坑出土土器

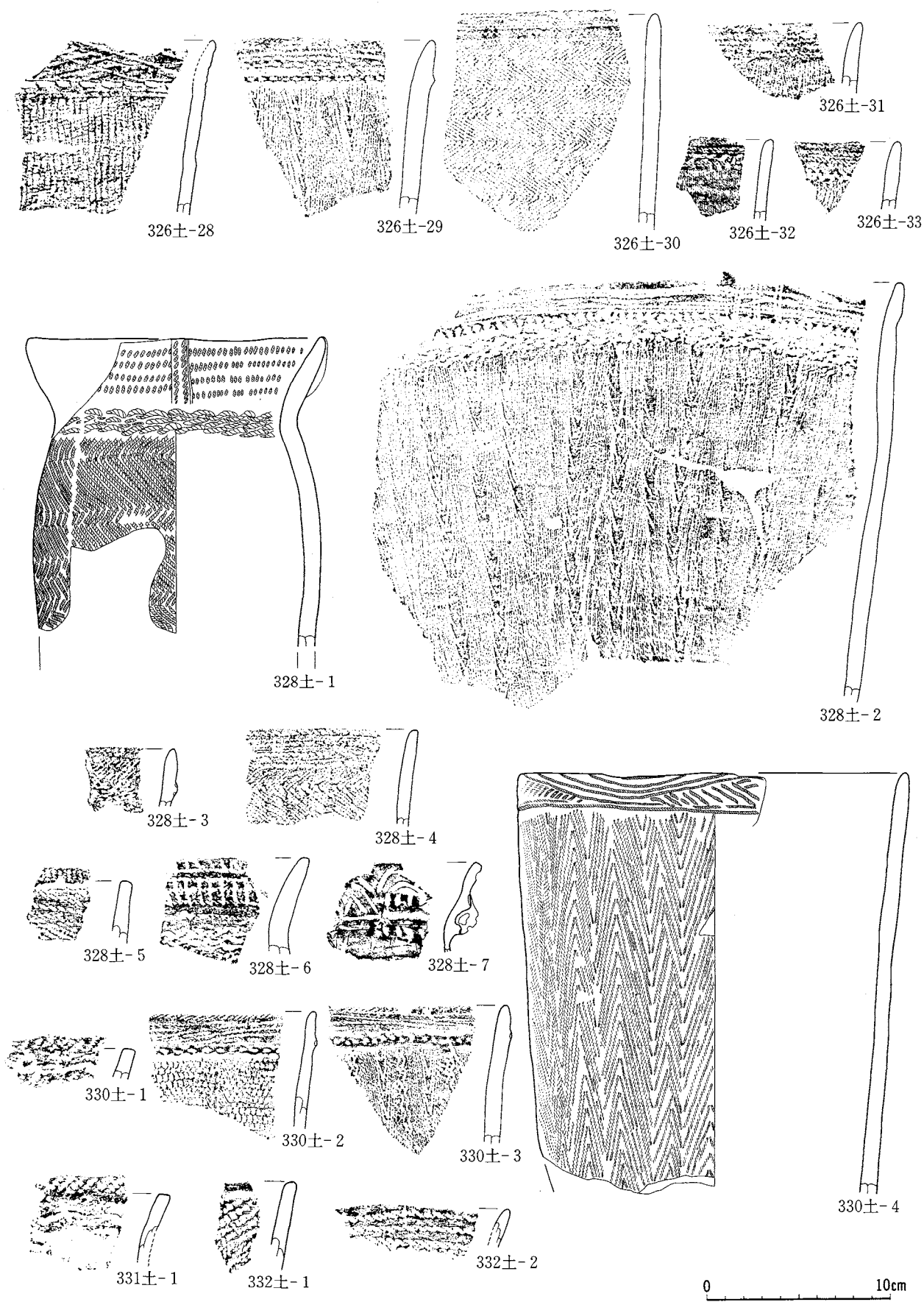


图76 第326·328·330·331·332号土坑出土土器



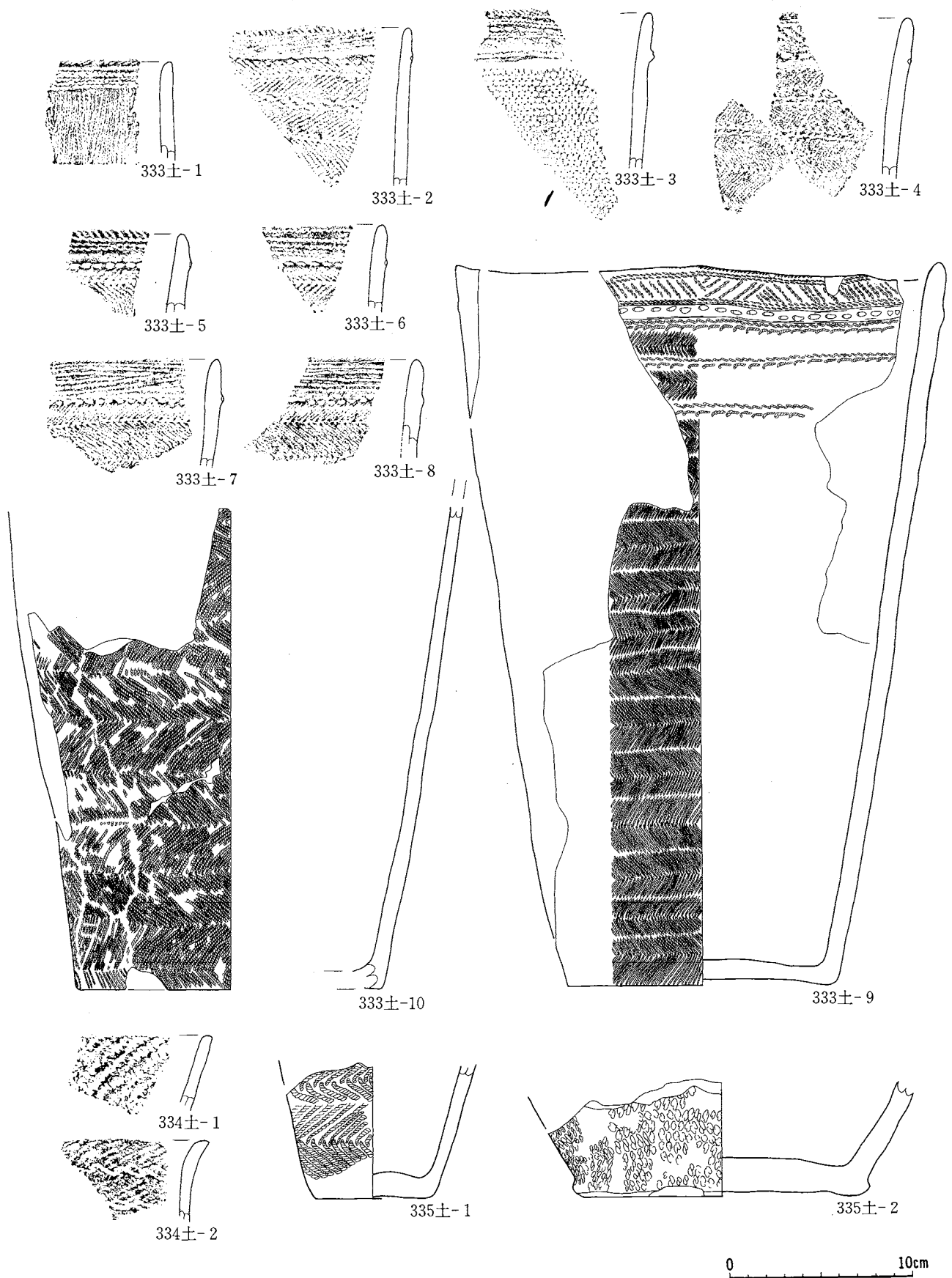


图77 第333·334·335号土坑出土土器

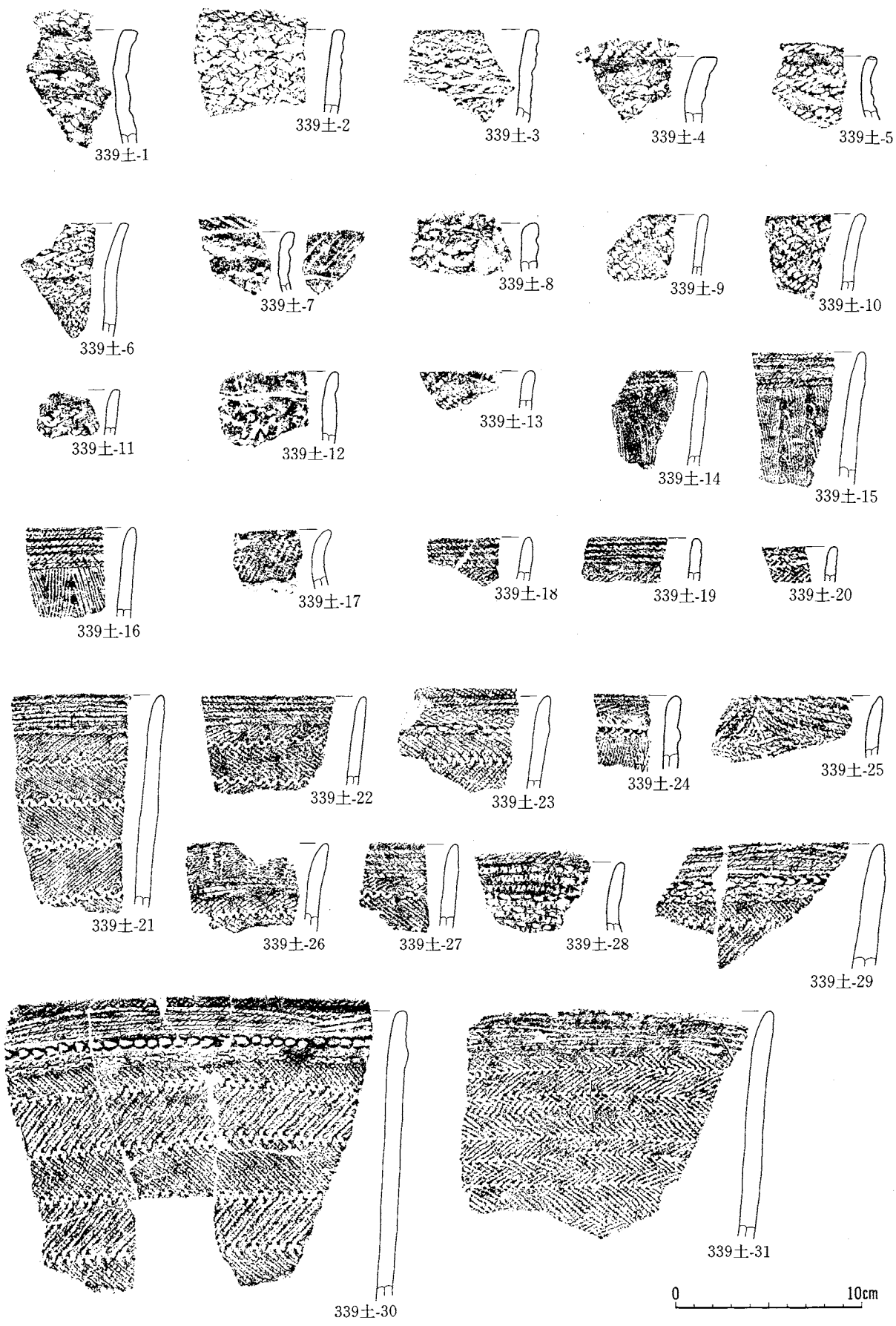


图78 第339号土坑出土土器

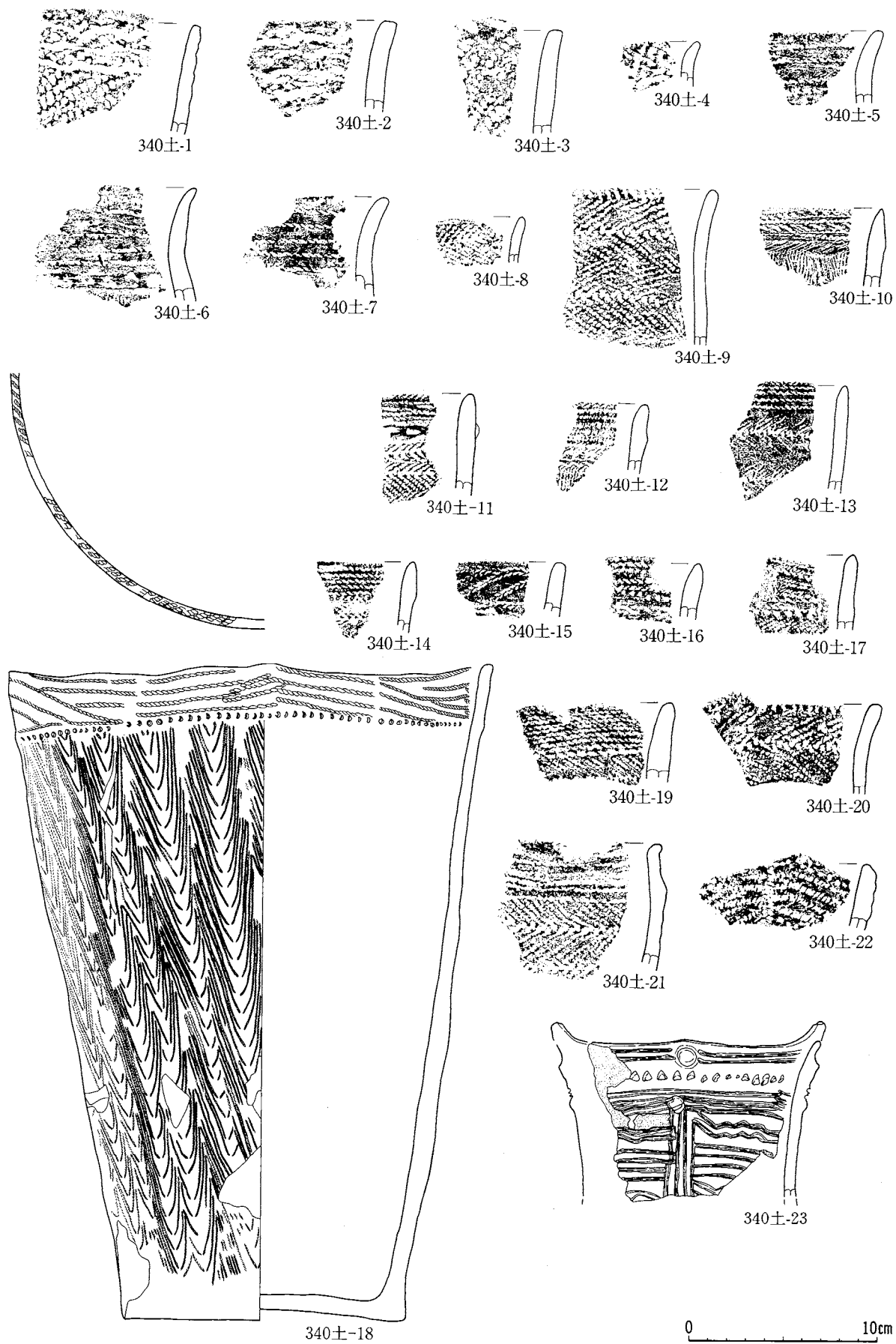


图79 第340号土坑出土土器

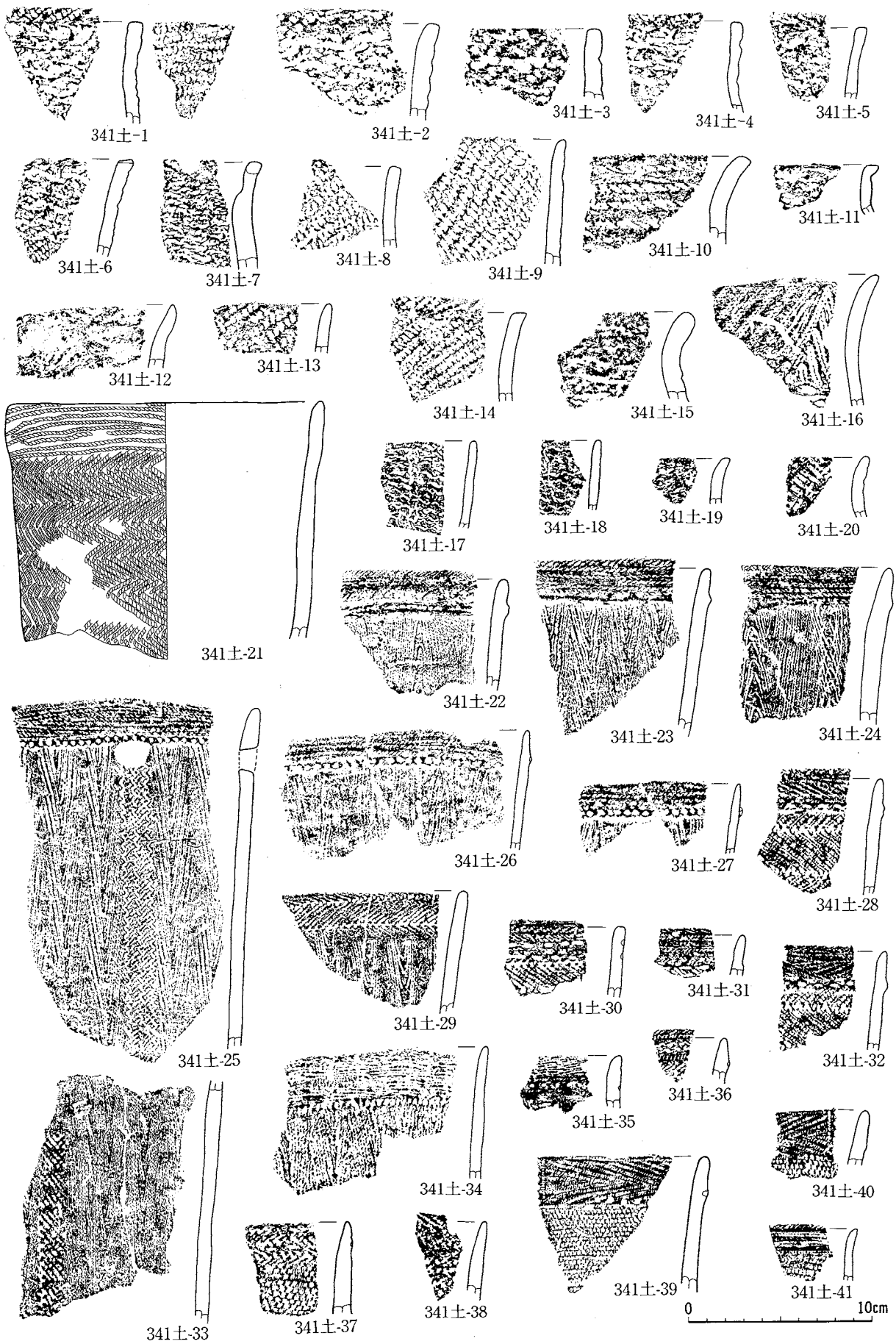
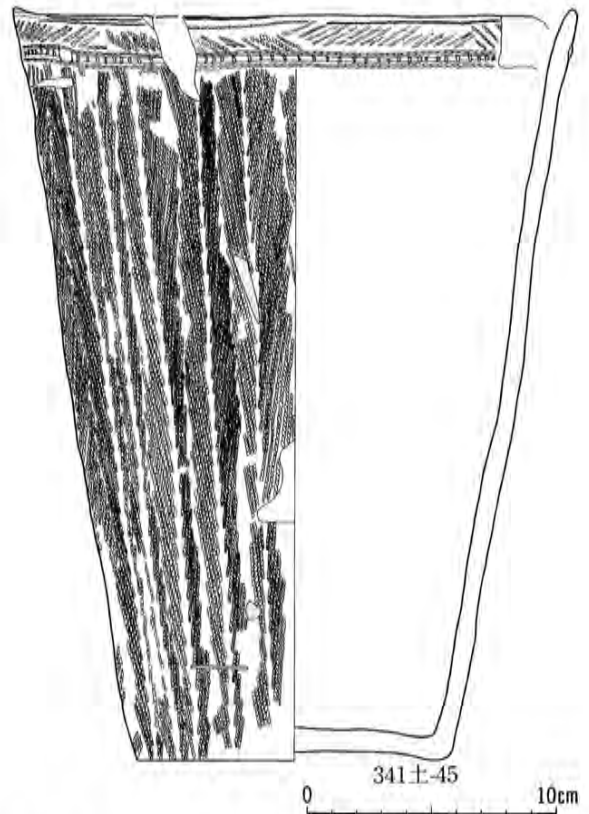
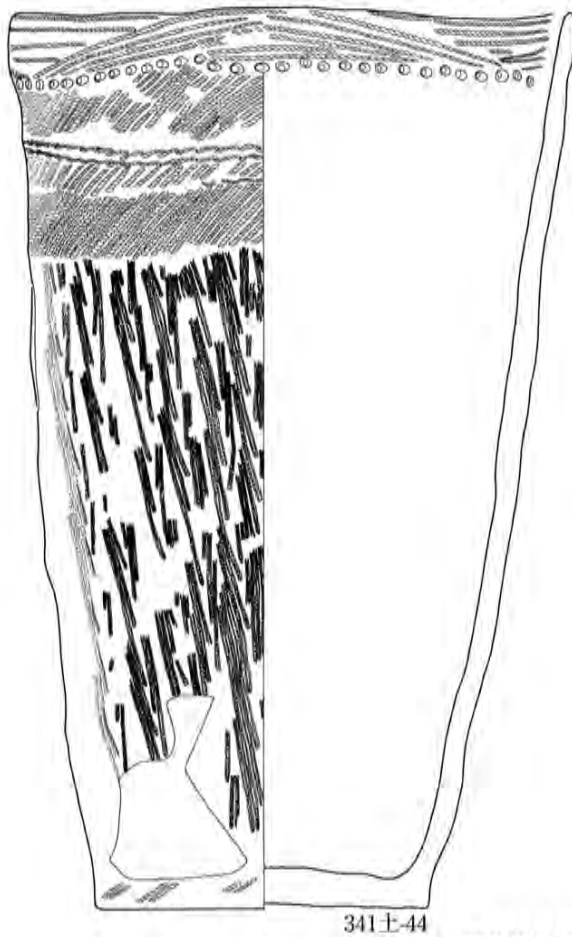
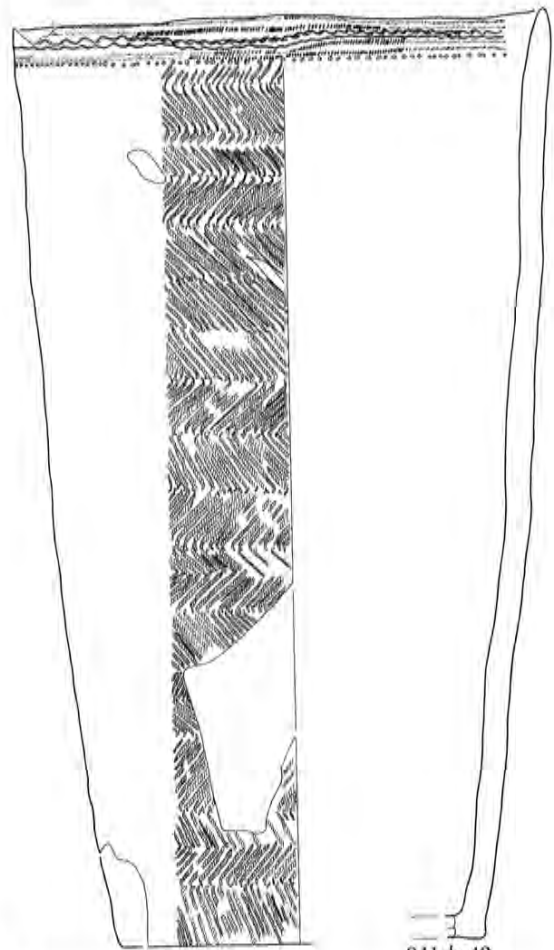
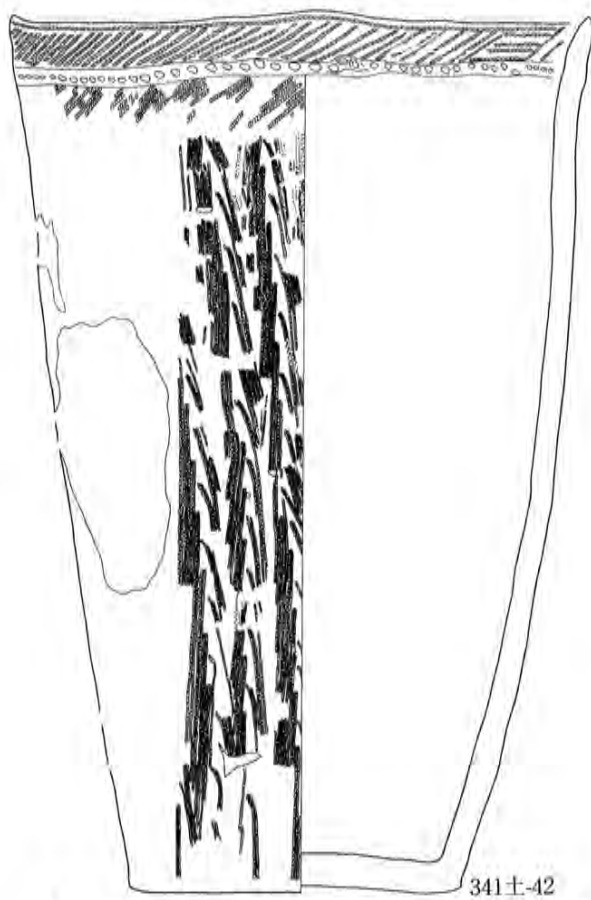


图80 第341号土坑出土土器



341土-44

图81 第341号土坑出土土器

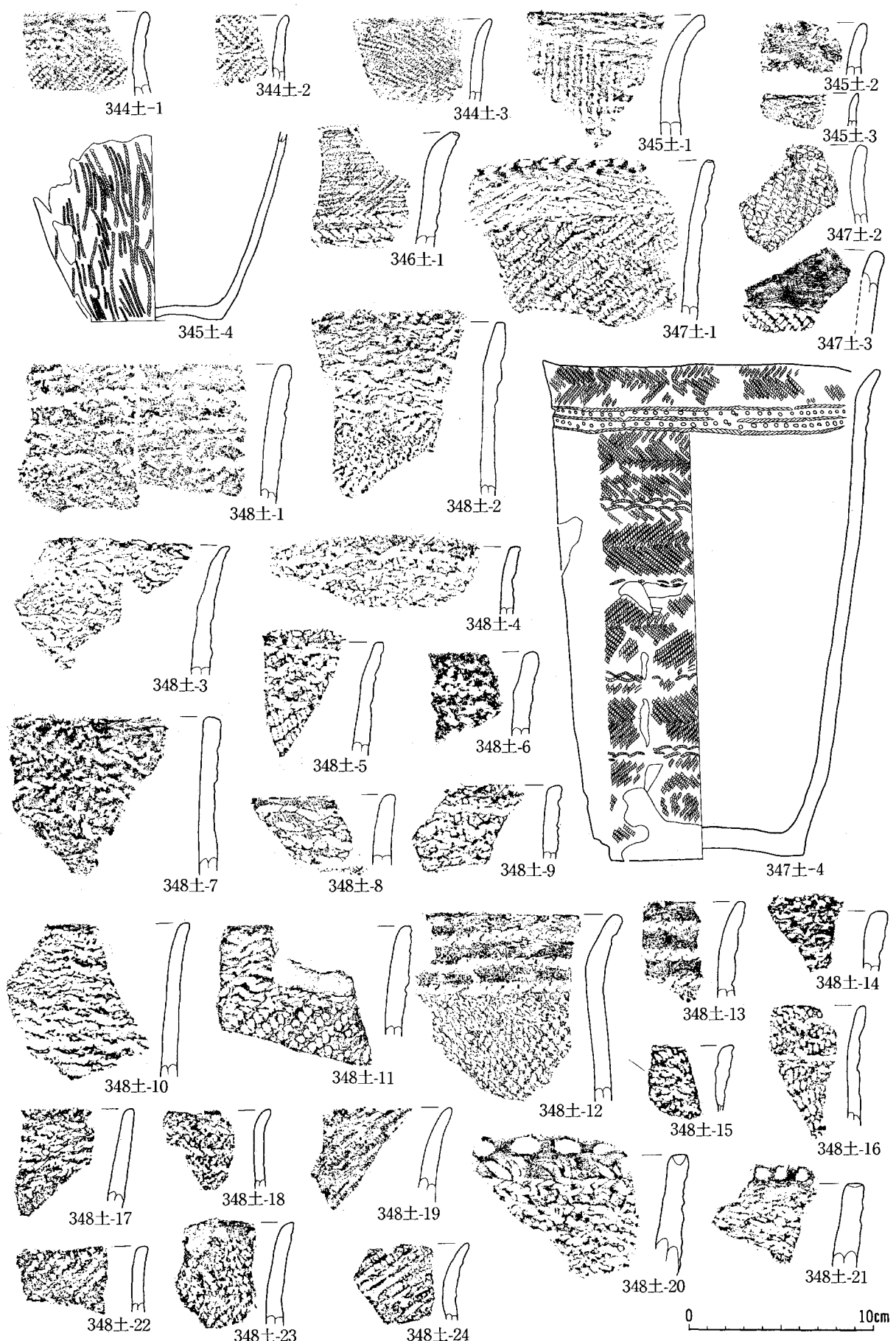


图82 第344·345·346·347·348号土坑出土土器

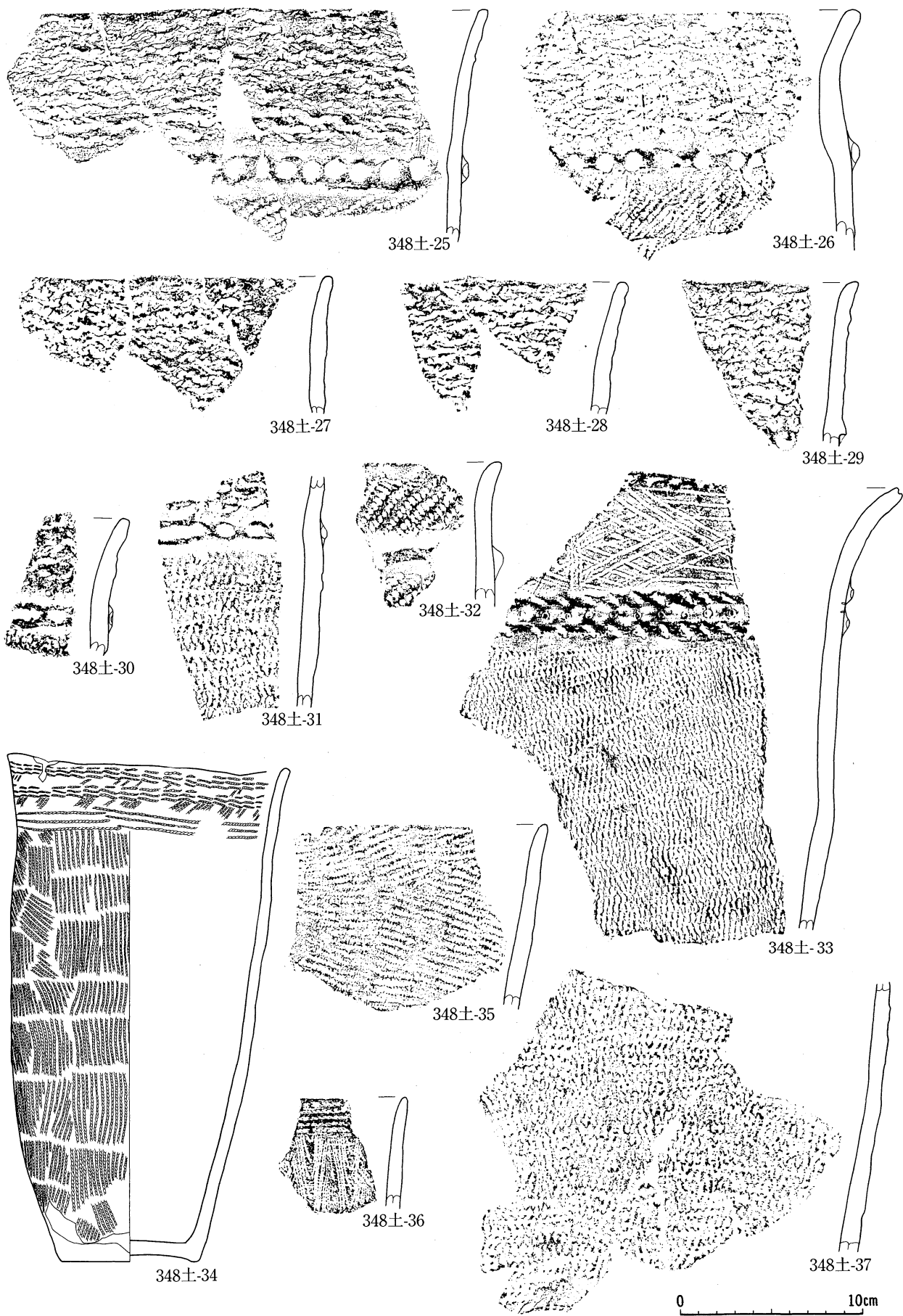


图83 第348号土坑出土土器



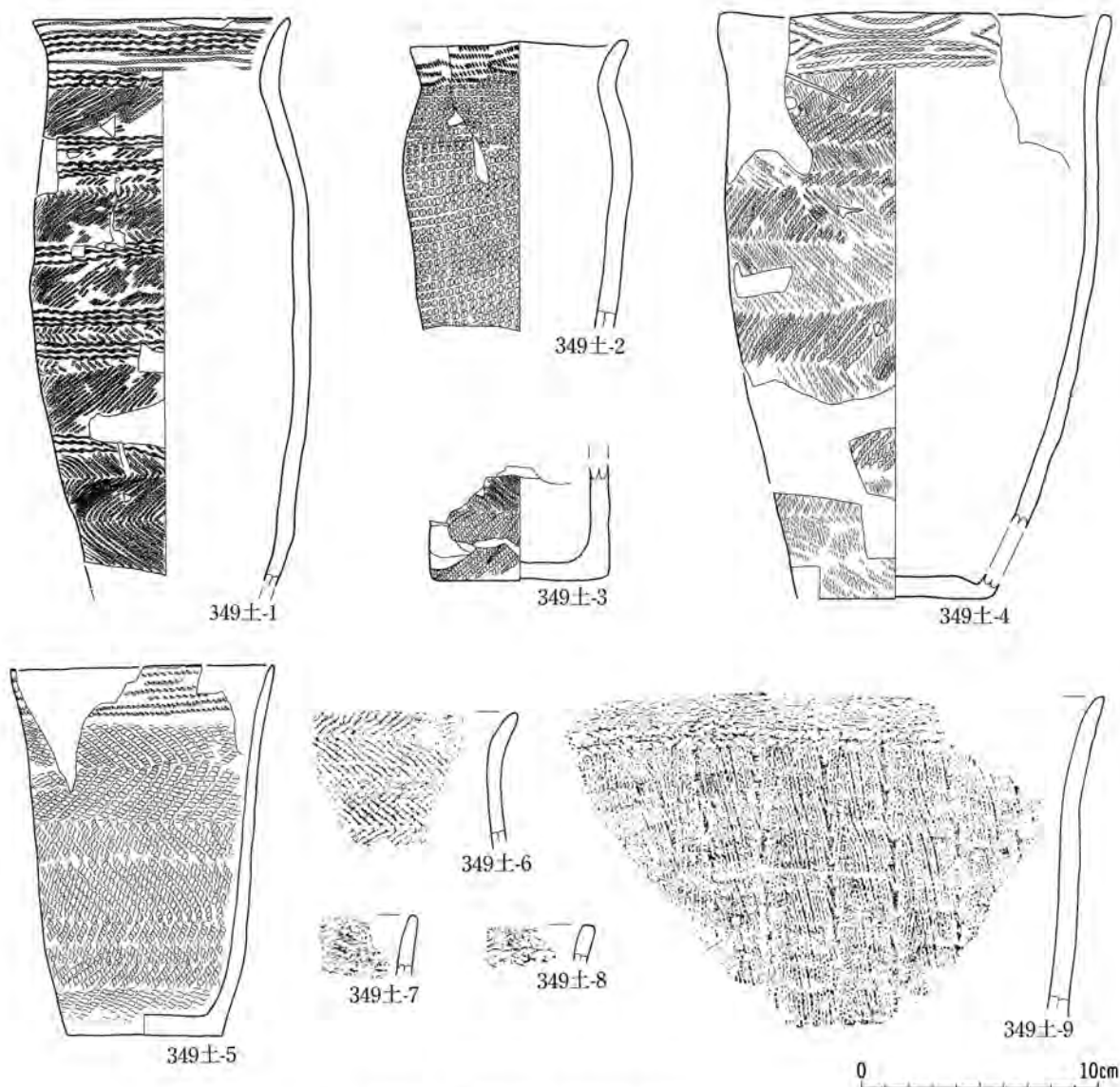


图84 第349号土坑出土土器



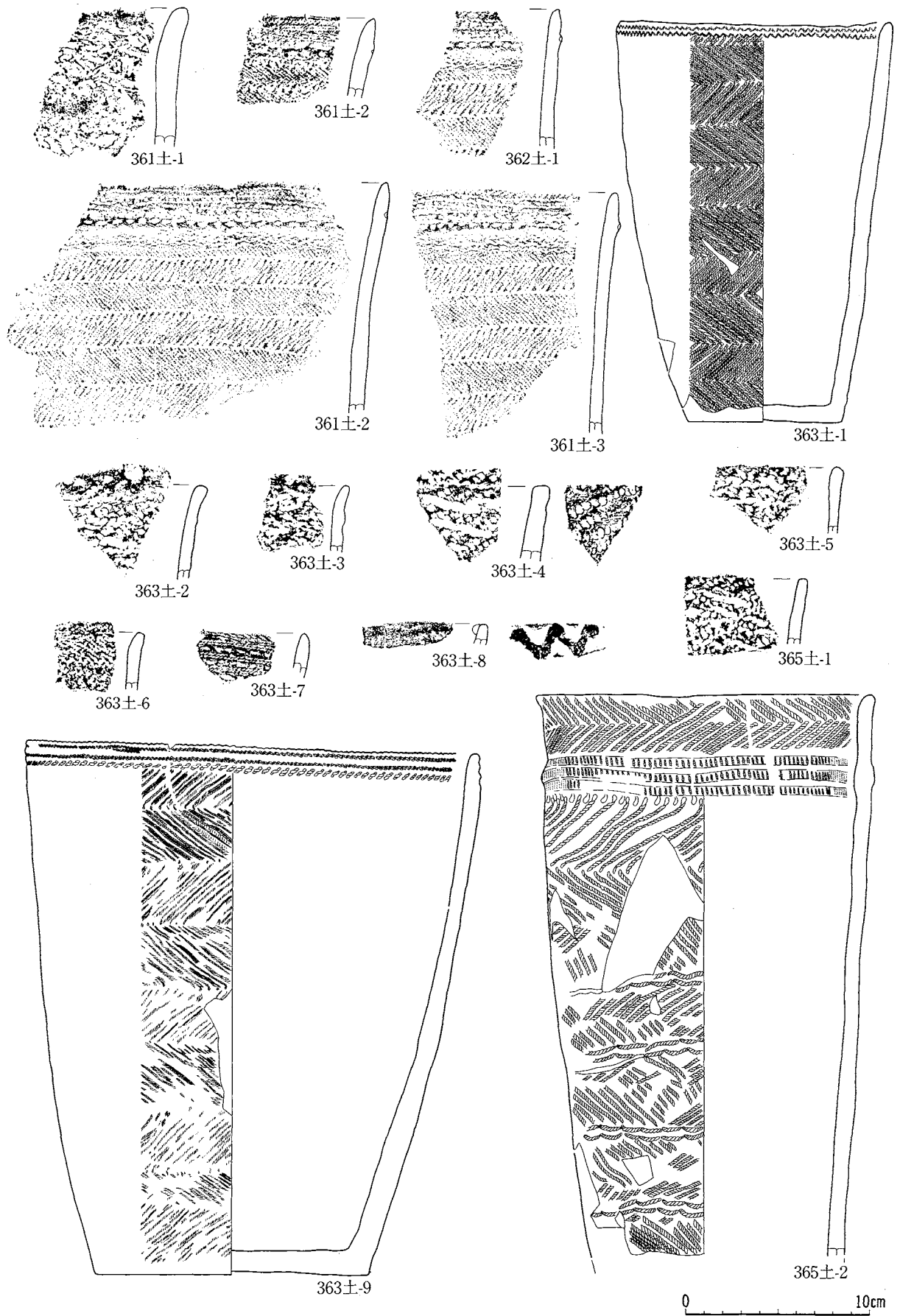


图85 第361·362·363·365号土坑出土土器

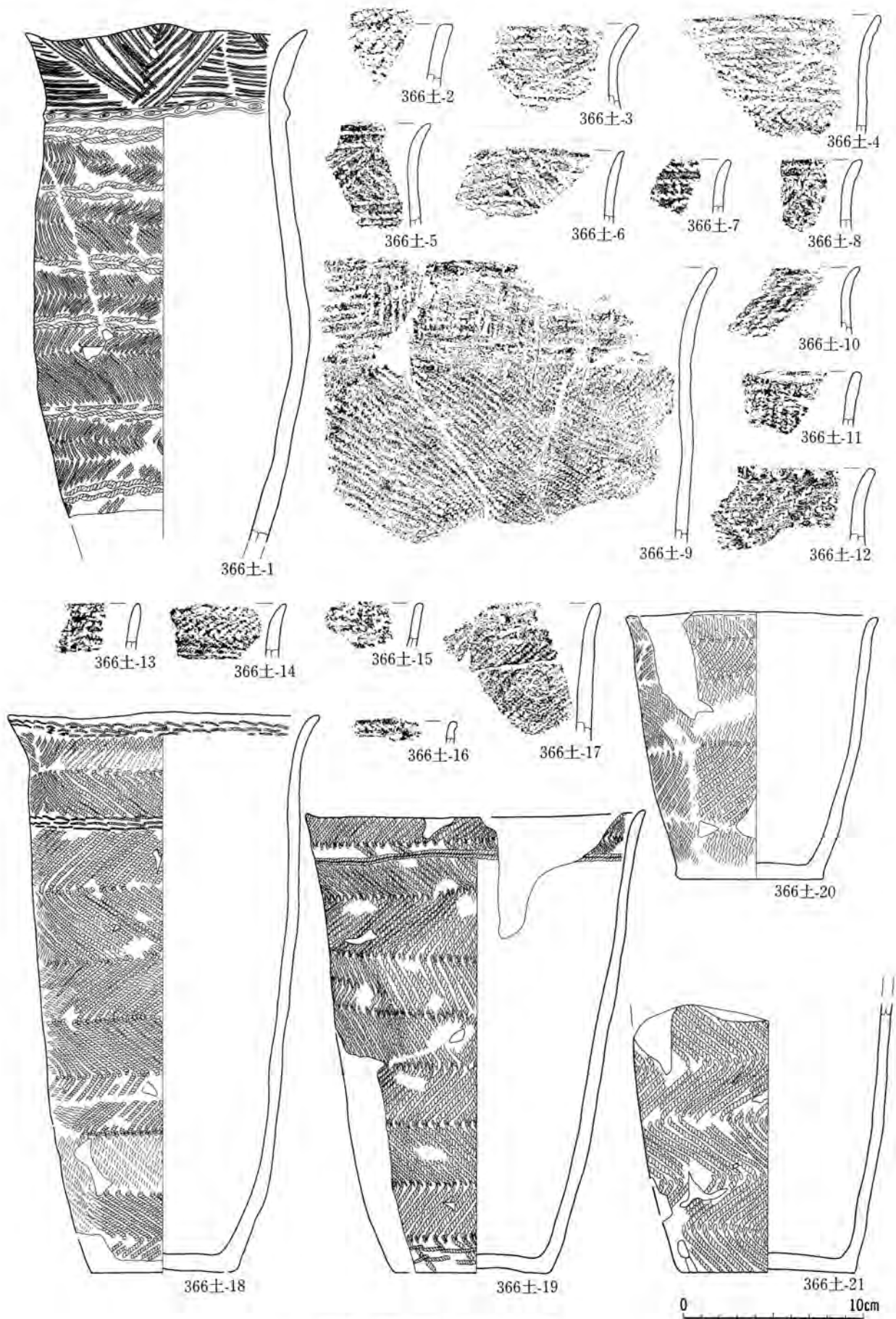


图86 第366号土坑出土土器

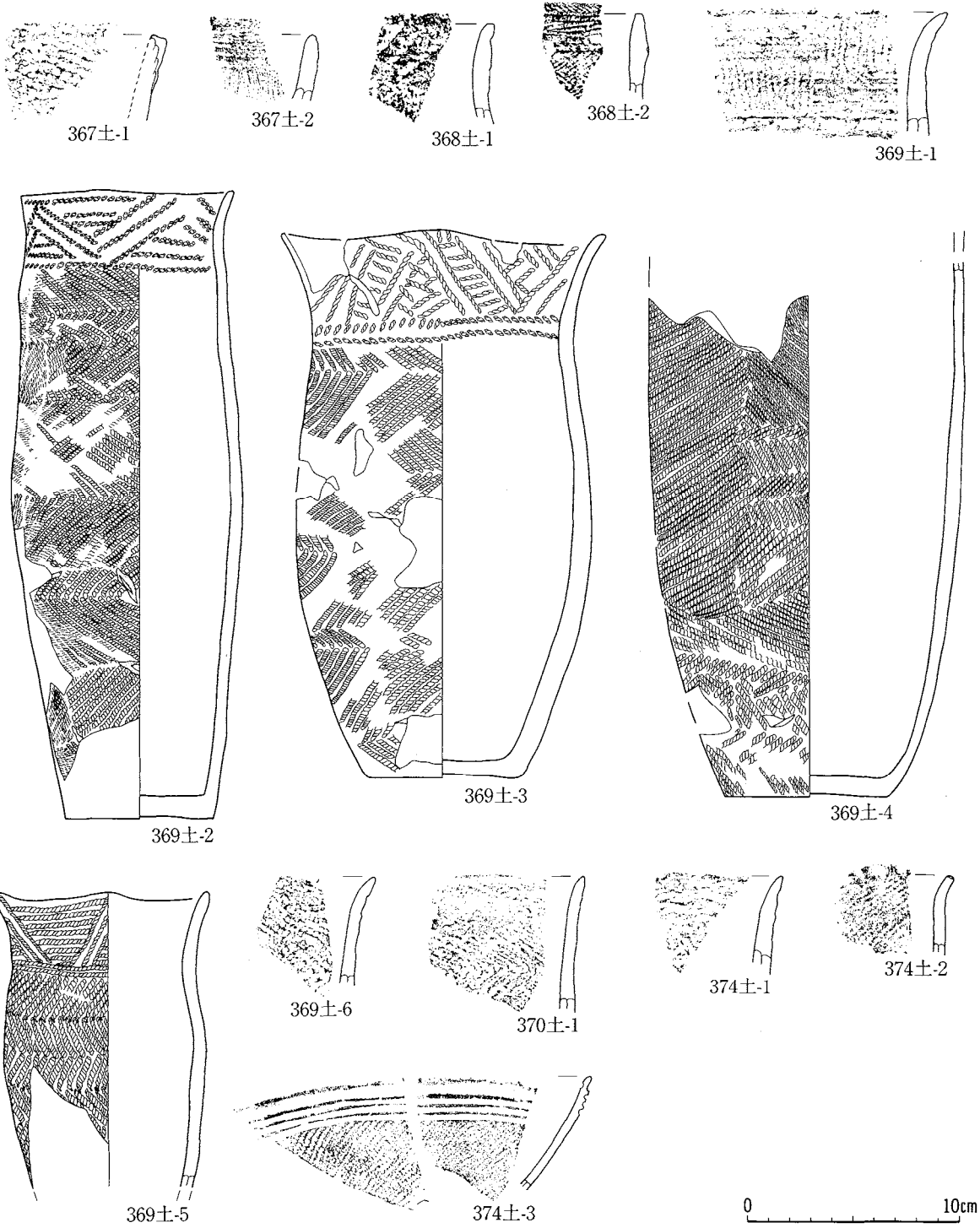


图87 第367·368·369·370·374号土坑出土土器

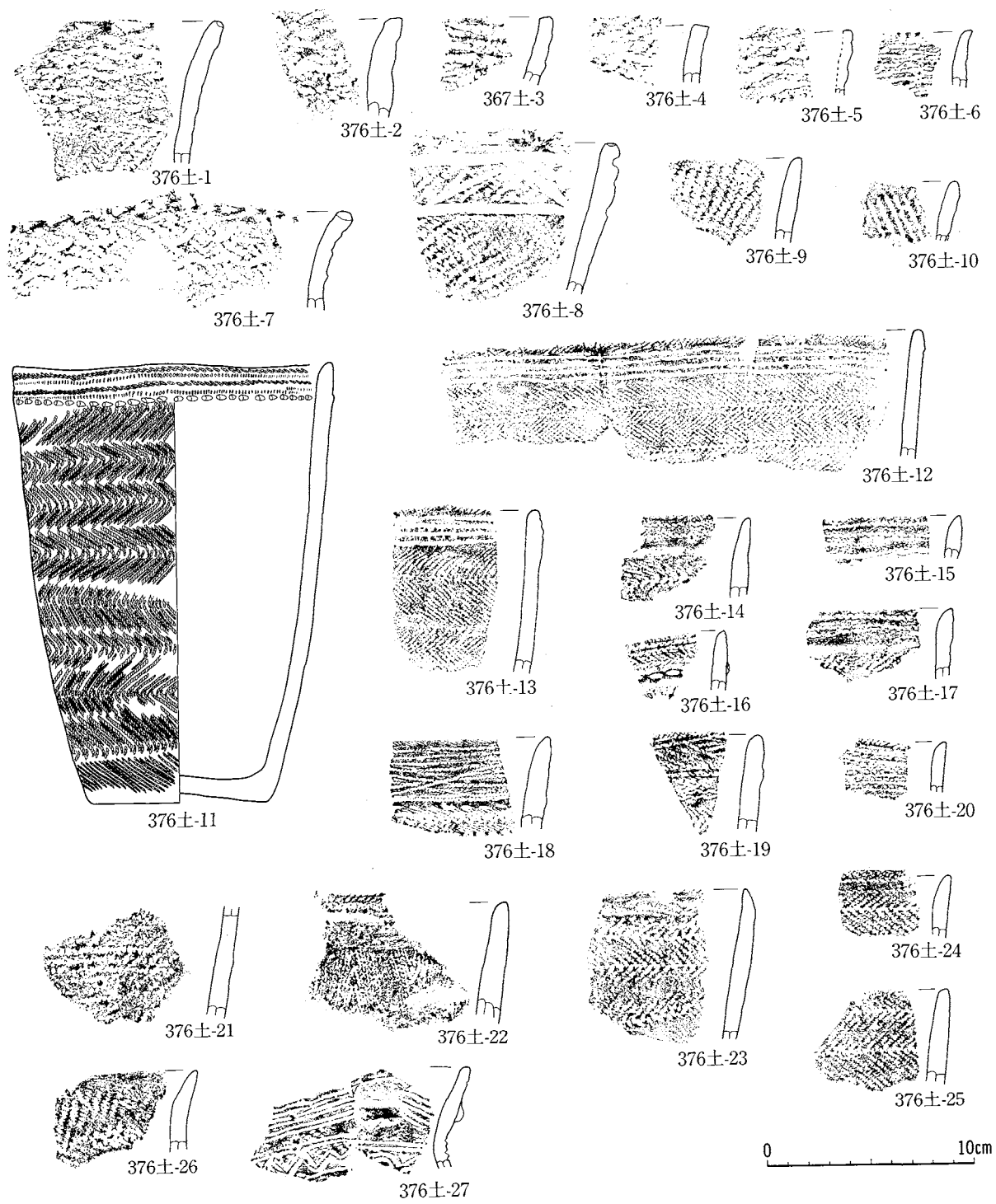


图88 第376号土坑出土土器

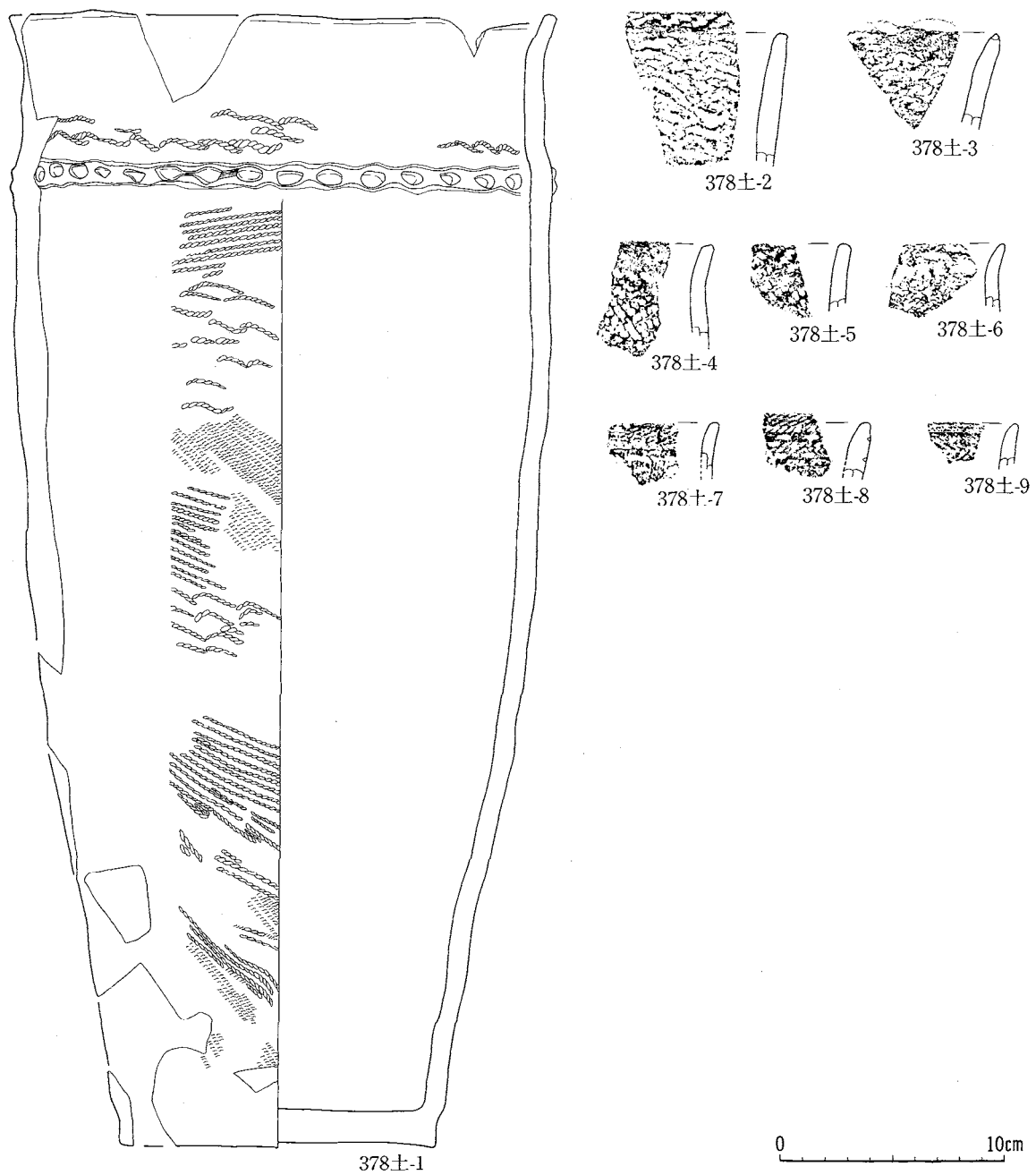


图89 第378号土坑出土土器

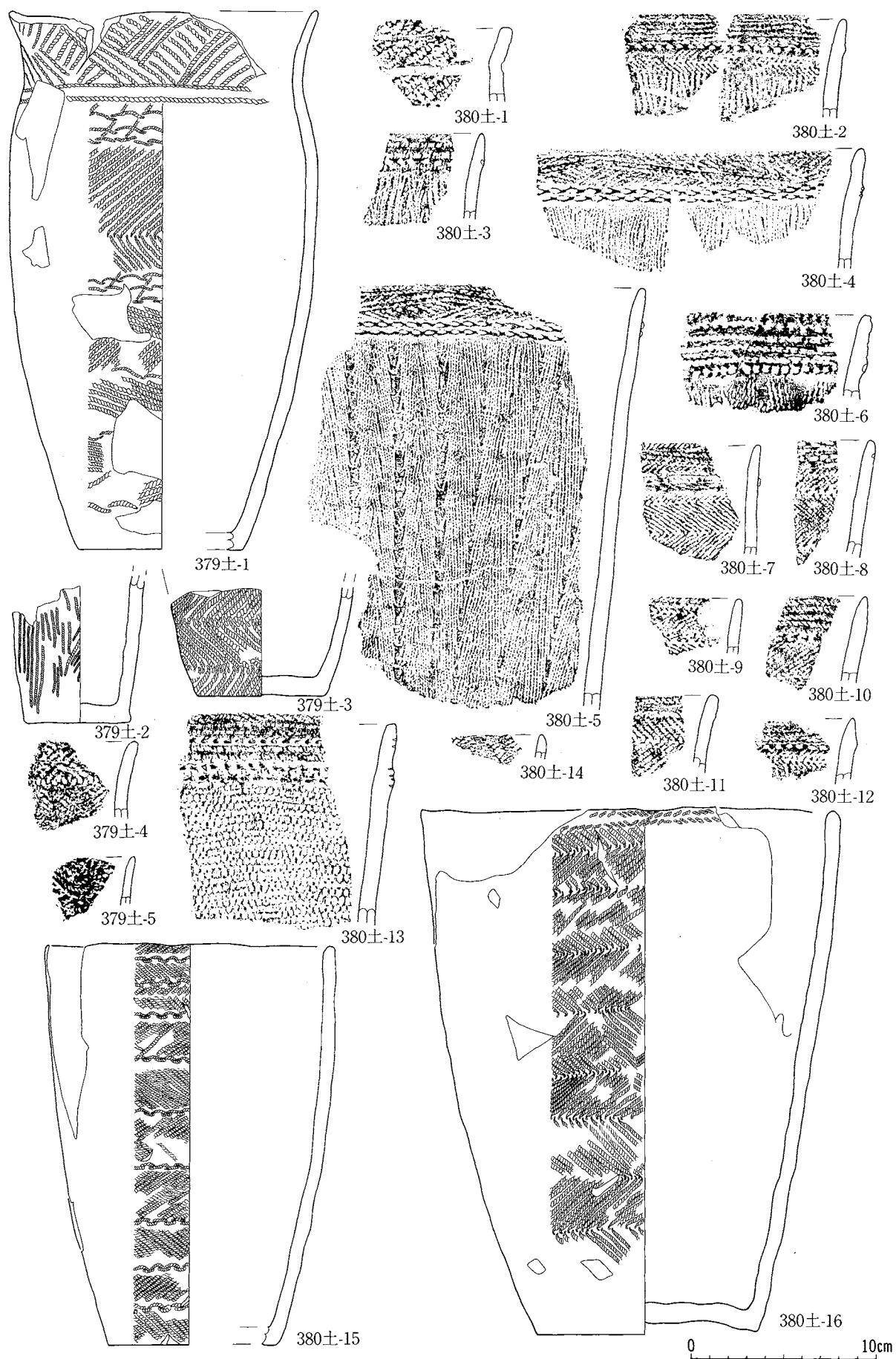
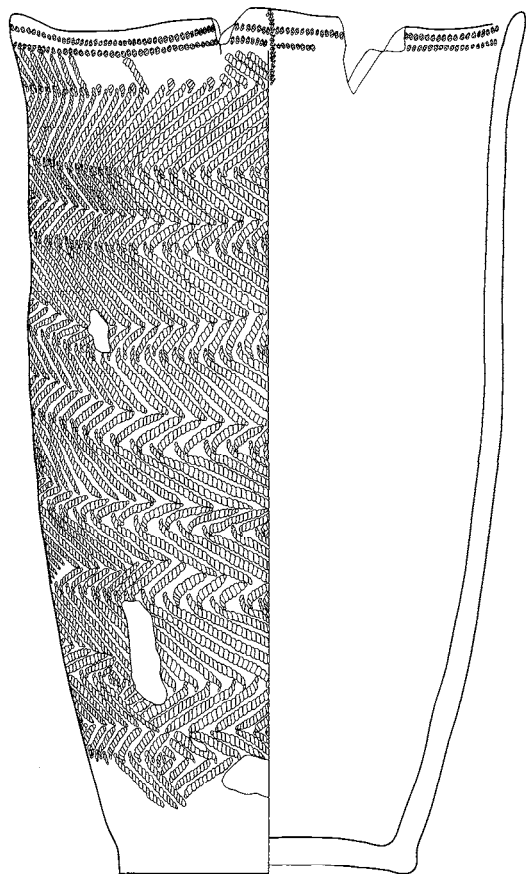
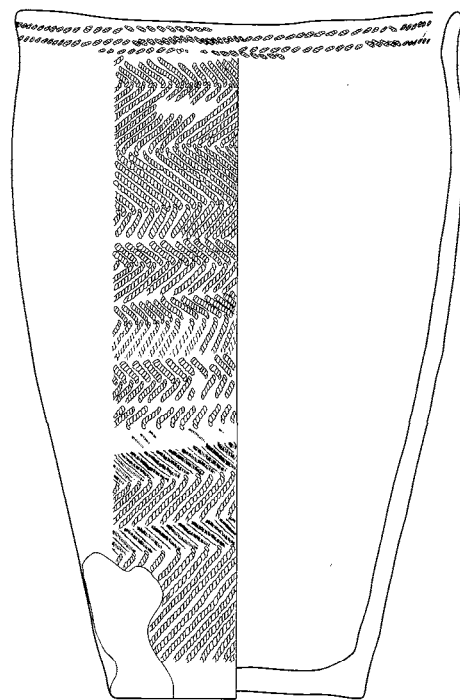


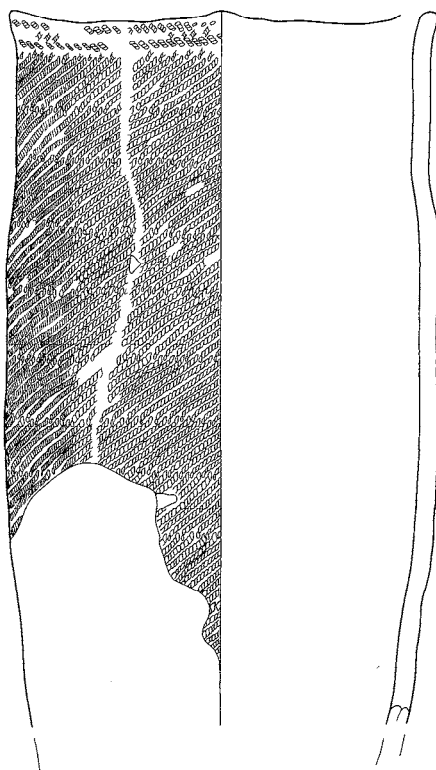
图90 第379·380号土坑出土土器



380±17



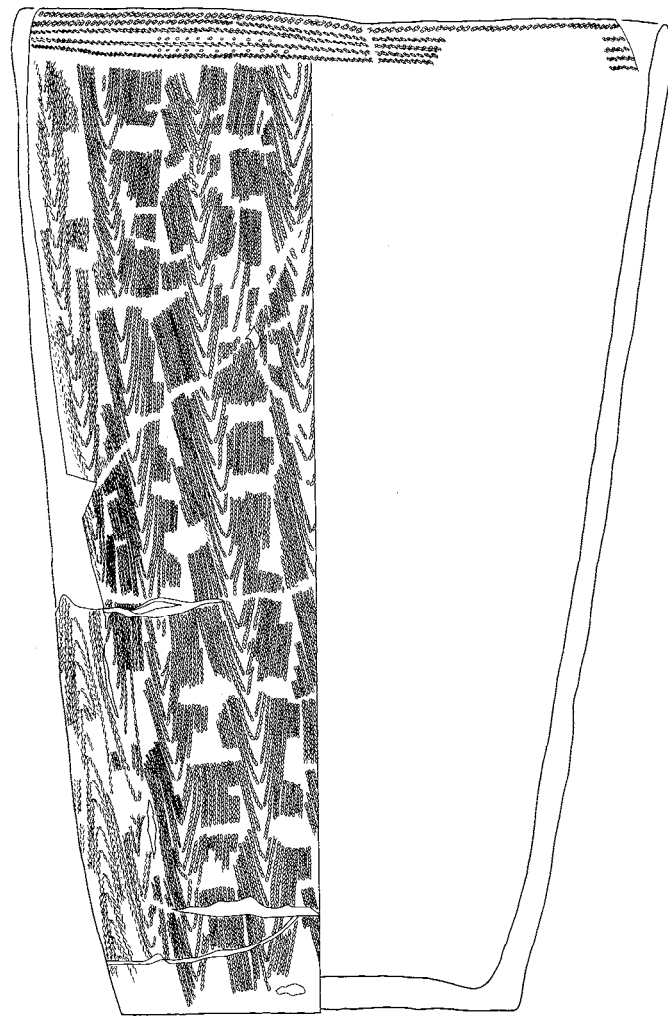
380±18



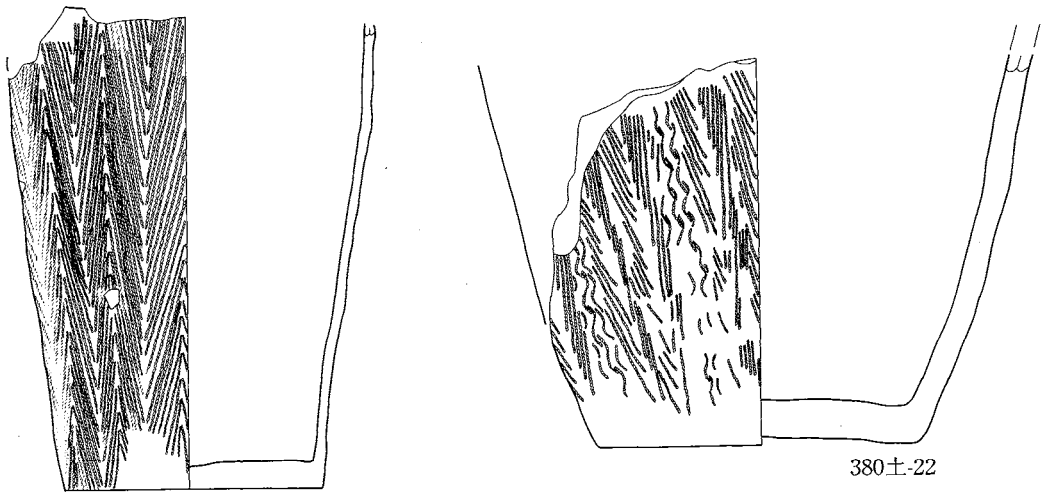
380±19

0 10cm

图91 第380号土坑出土土器



380±20



380±21

380±22

0 10cm

图92 第380号土坑出土土器



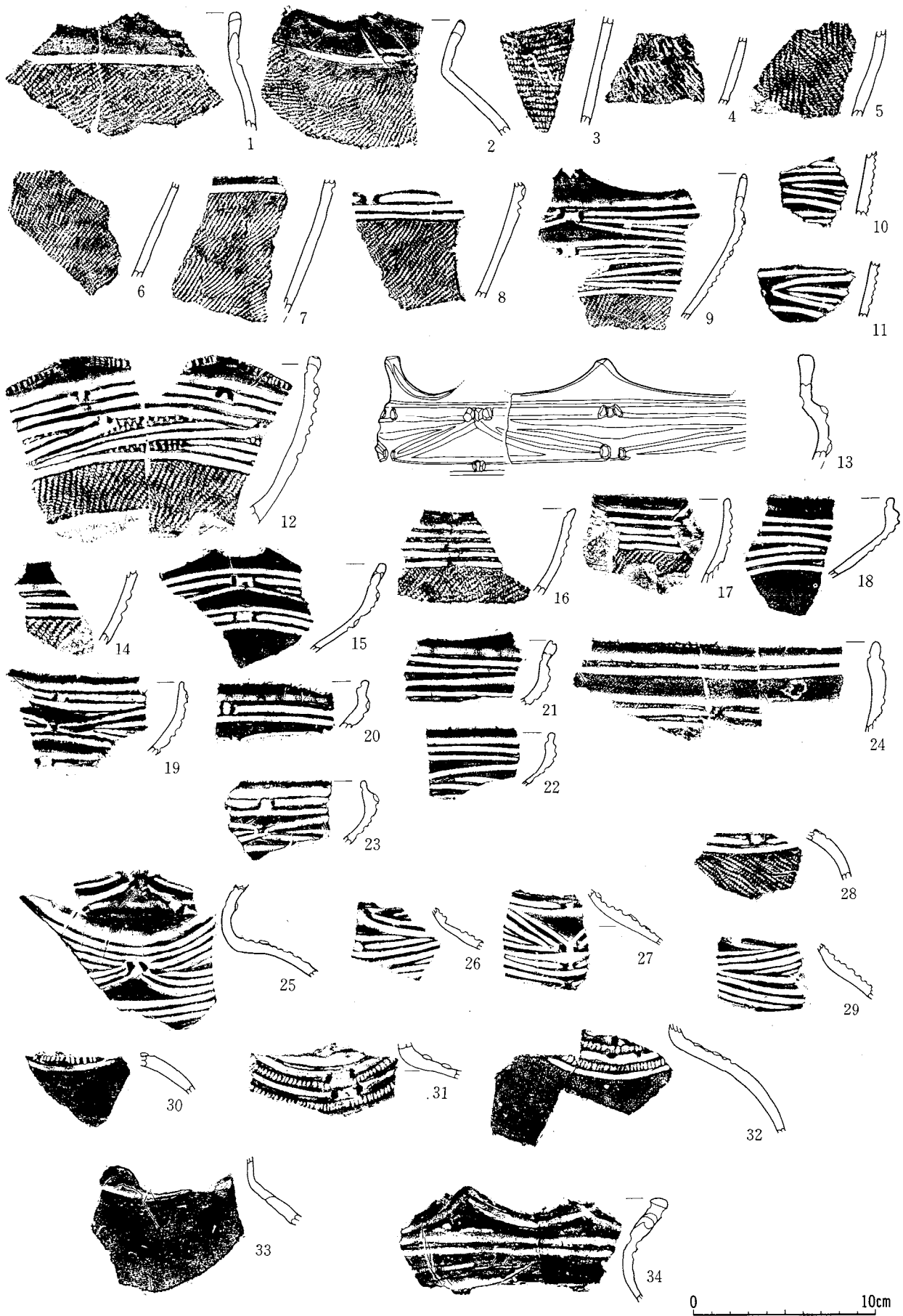


图93 第384号土坑出土土器

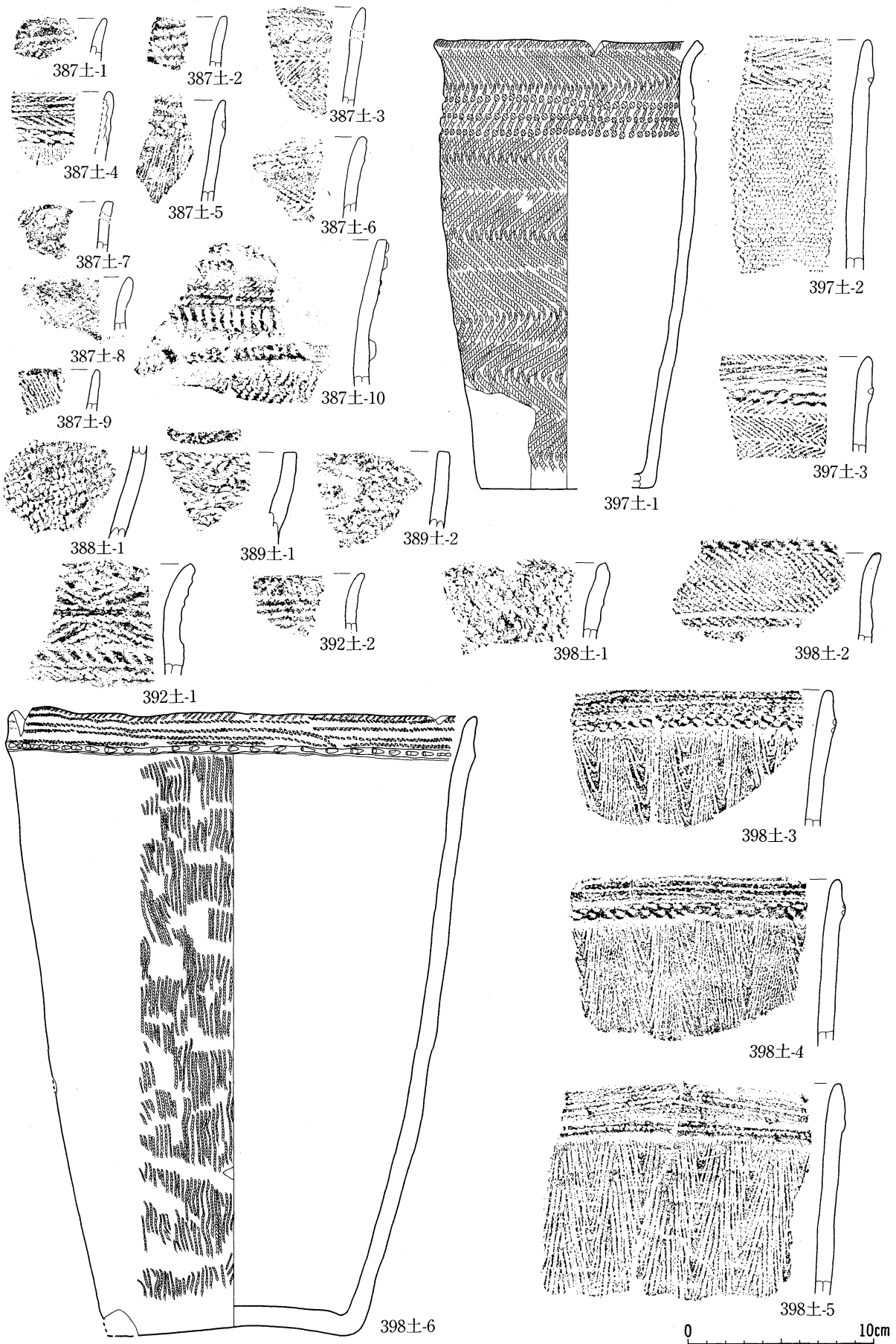


图94 第387·388·389·392·397·398号土坑出土土器

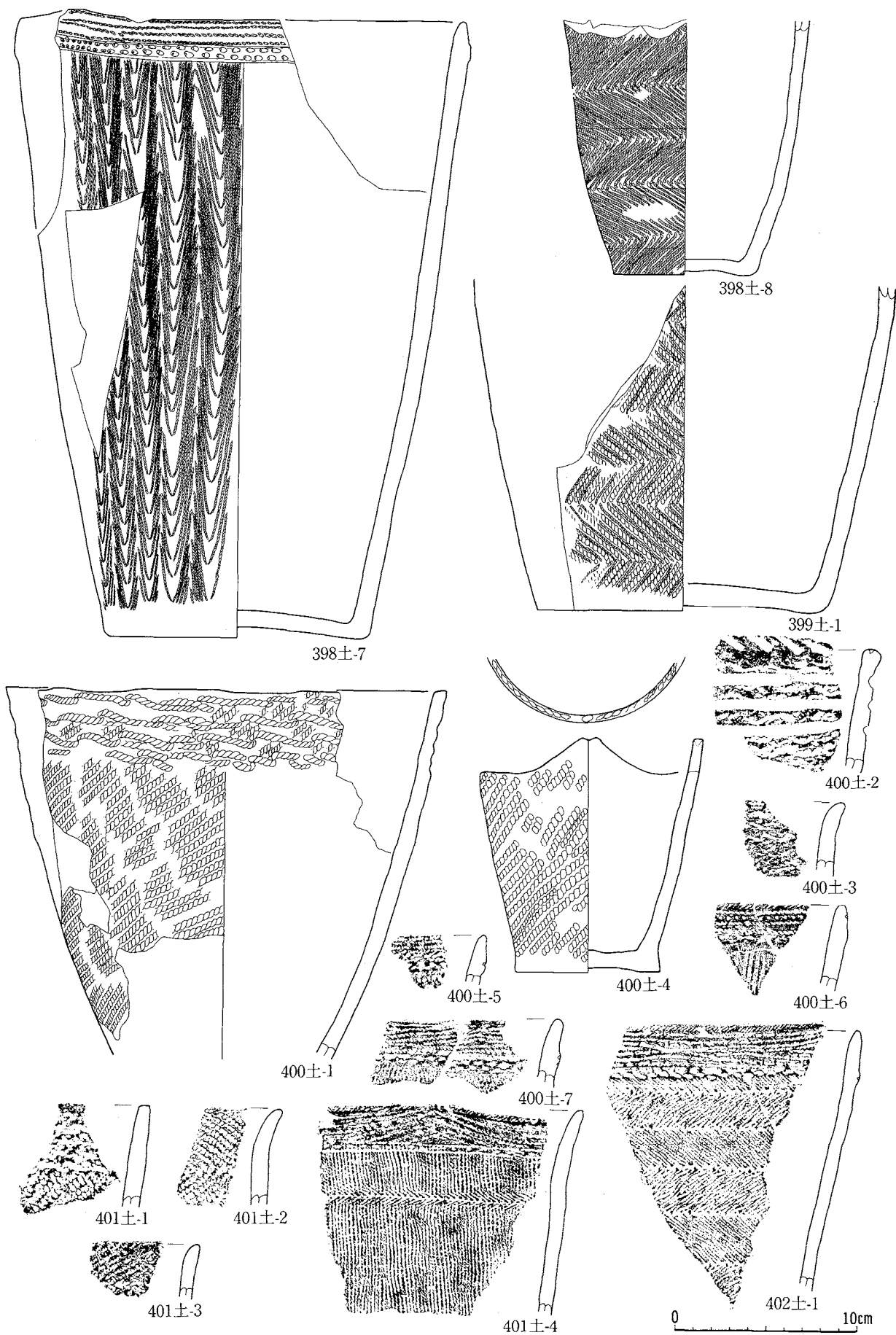


图95 第398·399·400·402号土坑出土土器

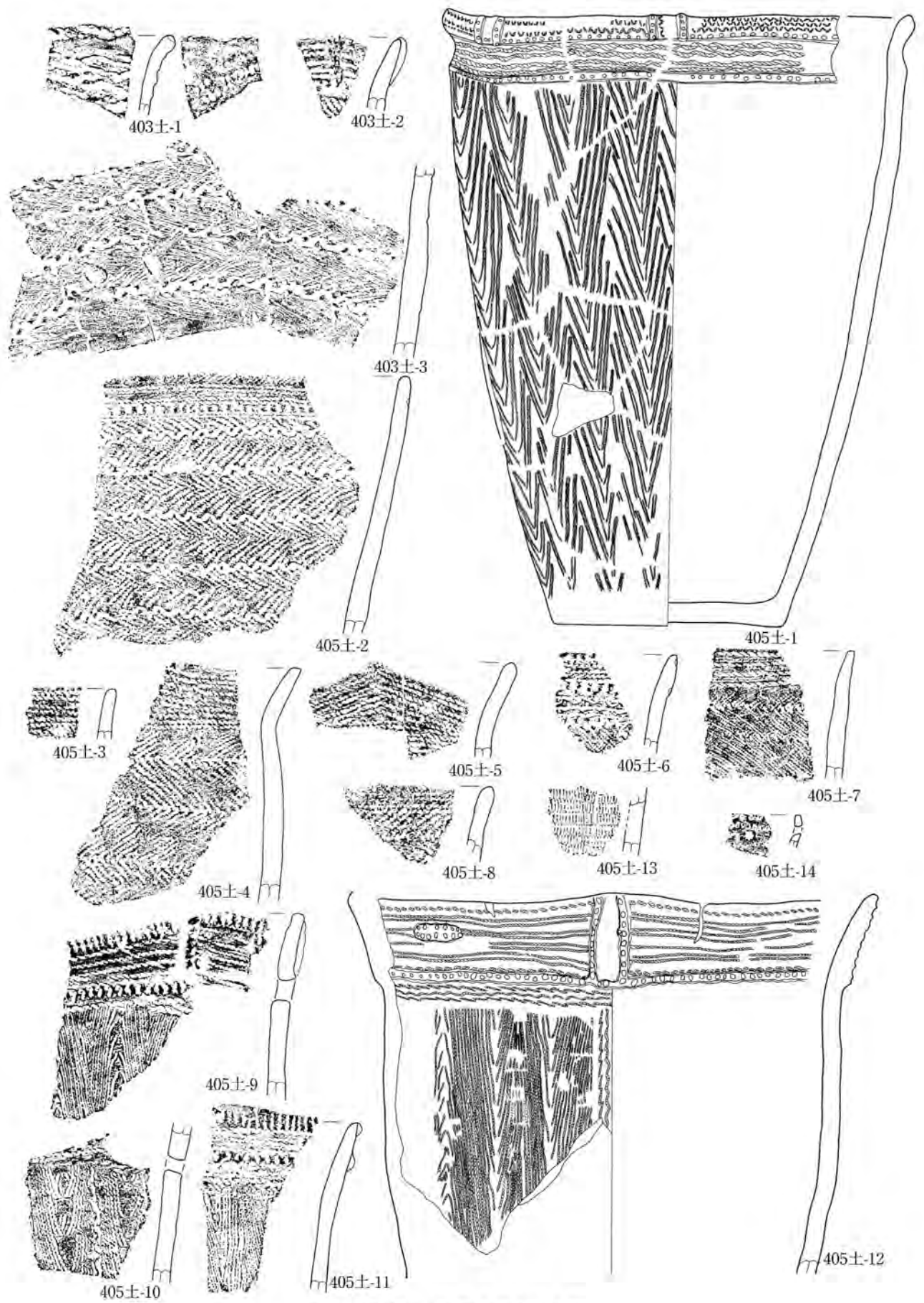
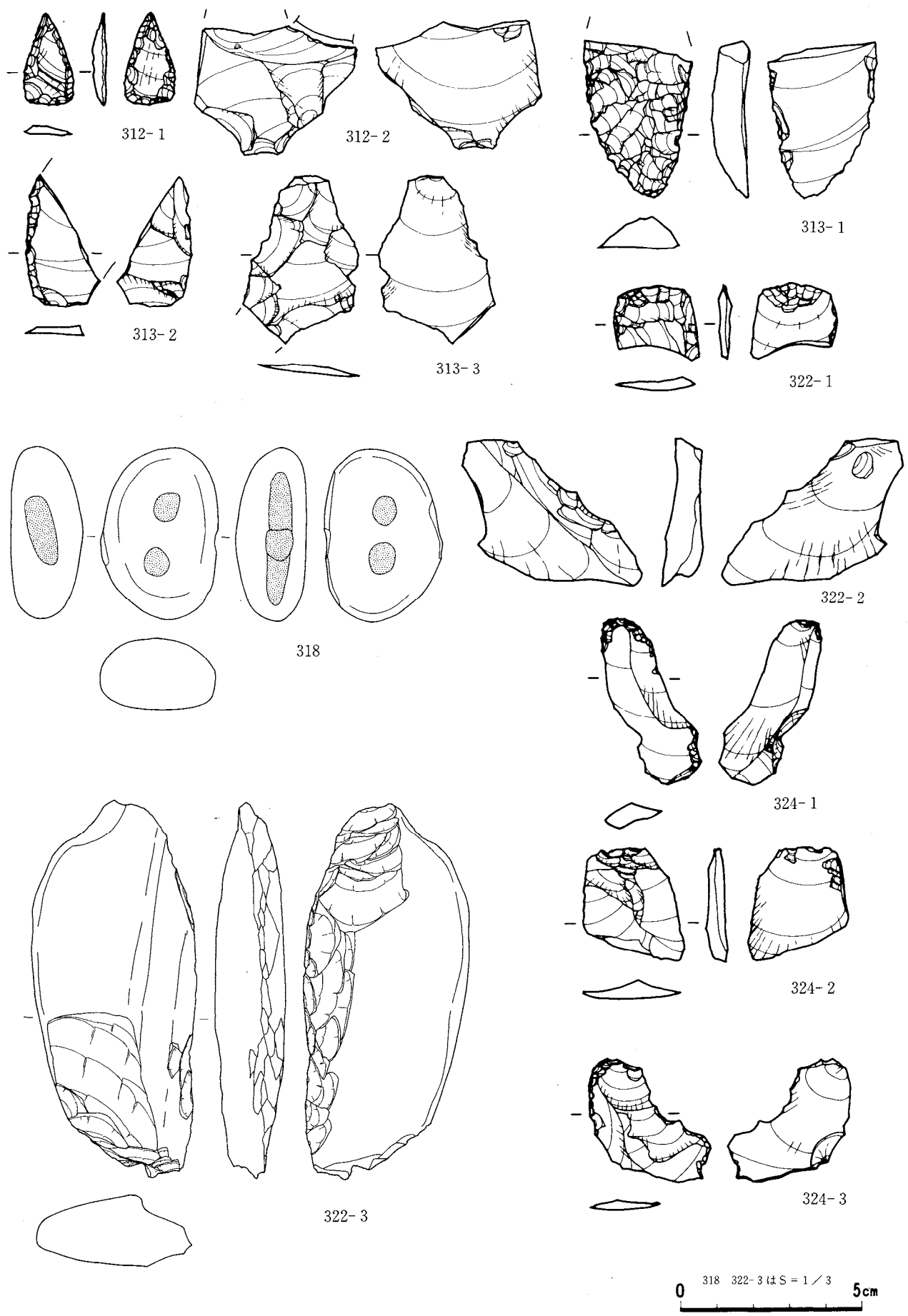


图96 第403·405号土坑出土土器



0 318 322-3はS=1/3 5cm

图97 土坑出土石器①

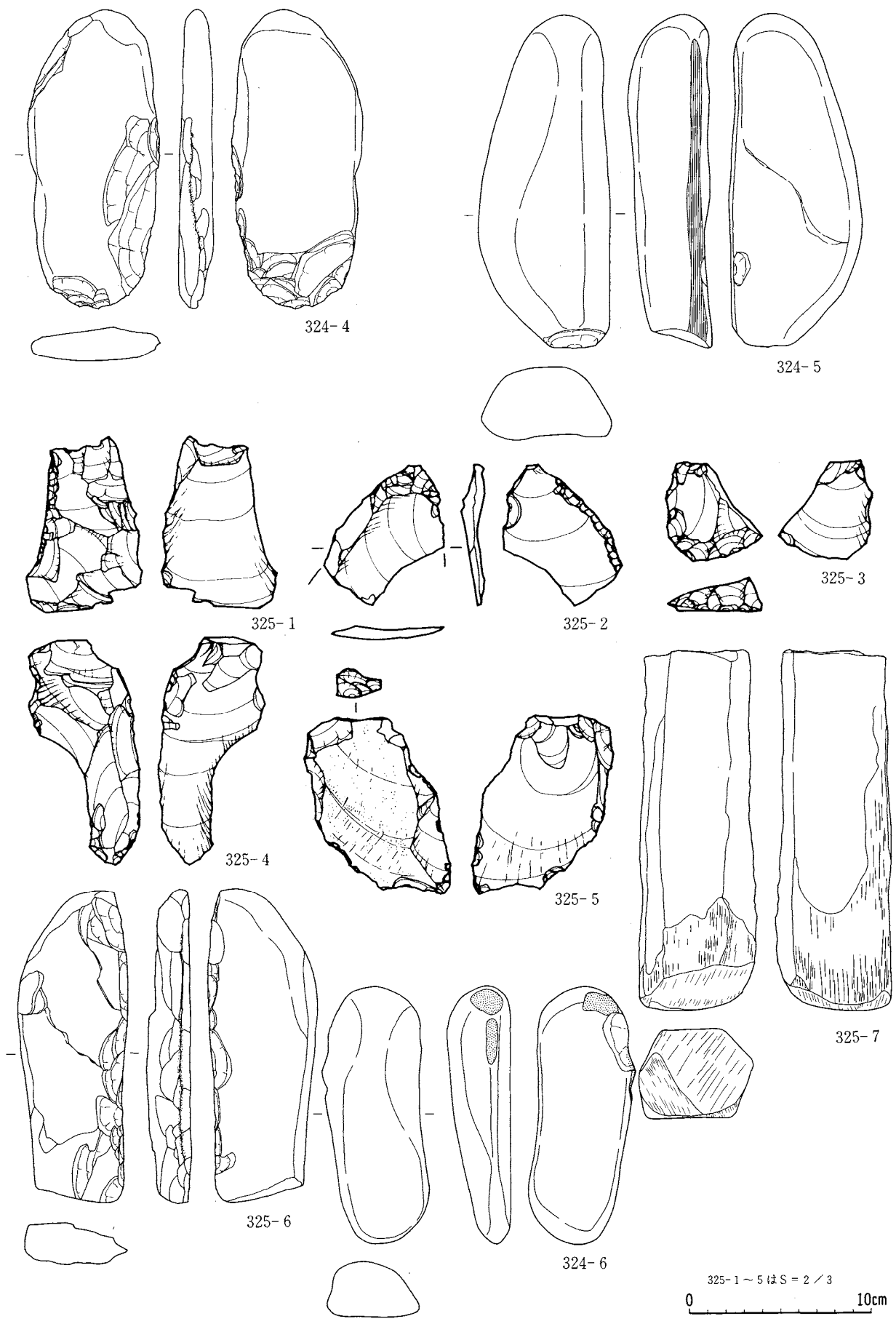


图98 土坑出土石器②

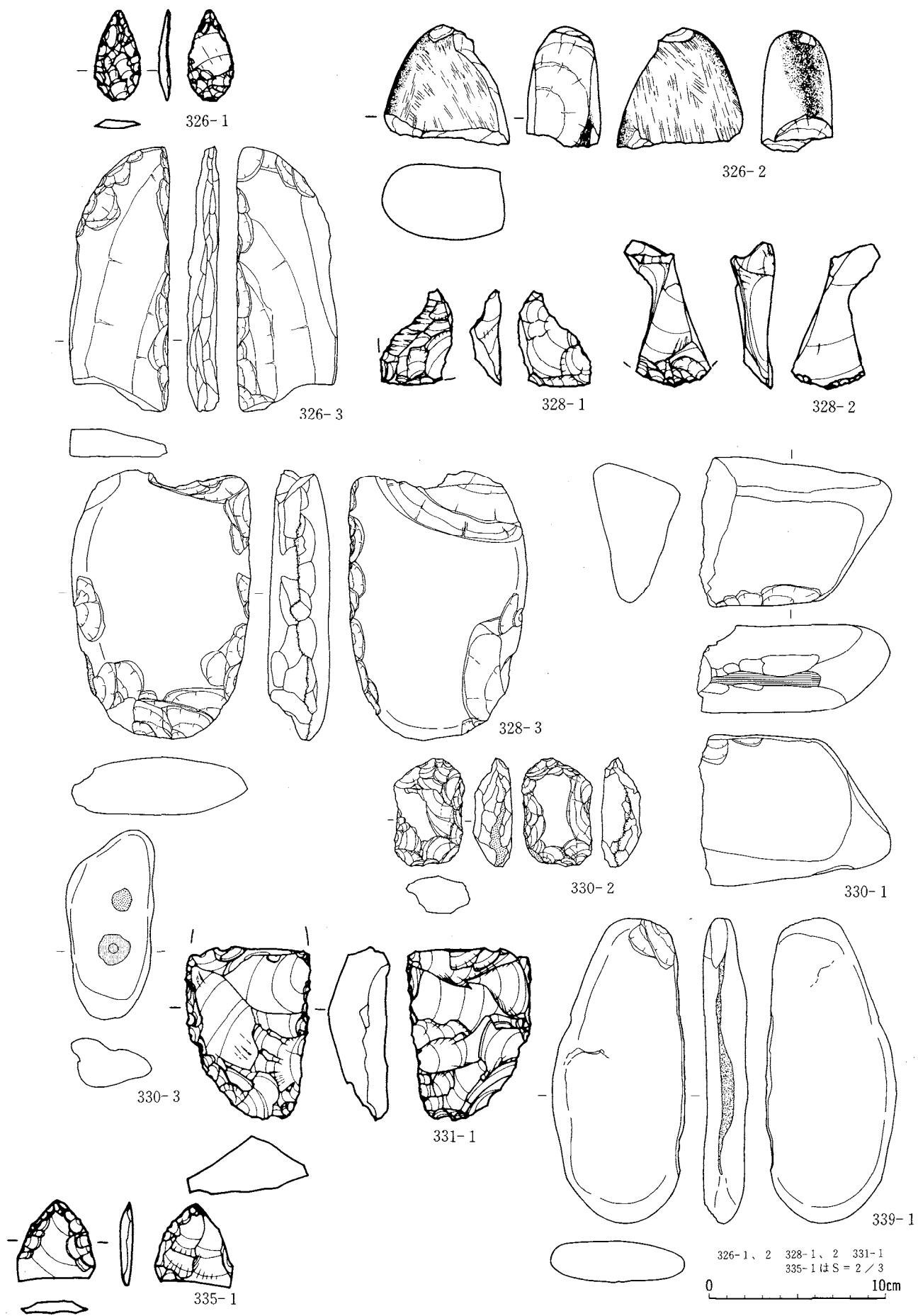


图99 土坑出土石器③

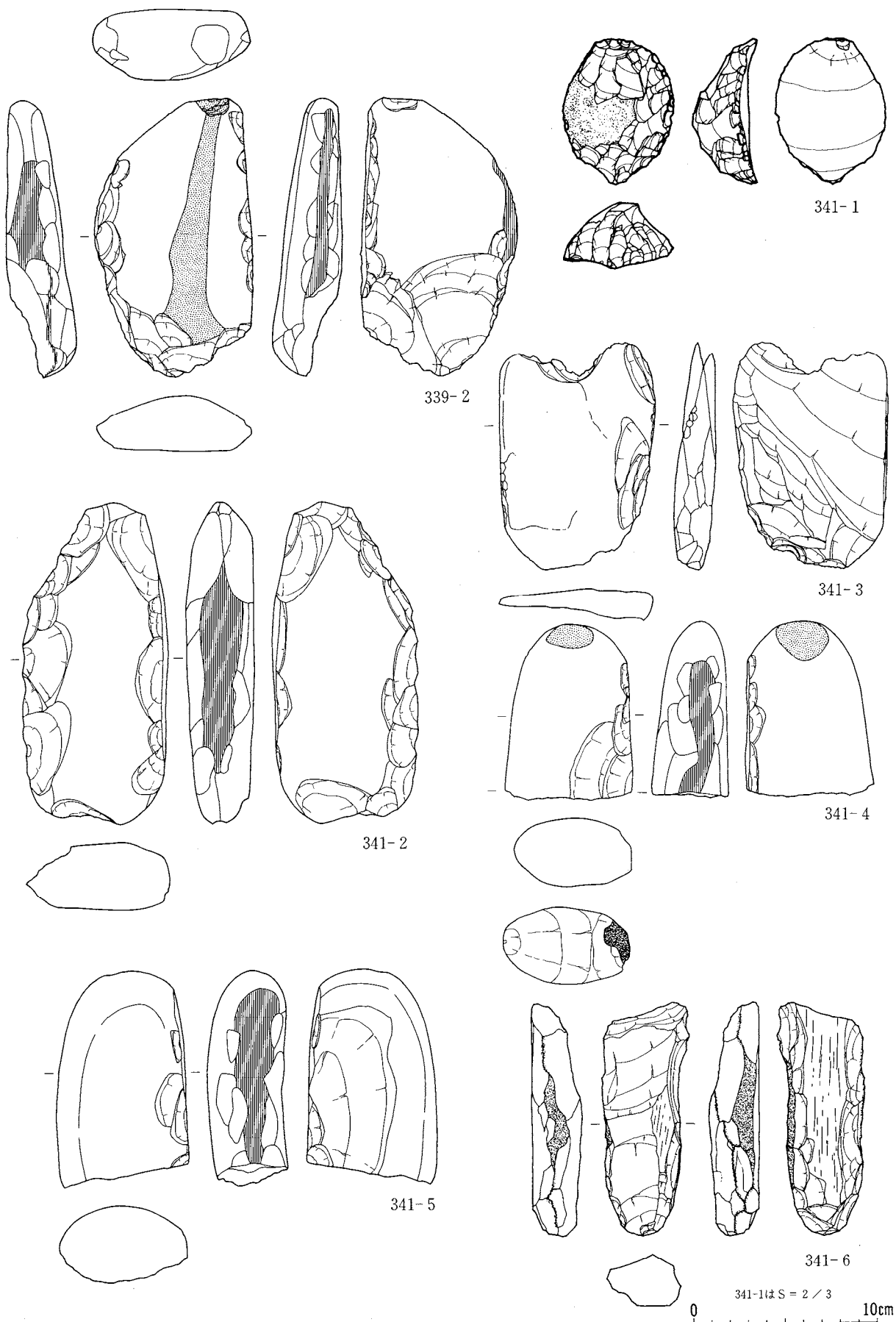


图100 土坑出土石器④



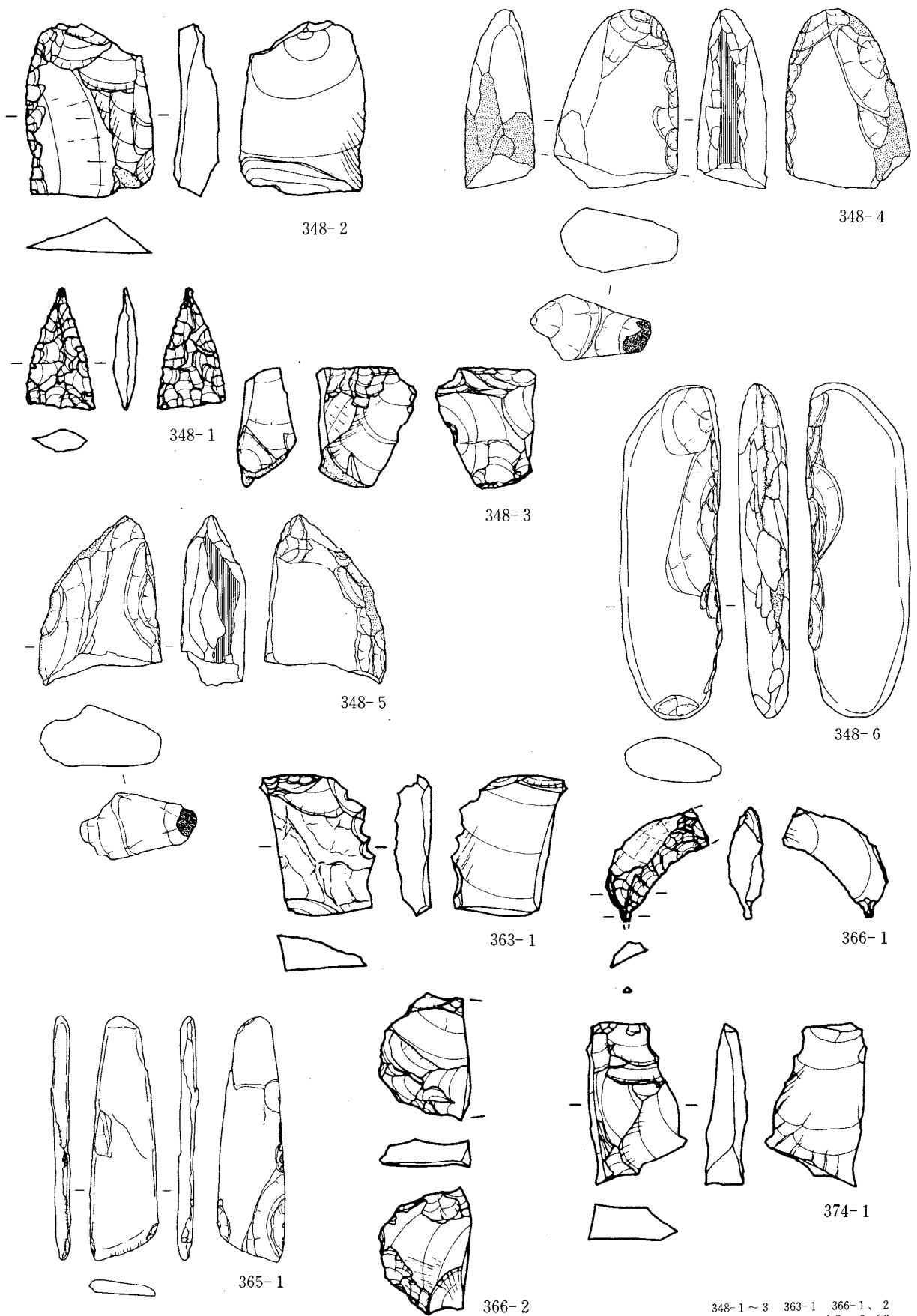


图101 土坑出土石器⑤

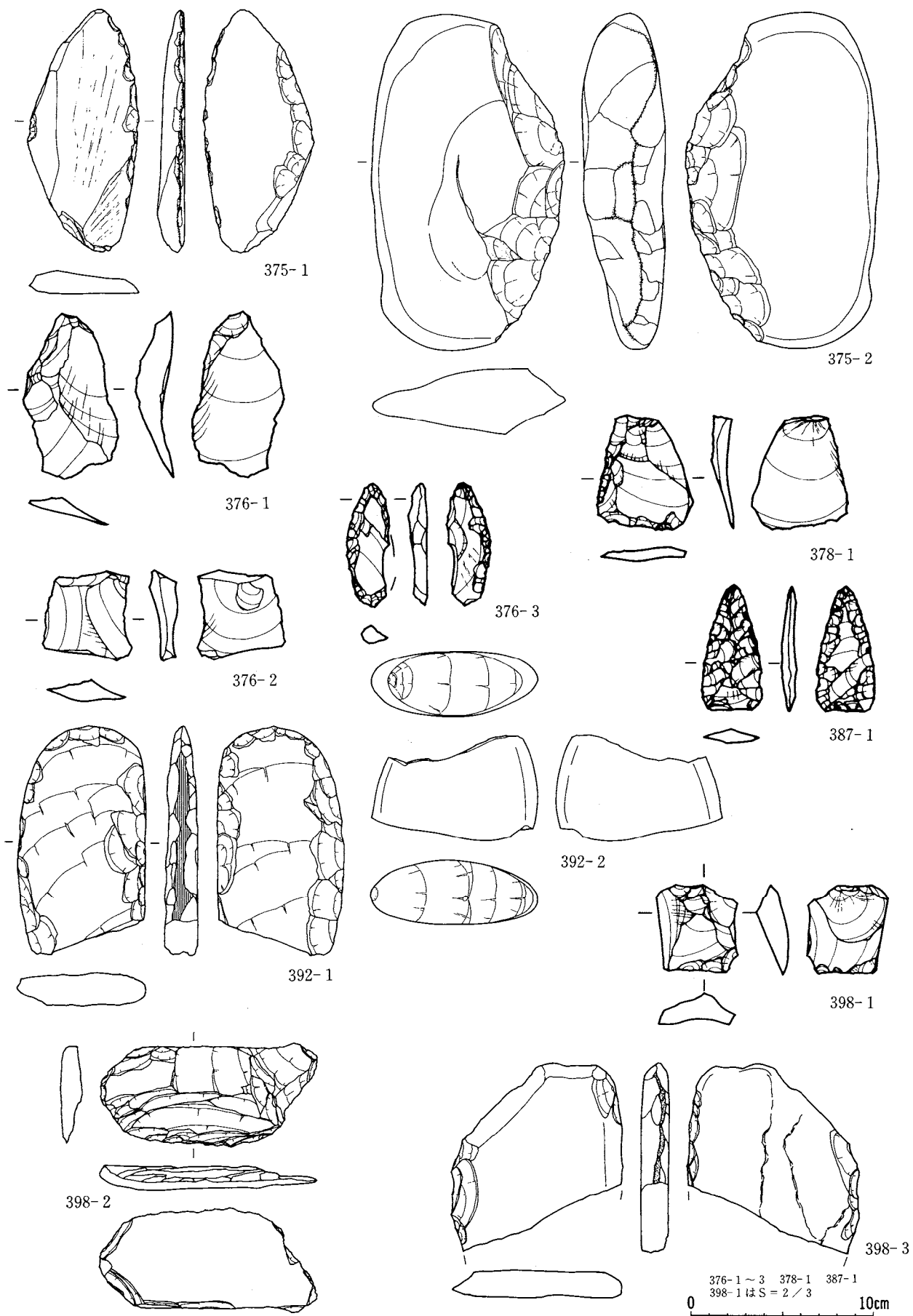


图102 土坑出土石器⑥

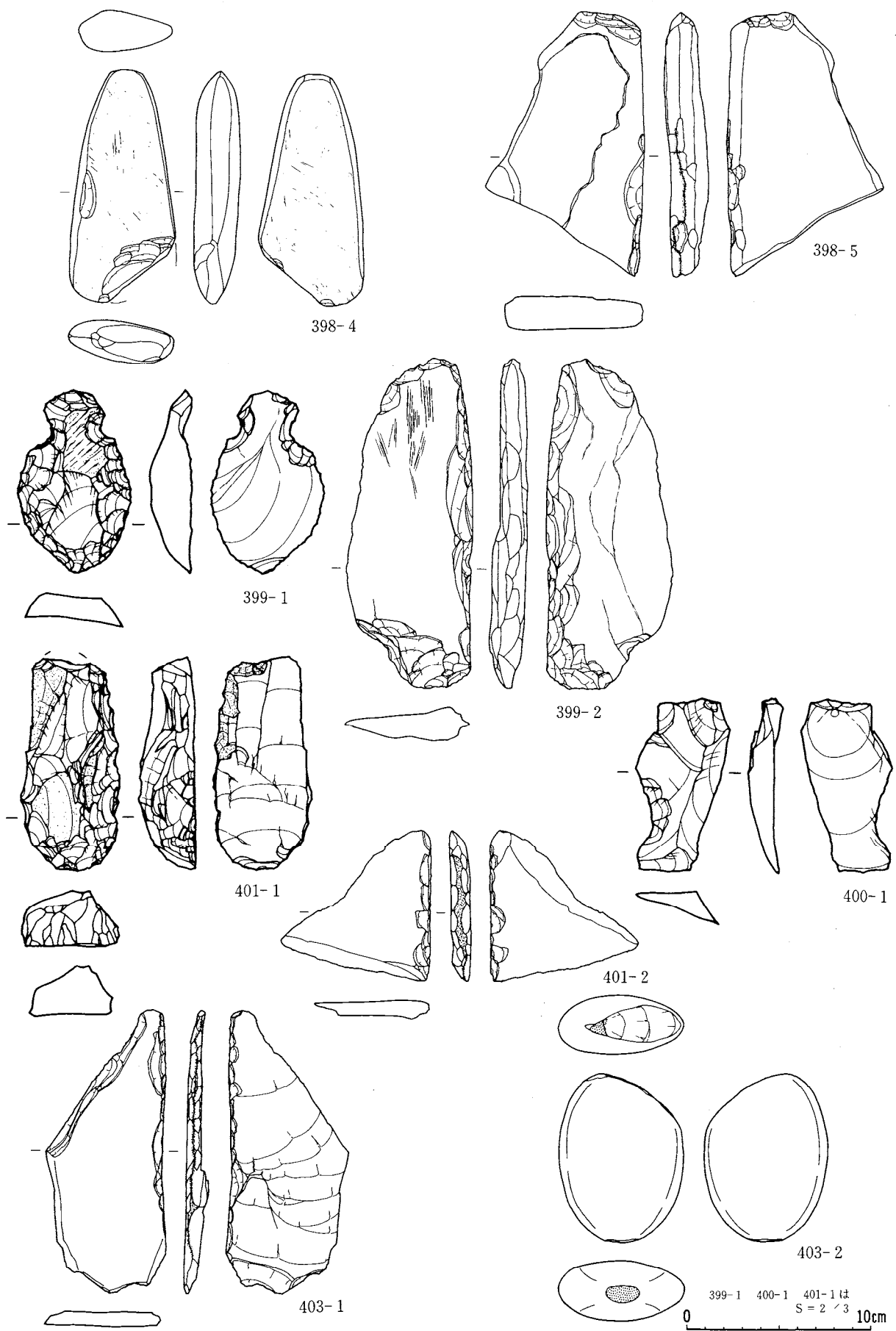


图103 土坑出土石器⑦

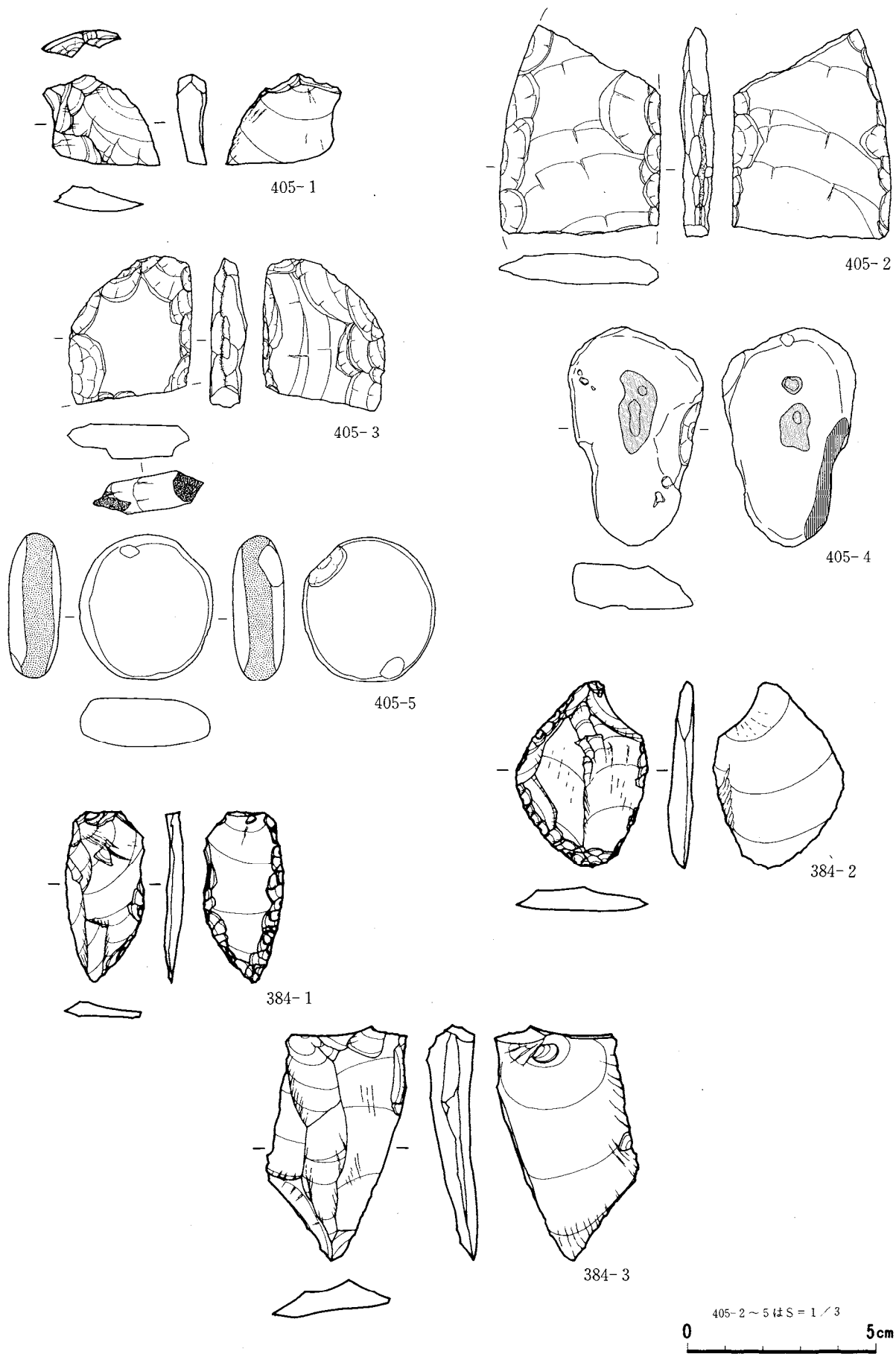


图104 土坑出土石器⑧

土坑内出土石器観察表

図版NO	出土位置	整理番号	層位	大分類	細分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(mm)	石質	備考
312-1	312土		2	石鏃	I b	25	14	4		珩質頁岩	
312-2	312土		1	不定形	II	35	45.5		16.3	珩質頁岩	
313-1	313土		2	不定形	III	46.5	32	2	4.3	珩質頁岩	
313-1	313土		3	石匙	I b	43.5	30	8.5	13.3	珩質頁岩	
313-2	313土		1	不定形	I b	36	20	2	2.5	珩質頁岩	
318-1	318土		1	敲磨器類	II a	97	65	41	326.4	砂岩	
322-1	322土		1	不定形	I b	18	22	3.5	2.1	珩質頁岩	
322-2	322土		2	不定形	III	36	41	10	9.2	珩質頁岩	
322-3	322土		3	敲磨器類	IV a1	209	93	40	959.7	粘板岩	
324-1	324土		1	不定形	I b	37	16	5	5.2	珩質頁岩	
324-2	324土		2	不定形	III	29	27	5	4.2	珩質頁岩	
324-3	324土		3	不定形	III	29	30	3	3.3	珩質頁岩	
324-4	324土		4	敲磨器類	IV b	163	72	20	290.9	粘板岩	
324-5	324土		6	敲磨器類	III b	183	73	47	703	砂岩	被熱
324-6	324土		5	敲磨器類	II b	141	54	36	324.5	粘板岩	
325-1	325土		1	不定形	I b	44	31	6	6.2	珩質頁岩	
325-2	325土		5	不定形	I b	30	30	5.5	4.4	珩質頁岩	
325-3	325土		2	不定形	I a	27	25	9.5	4.6	珩質頁岩	
325-4	325土		4	不定形	III	57	27	6	9	珩質頁岩	
325-5	325土		3	不定形	III	47	33	8	17.7	珩質頁岩	
325-6	325土		6	半円状	II	172	61	22	288.1	砂岩	
325-7	325土		7	敲磨器類	IV b	198	63	48	815.7	流紋岩	
326-1	326土		1	石鏃	I c	25	13	3	0.8	珩質頁岩	
326-2	326土		3	石斧	I c	34	35.5	20.5	30.3	頁岩	
326-3	326土		2	半円状	II	150	56	17	199.1	粘板岩	
328-1	328土		2	不定形	I a	26	18	8	3.5	珩質頁岩	
328-2	328土		1	不定形	I a	37	20	12	6.7	珩質頁岩	
328-3	328土		3	敲磨器類	IV b	149	102	34	605.1	砂岩	
330-1	330土		1	敲磨器類	III c	107	85	51	525.1	砂岩	
330-2	330土		3	石斧	II ?	62	40	22	61.6	頁岩	
330-3	330土		2	敲磨器類	I	104	50	26	185.5	安山岩	
331-1	331土		1	不定形	III ?	47.5	34.5	16	24.5	珩質頁岩	
335-1	335土		1	不定形	I b	21.5	22	3.5	1.8	珩質頁岩	
339-1	339土		2	敲磨器類	III b	171	75	23	460	砂岩	
339-2	339土		1	敲磨器類	III a	146	85	38	580	砂岩	
341-1	341土		1	不定形	I a	39	29.5	15	16.8	珩質頁岩	
341-2	341土		2	敲磨器類	III a	175	80	37	620.2	砂岩	
341-3	341土		5	敲磨器類	IV a1	113	85	38	580	砂岩	
341-4	341土		3	敲磨器類	III a	95	69	42	339.5	砂岩	341-5と接合・断面磨き
341-5	341土		4	敲磨器類	III a	111	71	41	552	砂岩	断面磨き
344-1	344土		1	敲磨器類	IV b ?	113	46	27	170	砂岩	欠損・柄の部分
348-1	348土		2	石鏃	I b	22	18	6	1.5	珩質頁岩	
348-2	348土		1	不定形	I b	4.6	3.4	1.1	17.5	珩質頁岩	
348-3	348土		3	石核		32	25.5	15.5	10.9	珩質頁岩	
348-4	348土		6	敲磨器類	III a	95	66	35	244.2	砂岩	348-5と接合・断面磨き
348-5	348土		5	敲磨器類	III a	65	80	34	189.9	砂岩	断面磨き
348-6	348土		4	半円状	II	177	53	30	419.1	砂質頁岩	
363-1	363土		1	不定形	III ?	37	26	9	11	珩質頁岩	
365-1	365土		1	敲磨器類	IV a1	127	36	10	63.3	粘板岩	
366-1	366土		1	石鏃		22	23	9	3.9	珩質頁岩	
366-2	366土		2	不定形	III ?	24	32	7	5.8	珩質頁岩	
374-1	374土		1	不定形	III	43	25	10	11.1	鉄石英	
375-1	375土		1	半円状	I	134	60	14	116	砂岩	
375-2	375土		2	敲磨器類	IV b	185	106	44	812	砂岩	
376-1	376土		1	不定形	III	45	23	8	4.5	珩質頁岩	
376-2	376土		2	不定形	III	24	23.5	7	3.7	珩質頁岩	
376-3	376土		3	不定形	I a	34	11	5	1.9	珩質頁岩	
378-1	378土		1	不定形	I b	30	26	5	3.4	珩質頁岩	
387-1	387土		1	石鏃	I b	33	16	4	2	珩質頁岩	
392-1	392土		1	敲磨器類	III a	119	70	20	273.1	閃緑岩	
392-2	392土		2	敲磨器類	IV b	56	90	36	307.5	輝緑岩	
398-1	398土		1	楔形石器		24	23	7	3.3	珩質頁岩	
398-2	398土		2	敲磨器類	IV a1	114	54	13	106.3	粘板岩	
398-3	398土		4	半円状	I ?	85	94	16	185.4	砂岩	被熱
398-4	398土		5	石斧	II	126	57	23	258.1	輝緑岩	
398-5	398土		3	半円状	I ?	138	85	16	242	砂岩	398-3と接合
399-1	399土		1	石匙	I a	49	30	11	13.6	珩質頁岩	
399-2	399土		2	半円状	I	180	68	16	251.2	粘板岩	
400-1	400土		1	不定形	I b	45	23	7	6.8	珩質頁岩	
401-1	401土		1	不定形	I a	56	26	15	25	珩質頁岩	
401-2	401土		2	敲磨器類	III a	82	81	10	75.1	砂岩	
403-1	403土		2	敲磨器類	IV a1	148	64	11	127.4	頁岩	
403-2	403土		1	敲磨器類	II b	90	68	33	289.6	砂岩	
405-1	405土		1	不定形	III	24	31	6	5.2	頁岩	
405-2	405土		2	半円状	I	112	86	16	241.5	閃緑岩	
405-3	405土		3	半円状	I	74	66	19	145.2	砂岩	断面磨き
405-4	405土		4	敲磨器類	I	117	72	23	263.7	頁岩	側面にスリ
405-5	405土		5	敲磨器類	II b	78	72	28	216.5	頁岩	
384-2	384土		1	不定形	I b	49	35	6	9.4	珩質頁岩	
384-3	384土		2	不定形	III	59.5	33	12	19.8	珩質頁岩	
384-1	384土		3	不定形	I b	45	20	4.5	4.7	珩質頁岩	

### 3 土器埋設遺構

#### 第30号土器埋設遺構 (図105・111)

[位置] A X-43グリッドに位置する。

[重複] 第15号焼土遺構と重複しており、本遺構の方が先行する。

[規模と形状] ほぼ土器に沿った掘り方を有する。掘り方の最低面は標高89.83m、土器の最低面は同89.88mである。

[検出土器] 器体の上半部を大きく欠失する。胴部中位に結節回転文を横位方向に施し、その上位と下位とに単軸絡条体第1類を縦位方向に施す。また底部に単軸絡条体第1類を施す。

[小結] 器体上半を欠失するが、円筒下層式と思われる。正立に埋設されている。

#### 第31号土器埋設遺構 (図105・112)

[位置] C C-15グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。土器の形状に沿った掘り方を有していたものと思われる。土器内部は3層、掘り方が1層に分層された。土器の最低面は標高97.74mである。

[検出土器] 口唇部形態が尖頭状で、端部が4単位の緩やかな小波状を呈する。口唇部に単節LRを施し、口縁部下位に微隆帯を設ける。隆帯上位に位置する幅の狭い文様帯に多軸絡条体の側面圧痕を6条施し、また隆帯の下位には単軸絡条体第1A類を施し、木目状の文様を表出する。

[小結] 円筒下層d1式の正立に埋設された土器である。

#### 第32号土器埋設遺構 (図105・111)

[位置] C C-15グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。土器の形状に沿った掘り方を有していたものと思われる。土器内部は2層に分層されが上層は基本層序の第Ⅲ層である。土器の最低面は標高97.94mである。

[検出土器] 口唇部形態が尖頭状で、端部が4単位の緩やかな小波状を呈する。口縁部下位に微隆帯を設け、隆帯上位に多軸絡条体の側面圧痕により三角形を基調とする幾何学的な文様を創出する。また隆帯の下位に結束第1種を羽状に施す。

[小結] 円筒下層d1式の正立に埋設された土器である。土器内部から礫が1点出土している。

#### 第33号土器埋設遺構 (図106・112)

[位置] C A-17グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。土器の形状に沿った掘り方を有していたものと思われる。土器内部は3層に分層された。2、3層間から扁平な礫が1点出土している。土器の最低面は標高97.87mである。

[検出土器] 口唇部形態が円頭状で、端部4単位の緩やかな小波状を呈する。口唇部に単節LRを施し、口縁部下位に単軸絡条体の「X」字状の側面圧痕を施す微隆帯が設けられる。隆帯上位に位置する文様帯と同じく単軸絡条体の側面圧痕と無節R・Lの2条1対の側面圧痕により幾何学的な文様を創出する。さらに隆帯の下位には単軸絡条体第1A類が施される。

[小結] 円筒下層d1式の正立に埋設された土器である。

#### 第34号土器埋設遺構 (図105・111)

[位置] CC-15グリッドに位置する。

[重複] 内部及び上面から第35号埋設土器が検出された。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。ほぼ土器に沿った掘り方を有していたものと思われる。土器内部は2層に分層されたが、上層は基本層序第Ⅲ層である。土器の最低面は標高97.71mである。

[検出土器] 口唇部形態が円頭状で、端部が4単位の緩やかな小波状を呈する。口唇部に単節LRの側面圧痕を施し、口縁部下位に棒状施文具による斜位方向からの刺突を施す微隆帯が設けられる。隆帯上位に位置する幅の狭い文様帯に単軸絡条体第5類の側面圧痕を3条施し、また隆帯の下位に単軸絡条体第1A類を施し、木目状の文様を表出する。

[小結] 円筒下層d1式の正立に埋設された土器である。

#### 第35号土器埋設遺構 (図105・111)

[位置] CC-15グリッドに位置する。

[重複] 第34号埋設土器の内部及び上面に倒立した状態で検出されている。

[規模と形状] 掘り方は認められない。土器の最低面は標高97.86mである。

[検出土器] 口唇部形態が尖頭状を呈し、口唇部に単節LRを施す。口縁部下位に棒状施文具による刺突を施す微隆帯が設けられ、隆帯上位の幅狭の口縁部文様帯に無節Lの側面圧痕により4条の直線的な文様を創出する。さらに隆帯の直下に結節回転文を施し、下位には結束第1種と結束第2種を交互に施し、羽状縄文を構成する。

[小結] 第34号埋設土器内部に倒立した状態で置かれていた可能性も考えられる。円筒下層d1式の土器である。

#### 第36号土器埋設遺構 (図106・113)

[位置] CE-15・16グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。基本層序第Ⅲ層中から第Ⅱ層中にかけて、つぶされた状態で検出されている。土器の最低面は標高97.86mである。

[検出土器] 口唇部形態が尖頭状で、端部が緩やかな小波状を呈する。口唇部に単節RLを施し、口縁部下位に棒状施文具による斜位方向からの刺突を施す隆帯が設けられる。この隆帯は上下を無節Rの側面圧痕により区画され、隆帯上位の幅の狭い口縁部文様帯には無節Rの側面圧痕により幾何学的な文様が創出され、また、隆帯の下位には多軸絡条体が縦位に施される。

[小結] 円筒下層 d1 式の土器である。正立に埋設されている。

第37号土器埋設遺構 (図106・114)

[位置] CA-17グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。基本層序第ⅢからⅡ層にかけて検出された。土器の最低面は標高97.86mである。

[検出土器] 口縁部が内湾して開き、胴部で膨らむ器形を呈する。口縁端部が4単位の波状を呈し、波頂部直下に縦位の隆帯を、波頂部間の谷間には突起状の隆帯を2個1対に施す。この波頂部及び突起状の隆帯頂部に棒状施工具による刺突を施し、口唇部には単節RLを施す。また、口縁部の幅の狭い文様帯には2条1対の単節RLの側面圧痕と棒状施工具による連続刺突を施し幾何学的文様を創出する。さらに頸部に棒状施工具による斜位方向からの刺突を3列施し、その下位に多軸絡条体を縦位に施す。

[小結] 円筒下層 d2 式の斜位に埋設された土器である。

第39号土器埋設遺構 (図106・114)

[位置] AY-43グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。ほぼ土器に沿った掘り方を有していたものと思われる。土器内部は1層である。土器の最低面は標高89.85mである。

[検出土器] 口唇部形態が角頭状を呈し、口唇部に単節LRを施す。胴部に節の粗い単節LRを横位及び斜位方向に施し、さらに底部に単節LRを施す。

[小結] 円筒下層 a 式の正立に埋設された土器である。

第41号土器埋設遺構 (図107・114)

[位置] AW-41グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。ほぼ土器に沿った掘り方を有していたものと思われる。土器内部は1層である。土器の最低面は標高90.00mである。

[検出土器] 器体上半部を大きく欠失する。節の粗い単軸絡条体第1類を縦位に施す。

[小結] 器体上半部を欠失するが、円筒下層式と思われる。正立に埋設された土器である。

第43号土器埋設遺構 (図107・114)

[位置] BZ-16グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 土器よりかなり大きめの掘り方を有する。土器内部は1層である。掘り方の最低面は97.82m、土器の最低面は同97.85mである。



[検出土器] 器体の上半部を大きく欠失する。多軸絡条体を胴部最下位まで施す。

[小結] 器体上半を欠失するが、円筒下層式と思われる。正立に埋設された土器である。

#### 第44号土器埋設遺構（図107・114）

[位置] B Z-17グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。土器内部は2層に分層された。土器の最低面は標高97.83mである。

[検出土器] 器体の下半部を大きく欠失する。口唇部形態が尖頭状を呈し、口縁部下位に単節L Rの側面圧痕を施す微隆帯を設ける。隆帯上位に位置する幅狭の文様帯に単節L Rの側面圧痕により4条の直線的な文様を創出する。また隆帯の下位に単軸絡条体第1 A類を施し木目状の文様を表出する。

[小結] 円筒下層d1式の倒立に埋設された土器である。

#### 第45号土器埋設遺構（図107・115）

[位置] C B-16グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] ほぼ土器に沿った掘り方を有していたものと思われる。盗掘により土器内覆土は確認できなかった。掘り方及び土器の最低面は標高97.90mである。

[検出土器] 口縁部が外反し、胴部で膨らむ器形を呈する。口縁部下位に半截竹管状の施文具による斜位方向からの刺突を施す微隆帯が設けられる。隆帯上位の幅広の文様帯は、文様帯上位に位置する半截竹管状の施文具による斜位方向からの刺突列により上位と下位とに細分される。その上位細帯に無節Rの側面圧痕により3条の直線的な文様を創出し、下位には幾何学的な文様を創出する。また微隆帯の下位に結束第1種を羽状に施す。

[小結] 円筒下層d2式の正立に埋設された土器である。

#### 第48号土器埋設遺構（図108・115）

[位置] C C-18グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 底面以外に明確な掘り方は認められない。ほぼ土器に沿った掘り方を有していたものと思われる。土器内部は3層に分層された。掘り方の最低面は標高98.01m、土器の最低面は同98.03mである。

[検出土器] 口唇部形態が尖頭状を呈し、口唇部に単節R Lを施す。口縁部下位に微隆帯が設けられ、隆帯上位の幅の狭い文様帯には無節R・Lによる2条1対の側面圧痕と結節回転文を施す。また隆帯下位は単軸絡条体第1 A類により木目状の文様を表出する。

[小結] 円筒下層d1式の正立に埋設された土器である。

第50号土器埋設遺構（図108・115）

〔位置〕 B Y-16グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔規模と形状〕 明確な掘り方は認められない。ほぼ土器に沿った掘り方を有していたものと思われる。土器内部は2層に分層された。掘り方及び土器の最低面は標高97.80mである。

〔検出土器〕 器体上半部を大きく欠失する。結束第1種を羽状に施す。

〔小結〕 体部上半を欠失するが、円筒下層式と思われる。

第51号土器埋設遺構（図108・116）

〔位置〕 C C-16グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔規模と形状〕 全体的に土器より大きめの掘り方を有する。土器内部は4層に分層された。上層は基本層序第Ⅱ層である。掘り方の最低面は標高97.80m、土器の最低面は同97.73mである。

〔検出土器〕 口縁部が内傾し、頸部で屈折しながら底部に移行する。口唇部に単節LRを施し、口縁部下位に棒状施文具による斜位方向からの刺突を施す微隆帯を設ける。隆帯上位の幅の狭い口縁部文様帯に単節LRの側面圧痕を2条施し、直線的な文様を創出する。また隆帯の下位に結束第1種を羽状に施す。

〔小結〕 円筒下層d2式の正立に埋設された土器である。

第52号土器埋設遺構（図108・116）

〔位置〕 C D-17グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔規模と形状〕 ほぼ土器に沿った掘り方を有していたものと思われる。土器内部は3層に分層された。土器の最低面は標高96.80mである。

〔検出土器〕 口唇部形態が尖頭状で、端部が4単位の緩やかな小波状を呈する。口縁部下位に微隆帯を設け、隆帯上位の幅の狭い文様帯に単軸絡条体第5類の側面圧痕により幾何学的な文様を創出する。また隆帯の下位に結束第1種を羽状に施す。

〔小結〕 円筒下層d1式の正立に埋設された土器である。

第53号土器埋設遺構（図109・117）

〔位置〕 B Y-18グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔規模と形状〕 底部以外はやや大きめの掘り方を有する。土器内部は3層に分層された。土器の最低面は標高97.41mである。

〔検出土器〕 口唇部断面が僅かに円い尖頭状の形態で、端部が4単位の緩やかな波状を呈する。口唇部に単節LRを施し、口縁部下位に棒状施文具による間隔の狭い刺突を施す微隆帯が設けられる。隆帯上位の幅の狭い文様帯に単節LRの側面圧痕を3条施し、また隆帯の下位に単軸絡条体第1A類を

木目状に施す。

[小結] 円筒下層 d1式の正立に埋設された土器である。

#### 第54号土器埋設遺構 (図109・117)

[位置] BY-17グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。土器内部は2層に分層された。土器の最低面は標高97.85mである。

[検出土器] 口縁部が僅かに外反する器形で、口唇部に単節RLを施す。口縁部下位に多軸絡条体の側面圧痕と棒状施文具による斜位方向からの刺突で構成される区画帯を設ける。この区画帯上位の幅の狭い文様帯に単軸絡条体第6A類を施し、さらに区画帯の下位に単軸絡条体と結束第2種を施す。

[小結] 円筒下層 d1式の倒立に埋設された土器である。体部下半を欠失する。

#### 第55号土器埋設遺構 (図109・117)

[位置] BY-17グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 西側でやや大きめの掘り方を有する。土器内部が2層、掘り方は1層である。土器の最低面は標高97.76mである。

[検出土器] 器体上半部及び底部を欠失する。多軸絡条体を縦方向に施す。

[小結] 口縁部及び底部を欠失する。円筒下層式と思われる。倒立に埋設された土器である。

#### 第56号土器埋設遺構 (図109・117)

[位置] BZ-18グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。ほぼ土器に沿った掘り方を有していたものと思われる。土器の最低面は標高97.83mである。

[検出土器] 器体上半部を大きく欠失する。結束第1種を羽状に施す。

[小結] 体部上半を欠失するが円筒下層式と思われる。正立に埋設された土器である。

#### 第57号土器埋設遺構 (図109・118)

[位置] BY-19グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 土器より大きめの掘り方を有する。土器内部は2層に分層された。掘り方の最低面は標高97.50m、土器の最低面は同97.52mである。

[検出土器] 口縁部の一部を欠失する。口縁部には横位の側面圧痕を施す。口縁部下位に棒状施文具による斜位方向からの刺突を施す微隆帯を設ける。胴部は単軸絡条体第1A類により木目状の文様を表出する。

[小結] 円筒下層 d 1 式の正立に埋設された土器である。

#### 第59号土器埋設遺構 (図109・118)

[位置] BU-17グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 明確な掘り方は認められない。土器内部は基本層序第Ⅲ層と思われ、特に分層することとはできなかった。土器の最低面は標高96.83mである。

[検出土器] 器体下半部を大きく欠失する。口唇部形態が角頭状を呈し、口唇部に棒状施文具による押引文を施す。口縁部下位に節の粗大な単節LRを地文に結節回転文を施す。

[小結] 円筒下層 a 式の倒立に埋設された土器である。器体下半を欠失する。

#### 第60号土器埋設遺構 (図110・118)

[位置] BO-18グリッドに位置する。

[重複] 第367号土坑と重複しており、本遺構の方が後出する。

[規模と形状] ほぼ土器に沿った掘り方を有する。土器内部は2層に、掘り方は1層に分層された。掘り方の最低面は標高95.48m、土器の最低面は同95.50mである。

[検出土器] 器体上半を欠失する。胴部は単節LR斜縄文が施文される。

[小結] 器体上半を欠失する。底部は存在するが胴部とは接合しない。縄文時代中期、円筒上層式の正立に埋設された土器と思われる。

#### 第61号土器埋設遺構 (図110・119)

[位置] CE・F-20グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] ほぼ土器に沿った掘り方を有する。土器内部は4層に分層された。掘り方及び土器の最低面は標高98.27mである。

[検出土器] 口唇部が僅かに円い尖頭状の形態で、端部が4単位の緩やかな波状を呈する。口唇部に単節LRを施し、口縁部下位に単節LRの側面圧痕を1条施す微隆帯が設けられる。隆帯上位の幅の狭い文様帯に単節LRの側面圧痕により三角形を基調とする文様を創出し、また隆帯の下位に単軸絡条体第1類を施す。

[小結] 円筒下層 d 1 式の正立に埋設された土器である。

#### 第62号土器埋設遺構 (図110・119)

[位置] CF-20グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] ほぼ土器に沿った掘り方を有する。土器内部は6層に分層された。掘り方及び土器の最低面は標高98.23mである。

[検出土器] 口唇部が僅かに円い尖頭状の形態で、端部が4単位の緩やかな小波状を呈する。口唇部

に無節Rを施し、口縁部下位に半截竹管状施文具による斜位方向からの刺突を施す隆帯が設けられる。隆帯上位の幅の狭い文様帯に無節Rの側面圧痕により直線的・幾何学的文様を創出し、また隆帯下位に結束第1種を羽状に施す。

[小結] 円筒下層d1式の正立に埋設された土器である。土器内部から礫が1点出土している。

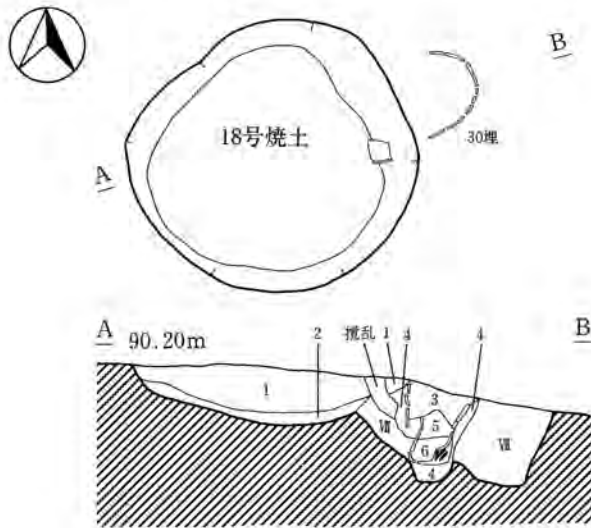
## まとめ

北側の調査区では、土器埋設遺構はこれまで同様標高96～98mの比較的山際に近いラインより西側の平坦部から検出されている。円筒下層a～d2式までと円筒上層式も見られるが、円筒下層d1式が最も多い。

円筒下層d1式の土器埋設遺構は13ラインを境にし北側では比較的まとまった場所に密集しているが、南側ではある程度のまとまりを持ちながらも比較的散漫に検出されている(図120)。円筒下層a～c式はそれぞれ1基、2基、3基検出されているが偏りは認められない。円筒下層b式の2基とc式の3基は各々12～13m程の距離を置いて構築されているが、第25号埋設(円筒下層b式)と第26号埋設(円筒下層c式)は比較的近接している。BO-18グリッドから検出されている第60号埋設は第376号土坑(フラスコ)より新しく、縄文時代中期、円筒上層式期のものと思われる。土器埋設遺構同士の重複は認められない。

図209からも分かるように、縄文時代前期の土器埋設遺構と竪穴住居跡との間には重複関係は認められない。竪穴住居跡の詳細な時期が分からないものもあるため明確には言えないが、ある程度意識して住居や土器埋設遺構を構築していたことがうかがえ、同様のことが土器埋設遺構と土坑(フラスコ状土坑を含む)にも言えることが図209よりうかがえる。しかし、土器埋設遺構の方が他の遺構より古い場合は新しい構築物によって痕跡を失ってしまうことが多い。重複関係が見られないということは基本的に土器埋設遺構が他の遺構より新しいということも言える。しかしながら、今までの調査では土器埋設遺構の集中する地点では、円筒下層d式期以降の住居跡等は検出されていない。円筒下層d式期の土器埋設遺構の集中する所に関しては、少なくとも限られた場としての意識があったものと考えられる。

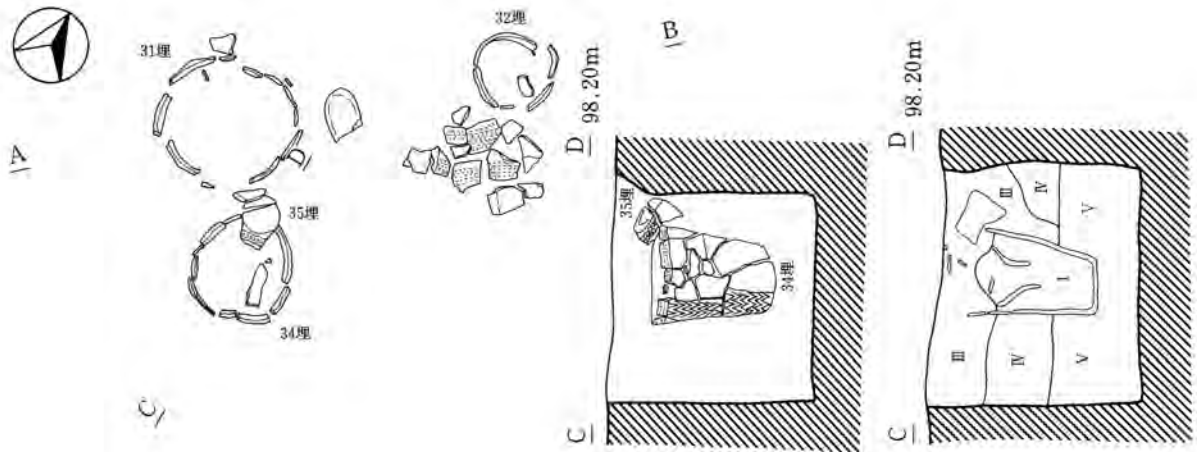
(笹森 一朗・佐々木 雅裕)



AY-43

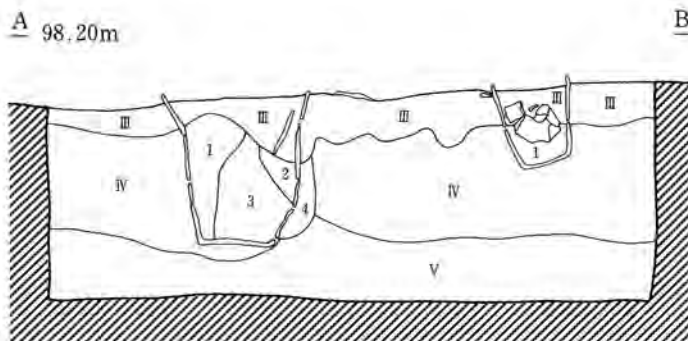
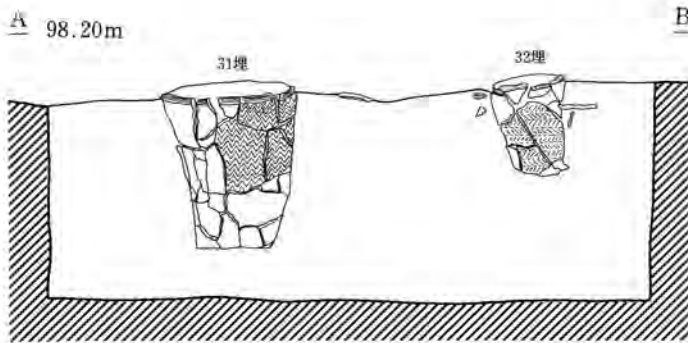
第30号土器埋設遺構土層注記

- |     |      |         |                 |
|-----|------|---------|-----------------|
| 第1層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | 浮石少量、炭化物少量、烧土層。 |
| 第2層 | 黑褐色土 | 10YR2/3 | 浮石微量。           |
| 第3層 | 黑褐色土 | 10YR2/2 | 浮石少量、炭化物微量。     |
| 第4層 | 黑色土  | 10YR2/1 | 浮石微量。           |
| 第5層 | 黑褐色土 | 10YR2/2 | 浮石少量。           |
| 第6層 | 黑色土  | 10YR2/1 | 浮石少量。           |



第34・35号土器埋設遺構土層注記

- |     |      |         |       |
|-----|------|---------|-------|
| 第1層 | 黑褐色土 | 10YR2/2 | 浮石微量。 |
| 第Ⅲ層 | 黑褐色土 | 10YR2/2 | 浮石微量。 |
| 第Ⅳ層 | 黑色土  | 10YR2/1 | 浮石中量。 |
| 第Ⅴ層 | 黑色土  | 10YR2/1 | 浮石少量。 |



第31号土器埋設遺構土層注記

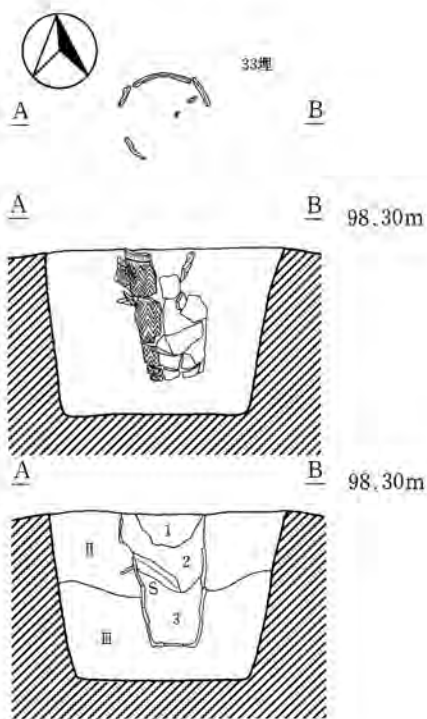
- |     |      |           |                 |
|-----|------|-----------|-----------------|
| 第1層 | 黑色土  | 10YR2/1   | 浮石微量、砂質土。       |
| 第2層 | 黑褐色土 | 10YR2/2   |                 |
| 第3層 | 黑褐色土 | 10YR2/2   | 浮石微量、炭化物微量、砂質土。 |
| 第4層 | 黑色土  | 10YR1.7/1 | 浮石微量。           |
| 第Ⅲ層 | 黑色土  | 10YR1.7/1 | 浮石微量。           |
| 第Ⅳ層 | 黑褐色土 | 10YR2/2   | 浮石微量。           |
| 第Ⅴ層 | 黑色土  | 10YR2/1   | 浮石少量。           |

第32号土器埋設遺構土層注記

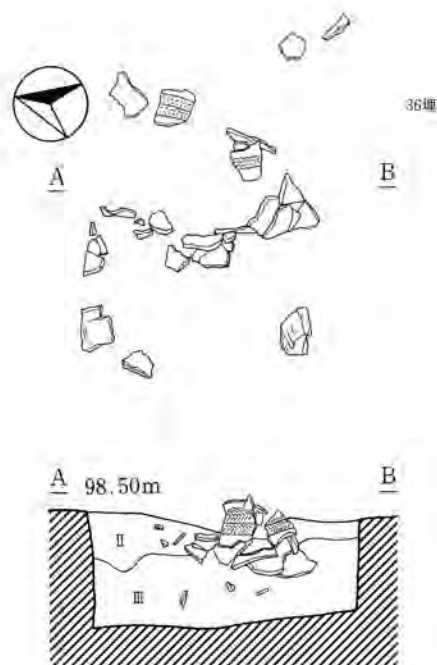
- |     |     |         |       |
|-----|-----|---------|-------|
| 第1層 | 黑色土 | 10YR2/1 | 浮石微量。 |
|-----|-----|---------|-------|



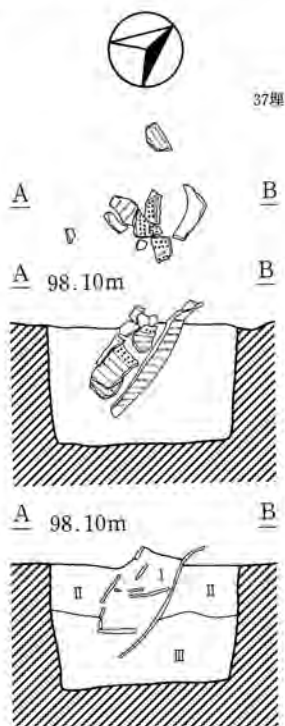
图105 第30・31・32・34・35号土器埋設遺構



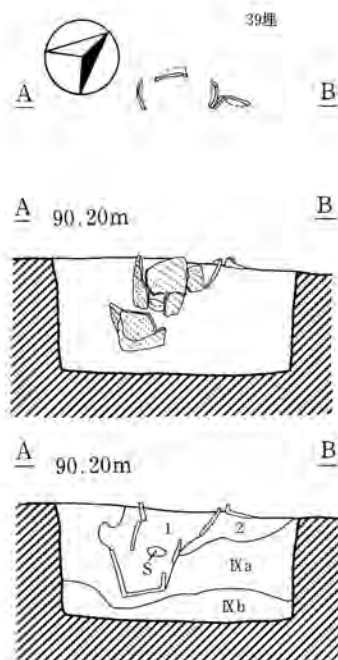
第33号土器埋設遺構土層注記  
 第I層 黑褐色土 10YR2/2 浮石微量。  
 第II層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量。  
 第III層 黑褐色土 10YR2/2 浮石微量。  
 第IV層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量, 砂質土。  
 第V層 黑褐色土 10YR2/2 浮石微量。



第36号土器埋設遺構土層注記  
 第I層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量。  
 第II層 黑褐色土 10YR2/2 浮石少量, 砂質土。



第37号土器埋設遺構土層注記  
 第I層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量。  
 第II層 黑色土 10YR2/1 浮石微量, 砂質土。  
 第III層 黑褐色土 10YR2/2 浮石微量, 砂質土。



第39号土器埋設遺構土層注記  
 第I層 黑褐色土 10YR2/2 浮石中量, 炭化物微量, 砂粒微量。  
 第IXa層 黑色土 10YR2/1 浮石中量。  
 第IXb層 黑褐色土 10YR2/2 浮石中量。  
 第X層 黑褐色土 10YR2/2 浮石少量, 砂粒混入。

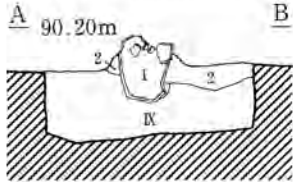
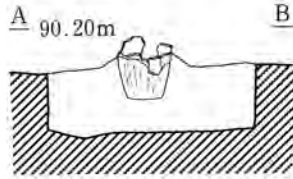


图106 第33・36・37・39号土器埋設遺構



41埋

A B

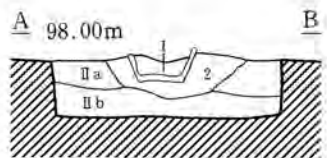
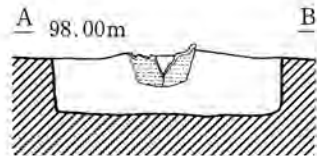


第41号土器埋設遺構土層注記  
 第1層 黑褐色土 10YR2/3 浮石少量。  
 第2層 明褐色土 7.5YR5/6 浮石微量。  
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 浮石微量。  
 第IX層 黑色土 10YR2/1 浮石中量。  
 明褐色土 7.5YR5/6 浮石少量。



43埋

A B

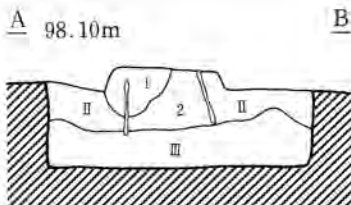
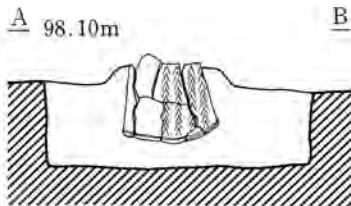


第43号土器埋設遺構土層注記  
 第1層 黑褐色土 10YR2/2 浮石微量。  
 第2層 黑色土 10YR2/1 浮石微量。  
 第IIa層 黑褐色土 10YR2/2 浮石微量。  
 第IIb層 黑色土 10YR1.7/1 浮石少量。

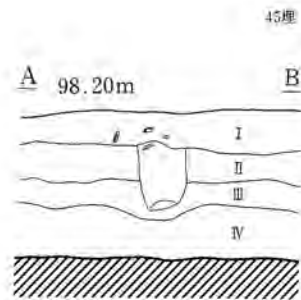


44埋

A B



第44号土器埋設遺構土層注記  
 第1層 黑色土 10YR1.7/1 浮石少量、十和田b火山灰少量。  
 第2層 黑色土 10YR2/1 浮石少量、十和田b火山灰中量。  
 第3層 黑色土 10YR2/1 浮石少量、炭化物微量。  
 第4層 黑色土 10YR1.7/1 浮石少量。  
 第5層 黑色土 10YR1.7/1 浮石少量。



45埋

A B

第45号土器埋設遺構土層注記  
 第1層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量。  
 第II層 黑色土 10YR2/1 浮石微量。  
 第III層 黑褐色土 10YR2/2 浮石少量。  
 第IV層 黑色土 10YR2/1 浮石中量。



图107 第41・43・44・45号土器埋設遺構

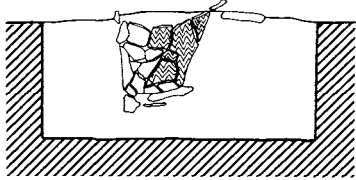




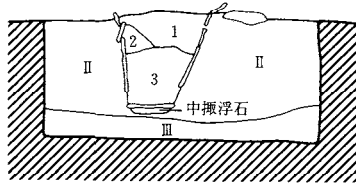
48埋



A 98.40m B



A 98.40m B



第48号土器埋設遺構土層注記

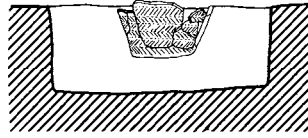
- 第1層 黑色土 10YR2/1 浮石微量。
- 第2層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量。
- 第3層 黑褐色土 10YR2/2 浮石少量、炭化物微量、焼土BL微量。
- 第II層 黑色土 10YR2/1 浮石少量。
- 第III層 黑色土 10YR1.7/1 浮石少量。



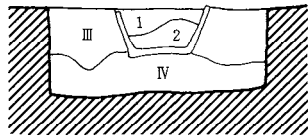
50埋



A 98.00m B



A 98.00m B



第50号土器埋設遺構土層注記

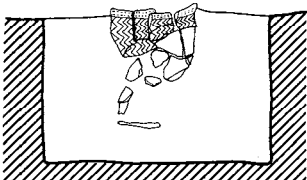
- 第1層 黑褐色土 10YR3/1 浮石少量、アワ砂微量、炭化物極微量。
- 第2層 黑褐色土 10YR2/2 浮石微量。
- 第III層 黑褐色土 10YR3/1 浮石少量、アワ砂微量。
- 第IV層 黑褐色土 10YR2/2 浮石中量、アワ砂微量。



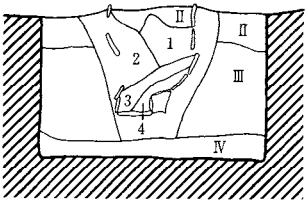
51埋



A 98.20m B 98.20m



A 98.20m B



第51号土器埋設遺構土層注記

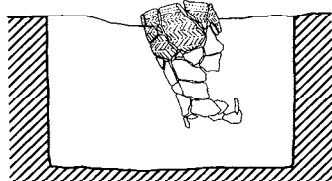
- 第1層 黑色土 10YR2/1 浮石少量、炭化物微量。
- 第2層 黑色土 10YR1.7/1 浮石少量、炭化物微量。
- 第3層 黑色土 10YR2/1 浮石微量。
- 第4層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量。
- 第II層 黑色土 10YR1.7/1 浮石少量。
- 第III層 黑色土 10YR2/1 浮石少量。
- 第IV層 黑色土 10YR1.7/1 浮石少量。



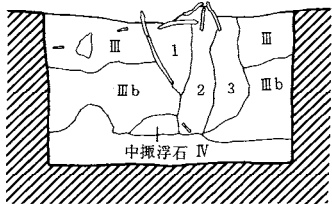
52埋



A 97.20m B



A 97.20m B

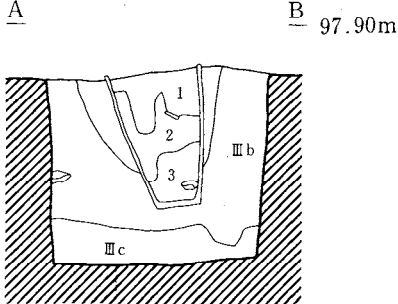
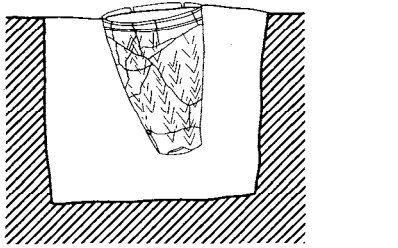
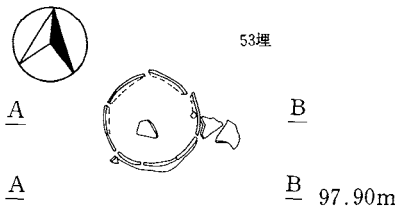


第52号土器埋設遺構土層注記

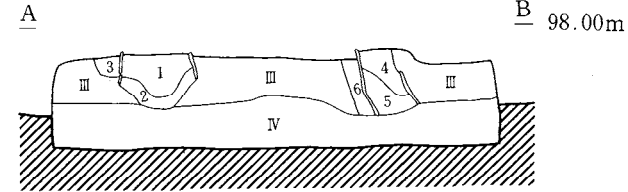
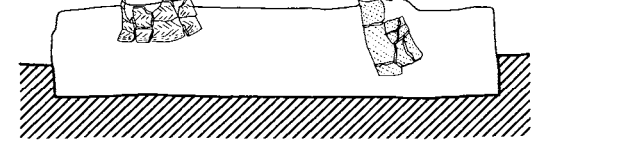
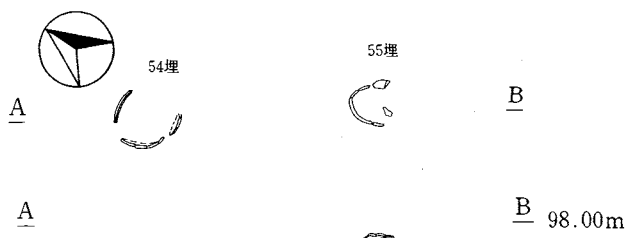
- 第1層 黑色土 10YR2/1 浮石少量、炭化物微量。
- 第2層 黑色土 10YR2/1 浮石微量。
- 第3層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量。
- 第IIIa層 黑色土 10YR2/1 浮石微量。
- 第IIIb層 黑色土 10YR2/1 浮石微量、アワ砂中量。
- 第IV層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量。



図108 第48・50・51・52号土器埋設遺構

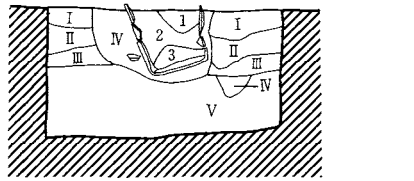
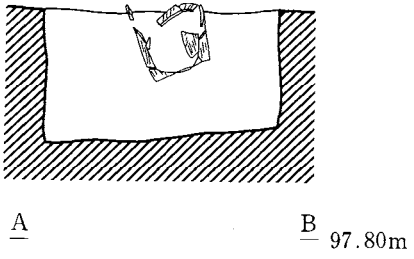
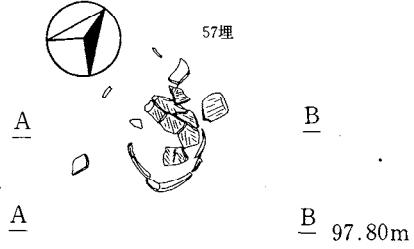


第53号土器埋設遺構土層注記  
 第1層 黑褐色土 10YR3/2 浮石少量。  
 第2層 黑褐色土 10YR2/2 浮石微量。  
 第3層 黑色土 10YR2/1 浮石少量。  
 第Ⅲa層 黑色土 10YR2/1 浮石少量。  
 第Ⅲb層 黑褐色土 10YR2/2 浮石中量、炭化物極微量。  
 第Ⅲc層 黑色土 10YR2/1 浮石中量。

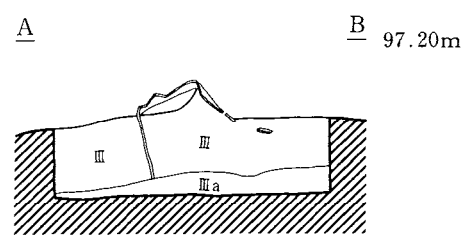
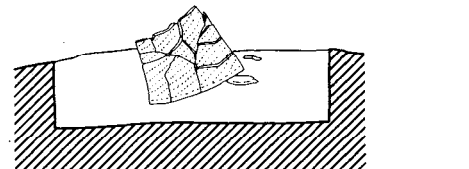
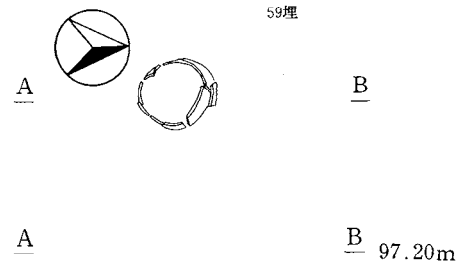


第54号土器埋設遺構土層注記  
 第1層 黑褐色土 10YR2/2 浮石少量。  
 第2層 黑色土 10YR2/1 浮石少量。  
 第3層 黑色土 10YR2/1 浮石微量。

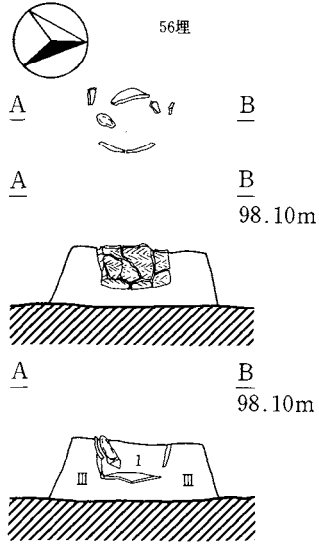
第55号土器埋設遺構土層注記  
 第1層 黑色土 10YR2/1 浮石少量。  
 第2層 黑色土 10YR1.7/1 浮石少量。  
 第3層 黑色土 10YR2/1 浮石微量。  
 第Ⅲ層 黑褐色土 10YR2/2 浮石少量。  
 第Ⅳ層 黑色土 10YR2/1 浮石中量。



第57号土器埋設遺構土層注記  
 第1層 黑色土 10YR2/1 浮石微量。  
 第2層 黑褐色土 10YR2/2 浮石微量。  
 第3層 黑色土 10YR2/1 浮石極微量。  
 第Ⅲ層 黑色土 10YR2/1 浮石極微量。  
 第Ⅳ層 黑褐色土 10YR2/2 浮石微量。  
 第Ⅴ層 明褐色土 7.5YR5/6 浮石層。  
 第Ⅵ層 黑色土 10YR2/1 浮石極微量。



第59号土器埋設遺構土層注記  
 第Ⅲ層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量、炭化物微量、砂質土。  
 第Ⅲa層 黑褐色土 10YR2/2 アワ砂多量。



第56号土器埋設遺構土層注記  
 第1層 黑色土 10YR2/1 浮石微量。  
 第Ⅲ層 黑色土 10YR1.7/1 浮石微量。

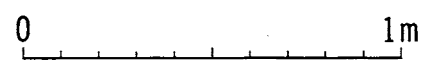
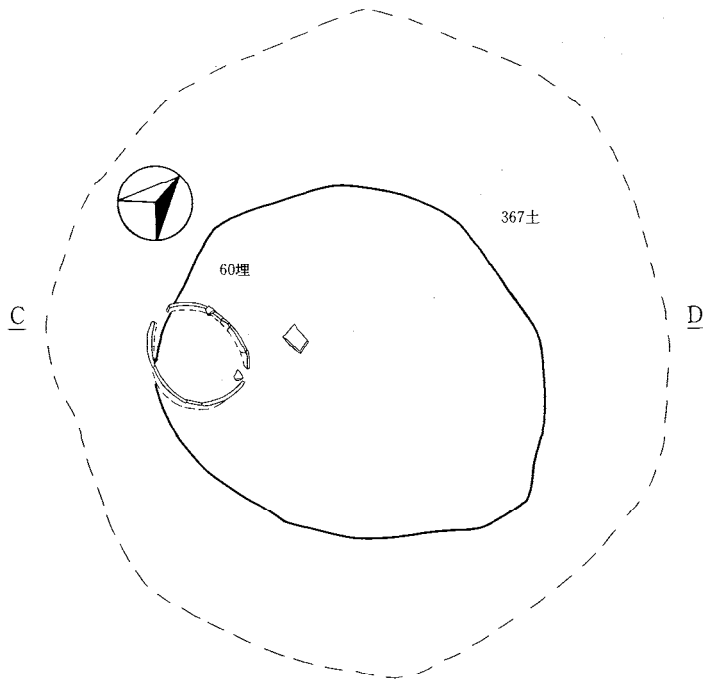


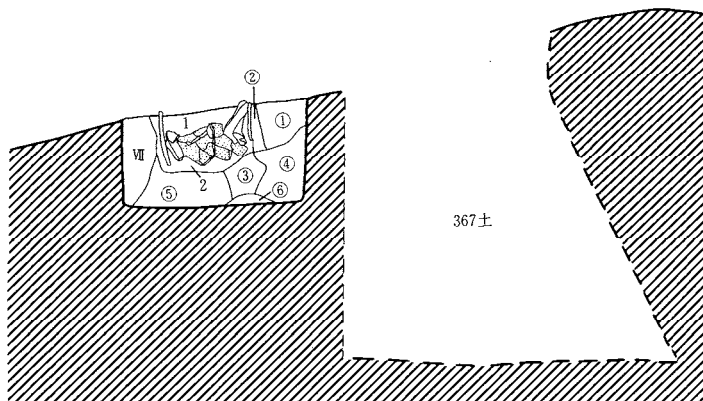
图109 第53·54·55·56·57·59号土器埋設遺構



C 96.00m

BP-19

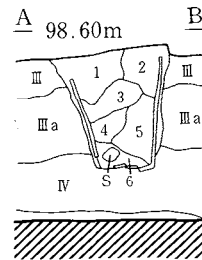
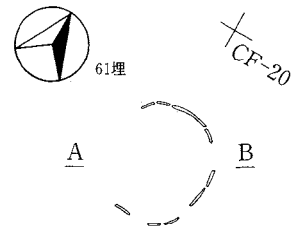
D 96.00m



第60号土器埋設遺構土層注記

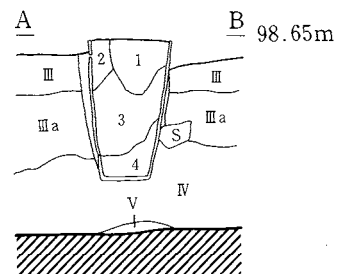
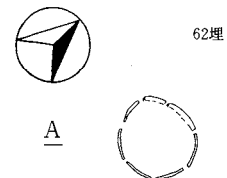
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石微量、炭化物極微量。
- 第2層 褐色土 10YR4/4 浮石微量。
- 第①層 暗褐色土 10YR3/3 浮石少量、炭化物極微量。
- 第②層 暗褐色土 10YR3/4 浮石少量、炭化物極微量。
- 第③層 褐色土 10YR4/6 浮石微量。
- 第④層 暗褐色土 10YR3/4 浮石少量。
- 第⑤層 暗褐色土 10YR3/4 浮石少量。
- 第⑥層 黃褐色土 10YR5/6 浮石微量。

0 1m



第61号土器埋設遺構土層注記

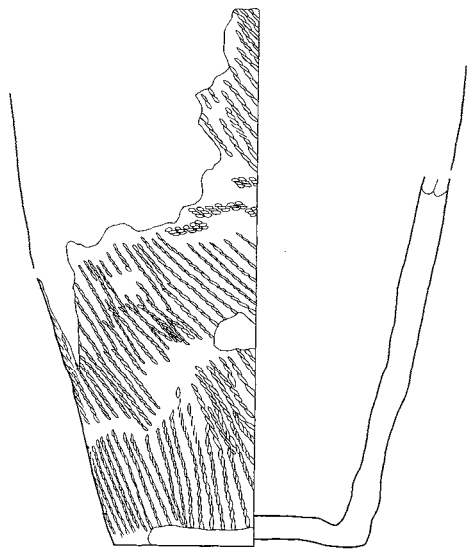
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 砂粒多量。
- 第2層 黑褐色土 10YR2/3 砂粒少量。
- 第3層 黑褐色土 10YR2/2 炭化物少量、砂粒少量。
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物少量、砂粒多量。
- 第5層 黑褐色土 10YR2/3 砂粒少量。
- 第6層 黑褐色土 10YR3/1 湿性に富む、砂粒多量。



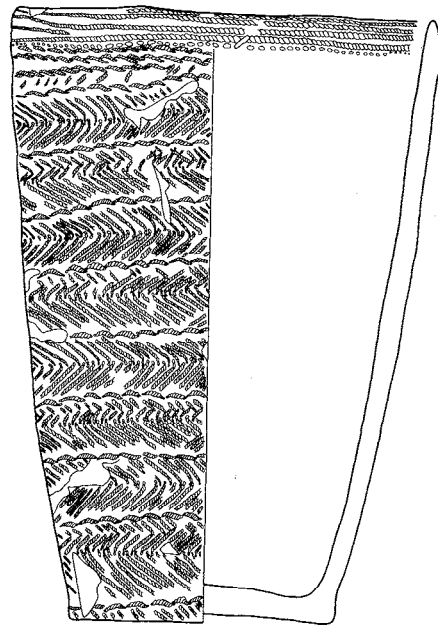
第62号土器埋設遺構土層注記

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 砂粒多量、浮石粒少量。
- 第2層 黑褐色土 10YR2/3 砂粒少量。
- 第3層 黑褐色土 10YR3/2 砂粒少量、浮石少量。
- 第4層 黑褐色土 10YR2/2 浮石粒少量。

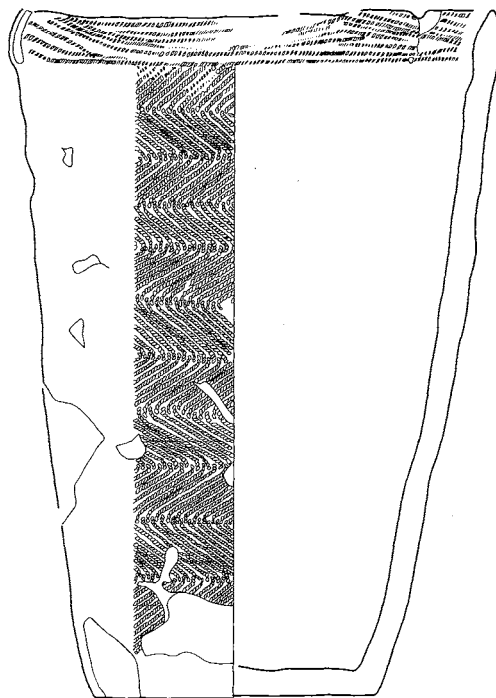
图110 第60・61・62号土器埋設遺構



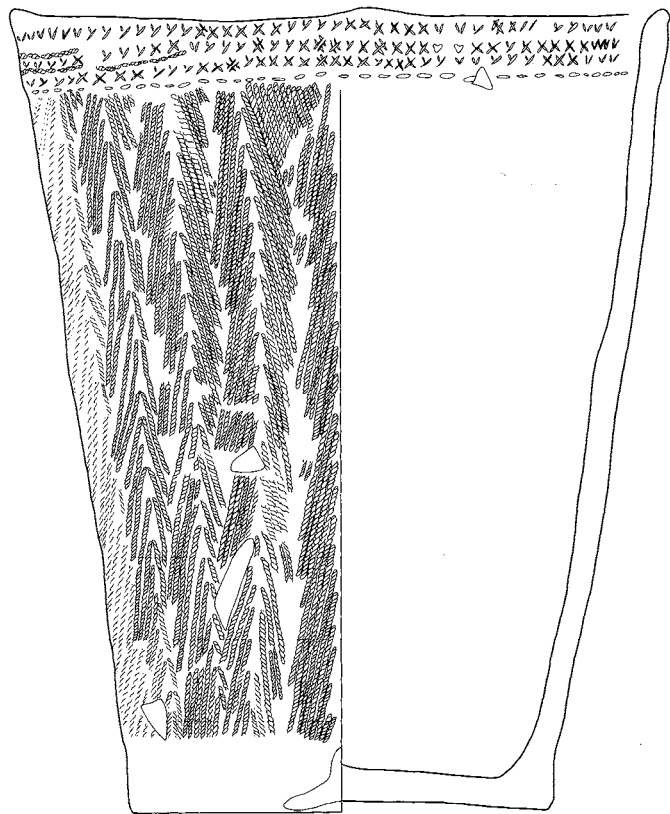
第30号埋設土器 (AX-43)



第35号埋設土器 (CC-15)



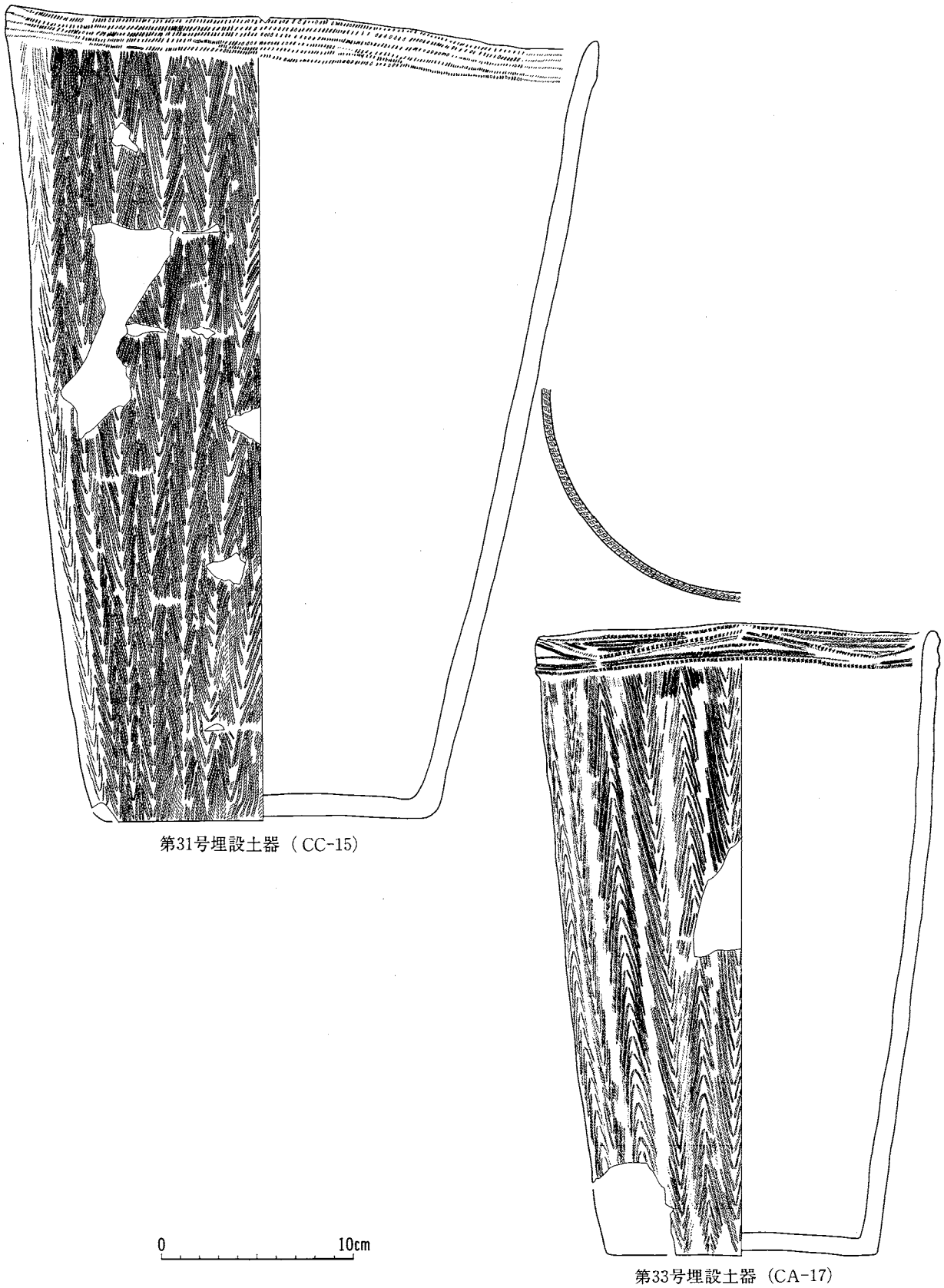
第32号埋設土器 (CC-15)



第34号埋設土器 (CC-15)

0 10cm

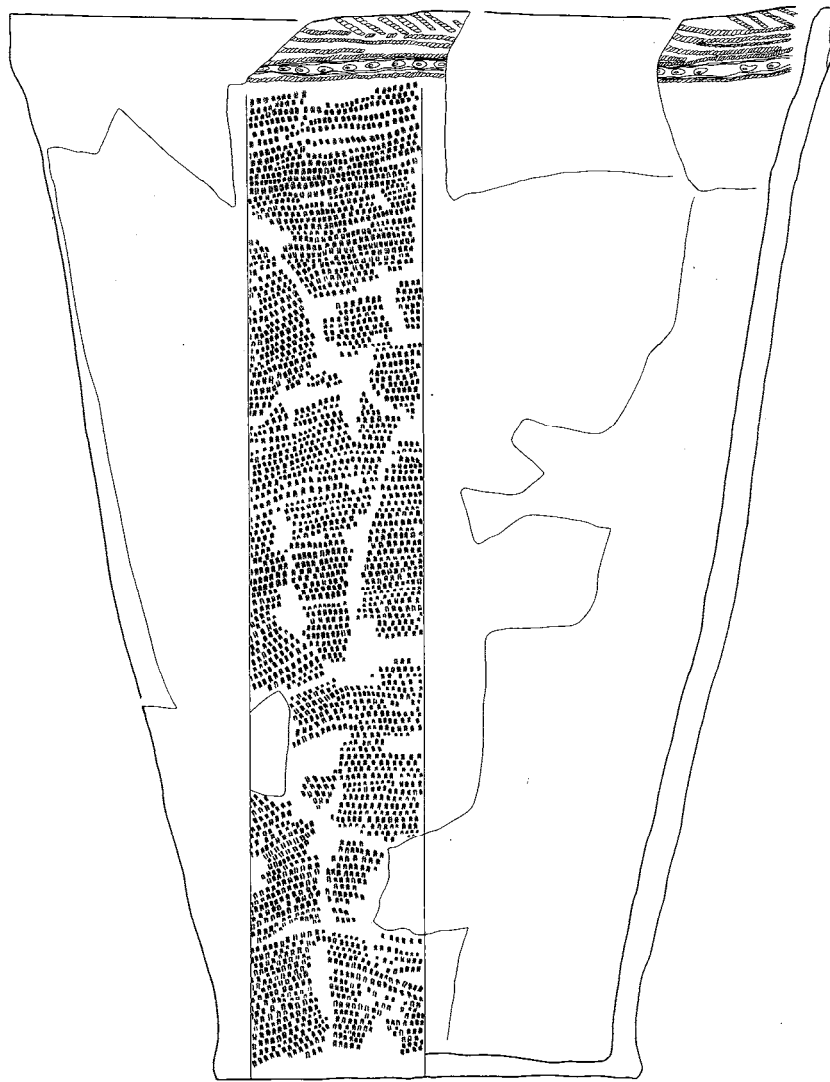
図111 第30・32・34・35号埋設土器



第31号埋設土器 (CC-15)

第33号埋設土器 (CA-17)

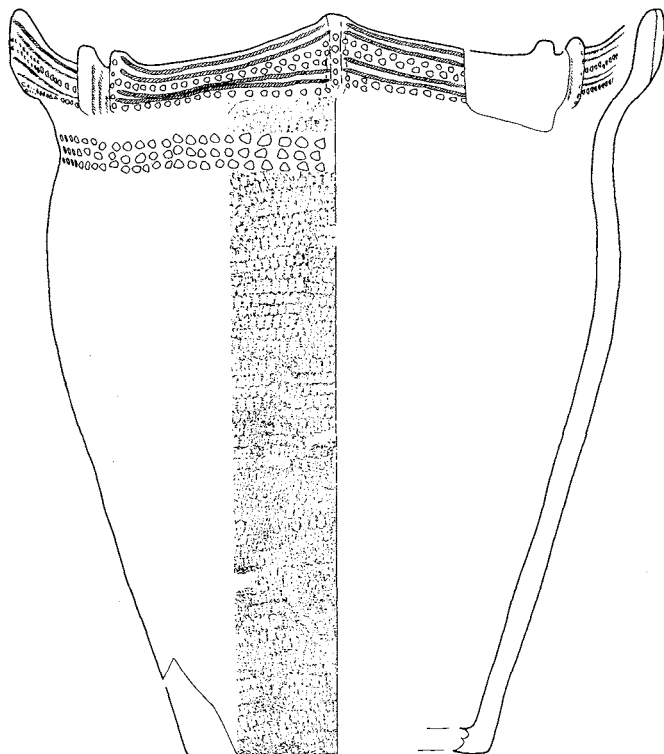
図112 第31・33号埋設土器



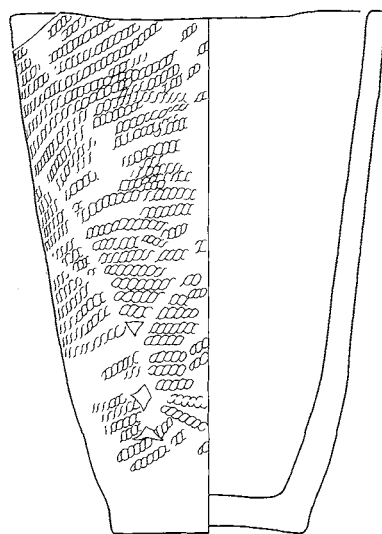
第36号埋設土器 (CE-15・16)

0 10cm

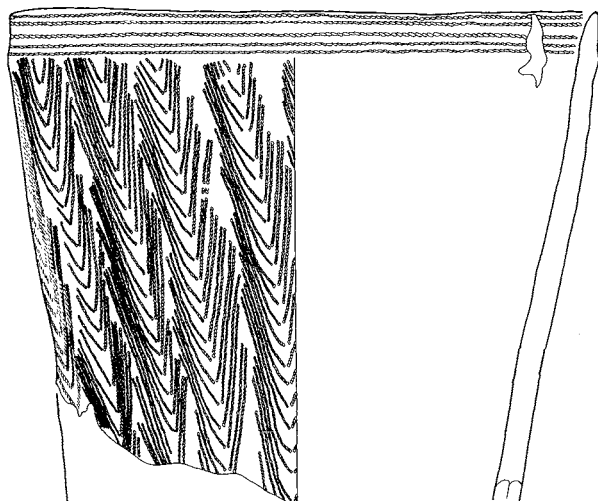
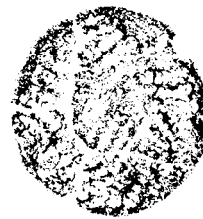
図113 第36号埋設土器



第37号埋設土器 (CA-17)

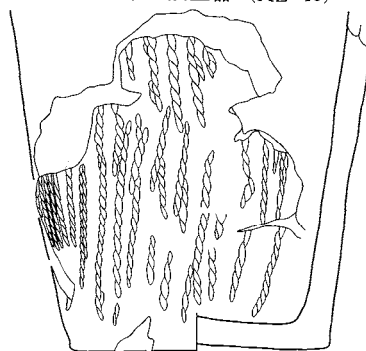


第39号埋設土器 (AZ-43)

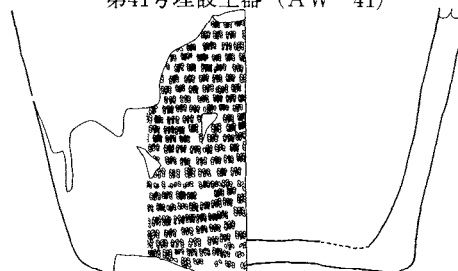


第44号埋設土器 (BZ-17)

0 10cm

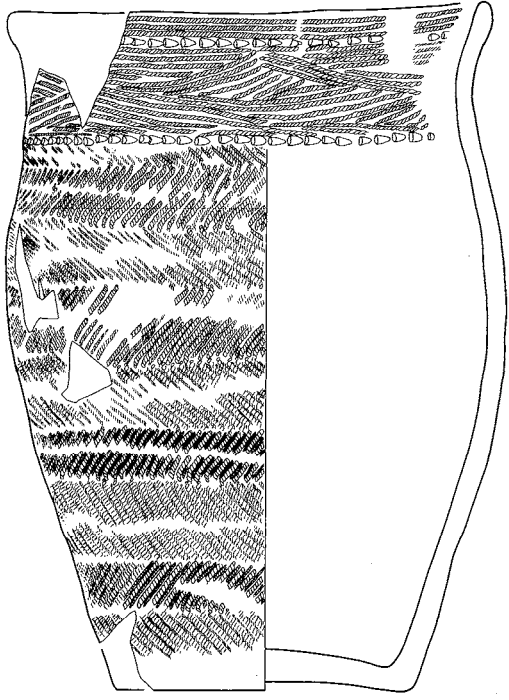


第41号埋設土器 (AW-41)

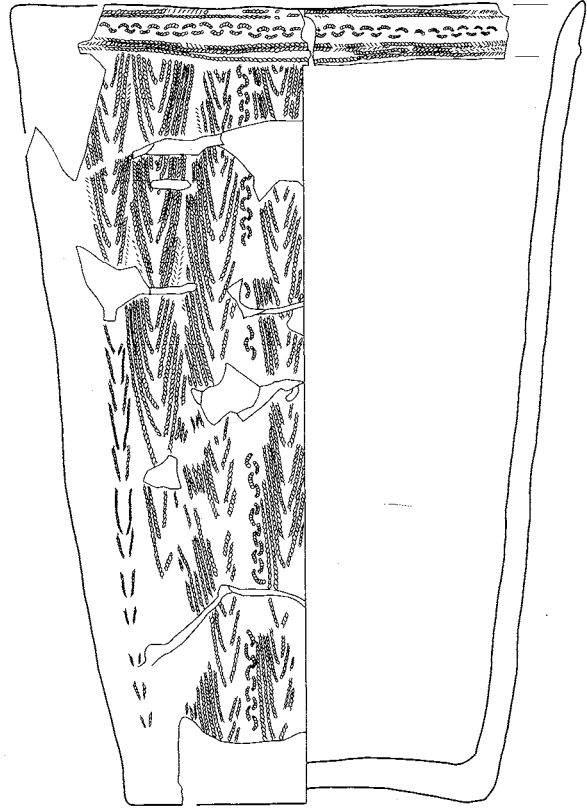


第43号埋設土器 (BZ-16)

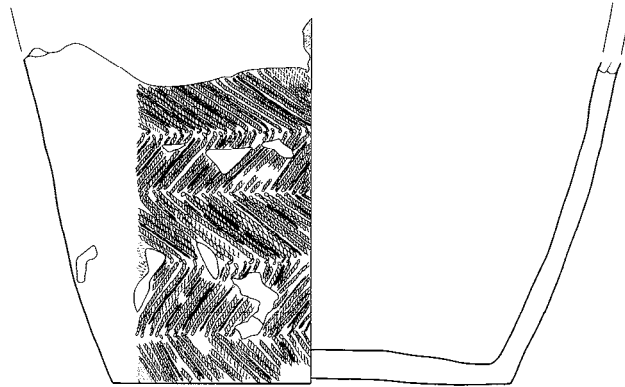
图114 第37·39·41·43·44号埋設土器



第45号埋設土器 (CB-16)



第48号埋設土器 (CC-18)

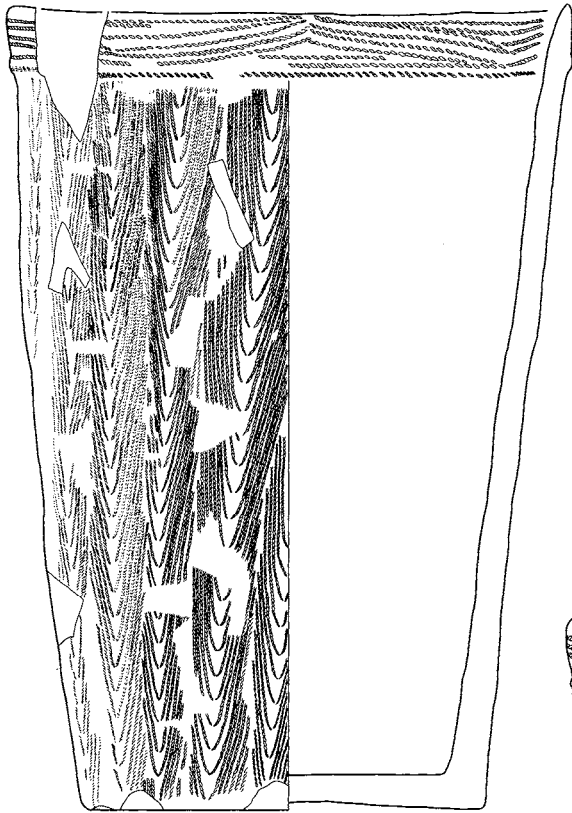


第50号埋設土器 (BY-16)

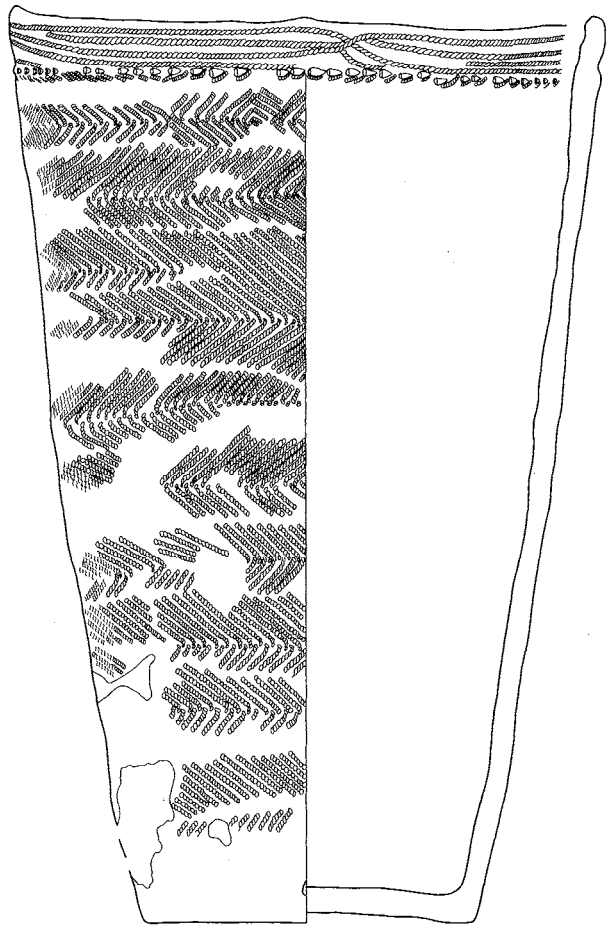
0 10cm

図115 第45・48・50号埋設土器





第51号埋設土器 (CC-16)



第52号埋設土器 (CD-17)

0 10cm

図116 第51・52号埋設土器

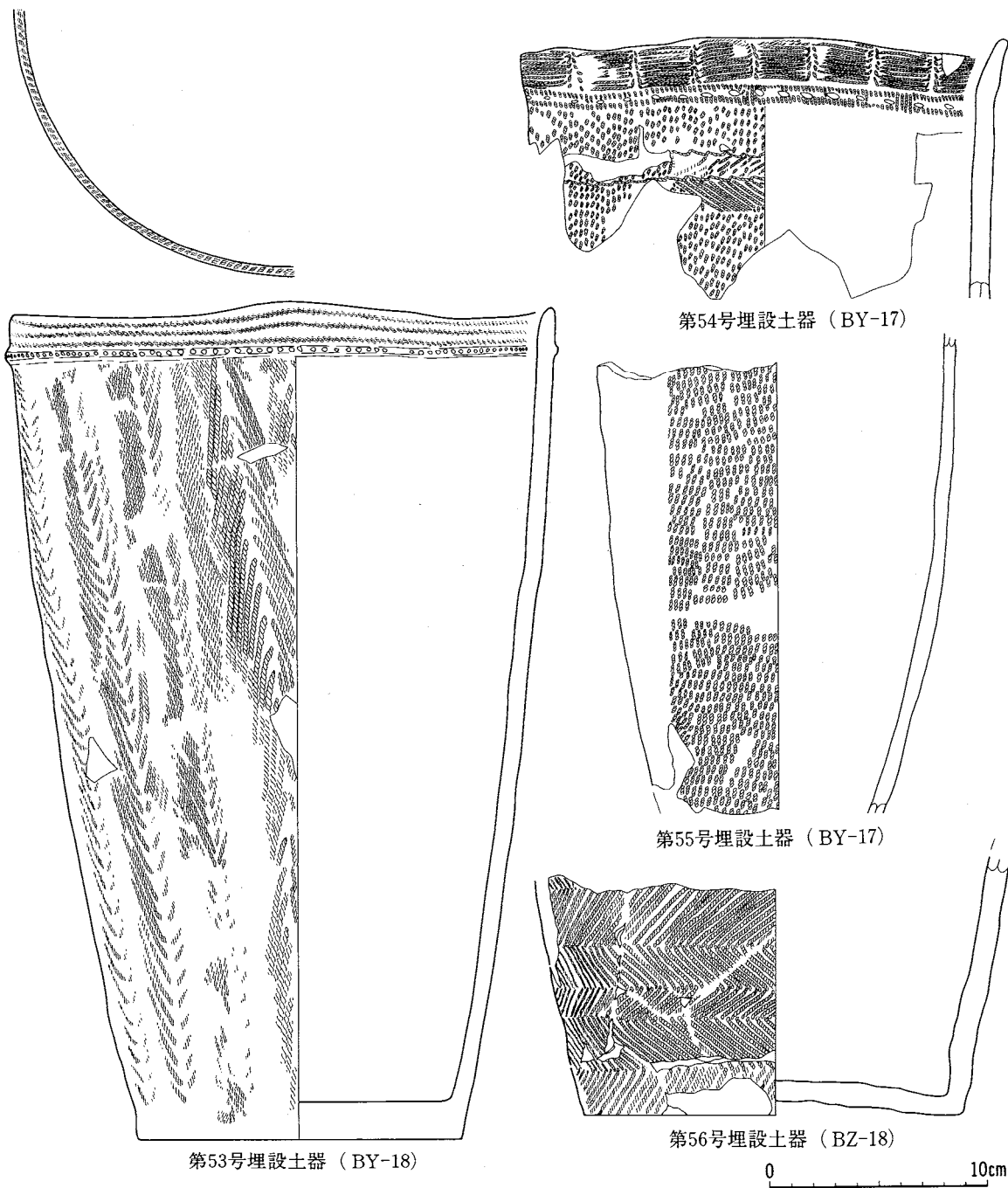
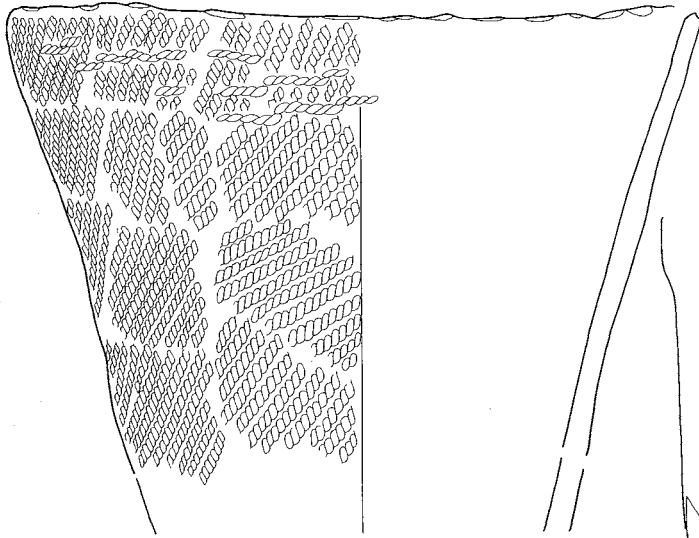
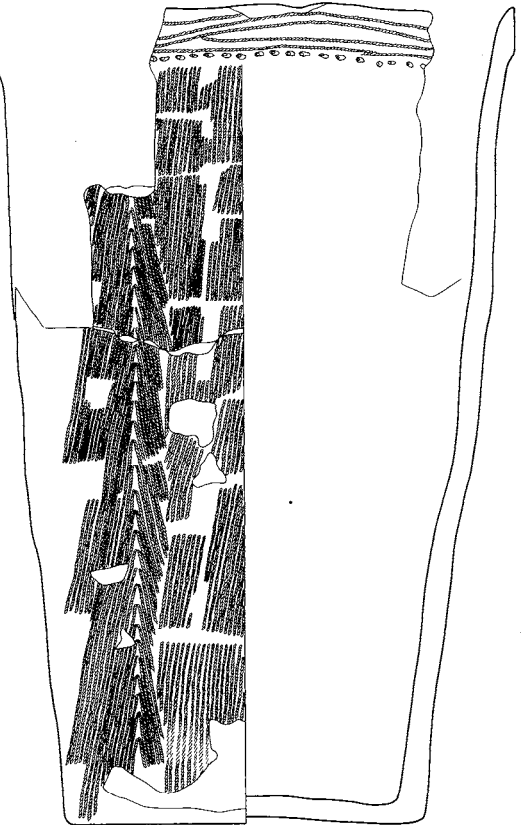


図117 第53・54・55・56号埋設土器



第59号埋設土器 (BU-17)



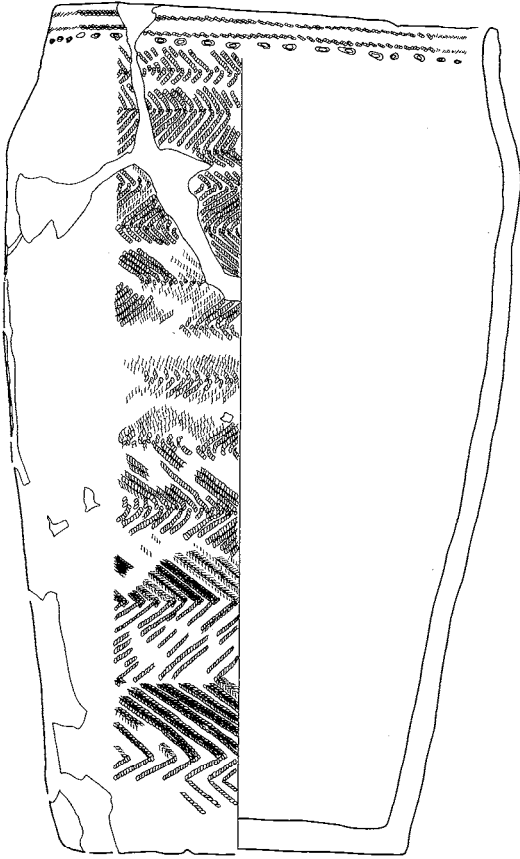
第57号埋設土器 (BY-19)



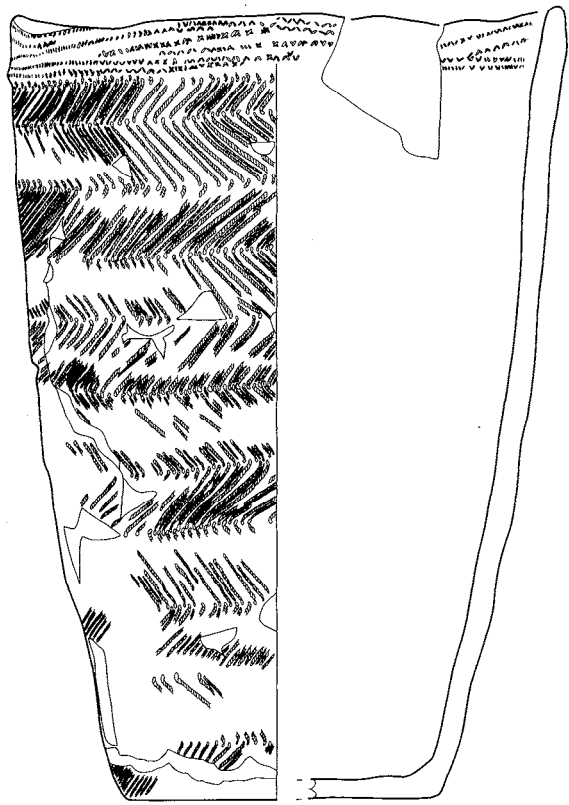
第60号埋設土器 (BO-18)

0 10cm

图118 第57·59·60号埋設土器



第61号埋設土器 (CE・F-20)



第62号埋設土器 (CF-20)

0 10cm

图119 第61・62号埋設土器

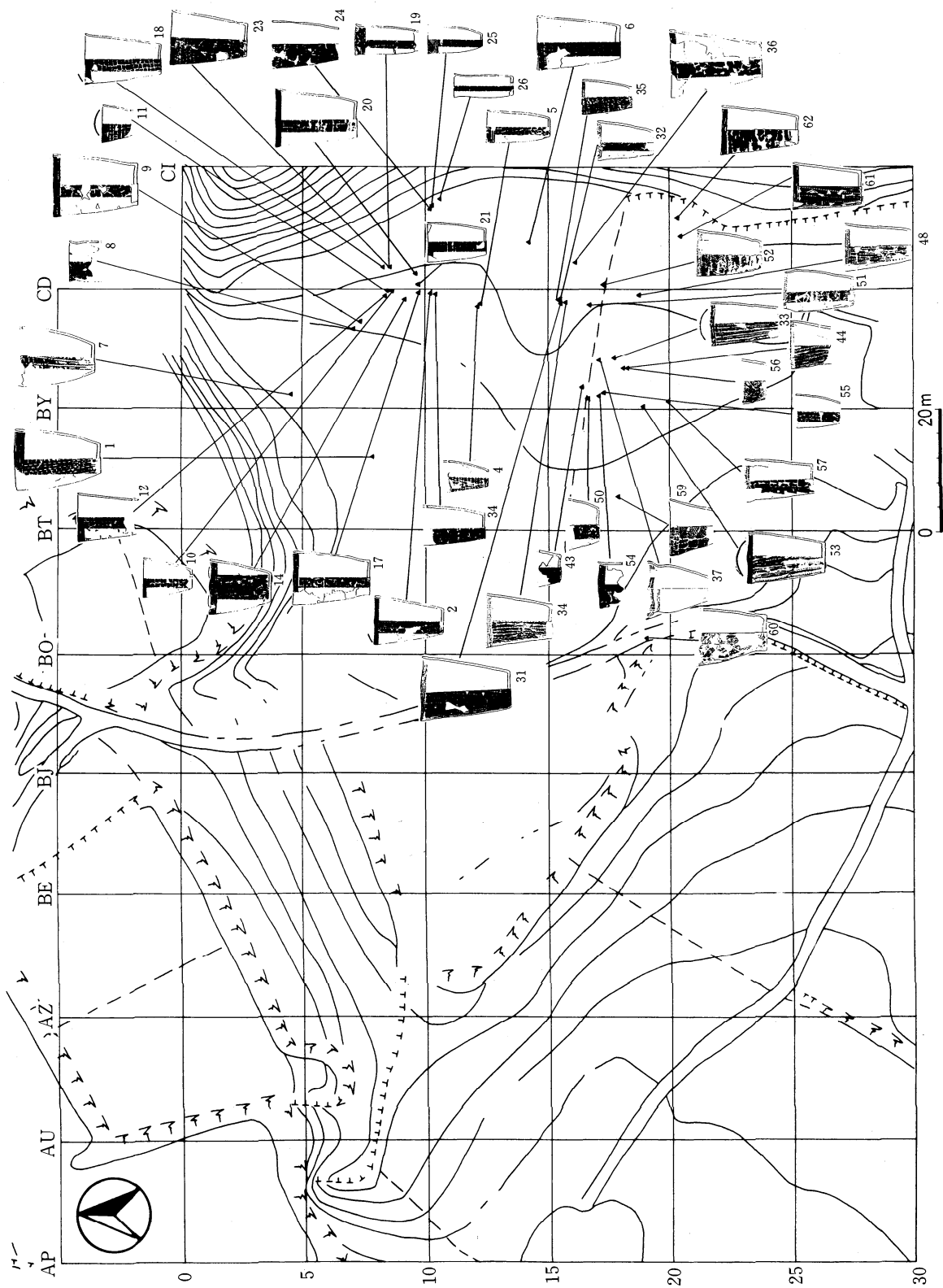


图120 埋設土器出土位置图

## 4 焼土遺構

焼土遺構は今年度の調査区域から78基確認された。そのうち4号～48号焼土遺構はグリッド12個の中にまとまって確認されており、また長楕円形に配列されているかのようでもある。(図121) また、焼土遺構はその分布が、遺跡の北側に東西にのびる尾根上と、E捨て場付近(旧下層a区)の、大きく分けて2カ所にまとまっている。以下ではE捨て場付近の焼土遺構群とそれ以外の焼土遺構の順番で詳細を記述する。

### 第4号焼土遺構

[位置] AX-41グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸165cm・短軸95cmの長楕円形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位より、縄文時代前期中葉の遺構である。

### 第5号焼土遺構

[位置] AX-41グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸120cm・短軸95cmの不整形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位より、縄文時代前期中葉の遺構である。

### 第6号焼土遺構

[位置] AY-41グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸110cm・短軸100cmの不整形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位より、縄文時代前期中葉の遺構である。

### 第7号焼土遺構

[位置] AY-41・42グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸110cm・短軸90cm [遺物] なし。[小結] 確認した層位より、縄文時代前期中葉の遺構である。

### 第8号焼土遺構

[位置] AX-41グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸90cm・短軸75cm  
[遺物] なし。[小結] 確認した層位より、縄文時代前期中葉の遺構である。

### 第9号焼土遺構

[位置] AX-41グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸120cm・短軸50cm の長楕円形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位より、縄文時代前期中葉の遺構である。

### 第10号焼土遺構

[位置] AW・X-41グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸97cm・短軸70cmの長円形である。[遺物] 覆土中より縄文時代前期中葉の土器片が出土している。(1～6) [小結] 出土遺物等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第11号焼土遺構

[位置] AX-42グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸140cm・短軸70cmの不整な長円形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第12号焼土遺構

[位置] AX-42グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸120cm・短軸100cmの不整な円形である。[遺物] 覆土中より縄文時代前期中葉の土器片が出土している。(図-7) [小結] 出土遺物等より縄文時代前期中葉の遺構であると考えられる。

#### 第13号焼土遺構 (欠番)

#### 第14号焼土遺構

[位置] AX-42グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸60cm・短軸45cmの円形である。[遺物] なし。[小結] 確認した状況等より縄文時代前期中葉の遺構と考えられる。

#### 第16号焼土遺構

[位置] AX-41グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸85cm・短軸60cmの不整な円形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第17号焼土遺構

[位置] AX-42グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸80cm・短軸70cmの不整な円形である。[遺物] 覆土中より縄文時代前期中葉のものと思われる土器片が出土している。[小結] 出土した遺物や確認した層位・切り合い関係等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第18号焼土遺構

[位置] AX-42グリッドに位置する。[重複] 第30号埋設土器と切り合い関係にある。[規模と形状] 長軸80cm・短軸70cmのやや不整な円形である。[遺物] 覆土中より縄文時代前期中葉の土器片が出土している。[小結] 出土遺物や確認した層位等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第19号焼土遺構

[位置] AX-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸85cm・短軸70cmのやや不整な円形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第20号焼土遺構

[位置] AY-42・43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸85cm・短軸60cmのやや不整な円形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第21号焼土遺構

[位置] A Y-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸110cm・短軸90cmの隅丸三角形である。[遺物] 覆土中より縄文時代前期中葉の土器片が出土している。[小結] 出土遺物や確認した層位等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第22号焼土遺構

[位置] A Y-42グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸240cm・短軸100cmの不整形である。[遺物] なし。[小結] 確認の状況等より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第23号焼土遺構

[位置] A Y-42グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸100cm・短軸60cmの不整形な円形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第24号焼土遺構

[位置] A Z-43グリッドに位置する。[重複] 第42号土器埋設遺構と切り合い関係にあるが、新旧関係は不明である。[規模と形状] 長軸85cm・短軸75cmの不整形な円形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第25号焼土遺構

[位置] A Y-43に位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸100cm・短軸70cmの長円形である。[遺物] なし。[小結] 確認の状況等より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第26号焼土遺構

[位置] A Z-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸85cm・短軸80cmの不整形な円形を呈する。[遺物] なし。[小結] 確認の状況より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第27号焼土遺構 (欠番)

#### 第28号焼土遺構

[位置] A Z-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸70cm・短軸40cmの不整形な円形である。[遺物] なし。[小結] 確認した層位等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第29号焼土遺構

[位置] A X-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸35cm、短軸30cmの不整形である。[遺物] なし。[小結] 確認の状況等より縄文時代前期中葉の遺構と考えられる。



#### 第30号焼土遺構

[位置] AX-41グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸40cm・短軸35cmの不整な形をしている。[遺物] なし。[小結] 確認した層位等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第31号焼土遺構

[位置] AZ-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸55cm・短軸45cm  
[遺物] なし。[小結] 確認した層位等より、縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第32号焼土遺構

[位置] AZ-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 短軸85cm・長軸90cmであるが、南側を土層観察用のトレンチに破壊されている。[遺物] あり。[小結] 出土遺物等より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第33号焼土遺構

[位置] AZ-43・44グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸85cm・短軸60cmのやや不整な円形である。[遺物] 覆土中より縄文時代前期中葉の遺構である。[小結] 出土遺物等より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第34号焼土遺構

[位置] AZ-42グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 短軸60cm・長軸70cm  
[遺物] 覆土中より縄文時代前期中葉の土器片が出土している。[小結] 出土遺物や確認した層位等より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第35号焼土遺構

[位置] AZ-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸110cm・短軸60cm  
[遺物] 覆土中より縄文時代前期中葉の土器片が出土している。[小結] 出土遺物や確認した層位等より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第36号焼土遺構

[位置] AY・AZ-41グリッドに位置する。[重複] 第19号焼土遺構と一部接する。[規模と形状] 長軸135cm・短軸80cm [遺物] 覆土中より縄文時代前期中葉の土器片が出土している。[小結] 出土遺物や確認した層位等より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第37・38・39号焼土遺構

[位置] AW-41・42グリッドに位置する。[重複] 3遺構の新旧関係ははっきりしない。[規模と形状] 長軸230cm・短軸210cmの不整な形である。[遺物] 覆土中より縄文時代前期中葉の遺物が出土している。[小結] 出土遺物等より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第40号焼土遺構

[位置] A Z-43グリッドに位置する。[重複] 第39号焼土遺構の上位に位置する。[規模と形状] 長軸85cm・短軸40cmの不整な長楕円形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況より縄文時代前期の遺構と考えられる。

#### 第41号焼土遺構

[位置] A W-41グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸115cm・短軸60cmの不整な円形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況等より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第42号焼土遺構

[位置] A Z-43グリッドに位置する。[重複] 第40号焼土遺構と重複する。新旧関係は不明。[規模と形状] 長軸220cm・短軸90cmの不整な形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第43号焼土遺構

[位置] A Y・A Z-43グリッドに位置する。[重複] 第39号焼土遺構と重複するが、新旧関係は不明である。[規模と形状] 長軸120cm・短軸100cmの不整な形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況等より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第44号焼土遺構

[位置] A W・X-41・42グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸85cm・短軸40cmの不整な円形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況等より縄文時代前期の遺構である。

#### 第45号焼土遺構

[位置] A Y-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 45cm×45cmのやや不整な円形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況より縄文時代前期中葉の遺構である。

#### 第46号焼土遺構

[位置] A Y-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸60cm・短軸35cmの不整な形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況より縄文時代前期の遺構である。

#### 第47号焼土遺構

[位置] A Y-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸90cm・短軸50cmの不整な長楕円形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況より縄文時代前期の遺構である。

#### 第48号焼土遺構

[位置] A Y-43グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸70cm・短軸45cmの不整な楕

円形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況より縄文時代前期の遺構である。

#### 第49号焼土遺構

[位置] AY-46グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸65cm・短軸45cmの不整な円形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況より縄文時代前期の遺構である。

#### 第50号焼土遺構

[位置] AY-45・46グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸130cm・短軸110cmの不整円形である。[遺物] なし。[小結] 確認状況より縄文時代前期の遺構である。

#### 第70号焼土遺構

[位置] AZ-38グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸85cm・短軸65cmの不整円形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第71号焼土遺構

[位置] AT-39グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸30cm・短軸20cmの円形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第72号焼土遺構

[位置] AT-39グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸90cm・短軸45cmの長円形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第73号焼土遺構

[位置] AT-39グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸70cm・短軸60cmのひょうたん形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第74号焼土遺構

[位置] AT-40グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 東半分を破壊されており、長軸は60cm・短軸は残存している箇所30cmである。おそらく直径60cmの円形であったと思われる。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第75号焼土遺構

[位置] AS-37グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸110cm・短軸100cmの不整な形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第76号焼土遺構

[位置] AS-37グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸60cm・短軸50cmのほぼ円形

である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第77号焼土遺構

[位置] A T-40グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸145cm・短軸90cmの不整形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第78号焼土遺構

[位置] A T-40グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸120cm・短軸75cmの不整形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第79号焼土遺構

[位置] A T-39グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸55cm・短軸45cmの不整形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第80号焼土遺構

[位置] A U-39グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸55cm・短軸40cmの不整形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

ここまでがE捨て場付近より確認された焼土遺構群である。これより後の焼土遺構はE捨て場付近のものとは違い、位置的なまとまりは有さない。

#### 第81号焼土遺構

[位置] B E・B F-27グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸110cm・短軸65cmの不整形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

#### 第51号焼土遺構

[位置] B Y-16グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸53cm×短軸45cmのほぼ円形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第52号焼土遺構

[位置] B Y-16・17グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸67cm×短軸30cmの不整楕円形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第53号焼土遺構

[位置] B W-15・16グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸57cm×短軸40cmの不整楕円形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第54号焼土遺構

[位置] BW—15・16グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸50cm×短軸37cmの不整楕円形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第55号焼土遺構

[位置] BY—16グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸31cm×短軸27cmのほぼ円形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第56号焼土遺構

[位置] BY—16グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸54cm×短軸35cmの楕円形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第57号焼土遺構

[位置] BW—16グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸83cm×短軸78cmの不整形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第58号焼土遺構

[位置] BX—16グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸80cm×短軸70cmの不整形で、焼土範囲が確認された。焼土下部に2基のピットが確認された。[遺物] 縄文土器片が出土している。  
[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第59号焼土遺構

[位置] BP—17グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸84cm×短軸63cmの不整形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第60号焼土遺構

[位置] BP—17グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸89cm×短軸80cmの不整形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第61号焼土遺構

[位置] BP—17グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸76cm×短軸50cmの不整楕円形で、焼土範囲が確認された。[遺物] 覆土から縄文土器片(24)が出土している。いずれも円筒下層式である。[小結] 縄文時代前期の焼土遺構と思われる。

#### 第62号焼土遺構

[位置] BP—17グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸49cm×短軸28cmの楕円形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第63号焼土遺構

[位置] B P—17グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸90cm×短軸55cmの楕円形で、焼土範囲が確認された。[遺物] 覆土から縄文土器片（25～27）が出土している。いずれも円筒下層式である。[小結] 縄文時代前期の焼土遺構と思われる。

#### 第64号焼土遺構

[位置] C A —17グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸87cm×短軸60cmの不整形で、焼土範囲が確認された。[遺物] 覆土から縄文土器片（28）が出土している。円筒下層式である。[小結] 縄文時代前期の焼土遺構と思われる。

#### 第65号焼土遺構

[位置] C A —17グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸120cm×短軸76cmの不整形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第66号焼土遺構

[位置] B T—22・23グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸117cm×短軸83cmの不整形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第67号焼土遺構

[位置] B W—20グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸70cm×短軸55cmの不整形で、焼土範囲が確認された。[遺物] 覆土から縄文土器片（29～35）が出土している。円筒下層・上層式である。[小結] 縄文時代前期の焼土遺構である。

#### 第68号焼土遺構

[位置] B C—44グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸34cm×短軸20cmの楕円形で、焼土範囲が確認された。[遺物] なし。[小結] 時期不明の焼土遺構である。

#### 第81号焼土遺構

[位置] B E・B F—27グリッドに位置する。[重複] なし。[規模と形状] 長軸110cm・短軸65cmの不整形な形である。[遺物] なし。[小結] 時期は不明である。

## まとめ

畑内遺跡では7年度の調査から通算して81基の焼土遺構が確認されている。それらは前述したとおり、ほとんどがE捨て場付近に存在している。それらすべては現地性の焼土遺構であり、火を用いた何らかの行為を行った跡と考えられる。さて、焼土遺構の機能していた時期であるが、多遺構との切り合い関係や確認面、出土遺物などから次のようなことが確認できる。

### 1. 他遺構との切り合い関係について。

40号焼土遺構は43号焼土遺構と上下関係を持ち、37号焼土遺構の方が上位にあり、新しいことがわかる。したがって、焼土遺構群は少なくとも大きく2時期に分けて形成されていることがわかるが、すべてがはっきりした上下関係において確認されているわけではないので分離は不可能であった。また、AW-4 1グリッド付近の焼土遺構は、73号住居跡の確認面よりやや上位で確認されている。さらに第10号焼土遺構出土遺物と、第73号住居跡出土遺物の中で接合するものがあった。住居跡の項で記述したとおり、第73号竪穴住居跡出土遺物はそのほぼすべてが住居廃絶後に投げ込まれたものである。したがって、この遺物の接合は、住居跡の廃絶後に、ある程度の遺物が投げ込まれ、その直後に焼土遺構が形成されたことを示している。埋設土器と焼土遺構との関係でいうと、切り合い関係にあるものは、第18号焼土遺構と第30号埋設土器遺構、第22号焼土遺構と第38号埋設土器遺構、第27号焼土遺構、第42号埋設土器遺構である。これらはすべて焼土遺構の方が後に形成されていることがセクション図において確認されている。また、今回は図示しなかったが、55号住居跡の確認面においても炭化物と焼土が確認されている。これらは55号住居跡上層遺物とほぼ同レベルで確認されている。

### 2. 確認状況

焼土遺構はそのほとんどがE捨て場遺物包含層の最下位で確認されている。包含層の遺物は今後の報告で詳しいことが明らかになる予定だが、概ね円筒下層a・b式の範疇でとらえることができる。また、ほとんどの焼土が第Ⅶ～Ⅷ層の土が被熱したものであることから、中振浮石層降下以降の遺構であることが考えられる。また、畑内遺跡Ⅳで報告された2号・3号焼土遺構も同様の地域に存在する焼土遺構であるが、レベルがやや異なり今回報告の40号焼土等と同時期に存在していると考えられる。

### 3. 出土遺物

幾つかの焼土遺構の覆土からは土器片が出土している。小破片が多いのではっきりとした型式名・時期等は不明であるが、表面文様の種類等より概ね円筒下層a・b式にあたると思われる。さらに1で述べたように焼土の覆土中の遺物と76号住居跡の遺物が接合したことから、76号住居跡廃絶後に廃棄された遺物の上で焼土が形成されたとも考えることもできる。

以上より、E捨て場付近の遺構の時間的な変遷は次のように想定できる。312号土坑→中振浮石降下→住居跡、土坑構築→住居跡・土坑・廃絶→土器埋設遺構構築→焼土遺構形成→捨て場への遺物大量廃棄。ここで問題になるのは埋設土器の構築時期であるが、確実なことは中振浮石層を確実に掘り込んでいること、焼土遺構よりも古いという2点である。埋設土器の型式であるが、全体形がわかる

ものは27・28・29・40号埋設土器である。これらの特徴は、1. 口縁部に結節回転文を施文、2. 胴部は斜縄文か単軸絡条体1類の縦位回転。底面に文様を持つ、3. 隆帯を区画帯に持つものがあり、隆帯の高さは3～6mmと比較的低い、というものである。口径・底径と器高の関係においても55号住居跡の値とは若干違うようである。これら埋設土器の型式についてはE捨て場の土器の報告を待ってもう一度検討する必要があるが、工藤大氏のいう（工藤1995）円筒下層a式の後半期か下層b式の前半期という捉え方を今はしておく。

## 5 性格不明の遺構（図131）

[位置] BB-22・23グリッドに位置する。[確認] 第IV層上に火山灰と炭化物の密集として確認した。[重複] なし。[規模と形状] 長軸320cm・短軸80cmの不整な長楕円形であり、長軸方向をほぼ南北に向けている。[覆土] 5層に分層された。2層は炭化材であり、1層の火山灰がその上に乗っている。この火山灰は肉眼の観察であるが、白頭山火山灰と推定される。また2層とほぼ同様のレベルで焼土が確認されている。なお、炭化材は分析の結果、ニレ属の一種であることが判明しており、最厚部で12cmをはかり、板状である。詳細は自然科学的分析に詳述する。[壁] 緩やかに傾斜しながら20cmほど立ち上がる。[底面] 柱穴等は確認されず、概ね平坦である。[遺物] 遺物は出土しなかったが、付近のグリッドからは弥生時代前期を中心とし、縄文時代後期から平安時代の土器が出土している。[小結] 覆土中の火山灰の堆積状況から、平安時代（10世紀初頭）以前の遺構と考えられるが、用途、性格等は不明である。

## 6 屋外炉

### 第13号屋外炉（図131）

[位置] BC-44に位置する。[重複] なし。[規模と形状] 礫を囲んで作った石囲い炉であるが、石は所々抜き取られたためかなくなっている。抜き取りの痕跡は明確ではなかった。礫の端から端を長軸とすると、長軸は54cm、短軸は焼土の長軸で40cmである。[覆土] 2層に分層された。1層は焼土である。[遺物] 周辺からは、今回図示できないが縄文時代後期から、弥生時代中・後期の土器が出土している。また、本遺構の構築されている面は基本層序のV層上面から第IV層である。

[小結] 遺構の構築された層位等から、縄文時代後期～弥生時代後期までの間の遺構である。

### 第14号屋外炉（図131）

[位置] BH-22に位置する。[重複] なし。[規模と形状] 粘板岩製の礫を囲んで作られた石囲い炉である。南北方向で70cm・東西方向で60cmである。北側にコの字型に開口している。中央部にはほぼ円形の焼土が確認された。[覆土] 2層に分層された。1層は焼土である。[遺物] なし。

[小結] 明確な時期を決定しうる遺物が出土していないが、同レベルか直下に円筒下層d式期の捨て場が形成されていることから、本遺構の構築時期は少なくとも縄文時代前期末葉以降であるといえる。





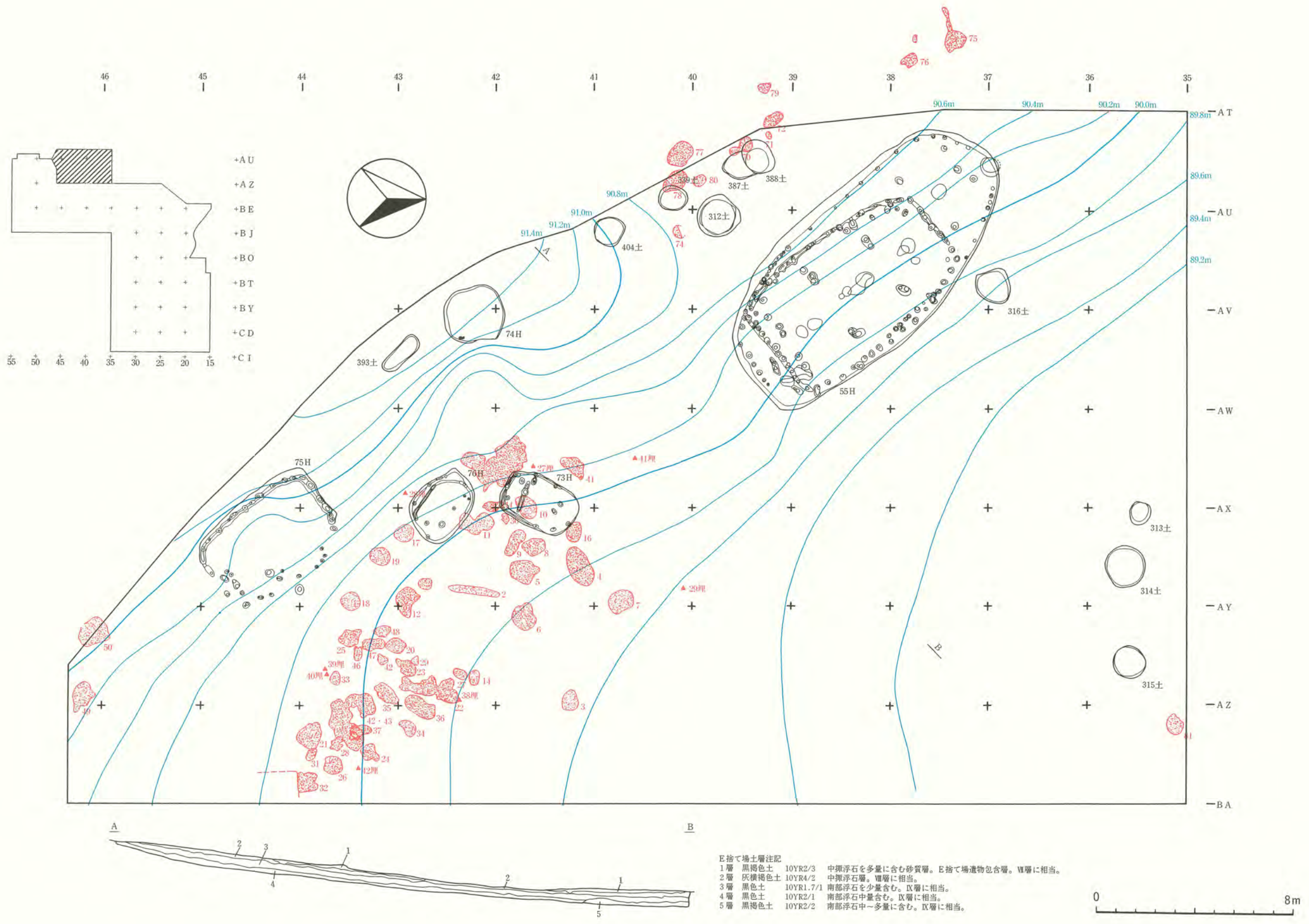
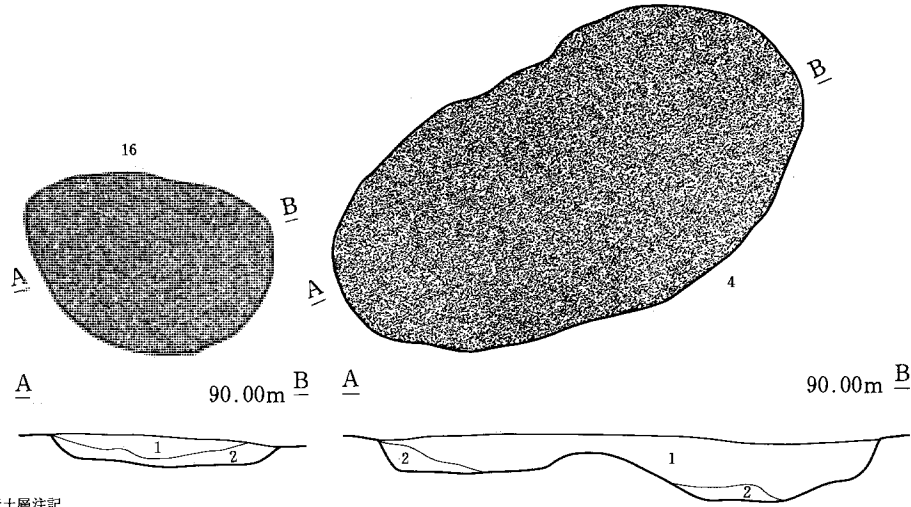


図121 E捨て場付近遺構配置図

AX-41

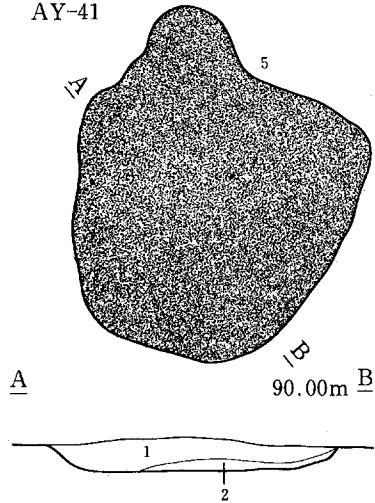


第16号焼土遺構土層注記  
1層 明褐色土 7.5YR5/6 焼土層。南部浮石少量、炭化物微量混入。  
2層 黒褐色土 10YR2/2

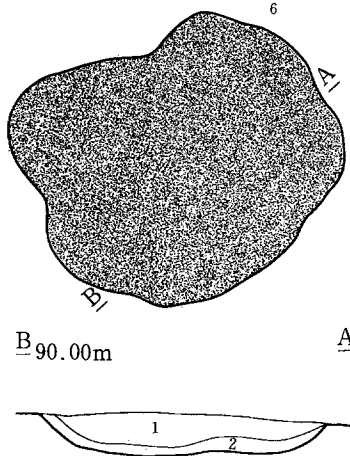
第4号焼土遺構土層注記  
1層 褐色土 7.5YR4/6 中礫浮石を含む土が被熱した焼土層。  
2層 暗褐色土 10YR2/2 中礫浮石を含む。

東へ2m、北へ2mで  
AY-41

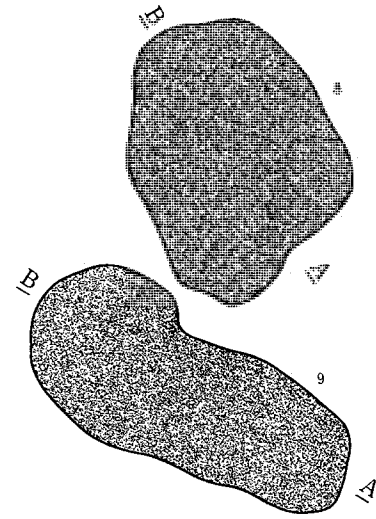
2m先  
AY-41



第5号焼土遺構土層注記  
1層 褐色土 7.5YR4/6 中礫浮石を含む土が被熱した焼土層。  
2層 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土・中礫浮石混入。



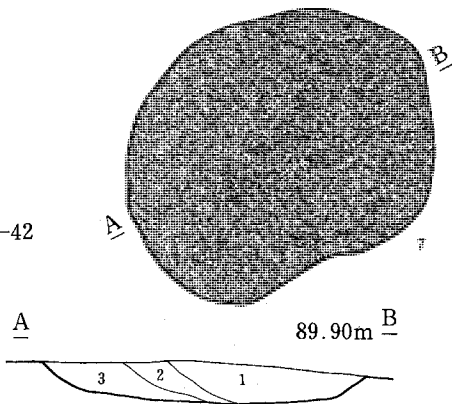
第6号焼土遺構土層注記  
1層 褐色土 7.5YR4/4 中礫浮石を含む土が被熱した焼土層。  
2層 黒色土 10YR2/1 焼土微量混入



第8号焼土遺構土層注記  
1層 褐色土 7.5YR4/6 砂質焼土層。  
2層 黒褐色土 7.5YR2/3

2m西へ  
AX-42

AY-42



第7号焼土遺構土層注記  
1層 明褐色土 7.5YR5/8 中礫浮石を含む土が被熱した砂質焼土層。炭化物少量含む。  
2層 明褐色土 7.5YR5/6 焼土少量混入。  
3層 褐色土 7.5YR4/4 中礫浮石中量混入。

第9号焼土遺構土層注記  
1層 褐色土 10YR4/6 砂質焼土層。  
2層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石粒微量混入。

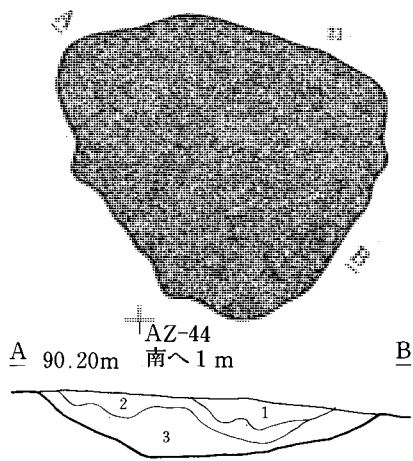
方位は全て上が北



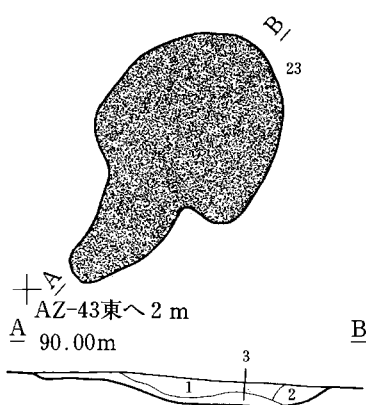
図122 第4・5・6・7・8・9・16号焼土遺構



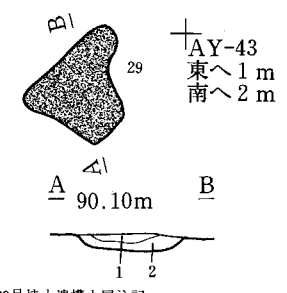




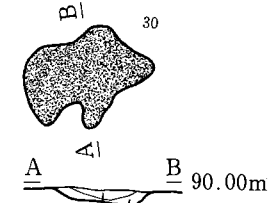
第21号焼土遺構土層注記  
 1層 暗褐色土 10YR3/4 捨て場の層か？  
 2層 褐色土 7.5YR4/6 焼土層。南部浮石を中量含む。  
 3層 黒色土 10YR1.7/1



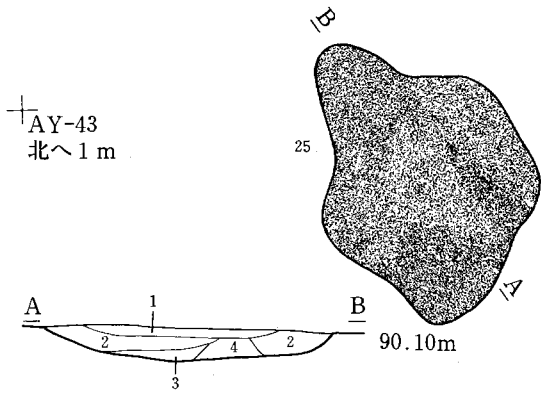
第23号焼土遺構土層注記  
 1層 明褐色土 7.5YR5/6 中振浮石を含む土が被熱した焼土層。  
 2層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石少量混入。  
 3層 暗褐色土 10YR3/3 中振浮石中量混入。



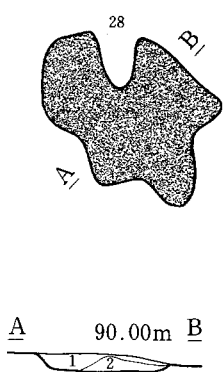
第29号焼土遺構土層注記  
 1層 明褐色土 7.5YR5/6 焼土層。南部浮石を少量含む。  
 2層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石を中量含む。



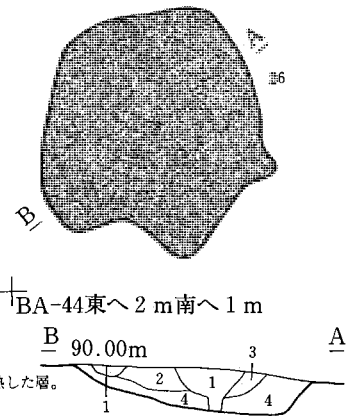
第30号焼土遺構土層注記  
 1層 明褐色土 7.5YR5/6 焼土層。南部浮石中量混入。  
 2層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石中量混入。



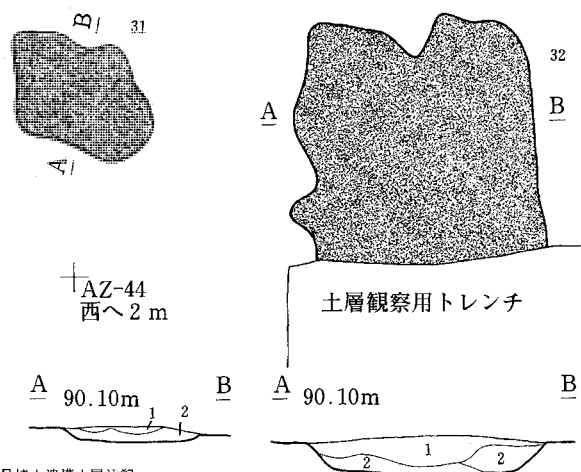
第25号焼土遺構土層注記  
 1層 暗褐色土 10YR3/3 南部浮石少量混入。  
 2層 明褐色土 7.5YR5/8 焼土層。南部浮石少量混入。  
 3層 黒褐色土 10YR2/3 南部浮石少量混入。  
 4層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石少量混入。



第28号焼土遺構土層注記  
 1層 明褐色土 7.5YR5/6 中振浮石を含む土が被熱した層。  
 2層 黒色土 南部浮石微量混入。

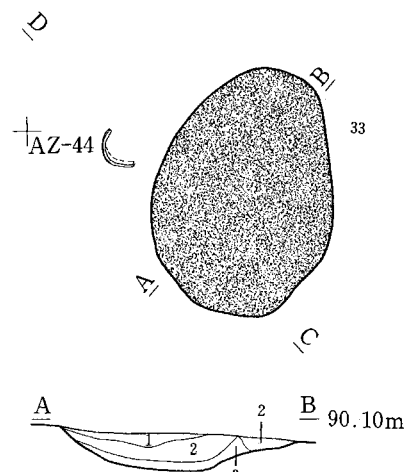


第26号焼土遺構土層注記  
 1層 明褐色土 7.5YR5/6 中振浮石を含んだ土が被熱した層。  
 2層 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒微量混入。  
 3層 暗褐色土 10YR3/3 南部浮石微量混入。  
 4層 黒褐色土 10YR2/2 焼土微量混入。



第31号焼土遺構土層注記  
 1層 明褐色土 7.5YR5/6 砂質焼土層。中振浮石を少量含む。  
 2層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物微量混入。

第32号焼土遺構土層注記  
 1層 橙色土 7.5YR6/8 中振浮石を含む土が被熱した層。  
 2層 浅黄橙色土 10YR8/4 Ⅳ層の土(中振浮石層)。  
 3層 黒色土 10YR2/1 炭化物微量混入。



第33号焼土遺構土層注記  
 1層 褐色土 10YR4/4 Ⅶ層の土。  
 2層 褐色土 7.5YR4/6 焼土層。南部浮石・中振浮石を微量混入。  
 3層 黒褐色土 10YR2/2 Ⅸ層の土。

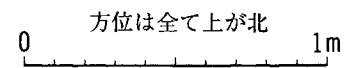


図124 第21・23・25・26・28・29・30・31・32・33号焼土遺構

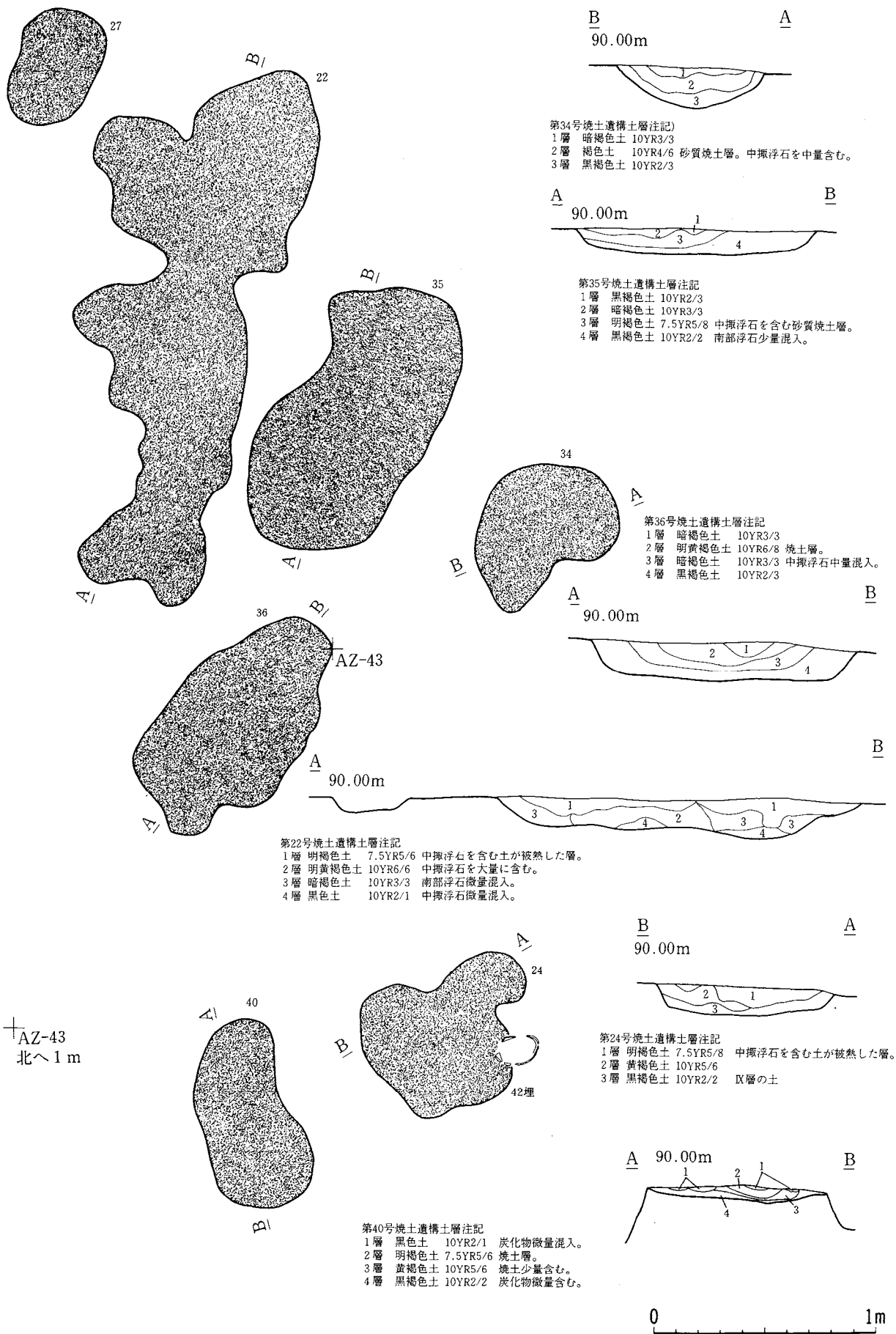


図125 第22・24・34・35・36・40号焼土遺構

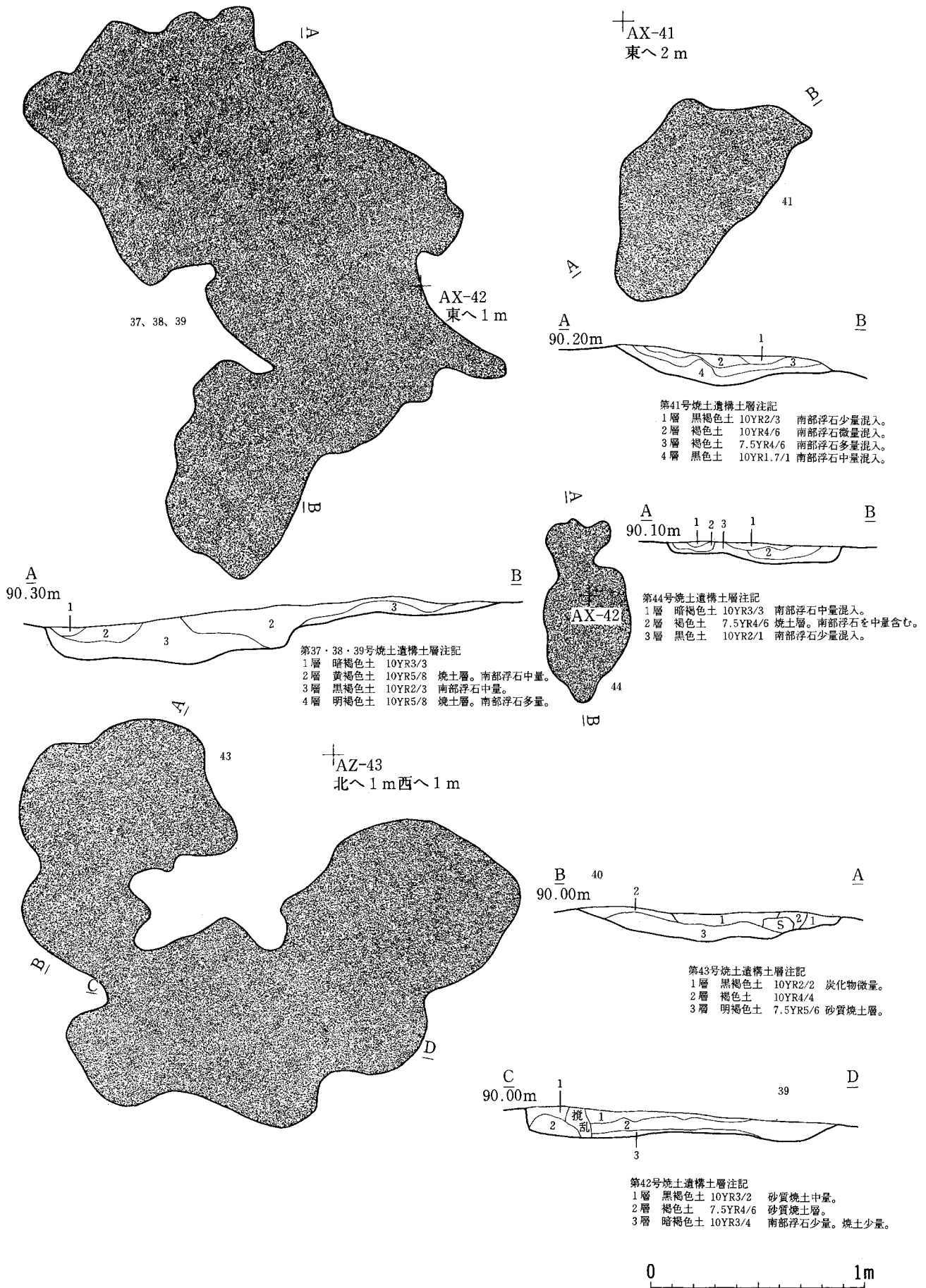


図126 第41・42・43・44号焼土遺構

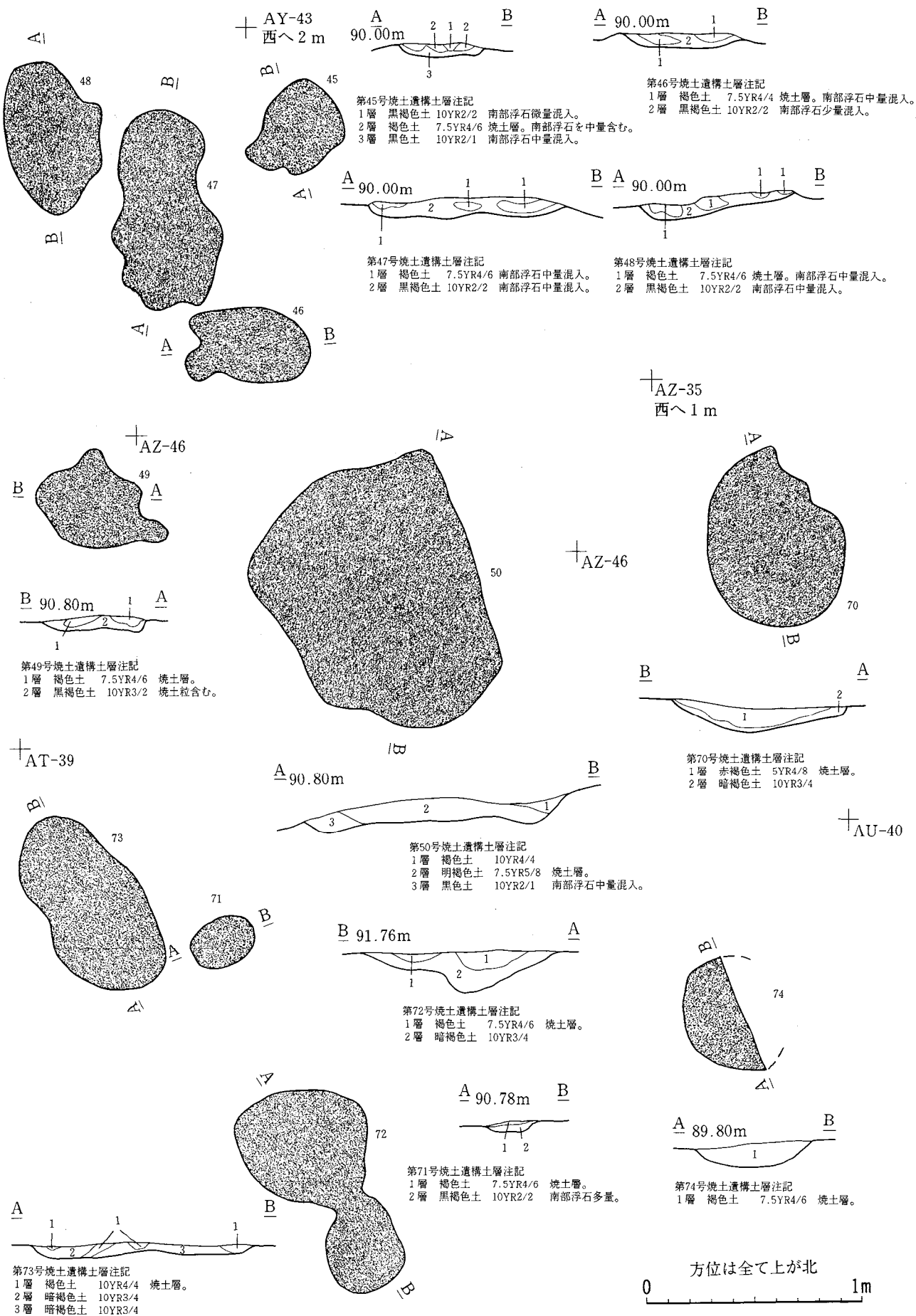


図127 第45・46・47・48・49・50・71・72・73・74号焼土遺構



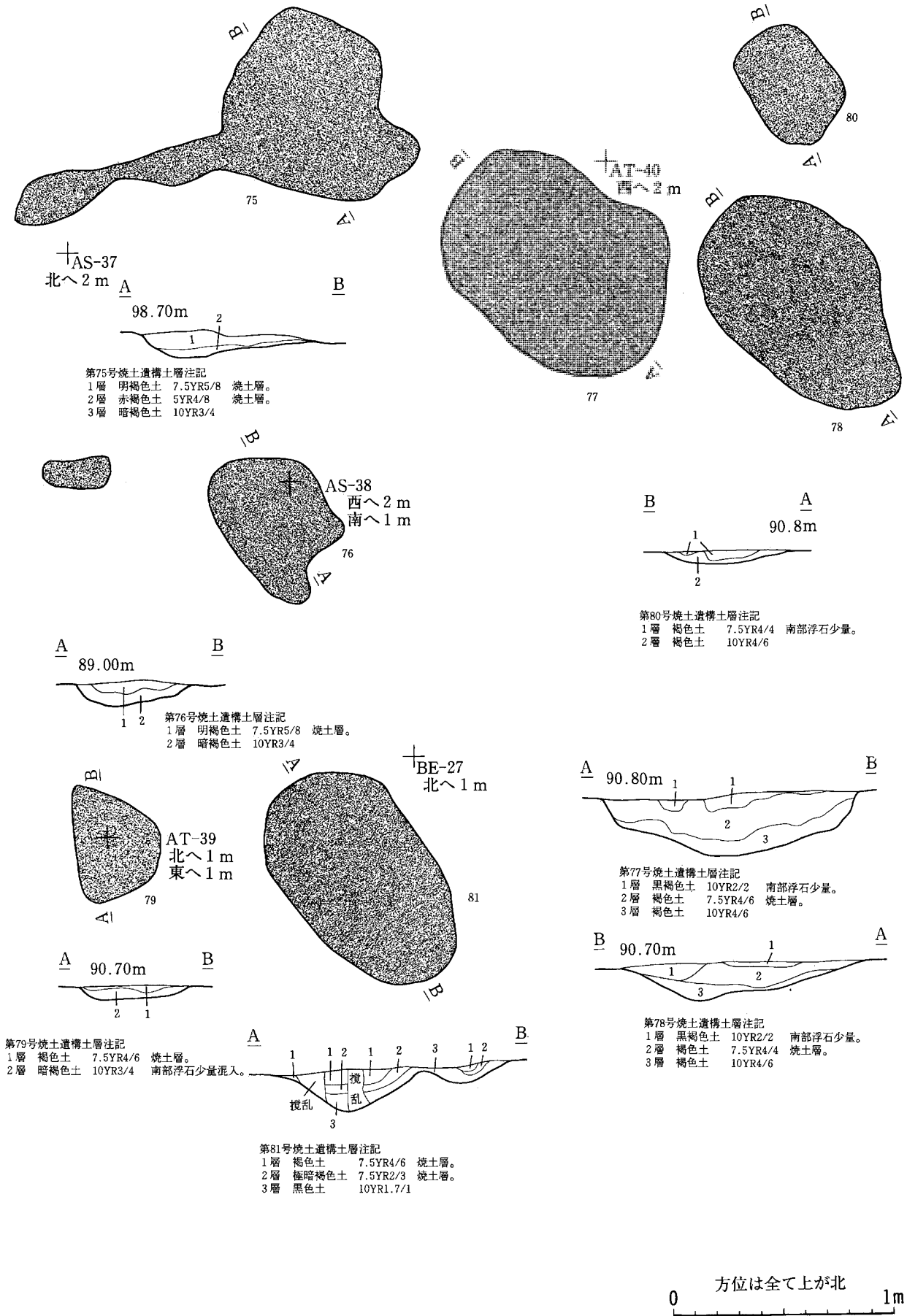


図128 第75・77・78・79・80・81号焼土遺構

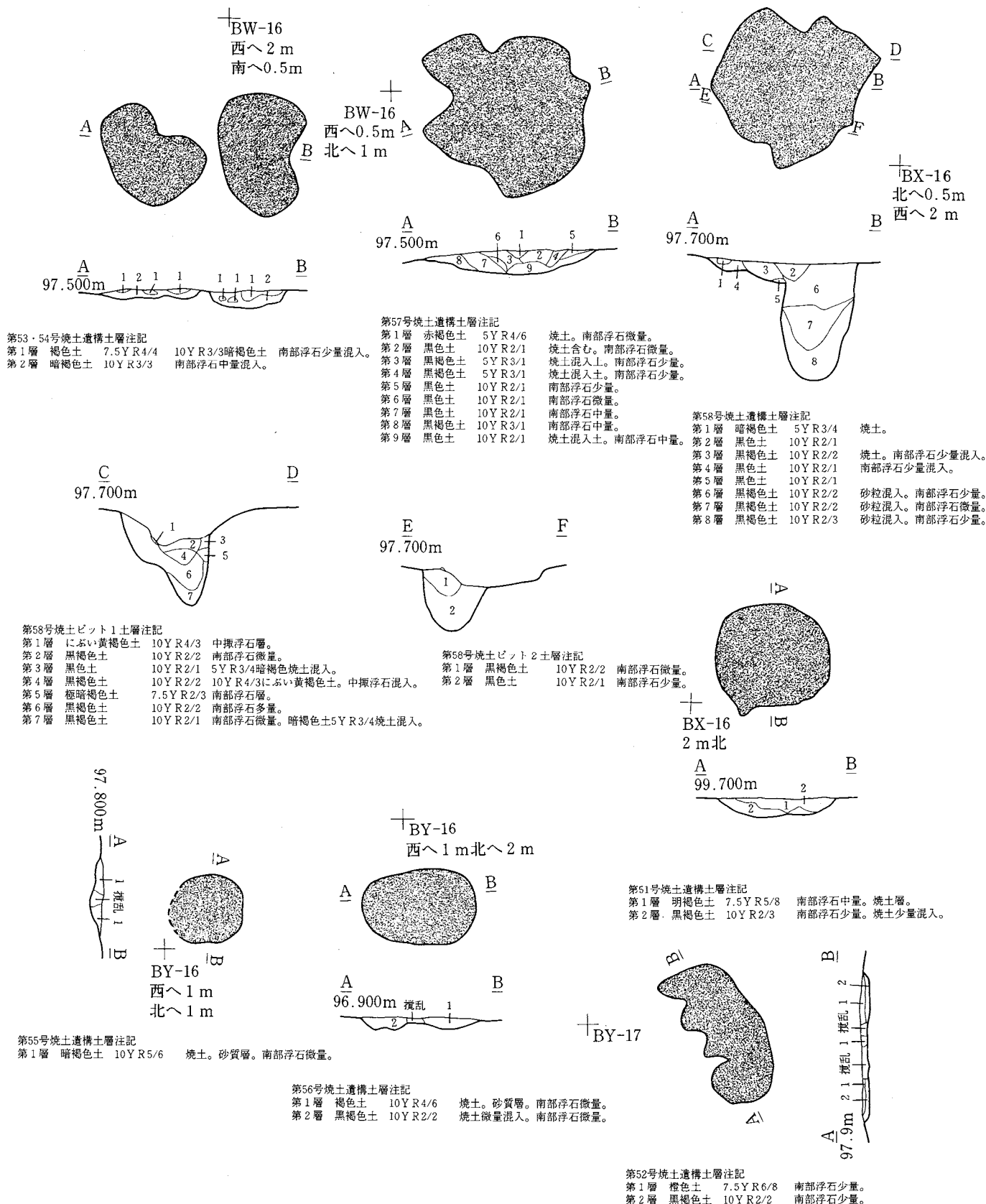


図129 第51・52・53・54・55・56・57・58号焼土

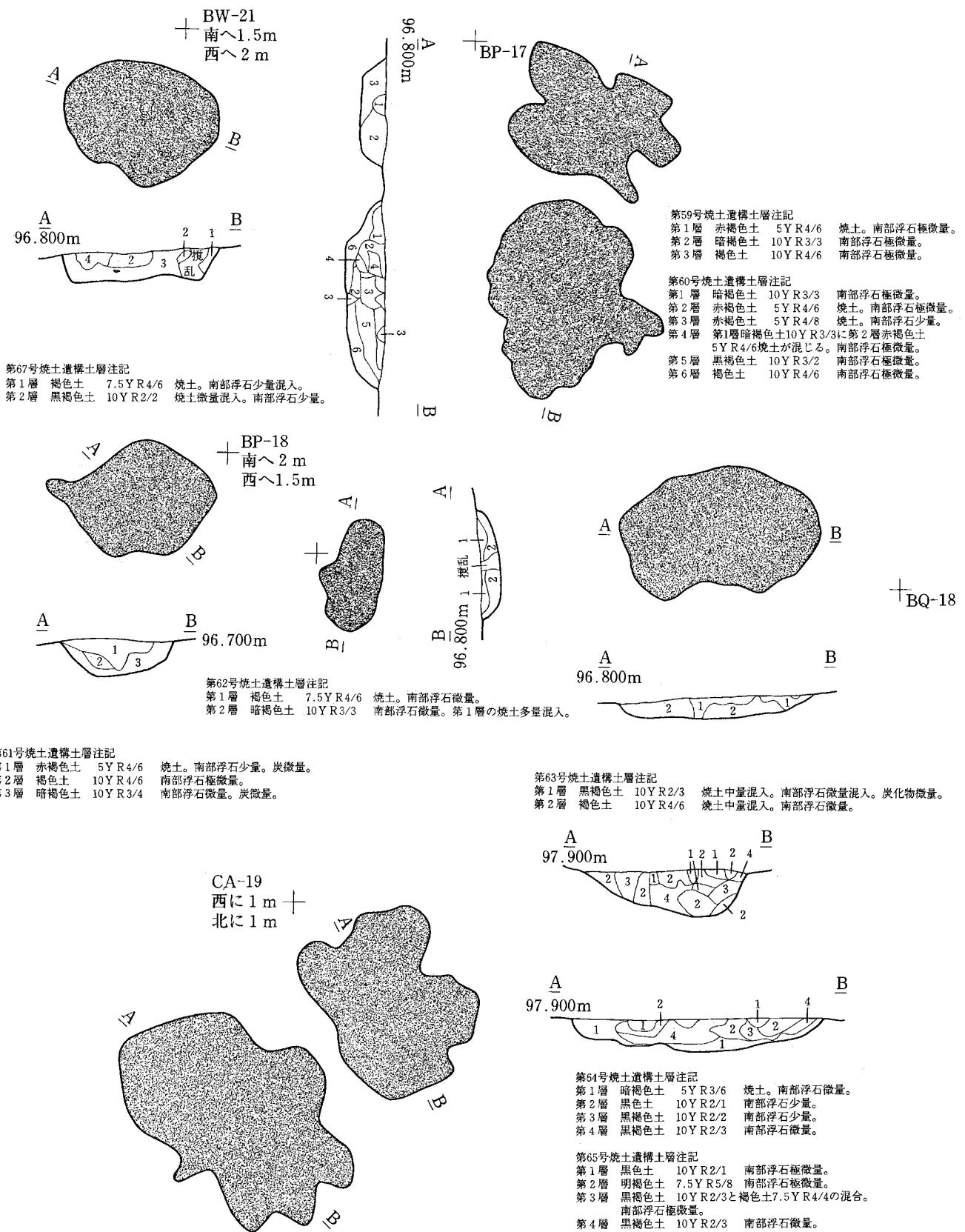
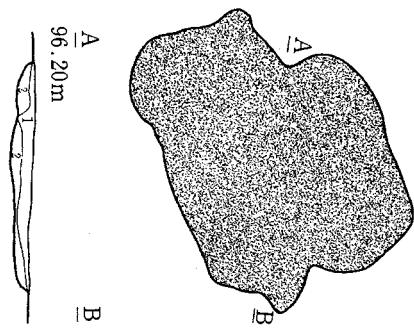
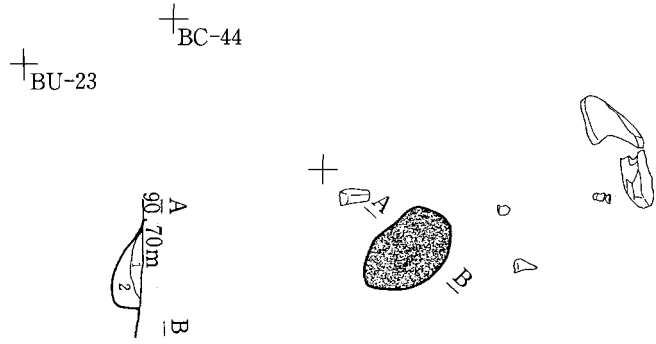


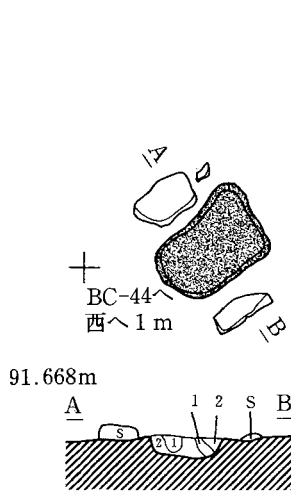
図130 第59・60・61・62・63・64・65・67号焼土



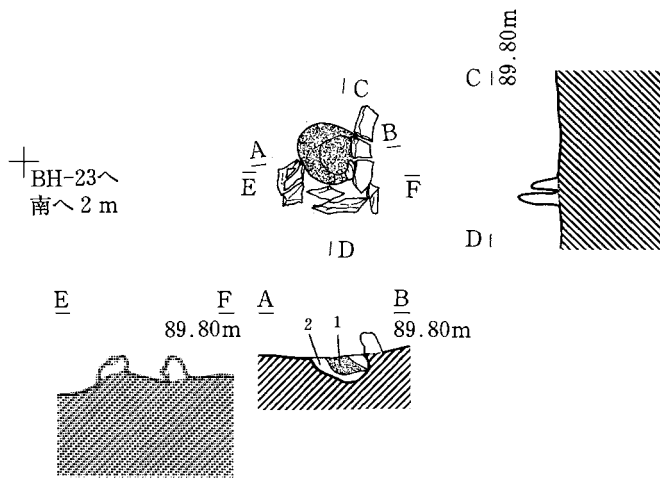
第66号焼土遺構土層注記  
 第1層 褐色土 7.5YR4/6 焼土。南部浮石少量混入。  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 焼土微量混入。南部浮石少量。



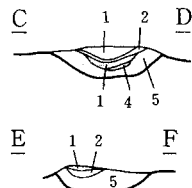
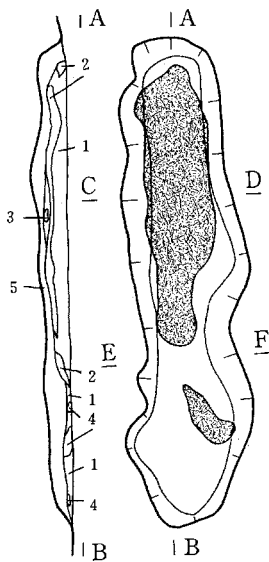
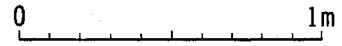
第68号焼土遺構土層注記  
 第1層 褐色土 7.5YR4/6と黒色土10YR2/1の混合土。南部浮石少量混入。  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石多量混入。



第13号屋外炉  
 土層注記  
 1層 明黄褐色土 7.5YR5/8 焼土層  
 2層 黒色土 10YR1.7/1

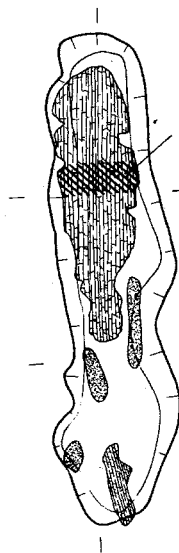


第14号屋外炉  
 土層注記  
 1層 褐色土 7.5YR4/6 焼土層  
 2層 黒色土 10YR2/1 南部浮石中量混入。



BB-23

トーンは火山灰 (B-Tm)



性格不明遺構土層注記  
 1層 鈍い黄褐色 10YR4/3 火山灰 (おそらくB-Tm) を多量に含む。  
 2層 炭化材層。  
 3層 明黄褐色土 7.5YR5/8 焼土。  
 4層 灰黄褐色土 10YR4/2 火山灰ブロック (T<sub>o-a</sub>か?)  
 5層 黒褐色土 10YR3/2 南部浮石少量混入。IV層に類似。

トーンは焼土

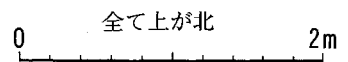


図131 第66・68号焼土、第13・14号屋外炉、性格不明遺構

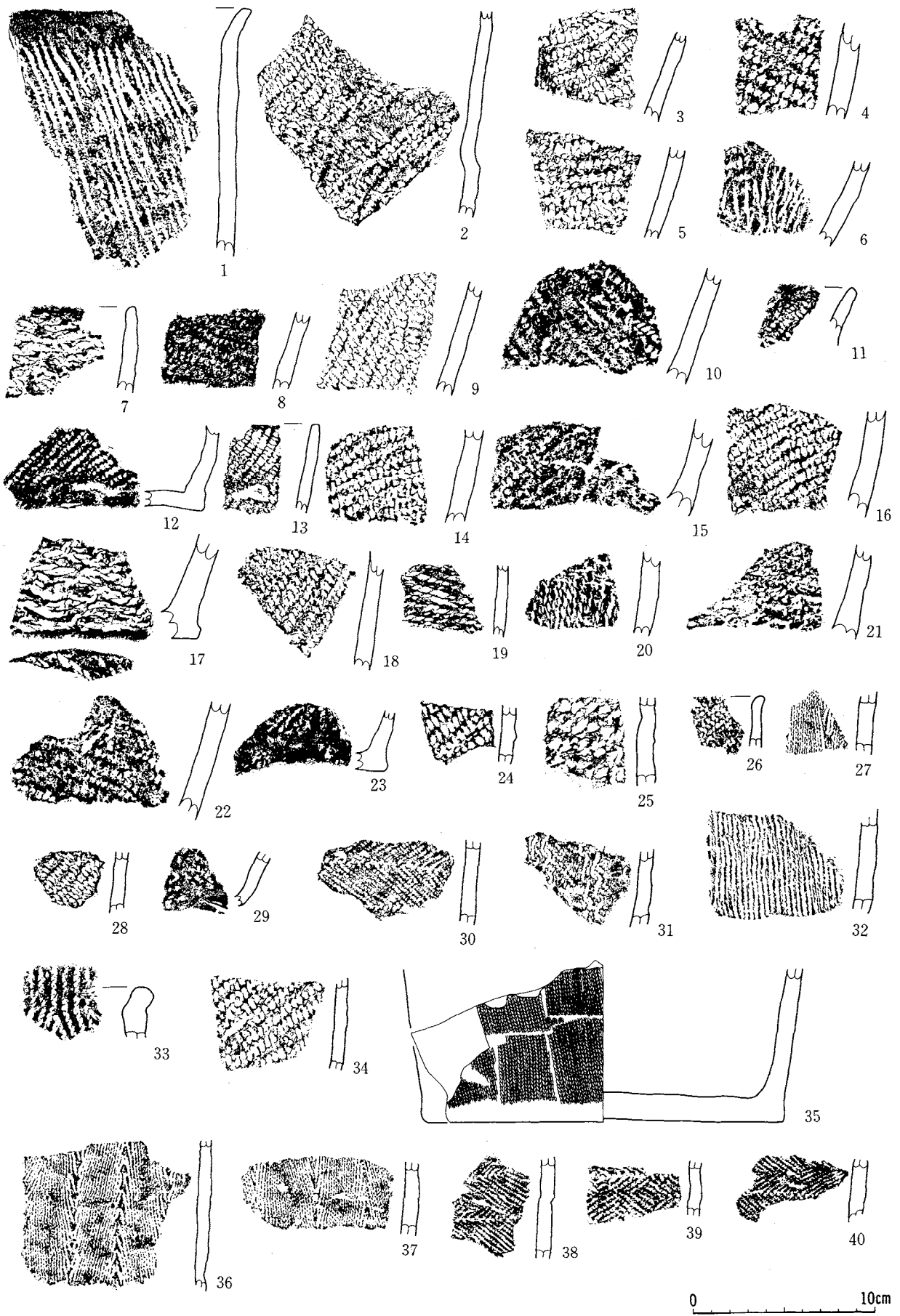


图132 烧土·集石遺構出土土器

## 7 集石遺構

### 第7号集石遺構 (図133)

[位置] BE—19グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 長軸約90cm、短軸約77cmの範囲に10～25cm程の礫を集積し、さらにその東側に10～25cm程の角礫及び扁平礫を直線状に配置する。

[遺物] 土器片5点が礫間から出土している。全て胴部破片である。(36)、(37)は単軸絡条体第1A類の縦位施文。(38)、(39)、(40)は結束第1種の横位施文がされている。詳細な時期を決定できないものの縄文時代前期の円筒下層d式と思われる。

[小結] 出土遺物と検出遺構が関係するものかは不明であるが、縄文時代前期から弥生時代の間構築された集石遺構である。

### 第8号集石遺構 (図133)

[位置] BH—25グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 北西軸約110cm、北東軸約80cmのほぼ三角形の範囲に5～20cm程の礫を中心を除いて配置している。その北側と北東側には礫がまばらに配置されている。

[遺物] なし。

[小結] 縄文時代前期から弥生時代の間構築された集石遺構である。

### 第9号集石遺構 (図133)

[位置] BE—25・26グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 長軸約150cm、短軸約120cmの範囲に5～25cm程の礫を密集するように配置している。北東側にまばらに礫が配置されている。

[遺物] なし。

[小結] 縄文時代前期から弥生時代の間構築された集石遺構である。

### 第10号集石遺構 (図134)

[位置] BC—19、BD—19グリッドに位置する。

[重複] なし。

[規模と形状] 長軸約70cm、短軸約60cmの範囲に10～15cm程の礫が集められている。さらにその西側に20～25cm程の角礫を直線状に配置している。

[遺物] なし。

[小結] 縄文時代前期から弥生時代の間構築された集石遺構である。

まとめ

集石遺構については、平成9年度の調査で4基の集石遺構が検出され、過去の検出数との合計は10基となった。時期については、第7号集石遺構から土器が出土しているものの不明な点が多い。第8・9・10号集石遺構についても、同様に不明である。過去の第1～6号集石遺構は時期不明と報告されている。しかし、第3・4号集石遺構については、第26号住居跡に重複して、新しいものであるとの報告がされている(青森県教育委員会 1997)。第26号住居跡は時期不明であるが、重複している第140号土坑が縄文時代前期末に位置付けされている(青森県教育委員会 1995)。このことから第3・4号集石遺構の時期については縄文時代前期末以降としてもよいと思われる。また、第3・4号集石遺構が位置するグリッドに近接している第1・2号集石遺構についてもおおむね同様な時期であると思われる。

(齋藤 正)

焼土・集石遺構出土土器観察表

図NO	出土遺構	器種	部位	口頸部文様	口唇部文様	区画帯	胴部文様	底部文様	備考
1	10焼	深鉢	胴部	無文			単絡1R縦回転		内面ミガキ調整
2	10焼	深鉢	胴部				LR横回転		粘板岩粒多量を含む
3	10焼	深鉢	胴部	結節回転文			LR横回転		内面はけ目状調整
4	10焼	深鉢	胴部				LR多条横回転		
5	10焼	深鉢	胴部				LR斜め回転		
6	10焼	深鉢	胴部				単絡1縦回転		
7	12焼	深鉢	胴部	結節回転文					内面ミガキ調整
8	18焼	深鉢	胴部				LR斜め回転		内面すず付着
9	17焼	深鉢	胴部				LR横回転		内面はけ目状調整
10	18焼	深鉢	胴部				LR縦回転		
11	21焼	深鉢	胴部	LR横回転					
12	21焼	深鉢	底部				LR横回転		
13	33焼	深鉢	胴部	LR横回転					
14	34焼	深鉢	胴部				LR横回転		内面ミガキ調整
15	34焼	深鉢	胴部				LR横回転		
16	35焼	深鉢	胴部				LR横回転		
17	36焼	深鉢	底部				結節回転文	面ミガキ調整	面ミガキ調整
18	37焼	深鉢	胴部				LR横回転		内面はけ目状調整
19	37焼	深鉢	胴部				単絡1R斜め回転		
20	38焼	深鉢	胴部	結節回転文			単絡1R縦回転		内面ミガキ調整
21	39焼	深鉢	胴部				結節回転文		
22	39焼	深鉢	胴部				LR縦回転?		内面煤付着
23	53焼	深鉢	胴部				LR横回転		
24	61焼	深鉢	胴部				LR横回転		
25	63焼	深鉢	胴部				LR横回転		筋粗い
26	63焼	深鉢	口縁部				LR横回転		
27	63焼	深鉢	胴部				単軸絡条体第1A類(縦回転)		
28	64焼	深鉢	胴部				LR横回転		
29	67焼	不明	底部				多軸絡条体?		摩滅激しい
30	67焼	深鉢	胴部				結束第1種(横回転)		
31	67焼	深鉢	胴部				結節回転文(縦位)		
32	67焼	深鉢	胴部				単軸絡条体第1A類(縦回転)		
33	67焼	深鉢	口縁部				単軸絡条体第1A類(縦回転)		
34	67焼	深鉢	胴部				LR横回転		
35	67焼	深鉢	底部				単軸絡条体第1A類(縦回転)		
36	7集石	深鉢	胴部				単軸絡条体第1A類(縦回転)		
37	7集石	深鉢	胴部				単軸絡条体第1A類(縦回転)		
38	7集石	深鉢	胴部				結束第1種(横位施文)		
39	7集石	深鉢	胴部				結束第1種(横位施文)		
40	7集石	深鉢	胴部				結束第1種(横位施文)		

## 8 配石遺構

第1号配石遺構（図134・135・136）

〔位置〕 BB—40・41 グリッドに位置する。

〔重複〕 なし。

〔規模と形状〕 花卉状の石組を中心とし、その外周に礫が弧状に巡り、中心の北側には四角形状の石組を配置する形態をなす。主軸方位は、ほぼ南北方向を示す。規模は、花卉状の石組の長軸が約124cm、短軸約80cmを計測し、外縁に20～40cm程の比較的長大な礫を並べ、内部には10～25cm程の扁平な礫を立てている。中心北側の四角形状の石組は10～35cm程の角礫からなり、長軸約30cm、単軸約26cmである。弧状に巡る礫は10～25cm程の大きさをなし、中心の西側だけに見られる。

中心から25°前後の角度で放射状に広がる軸線上には弧状に巡る礫のうち、礫1・2・3・4・5・6が配置され、さらに延長線上には本遺構の周囲から検出された大小70基のピットのうち、ピットNO.4・14・19・23・32・50が位置していることから、花卉状の石組と弧状に巡る礫、及びピットは何らかの関係があることが窺える。

〔遺物〕 本遺構周辺から縄文時代後期の土器が若干出土しているが詳細な時期決定はできない。なお、土器については次回以降に報告する予定である。

〔小結〕 花卉状に礫を組み、弧状に礫を巡らせる形態の配石遺構は縄文時代後期の案内Ⅱ遺跡（秋田県鹿角市）から検出されていることから、本配石遺構は縄文時代後期に構築されたと思われる。

### まとめ

今回の調査で検出された第1号配石遺構は、花卉状に石組をして、北側にも礫を組む。その周囲に礫を弧状に巡らせる形態をなす。主軸方位は、ほぼ南北方向を示す。類例を近接地域に求めると、秋田県鹿角市案内Ⅱ遺跡（秋田県教育委員会 1982）の配石遺構が上記の特徴をすべて備えている点から、最も酷似しているといえる。（図137）案内Ⅱ遺跡においては配石遺構下部の調査が行われたが土坑等の施設は検出されなかった。本遺構下部の施設の有無は不明である。弧状に巡る礫のうち、数個の礫は花卉状の石組の中心から25°前後で放射状に広がる軸線上に位置する。また、その延長線上にピットが確認されている。礫とピットが同一軸線上に見られることから、遺構に伴うものではないだろうかと考えている。また、礫と大部分のピット群が遺構の西側でしか確認が出来ないことから遺構と何らかの関係があったことを示していると考えられる。

礫を花卉状に組みする形態に着目すると青森県階上町野場（5）遺跡の第5号配石遺構（青森県教育委員会 1993）、秋田県小坂町大岱Ⅱ遺跡の第2号配石遺構（秋田県教育委員会 1984）が挙げられる。これらの遺構下部には土坑が検出されており、東北地方北部地域に類例を見いだすことができる。類例として挙げた遺跡で検出された配石遺構の時期が縄文時代後期に位置付けられていることから、第1号配石遺構の時期については縄文時代後期と判断したい。

（齋藤 正）



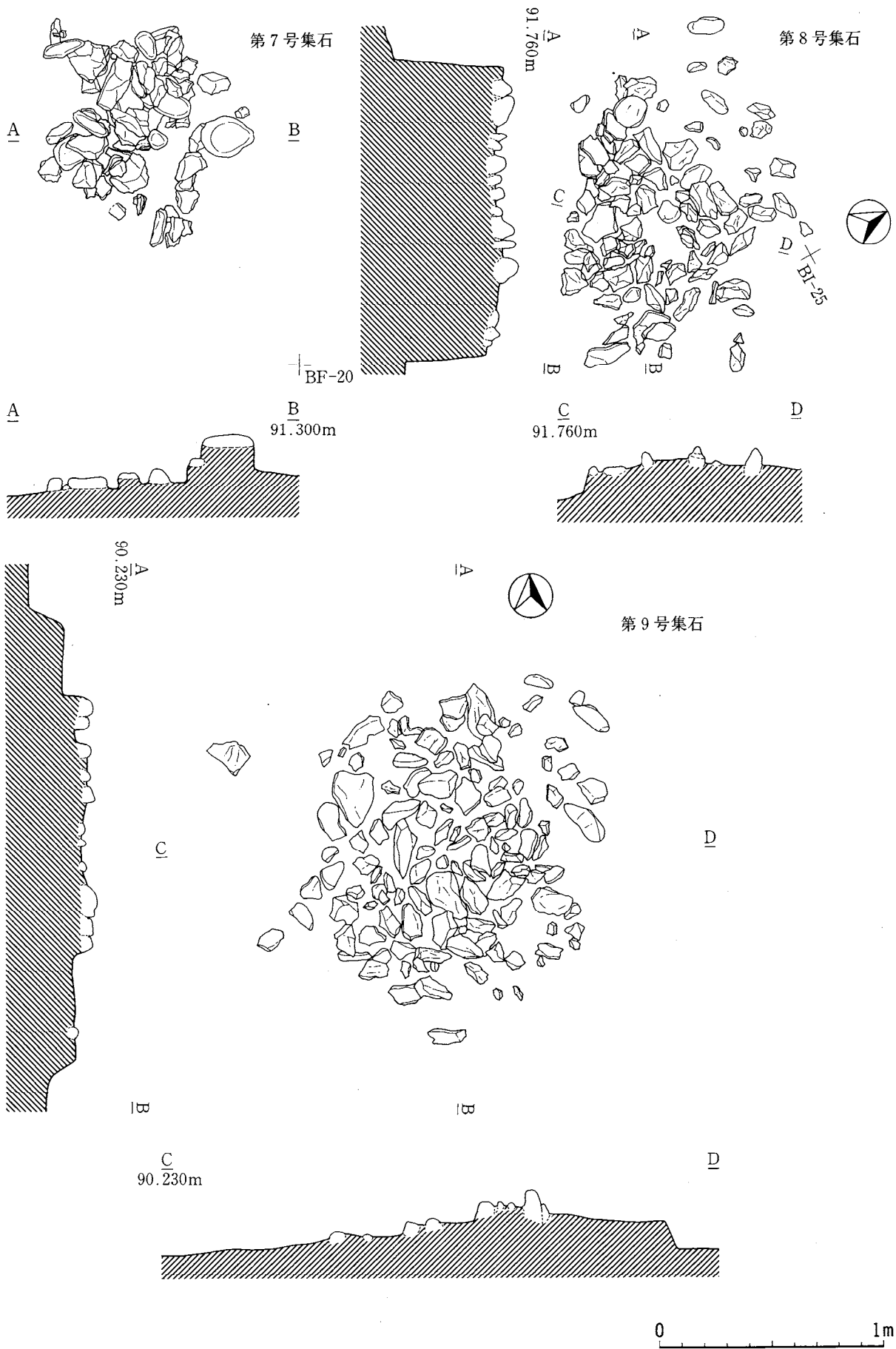


图133 第7·8·9号集石遺構

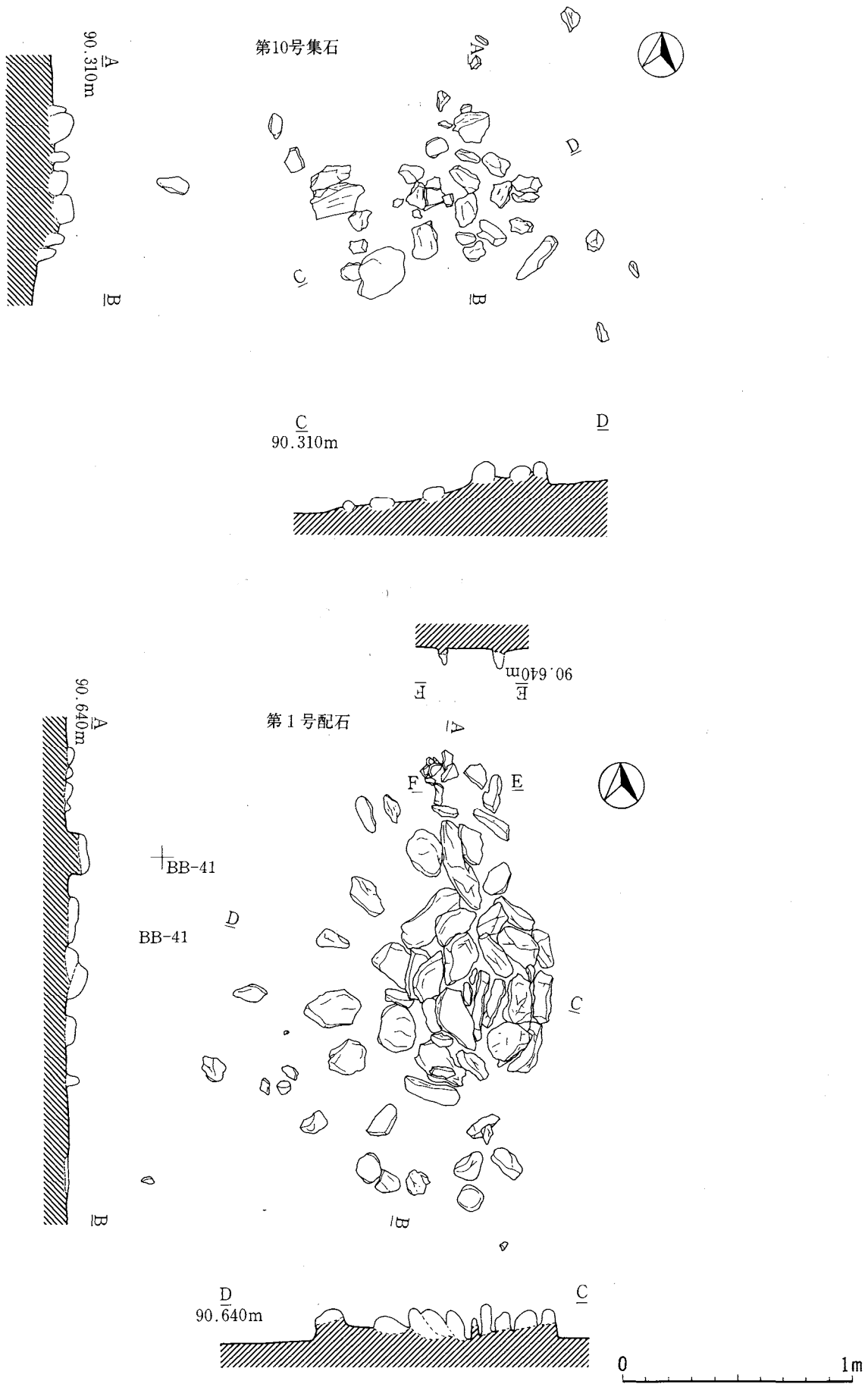


图134 第10号集石、第1号配石

第1号配石周辺ピット計測表

Pit.No.	長径	短径	深さ
1	15	13	9.8
2	22	19	37.9
3	25	19	24.3
4	26	13	25.2
5	15	15	24.3
6	22	18	22.2
7	23	23	20.7
8	20	20	20.9
9	40	39	17.3
10	19	18	15.2
11	50	45	36.7
12	30	15	14.4
13	16	15	16.2
14	43	30	9.3
15	14	13	26.6
16	25	19	26.9
17	14	10	20.7
18	16	12	23.2

Pit.No.	長径	短径	深さ
19	24	16	24.2
20	15	12	37
21	18	16	28.5
22	22	20	30
23	19	19	30.2
24	23	17	43.8
25	16	15	25.8
26	14	13	24.9
27	12	10	31.6
28	20	20	25.8
29	10	10	25.2
30	23	16	27.6
31	18	18	14.7
32	15	14	16.9
33	18	16	24.1
34	14	10	28.9
35	14	14	24.4
36	14	14	30.6

Pit.No.	長径	短径	深さ
37	15	13	26
38	14	10	27
39	10	8	31.4
40	13	11	32.9
41	12	11	26.2
42	11	11	10.8
43	13	11	21.4
44	26	23	28.6
45	13	12	26.8
46	31	21	20.8
47	12	12	20.2
48	20	20	25.2
49	14	12	26.5
50	30	22	29.8
51	12	12	24.6
52	25	22	28.6
53	22	22	23.7
54	14	14	27.6

Pit.No.	長径	短径	深さ
55	15	12	25
56	16	15	31.3
57	12	12	22.6
58	20	15	21.6
59	40	33	20.1
60	17	14	43.3
61	17	15	32.6
62	18	15	22.6
63	12	10	31.9
64	18	17	27.2
65	44	39	23
66	12	11	21.3
67	14	12	36
68	18	18	24.2
69	14	14	34
70	16	15	19

(単位はcm)

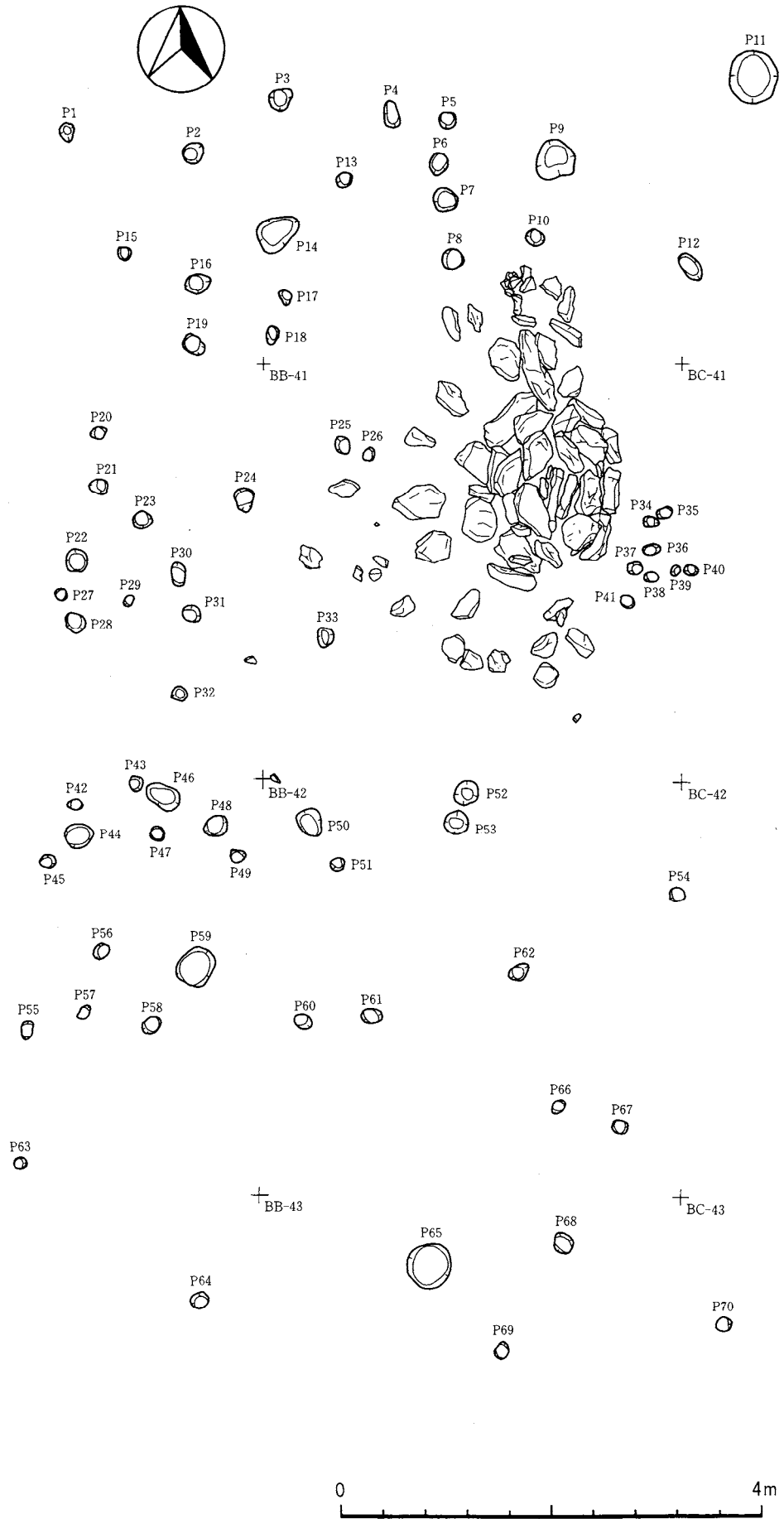


図135 第1号配石周辺ピット(1)

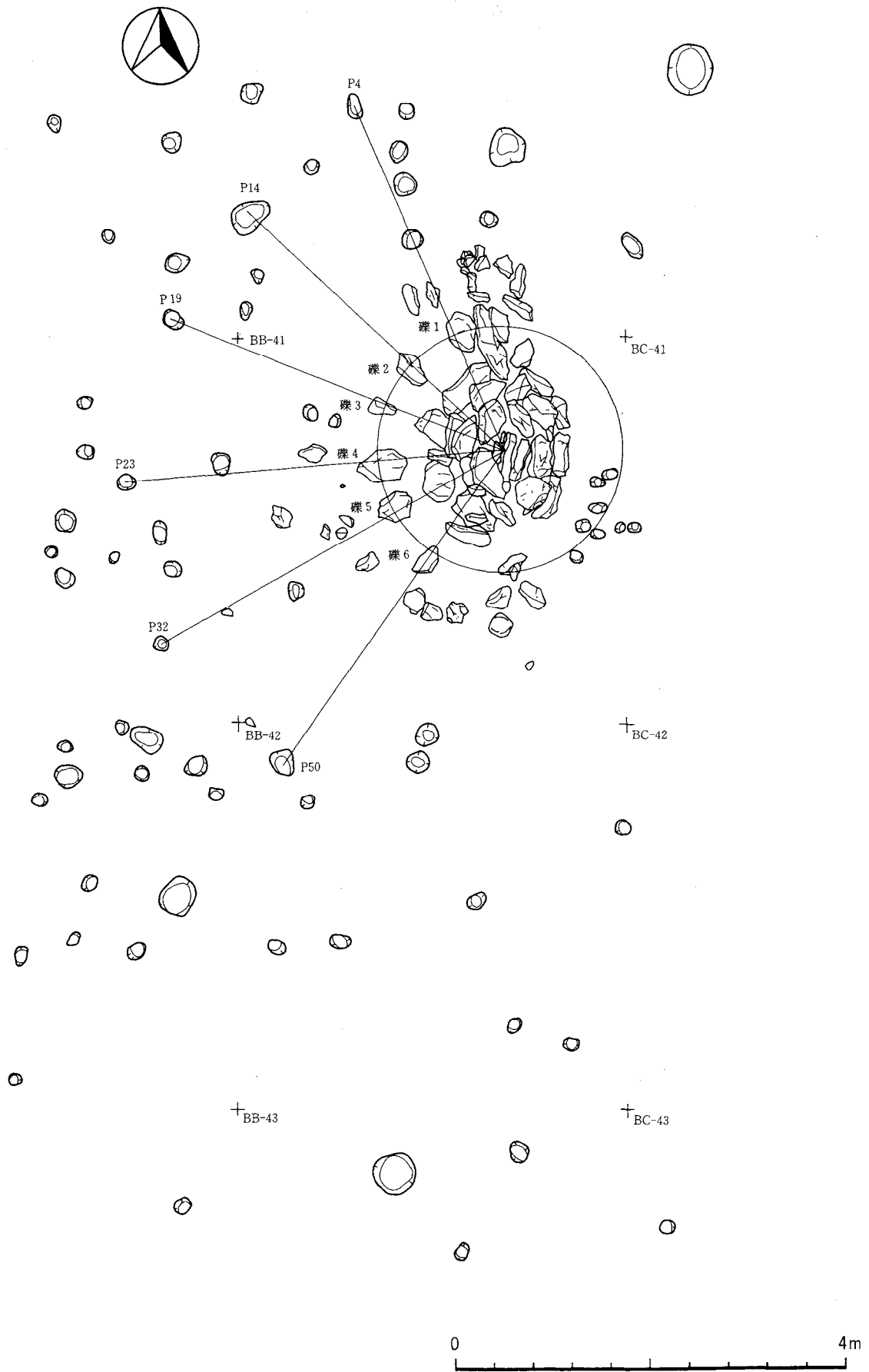
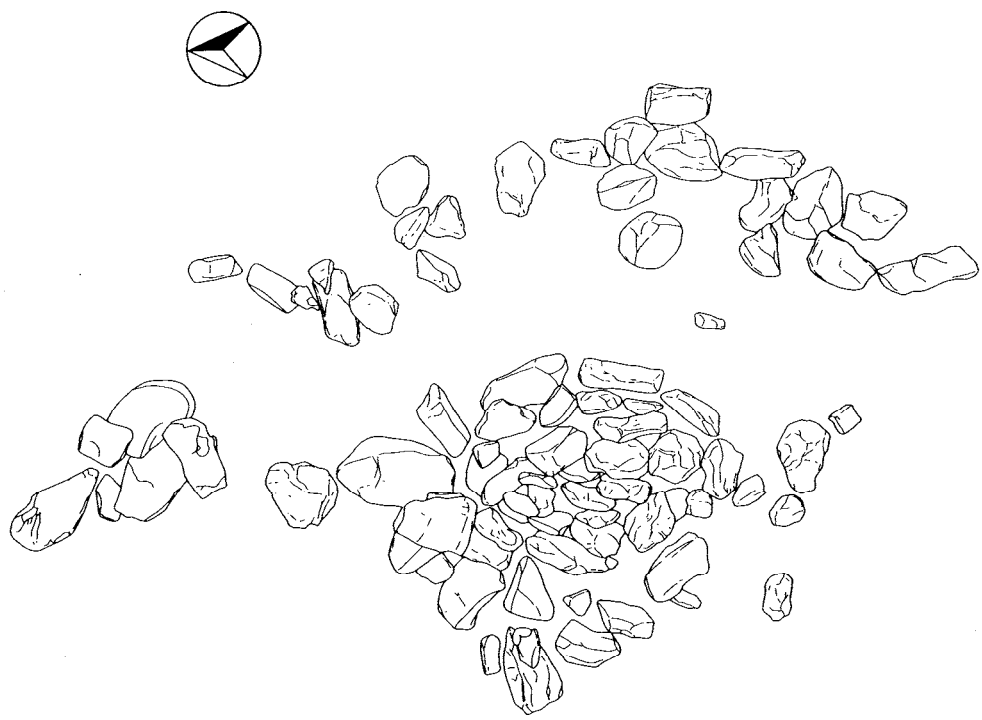
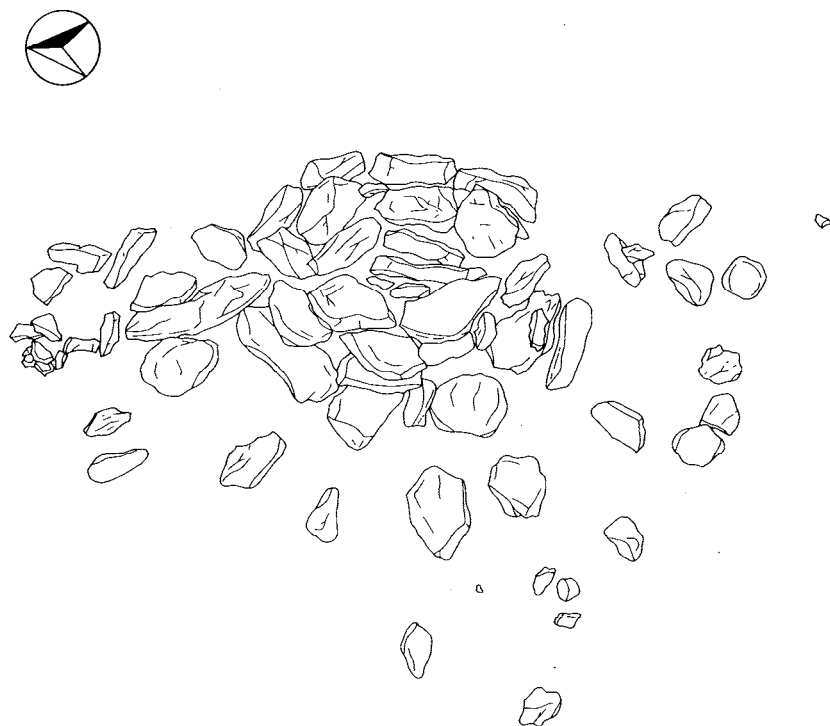


図136 第1号配石周辺ピット(2)



案内Ⅱ遺跡配石遺構

秋田県教育委員会1982  
「案内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」の図を  
再トレースして掲載



畑内遺跡第1号配石遺構

0 1m

図137 案内Ⅱ遺跡配石遺構・畑内遺跡第1号配石遺構

## 第2節 遺構外出土遺物

### 1 土器

#### 弥生土器

平成9年度の発掘調査における遺構外出土遺物は段ボール箱にして約1,000箱である。A捨て場延長部(旧東捨て場)約300箱。C捨て場(旧下層d区)約400箱。D捨て場約80箱。E・F捨て場(旧下層a北・南区)約200箱。その他20箱である。本節ではBA-24付近からまとまって出土した弥生時代前期初頭の遺物を中心に報告する。

弥生時代前期初頭の遺物は、BA-24付近を中心に約mの概ね円形状に集中している。(図 ) 遺物の出土層位はIV層を中心とする。IV層は第Ⅲ章第2節で触れたとおり、土石流と思われる層の上に確認される層である。この土石流の層(V層)の下位には縄文時代前期中葉～末葉の土器を多量に含む層(VIからVII層)が確認されている。IV層は平坦部では安定した層厚を保ちながら分布しているが、斜面部になると消えてしまう層であり、C捨て場付近では確認されておらず、弥生土器と縄文時代前期の土器が同一のレベルで出土している様子が確認されている。(BD～BE-19～20付近)しかしながら、今回報告する遺物が主に出土した区域の土層は概ね安定しており、下層からの遺物の浮き上がりはあまり確認されなかった。(茅野 嘉雄)

出土した土器群は若干の時間幅は、認められるものの概ね津軽地方の砂沢式土器および東北地方中部太平洋側の大洞A'式土器新段階に併行するものと考えられる。畑内遺跡は、青森県の東南部内陸の新井田川流域に位置する。岩手県北部域・青森県八戸地方を流れる馬淵川・新井田川流域には、当該期の遺跡が数多く分布し、岩手県軽米町大日向Ⅱ遺跡・君成田Ⅳ遺跡・君成田下野場遺跡、二戸市金田一川遺跡、浄法寺町上杉沢遺跡、青森県南郷村松石橋遺跡・畑内遺跡、名川町剣吉荒町遺跡、八戸市是川中居遺跡・是川堀田遺跡・八幡遺跡・牛ヶ沢(4)遺跡などが知られている。組成比率こそ低いものの、遠賀川系土器を含む遺跡が多く認められることは、当該期当地方の出土土器の特徴である。当地方出土土器の型式名は、三陸地方の岩手県大船渡市大洞貝塚出土土器を標識資料とした「大洞A'式」(山内 1930)や津軽地方の青森県弘前市砂沢遺跡出土土器を標識資料とする「砂沢式」として扱われている。大洞A'式は、東北地方中部宮城県一迫町山王冢遺跡の出土資料の分析の結果、須藤隆によって2段階に細分され(須藤 1984・1987)、大洞A'式古段階・新段階と呼ばれる。最近では須藤はそれぞれ山王Ⅳ下層式・山王Ⅳ上層式として用いている(須藤 1998)。砂沢式は、芹沢長介による型式設定当初(芹沢 1958・1960)から、西日本弥生文化の影響が指摘されており、稲作の有無が議論されてきたが、粃圧痕土器や遠賀川系土器の存在に加え、1987年の砂沢遺跡における水田跡の検出によって、追求の対象は水田による稲作の有無という問題から砂沢式期の生業または社会における稲作の位置付け、さらに北東北諸地域または同一の土器型式分布域内の異なる環境(山間部・河川部・沿岸部)の変革の様相に求められよう。砂沢式・大洞A'式新段階(山王Ⅳ上層式)に併行する土器型式として、山形県庄内地方で確認されている生石2式があげられる。酒田市の生石2遺跡出土土器群を標識資料とするもので、遠賀川系土器とその影響の下に製作された折衷土器の組成比率が非常に高く、東北地方日本海沿岸南部に位置することから、日本海ルートによる西日本からの弥生集団の移動を想定させる遺跡である(伊藤 1984・須藤 1987・1990・佐原 1987)。炭化米と粃圧痕土器が伴い、遠賀川系土器

の諸特徴から畿内第一様式中段階併行と報告されている(安部 1987)。生石2式は砂沢式との共通性が指摘されているが、精製土器の胎土の粗さ、砂沢式に特有である「非常に丁寧なミガキ」があまり認められないこと、完結型の変形工字文が多いこと、(浅)鉢は平坦口縁を主体とすること、高坏は有段の器形を主体とすること、体部上半に膨らみを持つ筒形の土器の存在、遠賀川系土器の高い構成比率などにこの地域の特色が認められる。

畑内遺跡はこれまでの調査報告により、砂沢式・大洞A'式新段階～青木畑式期にかけての居住域であることが明らかにされている(青森県教育委員会 1994・1995・1997)。今回、報告する遺物は、「捨て場」と考えられる遺物包含層出土土器であり、厳密な意味での「時間的に限定された一括資料」とは言い難いが、型式学的特徴もほぼまとまりを持ち、大洞A'式新段階・砂沢式期の土器群ととらえ、器形・装飾・推定される用途により分類を行う。

### 『変形工字文の分類』

当該期には、深鉢・鉢・浅鉢・高坏の口縁部～肩部や壺の肩部などに、変形工字文が主文様として多用される。変形工字文は、一般に大洞A式に多用される工字文に系譜が辿れるものと理解されている。大洞A式の諸種の工字文や大洞A式～大洞A'式古段階の $\pi$ 字文といった前段階の主文様を、その構成要素に取り入れ、主に三角形を基本要素として展開している。この三角形の描出法により、砂沢式期の変形工字文は、大きく3種類に分類できよう。

- ①ひとつの繋がった沈線により、三角形が構成されるもの
- ②幅広の波状文と底辺の組み合わせにより、三角形が構成されるもの。
- ③流水状の沈線により、三角形が構成されるもの。

さらに三角形の底角部の処理や描出法や重層の種類により、8種類11類型に分類できる。

[a] 完結型、[b] 沈線連結型(A型・B型)、[c]  $\pi$ 字状連結型(A型・B型)、[d] 工字状連結型(A型・B型)、[e] 連続型、[f] 上下重層型、[g] 交互重層型 [h] 流水状文型、に分類した。観察表には、それぞれの細分名で記載した。「変形工字文」と記してあるものは、分類は不明であるが、変形工字文であるもの。「変形工字文?」と記してあるものは、変形工字文の一部の交点などから、変形工字文であると推定したものである。

[a] 完結型(204・367・387 etc)

三角形の底角が反転し、横の三角形と接続しないもの。

[b] 沈線連結型 (結合手法によって、A型とB型の2種類に細分する)

(沈線連結A型)横走沈線によって、底角と隣の三角形の底角とが繋がるもの(260・261)

(沈線連結B型)三角形の底角沈線と隣の三角形の底角沈線が繋がるもの

[c]  $\pi$ 字状連結型(A型とB型に細分)

三角形の底角と隣の三角形の底角が、 $\pi$ 字状処理を施された隆線部で接するもの。三角形と隣の三角形の間の(逆三角形状を呈する)部分が掘り込まれ、三角形外側の隆線が強調され、また三角形の斜辺に平行する鈍角の『V』字状沈線が施文されることによって、三角形の斜辺が多条化したような文様効果を有する。底角部外側に粘土粒が貼付され、逆 $\pi$ 字状の構成となるものが多い。三角形斜辺と底辺がかみ合うもの(一本の沈線で繋がる完結型モチーフ)を $\pi$ 字状連結A型、斜辺と底辺が分離したものを $\pi$ 字状連結B型とする。7点確認された。

〔d〕 工字状連結型(A型とB型に細分)

π字状連結型と同様に、三角形間の装飾により構成されるタイプである。三角形底角どうしが工字文状の形態で接する。底角外側の隆線部に粘土粒が貼付されるものが多い。三角形斜辺と底辺がかみ合うものを工字状連結A型、斜辺と底辺が分離したものを工字状連結B型とする。三角形斜辺に平行する鈍角の『V』字状沈線や三角形の斜辺は直線的な形態が多く、三角形の斜辺と統合され、頂角部や底角部付近で反転し、幅広の波状文を形成することによって、連続型が成立する可能性も考えられよう。

〔e〕 連続型

三角形を構成する線である、斜辺と底辺が別々に描かれる。斜辺は横方向に幅広の波状文として描かれる。三角形底辺は別個に描かれ、上記分類の②にあたる。新しい施文手順と考えられる。今回連続型と分類できるものは皆無であったが、連続型の施文手順である三角形部頂角が文様描出時の始点・終点ではなく、通過点となるものが多数存在しており、観察表に記載している。

〔f〕 上下重層型(533)

砂沢式の(浅)鉢に多く用いられるモチーフである。当遺跡では、壺である533の1点のみであった。

〔g〕 交互重層型(194・215・216・310・523・541 etc)

上位の変形工字文の底角部交点を頂角として、下位の変形工字文が施されるタイプ。当遺跡の重層型変形工字文のほとんどがこの交互重層型である。22点確認される。そのうち上位の変形工字文に工字状連結型が施文されるものが、12点存在する。

〔h〕 流水状文型(316)

流水状文を利用して、三角形モチーフを描出するもの。

『器種分類』

器形と装飾に加え、推定される用途で大別し、細別した。「I類」非装飾的な深鉢類、「II類」平行沈線文・平行工字文が施される深鉢、「III類」変形工字文が施される煮沸にも多く用いられたと推定される深鉢・鉢、「IV類」平行沈線・平行工字文・変形工字文が施される主に非煮沸用と推定される鉢、「V類」浅鉢、「VI類」浅鉢・高坏、「VII類」高坏、「VIII類」壺、「IX類」遠賀川系土器に大別した。それぞれI類～IX類とし、各類内で装飾・器形をもとに細分した場合、アルファベットの大文字を与え、さらに口縁部形態などで細分した場合数字を与えた(II E 1・II E 2・II E 3…など)。

多くが口頸部破片からの推定による分類となる為、特にIII類〔変形工字文が施される深鉢類・鉢〕とVI類〔浅鉢・高坏〕は口頸部の形態や傾きが似ており判別が難しいものが多いが、胎土・焼成具合や炭化物の付着や他遺跡の出土土器を参考にし、極力分類した。

「I類」非装飾的な深鉢

無文・地文のみ・口縁部無文・頸部屈曲部で沈線または僅かな段を有するなどの非装飾的な深鉢。101点中39点(約38.6%)に炭化物残存。ほとんどすべてが、縄文時代晩期からの伝統的な煮沸形態と考えられるが、86は頸部で大きく外反し、甕形の可能性がある。

〔A〕 無文または全体に縄文が施され、底部から口縁部までスムーズに移行するもの[1～5・7・8]

〔B〕 口縁部または口頸部が無文で、頸部以下に縄文が施されるもの。[6・9～86]

口頸部で僅かに屈曲し、口頸部外面がミガキ調整を受けるものが多い。51～59は、口縁部厚を薄く



口唇部幅を狭く仕上げる。74・75は、肩部で内湾し口頸部で直立する器形である。79はLR縄文が施され、底部から直線的に開き口頸部でやや外反する器形で、外面には炭化物が多く付着し、内面は粗雑なナデ調整の土器であり、新しい時期の可能性もある。

〔C〕 肩部で外側にやや張り出し、口縁部で短く外反し、頸部に1～2条の沈線または沈線状の窪みを有するもの。I A・B類に比べて、丁寧なつくりであるが炭化物の付着率は高い。[94～108]16点中7点(43.8%)に炭化物の付着が認められる。

〔その他のI類〕 [87・89～91]

87は、甕の口縁部の可能性あり。

## 〔II類〕 平行沈線・平行工字文・ $\pi$ 字文・流水工字文が施される深鉢

II C類を除くII類全体では、21点中8点(38.1%)に炭化物付着、赤色顔料残存は0点。

〔A〕 口頸部に平行沈線文が施されるもの

(A1) 肩部付近でやや内湾しながら、口縁部へとスムーズに移行するもの [109～113]

(A2) 頸部で直立またはやや外反するもの [115～124・126～131]

(A3) 口縁部で短く外反するもの [125・132～134]

125は頂部二又の突起が7単位付される。沈線施文時の粘土のはみ出しが明瞭に残り、内面も雑なミガキではあるが、焼成は堅緻である。内外面に炭化物の付着が認められ、小型の土器ではあるが煮沸に用いられたと考えられる。頂部二又の突起7単位の同様の形態は、頸部の屈曲が125の土器より弱い、秋田県大館市諏訪台C遺跡住居跡床面から出土している(秋田県教育委員会 1990 40図187)。

〔B〕 口頸部に平行工字文・ $\pi$ 字文・流水工字文が施される深鉢 [135～136・138～142]

7点中1点のみ炭化物付着。

〔C〕 口縁～肩部にかけて横走沈線+無文帯+平行工字文・流水工字文が施されるもの

当該期に特徴的な丁寧なつくりの煮沸形態。個体数カウント対象の31点中9点(約29%)に赤色顔料の残存が、11点(約35.9%)に炭化物の残存が確認される。どちらも残存するものが4点(約12.9%)である。平行沈線のみが施される他のII類では、赤色顔料残存が0点であるが、赤色顔料の残存が多いII C類は、同じ煮沸に用いられる土器ではあるが、異なる使用目的も考えられよう。口頸部に無文帯と平行沈線が施されるII C類は、飛び地的に生石2遺跡にも存在するが、①秋田市以北、青森県津軽・下北地方といった砂沢式土器の分布域、②馬淵川・新井田川流域の岩手県北部～青森県八戸地方に主体的に分布する。①地域のII C類は、口縁部に縄文が施されるものがほとんどであるが、②地域のII C類は、口縁部が無文のものも多く認められる。当遺跡では28点中23点(82.1%)のものが、口縁部無文と多数を占める。

(C1) 口縁部で屈曲しないかまたは外反気味となるもの [143～164]

(C2) 口縁部が外反・外傾するもの [165～167・170～173]

〔II C類・体部破片〕 [174～177]176は壺の肩部の可能性もある。

## 〔III類〕 変形工字文・波状工字文が施される深鉢・鉢

113点中31点(27.4%)に赤色顔料が残存し、114点中54点(47.4%)に炭化物付着が認められる。炭化物の付着率が高い値を示し、赤色顔料の残存率も高い。変形工字文・波状工字文が施された深鉢・鉢を赤彩し、煮沸に用いたものも多いと考えられる。

- [A] 平坦口縁のもの [179~195・197~203]
- [B] 頂部二又の山形突起を有するもの [168~169・204~235]
- [C] 特殊突起を有するもの [236~256]
- [D] 向かい合う二又の突起を有するもの [257~264]
- [E] 波状工字文が施されるもの。台付の可能性はある。 [319~322]
- 〔Ⅲ類波状口縁〕 [196・265~279]
- 〔Ⅲ類体部破片〕 [280~307]

**〔Ⅳ類〕胎土精良・焼成堅緻で、丁寧なつくりの鉢。主に非煮沸用と考えられるもの**

27点中6点(22.2%)に赤色顔料が残存し、炭化物の付着は0点である。

- [A] 口頸部に平行沈線文・平行工字文・流水工字文が施されるもの [324~330]
- [B] 口縁~肩部にかけて横走沈線+無文帯+平行工字文が施されるもの [331~334]
- 331~334は、ⅡC類と同様、平行沈線+無文帯+平行工字文が施される。
- [C] その他の鉢類 [308~318・337~340]

314は、工字状連結A型が施される小型精製鉢。316は外面10YR6/2(灰黄褐)、内面10YR4/1(褐灰)である。断面実測では表現できていないが、下端部が僅かに内面側に屈曲している。器種分類の際に迷ったが、鉢とした。2個一対の突起の頂部をキザミで2分割し、突起上面に刺突を施す。沈線幅5mm、断面半円状、文様内外の刺突充填が認められ、当遺跡で最も砂沢式的(津軽的)な土器である。この縦型の流水文を基本線とする変形工字文内外に、刺突を充填するモチーフは、砂沢遺跡の注口土器(矢島 1988 『砂沢遺跡一図版編一』57図32)や宇田野(2)遺跡の台部(野村 1997 66図37)があげられる。337~339は、肩部の横走沈線間に縄文帯を有する鉢である。

**〔Ⅴ類〕浅鉢 最大径よりも器高が小さいもので、明らかに台部を有さないと考えられるもの。**

台形状の器形または向かい合う二個一対の突起を有するものはほぼ浅鉢と考えられるため、〔浅鉢〕と分類した。台形状と頸部で屈曲する器形が認められ、平坦口縁のものと同向かい合う二個一対の突起を有するものがある。上半部または全面に変形工字文が施され、丁寧なミガキ調整が加えられる装飾的な浅鉢で、砂沢式期に特徴的な形態である。

356~361のような向かい合う二個一対の突起が比較的低いものは、台部が付される可能性はあるが、突起の形態より、VB2類に分類しておく。32点中2点のみ、赤色顔料が残存。

- [A] 台形状の器形を呈し、上半部または全面に変形工字文や平行工字文が施されるもの
  - (A1) 平坦口縁のもの [341~344]
  - (A2) 向かい合う二個一対の突起を有するもの [345~348]
- [B] 頸部で屈曲し、口縁部が外傾または外反し、上半部または全面に変形工字文が施されるもの。
  - (B1) 上面に刺突が施される二又の突起を有するもの [363~364]
  - (B2) 向かい合う二個一対の突起を有するもの。 [349~362・434・442] 362は442と接合する。
- [C] 頸部で屈曲し、口縁部で直立し肩部以下に変形工字文が施されるもの。口頸部または頸部付近が無文になる。A Bに比べて最大径に対する器高の割合が大きく鉢形である。 [366~367]
- 〔その他のV類〕 [365・368~376]

**〔Ⅵ類〕浅鉢・高坏**

口頸部破片からは浅鉢か高坏か不明であるもの。平坦口縁と波状口縁と突起が加えられるものがある。75点中2点のみ赤色顔料が残存。

〔A〕 坏部上半に平行工字文・ $\pi$ 字文・流水工字文が施されるもの。体部上半で内湾し口頸部に移行するものが多い。[377～382]

〔B〕 坏部上半に変形工字文が施され、頸部で屈曲し口縁部で僅かに外反・直立するもの。

(B1) 平坦口縁のもの [383～428]

(B2) 波状口縁または突起を有するもの [430～433・435～441]

〔VI類体部〕 [429・443～460]

〔VII類〕 高坏 高坏特有の突起が施されるもの

466は、上面が横幅5cm×縦幅3.3cmの楕円形の大型円板状突起が施される高坏である。

〔A〕 変形工字文の三角形部頂点上の口縁部に、キザミによる頂部二又の山形突起が付され、坏部上半で屈曲し、口縁部で外傾または外反するもの [461～465]

〔B〕 変形工字文の三角形部頂点上の口縁部に、大型の円板状突起が付され、坏部上半で屈曲し、口縁部で外傾または外反するもの。[466～468]

『台部』浅鉢や鉢の台部である。台下端部に一条の沈線が施されるもの・台下半部に横位の流水状工字文が施されるもの・平行沈線間に2～3条の波状文が施されるもの・縄文のみ施されるものが認められる。波状文は東北地方中部の太平洋側～山形県村山地方、岩手県の北上川流域・南三陸地方の青木畑式～山王Ⅲ層式期の高坏台部に多用される文様モチーフである。当遺跡では、岩手・宮城・山形に多く分布する台部に波状文を有する高坏や円板状突起を有する高坏が、青森県西半部の津軽地方を中心に分布する砂沢式的な土器と共に出土している。

〔A〕 平行沈線文が施されるもの [469・471～477]

〔B〕 流水状工字文が施されるもの [479～483]

〔C〕 波状文が施されるもの。[484～486]

〔D〕 台部全体に縄文が施されるもの [487]

〔E〕 土器の脚部 [図155-3]

細長い三角形状を呈する。類例は、名川町剣吉荒町遺跡の出土例(鈴木 1988 図58の9)があげられ、「先端に向けて多少屈折してカーブし、両側面に2条の沈線文が施された、三角形の突起状の土製品」と報告されている。剣吉荒町例は、突起状の部分のみの出土であるが、当遺跡の例は突起状部の末端部が4.5cm×3.5cm程度の平面部(土器の底面側の剝離部分?)に接合する。剣吉荒町例同様の文様が施文され、両側面部には稜線に沿って緩やかにカーブする2条の平行な沈線が施される。平面部には突出部末端の付け根に沿って緩やかにカーブする3条の平行な沈線が施されている。外面は全体に丁寧なミガキが施され、光沢を帯びる。

細い先端部に7mm×6mm程度の平坦面が確認でき、これを土器の脚部先端の着地面と考えると、中心に向かって内傾する形態となろう。施文された文様は、九年橋遺跡で多く見られる大洞A式期の脚付浅鉢の底部・脚部に施される、脚の付け根を巡る隅丸形状の数条の平行沈線と脚部の側面にのびる2条の平行沈線に類似点を見出せる。また大洞A'式期の脚付土器は少数であるが、剣吉荒町遺跡(工藤竹久 1984)、岩手県岩泉町光沢遺跡(羽柴 1994)、一関市谷起島遺跡(工藤武 1981)、秋田市地蔵田B遺跡(秋田市教育委員会 1986)、河辺町石坂台Ⅷ遺跡(秋田県教育委員会 1986) 出土例があげ

られる。

剣吉荒町遺跡の例は、前述の類例とは異なるもので、無文の鉢形土器に無文の四脚が付される。光沢遺跡例は流水工字文と縄文が施された深鉢に4単位(?)の脚状部が残る。実測図からの観察では、それぞれが独立した脚であるのか、台部に手を加え、脚状の形態を呈するのかは不明である。脚状部には、2条の鋸歯状文が施されている。谷起島遺跡例は口頸部に $\pi$ 字文と逆 $\pi$ 字文が交互にそれぞれ4単位計8個施される浅鉢の底面に、四脚分の剥落痕が認められ、それを外周と対角で結ぶ2種の沈線文が施され、大洞A式期の脚付浅鉢と同様の装飾である。また $\pi$ 字文上の口縁部には上面に「S」字状の沈線文と刺突が施される特殊突起が付され、同様の突起は畑内遺跡でも出土している(243)。地藏田B遺跡例は、口頸部に流水工字文が施される浅鉢に、外反気味の四脚が内傾して付される。脚剥落痕を外周と対角で結ぶ2種の沈線文が底面に施される。石坂台Ⅷ遺跡例は、円板状の口縁部突起を有する浅鉢の底部に、3~4本の脚が付く。脚部外側はほぼ垂直に立ち上がるが、脚内側は斜めにやや内傾する。浅鉢部の底部には、脚部の付け根の外側を2~3条以上の沈線文が隅丸方形状に巡るようである。脚部は下端直上で一条の沈線が巡り、下端は丸みを帯びている。

いずれの出土例も大洞A'式の範疇と考えられ、大洞A式期に認められる4脚の外周と対角を結ぶ底部文様を有する浅鉢は、秋田市周辺や岩手県南部では大洞A'式古段階までは少数ではあるが存続するものと考えられる。光沢遺跡と石坂台Ⅷ遺跡例は大洞A'式新段階の可能性もあろう。

畑内遺跡出土例の形態に類似したものは最初に述べた剣吉荒町遺跡出土の「三角形の突起状の土製品」のみである為、土器脚とは断定できないが、可能性を指摘したい。調整・沈線の様相・胎土・焼成・色調などは、今回の捨て場出土の土器群と共通するものであり、同時期と考えたい。

〔Ⅷ類〕 壺 壺類で赤色顔料の残存が認められたものは0点である。Ⅷ類総数62点中、ⅧA類が48点(77.4%)とほとんどを占める。

〔A〕 縄文時代晩期後葉から続く形態で、口頸部が直立または緩やかに外反して立ち上がり、肩部付近に最大径を有するもの。口縁部に、匹字文・逆匹字文・平行工字文・平行沈線文が施される。

ⅧA類48点中23点(47.9%)に、金雲母が含まれる。また金雲母を含むⅧA類は橙色系の色調を帯びる傾向にある。

(A1) 平坦口縁のもの [488~497・514]

(A2) 波状口縁となるもの [501~512・526~527・530・550~554]

(A類体部) [513・515~525・528~529・531~549・555]

〔B〕 口頸部が、外反または外傾しながら開き、胴部中位付近に最大径を有するもの。 [561~562]

〔C〕 その他の壺 [498・499~500・556~560・563~567]

〔Ⅸ類〕 遠賀川系土器 甕と壺が認められる。蓋は確認されなかった。西日本前期弥生土器に由来する土器製作技術が、認められるものをすべて遠賀川系土器と呼称する。

〔ⅨA〕 甕。口縁部資料は5点出土している。今回掲載していないが、刷毛目が施される遠賀川系土器の甕の体部破片と考えられるものが、少なくとも5個体分は出土しており、数量の最小値は10点である。縄文が施される遠賀川系土器の甕の体部破片は、資料の抽出段階で見落としている可能性がある。569は88(底部)と同一個体である。口唇部に左下がりのキザミ、口頸部外面はヨコナデ、肩部以下はLR斜行縄文が施される。572は口縁部上端部に左下がりのキザミ、口頸部外面はヨコナデ、頸部以下は平行沈線間に横6mm×縦3~4mmの列点文が、12mm程度の間隔で施される。570は口唇部に左

下がりのキザミ、口縁部外面は横方向のナデ、頸部に平行沈線3条を施し、肩部以下はLR斜行縄文が施される。他の遠賀川系土器よりは比較的焼成は堅緻である。571は口唇部に左下がりのキザミ、口縁部外面はヨコナデ、頸部には2条以上の平行沈線が施される。572は口唇部に左下がりのキザミ、口縁部外面ヨコナデ、頸部は平行沈線間に横6mm×縦3～4mmの横長の列点文が施され、それ以下の部位にはやや右下がりの刷毛目調整が施される。なお列点文は、不明瞭ではあるが、木目列点文の可能性もある。573は口唇部に左下がりのキザミ、頸部横方向のナデ、頸部に1条の沈線が施され、肩部以下はやや右下がりまたは右下がりの刷毛目状の条線が、調整痕として残る。

#### 〔IX B〕壺 [568, 575～579]

ほぼ全体が把握できるものが2個体、底部のみが3個体分出土している。568は頸部に平行沈線と連続刺突文が施される。574・575は頸部に平行沈線と列点文と縦区画沈線、肩部に平行沈線文が施される。また遠賀川系土器の壺の体部破片も1点出土している。これを含めると6点の遠賀川系土器の壺が、確認されている。

#### 『遺構外出土弥生土器 まとめ』

以上、畑内遺跡の砂沢式期の土器群を概観してきた。新井田川流域に位置する畑内遺跡の出土土器は、剣吉荒町・是川中居・堀田遺跡を代表とする八戸地方の土器と共通性を持つものと考えられる。今回の、掲載遺物の個体総数は504点を数える。非掲載分の遠賀川系土器6点を加え、510点を個体総数に用いる。体部破片を含めた非掲載遺物を合わせると、遠賀川系土器は甕10点、壺6点の計16点確認され、全体の3.1%を占める。大別分類ごとの組成比率は、非装飾的な煮沸用の深鉢類がⅠ類102点(20.0%)、装飾的な煮沸用の深鉢・鉢類が172点(33.7%) {ⅡA類18点(3.5%)・ⅡB類7点(1.4%)・ⅡC類32点(6.3%)・Ⅲ類115点(22.5%)}、非煮沸用の鉢・浅鉢類が60点(11.8%) {Ⅳ類27点(5.3%)・Ⅴ類33点(6.5%)}、非煮沸用の浅鉢・高坏類が99点(19.4%) {Ⅵ類77点(15.1%)・Ⅶ類7点(1.4%)・台脚部15点(2.9%)}、壺類がⅧ類61点(12.0%)、遠賀川系土器が16点(3.1%)である。煮沸用と推定される土器が計274点(53.7%)、非煮沸の盛り付け用と推定される土器が計159点(31.2%)、壺類が61点(12.0%)、遠賀川系土器が16点(3.1%)となる。

当遺跡の変形工字文の特徴として、変形工字文の三角形部分の頂角・頂角間中点・底角・底角内中点・底角間中点の作出時に2点の刺突を施すことがあげられる。それらの交点部彫り込みの調整や粘土粒のよせまたは明瞭なものは装飾の意図もあったものとおもわれる。今回このような技法を『交点部の刺突処理』と呼び、この技法が認められる変形工字文は観察表の備考欄において、すべて記載している。

変形工字文の分類については、三角形底角部の形状を主に分類の指標としたが、小破片であるため分類が困難なものも多く、特にπ字状連結型・工字状連結型は、実際には交互重層型の上位の変形工字文に過ぎないものも含まれていると考えられる。変形工字文はⅢ類・Ⅴ類・Ⅵ類・Ⅶ類・Ⅷ類に多く施される。Ⅲ類は変形工字文が施されるものが、95点あり、そのうち分類まで確認できるものが、35点である。完結型が19点と最も多く、交互重層型が8点とこれに続く。Ⅴ類では25点に変形工字文が施文され、分類確認が4点であり、完結型と交互重層型がそれぞれ2点ずつである。Ⅵ類は変形工字文施文69点中、分類確認は20点、完結型が18点と圧倒的に多い。Ⅶ類は変形工字文施文6点中、分類確認は完結型の2点のみである。ⅧA類は、変形工字文が施される肩部を有するものが24点あり、分類確認が15点、交互重層型が11点と最も多く、完結型が2点でこれに続く。当遺跡の壺肩部に施され

る変形工字文は、交互重層型が圧倒的に優位を占めることが分かる。

遠賀川系土器では、八戸地方に特徴的な、体部に刷毛目調整を施す遠賀川系甕の存在が畑内遺跡でも確認される。体部にLR縄文が施されるものも存在するが、生石2遺跡や秋田市周辺や津軽地方で多く認められる、口縁部上端に縄文が施され頸部にヨコナデ、体部に縄文が施されるタイプは、確認されなかった。木目列点文は、明瞭なものは確認されなかった。甕口唇部または口縁部上端のキザミは、すべて上方から見たときに左下がりとなる。またすべての甕の口縁部外面に西日本弥生前期土器に由来する明瞭なヨコナデやヨコナデほど明瞭ではない横方向のナデが確認できる。壺を含めたすべての遠賀川系土器に、多量の砂粒の混和が認められ、器表面に浮き出た砂粒を中心として放射状のひび割れが見られる。568の壺に認められる刺突は、遠賀川系土器に一般的な横長の列点文風ではなく、先端の尖った断面円形の工具でやや下または水平方向から施される。対して574・575に施される刺突は、横長の列点文である。横長の列点の底に横方向の細い溝状の痕跡が認められる。破片の観察より、2条一単位の縦区画沈線は、おそらく2～4単位に収まるものと考えられる。縦区画沈線は、生石2遺跡や地蔵田B遺跡・湯ノ沢A遺跡、秋田県内陸北部の大館市諏訪台C遺跡(秋田県教育委員会1990 61図636)、津軽地方の宇田野(2)遺跡で確認されている。八戸地方では畑内遺跡例が唯一の例と考えられる。畑内遺跡の昨年報告分の逆転有軸羽状文が施された遠賀川系土器の壺(三林 1997)の存在とあわせ、砂沢式期・大洞A'式新段階の当地域の土器型式の成立・交流に関して興味深い資料と言えよう。また今回の土器群には、津軽下北系の砂沢式的な土器(316・341・346・349・350・363・364・365・512・545)、北上川流域を中心に山形・秋田県地方まで認められる大洞A'式新段階や青木畑式的な土器(466～468・479～486)、遠賀川系土器が含まれる。それらを引き算することによって、馬淵川・新井田川流域の当地域オリジナルの土器が浮かび上がるかは今後検討したいと思うが、この多様な系統の土器が入り込み同時に製作(?)・使用されていたことが、変革期とされる当該期の八戸地方の社会の様相を復元するひとつの手掛かりになるものとする。当地方と砂沢式的色彩が濃い秋田県内陸北部域との、津軽地方を介しない交流も考えられよう。遠賀川系土器の存在から東北地方日本海側との交流を考えると共に、在地系土器とひとくりにされていた土器の各地域でのあり方、他の多種多様な遺物・遺跡の環境などの分析によってさらなる追求は可能であるとする。当地域での、土器型式内でのさらなる細分は可能であろうし、東北地方中・北部太平洋側や山形県内陸部に分布する青木畑式土器は、資料数も増加し、青木畑式的な土器の分布は広く秋田県でもその地方の土器に混ざって認められている。さらに青木畑式には生石2式に認められる体部上半に膨らみを有する筒形の土器や有段の高坏の影響も認められる。山王IV上層式・青木畑式・砂沢式・生石2式の土器型式の併行関係の再確認を行い、東北地方内での土器型式間での交流・相互関係を整理することによって、馬淵川・新井田川流域の土器型式内容・社会の様相に迫り、西日本弥生社会との関係も見えてくるのではないだろうか。

(永嶋 豊)

## 2 土偶 (図155)

1は弥生時代遺物出土集中区BA-26グリッド、第IV層から弥生時代前期初頭の土器群と共に出土した土偶の頭部である。Y字形をした部分が頭髪部、その下部が頭部、頸部と考えられる。頭髪部・頭部左右の一部、顔面部の全部を欠いている。頭髪部から頸部と考えられる部分までは残存部で10.5cm

を測る。

頭髪部分は中央がやや凹み、右側が欠落している。頂部上面に1条の沈線が施されている。背面側にはX字状の沈線とその上部に沿うような弧状の沈線が見られ、沈線内には赤色顔料が残存している。X字状の沈線の中心部分と、頭髪部と頭部の境には直径6mm程の長楕円形の刺突が施されている。また、正面側の残存部にも弧状の沈線、X字状の沈線の端部と思われる沈線が見られることと、欠損部にも同様な位置に直径3mm程の円形の刺突が2つあることから、頭髪部背面と同様の文様を施文していたと考えられる。頭髪部両側面には刺突が加えられ、斜め上方の方向に入り貫通はしていない。右側面には直径3mm程の刺突が5個施文され、深さは5mm～3cmを測る。また、左側面には直径2.5～4mm程の刺突が7個施文され、深さは3mm～3.3cmを測る。

頭髪部と頭部の間には隆帯状の高まり（以下、隆帯）が後頭部から両側頭部にかけて巡り、沈線と刺突が施されている。後頭部隆帯上には沈線を挟むように長軸径1.5mm程の刺突が1列ずつ施文される。右側頭部隆帯上は沈線を挟み、上方2列と下方1列の刺突列があり、左側頭部隆帯上の刺突列は上方、下方共に2列となる。後頭部隆帯から両側頭部隆帯にかけて施される刺突内には赤色顔料が残存している。両側頭部隆帯の下部は欠落しているが、おそらく、みずらの様な頭髪を表現しているものと思われる。また、右側頭部の欠落面にはアスファルト状の黒色物質が付着している。後頭部を巡る沈線に囲まれた部分には先の尖った施文具による長軸径2～3mm程の刺突が3～4個/cm程度の割合で充填されており、刺突内には赤色顔料が残存している。

頭部内面及び欠落部分の観察から、頭部は粘土紐を輪積みした後、各所に粘土を貼り付けて成形されていることがわかる。まず、頭髪部であるが、この部分は粘土紐を円筒形に輪積みした後、上端を絞ってドーム状の頭部の原型を作り、そこに粘土を盛りつけて、Y字状の頭髪部を形成していると思われる。次に頸部であるが、頸部内面を下方から観察すると、時計回りの渦巻き状のしわが見られる。これは円筒形の粘土の下端を親指と人差し指とで握り、時計回りの方向に絞ったことにより頸部が形成されたことを表している。最後に頭髪部隆帯であるが、ここはY字状頭髪部同様にドーム状の頭部原型に粘土を盛りつけることにより整形していると考えられる。外面は各文様の施文後、全体にミガキ調整が行われている。色調は浅黄橙色である。

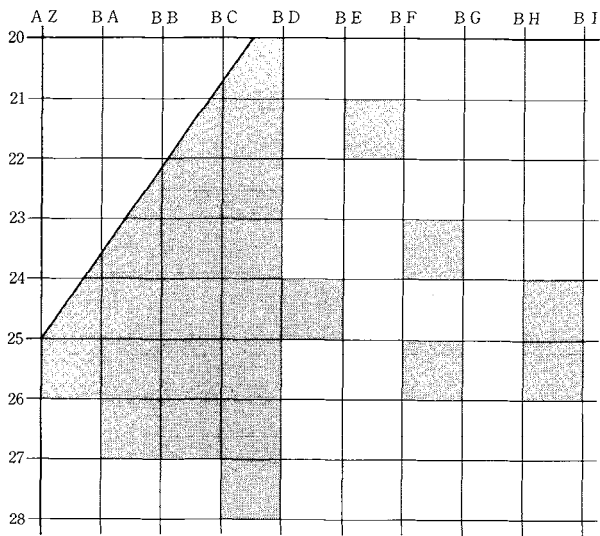
以上が詳細であるが、この土偶は、刺突と沈線によって飾られていること、Y字状の結髪部を持つということ、中空であること、大型であること、などに特徴を見いだすことができる。類例としては青森県程森遺跡の例が最も近似していると思われる。

2は弥生時代遺物集中区より離れたBF-26グリッド、第IV層より出土した土偶の左足部分であると思われる。足裏が水平であるため自立できる形をなす。破損面から足裏までの高さは6cm、足の大きさも長軸でおおよそ6cmを測る。脚部は正面から見て外側はまっすぐ立ち上がり、内側は緩やかに内湾し股部分につながるものと思われる。外側の破損面の付近には沈線が横方向に引かれている。

内面の観察からは、粘土紐輪積みをした後、内股側に粘土をもり付け、緩やかに内湾する脚を作っているのが窺える。外面はミガキ調整が行われている。足裏の半分に焼成時の黒斑がみられる。焼成はよく、胎土も緻密で雲母が見られる。色調はにぶい黄褐色である。

3は土器の節に記載している。

(齋藤 正)



弥生時代遺物出土グリッド図

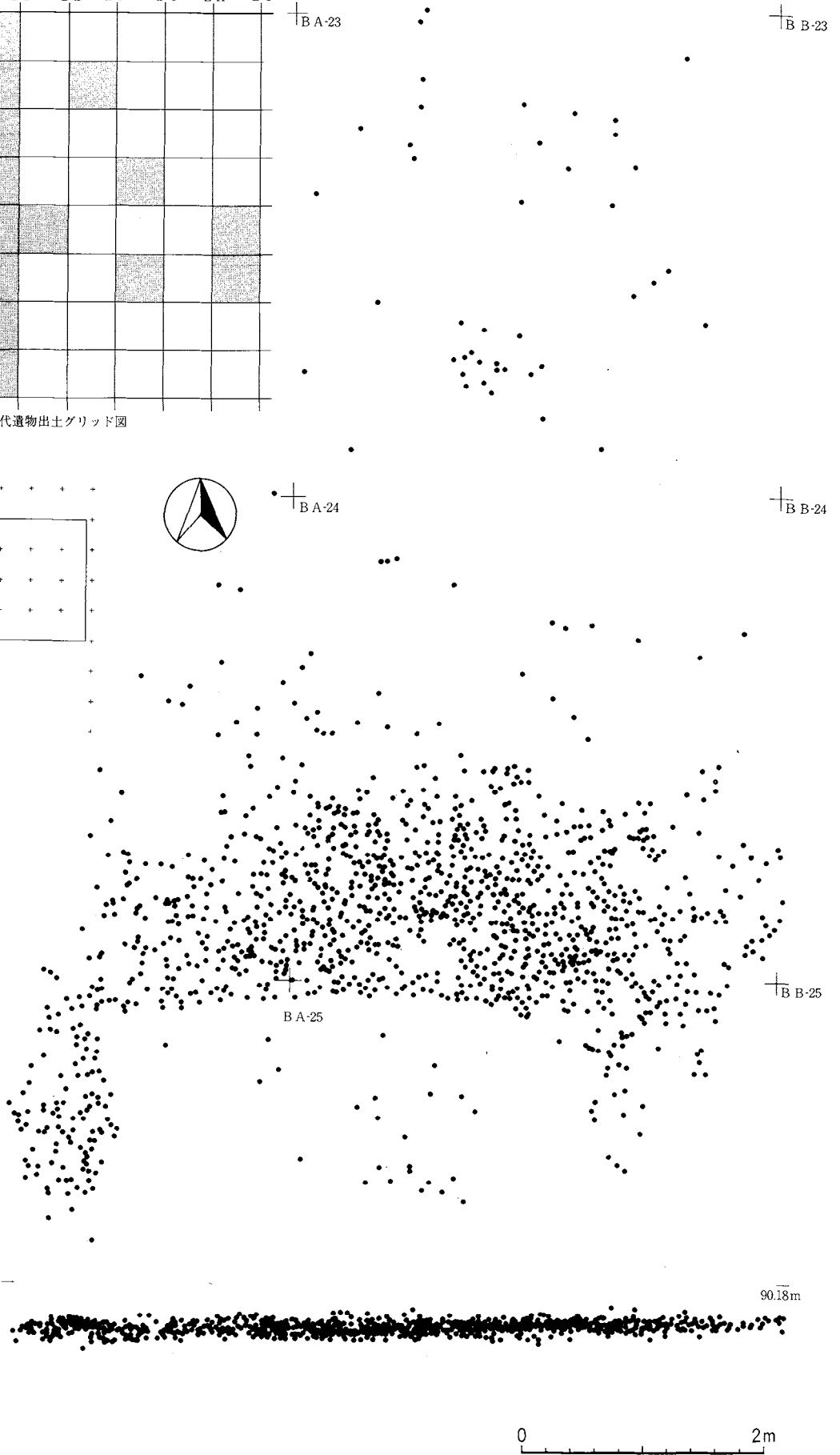
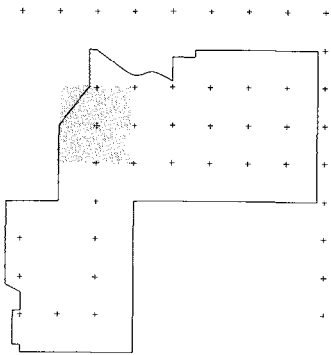


図138 弥生時代遺物集中ブロック出土状況



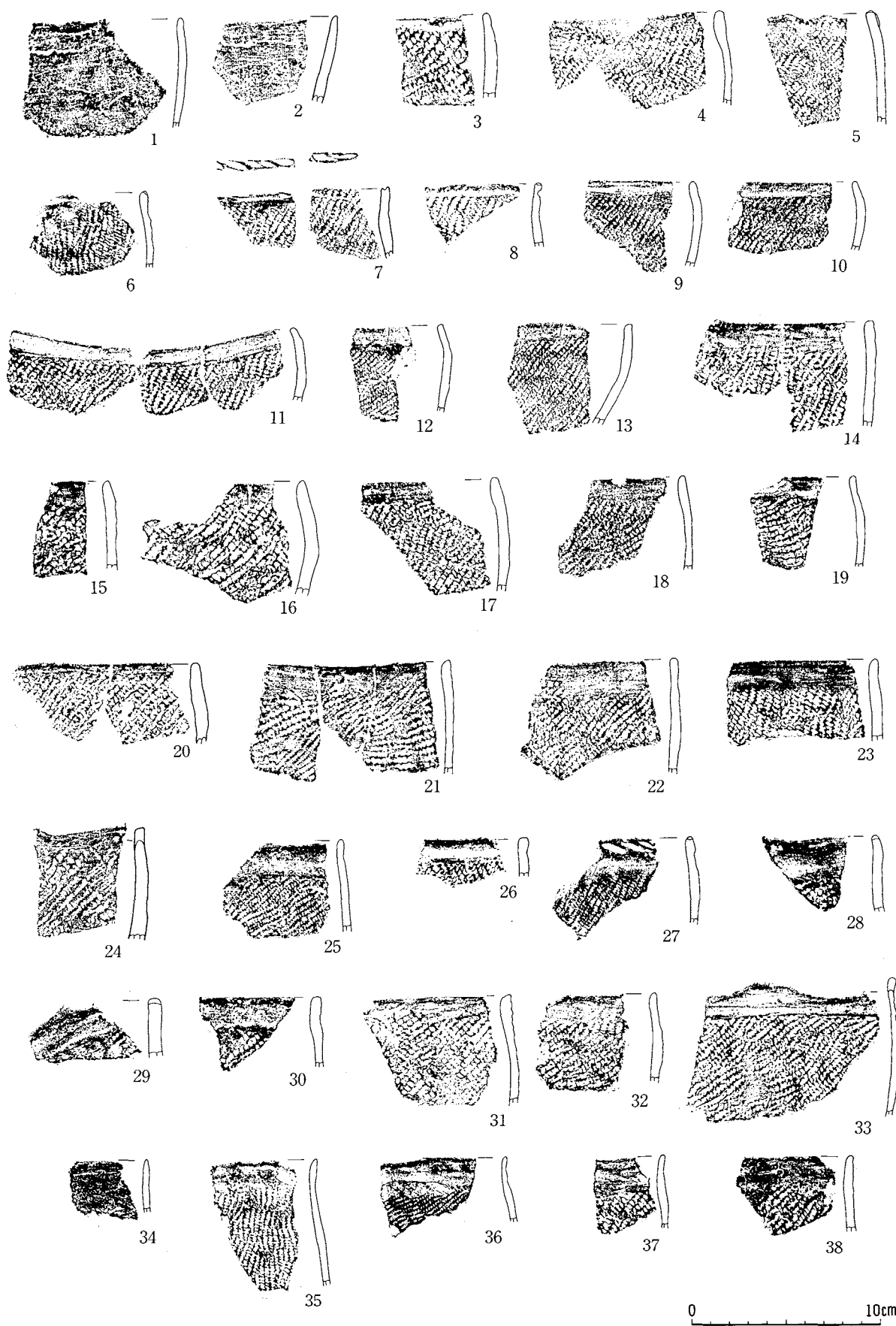


图139 遺構外出土 弥生土器 1

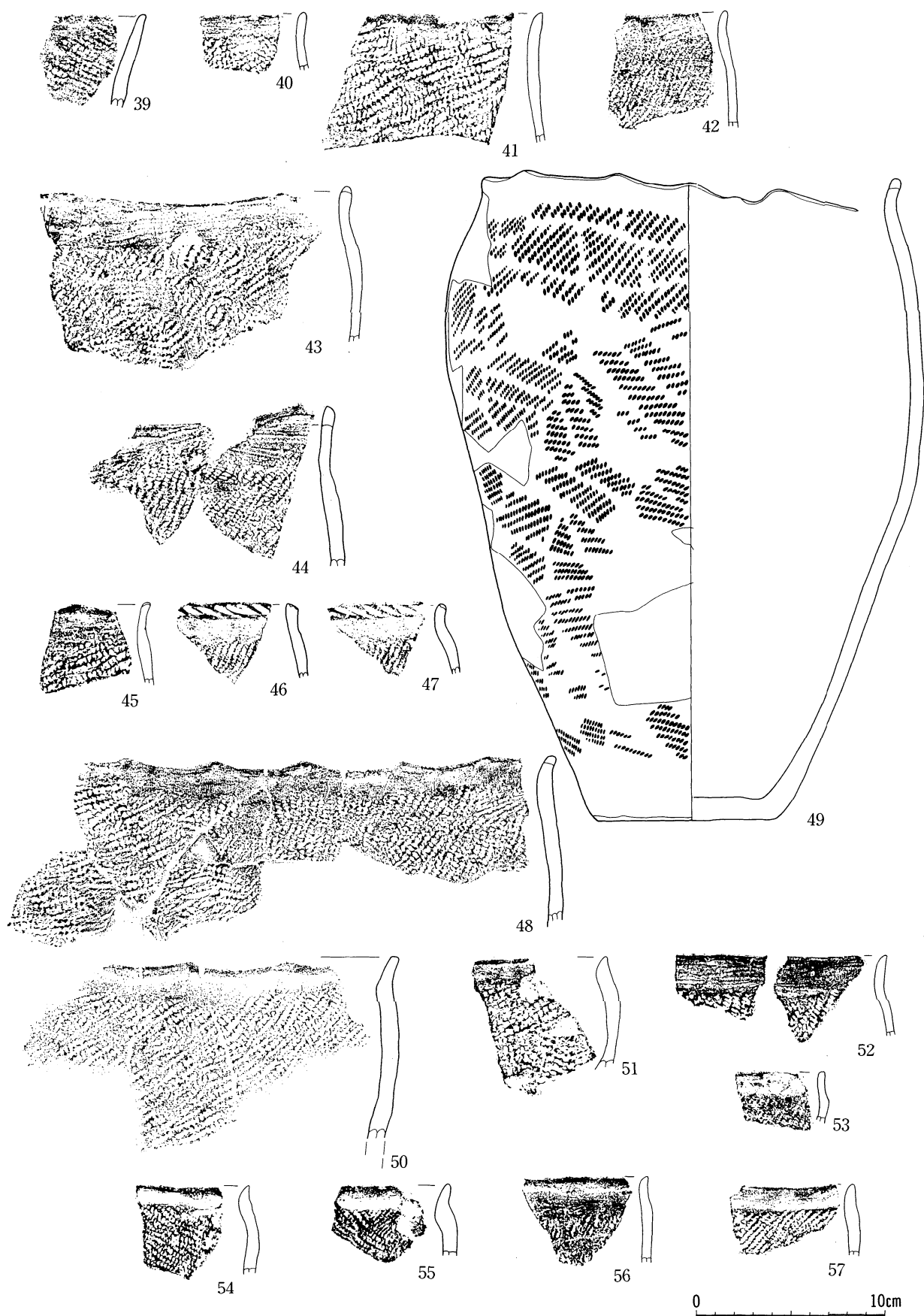


图140 遺構外出土 弥生土器 2



图141 遺構外出土 弥生土器 3

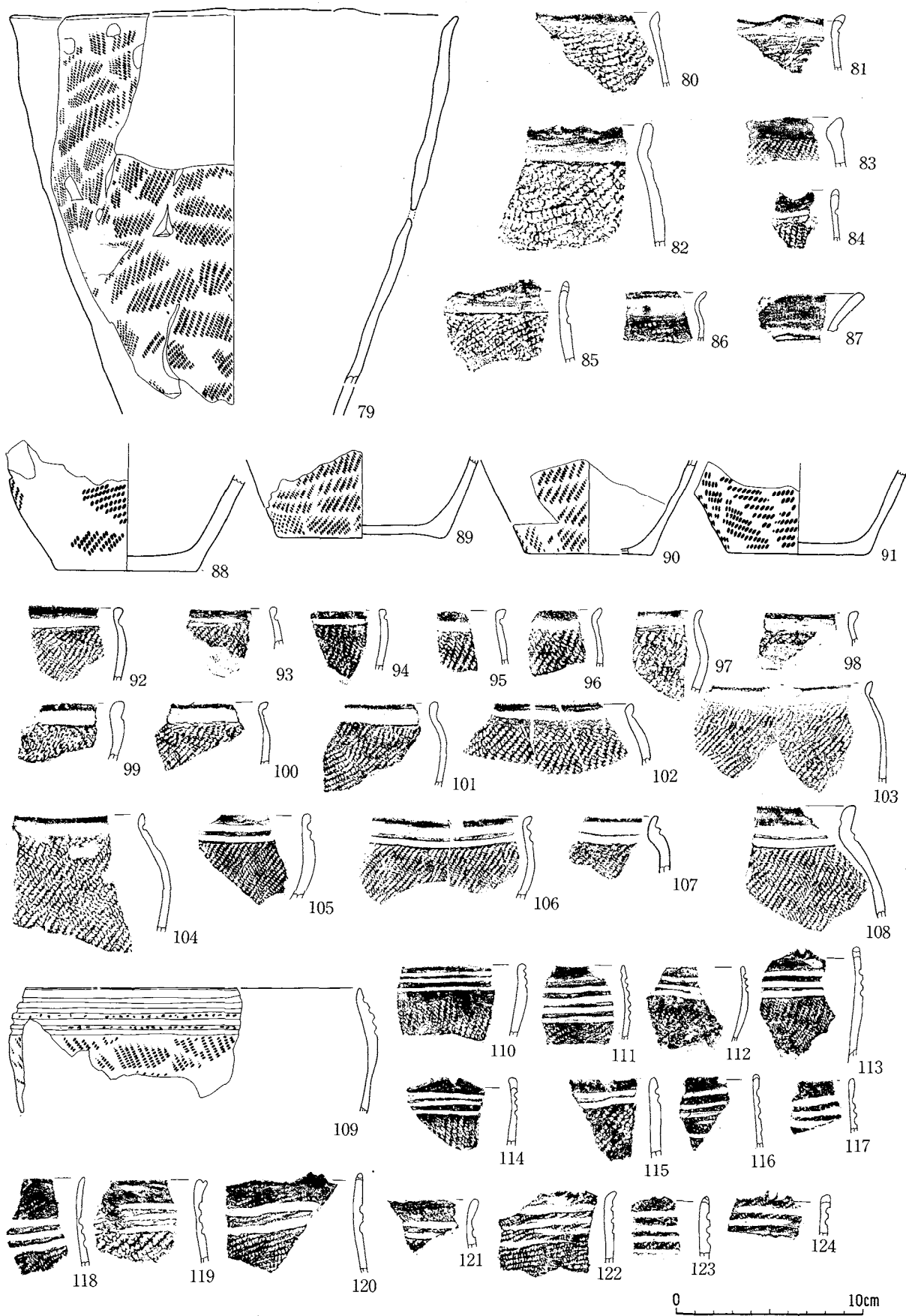


图142 遺構外出土 弥生土器 4

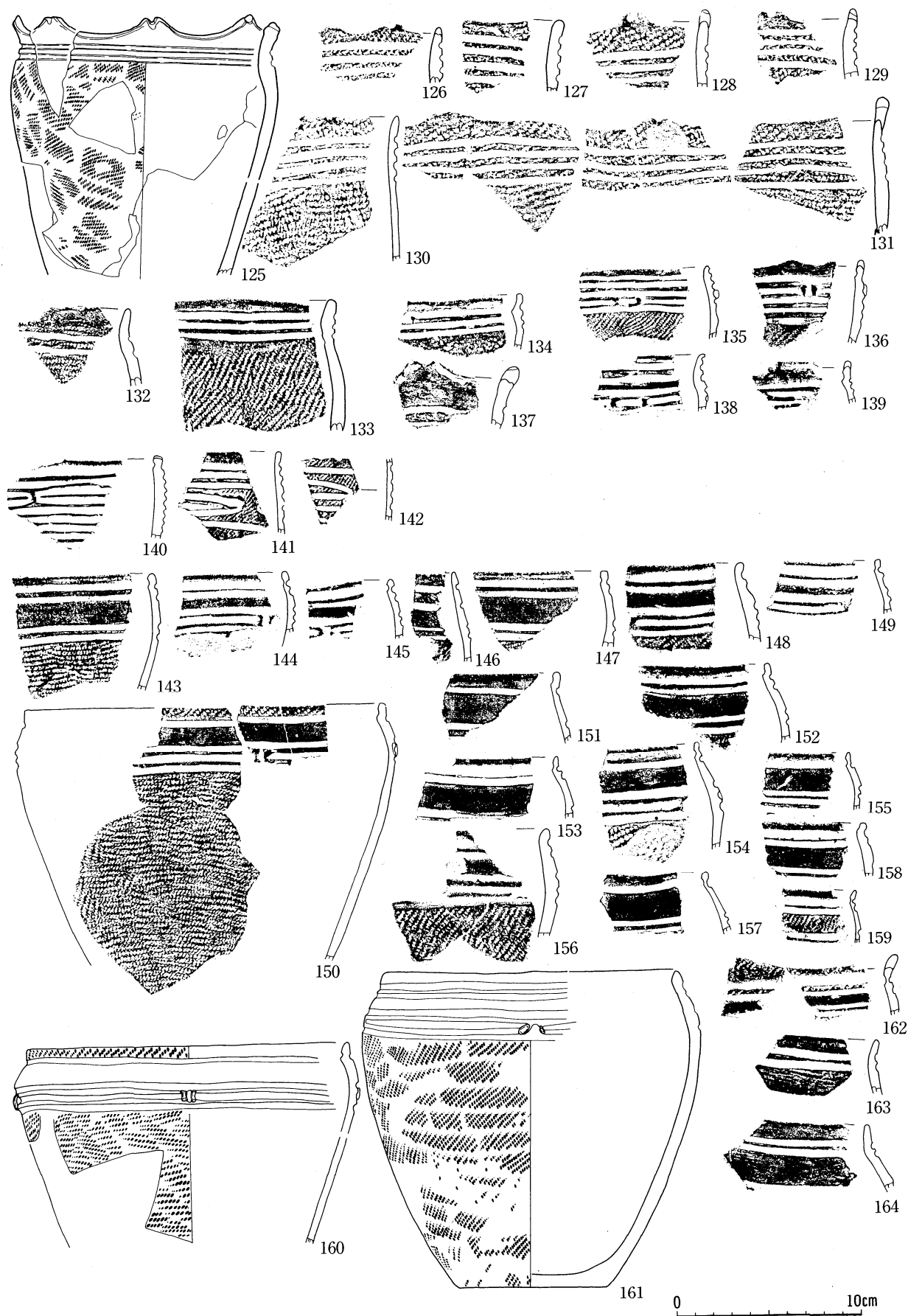


图143 遺構外出土 弥生土器 5

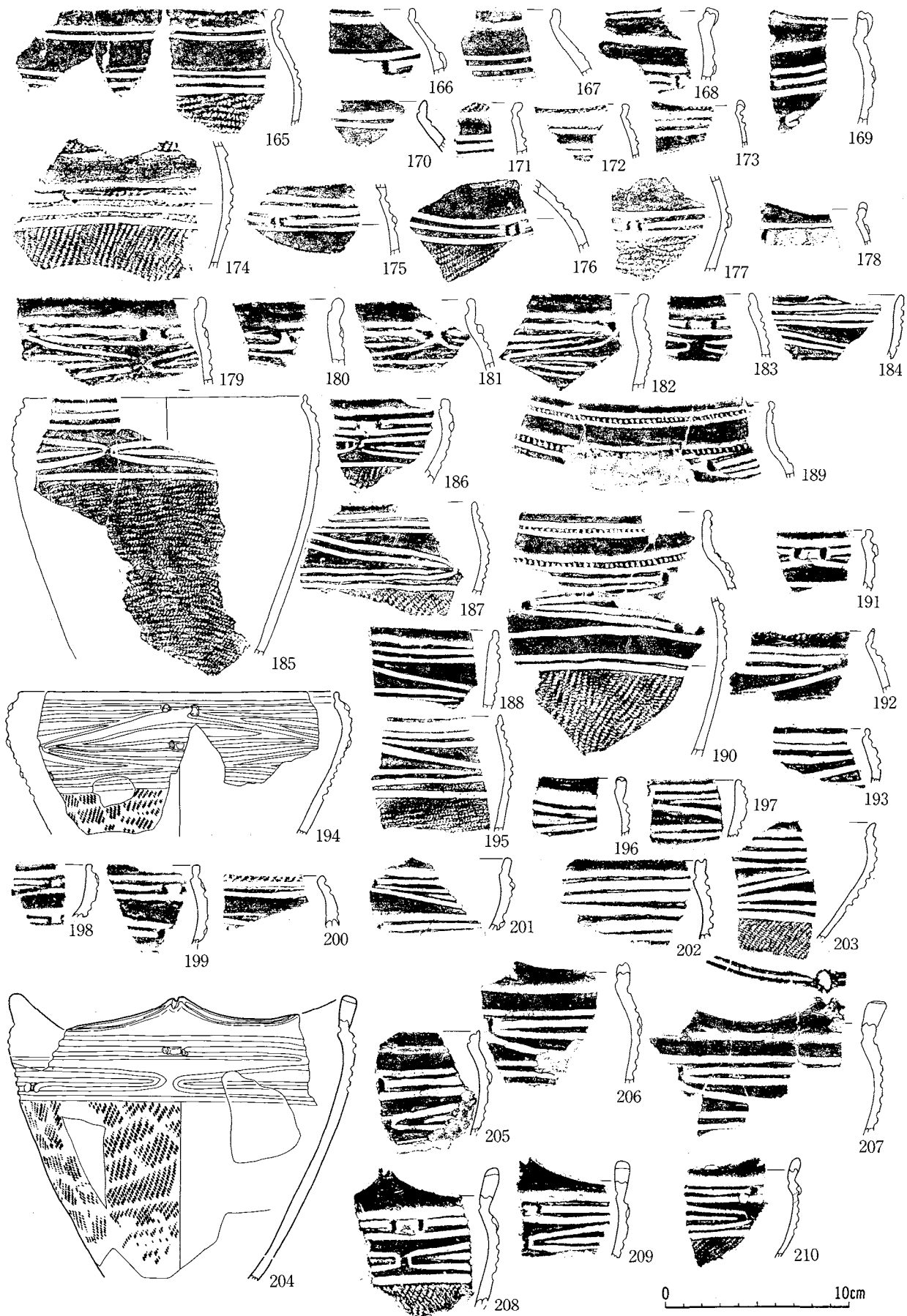


图144 遺構外出土 弥生土器6



图145 遺構外出土 弥生土器 7

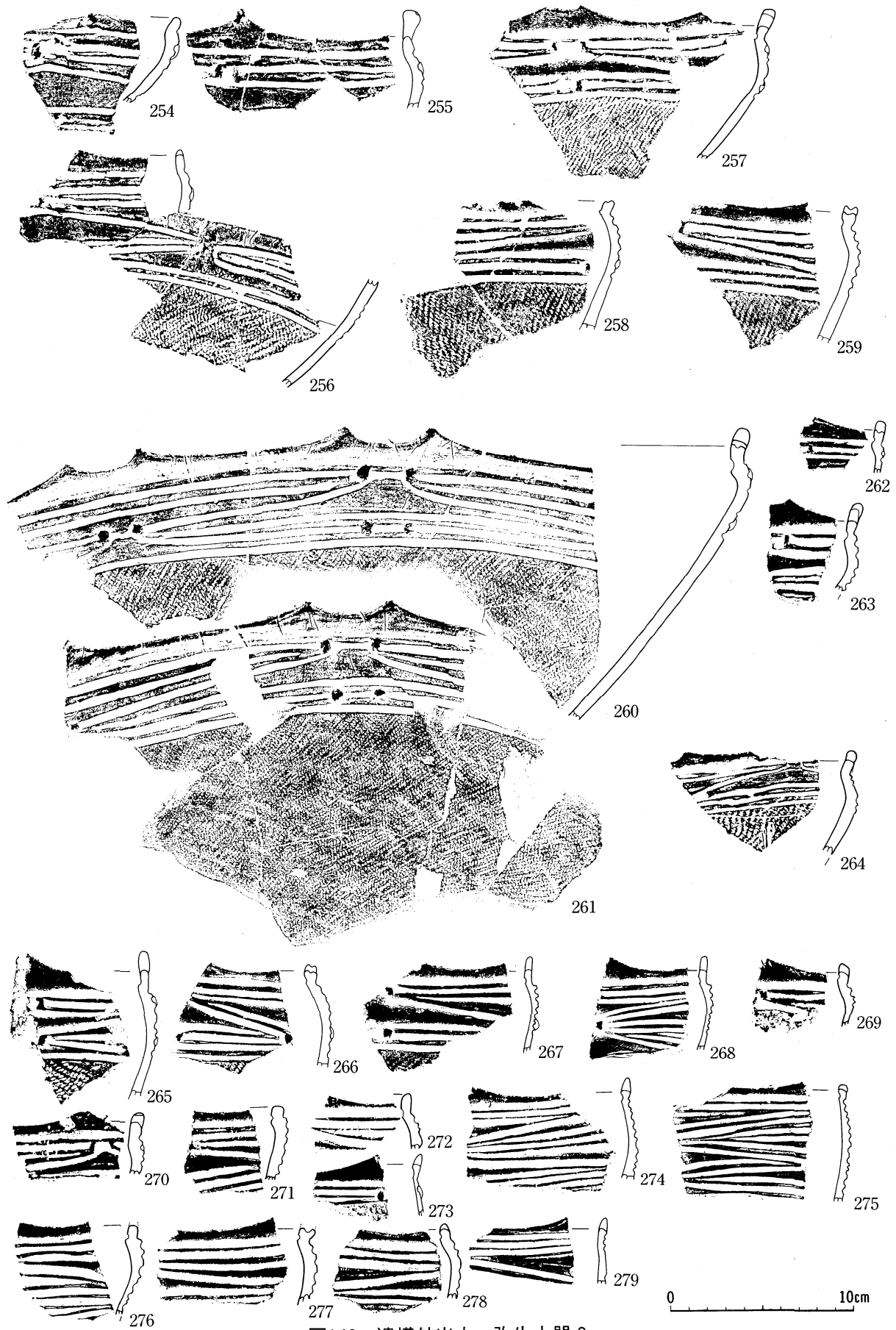


图146 遺構外出土 弥生土器 8



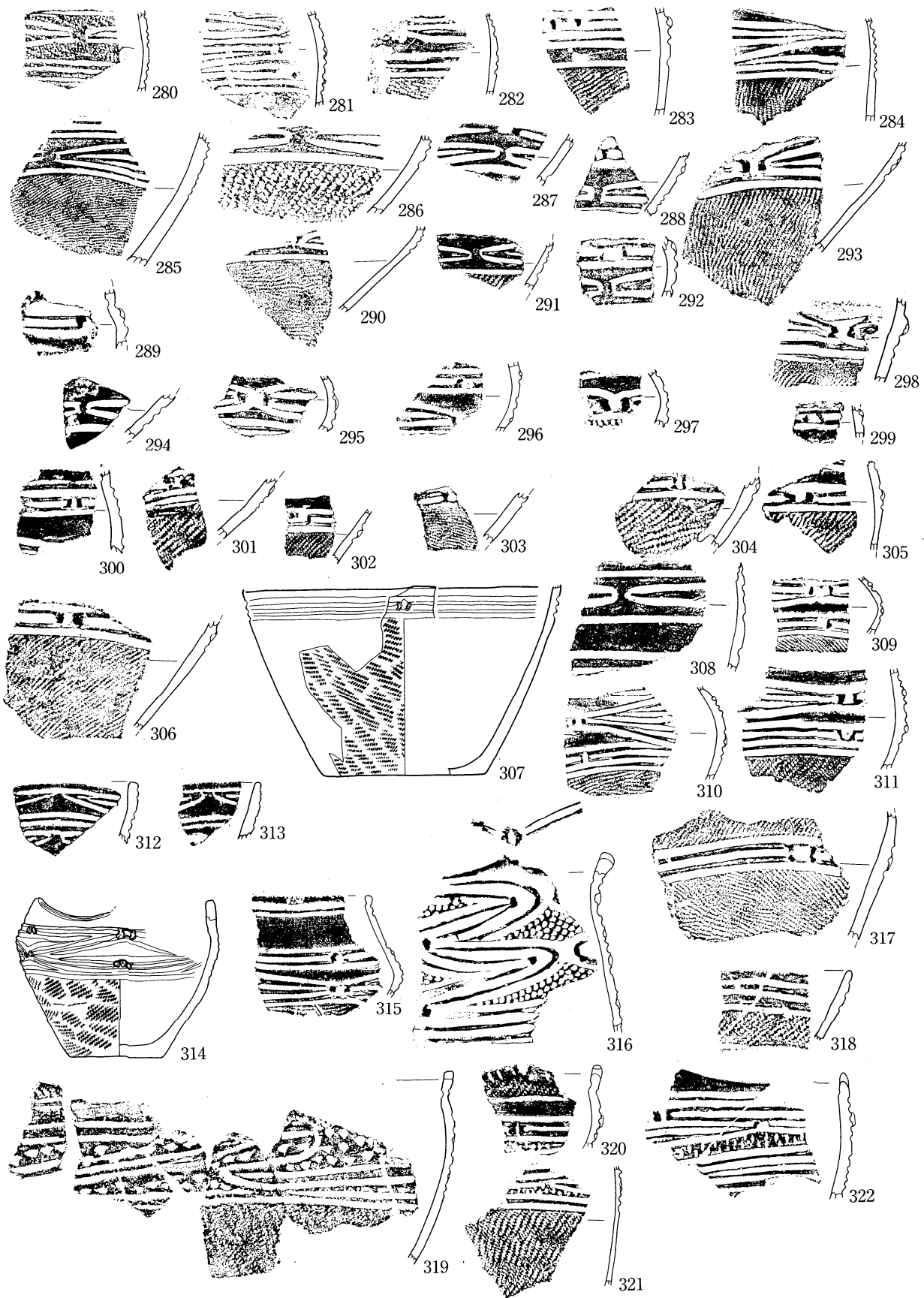


图147 遺構外出土 弥生土器 9

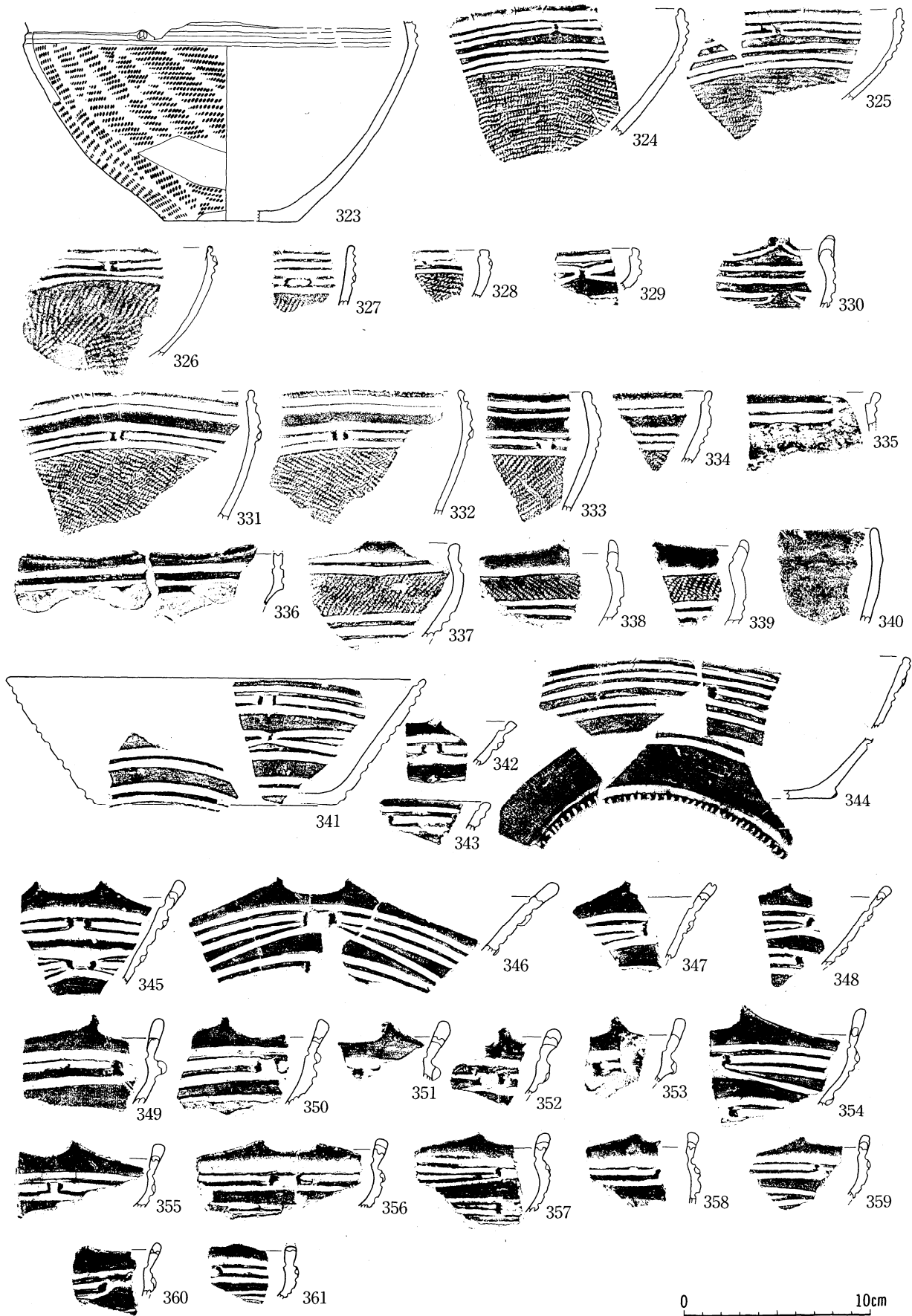


图148 遺構外出土 弥生土器10



图149 遺構外出土 弥生土器11

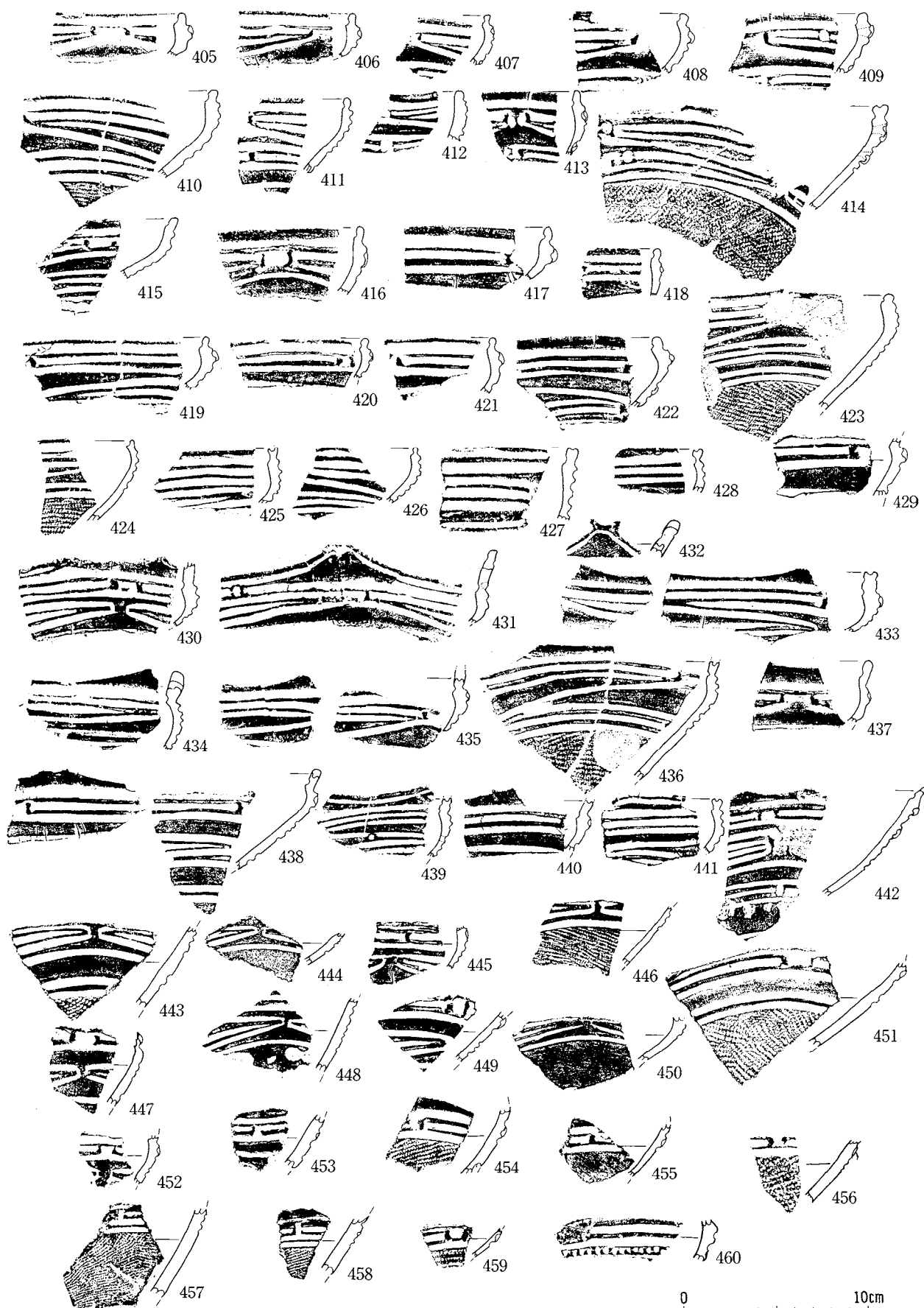


图150 遺構外出土 弥生土器12

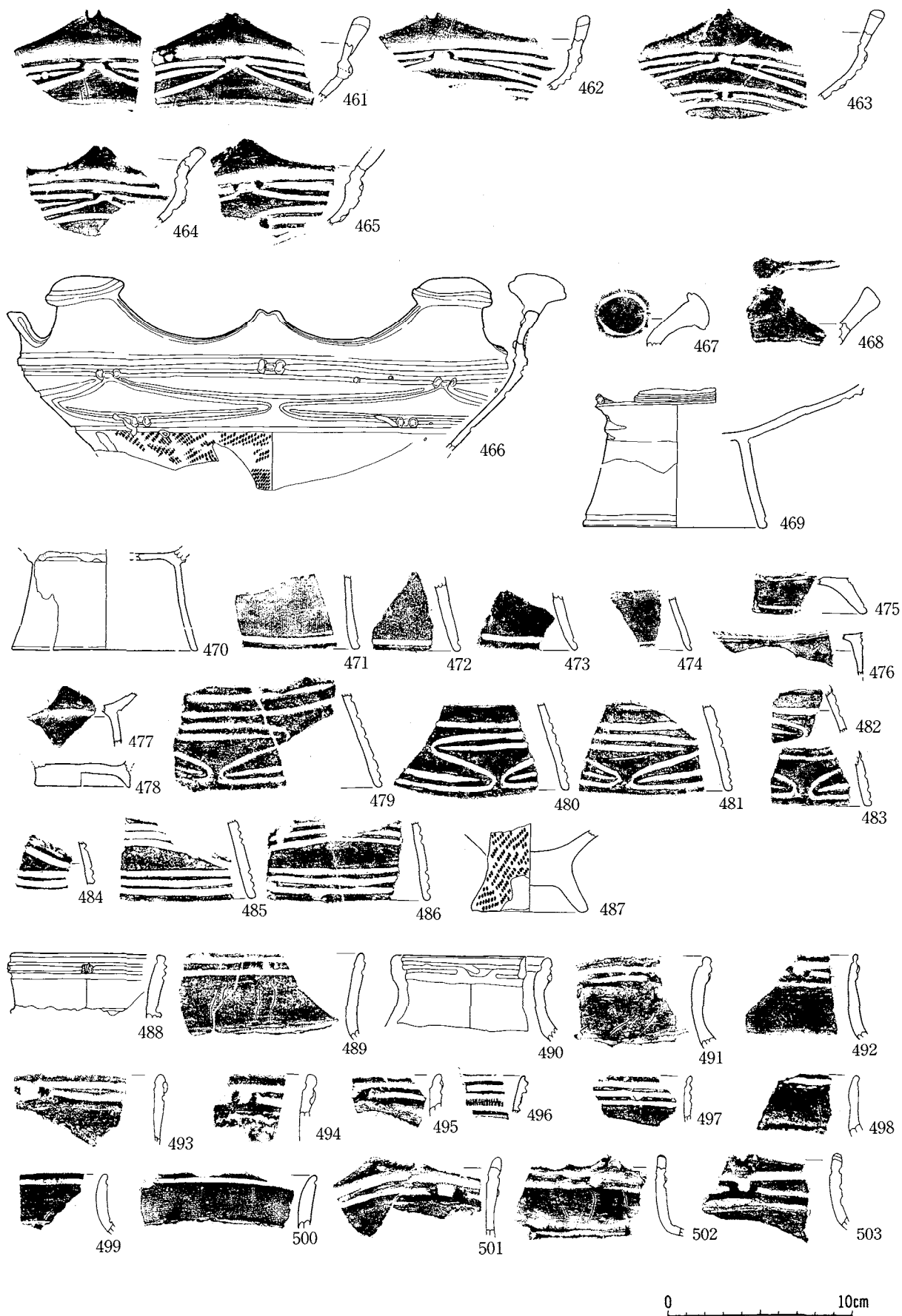


图151 遺構外出土 弥生土器13

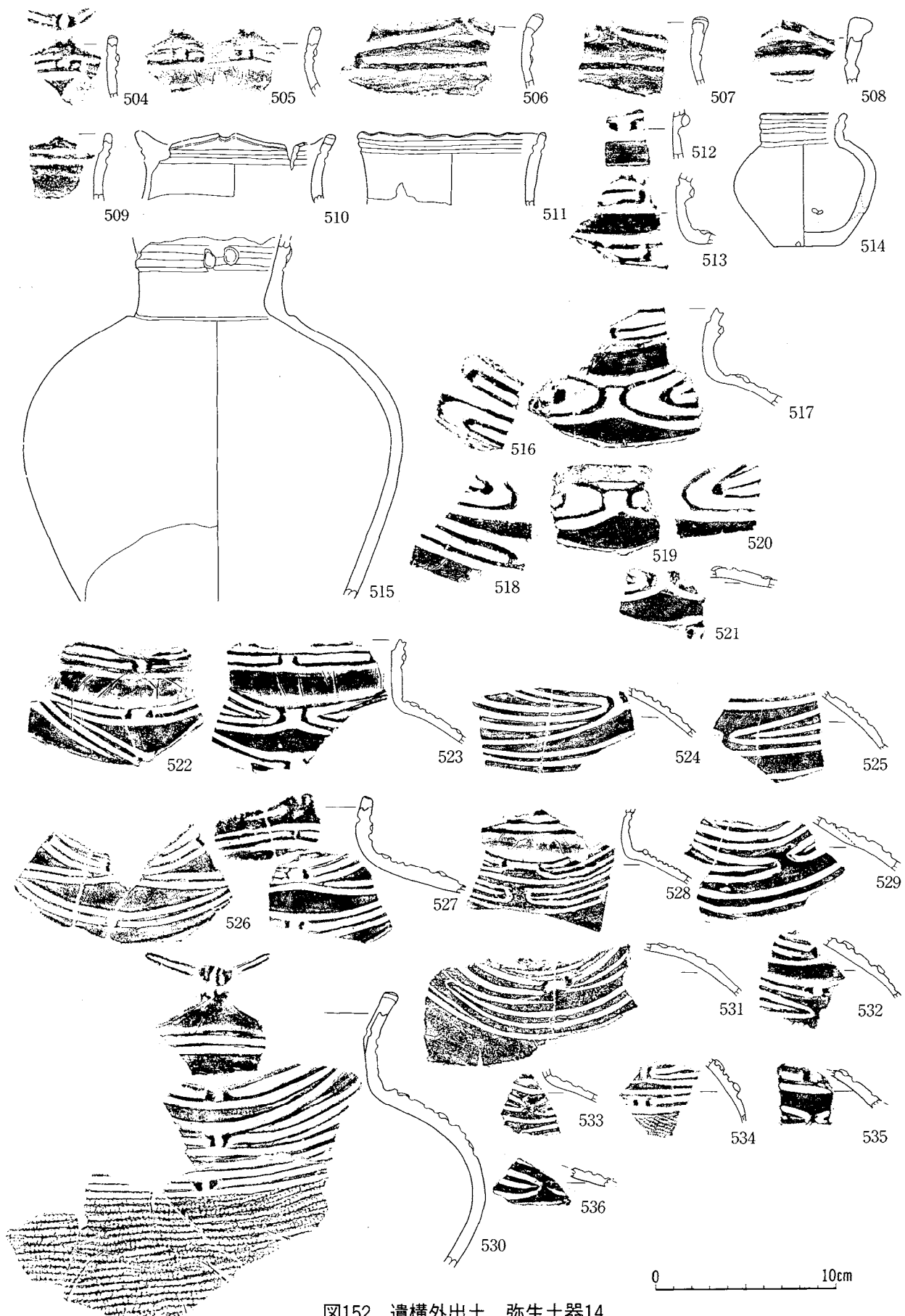


图152 遺構外出土 弥生土器14

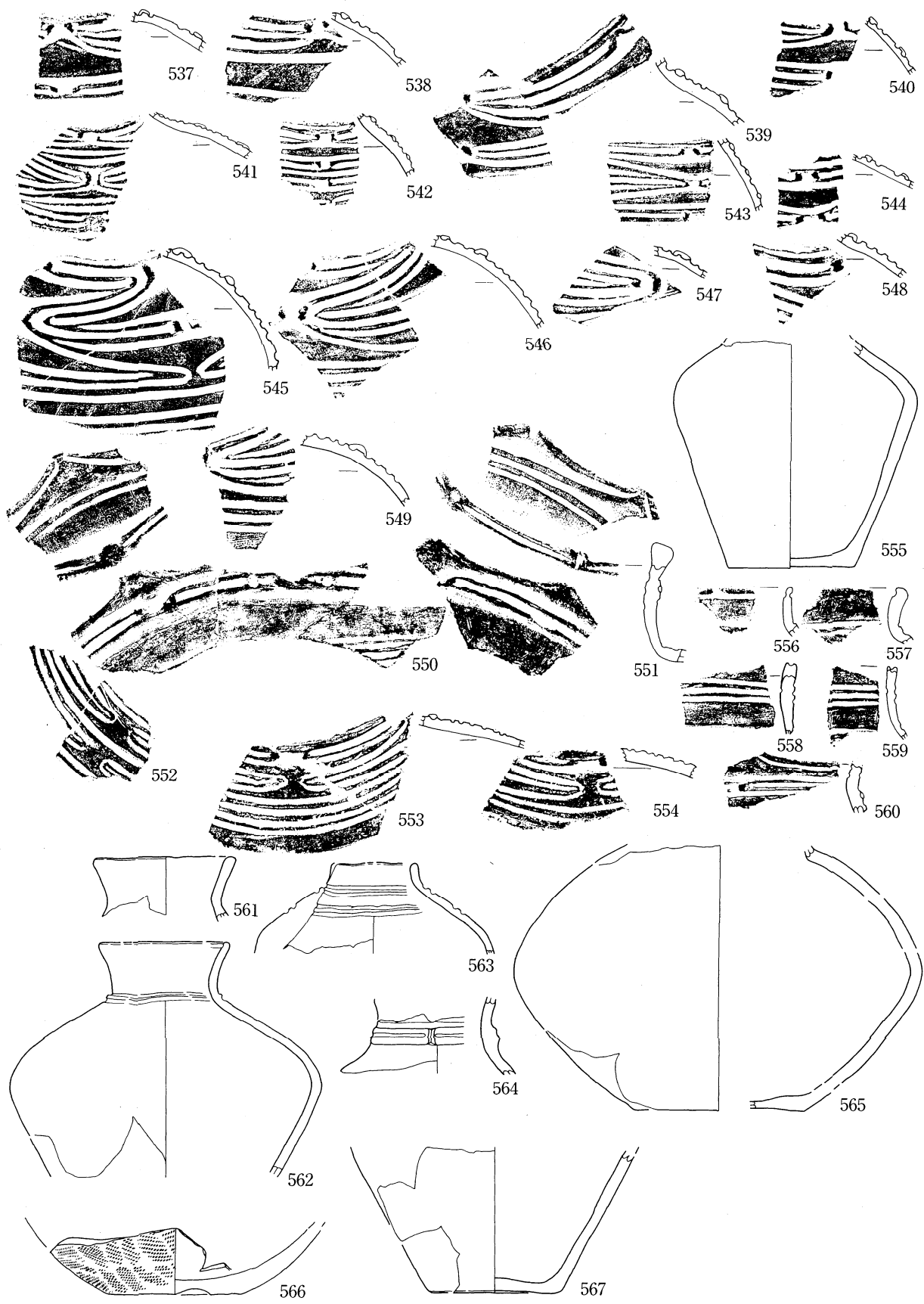


图153 遺構外出土 弥生土器15

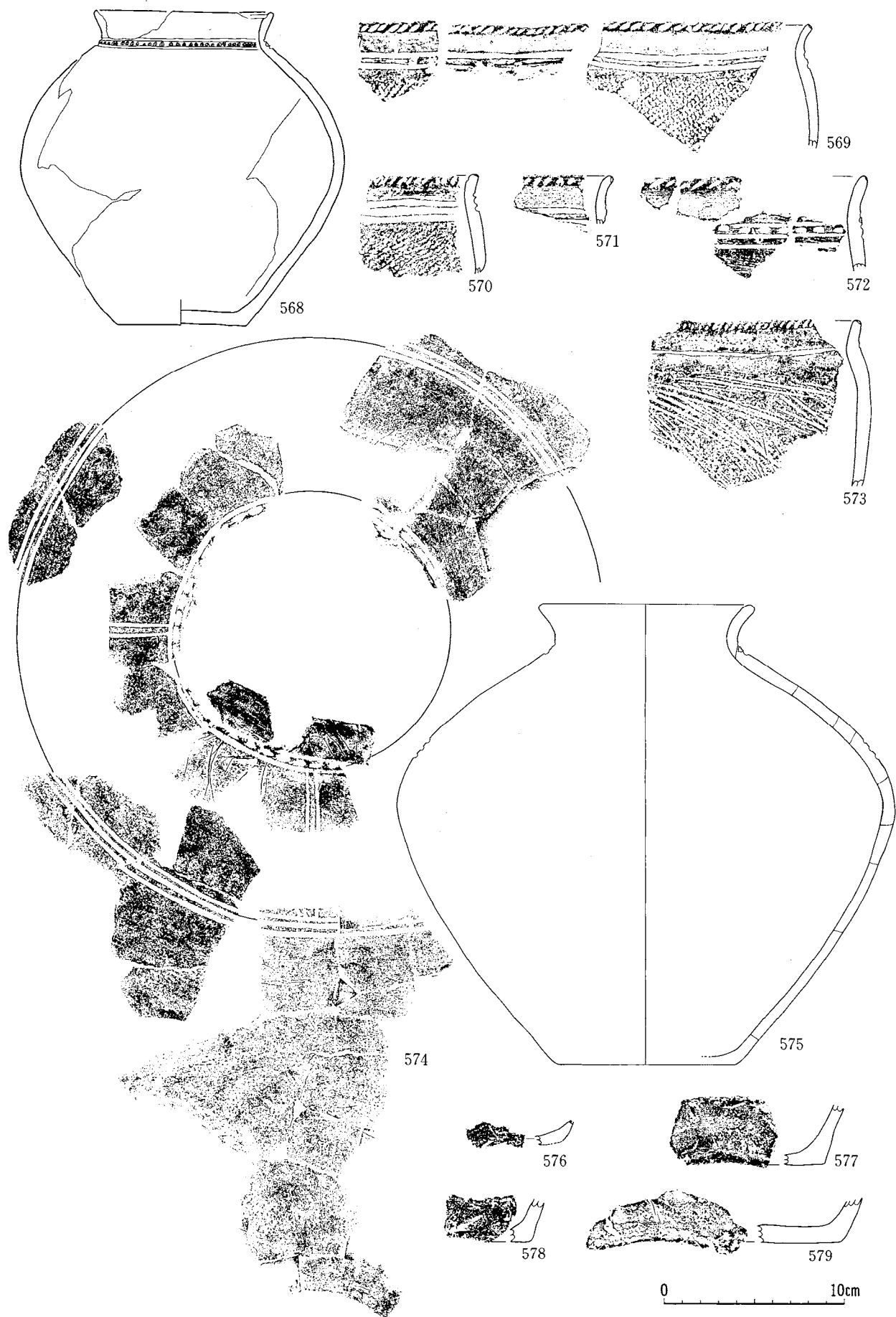


图154 遺構外出土 弥生土器16



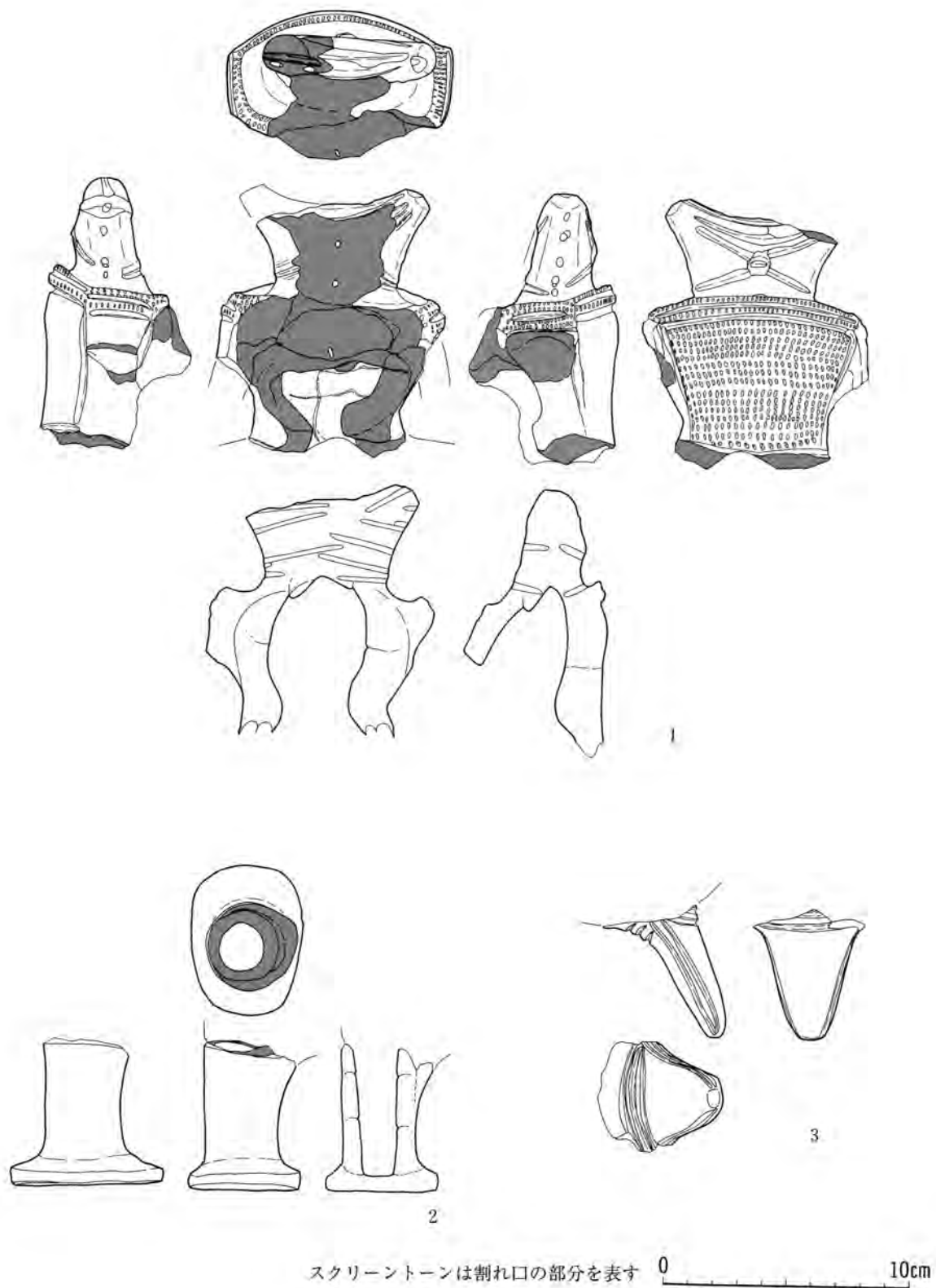


図155 遺構外出土土製品

### 3 石器、石製品

1～8はBA-24付近の弥生時代遺物集中区からの出土であり、9、10は平成3年度に出土したものであり、9は44号住居跡から、10はBD-15グリッドからの出土である。

1は石鏃である。先端と基部を若干欠損している。器体表裏面共に側縁からの調整剥離により丁寧に仕上げられている。基部付近は両側縁からノッチ状の調整剥離が施されており、茎部が作出されている。先端部の角度は約30度であり、本遺跡から出土している縄文時代の石鏃と比べると細身で鋭い感じがする。また、先端部の横断面形は菱形を呈している。2は石偶である。玉髓質の剥片を素材としている。器体側縁から中央部に向かっての調整剥離によって人形の腋から足にかけての縁辺を作り出している。また、先端部付近はノッチ状の剥離により作出されている。先端部はやや丸みを帯びているが、調整剥離はきちんとなされていることから、石鏃のように先端を鋭利にするという意識はないものと思われる。おそらくこの部分が頭部を表していると思われる。基部付近はやはり縁辺からの調整剥離によりやや内側にカーブを描くように作出されこの部分が脚部を表すと考えられる。このような石器は県内では大畑町二枚橋遺跡から弥生時代前期の二枚橋式土器に伴って2点出土しているのみである。しかし目をさらに北に向けるならば、北海道において紅葉山33号遺跡より続縄文時代の土器に伴って出土している。さらに千島列島からカムチャツカ半島にかけては10例近くが確認されており、分布の中心この地方にあるのであろう。

3は石核である。4～6は各種剥片に二次加工を施したものである。4は剥片の側縁に急斜な調整剥離を施したものである。5は差側縁にノッチ状の抉りを持つ。6は横長剥片の上下両端に両面からの調整加工を施したものである。7は側縁に両面からの剥離を加えた礫器状の石器であり、刃部？に若干の敲打痕を持っている。8は器体の一側縁を両面からの加工により直線的に仕上げしており、もう片方の側縁はやはり直線的な側縁と同様な剥離が一部に施されている。

9、10は抉状耳飾りである。なお、この遺物は出土地点が上記遺物と異なっており、所属時期も縄文時代前期と考えられる。9は蛇紋岩製である。全体にきれいに磨かれており、光沢を持っている。欠損品であるが欠損部はきれいに磨かれており、器体には穿孔がなされている。

10は緑色細粒凝灰岩製である。美しい完形品であり、器体表面は磨かれているがその際の擦痕が観察される。それらを観察すると以下のような製作工程がうかがえる。なお、以下の工程は完成品である10の観察から得られるものであり、各工程の途中で様々な細かい工程が入り込むことが予想される。

1 荒整形・表面のミガキ。→2、面取り→3、孔部穿孔→4 切り目の擦り切り

10は工程4までで終了しているが9に関していえば、工程4終了後、すなわち完成した後に欠損したものであり、その後補修孔をあけ、修復した後に、折れ面を磨くことにより欠損した片方を垂飾品のようにして使用したと考えられる資料である。

(茅野 嘉雄)

#### 分類

##### 石器・石製品

石器の分類についてはこれまでに刊行されている畑内遺跡Ⅰ～Ⅳを基本的に踏襲するが、必要に応じて細分するなどの改変を行った。なお、今回の報告で該当しない機種や細別分類も記載しておく。個々の石器がどの分類に属するのかは観察表に記載した。

①石鏃

I類 無茎のもの

- a 凹基のもの（今回は該当するものなし）
- b 平基であり全体形状が三角形～二等辺三角形のもの。
- c 基部がやや丸みを帯びるもの
- d 尖基のもの

II類 有茎のもの 弥生時代遺物集中区から出土している。他の縄文時代の遺構から出土したものに比べて細身であり、先端部も鋭角である。また、断面形も菱形に近づいている。

②石槍 第55号住居跡から1点のみの出土である。

③石錐 各種剥片を素材とし、表裏両面からの調整剥離により錐状の先端部を作出しているもの。

④石匙 I類 いわゆる縦型のもの

II類 いわゆる横型のもの

⑤石篋

⑥不定形石器

I類 器体の一部に連続的な二次調整剥離を施したもの。

- a 調整剥離の角度が急角度なもの。スクレイパー類が含まれる。
- b 調整剥離の角度が浅いもの。

II類 明瞭な刃部等の加工が見られないが、側縁の一部に刃こぼれ等が見られるもの。

III類 その他の剥片類

⑦石核

⑧石斧

I類 磨製石斧

- a 擦り切りにより器体の整形を行っている石斧の類。
- b 敲打により器体の整形を行うもの。
- c a・bのどちらか判然としないもの。

II類 打製石斧またはそれに類するもの

⑨半円状扁平打製石器

I類 板状節理により分割された礫または比較的厚さのない楕円礫等の片方の側縁を表裏両面からの剥離により弧状に、もう片方の側縁を直線的に仕上げたもの。直線的な側縁の横断面は鋭角であり、その稜線上には使用によると思われる摩滅痕が見られるものがある。半円状扁平打製石器の代表的なものである。

II類 一側縁のみが、剥離により直線的になっているもの。もう片方の側縁は礫面をそのまま残すか、整形剥離が側縁全体に及ばないもの。

⑩敲磨器類

I類 主として器体表面に1つないし複数の凹みの看取されるもの。

II類 主として敲打痕の看取されるもの。

- a 器体表面中央部付近にほぼ円形の敲打痕を1カ所ないし2カ所持つもの。

b 器体の側縁および端部に敲打による器面のあれを生じているもの。

Ⅲ類 主として比較的幅の広いスリ面を持つもの。

a 器体側縁への整形剝離により、正面形が半円状を呈するもの。

b 厚みのある楕円礫の側縁にスリ痕を持つもの。スリ面に剝離が伴うものがある。

c 厚みのある断面3角形の礫の稜線上に平坦なスリ面を持つもの。

Ⅳ類 その他の礫石器をまとめた。

a 1 主に板状節理により分割された礫の側縁に剝離を施したもので、正面形態に規格性が見られないものをまとめている。

a 2 主に板状節理により分割された礫の側縁を施したもので、形態的にまとまりのあるものをまとめた。

本類は既刊の畑内遺跡の報告書において剝離の見られる礫として一括されていたものであり、その数は既に報告されたものだけで14個である。図aに集成した。また、今回の報告では、第56号竪穴住居跡より1点、第70号竪穴住居跡より1点出土している。a 2類の形態的特徴としては剥片石器でいうと石槍や有茎の石鏃を模したようなものが多い。また、器体表面の一部や側面に擦痕や摩滅が見られるものがあるという特徴もある。この摩滅は半円状扁平打製石器の側縁に見られるものと似ているが、敲打やスリという痕跡というより、磨きに近い感じがする。石材はすべて粘板岩であり、厚さ1cm弱程度に分割した礫を素材としている。用途・性格等は今のところ不明であるが、類似したものの例としては、南郷村水吉遺跡(遺構外)、岩手県軽米町大日向遺跡、松尾村長者屋敷遺跡(FⅣ-4住居跡)などから出土しているが、あまり類例を見ない石器である。長者屋敷の例に伴う土器は円筒下層a式と思われる。

b 主にやや厚みのある楕円礫の側縁に両面から調整剝離を施したものもあり、礫器状のものもあり、その側縁には摩滅の看取されるものもある。

⑪石錘 今回は該当するものがなかった。

⑫石皿・台石類 今回は該当するものがなかった。

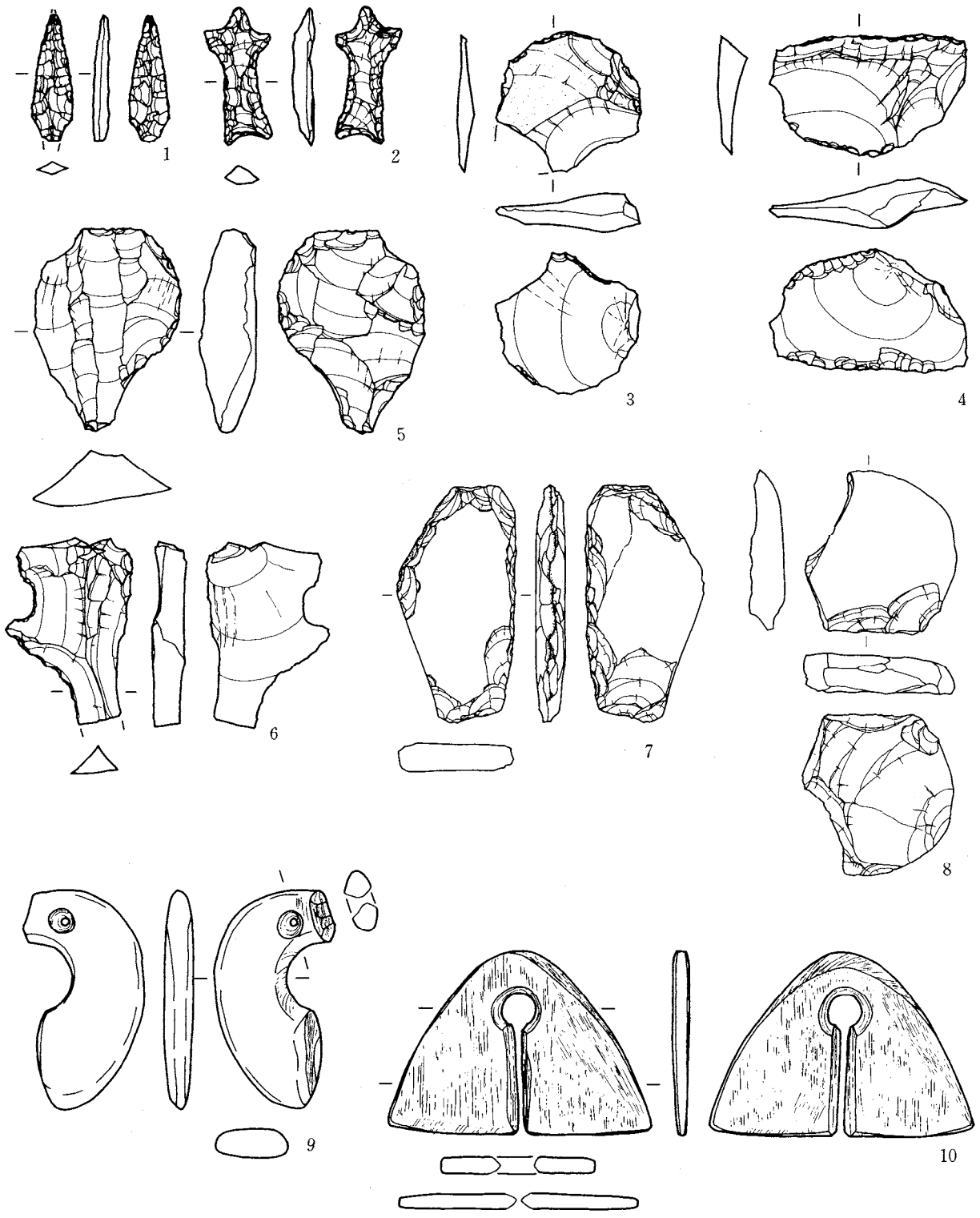
⑬石製品その他 棒状石製品が第70号竪穴住居跡より出土している。全体に荒い石磨がなされ、長軸両端に尖頭部を作出している。また、尖頭部の先端は平坦である。類似した石器は松尾村長者屋敷遺跡のFⅡ-1住居跡より出土しており、共伴する土器は円筒下層a式と考えられている。

今回報告した遺物はほとんどが遺構内から出土したものである。したがって石器組成などの点については遺跡全体の様相を表してはいないと思うが、グラフにすると表1のようになる。

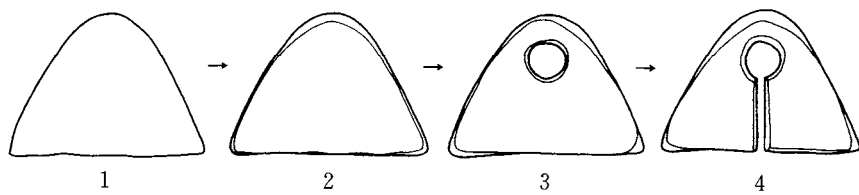
また、石材組成は剥片石器において大半が珪質頁岩で占められており、それに玉髓や鉄石英が加わるという周辺地域とほぼ同様な石材組成を示している。礫石器についても粘板岩・砂岩を中心として、他の石材が若干加わるという様相である。

遺構外出土石器・石製品観察表

図版NO	出土位置	整理番号	層位	大分類	細分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(mm)	石質	備考
1	AZ-24		2 IV層	石鏃	Ⅱ	31	10	4	1.1	珪質頁岩	
2	BA-25		3 IV層	石偶		32.5	16	5	2.1	玉髓	
3	BA-24		4 IV層	不定形	I b	35.5	34.5	9	9	珪質頁岩	
4	BA-24		5 IV層	不定形	I b	49	30	11	14.3	珪質頁岩	
5	BA-24		1 IV層	不定形	Ⅱ	45.5	29	8	9.5	珪質頁岩	
6	BA-25		6 IV層	石核		49.5	36	14	20	珪質頁岩	
7	BC-24		7 IV層	半円状	Ⅱ?	128	60	20	156	粘板岩	
8	BB-24		8 IV層	敲磨器類	IVb	76	80	20	133.2	砂岩	
9	44H		9 覆土	挟状耳飾り		55	30	28	16.4	蛇紋岩	
10	BM-15		10	挟状耳飾り		46	65	4	17.7	緑色凝灰岩	



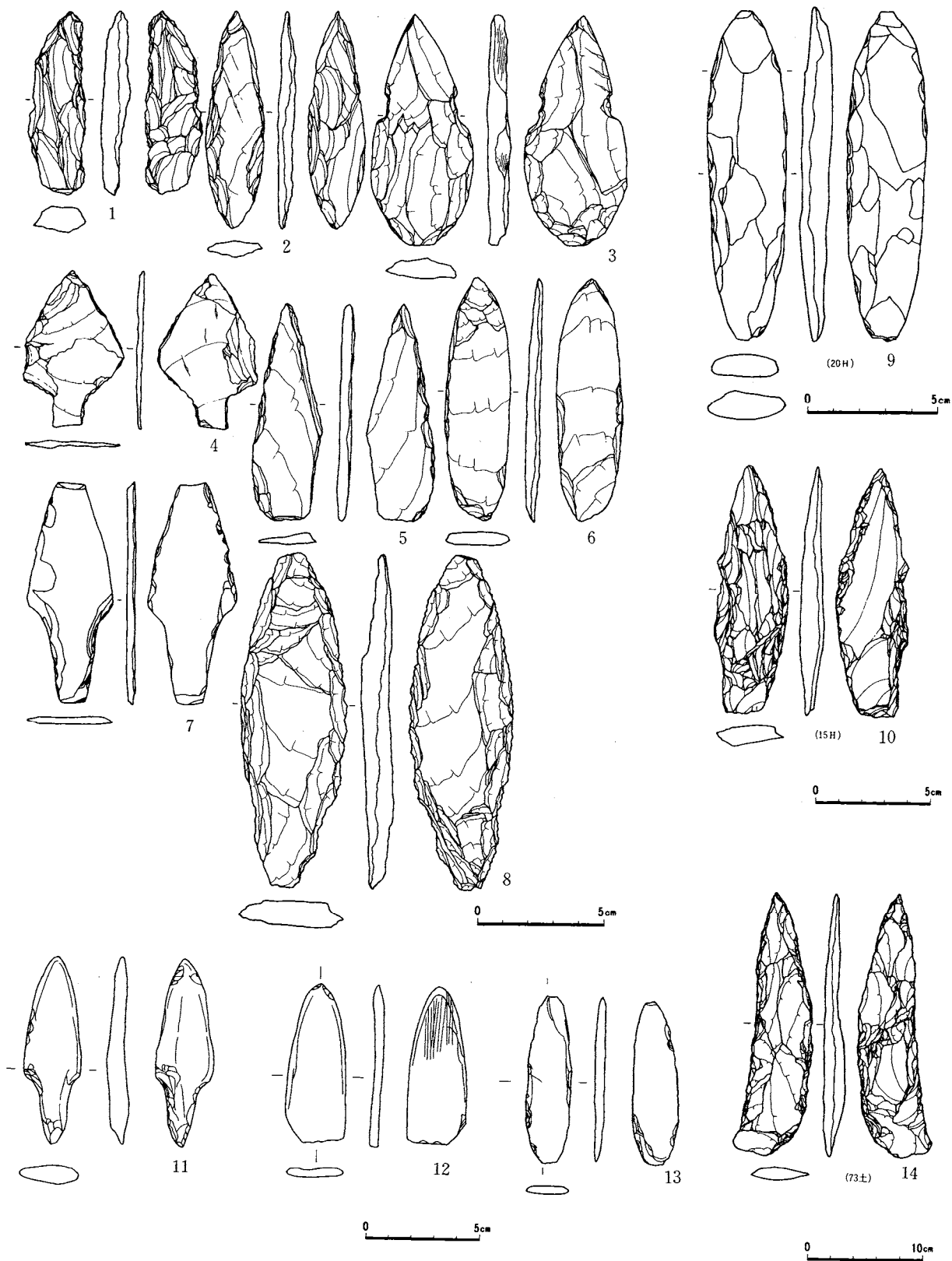
块状耳飾り製作工程模式図



7、8はS = 1/3

0 5cm

图156 遺構外出土遺物（石器）①



1～8は『畑内遺跡Ⅲ』、9は『畑内遺跡Ⅱ』、10～14は『畑内遺跡Ⅰ』より転載

図157 敲磨器Ⅳa2類集成図（報告済分）

### 第3節 B捨場（西捨場）出土土器

#### 1 B捨場（西捨場）について

B捨場（西捨場）は、畑内遺跡の北西部に位置し、遺跡の北の台地状を呈する平場の北斜面にある。発掘調査は、平成4年6月～11月、平成5年5月～8月までの2カ年にわたって行われた。斜面の発掘調査前の斜度は12°～15°であったが、円筒下層式の遺物包含層の斜度は約25°で、地表の斜度よりは10°程傾斜が急になっていた。遺物包含層は、第XⅢ層から第XⅦ層までが該当し、遺物の包含の状況は、所にもよるが下層ほど濃密な状況であった。包含層の厚さとしては、平均して70cm程である（『畑内遺跡Ⅲ』第Ⅲ章第1節「西捨場の状況について」）。

出土遺物の総量は段ボール箱で約1,400箱に上る。これらのほとんどは縄文時代前期の円筒下層式土器であり、形式的にも円筒下層a式から円筒下層d2式まで認められている。中でも注目されるものとして動物骨の出土が上げられる。動物骨の出土はBD-4・3区、BE-3・2区、BF-3・1区、BH-1区等で出土している。包含層としては、第XⅦ層中、特にその下部から第XⅧ層直上部にかけて多数の獣骨がみられた。獣骨としてはイノシシ・シカ・ウサギ・ムササビ・クマがあり、魚骨としてはマダイ・タイ・ヒラメ・スズキ・サケ・サメ等が認められた（『畑内遺跡Ⅳ』第5章第2節「畑内遺跡西捨場出土の動物遺存体」）。

#### 2 B捨場（西捨場）出土の土器について

B捨場（西捨場）出土の土器は、『畑内遺跡Ⅳ』第Ⅲ章第2節「西捨場出土の土器について」で復元土器281個の紹介をしているが、今回その後の復元土器181個の土器を紹介する。胴部文様と口頸部の文様を主体にして以下のように分類した。なお、B捨場（西捨場）出土遺物の残りの部分については次回報告でとりまとめる予定である。

なお、この分類は畑内遺跡の多の地区とは別にB捨場（西捨場）だけのもので『畑内遺跡Ⅲ』の土器分類に若干追加したものである。

A1類 口頸部が結節回転で、胴部に太めの単節原体による斜縄文が施文されるもの。底面に文様のみられるものもある。

A2類 口頸部に側面押圧がみられ、胴部は太めの単節原体による斜縄文が施文されるもの。

A3類 口頸部に結節回転、胴部に単軸絡条体第1類が施文されているもの。

A4類 口頸部から胴部まで単軸絡条体第1類が施文されるもの。

A5類 口頸部から胴部まで結束第1種の羽状縄文が施文されるもの。

A6類 口頸部から胴部まで斜縄文が施文されるもの。

A7類 口頸部から胴部まで結節回転が施文されるもの。

B1類 口頸部が結節回転で、隆帯を持ち、胴部に単節あるいは複節の斜縄文が施文されるもの。底面に文様がみられるものもある。

B2類 口頸部が斜縄文で、隆帯を持ち、胴部に斜縄文が施文されるもの。

B3類 口頸部に斜縄文あるいは側面押圧がみられ、幅広で矢羽状の沈刻がみられる隆帯を持ち、胴

部に斜縄文が施文されるもの。

- B 4 類 口頸部が結節回転で、胴部に斜縄文が施文されるもの。
- B 5 類 口頸部に側面押圧と単軸絡条体第 5 類が施され、胴部に斜縄文が施文されるもの。
- B 6 類 口頸部から胴部まで斜縄文が施文されるもの。
- B 7 類 口頸部が単軸絡条体第 1 類で、胴部に斜縄文が施文されるもの。
- B 8 類 口頸部に斜縄文と側面押圧がなされ、隆帯を持ち、胴部に斜縄文が施文されるもの。
- B 9 類 口頸部に沈線が巡り、胴部に斜縄文が施文されるもの。底面に文様がみられるものもある。
- B10類 口頸部に結節回転があり、隆帯を持ち、胴部に単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- B10b類 口頸部に結節回転があり、胴部に単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- B11類 口頸部に単軸絡条体第 1 類、隆帯を持ち、胴部に単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- B12類 口頸部に単軸絡条体第 1 類や第 6 類が横位にみられ、胴部は同じ単軸絡条体が縦位に施文されるもの。
- B13類 口頸部に結束第 1 種の横位回転、隆帯を持ち、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- B14類 外面の文様は単軸絡条体第 1 類や第 5 類が施文されるもの。底面に文様がみられるものもある。
- B15類 口頸部は斜縄文と原体側面押圧があり、隆帯を持ち、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- B16類 口頸部は結束第 1 種、胴部は多軸絡条体が施文されるもの。
- B17類 口頸部は斜縄文、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。底面に文様がみられる。
- B18類 口頸部は沈線、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- B19類 口頸部は結節回転、隆帯を持ち、胴部は結節回転が縦位に施文されるもの。
- B20類 口頸部は結束第 1 種、隆帯を持ち、胴部は結束第 1 種が施文されるもの。
- B21類 口頸部は結束第 1 種、頸部に側面押圧が巡り、胴部は結束第 1 種が施文されるもの。
- B22類 口頸部から胴部まで結束第 1 種が施文されるもの。
- B23類 口頸部は側面押圧、胴部は結束第 1 種や結節回転、単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- B24類 口頸部は側面押圧が巡り、胴部は斜縄文が施文されるもの。
- B25類 口頸部は側面押圧が巡り、胴部は単軸絡条体第 1 類・第 1 A 類、多軸絡条体が施文されるもの。
- B26類 口頸部は単軸絡条体第 1 A 類、胴部は単軸絡条体第 1 A 類が施文されるもの。
- C 1 類 口頸部は単軸絡条体第 6 A 類、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- C 2 類 口頸部は単軸絡条体第 6 A 類、胴部は多軸絡条体が施文されるもの。
- C 3 類 口頸部は単軸絡条体第 6 A 類、胴部は単軸絡条体第 1 A 類、結束第 1 種、多軸絡条体が施文されるもの。
- C 4 類 口頸部は幾何学状に側面押圧、隆帯を持ち、胴部は斜縄文が施文され、一部結節回転文もみられるもの。
- C 5 類 口頸部は幾何学状に側面押圧、胴部は斜縄文が施文されるもの。
- C 6 類 口頸部は幾何学状に側面押圧、隆帯を持ち、胴部は結束第 1 種が施文されるもの。



- C 7 類 □頸部は幾何学状に側面押圧、胴部は結束第 1 種が施文されるもの。
- C 8 類 □頸部は幾何学状に側面押圧、隆帯を持ち、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- C 9 類 □頸部は幾何学状に側面押圧、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- C 10 類 □頸部は幾何学状に側面押圧、胴部は多軸絡条体が施文されるもの。
- C 11 類 □頸部は幾何学状に側面押圧、隆帯を持ち、胴部は多軸絡条体が施文されるもの。
- C 12 類 □頸部は幾何学状に側面押圧、隆帯を持ち、胴部は単軸絡条体第 1 A 類が施文されるもの。
- C 13 類 □頸部は平行に側面押圧、胴部は結束第 1 種が施文されるもの。
- C 14 類 □頸部は平行に側面押圧、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- C 15 類 □頸部は結節回転あるいは多軸絡条体、胴部は多軸絡条体が施文されるもの。
- C 16 類 □頸部は結束第 1 種、胴部は斜縄文が施文されるもの。
- C 17 類 □頸部は結束第 1 種、胴部は結束第 1 種が施文されるもの。
- C 18 類 □頸部は斜縄文、胴部は斜縄文が施文されるもの。
- D 1 類 □頸部は結節回転、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- D 2 類 □頸部は側面押圧、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- D 3 類 □頸部は単軸絡条体第 1 類、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- D 4 類 □頸部は側面押圧あるいは側面押圧と結節回転、胴部は結束第 1 種あるいは第 2 種が施文されるもの。
- D 5 類 □頸部は側面押圧、胴部は結節回転が施文されるもの。
- D 6 類 □頸部は側面押圧、胴部は多軸絡条体が施文されるもの。
- D 7 類 □頸部は側面押圧、胴部は単軸絡条体第 1 A 類が施文されるもの。
- D 8 類 □頸部は幅広く側面押圧、胴部は結束第 1 種、単軸絡条体第 1 A 類、単軸絡条体が施文されるもの。
- D 9 類 □頸部は側面押圧と貼付、胴部は単軸絡条体第 1 A 類が施文されるもの。
- D 10 類 □頸部は側面押圧と貼付、胴部は結束第 1 種・第 2 種が施文されるもの。
- E 1 類 □頸部は沈線、胴部は単軸絡条体第 1 類が施文されるもの。
- E 2 類 □頸部は沈線、胴部は単軸絡条体第 1 A 類が施文されるもの。
- E 3 類 □頸部は交互押圧の隆帯、胴部は結節回転と斜縄文が施文されるもの。
- E 4 類 □頸部は貼付、胴部は結束第 1 種・結節回転が施文されるもの。

上記の分類を一応土器型式と対比すると、A 1 類から A 7 類は、円筒下層 a 式に、B 1 類から B 26 類は、円筒下層 b 式に、C 1 類から C 18 類は円筒下層 c 式に、D 1 類から D 8 類は円筒下層 d 1 式に、D 9 類から D 10 類は円筒下層 d 2 式に対応するものではないかと思われる。

(木村鐵次郎)

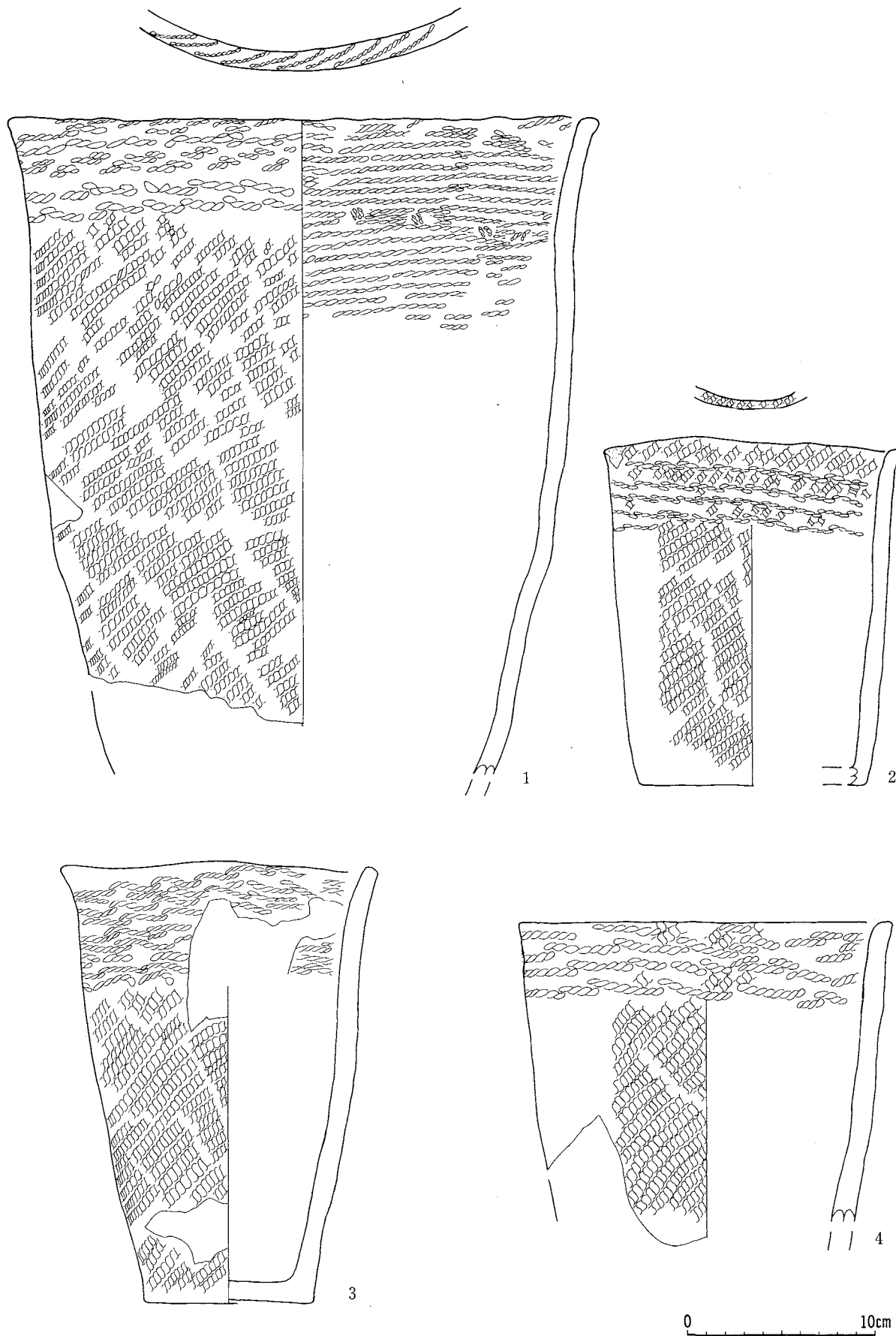


图158 B捨場（西捨場）出土土器①

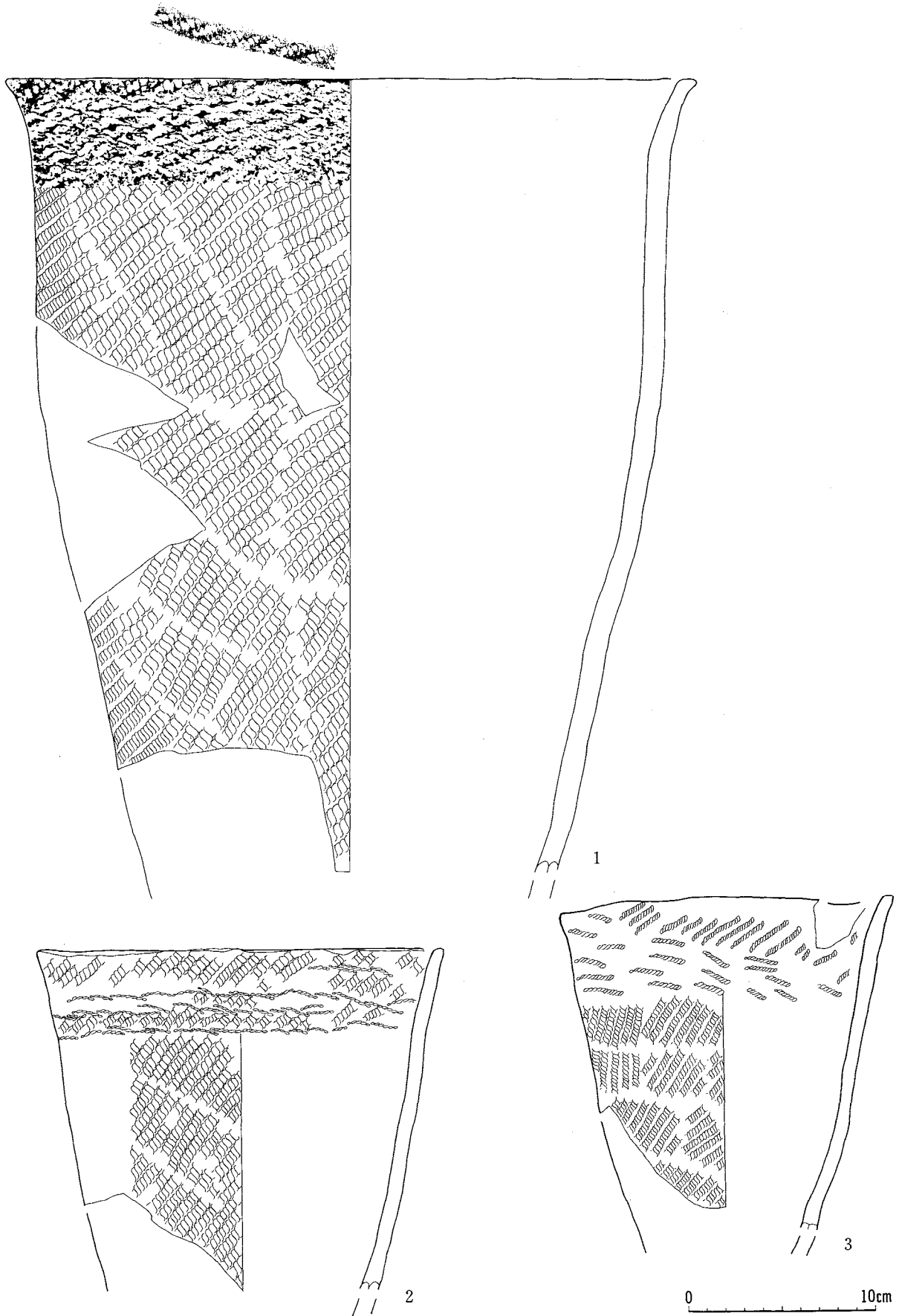


图159 B捨場（西捨場）出土土器②

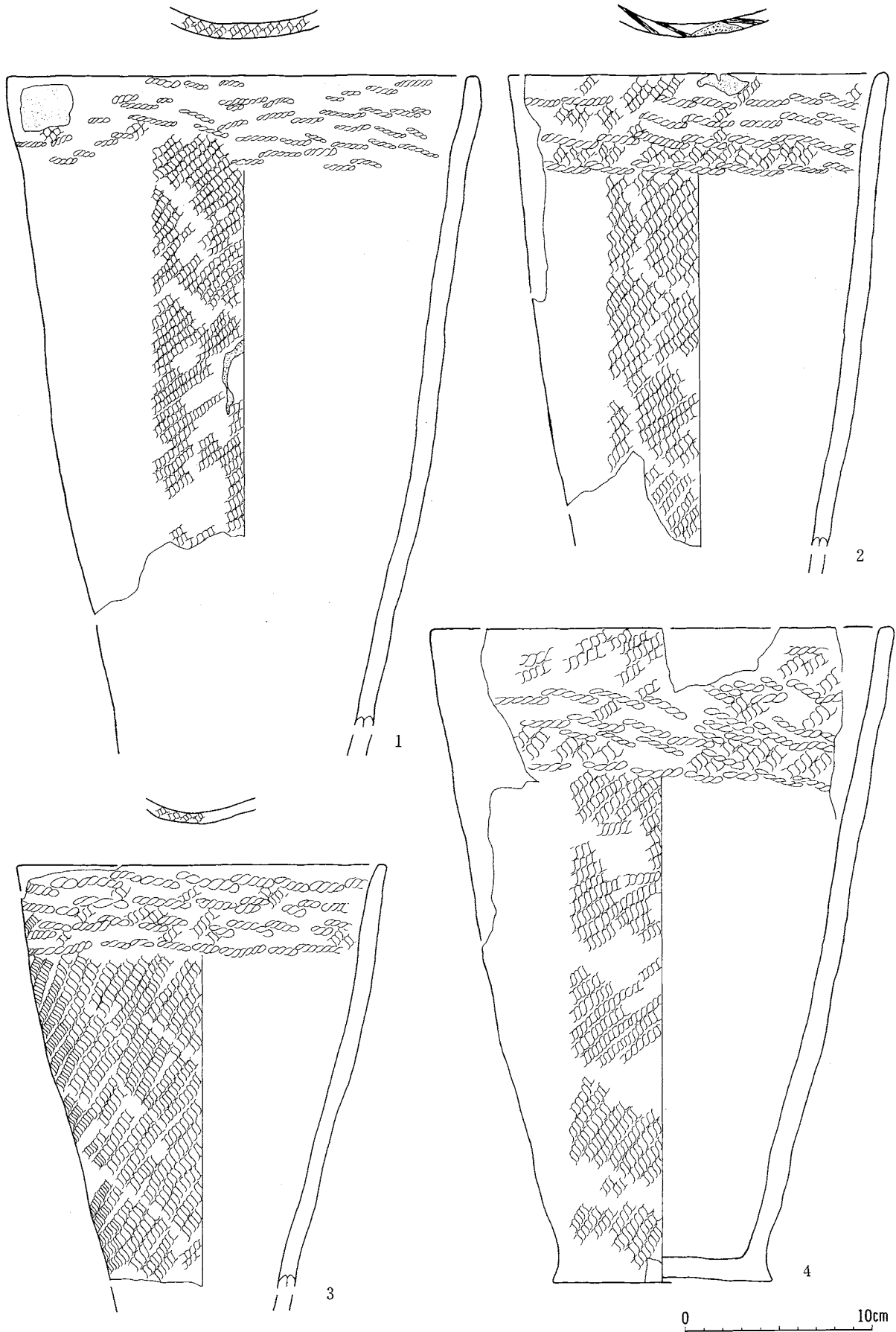


图160 B捨場（西捨場）出土土器③

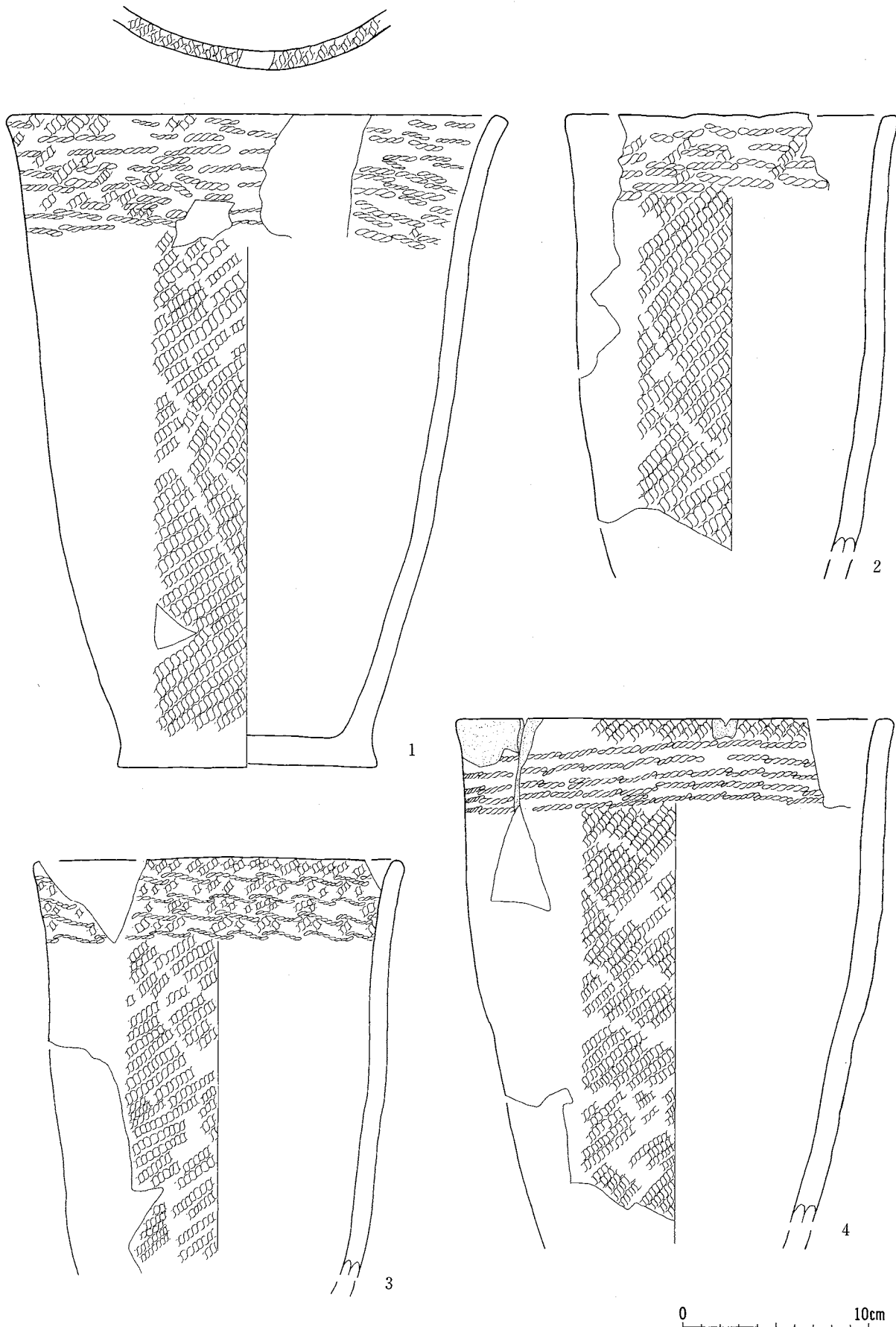


图161 B捨場（西捨場）出土土器④

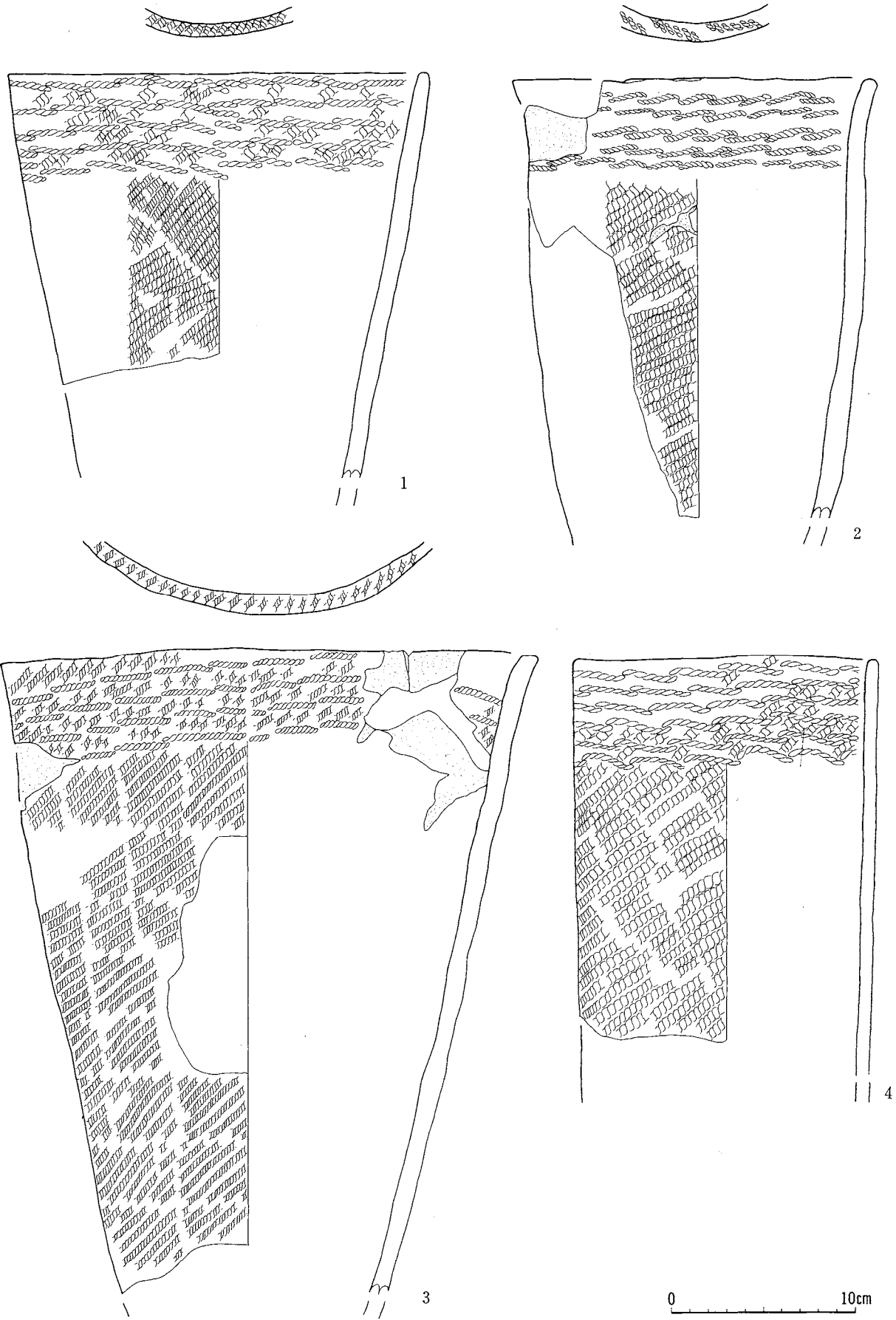
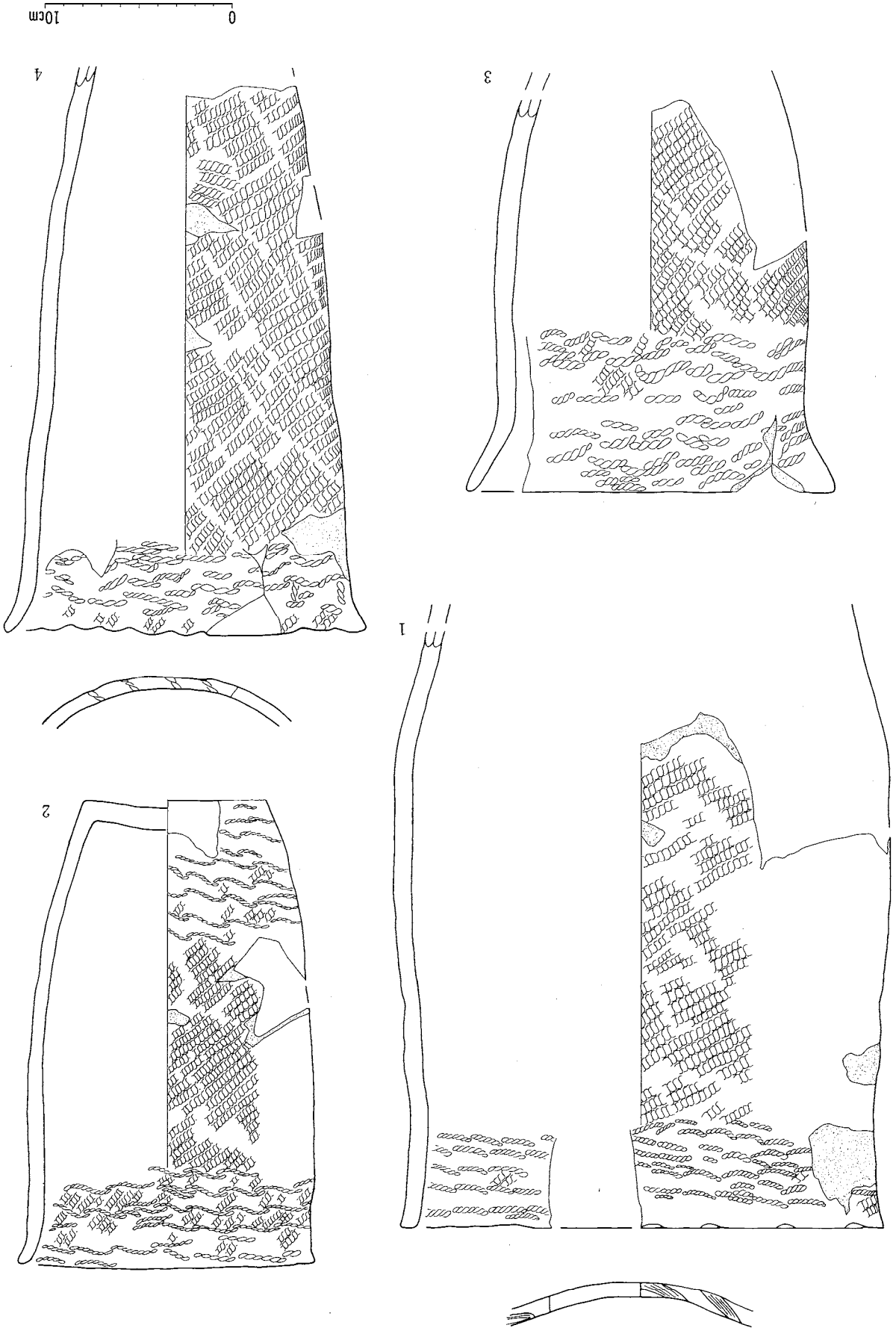


图162 B捨場（西捨場）出土土器⑤

图163 B 捺埜 (西捺埜) 出土土器⑥



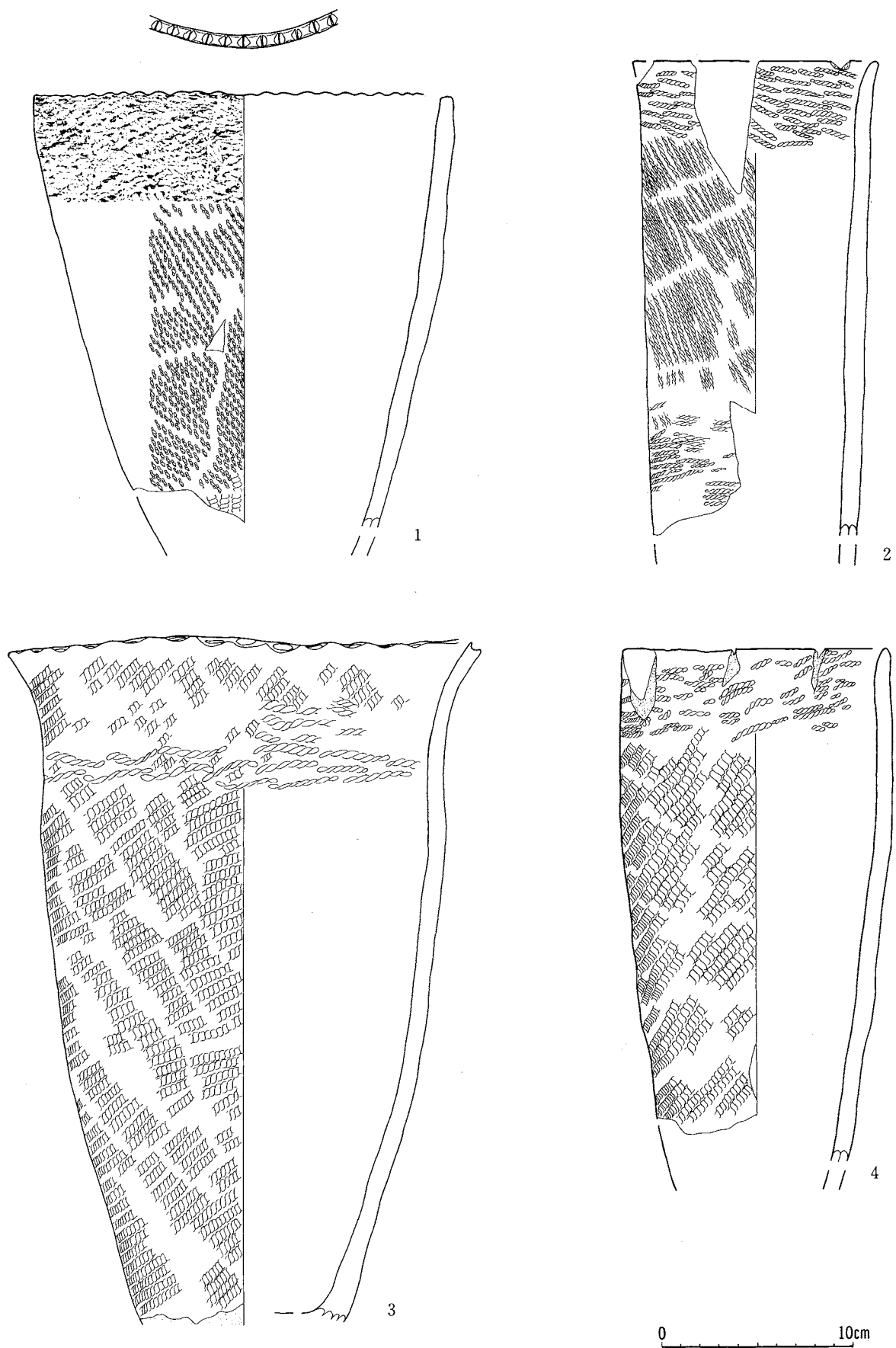


图164 B捨場（西捨場）出土土器⑦



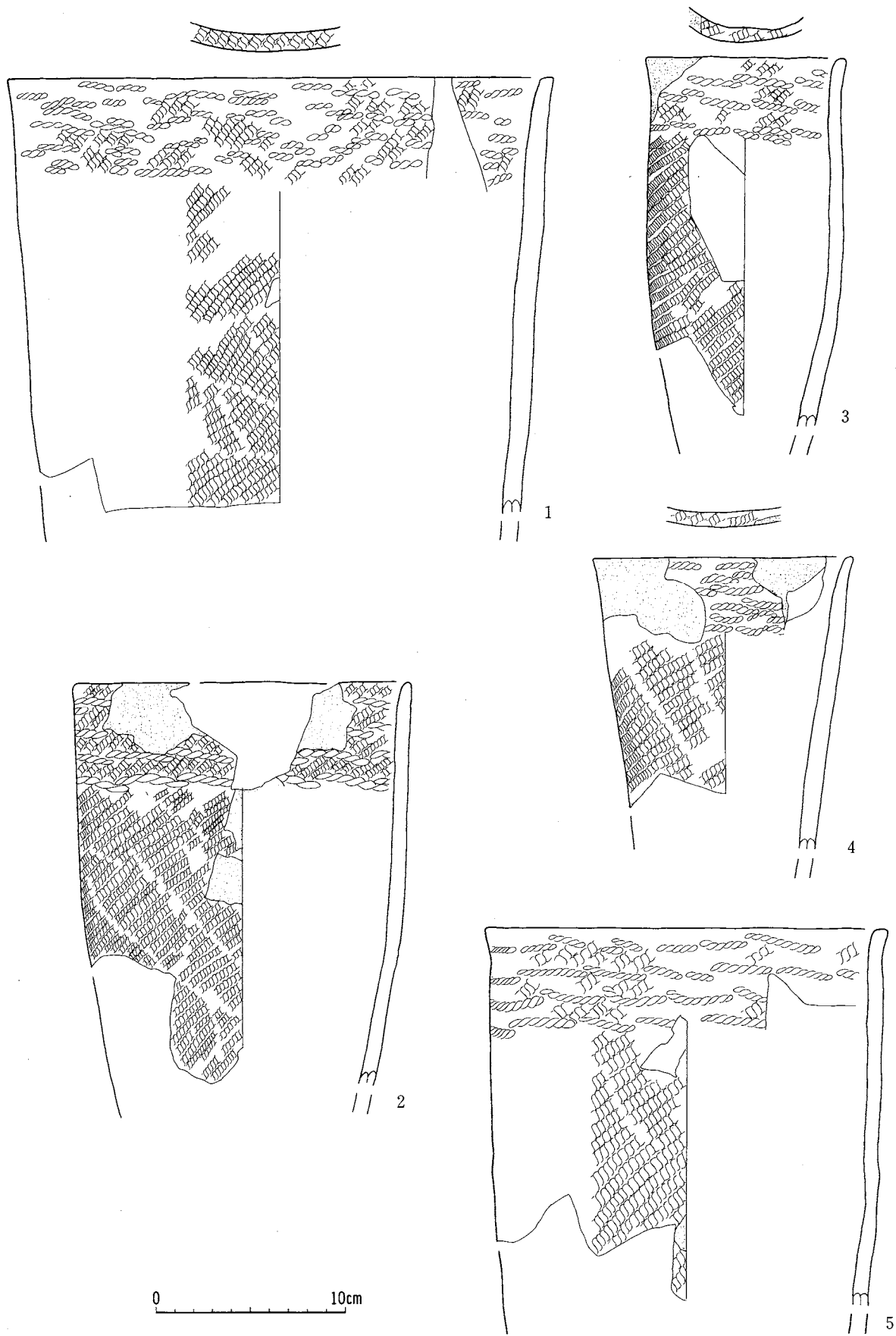


图165 B捨場（西捨場）出土土器⑧

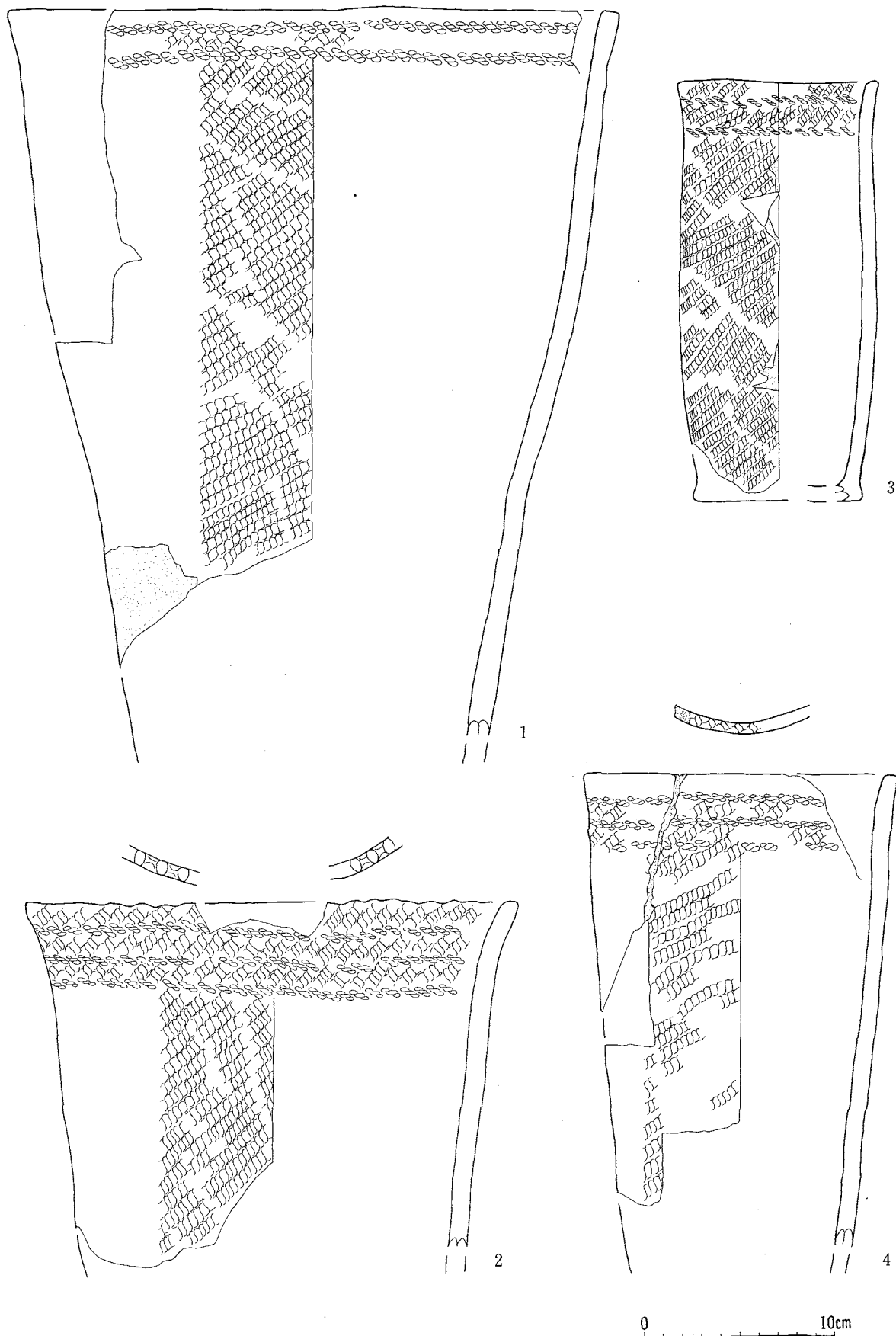


图166 B捨場（西捨場）出土土器⑨

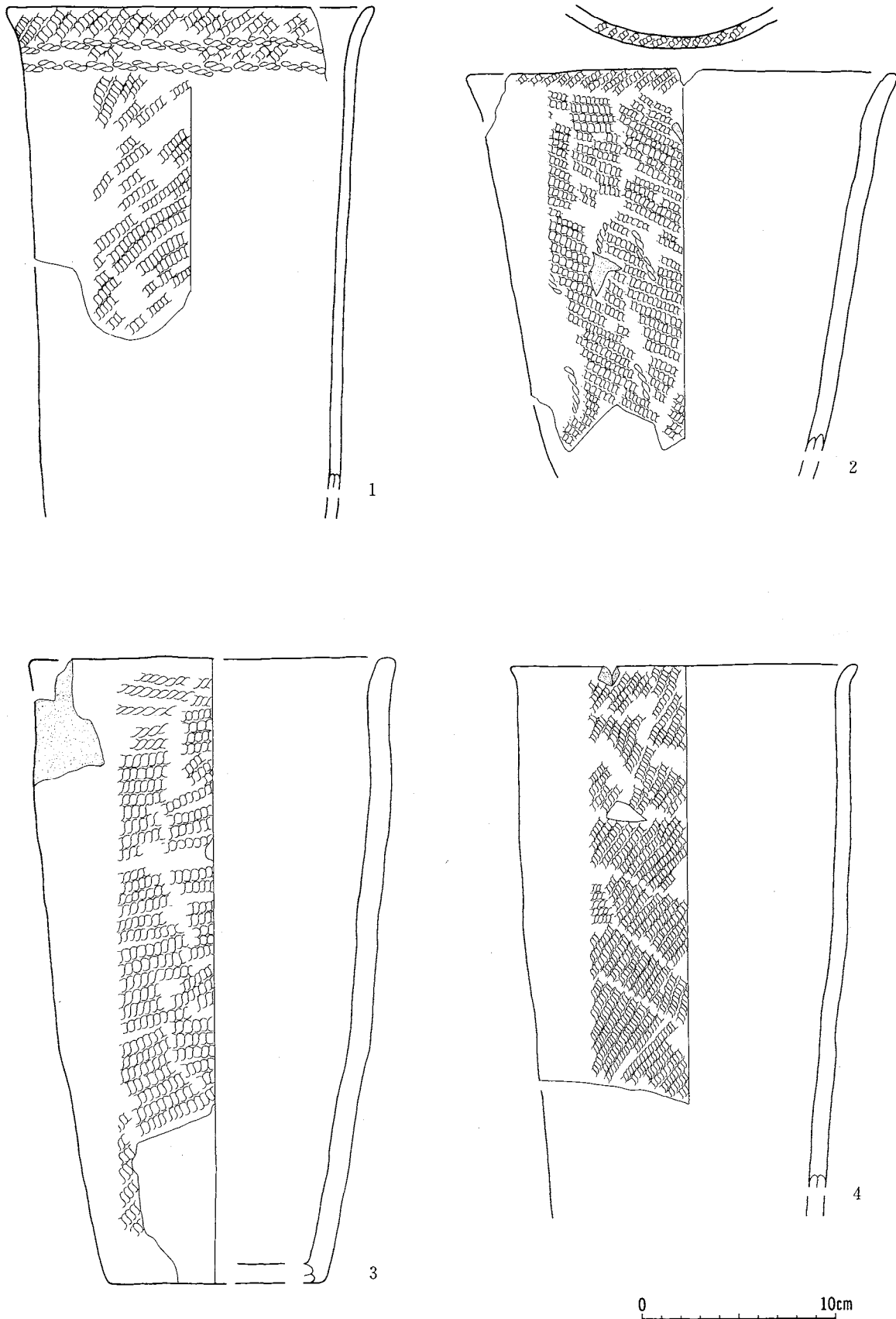


图167 B捨場（西捨場）出土土器⑩

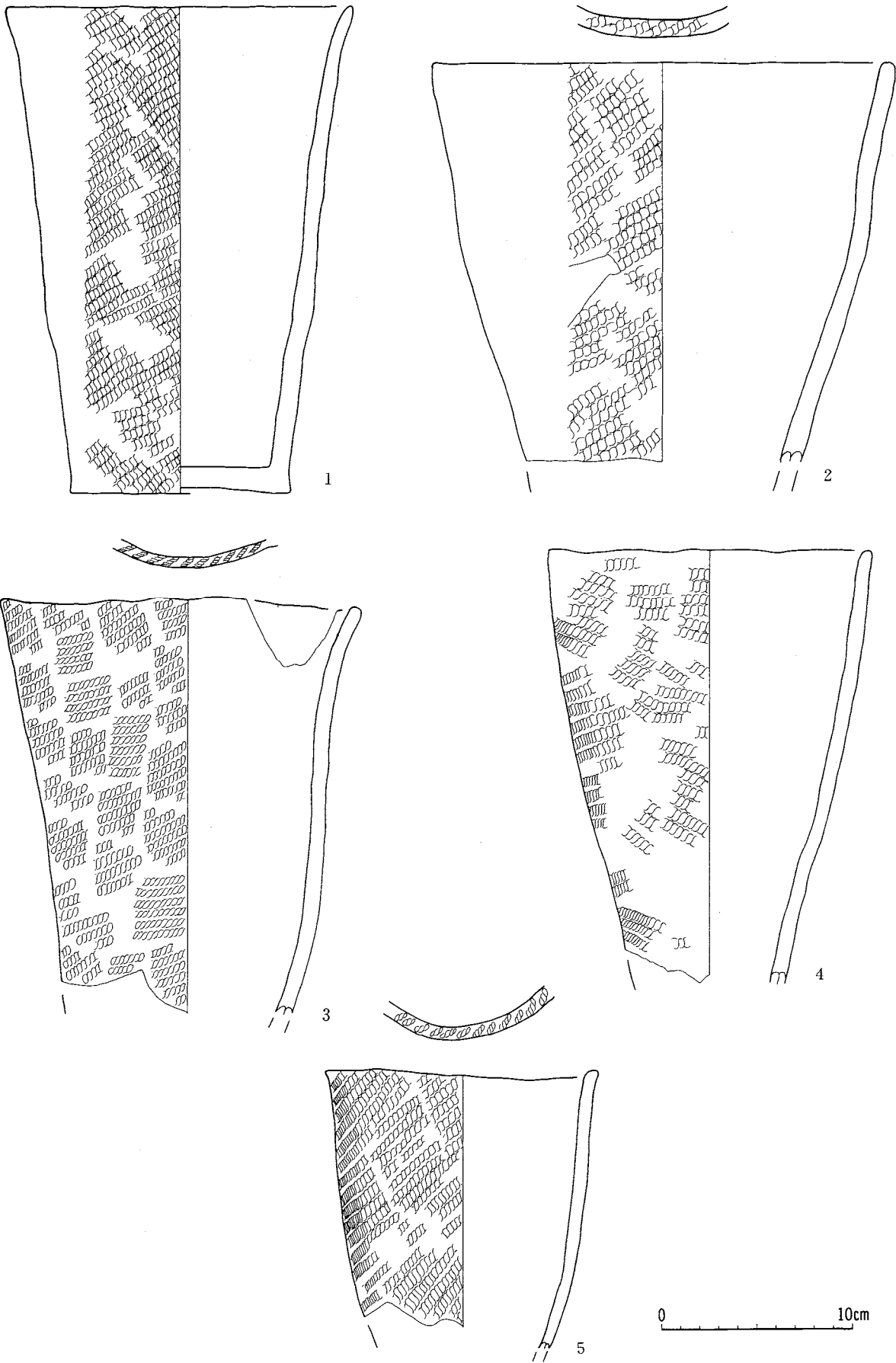


图168 B捨場（西捨場）出土土器⑪

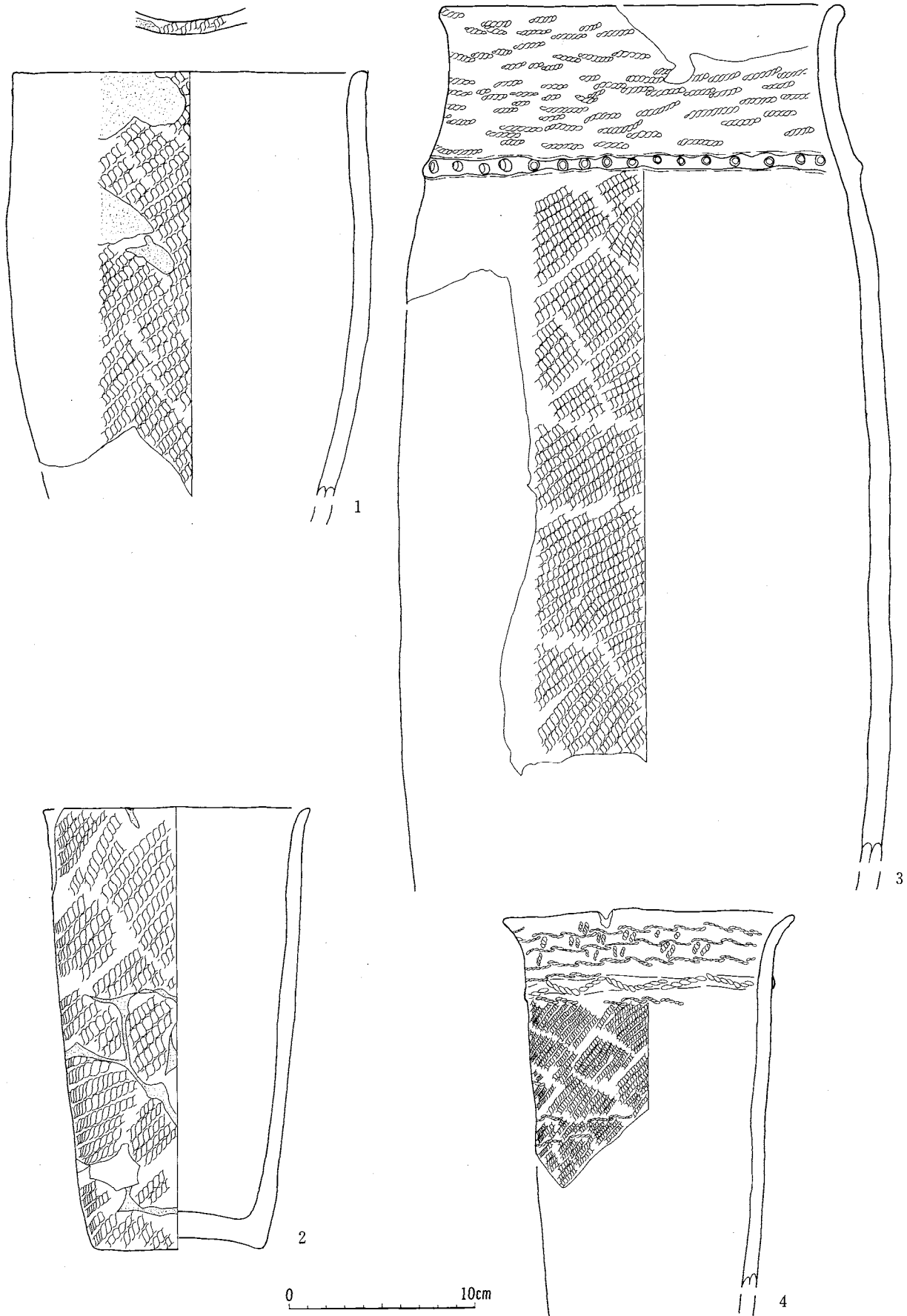


图169 B捨場（西捨場）出土土器⑫

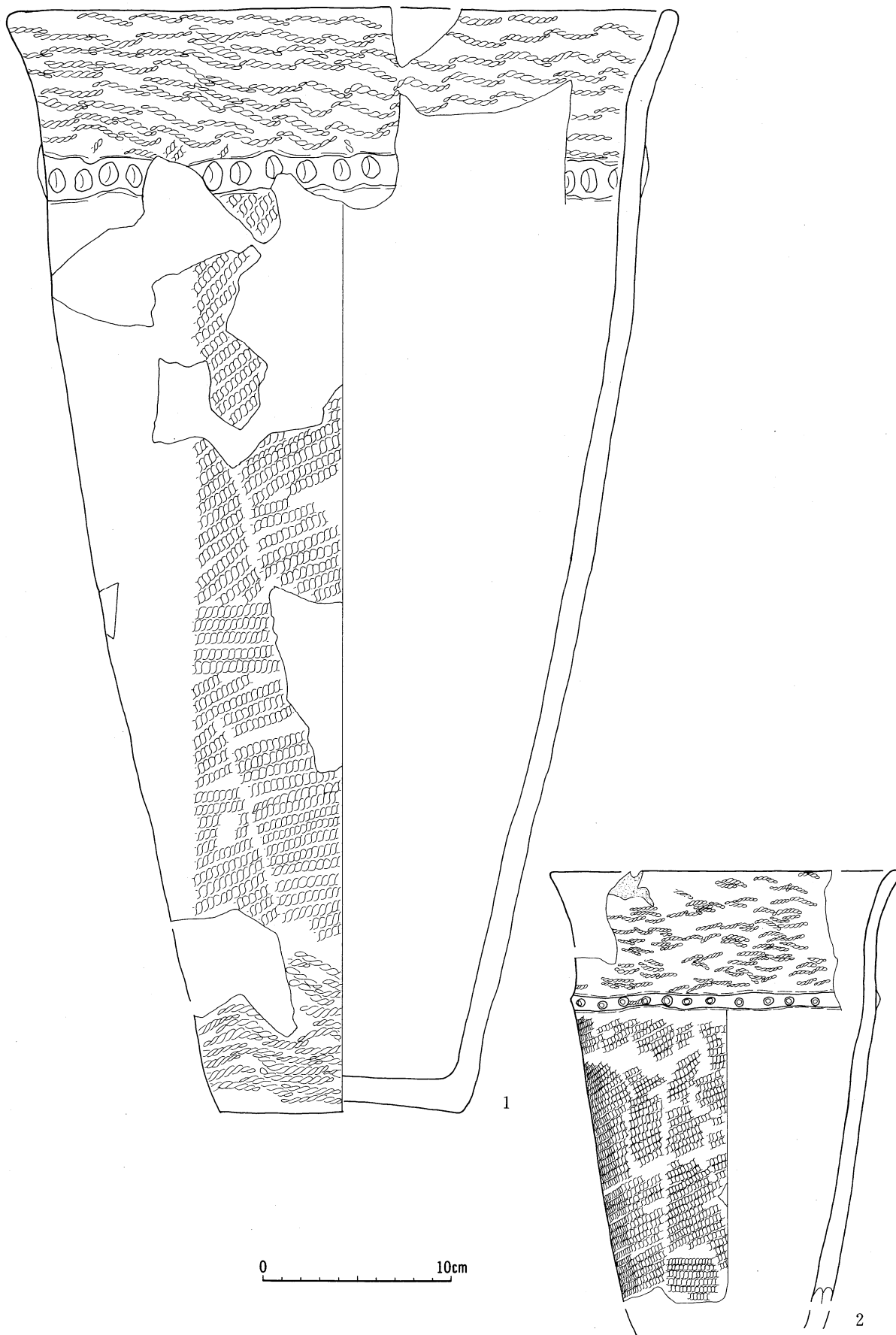


图170 B捨場（西捨場）出土土器⑬

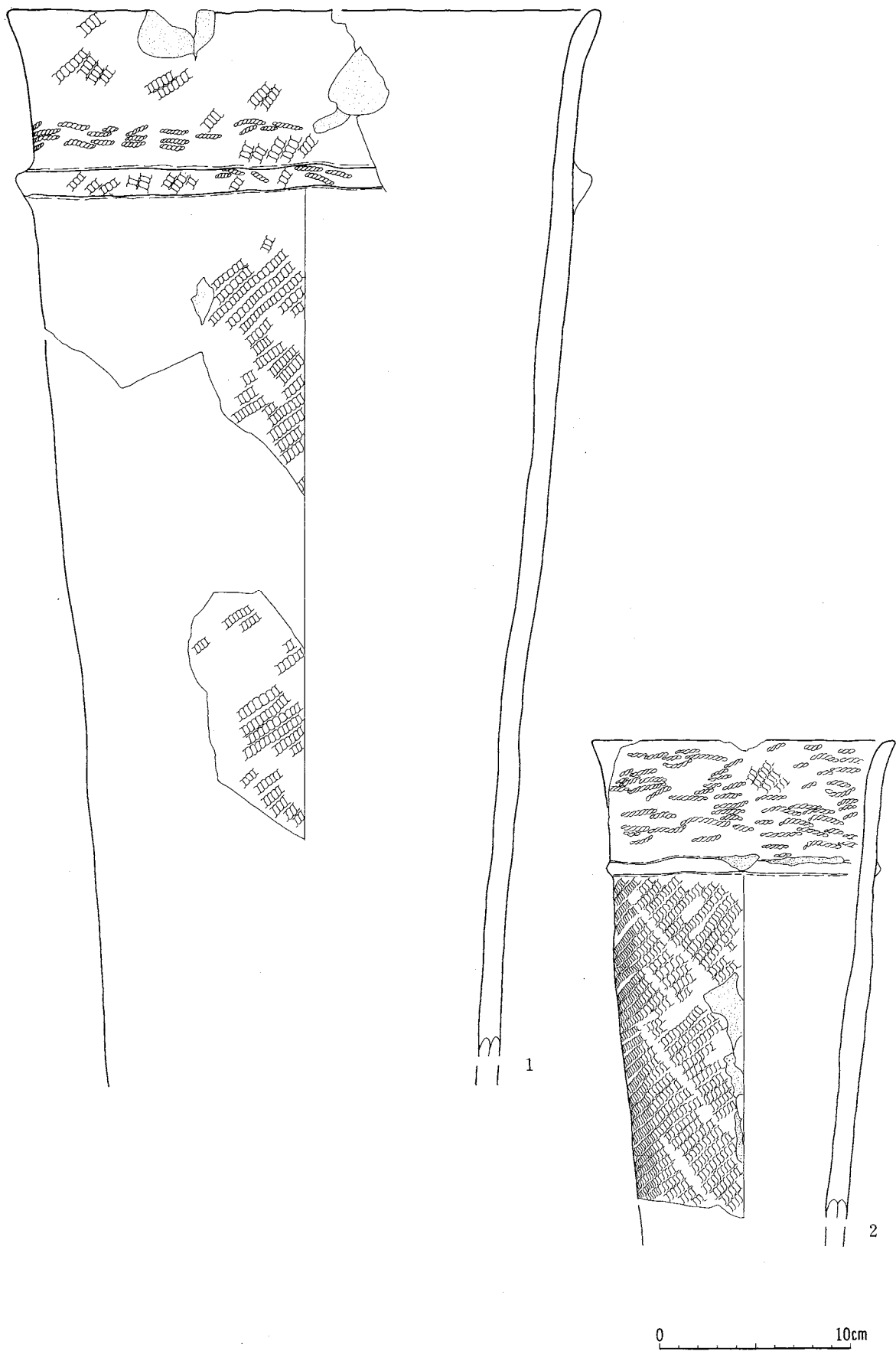


図171 B捨場（西捨場）出土土器⑭

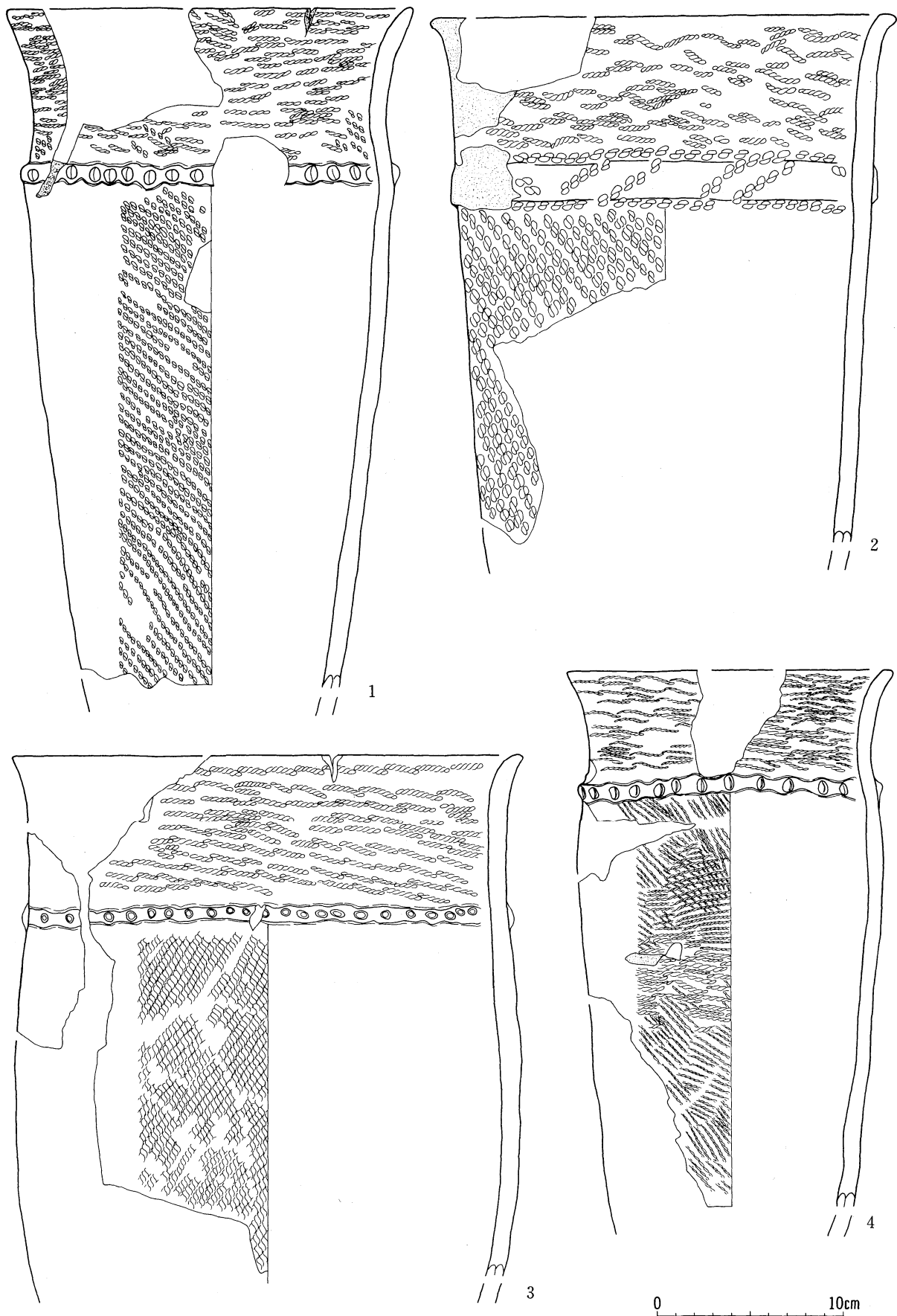


图172 B捨場（西捨場）出土土器⑮



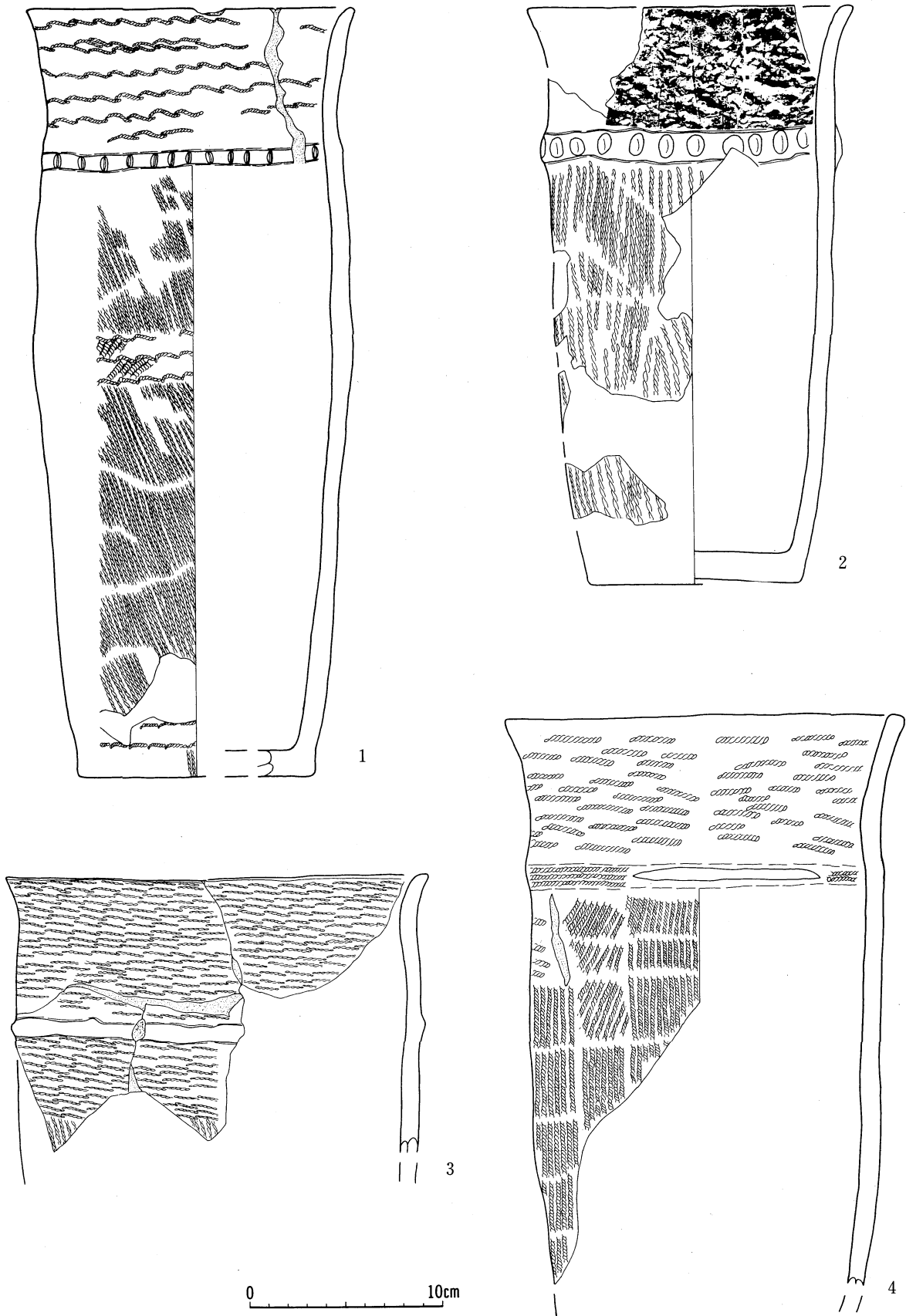


图173 B捨場（西捨場）出土土器⑬

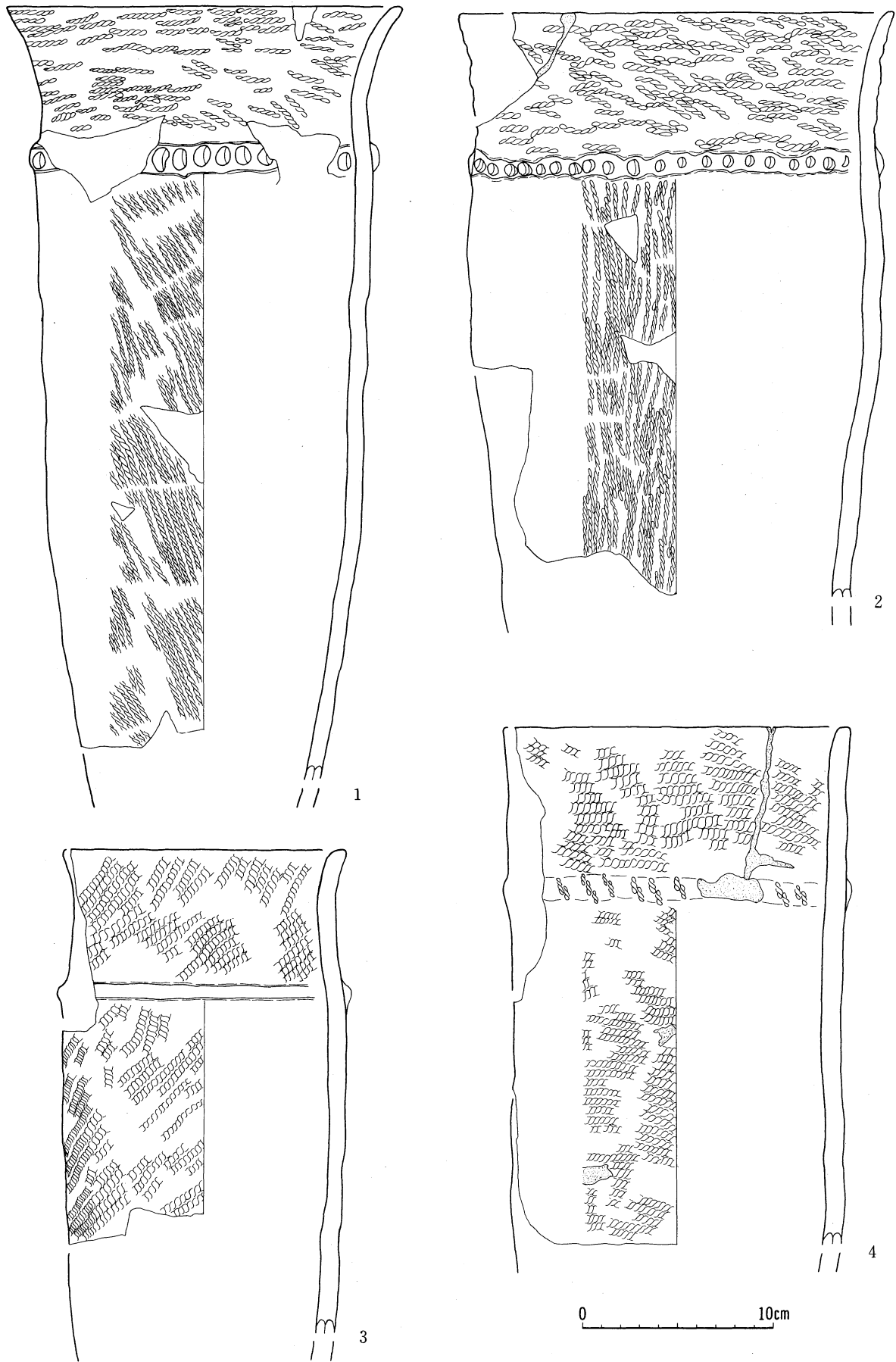


图174 B捨場（西捨場）出土土器⑰

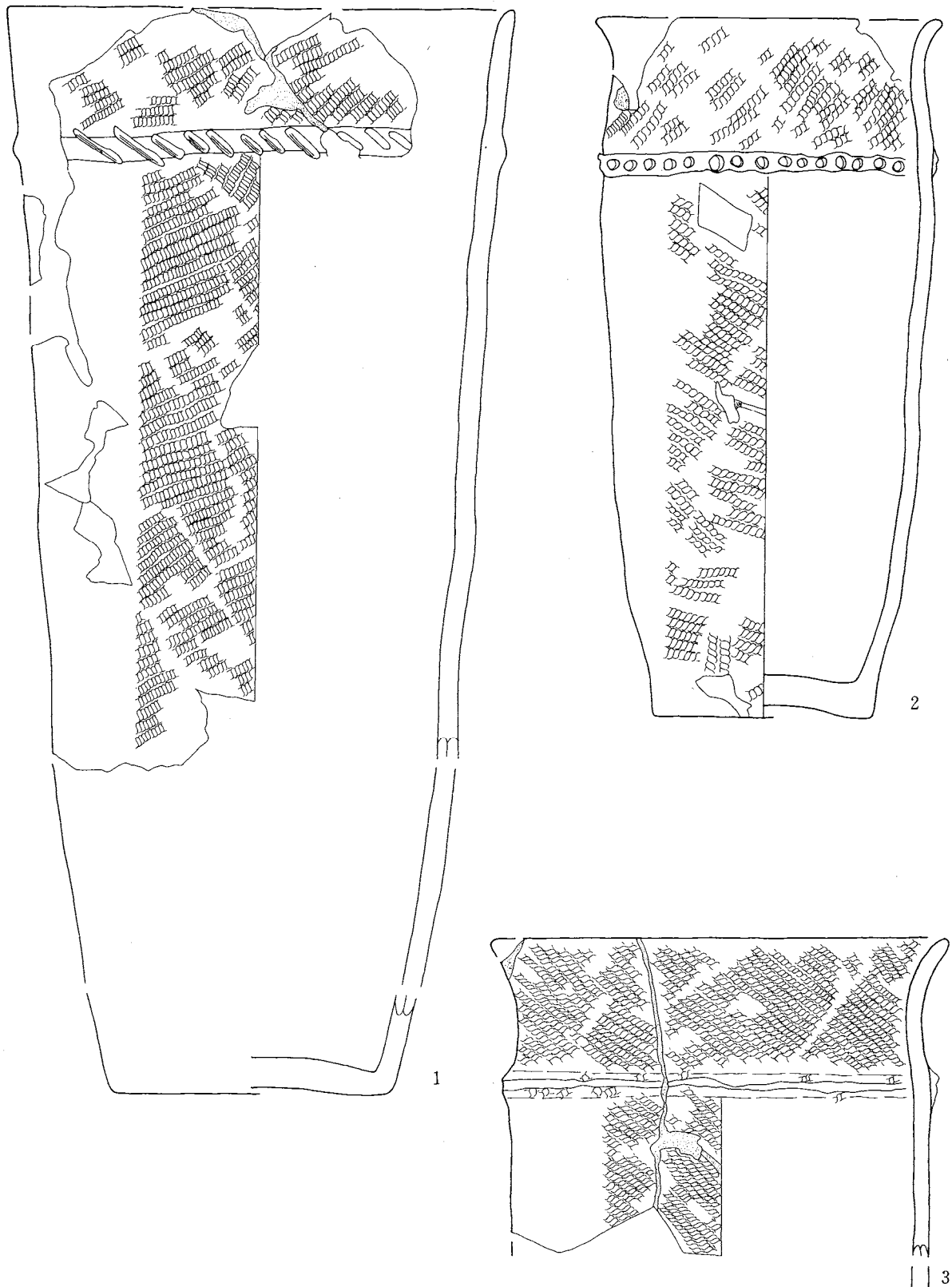


图175 B捨場（西捨場）出土土器⑱

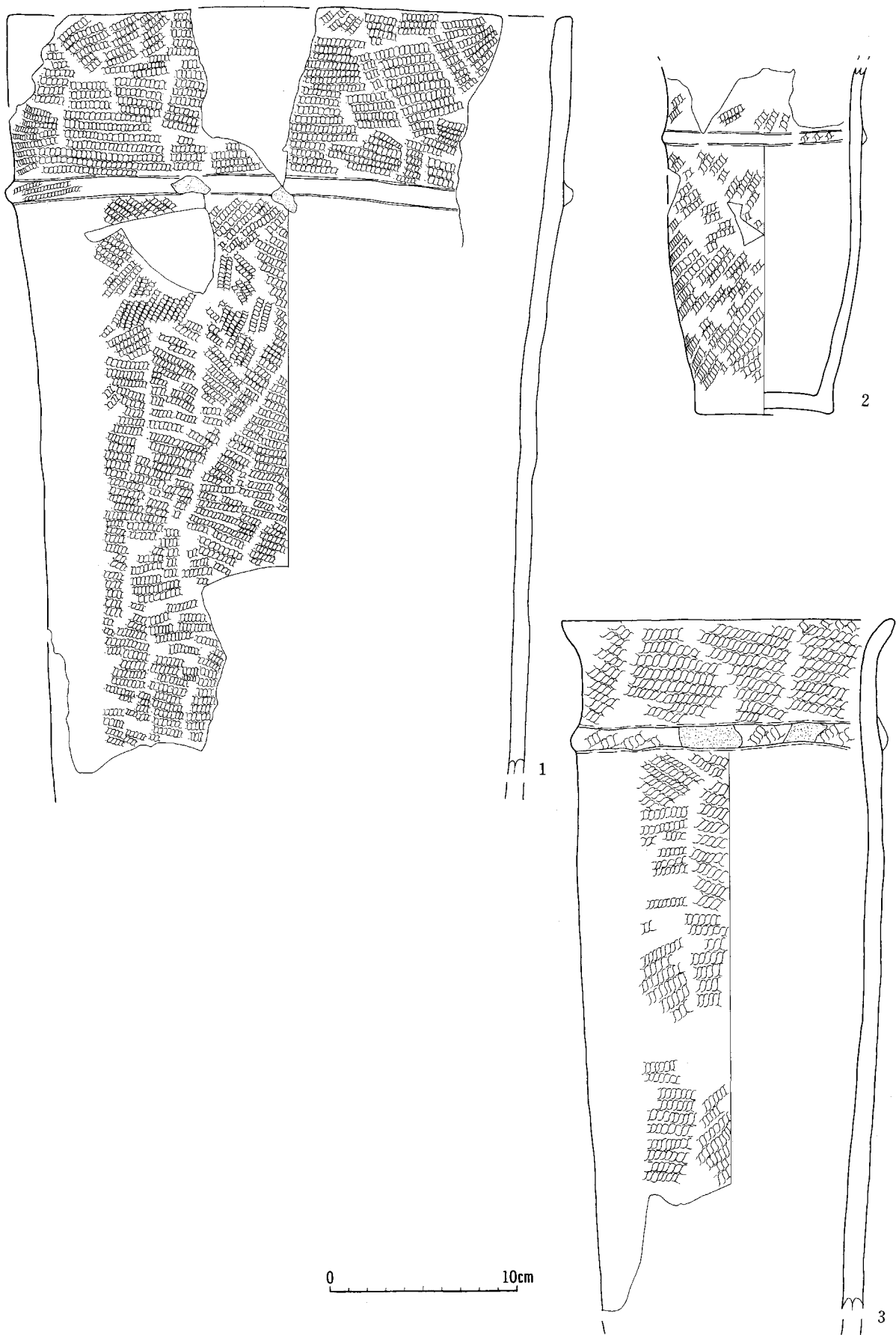


图176 B捨場（西捨場）出土土器⑱

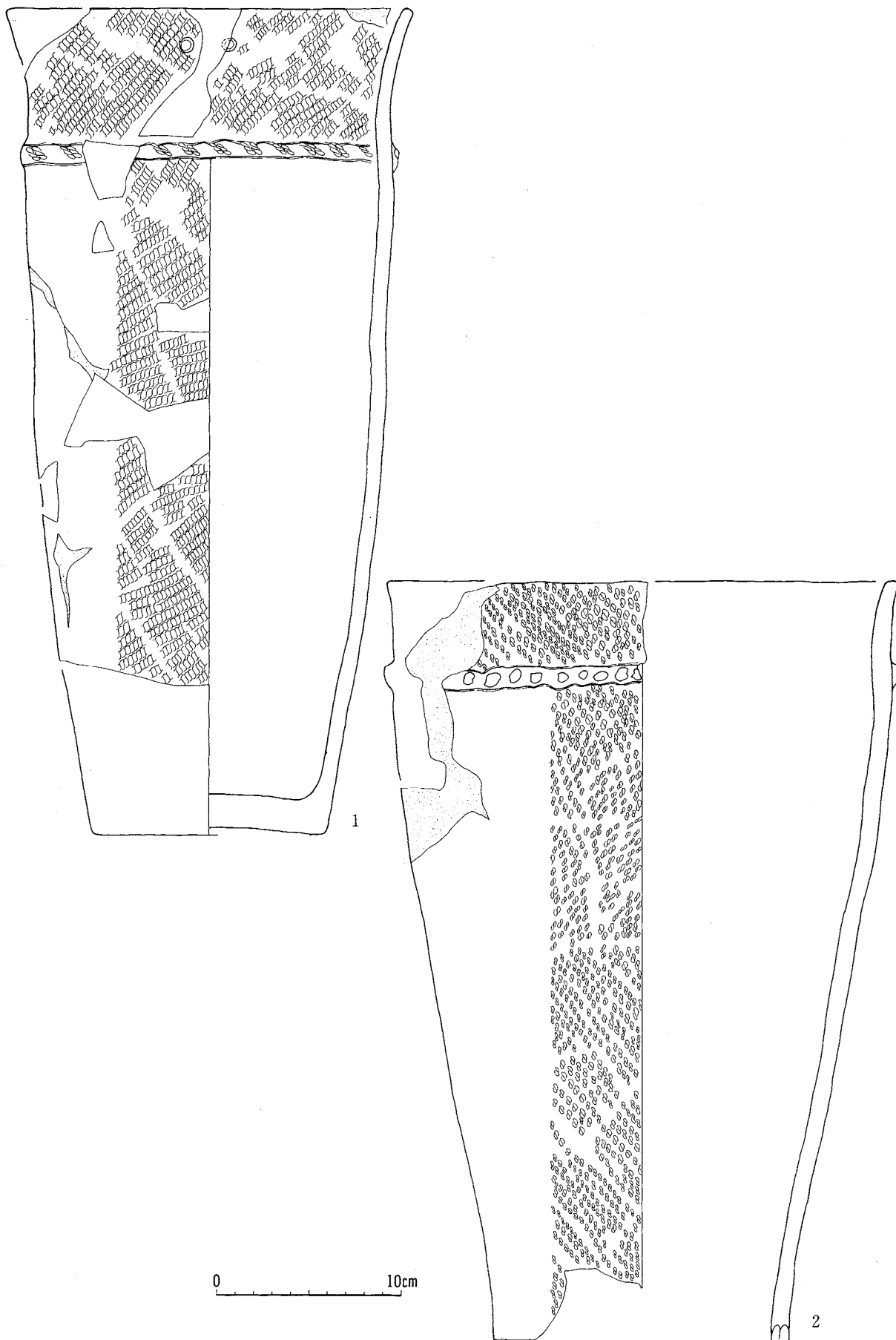


图177 B捨場（西捨場）出土土器②



图178 B捨場（西捨場）出土土器①

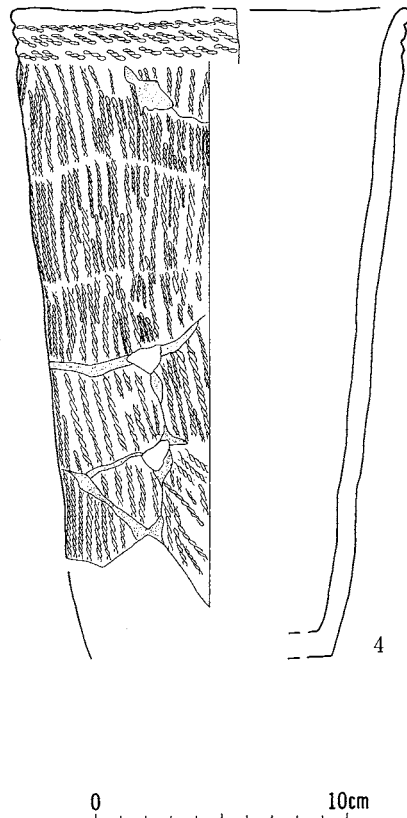
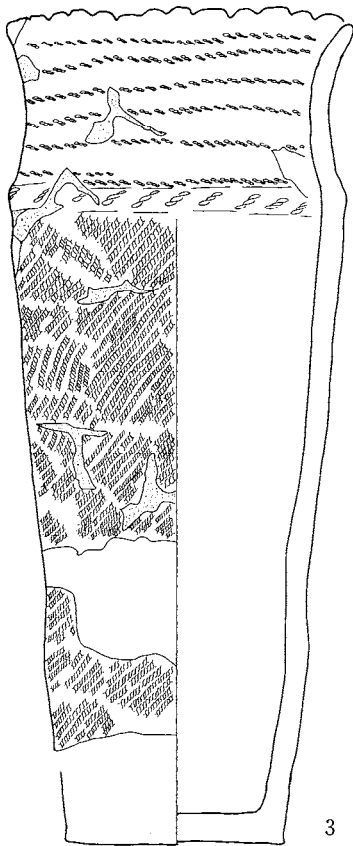
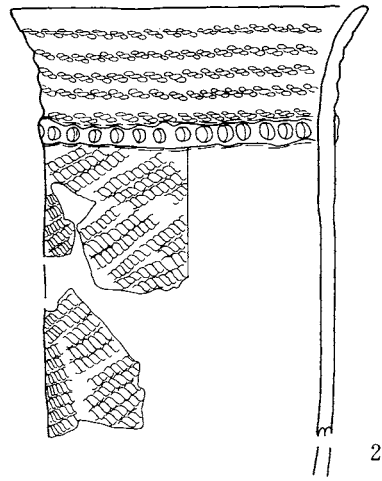
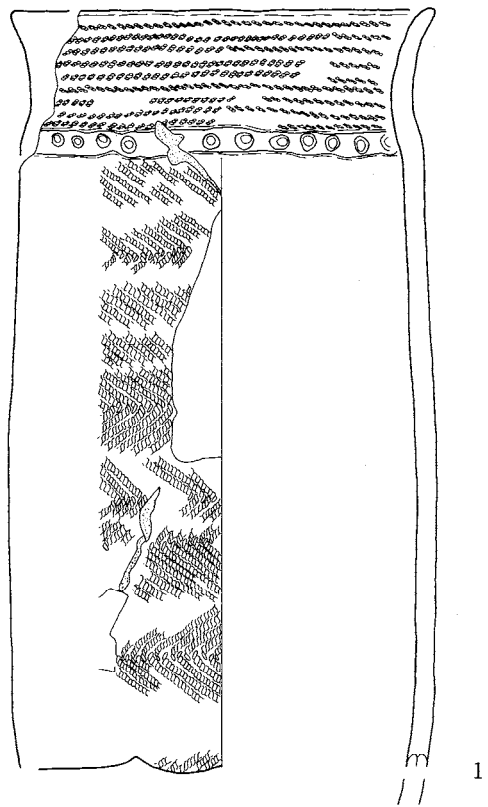


图179 B捨場（西捨場）出土土器②

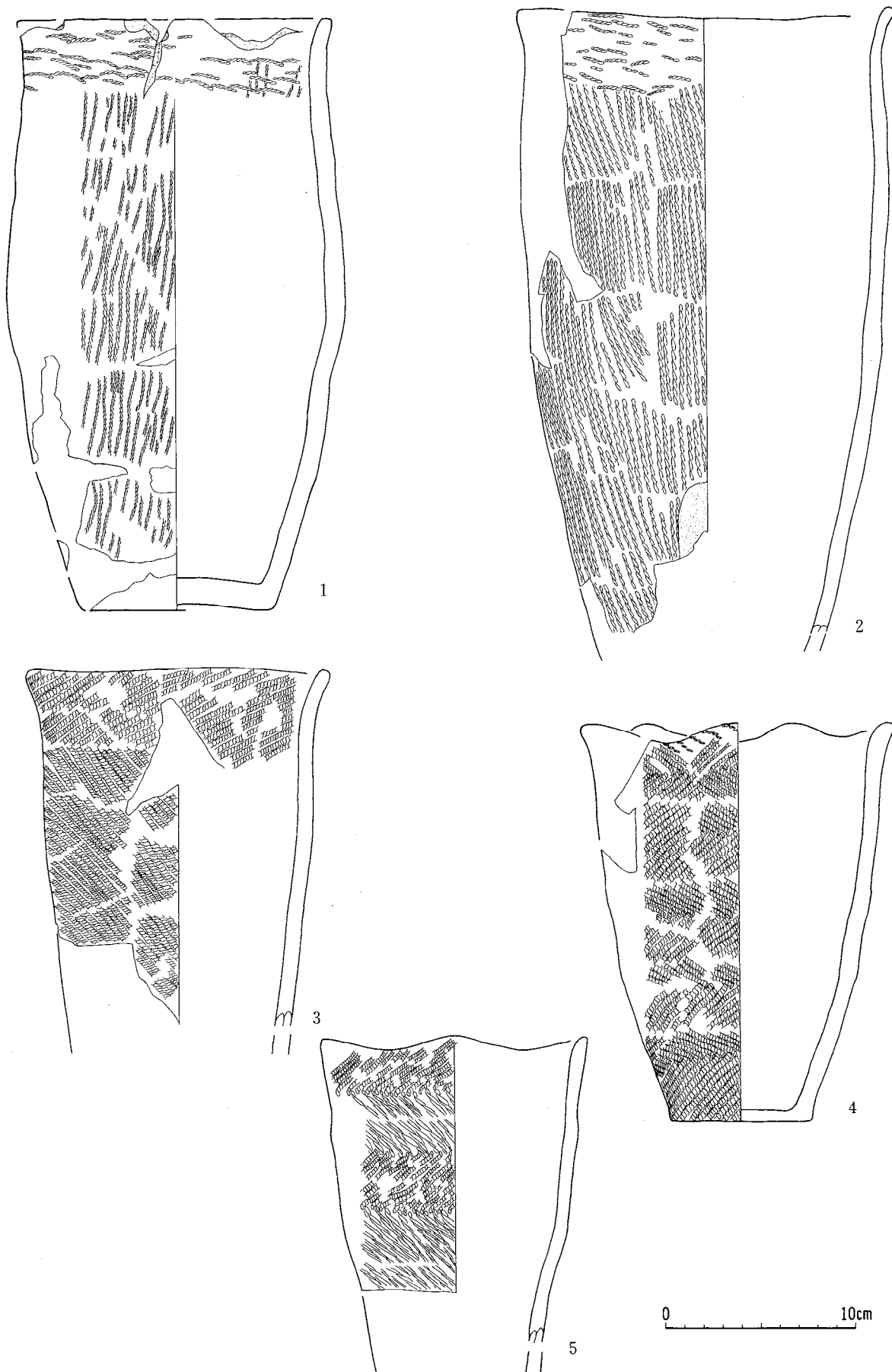
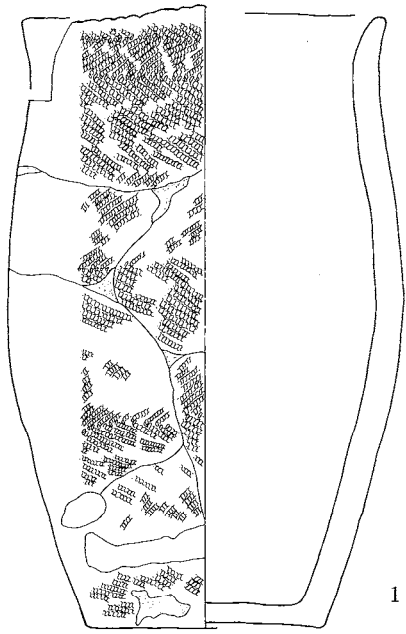
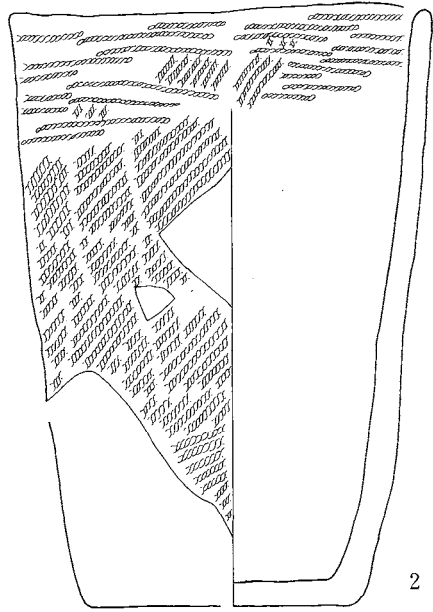


图180 B捨場（西捨場）出土土器②③

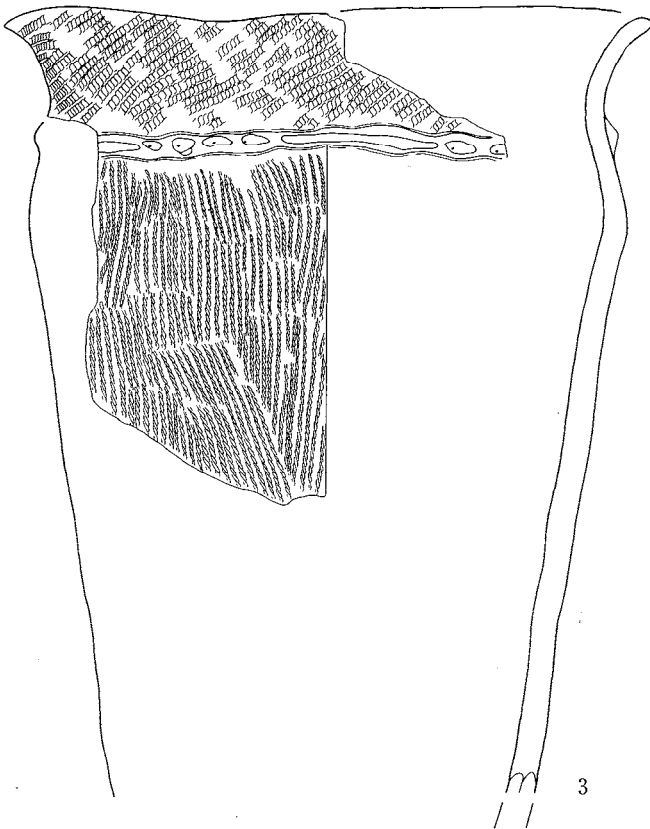




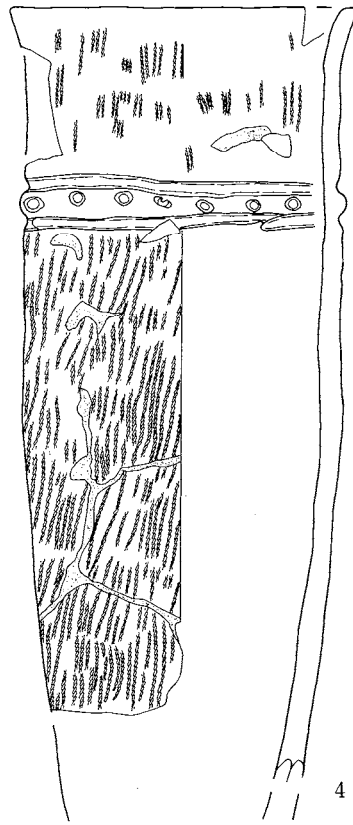
1



2



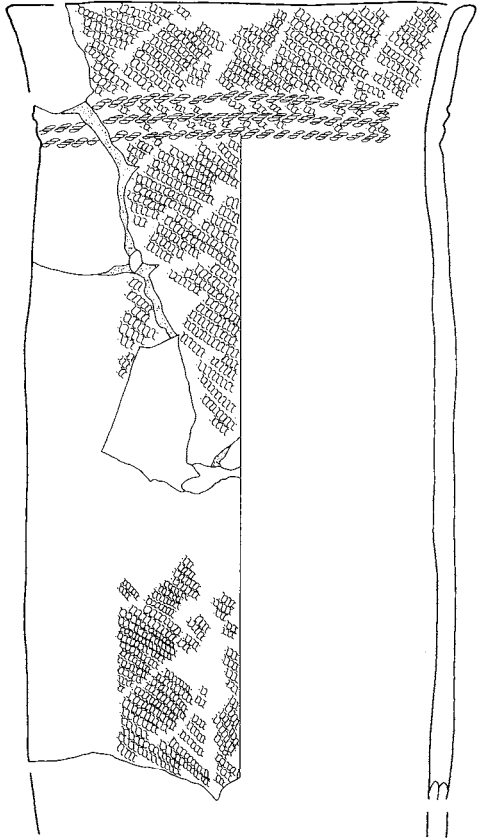
3



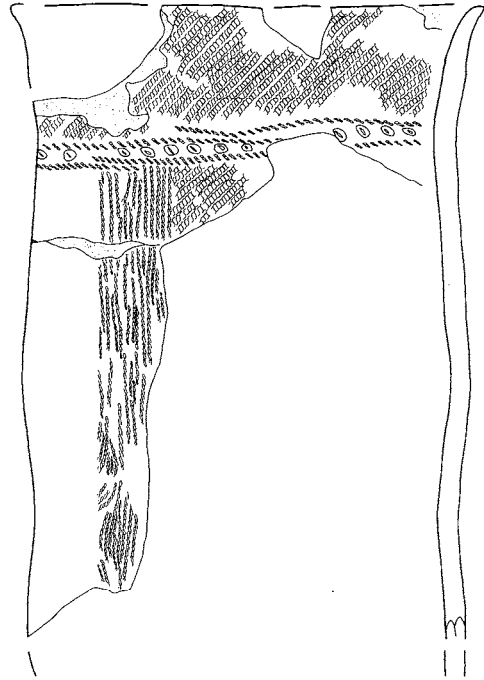
4

0 10cm

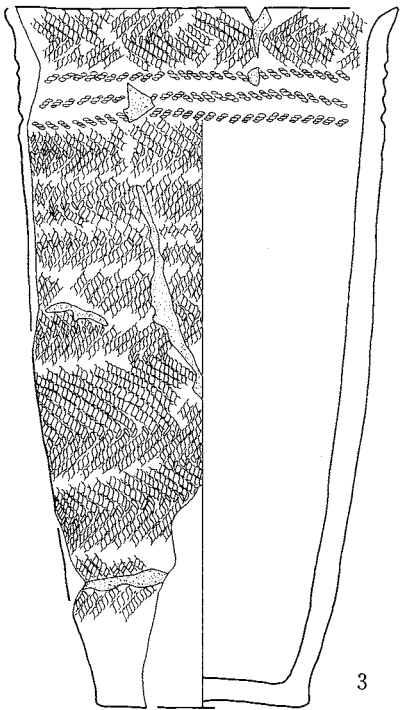
图181 B捨場（西捨場）出土土器④



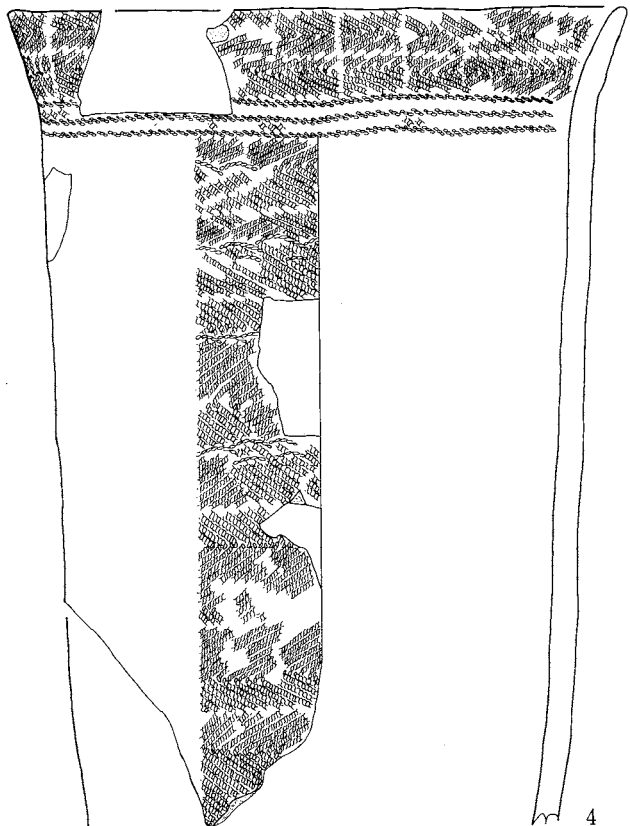
1



2



3



4

0 10cm

图182 B捨場 (西捨場) 出土土器②

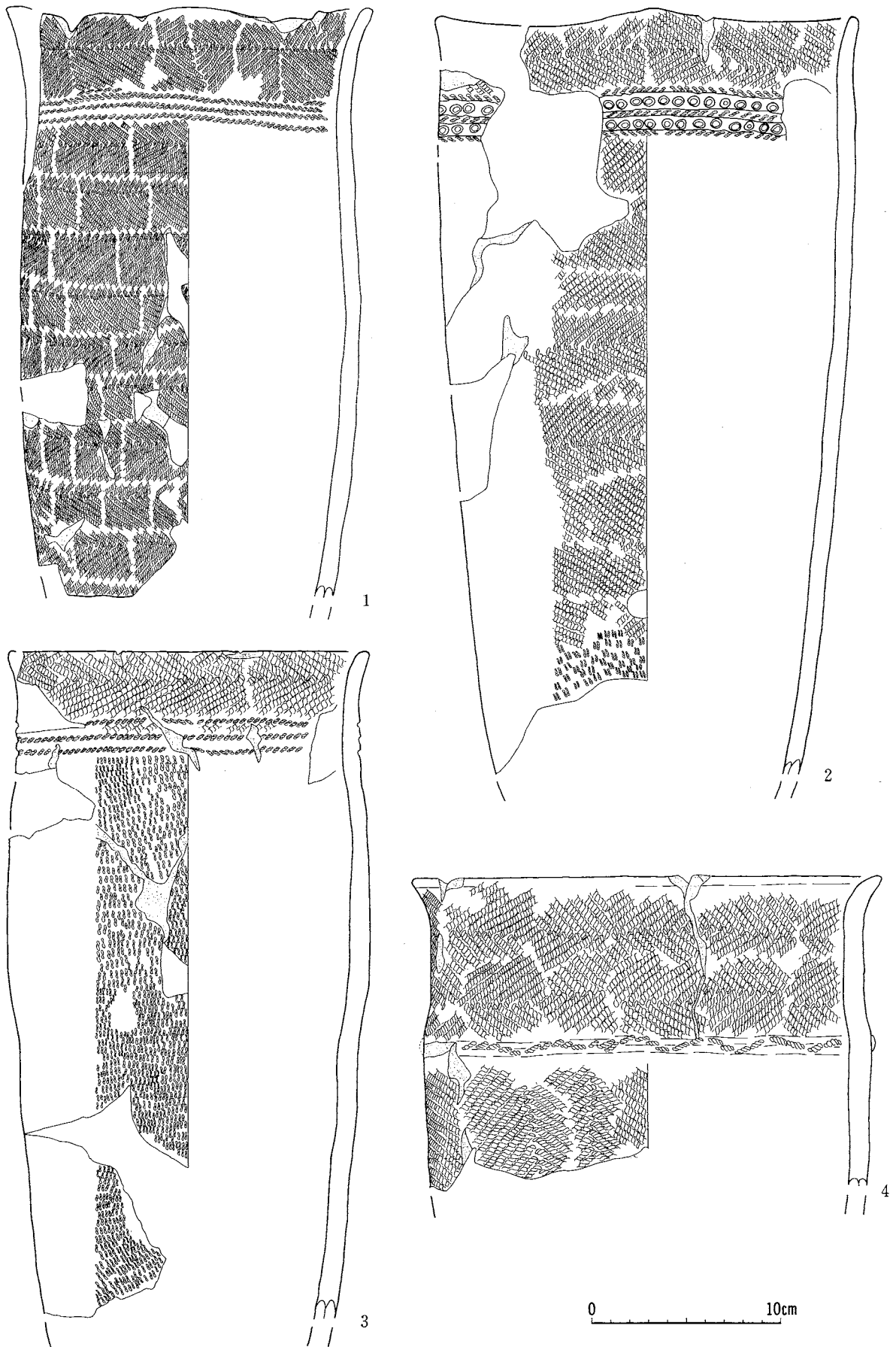


图183 B捨場（西捨場）出土土器②

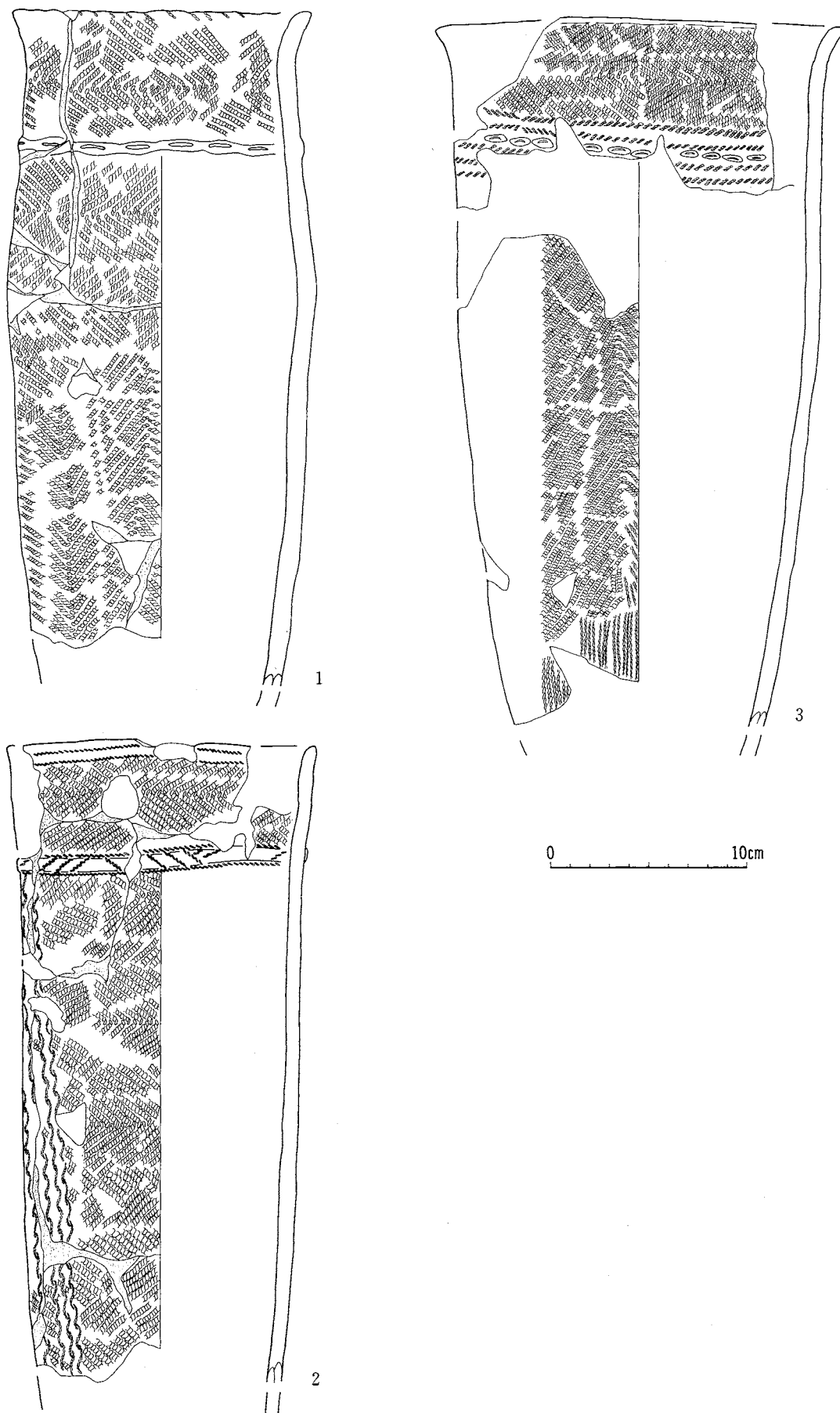
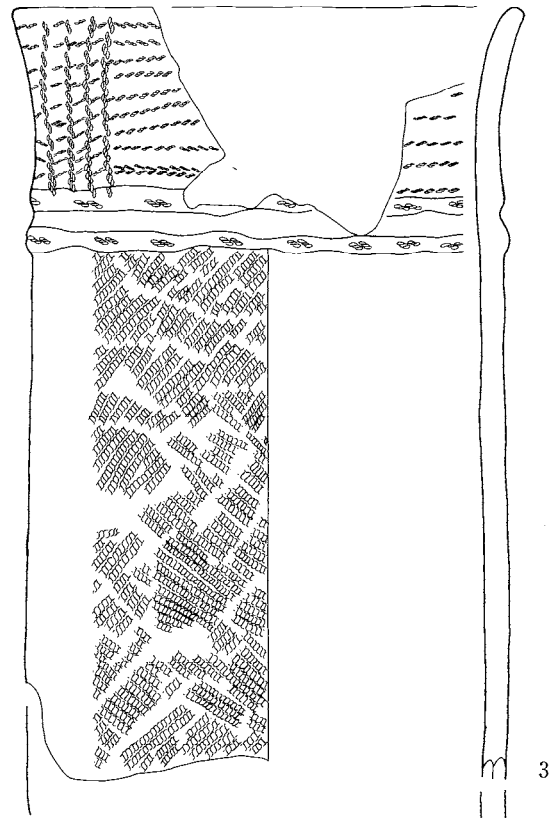
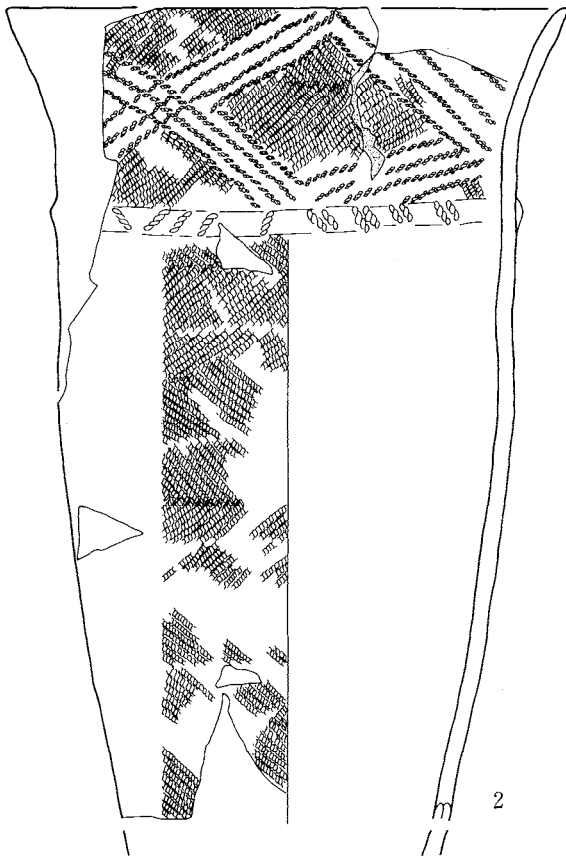
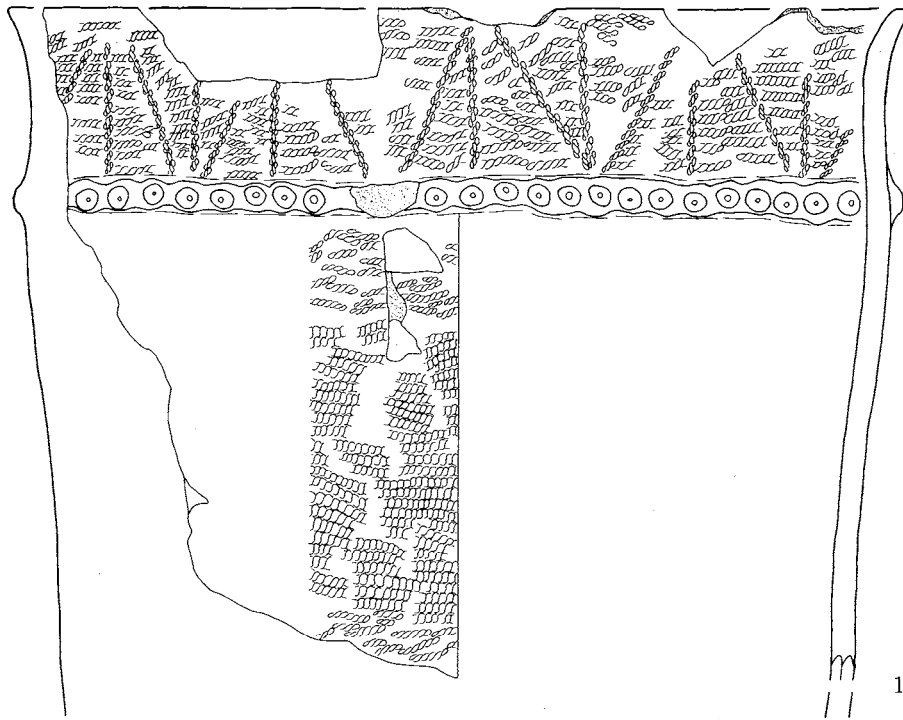


图184 B捨場（西捨場）出土土器①



0 10cm

图185 B捨場（西捨場）出土土器②

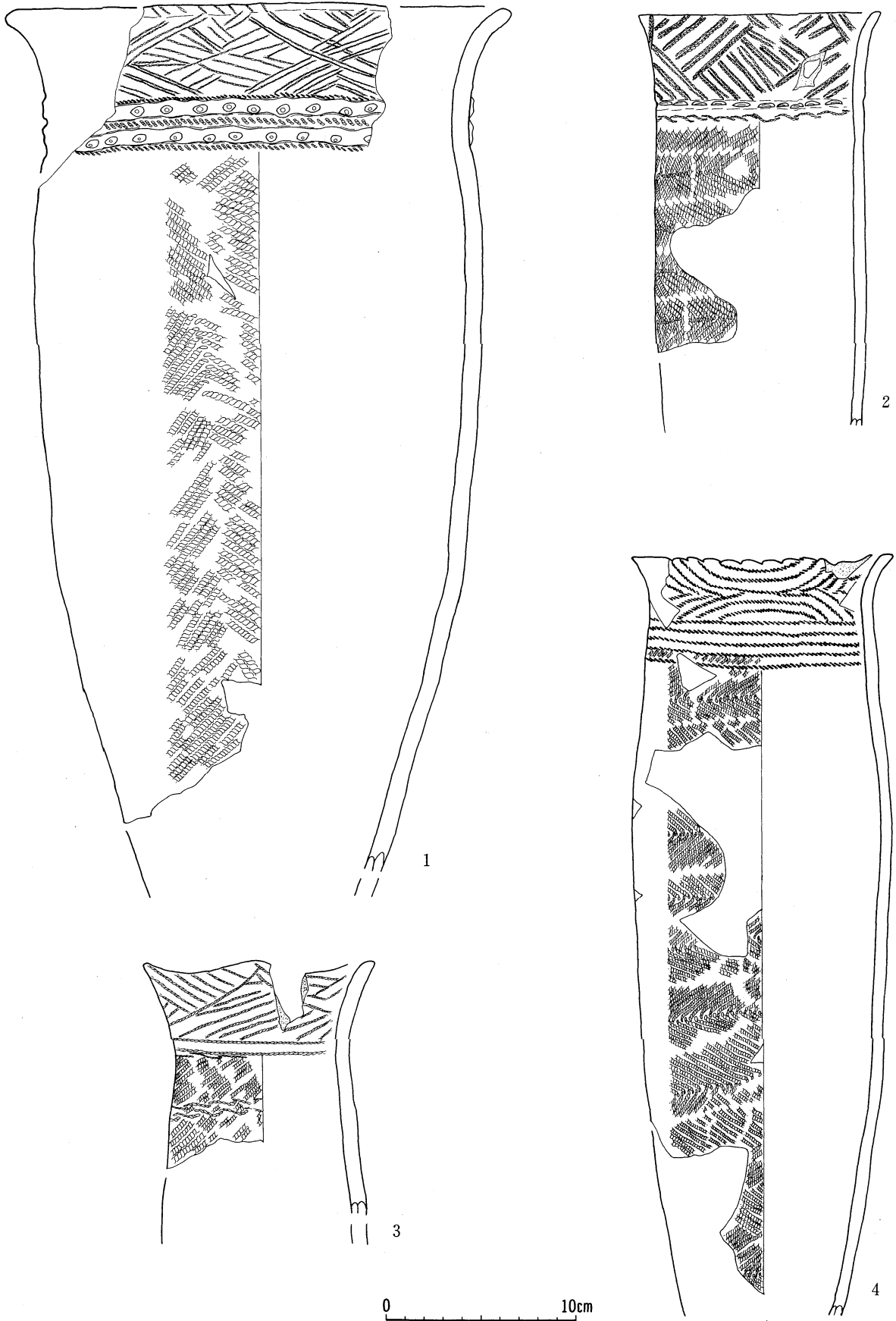


图186 B捨場（西捨場）出土土器②

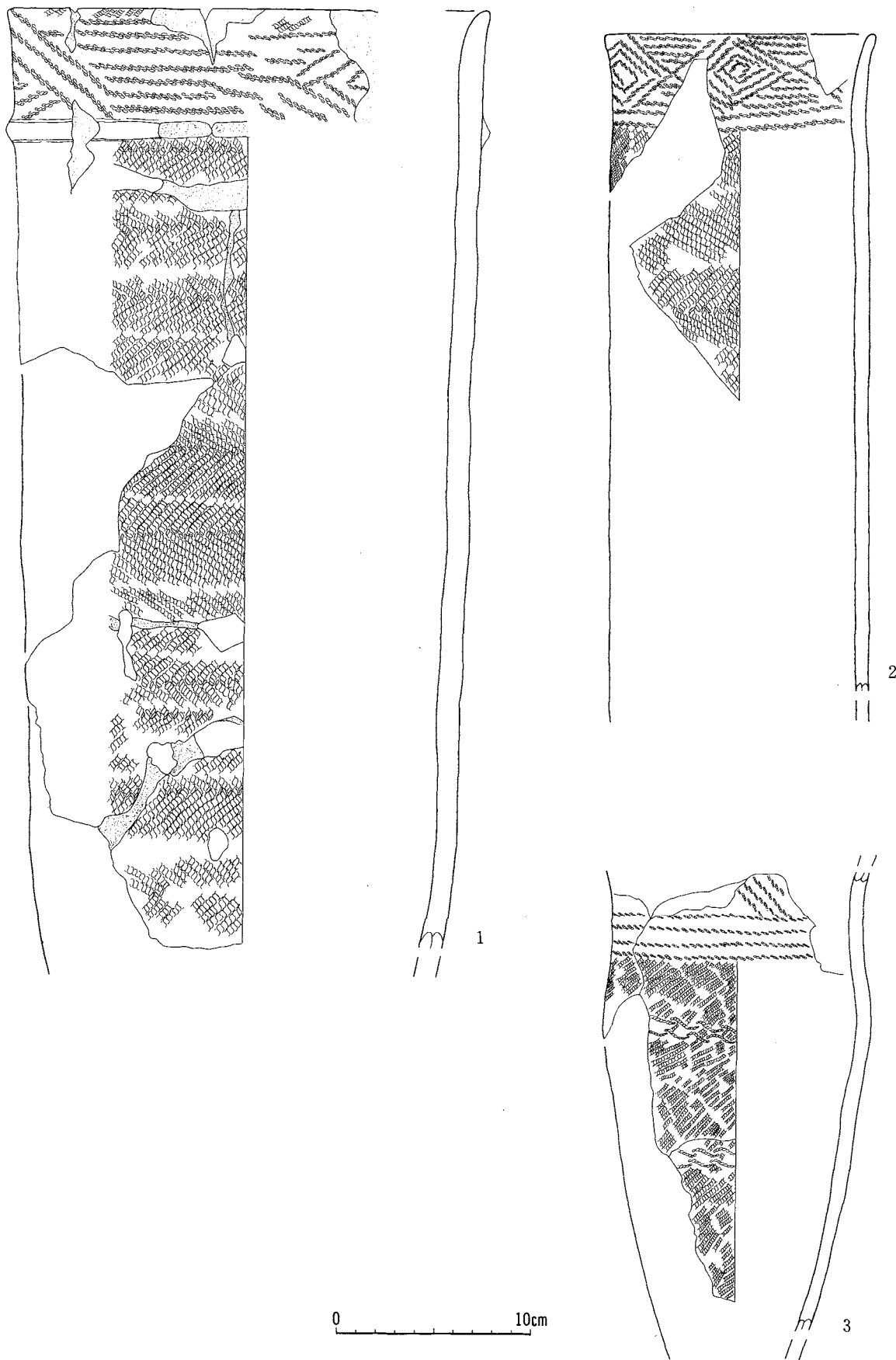


图187 B捨場（西捨場）出土土器⑩

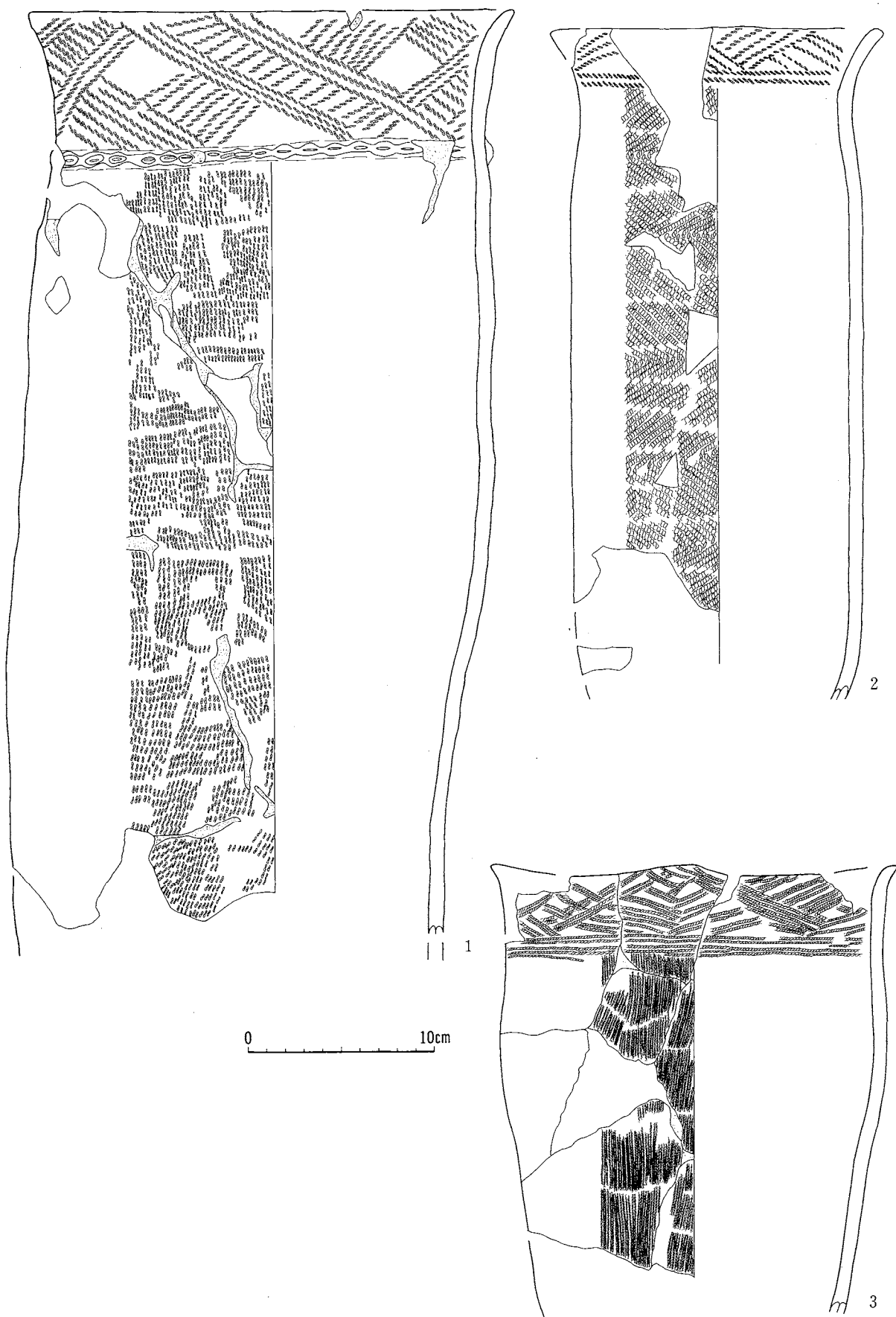


图188 B捨場（西捨場）出土土器①



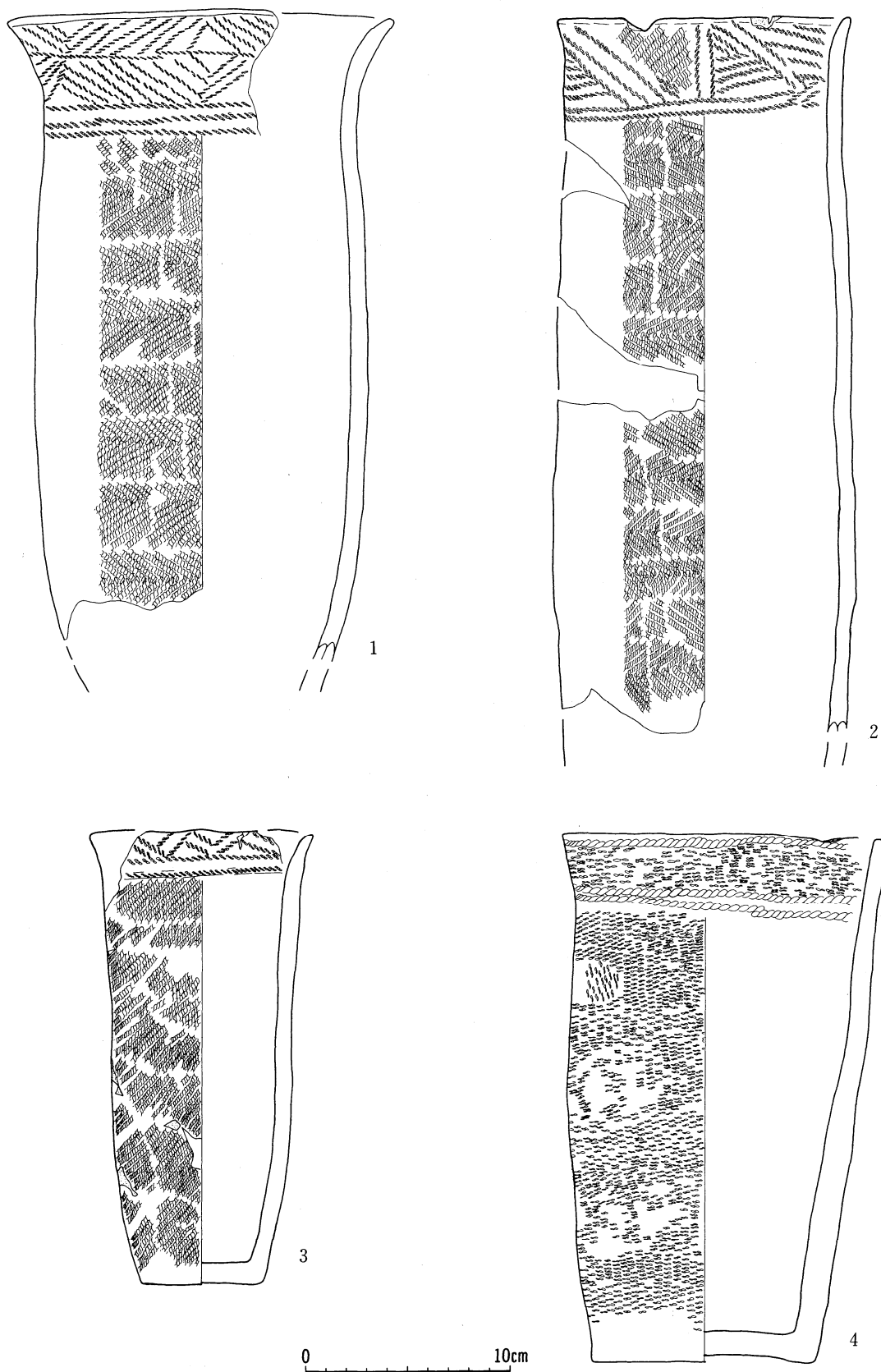


图189 B捨場（西捨場）出土土器③②



图190 B捨場（西捨場）出土土器③③

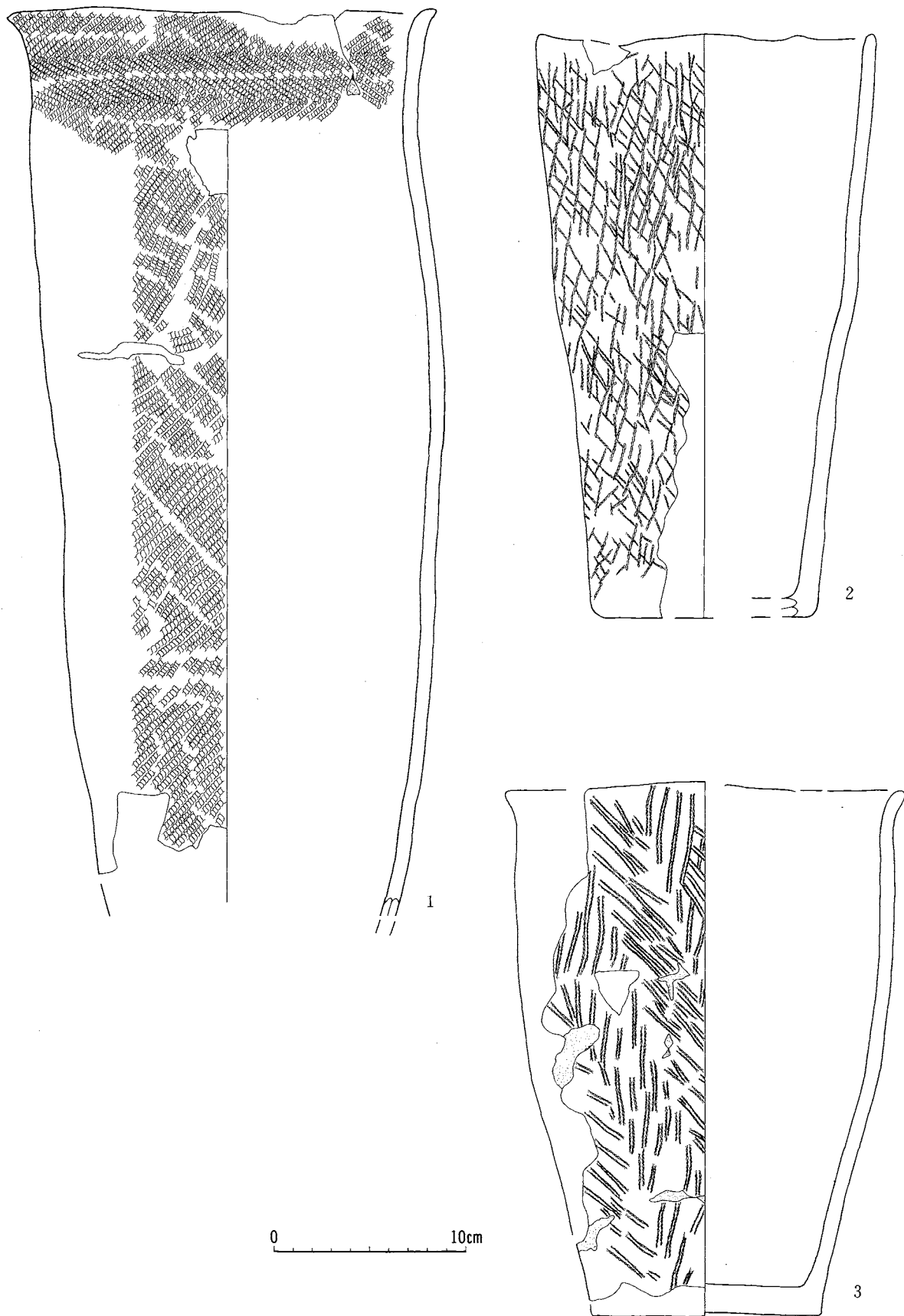


图191 B捨場（西捨場）出土土器③

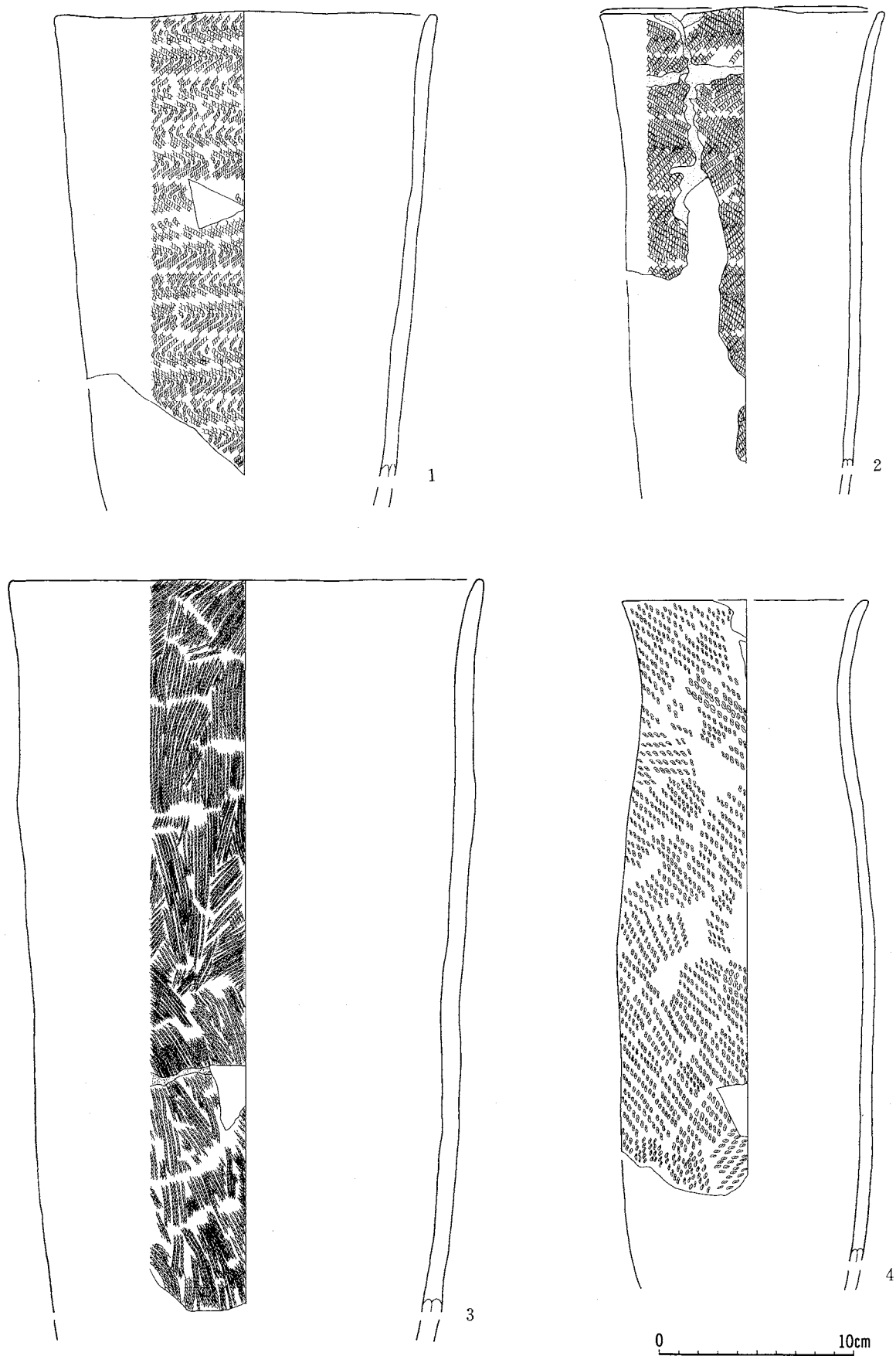


图192 B捨場（西捨場）出土土器③⑤

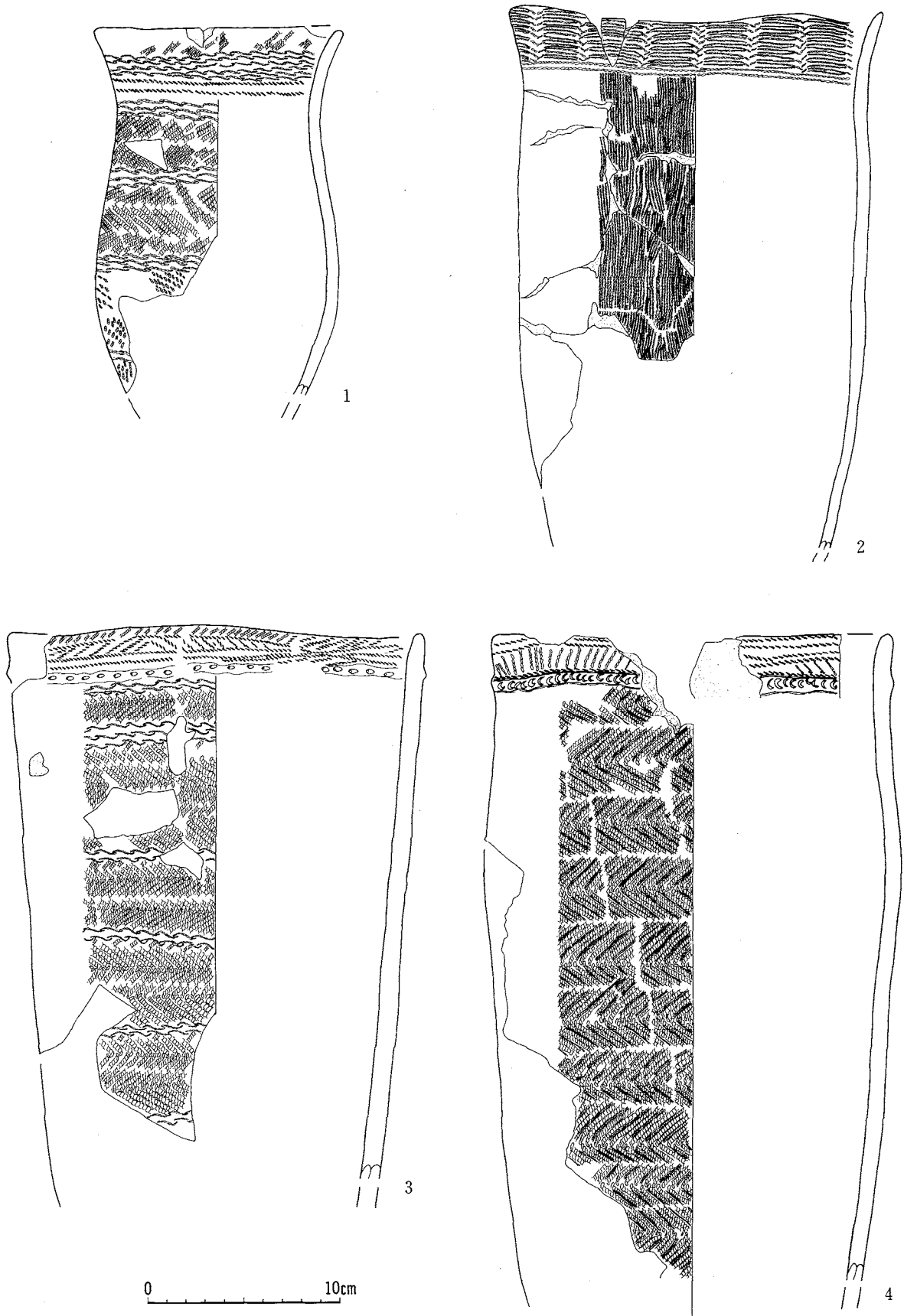


图193 B捨場（西捨場）出土土器③⑥

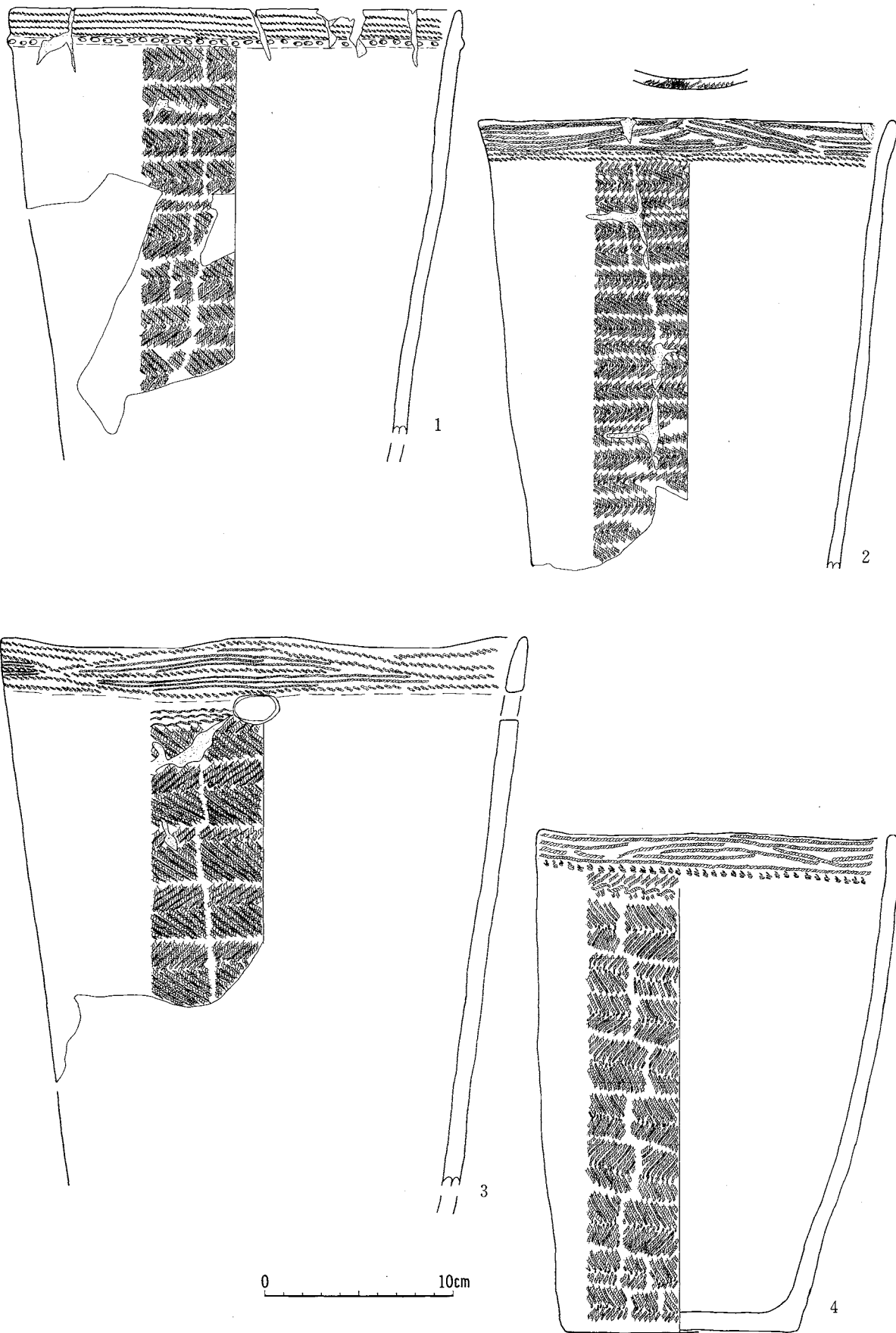


图194 B捨場（西捨場）出土土器①②③④

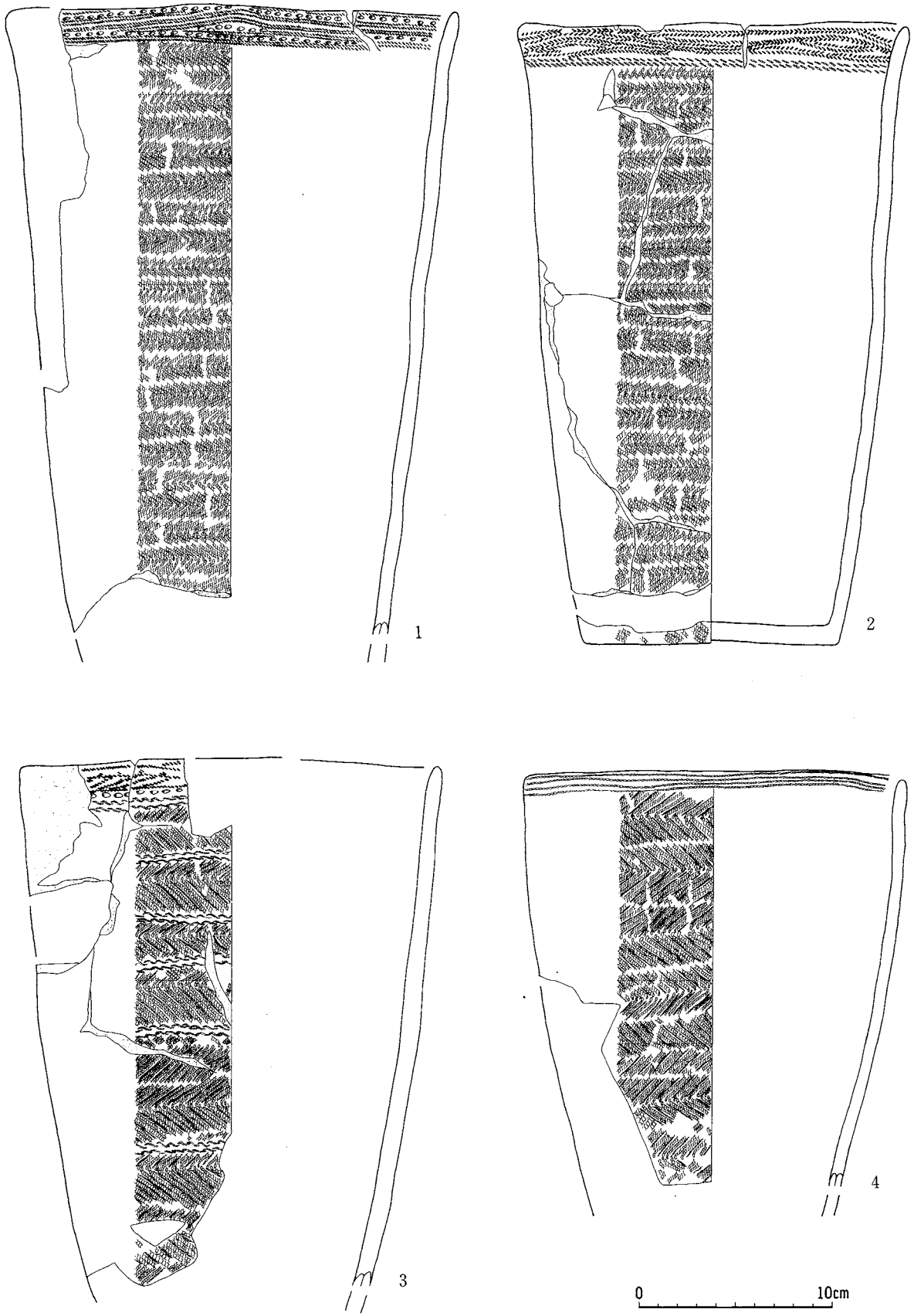


图195 B捨場（西捨場）出土土器③⑧

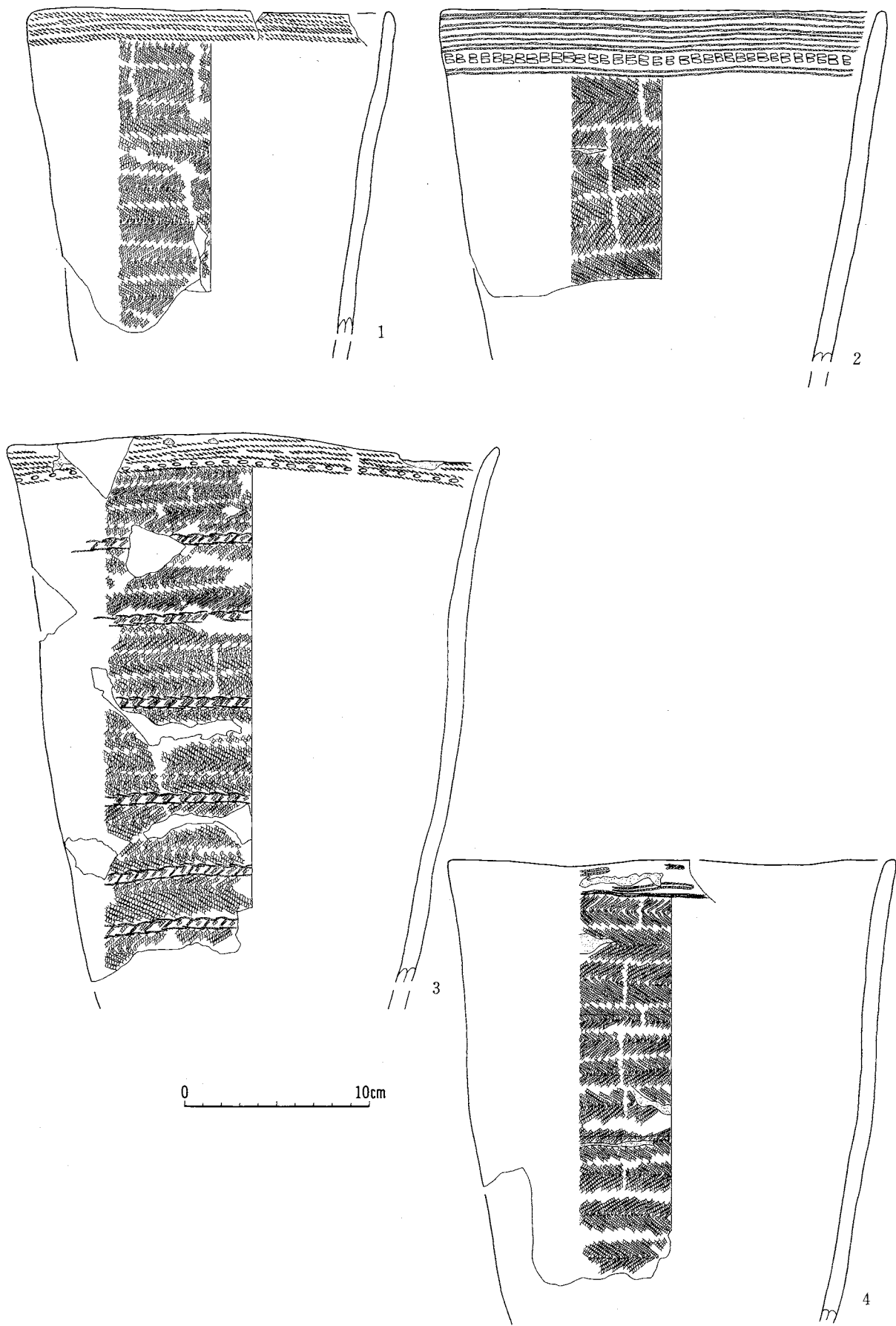


图196 B捨場（西捨場）出土土器③



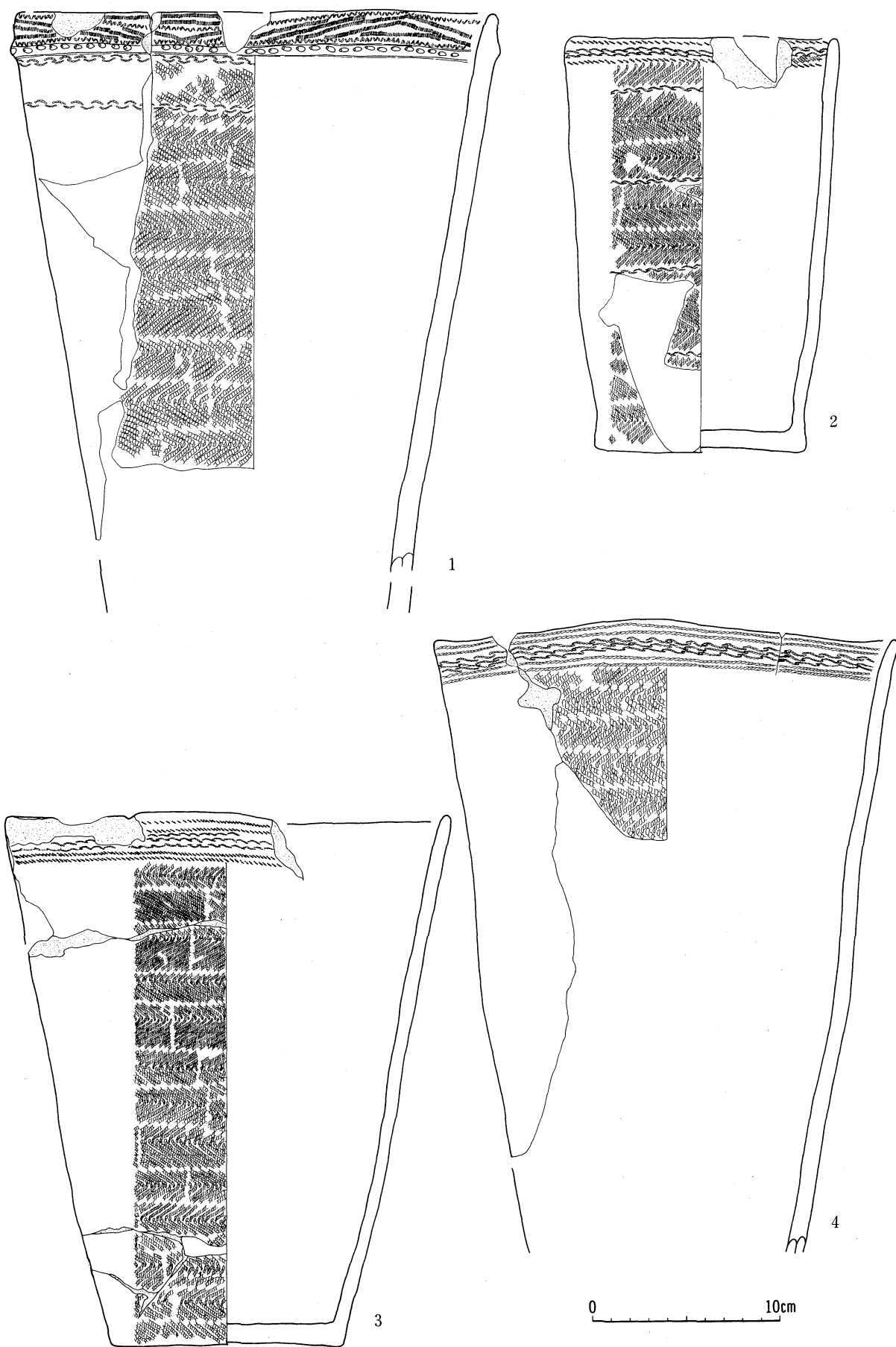


图197 B捨場（西捨場）出土土器④

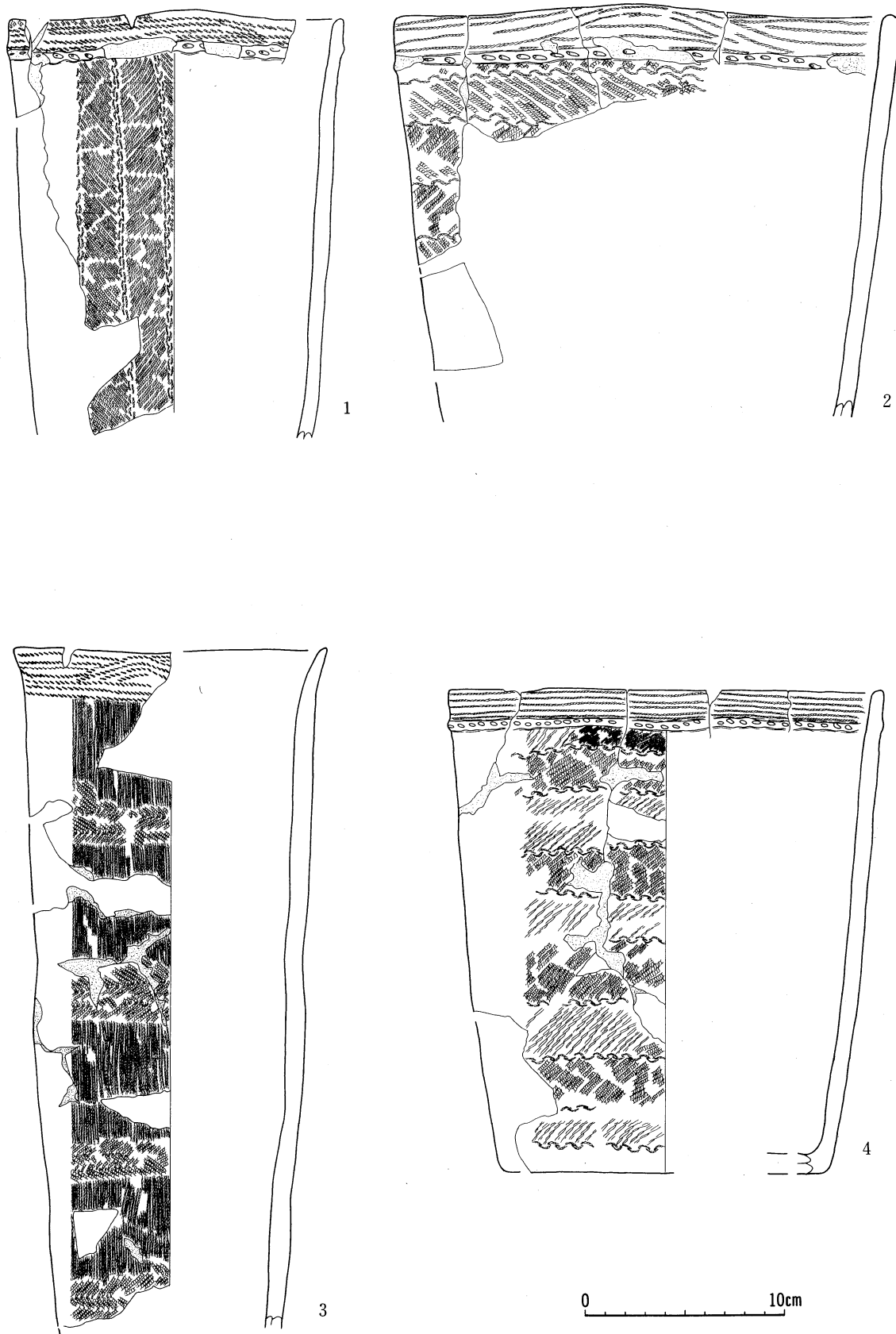


图198 B捨場（西捨場）出土土器④

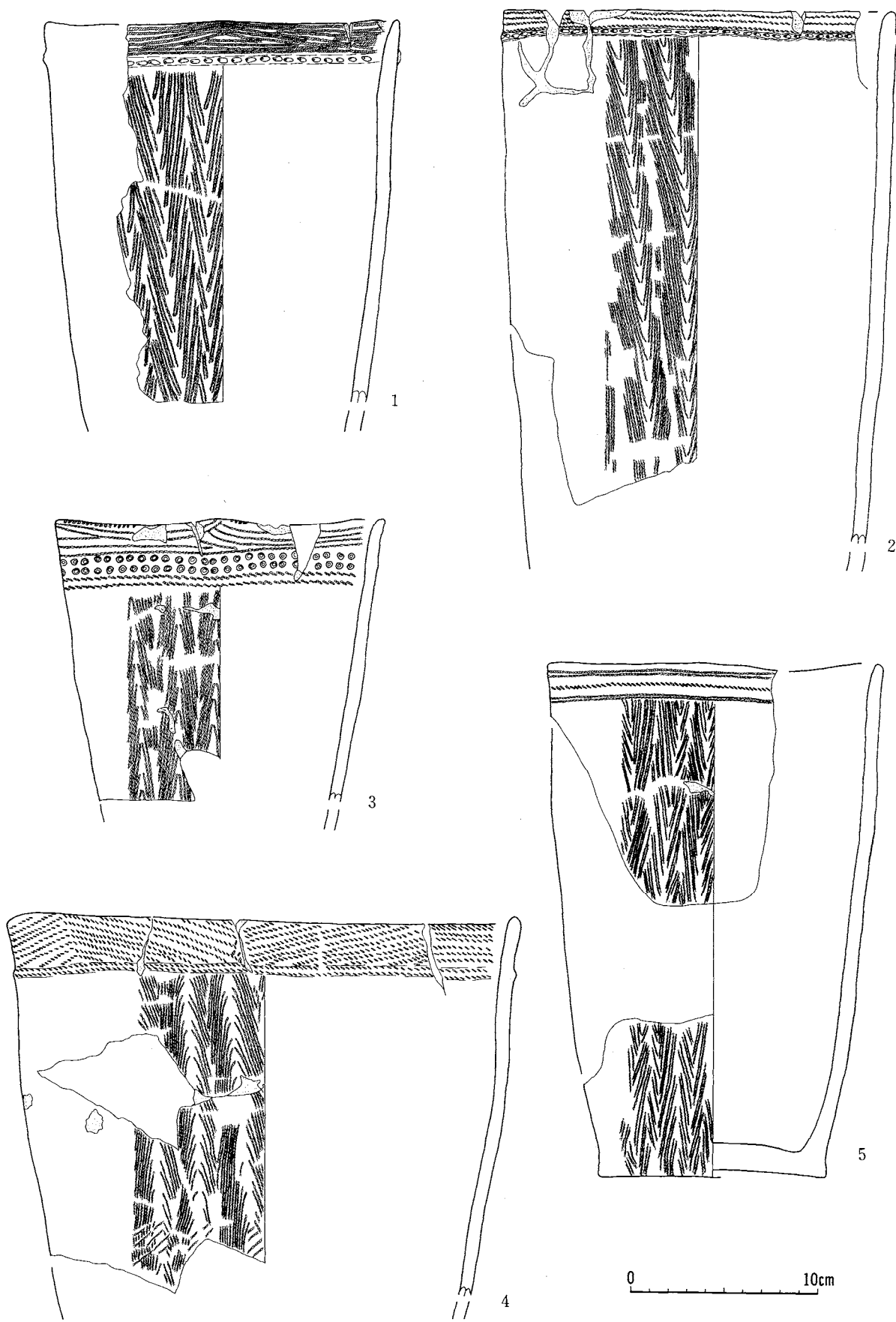


图199 B捨場（西捨場）出土土器④

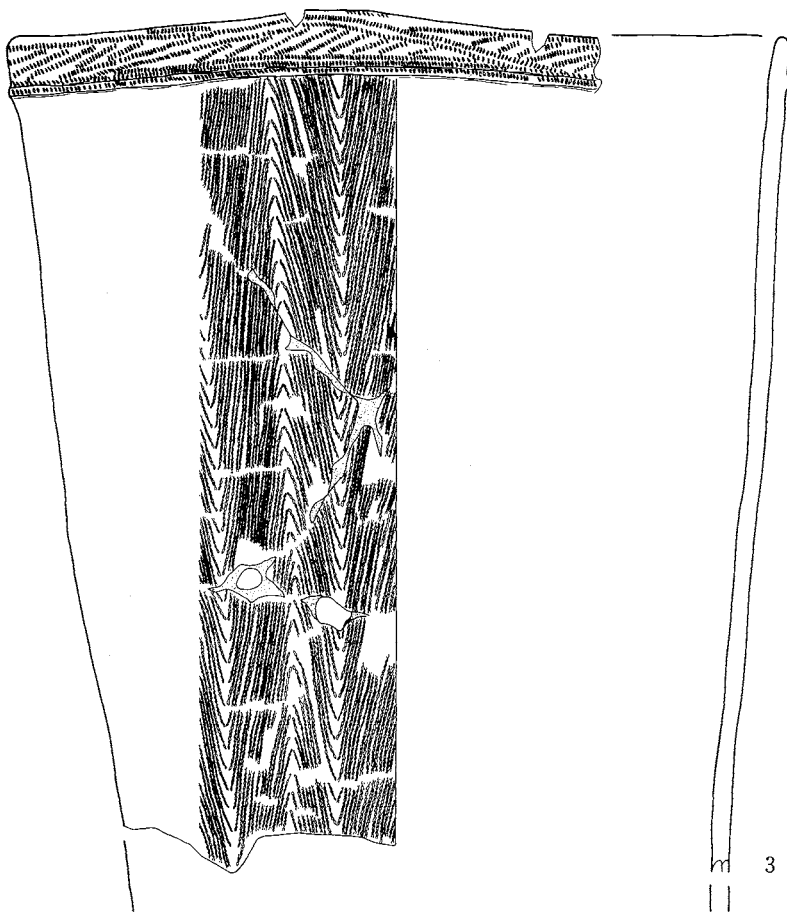
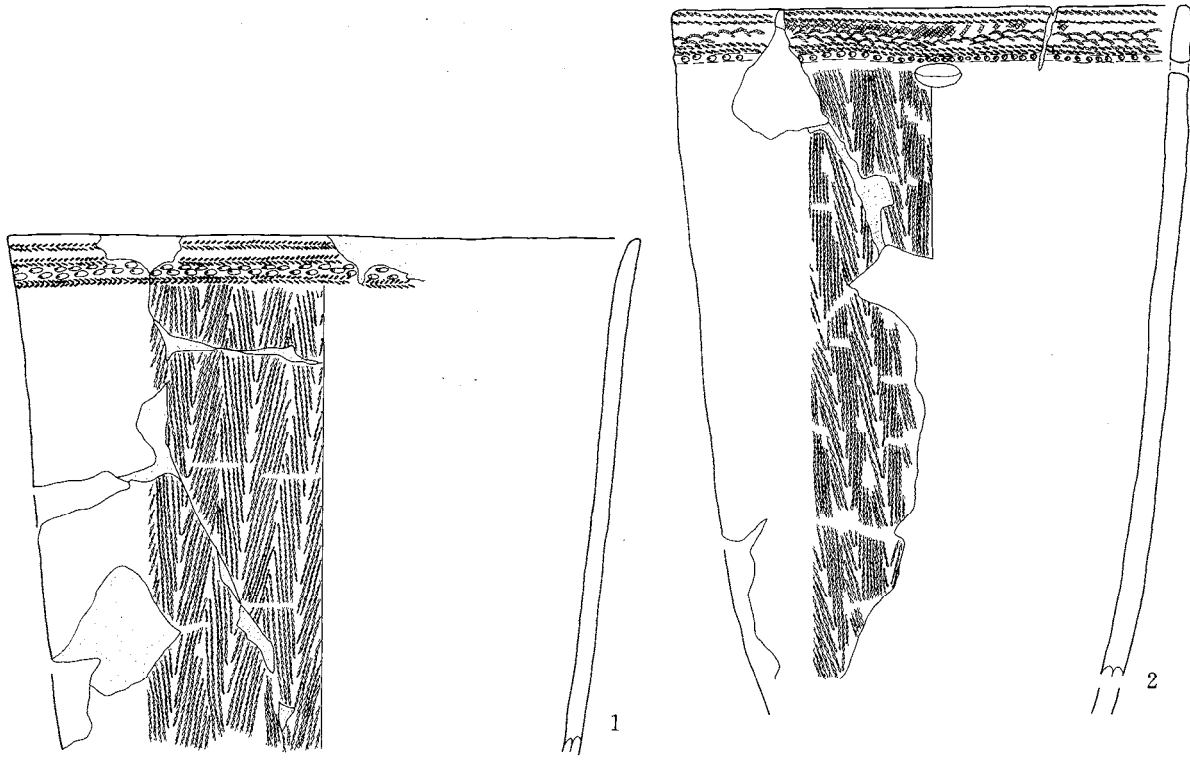


图200 B捨場（西捨場）出土土器④

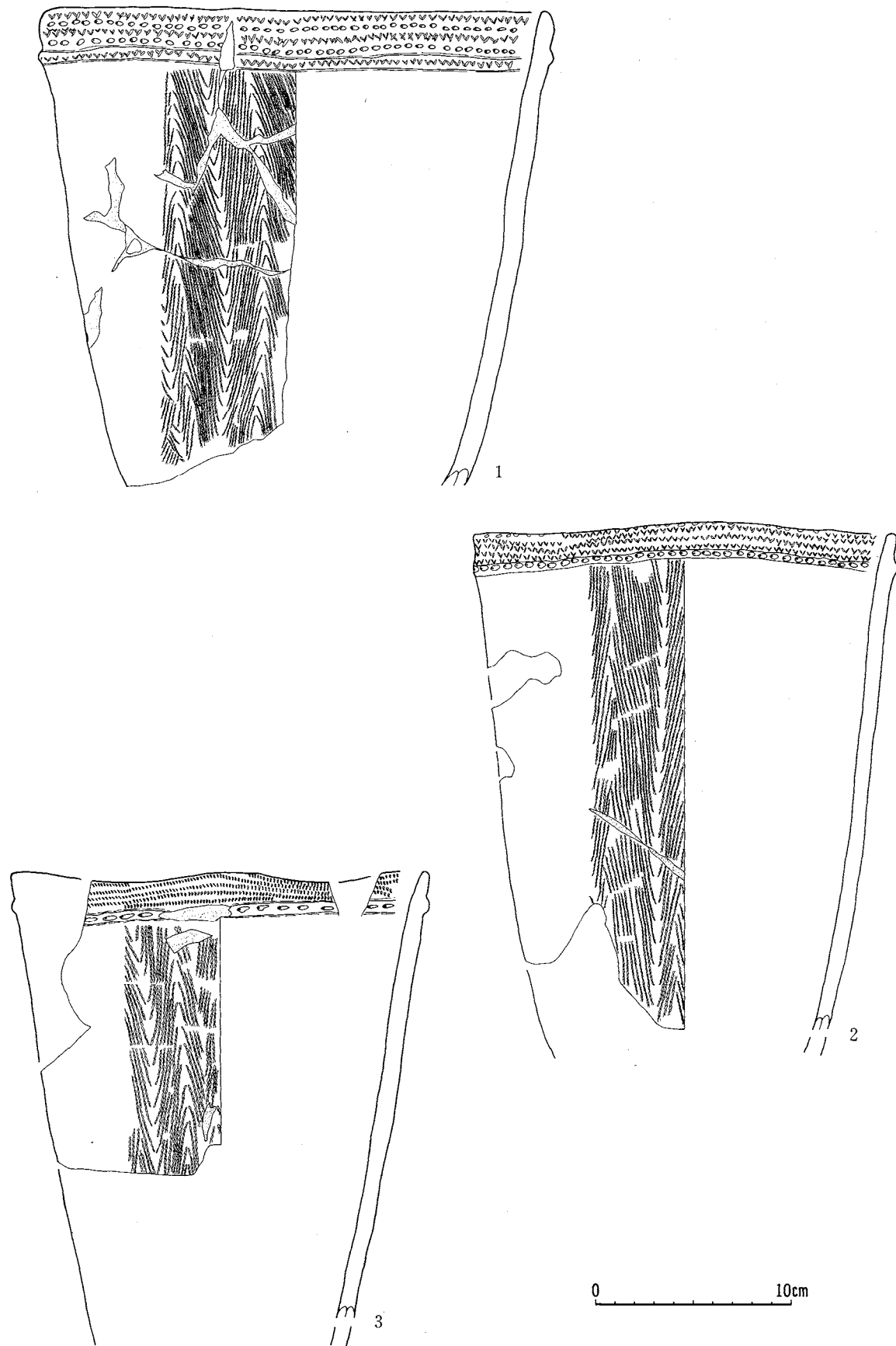
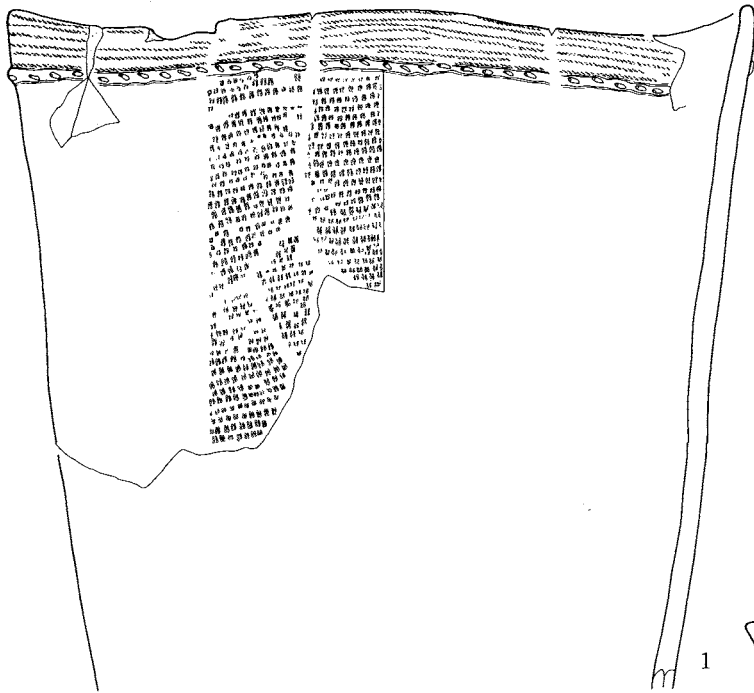
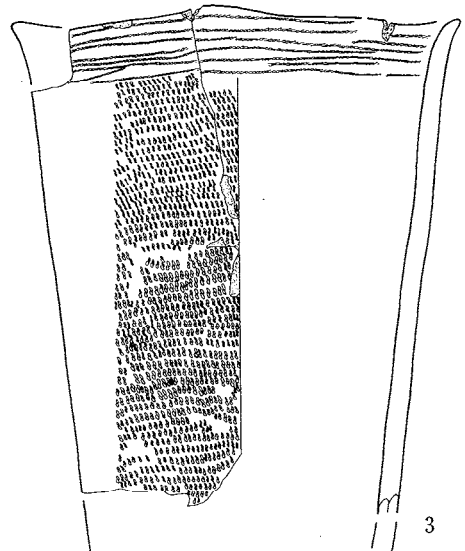


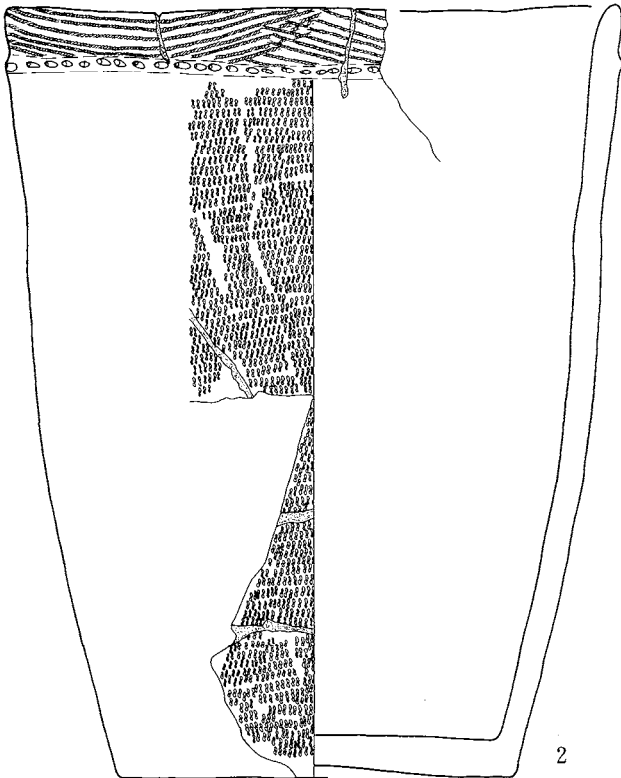
图201 B捨場（西捨場）出土土器④



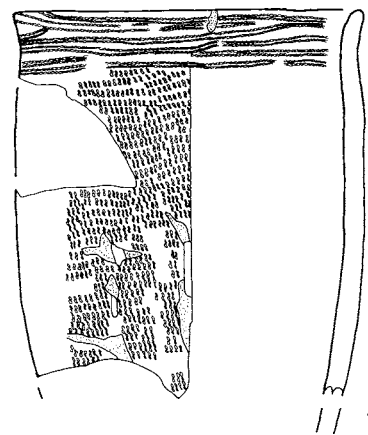
1



3



2



4

0 10cm

图202 B捨場（西捨場）出土土器④

图203 B 拾場 (西拾場) 出土土器④

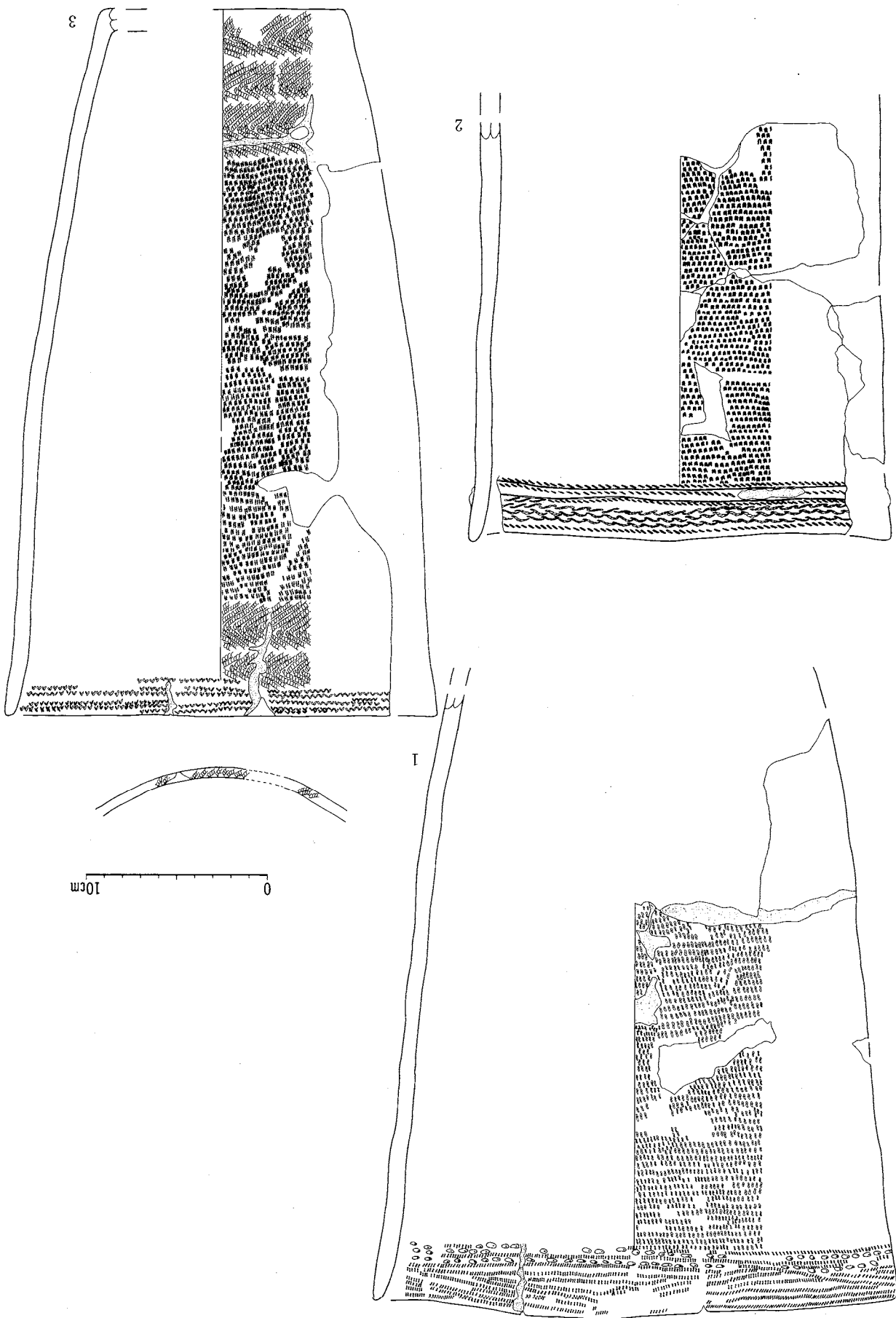




图204 B捨場（西捨場）出土土器④7



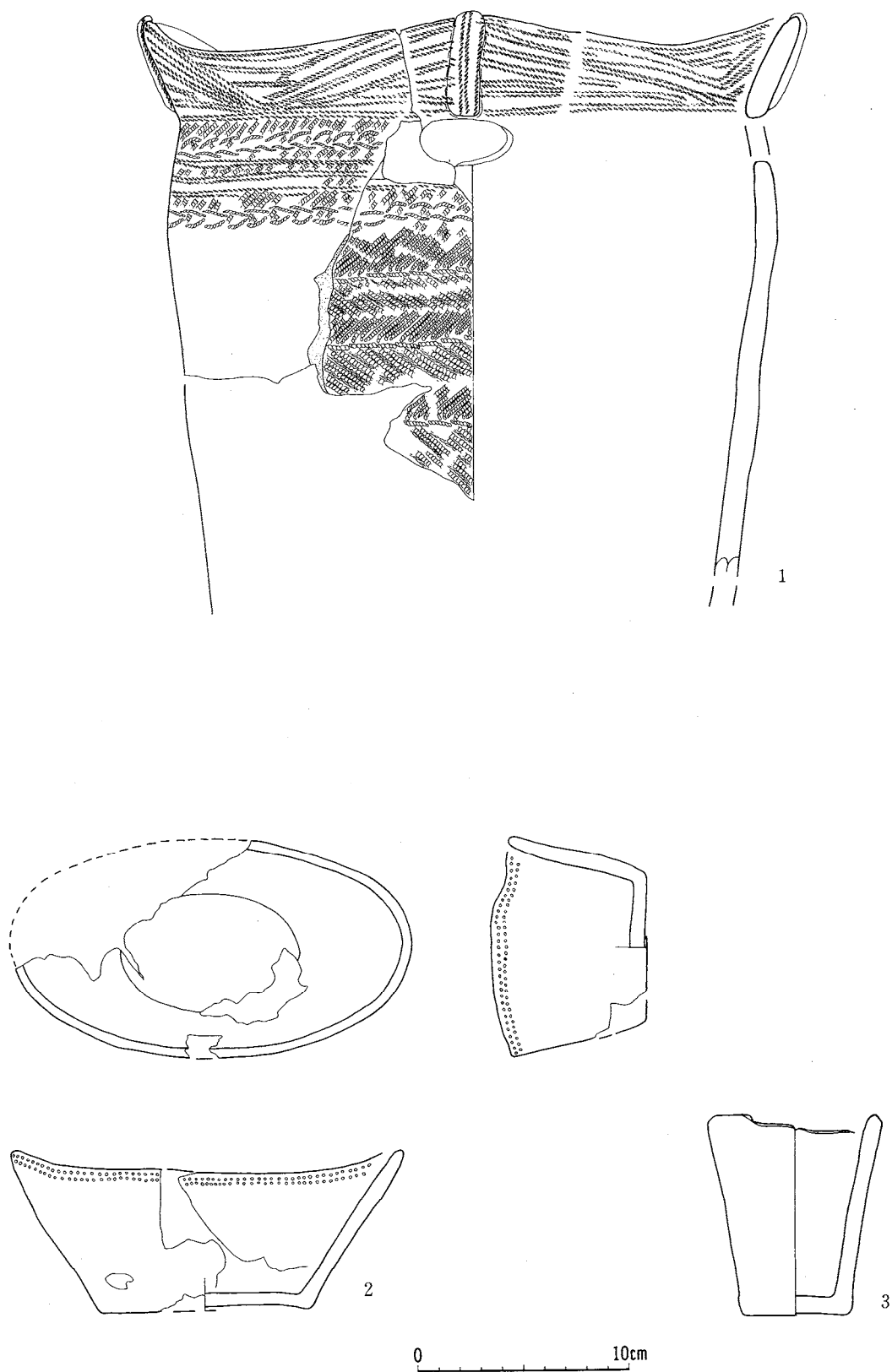


图205 B捨場（西捨場）出土土器④⑧

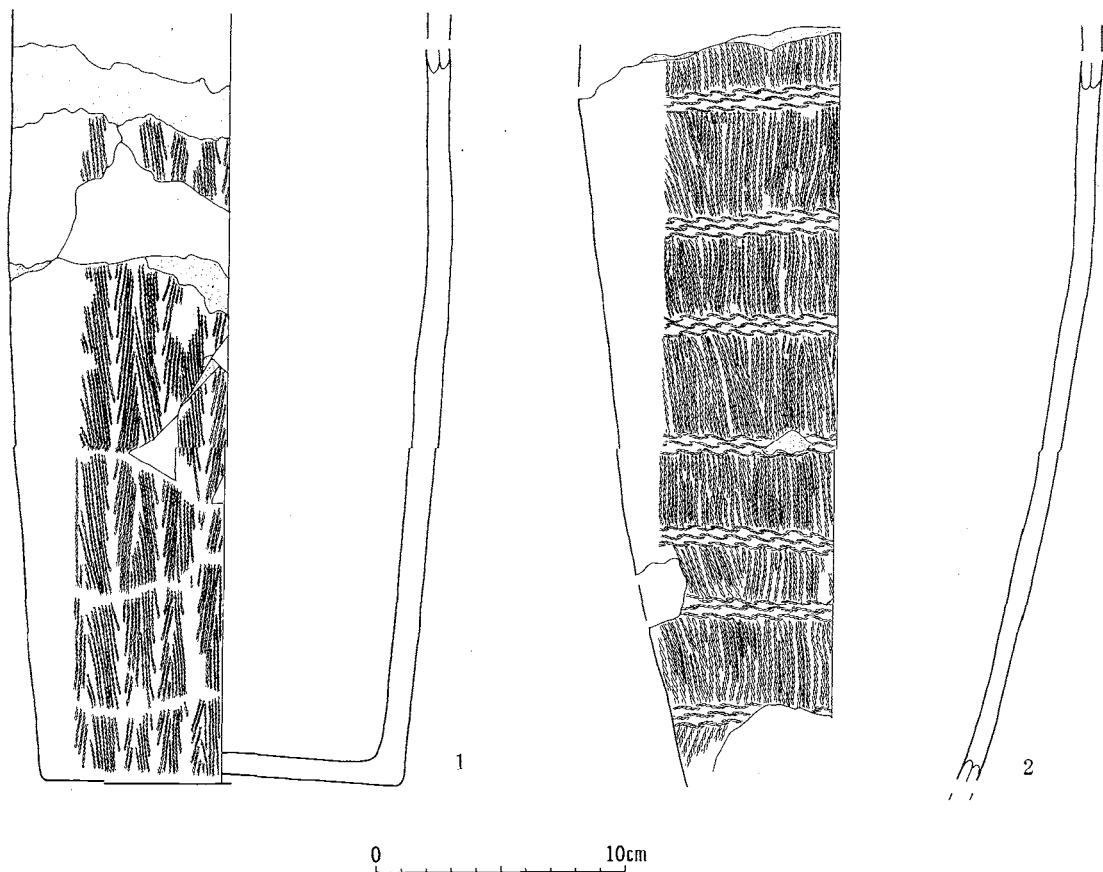


图206 B捨場（西捨場）出土土器④

# 第V章 自然科学的分析

## 第1節 学習院大学放射性炭素年代測定結果報告書

青森県埋蔵文化財調査センター 殿

1997年 12月12日受領致しました試料についての年代測定の結果を下記の通り御報告致します。

なお年代値の算出には $^{14}\text{C}$ の半減期として LIBBY の半減期 5570 年を使用しています。また付記した誤差は $\beta$ 線の計数値の標準偏差 $\sigma$ にもとずいて算出した年数で、標準偏差 (ONE SIGMA) に相当する年代です。また試料の $\beta$ 線計数率の差が $2\sigma$ 以下のときは、 $3\sigma$ に相当する年代を下限の年代値 (B.P.) として表示してあります。また試料の $\beta$ 線係数率と現在の標準炭素 (MODERN STANDARD CARBON) についての係数率との差が $2\sigma$ 以下のときには、Modern と表示し、 $\delta^{14}\text{C} \%$  を付記してあります。

### 記

---

Code No.	試料	年代 (1950年よりの年数)
Gak-19881	木炭 from 畑内遺跡	4,630 $\pm$ 490
	No 1 住居跡内の覆土中	2,680 B.C.
Gak-19882	木炭 from 畑内遺跡	3,820 $\pm$ 200
	No 2 土坑の底面	1,870 B.C.
Gak-19883	木炭 from 畑内遺跡	1,830 $\pm$ 210
	No 3 住居跡内の覆土中	A.D. 120
Gak-19882	木炭 from 畑内遺跡	4,770 $\pm$ 210
	No 4 土坑の底面	2,820 B.C.

---

以上

## 第2節 畑内遺跡出土炭化材の樹種同定

高橋 利彦 (木工舎「ゆい」)

### 1. 試料

試料は3点で、性格の明らかにされていない遺構SX-01と、BD-20grid中央・同北西の注記のある試料である。作業の便宜のためそれぞれNo.1~3の試料番号を付した(表1参照)。

本報文中では試料はすべてこの試料番号で表すこととする。

No.1の検出されたSX-01遺構の性格が明らかにされていないため試料の用途は不明であるが、この炭化材は平安時代後半の噴出とされている白頭山苦小牧火山灰を多量に含む土層に覆われている。また、No.2の検出層位は八戸火山灰層と記されている。

### 2. 方法

試料を室内で自然乾燥させたのち木口・柀目・板目の3断面を作製、実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡(加速電圧10kV)で観察・同定した。同時に電子顕微鏡写真図版(図版1)も作製した。電子顕微鏡観察に当たっては(株)ニッテツ・ファイン・プロダクツ釜石試験分析センターのご協力をいただいた。記して感謝致します。なお、ネガ・フィルムは木工舎「ゆい」に保管されている。残った炭化材は青森県埋蔵文化財調査センターに返却された。

### 3. 結果

No.1はニレ属の一種に、No.2,3はともにトウヒ属またはカラマツ属の一種に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、各Taxonの科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ」(佐竹ほか1989)にしたがい、一般的な性質などについては「木の事典 第1巻~第17巻」(平井1979~1982)も参考にした。

・トウヒ属またはカラマツ属の一種 (*Picea/Larix* sp.) マツ科 No2,3

試料は小片のうえ、年輪界で割れていて十分観察できなかった。樹脂道をもつ針葉樹材で、放射仮道管をもち、分野壁孔は小型の半有縁壁孔対であることからトウヒ属またはカラマツ属であることは明かであるが、それ以上は識別できなかった。

トウヒ属はエゾマツ (*Picea jezoensis*)・ハリモミ (*P. polita*) など7種が自生する。北海道や本州中部を中心に分布する種が多く、亜高山・寒冷地の代表的な針葉樹の一つである。カラマツ属は現在カラマツ (*Larix kaempferi*) のみが本州(宮城・新潟県以南)の山地から亜高山の限られた地域に自生し、また北海道・東北地方などで広く植栽されているが、最終氷期には現在サハリン以北に分布するグイマツ (*L. kamtschatica*) が仙台市まで南下していたことが知られている(鈴木1992)。

なお、十和田火山の東側では十和田八戸火砕流(約1.3万年前)に飲み込まれた埋没林が各地で検出され、カラマツ属やトウヒ属を主体とする亜寒帯性針葉樹林があったことが明らかにされてきている(大池ほか1977、寺田ほか1994など)。

・ニレ属の一種 (Ulmus sp.) ニレ科 No.1

環孔材で孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線～斜方向の紋様をなす。大道管は横断面では楕円形、単独、小道管は横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～6細胞幅、1～40細胞高。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ニレ属にはハルニレ (Ulmus davidiana var. japonica) ・オヒヨウ (U. laciniata) ・アキニレ (U. parvifolia) の3種がある。アキニレは本州 (長野・静岡県以西) ・四国・九州・琉球に、ハルニレ・オヒヨウは北海道・本州・四国・九州に生育するが、ハルニレは北海道・本州北部に多く、オヒヨウは北海道に多いが他の地域では少ない。ハルニレの材は中程度～やや重硬で、割裂性は小さく、加工はやや困難、保存性は低い。

以上の同定結果を検出遺構とともに一覧表で示す (表1)。

表1 畑内遺跡出土炭化材の樹種

試料番号	検出遺構	種名
1	SX-01	ニレ属の一種
2	BD-20grid中央	トウヒ属またはカラマツ属の一種
3	BD-20grid北西	トウヒ属またはカラマツ属の一種

#### 引用文献

平井信二 1979～1982 「木の事典 第1巻～第17巻」, かなえ書房.

大池昭二・松山 力・竹内貞子 1977 八戸浮石層直下の埋没化石林の14C年代—日本の第四紀層の14C年代 (118) —, 地球科学, 31: 136—137.

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編) 1989 「日本の野生植物 木本 I・II」, 平凡社, 321, 305pp.

鈴木敬治 1992 大型植物化石, 「仙台市文化財調査報告書第160集 富沢遺跡 —第30次調査報告書 第II分冊— 旧石器時代編」, 仙台市教育委員会, 244—273.

寺田和雄・太田貞明・鈴木三男・能城修一・辻 誠一郎 1994 十和田火山東麓における八戸テフラ直下の埋没林への年輪年代学の適用, 第四紀研究, 33: 153—164.

## 第Ⅵ章 まとめ

畑内遺跡の平成9年度の調査では、縄文時代前期から中・後・晩期、弥生時代にかけての遺構・遺物が検出され、次のような成果が得られた。

本遺跡は青森県と岩手県の県境、岩手県にその源を発する新井田川の右岸、標高80～97mの河岸段丘上に位置する。

今回の調査は、平成7年度の調査で新たに見つかった捨場（C捨場）を中心に、順次周辺を拡幅して行っていった。

検出された遺構は、縄文時代前期と思われる竪穴住居跡20軒、フラスコ状土坑45基、土坑32基、土器埋設遺構28基、焼土遺構60基、集石遺構4基、配石遺構1基、屋外炉2基、性格不明の遺構1基である。また、現地形では分からない谷部にも新たな捨場が確認されている。捨場についてはこれまでの調査で、東捨場・西捨場という2箇所の大規模な捨場が確認されているが、前回及び今回の調査で新たに3箇所の捨場が確認されたため、東・西捨場も含めて確認された順にアルファベット大文字を付して（東捨場＝A、西捨場＝B）いくこととした（C捨場以降は次回以降の報告）。

本報告での遺構を加えると竪穴住居跡74軒、フラスコ状土坑279基、土坑106基、土器埋設遺構57基、焼土遺構63基、集石遺構10基、配石遺構1基、屋外炉14基等の整理が終了している。発掘調査の終了した面積は遺跡全体の半分にも満たないため集落の全体像を語ることはできないが、これまでの成果から予測を含めて縄文時代の集落の展開について若干まとめてみたい。

遺跡北側の調査区（0～25ライン）では住居が造られ始めたのは縄文時代前期初頭であり、現在のところ当該期の住居跡は1軒確認されている。他に円筒下層a式期が2軒、下層d1式期が2軒、下層d2式期が1軒、中期円筒上層式期が4軒、後期が1軒、弥生時代前期が4軒検出されている。弥生時代の住居跡を除くと時期決定を明確にできた数は少ない。しかし、縄文時代中期及び後期の住居跡は西側に舌状に張り出す台地の縁辺部とその下（西側）の緩斜面部に位置していることが確認できている。当該期の遺物量は縄文時代前期に比べてもかなり少ないことなどから、この地点には縄文時代中・後期に関してはそれほど大規模な集落は形成されていなかったことが推察される。また、縄文時代前期（円筒下層a～d式期）と明確な時期決定ができたのは5軒程であるが、土器埋設遺構やフラスコ状土坑の検出数、捨場の遺物等から残りの大部分の住居跡も当該期に属するものと推察される。円筒下層a～d式期の比率等は25ラインより南側の調査区の調査結果や、遺構の重複関係、捨場の遺物の比率などを詳しく観察してみないと何とも言いがたいが、現時点では円筒下層d式期の割合が少し高いものと推察される。一方、遺跡南西部の微高な調査区では円筒下層a式期を主体とした捨場（E捨場）の下から大型竪穴住居跡等の遺構が検出されている。北東の丘陵部とは直線距離で約40m程しか離れていないが、検出された土器埋設遺構の数には明確な違いが認められる。北東丘陵部では円筒下層a式期の土器埋設遺構が1基の検出であるのに対し、南西部では計7基検出されている。調査した面積の割合から見ても南西部での密度は高く、逆に北東部では円筒下層d式期の密度が高い。精査を終了した面積が少ないこともあり推測の域を出ないが、円筒下層a式期での限定された場（空間）の利用、また、円筒下層a式期から時期が下るにしたがって、微高地から丘陵地に生活全体の場を移していった可能性も考えられる。（調査担当者一同）

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1981 『右衛門次郎窪、三合山、石ノ窪遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 69集
- 青森県教育委員会 1983 『和野前山遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 82集
- 青森県教育委員会 1984 『葦窪遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 84集
- 青森県教育委員会 1985 『沖附(2)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第101集
- 青森県教育委員会 1988 『館野遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第119集
- 青森県教育委員会 1993 『野場(5)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第150集
- 青森県教育委員会 1993 『筋久辺遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第151集
- 青森県教育委員会 1994 『畑内遺跡Ⅰ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第161集
- 青森県教育委員会 1995 『畑内遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第178集
- 青森県教育委員会 1996 『畑内遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第187集
- 青森県教育委員会 1996 『四ツ役遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第188集
- 青森県教育委員会 1997 『畑内遺跡Ⅳ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第211集
- 青森県教育委員会 1997 『津山遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第221集
- 青森市教育委員会 1996 『小牧野遺跡』 青森市埋蔵文化財調査報告書第30集
- 青森市教育委員会 1997 『新町野遺跡』 青森市埋蔵文化財調査報告書第37集
- 八戸市教育委員会 1986 『風張(1)遺跡Ⅰ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集
- 八戸市教育委員会 1988 『八幡遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第26集
- 岩手県文化振興事業団 1988 『曲田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第122集
- 岩手県文化振興事業団 1988 『馬立Ⅱ遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第122集
- 岩手県文化振興事業団 1990 『物見崎遺跡・監物館跡』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第157集
- 岩手県文化振興事業団 1994 『水吉Ⅵ遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第219集
- 岩手県文化振興事業団 1994 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第225集
- 岩手県文化振興事業団 1995 『上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第集
- 岩手県文化振興事業団 1995 『大日向Ⅱ遺跡第6次～第8次調査 第2分冊』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第273集
- 一戸町教育委員会 1993 『御所野遺跡Ⅰ』 一戸町文化財調査報告書第32集
- 大迫町教育委員会 1979 『立石遺跡』 大迫町文化財調査報告書第3集
- 秋田県教育委員会 1982 『案内Ⅱ遺跡』  
秋田県文化財調査報告書第91集
- 秋田県教育委員会 1986 『大岱Ⅱ遺跡』  
秋田県文化財調査報告書第120集
- 秋田県教育委員会 1988 『上ノ山Ⅱ遺跡』  
秋田県文化財調査報告書第166集
- 秋田県教育委員会 1993 『萱刈沢Ⅰ遺跡・萱刈沢Ⅱ遺跡』  
秋田県文化財調査報告書第231集
- 鹿角市教育委員会 1985 『大湯環状列石周辺遺跡(1)』 鹿角市文化財調査資料29
- 鹿角市教育委員会 1991 『大湯環状列石周辺遺跡(7)』 鹿角市文化財調査資料42
- 鹿角市教育委員会 1996 『大湯環状列石周辺遺跡(12)』 鹿角市文化財調査資料56
- 鹿角市教育委員会 1997 『大湯環状列石周辺遺跡(13)』 鹿角市文化財調査資料58
- 村越 潔 1977 「円筒土器に伴う特殊な石器について」『東北考古学の諸問題』
- 阿部義平 1983 「配石」『縄文文化の研究 9 縄文人の精神文化』
- 江坂輝弥 1985 「配石遺構とは」『考古学ジャーナル』254号
- 斎藤 忠 1985 「配石遺構」『考古学ジャーナル』254号

- 野村 崇 1985 「東北北部と北海道の配石遺構」『考古学ジャーナル』254号
- 佐藤嘉広 1996 「東北地方の弥生土偶」『考古学雑誌』81-2
- 安部 実 1986 『生石2遺跡発掘調査報告書(2)』山形県埋蔵文化財調査報告書99
- 伊東信雄 1984 「青森県における稲作農耕文化の成立」『東北学院大学東北文化研究所紀要』1 pp.1~26
- 大野憲司・高橋学 1986 『石坂台Ⅶ遺跡』秋田県文化財調査報告書150
- 利部 修・和泉昭一 1990 『諏訪台C遺跡発掘調査報告書』
- 利部 修 1990 「諏訪台C遺跡のⅠ・Ⅱ類土器群—土器の観察を通して—」  
『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第5号pp.1~18
- 工藤竹久 1987 「東北北部における亀ヶ岡式土器の終末」『考古学雑誌』72-4pp.39~68
- 亀ヶ岡文化研究会 1979 新郷村咽畑遺跡の調査—咽畑遺跡の調査報告書—
- 小林 克 1994 『館の上館遺跡』秋田県埋蔵文化財調査報告書240
- 佐藤嘉弘 1989 「東北地方北部における弥生文化の受容期の様相」『岩手県立博物館研究報告』7 pp.11~31
- 佐藤嘉弘 1992 「東北地方における遠賀川系土器の受容と製作」『東北文化論のための先史学歴史学論集』  
pp.729~762 加藤稔先生還暦記念会
- 佐藤嘉弘 1994 「岩手県二戸市金田一川遺跡出土の土器について」『岩手考古学』6 pp.64~69
- 佐原 真 1987 「みちのくの遠賀川」『東アジアの考古と歴史』
- 鈴木克彦 1988 『名川町剣吉荒町遺跡(第2地区)』青森県立郷土館調査報告22
- 須藤 隆 1970 「青森県大畑町二枚橋遺跡出土の土器・石器について」『文化』33-3pp.72~109
- 須藤 隆 1973 「土器組成論」『考古学研究』19-4
- 須藤 隆 1976 「亀ヶ岡式土器の終末と東北地方における初期弥生土器の成立」『考古学研究』23-2pp.25~50
- 須藤 隆 1983a 「弥生文化の伝播と恵山式文化の成立」『考古学論叢』1 pp.309~360
- 須藤 隆 1983b 「東北地方の初期弥生土器—山王Ⅲ層式—」『考古学雑誌』68-3pp.1~53
- 須藤 隆 1984 「東北地方における弥生時代農耕社会の成立と展開」『宮城の研究』1 pp.238~303
- 須藤 隆 1987 「東日本における弥生文化の受容」『考古学雑誌』73-1pp.1~43
- 須藤 隆 1990 「東北地方における弥生文化」『考古学・古代史論攷』pp.243~322
- 須藤 隆 1997 「東北地方における弥生文化成立過程の研究」『歴史』第89輯pp.44~81
- 須藤 隆 1998 『東北日本先史時代文化変化・社会変動の研究 縄文から弥生へ』纂修堂
- 野村信生 1997 『宇田野(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書217
- 羽柴直人 1994 「岩泉町安家出土の縄文時代終末期の土器」『岩手考古学』6 pp.59~63
- 三林健一 1997 『畑内遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書211
- 山内清男 1930 「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄文式土器の終末」『考古学』1-3 pp.139~157



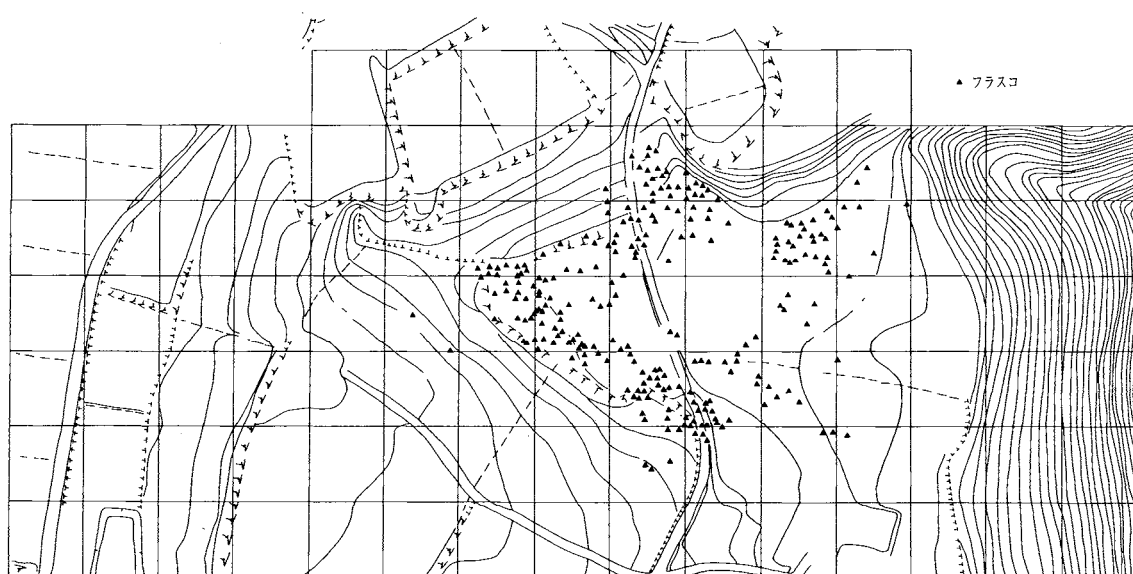
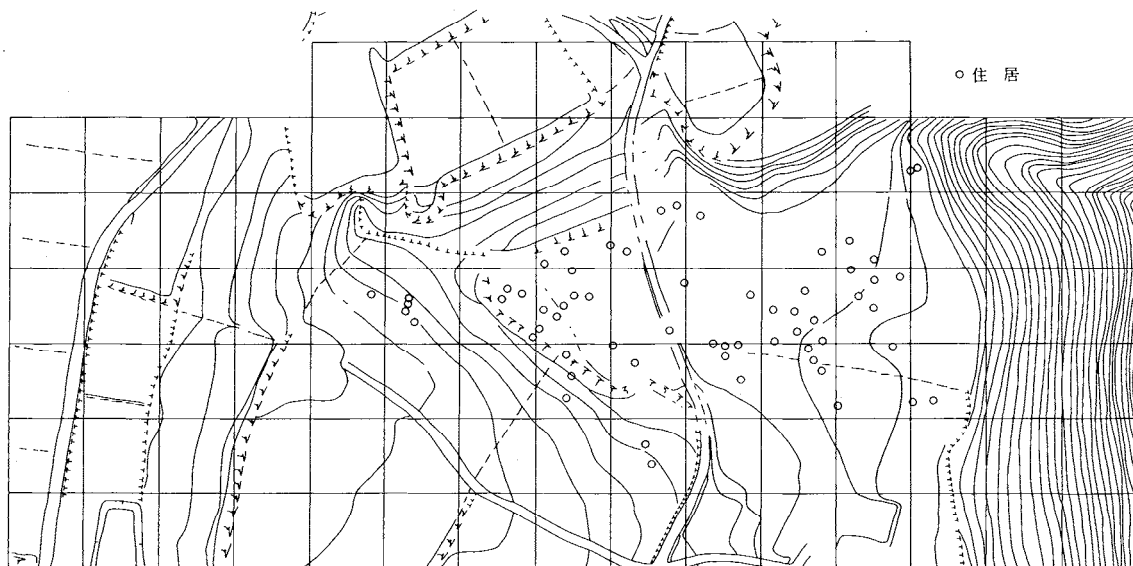
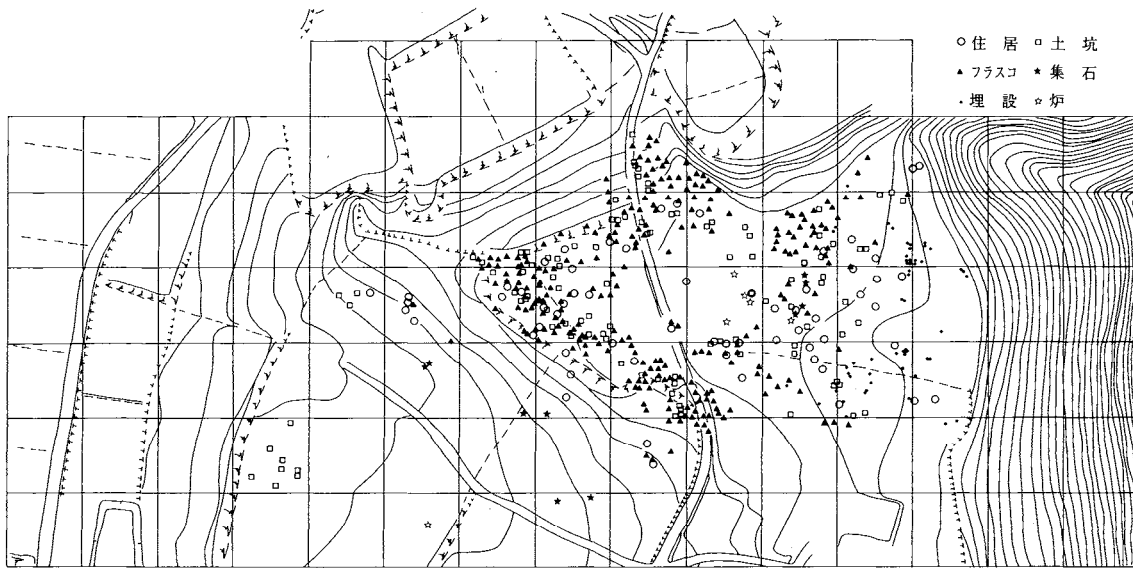


図207 遺構配置略図(1)

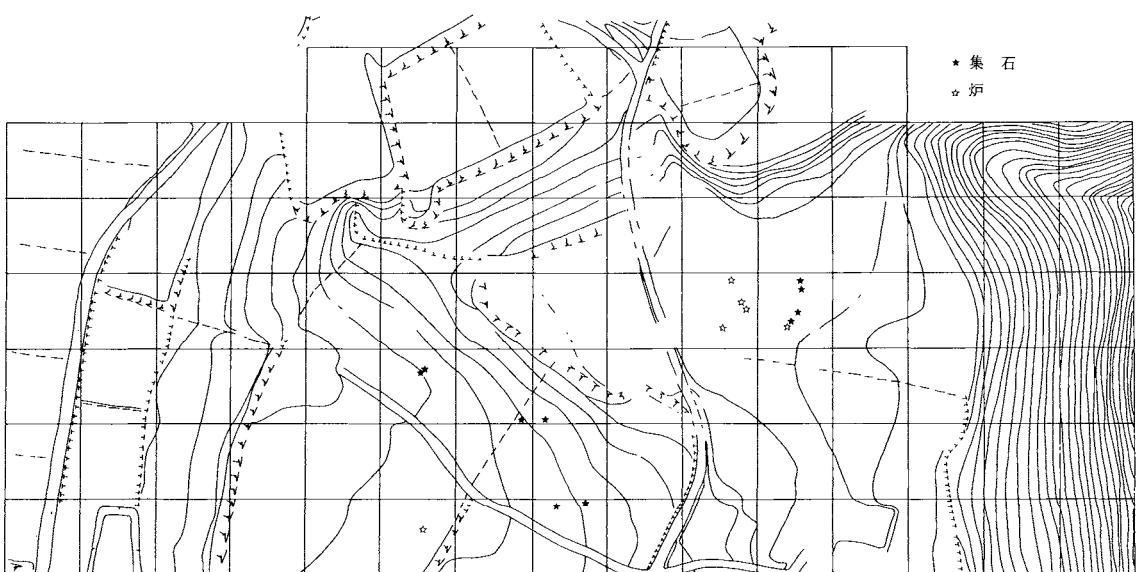
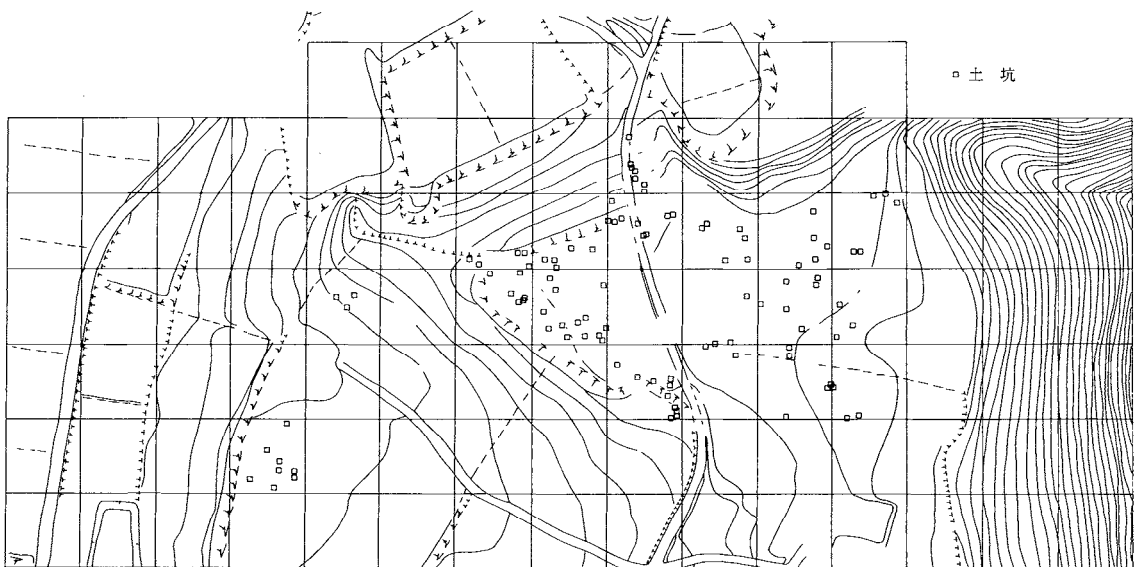


图208 遺構配置略図(2)

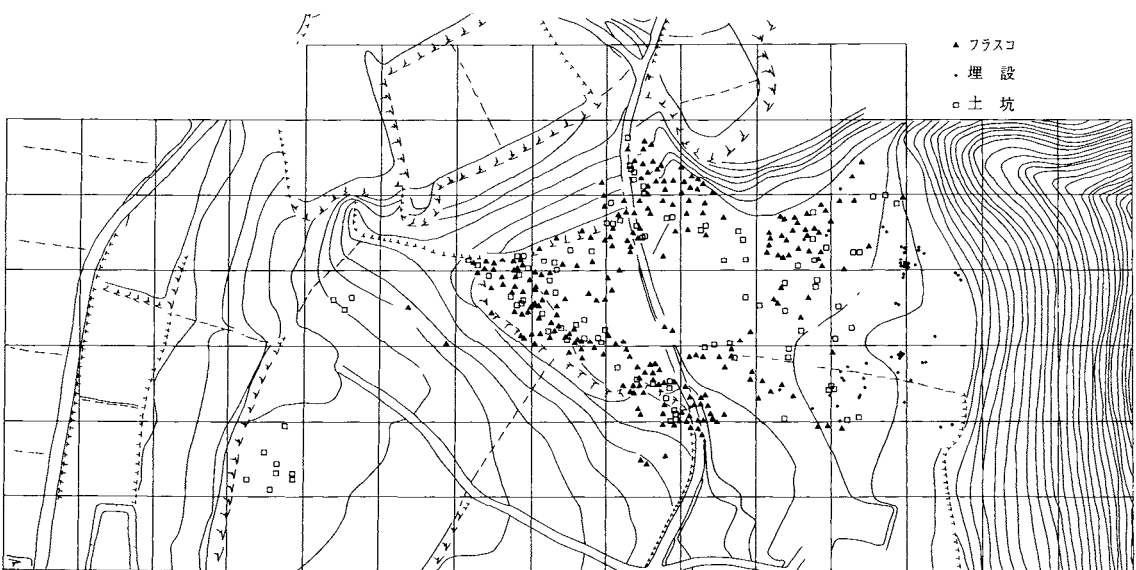
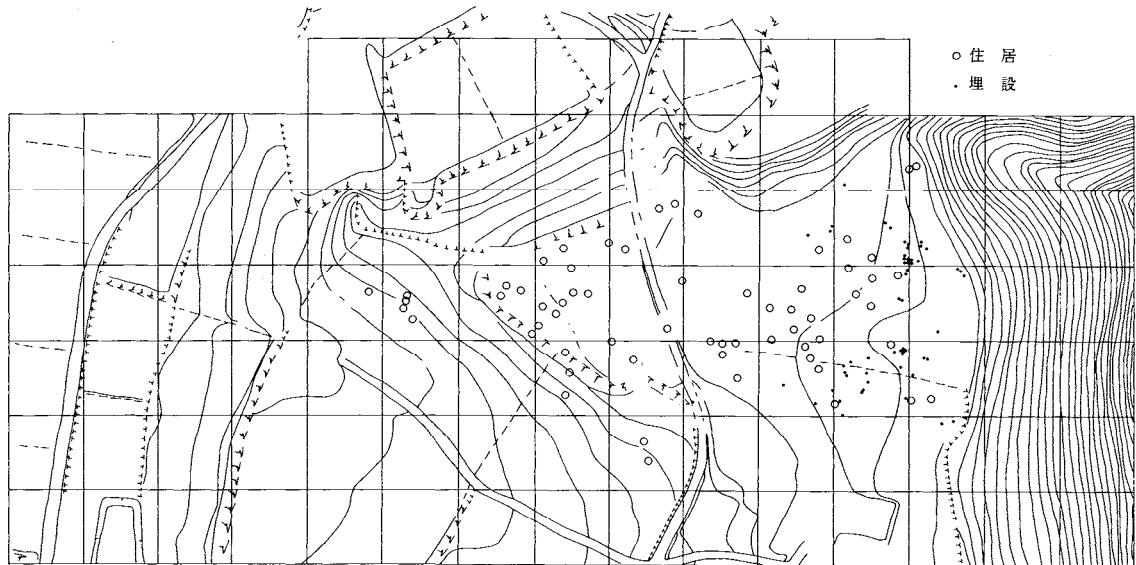
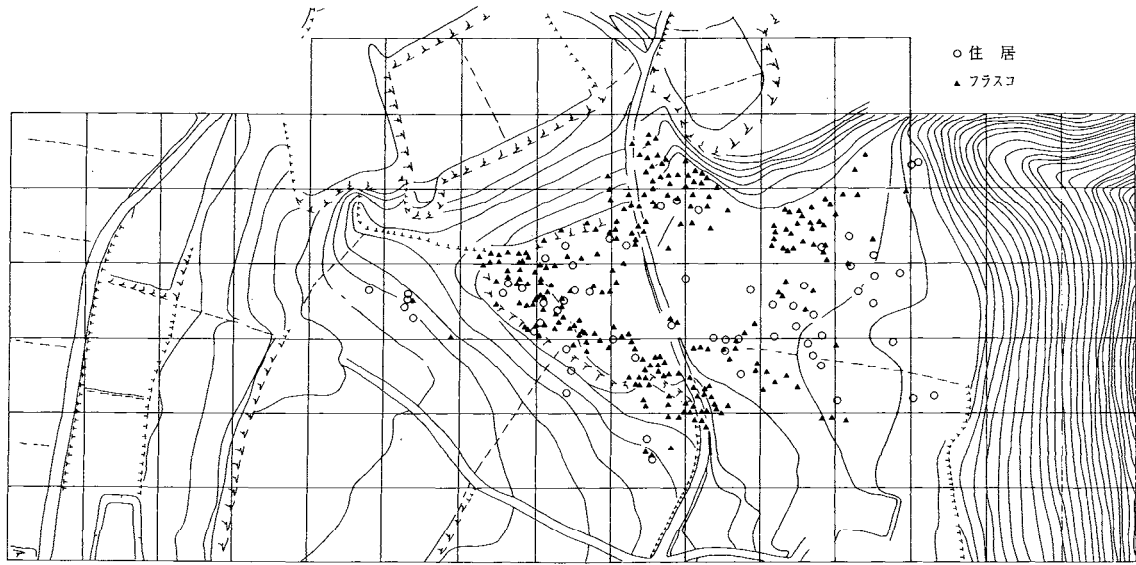


図209 遺構配置略図(3)

住居内出土土器観察表①

遺物番号	出土遺物	器種	部位	口頸部文様	口唇部文様	区画帯	胴部文様	底部文様	備考
1	55H	深鉢	略完形	結節回転文	LR回転		LR横回転		
2	55H	深鉢	略完形	結節回転文	LR回転		LR横回転	指頭状圧痕	
3	55H	深鉢	底部欠損	結節回転文	LR回転		LR横回転		文様帯普通の2倍
4	55H	深鉢	略完形	結節回転文	LR回転		LR横回転	細み物圧痕	
5	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転		LR横回転		内面指頭圧痕
6	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR横回転		LR横回転		
7	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転		LR横回転		
8	55H	深鉢	完形	結節回転文	LR回転		LR横回転		補修孔
9	55H	深鉢	略完形	結節回転文	LR回転		LR横回転	LR回転	
10	55H	深鉢	略完形	結節回転文	LR回転		LR横回転		
11	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転		LR横回転		
12	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転		LR横回転		
13	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転		LR横回転		
14	55H	深鉢	口縁部	LR横回転→結節回転文	LR回転		LR横回転		内面捌け目状調整
15	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転		LR横回転		
16	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転				
17	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転				
18	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転				内面ミガキ調整
19	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR横回転		LR横回転		
20	55H	深鉢	略完形	結節回転文	LR回転		LR横回転		
21	55H	深鉢	略完形	結節回転文	RLR横回転・波頂部に爪状施文具による刺突		RLR横回転	LR回転	2単位の波状口縁
22	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	棒状施文具による口唇を斜めにまたぐ刻み		LR横回転		
23	55H	深鉢	口縁部	結節回転文→RL側圧(変形)	RL末端刺突		RL横回転		
24	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	口唇部をまたぐ棒状工具による刻み		LR横回転		
25	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	刻み		LR横回転		内面ミガキ調整
26	55H	深鉢	略完形	結節回転文	板状施文具による押し引き		LR横回転	LR回転	
27	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	爪状施文具による斜めの刺突		LR横回転		
28	55H	深鉢	略完形	結節回転文	棒状施文具による刻み		LR横回転		
29	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転→沈線施文		LR横回転		文様帯普通の2倍
30	55H	深鉢	略完形	結節回転文	棒状施文具による刻み		LR横回転		
31	55H	深鉢	口縁部	結節回転文			LR横回転		
32	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	刺突?				
33	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	刺突?				口縁の外反きつい
34	55H	深鉢	口縁部	結節回転文					
35	55H	深鉢	口縁部	結節回転文			単絡?		
36	55H	深鉢	口縁部	結節回転文			単絡1R斜位回転		
37	55H	深鉢	口縁部	結節回転文	小波状?				
38	55H	深鉢	略完形	結節回転文			LR横回転		小型・山形突起
39	55H	深鉢	口縁部	結節回転文			RL横回転		
40	55H	深鉢	口縁部		LR回転		LR横回転		
41	55H	深鉢	口縁部		LR回転		RL横回転		小波状?
42	55H	深鉢	口縁部		LR横回転		LR横回転		
43	55H	深鉢	略完形	結節回転文			LR横回転		
44	55H	深鉢	底部欠損	結節回転文			LR横回転		
45	55H	深鉢	略完形		LR回転		LR横回転		
46	55H	深鉢	口縁部		爪状施文具による刻み		L横回転		47と同一個体
47	55H	深鉢	口縁部		爪状施文具による刻み		L横回転		46と同一個体
48	55H	深鉢	胴部		LR回転		LR横回転		
49	55H	深鉢	口縁部		LR回転		LR横回転		
50	55H	深鉢	口縁部				LR横回転		小突起?
51	55H	深鉢	口縁部				LR横回転		
52	55H	深鉢	口縁部		口唇部を斜めにまたぐ棒状工具による刻み		LR横回転		内面指頭圧痕・波状口縁
53	55H	深鉢	口縁部→胴部		断続的な沈線		LR横回転		小型・波状口縁
54	55H	深鉢	略完形				LR横回転		
55	55H	深鉢	口縁部				LR横回転		
56	55H	深鉢	略完形		単絡1R回転		単絡1R横位~斜位回転		歪んだ器形
57	55H	深鉢	口縁部				直前段擦り戻しR		内面に指頭圧痕
59	55H	深鉢	口縁部	無文	指頭状施文具による刻み				砂粒多い
60	55H	深鉢	口縁部	RL側圧・単絡1側圧					内面ミガキ調整
61	55H	深鉢	完形	横位平行沈線			LR横回転		
62	55H	深鉢	口縁部	平行沈線間に斜行沈線	棒状施文具による斜めの刺突		LR横回転		
63	55H	深鉢	口縁部	平行沈線	LR回転		LR横回転		
64	55H	深鉢	口縁部	平行沈線間に鋸歯状沈線			LR横回転		山形突起?
65	55H	深鉢	胴部				LR横回転→結節回転文		

住居内出土土器観察表②

66	55H	深鉢	胴部	結節回転文			LR横回転		
67	55H	深鉢	胴部	結節回転文			単絡1R縦回転		
68	55H	深鉢	胴部				LR横回転		
69	55H	深鉢	底部				LR横回転	礫み物圧痕	
70	55H	深鉢	胴部～底部				LR横回転	礫み物圧痕	見込み部に炭化物付着
71	55H	深鉢	底部				LR横回転	LR回転	見込み部に炭化物付着
72	55H	深鉢	底部				LR横回転		
73	55H	深鉢	胴部～底部				LR横回転→結節回転文	礫み物圧痕	砂粒多し
74	55H	深鉢	底部				LR横回転	LR回転	
75	55H	深鉢	底部				LR横回転		小型
76	55H	深鉢	底部				RL横回転		
77	55H	深鉢	胴部～底部				LR横回転		小型
78	55H	深鉢	胴部～底部				LR横回転	LR回転	
79	55H	深鉢	底部				LR横回転		
80	55H	深鉢	底部				LR横回転		
81	55H	深鉢	底部				LR横回転		見込み部に炭化物付着
82	55H	深鉢	底部				LR横回転		内面捌け目状調整
83	55H	深鉢	底部				LR横回転		
84	55H	深鉢	胴部～底部	結節回転文?			LR横回転		
85	55H	深鉢	胴部				LR横回転・結節回転文		
86	55H	深鉢	底部				結節回転文		内面ミガキ調整
87	55H	深鉢	底部				結節回転文		
88	55H	深鉢	胴部				LR横回転		
89	55H	深鉢	胴部				LR横回転→放射状沈線		
90	55H	深鉢	胴部				LR横回転		内面ミガキ調整
91	55H	深鉢	胴部				LR横回転		内面に指頭圧痕
92	55H	深鉢	胴部				LR横回転		内面捌け目状調整
94	55H	深鉢	底部				LR横回転	LR回転	見込み部に炭化物付着
95	55H	深鉢	底部				LR横回転	LR回転	内面に炭化物付着
96	55H	深鉢	底部				LR横回転	礫み物圧痕	
97	55H	深鉢	底部				LR横回転	LR回転	見込み部に炭化物付着
98	55H	深鉢	底部				LR横回転	礫み物圧痕	
99	55H	深鉢	胴部				LR斜め～縦回転		内面捌け目状調整
100	55H	深鉢	胴部	結節回転文?	隆帯上にLRL斜位側圧		LR斜位回転		内面捌け目状調整
101	55H	深鉢	胴部				LR横回転		
102	55H	深鉢	胴部	平行沈線間に縦溝状沈線			LR横回転		
103	55H	深鉢	胴部	沈線			LR横回転		
104	55H	深鉢	底部				単絡1R縦回転		
105	55H	深鉢	底部				単絡1R縦回転	?	
106	55H	深鉢	底部				単絡1LR斜位回転		
107	55H	深鉢	底部				単絡1R斜め回転		
108	55H	深鉢	胴部				多軸絡条体縦位～斜位回転		
109	55H	深鉢	胴部				多軸絡条体斜位回転		
110	55H	深鉢	底部					礫み物圧痕	底部内面に乳頭状の高まり
111	55H	深鉢	底部					LR回転	見込み部に炭化物付着
112	55H	円蓋状土製品					LR回転		胴部片利用・縁辺スリ
113	55H	円蓋状土製品					RLR回転		有孔・胴部片利用
114	55H	円蓋状土製品					結節回転文・LR回転		有孔・胴部片利用・縁辺スリ
115	55H	球状土製品					沈線による弧の狭い扇形		
116	55H	ミニチュア土器	口縁部				無文		波状口縁
0	55H	深鉢	底部				LR横回転	LR回転	見込み部に炭化物付着

遺物番号	出土遺構	器種	部位	層位	口頸部文様	区画帯	胴部文様	備考
1	56H	深鉢	口縁部～胴部		結節回転紋(R)		LR	
2	56H	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
3	56H	深鉢	口縁部		口唇部:刻目、結節回転文			
4	56H	深鉢	口縁部		結節回転文			
5	56H	深鉢	口縁部		口唇部(指頭押圧)、結節回転文(R)、LR			
6	56H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(単節LR)、結節回転文(R)		単節LR	
7	56H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(R)、結節回転文(R)		単軸絡条体1A類	
8	56H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(R)、側面圧痕(R)、結節回転文(R)		単軸絡条体1類	
9	56H	深鉢	口縁部		口唇部:縄文回転(R)、側面圧痕(R)、円形刺突		単軸絡条体1類	
10	56H	深鉢	口縁部		口唇部:縄文回転(R)、側面圧痕(R)、刺突		単軸絡条体1A類	
11	56H	深鉢	口縁部		口唇部:縄文回転(R)、側面圧痕(R)、刺突		単軸絡条体1A類	

住居内出土土器観察表③

遺物番号	出土遺物	器種	部位	層位	口頸部文様	区画帯	胴部文様	備考
12	56H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(L)、刺突		結束第1種(RL・LR)	
13	56H	深鉢	口縁部		刺突、側面圧痕(L)		単軸絡条体1類	
14	56H	深鉢	口縁部		側面圧痕(R)、結節回転紋(R)			
15	56H	深鉢	口縁部		側圧(L・R)隆帯、刺突		多軸絡条体	
16	56H	深鉢	口縁部		口唇部:縄文回転(LR)、側面圧痕(LR)	隆帯:側面圧痕(LR)		
17	56H	深鉢	口縁部		RLヨコ、曲線区画文(沈線)			
18	56H	深鉢	胴部				単軸絡条体1A類	
19	56H	深鉢	胴部				RL、横位沈線	
20	56H	深鉢	底部				LR	底部:側面圧痕
21	56H	深鉢	胴部~底部				LR	
1	57H	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
2	57H	深鉢	胴部				RL	
3	57H	深鉢	胴部				LR	
4	57H	深鉢	胴部				単軸絡条体(直前段反側LR)	
5	57H	深鉢	底部				単軸絡条体1類	
1	58H	深鉢	口縁部		口唇部:縄文回転(LR)、結節回転文(R)、LRヨコ			
2	58H	深鉢	口縁部		口唇部指頭押圧、LRヨコ		LRヨコ	NO3・7と同一個体
3	58H	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、LRヨコ			NO7・9と同一個体
4	58H	深鉢	口縁部		口唇部:指頭押圧、LRヨコ			NO3・9と同一個体
5	58H	深鉢	口縁部		口唇部外側:刺突(劣載竹管状施工具)、側面圧痕(LR)			
6	58H	深鉢	胴部下半				ケズリ・ナデ	
7	58H	深鉢	胴部				LRヨコ	内面:指頭状圧痕
8	58H	深鉢	胴部上半		LRヨコ	隆帯	LRヨコ	
9	58H	深鉢	胴部				多軸絡条体	
10	58H	深鉢	底部				LRヨコ	
11	58H	深鉢	底部				LRヨコ	
1	59H	深鉢	口縁部		LR			
2	59H	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)			
3	59H	深鉢	口縁部		RL			粘土貼付
4	59H	深鉢	口縁部		側面圧痕:(R・R)・LR			
5	59H	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL・LR)		結束第1種(RL・LR)	
6	59H	深鉢	頸部		側面圧痕(LR)			内面:指頭状圧痕、胎土:金雲母混入
7	59H	深鉢	胴部				結束第1種(RL・直前段合捺)	
8	59H	深鉢	胴部				RLヨコ	内面:RLヨコ
9	59H	深鉢	底部				RLヨコ	
10	59H	深鉢	底部				単軸絡条体1A類	
1	62H	深鉢	口縁部				LRヨコ	内面:指頭状圧痕、胎土:黄褐色砂石混入
2	62H	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、LRヨコ			
3	62H	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、LRヨコ			内面:LR
4	62H	深鉢	口縁部		口縁端部:縄文回転(LR)、LRヨコ		LRヨコ	
5	62H	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、LRヨコ			内面:LR
6	62H	深鉢	口縁部		LRヨコ		LRヨコ	
7	62H	深鉢	頸部				結束第1種(RL・LR)	
8	62H	深鉢	胴部				ケズリ・ナデ	
9	62H	深鉢	胴部下半				LRヨコ、ケズリ・ナデ	内面:指頭状圧痕
10	62H	深鉢	底部				RLヨコ	底面:RL・木葉痕
11	62H	深鉢	底部				LRヨコ	
12	62H	鉢	底部				整形痕(篋状工具)	胎土:石英混入
13	62H	深鉢	胴部				Lヨコ	
14	62H	深鉢	胴部				Lヨコ	
15	62H	深鉢	胴部				Lヨコ	
16	62H	深鉢	胴部				RLヨコ	
17	62H	深鉢	胴部				LRヨコ	
18	62H	深鉢	胴部				LRヨコ	
19	62H	深鉢	胴部				LRヨコ	
20	62H	深鉢	胴部				LRヨコ	
21	62H	深鉢	胴部				LRヨコ	
22	62H	深鉢	胴部				LRヨコ	
23	62H	深鉢	胴部				結節回転文(R)	
24	62H	深鉢	胴部				前々段合捺	
25	62H	深鉢	胴部				前々段合捺	
26	62H	深鉢	胴部				附加条(LR・R)	
27	62H	深鉢	頸部~胴部		側面圧痕(LR)			
28	62H	深鉢	胴部				結束第1種(RL・LR)	

住居内出土土器観察表④

遺物番号	出土遺構	器種	部位	層位	口頸部文様	区画帯	胴部文様	備考
29	62H	深鉢	胴部				結束第2種(LR・LR)	
30	62H	深鉢	胴部				単軸絡条体第1類	
31	62H	深鉢	口縁部~胴部		前々段合捺			
32	62H	深鉢	口縁部~胴部		口唇部:指頭状押圧、結節回転文		LRヨコ	
1	64H	深鉢	口縁部		口唇部:押引文(竹管状施文具)、結節回転文	隆帯:刺突(棒状施文具)		
2	64H	深鉢	口縁部		口唇部:押引文(篋状施文具)、LRヨコ、結節回転文(R)			
3	64H	深鉢	口縁部		結節回転文			
4	64H	深鉢	口縁部		結節回転文			
5	64H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、LRヨコ、並行沈線			
6	64H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(R)、結束第1種(RL・LR)			no5と同一個体
7	64H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(R)、結束第1種(RL・LR)	側面圧痕(LR)	結束第1種(RL・LR)	no10と同一個体
8	64H	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL)	側面圧痕(RL)		
9	64H	深鉢	口縁部		口唇部:縄文回転(LR)、結束第1種(RL・LR)、側面圧痕(結束第1種)	側面圧痕(LR)	結束第1種(RL・LR)	
10	64H	深鉢	口縁部		口唇部:縄文回転(LR)、側面圧痕(RL)	側面圧痕(RL)	多軸絡条体	
11	64H	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)	側面圧痕(R・LR)、押引文(竹管状施文具)	単軸絡条体1A類	
12	64H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(多軸絡条体)、側面圧痕(単軸絡条体)	隆帯:刺突(棒状施文具)	多軸絡条体ヲ	
13	64H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、側面圧痕(R・L)、刺突(棒状施文具)	隆帯:刺突(棒状施文具)	結束第1種(RL・LR)	
14	64H	深鉢	口縁部		口唇部:縄文回転(LR)、側面圧痕(L)、刺突(棒状施文具)	微隆帯	多軸絡条体	
15	64H	深鉢	口縁部		口唇部:縄文回転(RL)、単軸絡条体6A類	側面圧痕(多軸絡条体)、刺突(棒状施文具)	単軸絡条体1A類	
16	64H	深鉢	口縁部		口唇部:刻目(棒状施文具)、側面圧痕(LR)	側面圧痕(RL)	結束第1種(附加条)	
17	64H	深鉢	口縁部		側面圧痕(L)			
18	64H	深鉢	頸部			刺突(竹管状施文具)、沈線		
19	64H	深鉢	底部				多軸絡条体ヲ	
20	64H	深鉢	底部				結束第1種(RL・LR)	
21	64H	深鉢	胴部				単軸絡条体第5類	
22	64H	深鉢	口縁部~底部		口唇部:多軸絡条体、結束第1種(RL・LR)	区画帯:側面圧痕(多軸絡条体)、押引文(棒状施文具)	多軸絡条体ヲ	
23	64H	深鉢	胴部~底部				多軸絡条体	
24	64H	深鉢	胴部~底部				単軸絡条体1A類	
1	65H	深鉢	口縁部~胴部		結節回転文(R)	隆帯:刺突(竹管状施文具)	単軸絡条体第1類	
1	67H	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、結節回転文(R)、LRヨコ			
2	67H	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
3	67H	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
4	67H	深鉢	口縁部		結節回転文(L)			
5	67H	深鉢	口縁部		結節回転文	隆帯:沈線・刺突(竹管状施文具)		
6	67H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、結節回転文			
7	67H	深鉢	口縁部		Rヨコ		Lヨコ	
8	67H	深鉢	口縁部		LRヨコ			
9	67H	深鉢	口縁部		LRヨコ			
10	67H	深鉢	口縁部		LR			
11	67H	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
12	67H	深鉢	口縁部		LRヨコ			
13	67H	深鉢	口縁部		LR	LRヨコ		
14	67H	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)	側面圧痕(LR)		
15	67H	深鉢	胴部下半				LR	尖底
16	67H	深鉢	頸部		結節回転文(R)、LRヨコ	隆帯:結節回転文	結節回転文(R)、LRヨコ	
17	67H	深鉢	胴部			隆帯:縄文原体端部押圧、側面圧痕(LR)	LRヨコ	
18	67H	深鉢	胴部				単軸絡条体第1種(R)ヲ	
19	67H	深鉢	頸部			刺突(半截竹管状施文具)、側面圧痕(LR)		
20	67H	深鉢	底部				LR	
21	67H	深鉢	口縁部				LRヨコ	
22	67H	深鉢	底部				LRヨコ	
23	67H	深鉢	底部				LRヨコ	
24	67H	深鉢	底部				結節回転紋(R)	
1	68H	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、結節回転文(R)、RLヨコ			
2	68H	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、側面圧痕(LR)	側面圧痕(LR)		
3	68H	深鉢	胴部		結節回転文			
4	68H	深鉢	胴部下半				結節回転文	内面:指頭圧痕
5	68H	深鉢	頸部		結節回転文(R)、RL	隆帯(RL)		
6	68H	深鉢	頸部		結節回転文(R)、LRヨコ			
7	68H	深鉢	頸部~胴部		結節回転文(R)、LRヨコ			

住居内出土土器観察表⑤

遺物番号	出土遺物	器種	部位	層位	口頸部文様	区画帯	胴部文様	備考
8	68H	深鉢	胴部				LRヨコ	
9	68H	深鉢	胴部				LRヨコ	
10	68H	深鉢	胴部				LRヨコ	
11	68H	深鉢	胴部				RLRヨコ	
12	68H	深鉢	胴部				単軸絡条体1種(R)7テ	
13	68H	深鉢	胴部				結束第1種(RL・LR)	

遺物番号	器種	部位	層位	口頸部文様	口唇部文様	区画帯	胴部文様	底部文様	備考
1	70H	深鉢	口縁部	結節回転文					
2	70H	深鉢	胴部	LR横～斜め回転					
3	70H	深鉢	胴部	単絡1LR横回転					
1	73H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転		LR横回転		
2	73H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転		LR横回転		
3	73H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転				
4	73H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転				内面ミガキ調整
5	73H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転				内面掛け目状調整
6	73H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転				
7	73H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR末端側圧				
8	73H	深鉢	口縁部	結節回転文	板状施文具による押し引き				板状工具によるナデ?
9	73H	深鉢	口縁部	結節回転文	円形刺突(指頭状?)				
10	73H	深鉢	口縁部	結節回転文	円形刺突		LR横回転		繊維の抜けた痕跡あり
11	73H	深鉢	口縁部	沈線・結節回転文					内面ミガキ調整
12	73H	深鉢	口縁部	沈線・結節回転文					内面ミガキ調整
13	73H	深鉢	口縁部	沈線・結節回転文					内面ミガキ調整・12と同一個体
15	73H	深鉢	口縁部	無文			単絡LR斜位回転		10号焼土出土遺物と接合
16	73H	深鉢	口縁部	結節回転文			LR横回転		
17	73H	深鉢	胴部				LR横回転		
18	73H	深鉢	胴部	LR横回転					内面の一部にLR回転
19	73H	深鉢	胴部(隆帯)			隆帯上に竹管状施文具による刺突・隆帯に沈線	LR横回転		
20	73H	深鉢	胴部(隆帯)			隆帯上に沈線	結節回転文		内面ミガキ調整
21	73H	深鉢	胴部(隆帯)			隆帯上にLR斜位側圧	隆帯裾部に単絡1側圧		
22	73H	深鉢	胴部(隆帯)			隆帯上に沈線			
23	73H	深鉢	胴部(隆帯)	結節回転文		隆帯上に指頭圧痕	LR横回転		
24	73H	深鉢	口縁部	結節回転文			単絡1RL		
25	73H	深鉢	胴部				RLR横回転		内面ミガキ調整
26	73H	深鉢	胴部				単絡1RL		
28	73H	深鉢	底部				LR横回転	LR回転	
29	73H	深鉢	胴部				刷毛目様の細沈線		
29	73H	深鉢	底部				LR横回転	覆み物圧痕	
30	73H	深鉢	底部				LR縦回転		
31	73H	深鉢	胴部				LR横回転		内面掛け目状調整
32	73H	深鉢	底部					覆み物圧痕	
33	73H	深鉢	底部				LR横回転		口台作出
34	73H	円盤状土製品					LR回転		有孔・胴部片利用・縁辺スリ
	74H	ミニチュア土器	口縁部	無文					
1	76H	深鉢	口縁部	結節回転文					内面ミガキ調整
2	76H	深鉢	口縁部	結節回転文			LR横回転		
3	76H	深鉢	口縁部	結節回転文					
4	76H	深鉢	口縁部	結節回転文					
5	76H	深鉢	口縁部	結節回転文		隆帯上にLR横回転・裾部にLR横回転?	結節回転文		
6	76H	深鉢	口縁部	結節回転文	LR回転				
8	76H	深鉢	口縁部	沈線・結節回転文		隆帯上に沈線			
10	76H	深鉢	口縁部	沈線・結節回転文					
11	76H	深鉢	口縁部	?	刺突				
12	76H	深鉢	口縁部				LR横回転		
13	76H	深鉢	口縁部	単絡1横回転			単絡1縦回転→単絡1横回転		
14	76H	深鉢	口縁部				LR横回転?		
14	76H	深鉢	口縁部	結節回転文					
15	76H	深鉢	口縁部		板状施文具押し引きによる刻み		単絡1縦回転		
16	76H	深鉢	口縁部				直前段より戻し?		
17	76H	深鉢	口縁部	単絡1横回転	単絡1回転		単絡6A横回転		
18	76H	深鉢	口縁部				LR横回転		
19	76H	深鉢	口縁部				LR横回転		



住居内出土土器観察表⑥

遺物番号	器種	部位	層位	口頸部文様	口唇部文様	区画帯	胴部文様	底部文様	備考
20	76H 深鉢	口縁部~胴部					LR横回転		
21	76H 深鉢	口縁部					LR横回転		内面指頭状圧痕
22	76H 深鉢	口縁部					単絡(木目状)		内面繊維状け
23	76H 深鉢	口縁部		結節回転文					
24	76H 深鉢	口縁部~胴部		結節回転文			LR横回転		
25	76H 深鉢	胴部		結節回転文			単絡1RL縦回転		内面ミガキ調整
26	76H 深鉢	口縁~胴部		沈線					繊維多し
27	76H 深鉢	胴部(隆帯)		結節回転文		隆帯上に沈線			
28	76H 深鉢	胴部(隆帯)				隆帯上に矢羽状沈線			
29	76H 深鉢	胴部					LR横回転		内面ミガキ調整
30	76H 深鉢	胴部					LR横回転		内面捌け目状調整
31	76H 深鉢	胴部					LR横回転		
32	76H 深鉢	胴部					LR横回転		
33	76H 深鉢	胴部					LR横回転		
34	76H 深鉢	胴部~底部付近					LR横回転		内面捌け目・見込み部に炭化物付着
35	76H 深鉢	胴部					LR横回転		
36	76H 深鉢	胴部					LR横回転		
37	76H 深鉢	胴部					LR横回転		内面捌け目状調整
38	76H 深鉢	胴部					LR横回転		
39	76H 深鉢	胴部					単絡1RL縦回転		
40	76H 深鉢	胴部					単絡1RL縦回転?		
42	76H 深鉢	胴部					単絡1LR縦回転		
43	76H 深鉢	胴部					単絡1LR縦・斜め回転		繊維多し
44	76H 深鉢	胴部					単絡1RL縦回転		
45	76H 深鉢	胴部					単絡1RL斜め回転		
46	76H 深鉢	胴部					単絡1RL縦回転		
47	76H 深鉢	胴部					単絡1LR縦→単絡1LR斜め		粘板岩片・繊維多量含む
48	76H 深鉢	胴部					単絡1RL縦回転		内面ミガキ調整
49	76H 深鉢	胴部					単絡1RL斜め回転		
51	76H 深鉢	胴部					?		
52	76H 深鉢	底部					LR横回転	LR回転	
53	76H 深鉢	底部					LR横回転		
54	76H 深鉢	底部					LR横回転		礫み物圧痕
55	76H 深鉢	底部					LR横回転		
58	76H 深鉢	底部							礫み物圧痕
59	76H 深鉢	底部					LR横回転	LR回転	
60	76H 深鉢	底部					LR横回転	LR回転	
60	76H 深鉢	底部					LR横回転		礫み物圧痕
61	76H ミニチュア土器	底部					無文		
62	76H ミニチュア土器	底部					無文		底部上げ底

遺物番号	出土層	器種	部位	層位	口縁部	区画帯	胴部	備考
1	318土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LRL)			
2	318土	深鉢	口縁部		単軸絡糸体GA種	側面圧痕(R)	多軸絡糸体	
3	318土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)	微隆帯・刺突(棒状施文具)		
4	318土	深鉢	口縁部		側面圧痕(多軸絡糸体)	側面圧痕(多軸絡糸体)、刺突(竹管)	多軸絡糸体	
5	318土	深鉢	口縁部		口唇部外側:側面圧痕(LR)		結束第1種(附加条)	
6	318土	深鉢	口縁部		側面圧痕(R・L)	刺突	結束第1種(附加条)	
7	318土	深鉢	胴部				LR	内面:条痕
8	318土	深鉢	胴部				多軸絡糸体	
9	318土	深鉢	底部				LR	
10	318土	深鉢	底部				LR	底部:LR
11	318土	深鉢	底部				単軸絡糸体1A種	
1	319土	深鉢	口縁部		LR			
2	319土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)	微隆帯・刺突	結束第1種(RL・LR)	
3	319土	深鉢	口縁部		ナデ調整による無文帯		LR	波状口縁、内面:炭化物付着
4	319土	深鉢	頸部			隆帯・刺突・沈線		
5	319土	深鉢	頸部		側面圧痕(LRL)	微隆帯・刺突(半截竹管状施文具)	結節回転文(R)、LR	
6	319土	深鉢	底部				結節回転文(L)、LR	
1	320土	深鉢	頸部~胴部	第26層	結節回転文(R)、LR	隆帯:沈線(竹管状施文具)	LR	
2	320土	深鉢	頸部~胴部	第26層	結節回転文(R)、LR	隆帯:沈線(竹管状施文具)	LR	
1	322土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
2	322土	深鉢	口縁部		結節回転文(L)			
3	322土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)			
4	322土	深鉢	口縁部		口唇部:RL、側面圧痕(R)		単軸絡糸体第1A類	
5	322土	深鉢	口縁部~底部		側面圧痕(L)	結束第1種(RL・LR)	単軸絡糸体第1A類	小波状口縁(4単位)

植物番号	出土遺物	器種	部位	層位	口縁部	区面帯	胴部	備考
1	323土	深鉢	口縁部	第28層	口唇部:押圧(縄文原体端部)、結節回転文(R)、LR		直前段合襷	
2	323土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
3	323土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文、LR			
4	323土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(篋状施文具)、0段多条			
5	323土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、LR			
6	323土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)、LR			
7	323土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、LR			
8	323土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)、附加条			
9	323土	深鉢	口縁部	下層	直前段合襷			
10	323土	深鉢	口縁部		単軸絡条体第1類(R)			
11	323土	深鉢	口縁部		単軸絡条体第1類(R)			
12	323土	深鉢	口縁部		附加条			
13	323土	深鉢	口縁部		単軸絡条体第1類(R)、側面圧痕(LR)			
14	323土	深鉢	口縁部		単軸絡条体第1類(L)			
15	323土	深鉢	口縁部	第28層	LR	隆帯:押圧(篋状施文具)	LR	
16	323土	深鉢	口縁部		LR			
17	323土	深鉢	口縁部~胴部上半		結節回転文	隆帯:側面圧痕(L)	単軸絡条体第1A類	
18	323土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)	微隆帯:側面圧痕(LR)	結束第1種(RL・LR)	
19	323土	深鉢	口縁部	第28層	口唇部:LR、側面圧痕(L、R・L)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	結束第1種(RL・LR)	
20	323土	深鉢	胴部上半	第28層	結節回転文(R)		LR	
1	324土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR		LR	
2	324土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR		LR	
3	324土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(縄文原体端部)、結節回転文(R)、LR			
4	324土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
5	324土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
6	324土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(篋状施文具)、結節回転文(R)			
7	324土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、結節回転文(R)、LR			
8	324土	深鉢	口縁部		口唇部:RL、結節回転文(R)			
9	324土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
10	324土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(篋状施文具、縄文原体端部)、結節回転文(R)、LR			
11	324土	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、結節回転文(R)、LR			
12	324土	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、結節回転文(R)、LR		LR	
13	324土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
14	324土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)	隆帯(指頭状押圧)	LR	
15	324土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR		LR	内面:LR、補修孔
16	324土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)		結束第1種(RL・LR)	
17	324土	深鉢	口縁部		口唇部:沈線、LR、結節回転文(R)			
18	324土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
19	324土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)		LR	
20	324土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(R)、結節回転文(R)			
21	324土	深鉢	胴部上半		口唇部:押圧(縄文原体端部)、折返口縁:RL		結節回転文(L)、RL	
22	324土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(棒状施文具)、LRL		LRL	内面:条痕
23	324土	深鉢	胴部上半		口唇部:刺突(篋状施文具)、LR			
24	324土	深鉢	口縁部		LR			
25	324土	深鉢	口縁部		LR			
26	324土	深鉢	口縁部		LR			
27	324土	深鉢	口縁部		LR			
28	324土	深鉢	口縁部		単軸絡条体(R)			
29	324土	深鉢	口縁部		単軸絡条体第1種(R)			
30	324土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LRL)			
31	324土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)		LR	
32	324土	深鉢	口縁部		単軸絡条体第6類			
33	324土	深鉢	口縁部		側面圧痕(R)	側面圧痕(R)、刺突(竹管状施文具)	結束第1種(RL・LR)	
34	324土	深鉢	頸部		側面圧痕(LR)、刺突(竹管状施文具)			
35	324土	深鉢	胴部上半		結節回転文(R)	隆帯:結節回転文(R)	LR	
36	324土	深鉢	胴部上半		結節回転文(R)、LR	隆帯:結節回転文(R)	結節回転文(R)、LR	
37	324土	深鉢	胴部下半~底部				LR	
38	324土	深鉢	胴部上半			隆帯:側面圧痕(RL)	LR	
39	324土	深鉢	口縁部~底部		口唇部:側面圧痕(R)、側面圧痕(多軸絡条体)	微隆帯:刺突(劣截竹管状施文具)	単軸絡条体第1A類、結束第1種(RL・LR)	小波状口縁(4単位)
40	324土	深鉢	胴部				LR	
41	324土	深鉢	胴部				直前段合襷	
42	324土	深鉢	胴部~底部				LR	
43	324土	深鉢	胴部下半~底部				LR	
44	324土	深鉢	底部				LR	
45	324土	深鉢	底部				結節回転文(R)	
46	324土	深鉢	胴部下半~底部				LR、結節回転文(R)	

器物番号	出土層	器種	部位	層位	口縁部	区画帯	胴部	備考
47	324土	深鉢	胴部下半~底部				結束第1種(RL・LR)	
48	324土	深鉢	底部					底面:条痕
49	324土	深鉢	底部					
1	325土	深鉢	口縁部	第23層	口唇部:LR、結節回転文(R)、LR		LR	内面:条痕
2	325土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:LR、結節回転文(R)、LR		LR	内面:条痕
3	325土	深鉢	口縁部	第21層	口唇部:側面圧痕(LR)、結節回転文(R)、LR		LR	
4	325土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:LR、結節回転文(R)		LR	
5	325土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
6	325土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)、LR			
7	325土	深鉢	口縁部	第21層	口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			小突起:押圧(縄文原形輪部)
8	325土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:刻目(棒状施工具)、結節回転文(R)、LR			
9	325土	深鉢	口縁部	下層	口唇部:刻目(棒状施工具)、結節回転文(R)、LR			
10	325土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
11	325土	深鉢	口縁部	第23層	口唇部:LR、結節回転文(R)			
12	325土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:押圧(篋状施工具)、結節回転文(R)			
13	325土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文			
14	325土	深鉢	口縁部	第23層	口唇部:刻目(半截竹管状施工具)、LR			
15	325土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、LR			
16	325土	深鉢	口縁部	第23層	口唇部:LR、LR			
17	325土	深鉢	口縁部	第23層	LR			
18	325土	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、LR			
19	325土	深鉢	口縁部	第21層	LR			
20	325土	深鉢	口縁部		LR			
21	325土	深鉢	口縁部	第23層	LR		LR	
22	325土	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)			
23	325土	深鉢	口縁部	下層	結束第1種(RL・LR)			
24	325土	深鉢	口縁部	第23層	隆帯:矢羽状沈線		単軸絡条体第1A類	
25	325土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕			
26	325土	深鉢	口縁部	第21層	口唇部:LR、側面圧痕(多軸絡条体)			
27	325土	深鉢	口縁部	第21層	多軸絡条体	側面圧痕(RL)		
28	325土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:LR、側面圧痕(LR)		結束第1種(RL・LR)	
29	325土	深鉢	口縁部	上層	側面圧痕(L)、刺突(棒状施工具)		結束第1種(RL・LR)	
30	325土	深鉢	口縁部	中層	口唇部:LR、側面圧痕(単軸絡条体第1類)、刺突(棒状施工具)	微隆帯:刺突(篋状施工具)	単軸絡条体第1A類	
31	325土	深鉢	口縁部~底部		口唇部:RLR、側面圧痕(LR)、刺突(篋状施工具)	微隆帯:刺突(篋状施工具)	単軸絡条体第1A類	小波状口縁(4単位)
32	325土	深鉢	胴部下半~底部				LR	
33	325土	深鉢	胴部下半~底部				単軸絡条体第1A類	
1	326土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、結束第1種			
2	326土	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)			
3	326土	深鉢	口縁部		LRヨコ			
4	326土	深鉢	口縁部		結束第1種			
5	326土	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)	側面圧痕(RL)		
6	326土	深鉢	口縁部		LR			
7	326土	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)			
8	326土	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)			
9	326土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、結束第1種(RL・LR)	側面圧痕(LR)		小波状口縁
10	326土	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)	側面圧痕(RL)		
11	326土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕、側面圧痕			
12	326土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
13	326土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)	微隆帯:刺突(竹状施工具)	多軸絡条体	
14	326土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)	隆帯:側面圧痕(LR)		
15	326土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)	隆帯:側面圧痕(LR)		
16	326土	深鉢	口縁部		附加条			
17	326土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、側面圧痕(LR)			
18	326土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
19	326土	深鉢	口縁部		側面圧痕			
20	326土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)、LR			
21	326土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、側面圧痕(LR)、結節回転紋(L)			
22	326土	深鉢	口縁部		側面圧痕			
23	326土	深鉢	口縁部		口唇部:RL、側面圧痕(LR)	側面圧痕(LR)	単軸絡条体第1類(R)、結束第1種(RL・LR)	小波状口縁
24	326土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)	側面圧痕(LR)	単軸絡条体第1類(R)	
25	326土	深鉢	口縁部		口唇部:RL、側面圧痕(LR)	側面圧痕(LR)	単軸絡条体第1類(R)	
26	326土	深鉢	口縁部		口唇部:RL、側面圧痕(RL)		単軸絡条体第1類(R)	
27	326土	深鉢	口縁部	機能面	口唇部:LR、側面圧痕(LR)		単軸絡条体第1類(R)	

遺物番号	出土遺物	器種	部位	層位	口縁部	区画帯	胴部	備考
28	326土	深鉢	口縁部		側面圧痕(多軸絡条体)	側面圧痕(多軸絡条体)	多軸絡条体	小波状口縁
29	326土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)、刺突(棒状施文具)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	単軸絡条体第1A類	
30	326土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(RL・LR)、軸絡条体第5類		結束第1種(RL・LRL)	
31	326土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)		単軸絡条体第1A類	
32	326土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)、刺突(棒状施文具)		単軸絡条体第1類(R)	
33	326土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)		単軸絡条体第1A類	
1	328土	深鉢	口縁部~胴部		縦位隆帯:側面圧痕(LR)、側面圧痕(多軸絡条体)	結節回転文(L)	結束第1種(RL・LR)	
2	328土	深鉢	口縁部~胴部		側面圧痕(R)、押圧(縄文原体端部)	結節回転文(R)	単軸絡条体第1A類	小突起
3	328土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、LR、刺突(棒状施文具)			
4	328土	深鉢	口縁部		側面圧痕	側面圧痕	結束第1種(RL・LR)	
5	328土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(L)、RL			
6	328土	深鉢	口縁部		側面圧痕、結節回転文			
1	330土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
2	330土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	多軸絡条体、結節回転文(R)	
3	330土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	単軸絡条体第1A類、結節回転文(R)	
4	330土	深鉢	口縁部~胴部		側面圧痕(R)	微隆帯:側面圧痕(R)	単軸絡条体第1A類	
1	331土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)			
1	332土	深鉢	口縁部		LR			
2	332土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
1	333土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(RL・LR)、刺突(棒状施文具)		単軸絡条体第1A類	
2	333土	深鉢	口縁部		口唇部:刻目(棒状施文具)、側面圧痕(L)、刺突(棒状施文具)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	結束第1種(RL・LR)、結節回転文(L)	
3	333土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(R・L)、刺突(棒状施文具)	微隆帯:側面圧痕(LR)	多軸絡条体	
4	333土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)	側面圧痕(LR)、微隆帯:刺突(棒状施文具)	結束第1種(RL・LR、附加条)、結節回転文(R)	
5	333土	深鉢	口縁部		口唇部:刻目(棒状施文具)、側面圧痕(LR)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	結束第1種(RL・LR)、単軸絡条体第1種(R)	
6	333土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL・単軸絡条体第6類)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	結束第1種(RL・LR)	
7	333土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(R)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	結束第1種(LR・附加条)	
8	333土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(R)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	結束第1種(LR・附加条)	
9	333土	深鉢	口縁部~底部		口唇部:LR、側面圧痕(R・L、LR)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	結束第1種(RL・LR)、結節回転文(R)	小波状口縁
10	333土	深鉢	胴部上半~胴部下半				結束第1種(RL・LR)	
1	334土	深鉢	口縁部		LR			
2	334土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)、LR			
1	335土	深鉢	底部				多軸絡条体(R)	
2	335土	小形深鉢	胴部下半~底部				結束第1種(LR・LR)	
1	339土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:LR、側面圧痕(R)			内面:指頭状圧痕
2	339土	深鉢	口縁部	下層	口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
3	339土	深鉢	口縁部	上層	結節回転文(R)、LR			
4	339土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)			
5	339土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:側面圧痕(R)、側面圧痕(R)			内面:指頭状圧痕
6	339土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)	LR		
7	339土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)			内面:LR
8	339土	深鉢	口縁部	下層	口唇部:LR、結節回転文(R)			
9	339土	深鉢	口縁部	上層	LR			
10	339土	深鉢	口縁部		LR			
11	339土	深鉢	口縁部		結節回転文(L)			波状口縁
12	339土	小形深鉢	口縁部	上層	横位沈線			
13	339土	深鉢	口縁部		LR			
14	339土	深鉢	口縁部	下層	側面圧痕(RL・LR)		単軸絡条体第1A類	
15	339土	深鉢	口縁部	下層	側面圧痕(R)	微隆帯:側面圧痕(R)	単軸絡条体第1A類	
16	339土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL)		単軸絡条体第1A類	
17	339土	深鉢	口縁部		LR			
18	339土	深鉢	口縁部	下層	口唇部:RL、側面圧痕(LR)		結束第1種(RL・LR)	
19	339土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)		附加条	
20	339土	深鉢	口縁部	上層	側面圧痕(L)、結束第1種(RL・LR)			
21	339土	深鉢	口縁部~胴部上半	上層	側面圧痕(RL・R)		結束第2種(附加条)	
22	339土	深鉢	口縁部		口唇部:刻目(筒状施文具)、側面圧痕(LR)			内面:角痕(筒状工具)、加土・塗料
23	339土	深鉢	口縁部		口唇部:RL、側面圧痕(R)、結節回転文(R)	微隆帯:刺突(棒状工具)、側面圧痕(R)	結束第1種(附加条)	
24	339土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(多軸絡条体)	微隆帯:刺突(半截竹管状施文具)	多軸絡条体	
25	339土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、側面圧痕(LR)			
26	339土	深鉢	口縁部	上層	単軸絡条体第6A類	側面圧痕(L)	結束第1種(RL・LR)	
27	339土	深鉢	口縁部	下層	口唇部:LR、側面圧痕(LR)		結束第2種(RL・LR)	
28	339土	深鉢	口縁部	下層	口唇部:LR、側面圧痕(単軸絡条体第5類)、刺突(棒状施文具)			
29	339土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(R)	微隆帯:刺突(棒状施文具)、結節回転文(R)	結束第1種(附加条)	30と同一個体
30	339土	深鉢	口縁部~胴部上半	下層	口唇部:LR、側面圧痕(R)	微隆帯:刺突(棒状施文具)、結節回転文(R)	結束第1種(附加条)	29
31	339土	深鉢	口縁部~胴部上半	上層	口唇部:LR、側面圧痕(R)		結束第1種(RL・LR)	
1	340土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR	LR		

遺物番号	出土遺物	器種	部位	層位	口縁部	区画帯	胴部	備考
2	340土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
3	340土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:側面圧痕(LR)、LR			
4	340土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)、LR			
5	340土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
6	340土	深鉢	口縁部	上層	側面圧痕(LR)	微隆帯:押圧(縄文原体端部)	単軸絡糸体第1A類(R)	
7	340土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
8	340土	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)			
9	340土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(LR)、結束第1種(RL・LR)		結束第1種(RL・LR)	
10	340土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:RL、側面圧痕(RL)	微隆帯:側面圧痕(RL・LR)	単軸絡糸体第1A類	
11	340土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)	微隆帯:刺突(棒状施工具)	結束第1種(RL・LR)	
12	340土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:LR、側面圧痕(多軸絡糸体)	微隆帯:側面圧痕(多軸絡糸体)	結節回転文(R)、単軸絡糸体第1A類(R)	
13	340土	深鉢	口縁部	第13層	口唇部:LR、側面圧痕(LR)		結束第1種(附加条)	
14	340土	深鉢	口縁部	上層	側面圧痕(LR)	微隆帯:刺突(半截竹管状施工具)	結束第1種(RL・LR)	
15	340土	深鉢	口縁部	上層	側面圧痕(R・L)			
16	340土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL・LR)	微隆帯:押圧(縄文原体端部)	結節回転(R)	
17	340土	深鉢	口縁部		側面圧痕(R)	微隆帯:刺突(半截竹管状施工具)	LR	
18	340土	深鉢	口縁部		側面圧痕:単軸絡糸体第1種(LR)	微隆帯:刺突(棒状施工具)	附加条	
19	340土	深鉢	口縁部	第12層	口唇部:側面圧痕(LR)、結束第1種(RL・RL)			突起
20	340土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)		結束第1種(RL・LR)	
21	340土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:刺突(棒状施工具)、側面圧痕(多軸絡糸体)、刺突(棒状施工具)			
22	340土	深鉢	口縁部	上層	ボタン状貼付、並行沈線、刺突(半截竹管状施工具)		並行沈線、ボタン状貼付	突起(2単位)、沈線:2本同時施工
23	340土	深鉢	口縁部	口縁部~底部	口唇部:LR、側面圧痕(R)	微隆帯:刺突(竹管状施工具)	単軸絡糸体第1A類	小波状口縁(5単位)
1	341土	深鉢	口縁部	中層	口唇部:LR、結節回転文(R)			内面:LR
2	341土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
3	341土	深鉢	口縁部	中層	口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
4	341土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
5	341土	深鉢	口縁部		口唇部:刻目(筒状施工具)、結節回転文(R)、LR			
6	341土	深鉢	口縁部		口唇部:刻目(劣截竹管状施工具)、結節回転文(R)、LR		LR	
7	341土	深鉢	口縁部	中層	結節回転文(R)			17・18と同一個体
8	341土	深鉢	口縁部	中層			LR	
9	341土	深鉢	口縁部	中層	LR			
10	341土	深鉢	口縁部	上層	側面圧痕(LR)			
11	341土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
12	341土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:LR			
13	341土	深鉢	口縁部		LR			
14	341土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、LR		LR	
15	341土	深鉢	口縁部	中層	口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
16	341土	深鉢	口縁部	上層	側面圧痕(LR)			
17	341土	深鉢	口縁部		口唇部:結節回転文(R)、結節回転文(R)			7・18と同一個体
18	341土	深鉢	口縁部		口唇部:結節回転文(R)、結節回転文(R)			7・17と同一個体
19	341土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
20	341土	深鉢	口縁部	上層	側面圧痕(多軸絡糸体)			
22	341土	深鉢	口縁部	底面	口唇部:LR、側面圧痕(LR)	微隆帯:側面圧痕(LR)	単軸絡糸体第1A類	
23	341土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(RL・LR)	微隆帯	単軸絡糸体第1A類	
24	341土	深鉢	口縁部		口唇部:RL、側面圧痕(LR)	微隆帯:側面圧痕(LR)	単軸絡糸体第1A類	赤色顔料塗布
25	341土	深鉢	口縁部	口縁部~胴部上半	口唇部:LR、側面圧痕(LR)	隆帯:刺突(棒状施工具)	単軸絡糸体第1A類、結節回転文(L)、RL	有孔
26	341土	深鉢	口縁部	上層	側面圧痕(R)	微隆帯:押圧(縄文原体端部)	単軸絡糸体第1A類	
27	341土	深鉢	口縁部	上層	側面圧痕(R)	微隆帯:刺突(棒状施工具)	単軸絡糸体第1A類	
28	341土	深鉢	口縁部	中層	口唇部:LR、側面圧痕(LR)	結束第1種(附加条)		
29	341土	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)		単軸絡糸体第1A類	
30	341土	深鉢	口縁部	中層	口唇部:LR、側面圧痕(L)、刺突(棒状施工具)		結束第1種(RL・LR)	
31	341土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(R・L)、側面圧痕(R・L)	隆帯:刺突(多截竹管状施工具)	RL	
32	341土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)	微隆帯:刺突(棒状施工具)	結束第1種(附加条)	
33	341土	深鉢	胴部				単軸絡糸体第1A類、LR	
34	341土	深鉢	口縁部	下層	単軸絡糸体第6A類	単軸絡糸体第1類(L)	単軸絡糸体第1A類	
35	341土	深鉢	口縁部		単軸絡糸体第1類(R)	側面圧痕(R)、刺突(竹管状施工具)		
36	341土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕:単軸絡糸体第1類(R)、結節回転文(R)	微隆帯:刺突(棒状施工具)	結束第1種(RL・LR)	
37	341土	深鉢	口縁部	中層	口唇部:LR、結束第1種(RL・LR)	微隆帯:結束第1種(RL・LR)、刺突(棒状施工具)	多軸絡糸体	
38	341土	深鉢	口縁部	中層	口唇部:RL、結束第1種(RL・LR)			
39	341土	深鉢	口縁部	中層	口唇部:側面圧痕(多軸絡糸体)、側面圧痕(多軸絡糸体)	微隆帯:側面圧痕(多軸絡糸体)、刺突(棒状施工具)	多軸絡糸体	
40	341土	深鉢	口縁部	上層	口唇部:側面圧痕(多軸絡糸体)、側面圧痕(多軸絡糸体)	微隆帯:側面圧痕(多軸絡糸体)	多軸絡糸体	
41	341土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(R・L)、側面圧痕(R・L)		多軸絡糸体	
42	341土	深鉢	口縁部	口縁部~底部	口唇部:L、側面圧痕(L)	微隆帯:刺突(竹管状施工具)	LR、単軸絡糸体第1A類	小波状口縁(4単位)
43	341土	深鉢	口縁部	口縁部~底部	口唇部:RL、側面圧痕(多軸絡糸体)、結節回転文(R)	微隆帯:刺突(棒状施工具)	結束第1種(RL・LR)	

器物番号	出土遺跡	器種	部位	層位	口縁部	区画帯	胴部	備考
44	341土	深鉢	口縁部~底部		口唇部:LR、側面圧痕(L)	微隆帯:刺突(竹管状施文具)	結束第1種(LR・LR)、結節回転文(L)、単軸絡条体第1A類	小波状口縁(4単位)
45	341土	深鉢	口縁部~底部		口唇部:LR、側面圧痕(多軸絡条体)	微隆帯:刺突(半截竹管状施文具)、側面圧痕(LR)	単軸絡条体第1A類	
	341土							
1	344土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)、結束第1種(RL・LR)			
2	344土	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)、結節回転文(L)			
3	344土	深鉢	口縁部		LR		LR	
1	345土	深鉢	口縁部		側面圧痕(R)			
2	345土	深鉢	口縁部		側面圧痕			
3	345土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL)			
4	345土	深鉢	胴部下半~底部				単軸絡条体第1類(R)	
1	348土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)、LR			7と同一個体
2	348土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR		LR	
3	348土	深鉢	口縁部	下層	結節回転文(R)			
4	348土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
5	348土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
6	348土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)、LR			
7	348土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)、LR			1と同一個体
8	348土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
9	348土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
10	348土	深鉢	口縁部	下層	結節回転文(R)	隆帯:指頭状押圧	LR	25・29と同一個体
11	348土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)		LR	
12	348土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RLR)		RLR	13と同一個体
13	348土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RLR)		RLR	12と同一個体
14	348土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)			
15	348土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
16	348土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR		LR	
17	348土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
18	348土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)、LR			
19	348土	深鉢	口縁部		LR			
20	348土	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、結節回転文(R)、LR			
21	348土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(縄文原形器部)、結節回転文(R)			
22	348土	深鉢	口縁部		LR			
23	348土	深鉢	口縁部		LR			
24	348土	深鉢	口縁部		L			
25	348土	深鉢	口縁部~胴部上半	下層	結節回転文(R)	隆帯:指頭状押圧	LR	10・29と同一個体
26	348土	深鉢	口縁部~胴部上半	下層	結節回転文(R)	隆帯:指頭状押圧	LR	
27	348土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
27	348土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
28	348土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)		LR	
29	348土	深鉢	口縁部	下層	結節回転文(R)	隆帯:指頭状押圧		10・29と同一個体
30	348土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)	隆帯:側面圧痕(LR)、指頭状押圧	多軸絡条体	31と同一個体
31	348土	深鉢	胴部上半		結節回転文(R)	隆帯:側面圧痕(LR)、指頭状押圧	多軸絡条体	30と同一個体
32	348土	深鉢	口縁部		LR	隆帯	LR	
33	348土	深鉢	口縁部~胴部	下層	口唇部:刺突(半截竹管状施文具)、側面圧痕(LR)	隆帯:押圧(縄文原形器部)、刺突(竹管状施文具)	多軸絡条体	
34	348土	深鉢	口縁部~底部		結節回転文(R)、LR	側面圧痕(R)	単軸絡条体第1類(R)	
35	348土	深鉢	口縁部		LR		LR	
36	348土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)		単軸絡条体第1A類	
37	348土	深鉢	胴部				多軸絡条体	
1	349土	深鉢	口縁部~胴部下半		側面圧痕(L)、結節回転文(R)		結束第1種(RL・LR)、結節回転文(R)	
2	349土	深鉢	口縁部~胴部		側面圧痕(LR)		多軸絡条体	
3	349土	深鉢	胴部下半~底部				結束第1種(RL・LR)	
4	349土	深鉢	口縁部~底部		口唇部:LR、側面圧痕(R)		結束第1種(R・LR)	
5	349土	深鉢	口縁部~底部		側面圧痕(LR)		結束第1種(RL・LR)	
6	349土	深鉢	口縁部		側面圧痕:結束第1種(RL・LR)	結束第1種(RL・LR)	結束第1種(RL・LR)	
7	349土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL)			
8	349土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL)			
9	349土	深鉢	口縁部		単軸絡条体第6A類	側面圧痕:結束第1種(RL・LR)	単軸絡条体第1A類	
1	361土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)	隆帯(剥落)	LR	
2	361土	深鉢	口縁部		LR、側面圧痕(R)	微隆帯:刺突(竹管状施文具)	結束第1種(附加条)	
1	362土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL)、円形刺突(棒状施文具)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	結節回転文、結束第1種(RL・LR)	
2	362土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL)、円形刺突(棒状施文具)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	結節回転文、結束第1種(RL・LR)	
3	362土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL)、円形刺突(棒状施文具)	微隆帯:刺突(棒状施文具)	結節回転文、結束第1種(RL・LR)	
1	363土	深鉢	口縁部~底部		側面圧痕:単軸絡条体第5類		結束第1種(附加条)	
2	363土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(半截竹管状施文具)、結節回転文(R)、LR			小波状口縁

遺物番号	出土遺構	器種	部位	層位	口縁部	区画帯	胴部	備考
3	363土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(縄文原体端部)、結節回転文(R)			
4	363土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			内面:LR
5	363土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)、LR			
6	363土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結束第1種(RL・LR)、側面圧痕(LR)			
7	363土	深鉢	口縁部		口唇部:RL、側面圧痕(R)、刺突(竹管状施工具)			
8	363土	深鉢	口縁部					口縁部内面:隆帯貼付
9	363土	深鉢	口縁部~底部		口唇部:刻目(棒状施工具)、側面圧痕(LR)	側面圧痕(RL)	結束第1種(附加条)	
1	365土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)、LR			
2	365土	深鉢	口縁部~胴部下半		結束第1種(RL・LR)	隆帯:側面圧痕(単軸絡条体第1類)	結節回転文(R)、第1種(RL・LR)	
1	366土	深鉢	口縁部~胴部下半		側面圧痕(R)	隆帯:刺突(棒状施工具)	結束第1種(RL・LR)、結節回転文(L)	波状口縁(4単位)
2	366土	深鉢	口縁部	下層	口唇部:LR、結節回転(R)、LR			内面:LR
3	366土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
3	366土	深鉢	口縁部	下層	側面圧痕(RL)			9-11-13-17と同一個体
4	366土	深鉢	口縁部		側面圧痕:結束第1種(RL・LR)	微隆帯:側面圧痕(結束第1種RL・LR)	結束第1種(RL・LR)	
5	366土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL・LR)			
6	366土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
7	366土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
8	366土	深鉢	口縁部		側面圧痕(RL・LR)			
9	366土	深鉢	口縁部~胴部上半	下層	側面圧痕(単軸絡条体第1類)	隆帯:側面圧痕(単軸絡条体第1類)	LR	3-11-13-17と同一個体
10	366土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
11	366土	深鉢	口縁部	下層	側面圧痕(単軸絡条体第1類)			3-9-13-17と同一個体
12	366土	深鉢	口縁部		口唇部:側面圧痕(RL)、側面圧痕(RL)			
13	366土	深鉢	口縁部	下層	側面圧痕(単軸絡条体第1類)			3-9-11-17と同一個体
14	366土	深鉢	口縁部	中層	結束第1種(RL・LR)、側面圧痕(R)			
16	366土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
17	366土	深鉢	胴部上半	下層	側面圧痕(単軸絡条体第1類)	隆帯:側面圧痕(単軸絡条体第1類)	LR	3-9-11-13と同一個体
18	366土	深鉢	口縁部~底部		結節回転文(R)、結束第1種(RL・LR)		結節回転文(R)、結束第1種(RL・LR)	
19	366土	深鉢	口縁部~底部		結束第1種(RL・LR)	側面圧痕(R)	結束第1種(RL・LR)	
20	366土	深鉢	口縁部~底部		結束第1種(RL・LR)		結束第1種(RL・LR)	
21	366土	深鉢	胴部下半~底部				結束第1種(RL・LR)	
12	366土	深鉢	口縁部	下層				No.3-7-11-16と同一個体
13	366土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
14	366土	深鉢	口縁部	下層	口唇部:LR、結節回転(R)、LRヨ			内面:LR
15	366土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
16	366土	深鉢	口縁部~胴部上半	下層	側面圧痕(単軸絡条体第1類)	隆帯:側面圧痕(単軸絡条体第1類)	LR	No.3-7-11-12と同一個体
18	366土	深鉢	口縁部~底部		結節回転文(R)、結束第1種(RL・LR)		結節回転文(R)、結束第1種(RL・LR)	
19	366土	深鉢	口縁部~底部		結束第1種(RL・LR)	側面圧痕(R)	結束第1種(RL・LR)	
20	366土	深鉢	口縁部~底部					
21	366土	深鉢	胴部下半~底部					
1	367土	深鉢	口縁部		口唇部:RLR、側面圧痕(LR)、RLRヨ			
2	367土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、側面圧痕(LR)	側面圧痕(単軸絡条体第1A類)	単軸絡条体第1A類	
1	368土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)			
2	368土	深鉢	口縁部		口唇部:RL、側面圧痕(L)	微隆帯:側面圧痕(単軸絡条体第5類)	結束第1種(RL・LR)	
1	369土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)	微隆帯:側面圧痕(RL)		
2	369土	深鉢	口縁部~底部		側面圧痕(RL)		結束第1種(RL・LR)	
3	369土	深鉢	口縁部~底部		側面圧痕(LR)	側面圧痕:結束第1種(RL・LR)	結束第1種(RL・LR)	波状口縁(4単位)
4	369土	深鉢	胴部上半~底部				結束第1種(RL・LR)	
5	369土	深鉢	口縁部~胴部下半		側面圧痕(R)	側面圧痕(R)	結束第1種(RL・LR)	
6	369土	深鉢	口縁部		側面圧痕(LR)	結束第1種(RL・LR)		
1	370土	深鉢	口縁部		結束第1種(RL・LR)			
1	374土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
2	374土	深鉢	口縁部		口唇部:指頭状押圧、LR		LR	
3	374土	鉢	口縁部		併行沈線		LR	内面:黄位沈線・赤色顔料塗布
1	376土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(篋状施工具)、結節回転文(R)、LR		LR	
2	376土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
3	376土	深鉢	口縁部		沈線文			
4	376土	深鉢	口縁部		口唇部:LR、結節回転文(R)、LR			
5	376土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)、LR			
6	376土	深鉢	口縁部		結節回転文(R)			
7	376土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(篋状施工具)、結節回転文(L)、RL			内面:条痕
8	376土	深鉢	口縁部		口唇部:押圧(棒状施工具)、沈線、LR		LR	内面:条痕
9	376土	深鉢	口縁部		LR			
10	376土	深鉢	口縁部		単軸絡条体第1類			

11	376±	深鉢	口縁部~底部	側面圧痕 (L R、多軸絡条体)	微隆帯: 刺突 (棒状施文具)	結束第1種 (R L・L R)	
12	376±	深鉢	口縁部	口唇部: L R、側面圧痕 (附加条)		結束第1種 (R L・L R)	13と同一個体
12	376±	深鉢	口縁部	口唇部: L R、側面圧痕		結束第1種 (R L・L R)	
13	376±	深鉢	口縁部~胴部上半	口唇部: L R、側面圧痕 (附加条)		結束第1種 (R L・L R)	12と同一個体
14	376±	深鉢	口縁部	口唇部: R L、側面圧痕 (L R)	微隆帯	結束第1種 (R・L R)	15・17と同一個体
15	376±	深鉢	口縁部	口唇部: L R、側面圧痕 (L R)	微隆帯		14・17と同一個体
16	376±	深鉢	口縁部	側面圧痕 (R・L)	微隆帯: 刺突 (棒状施文具)		
17	376±	深鉢	口縁部	口唇部: L R、側面圧痕 (L R)	微隆帯	L R	14・15同一個体
18	376±	深鉢	口縁部	口唇部: R、側面圧痕 (R)	微隆帯: 刺突 (棒状施文具)	R L、結節回転文 (R)	
19	376±	深鉢	口縁部	口唇部: 附加条、側面圧痕 (L)	微隆帯: 側面圧痕 (L)	結節回転文 (R)、結束第1種 (R L・L R)	
20	376±	深鉢	口縁部	口唇部: L R、側面圧痕 (R・L)、刺突 (棒状施文具)			
21	376±	深鉢	胴部			単軸絡条体第5類	
22	376±	深鉢	口縁部	口唇部: L、単軸絡条体第5類		単軸絡条体第1 A類	
23	376±	深鉢	口縁部~胴部上半	口唇部: L R、側面圧痕 (L)	微隆帯: 刺突 (棒状施文具)	結束第1種 (R L・L R)	
24	376±	深鉢	口縁部	口唇部: R L、側面圧痕 (L R)		結束第1種 (R L・L R)	
25	376±	深鉢	口縁部	結束第1種 (R L・L R)			
26	376±	深鉢	口縁部	結束第1種 (R L・L R)			
27	376±	深鉢	口縁部	並行沈線文		並行沈線文、鋸齒状沈線文	波状口縁、沈線: 2本同時施文
1	378±	深鉢	口縁部	口唇部: L R、結節回転文 (R)			
2	378±	深鉢	口縁部	口唇部: 押圧 (棒状施文具)、結節回転文 (R)、L R			
3	378±	深鉢	口縁部	側面圧痕 (L R)		L R	
4	378±	深鉢	口縁部	L R			
5	378±	深鉢	口縁部	L R			
6	378±	深鉢	口縁部	口唇部: 縄文回転文 (R)、側面圧痕 (R)、刺突 (棒状施文具)			
7	378±	深鉢	口縁部	L R	側面圧痕 (R)	単軸絡条体第1類 (R)	
8	378±	深鉢	口縁部	口唇部: L R、側面圧痕 (R・L)、結束第1種 (R L・L R)			
1	379±	深鉢	口縁部~底部	口唇部: L R、側面圧痕 (L R)	側面圧痕 (L R)	結節回転文 (R)、結束第1種 (R L・L R)	小波状口縁 (4単位)
2	379±	深鉢	胴部下半~底部	単軸絡条体第1類 (R)			
3	379±	小形深鉢	胴部下半~底部			結束第1種 (R L・L R)	
4	379±	深鉢	口縁部	結束第1種 (R L・L R)			
5	379±	深鉢	口縁部	側面圧痕 (R)			
1	380±	深鉢	口縁部	上層 口唇部: L R、L R、横位沈線		L R	内面: 条痕
2	380±	深鉢	口縁部	上層 側面圧痕 (L R)、	微隆帯: 刺突 (多載竹管状施文具)	結束第1種 (R L・L R)、単軸絡条体第1 A類	12と同一個体
3	380±	深鉢	口縁部	口唇部: L R、側面圧痕 (単軸絡条体第1 A類)	微隆帯: 刺突 (多載竹管状施文具)	単軸絡条体第1 A類	
4	380±	深鉢	口縁部	上層 側面圧痕 (L R)	微隆帯: 刺突 (棒状施文具)	単軸絡条体第1 A類	1と同一個体
5	380±	深鉢	口縁部~胴部上半	上層 側面圧痕 (L R)	微隆帯: 刺突 (棒状施文具)	単軸絡条体第1 A類	4と同一個体
6	380±	深鉢	口縁部	上層 口唇部: 側面圧痕 (R)、側面圧痕 (L R)	微隆帯: 刺突 (多載竹管状施文具)	単軸絡条体第1 A類	
7	380±	深鉢	口縁部	上層 口唇部: L R、側面圧痕 (R・L R)	微隆帯	結束第1種 (R L・L R)	
8	380±	深鉢	口縁部	側面圧痕 (L)、刺突 (棒状施文具)		側面圧痕 (単軸絡条体第5類)、結束第1種 (R L・L R)	
9	380±	深鉢	口縁部	中層 口唇部: L R、側面圧痕 (L R)、結束第1種 (R L・L R)			
10	380±	深鉢	口縁部	上層 側面圧痕 (L)	微隆帯: 刺突 (半載竹管状施文具)	結束第1種 (R L・L R)	
11	380±	深鉢	口縁部	側面圧痕 (L R)		結束第1種 (R L・L R)	
13	380±	深鉢	口縁部~胴部上半	上層 口唇部: R L、側面圧痕 (多軸絡条体)、刺突 (半載竹管状施文具)	微隆帯: 側面圧痕 (多軸絡条体)、刺突 (半載竹管状施文具)	多軸絡条体	
14	380±	深鉢	口縁部	上層 L R			
15	380±	深鉢	口縁部~底部	結束第1種 (R L・L R)		結束第1種 (R L・L R)、結節回転文 (R)	
16	380±	深鉢	口縁部	中層 側面圧痕 (L R)、	微隆帯: 刺突 (多載竹管状施文具)	結束第1種 (R L・L R)、単軸絡条体第1 A類	2と同一個体
16	380±	深鉢	口縁部~底部	側面圧痕: 結束第1種 (R L・L R)		結束第1種 (R L・L R)	
17	380±	深鉢	口縁部~底部	口唇部: L R、側面圧痕: 結束第1種 (R L・L R)		結束第1種 (R L・L R)	小波状口縁 (4単位)
18	380±	深鉢	口縁部~底部	側面圧痕: 結束第1種 (R L・L R)		結束第1種 (R L・L R)	
19	380±	深鉢	口縁部~胴部下半	側面圧痕 (L R)		結束第1種 (R L・L R)	小波状口縁 (4単位)
20	380±	深鉢	口縁部~底部	口唇部: R L・L R、側面圧痕 (R L・L R)	側面圧痕 (R L・L R)、刺突 (棒状施文具)	単軸絡条体第1 A類	小波状口縁 (4単位)
21	380±	深鉢	胴部下半~底部			単軸絡条体第1 A類	
22	380±	深鉢	胴部下半~底部			単軸絡条体第1 A類、結節回転文 (R)	
1	387±	深鉢	口縁部	側面圧痕 (L R)			
2	387±	深鉢	口縁部	側面圧痕 (R)			
3	387±	深鉢	口縁部	口唇部: L R、側面圧痕 (L R)、結束第1種 (R L・L R)、刺突 (棒状施文具)		結束第1種 (R L・L R)	小波状口縁、有孔
4	387±	深鉢	口縁部	側面圧痕 (L R)	微隆帯: 刺突 (棒状施文具)	単軸絡条体第1 A類	
5	387±	深鉢	口縁部	口唇部: L R、側面圧痕 (単軸絡条体第1類)	微隆帯: 刺突 (多載竹管状施文具)	単軸絡条体第1 A類	
6	387±	深鉢	口縁部	口唇部: R L・L R、側面圧痕: 結束第1種 (R L・L R)		結束第1種 (R L・L R)	
7	387±	深鉢	口縁部	R L			小波状口縁、有孔
8	387±	深鉢	口縁部	結節回転文 (R)、L R			
9	387±	深鉢	口縁部	単軸絡条体第1類 (R)			
10	387±	深鉢	口縁部	側面圧痕 (R)、隆帯: 側面圧痕 (R)	隆帯: 側面圧痕 (R)	L R	
1	392±	深鉢	口縁部	側面圧痕 (R L)			
2	392±	深鉢	口縁部	R L、側面圧痕 (R L)			
1	397±	深鉢	口縁部~底部	側面圧痕: 結束第1種 (R L・L R)	結束第1種 (R L・L R)	結束第1種 (R L・L R)	



透物番号	透物番号	器種	部位	層位	口頸部文様	区画帯	胴部文様	備考
2	397土	深鉢	口縁部		口唇部：側面圧痕（多軸絡糸体）、側面圧痕（多軸絡糸体）	微隆帯：円形刺突（棒状施文具）、側面圧痕（多軸絡糸体）	多軸絡糸体、結節回転文（R）	
3	397土	深鉢	口縁部		口唇部：RL、側面圧痕（LR）	微隆帯：円形刺突（棒状施文具）	結束第1種（RL・LR）	
1	398土	深鉢	口縁部		RLR			
2	398土	深鉢	口縁部		口唇部：押圧（縄文原体端部）、RL	側面圧痕（RL）、RL		
3	398土	深鉢	口縁部	中層	側面圧痕（LR）	微隆帯：刺突（棒状施文具）	単軸絡糸体第1A類	4と同一個体
4	398土	深鉢	口縁部	中層	側面圧痕（LR）	微隆帯：刺突（棒状施文具）	単軸絡糸体第1A類	3と同一個体
5	398土	深鉢	口縁部		口唇部：LR、側面圧痕（LR）	微隆帯：側面圧痕（LR）	単軸絡糸体第1A類	
6	398土	深鉢	口縁部～底部		口唇部：LR、側面圧痕（LR）	微隆帯：刺突（棒状施文具）	単軸絡糸体第1類（R）	
7	398土	深鉢	口縁部～底部		口唇部：側面圧痕（LR）	微隆帯：交互刺突（棒状施文具）	単軸絡糸体第1A類	小波状口縁
8	398土	深鉢	胴部～底部				結束第1種（RL・LR）	
1	399土	深鉢	胴部～底部				結束第1種（附加条）	
1	400土	深鉢	口縁部～胴部下半		LR、結節回転文（R）		LR	
2	400土	深鉢	口縁部		口唇部：刺目（棒状施文具）、結節回転文（R）、並行沈線文			
3	400土	深鉢	口縁部		結節回転文			
4	400土	深鉢	口縁部～底部		側面圧痕（LR）	微隆帯：交互刺突（棒状施文具）		
5	400土	深鉢	口縁部		側面圧痕	微隆帯：刺突（棒状施文具）		
6	400土	深鉢	口縁部		口唇部：LR、側面圧痕（LR）、刺突（棒状施文具）	微隆帯：刺突（棒状施文具）	単軸絡糸体第1A類	
7	400土	深鉢	口縁部		山形状突起：刺突（棒状施文具）、口唇部：LR、LR		LR	
1	401土	深鉢	口縁部		LR、結節回転文（R）		LR	
2	401土	深鉢	口縁部		結束第1種（RL・LR）			
3	401土	深鉢	口縁部		結束第1種（RL・LR）			
4	401土	深鉢	口縁部		口唇部：LR、側面圧痕（LR）	側面圧痕（LR）、刺突（棒状施文具）	単軸絡糸体第1類、結束第1種（RL・LR）	
5	401土	深鉢	口縁部		口唇部：LR、側面圧痕（LR）	微隆帯：交互刺突（棒状施文具）	結束第1種（RL・LR）	
1	403土	深鉢	口縁部		口唇部：押圧（縄文原体端部）、結節回転文（R）			内面：LR
2	403土	深鉢	口縁部		側面圧痕、隆帯		RL	
3	403土	深鉢	胴部				結束第2種	
1	405土	深鉢	口縁部～底部		口唇部：LR、隆帯区画：刺突（棒状施文具）、側面圧痕（LR）、結節回転文（R）	微隆帯：刺突（棒状施文具）	単軸絡糸体第1A類	
2	405土	深鉢	口縁部～胴部上半	下層	口唇部：LR、側面圧痕（R・L、LR）、押引文（棒状施文具）		結束第2種（RL・LR）	
3	405土	深鉢	口縁部		側面圧痕（L）			4・5と同一個体
4	405土	深鉢	口縁部～胴部上半		側面圧痕（L）		結束第1種（RL・LR）	3・5と同一個体
5	405土	深鉢	口縁部～胴部上半		側面圧痕（L）			3・4と同一個体
7	405土	深鉢	口縁部		側面圧痕（RL・LR）押引文（半截竹管状施文具）	微隆帯：押引文（半截竹管状施文具）	結節回転文（R）、結束第1種（RL・LR）	
8	405土	深鉢	口縁部		側面圧痕（R・L、LR）		結束第1種（附加条）	
8	405土	深鉢	口縁部		側面圧痕（L）		結束第1種（RL・LR）	
9	405土	深鉢	口縁部～胴部上半		口唇部：側面圧痕（R）、隆帯：側面圧痕（LR）、側面圧痕（LR）	隆帯：側面圧痕（LR）	側面圧痕（LR）、単軸絡糸体第1類	有孔、11と同一個体
10	405土	深鉢	胴部上半			隆帯：側面圧痕（LR）	側面圧痕（LR）、単軸絡糸体第1類	
11	405土	深鉢	口縁部～胴部上半		口唇部：側面圧痕（R）、隆帯：側面圧痕（LR）、側面圧痕（LR）	隆帯：側面圧痕（LR）	側面圧痕（LR）、単軸絡糸体第1類	9と同一個体
12	405土	深鉢	口縁部～胴部上半		隆帯区画、隆帯：円形刺突（竹管状施文具）、側面圧痕（LR・L）	隆帯：円形刺突（竹管状施文具）	結節回転文（L）、単軸絡糸体1A類	
13	405土	深鉢	胴部				多軸絡糸体	
14	405土	深鉢	口縁部		口唇部：刺突（半截竹管状施文具）、刺突文（半截竹管状施文具）、穿孔			

出土層位	器種	部位	層位	口縁部	区画帯	胴部	備考
30埋	深鉢	胴部上半～底部				単軸絡糸体（R・LR）、結節回転（LR）	
31埋	深鉢	口縁部～底部	III層	口唇部：LR、側面圧痕（多軸絡糸体）	微隆帯：側面圧痕（多軸絡糸体）	単軸絡糸体第1A類	小波状口縁（4単位）
32埋	深鉢	口縁部～底部	III・IV層	側面圧痕（多軸絡糸体）	微隆帯：側面圧痕（多軸絡糸体）	結束第1種（RL・LR）	小波状口縁（4単位）
33埋	深鉢	口縁部～底部	II層	口唇部：RL・LR、側面圧痕（単軸絡糸体、R・L）	微隆帯：側面圧痕（単軸絡糸体）	単軸絡糸体第1A類	小波状口縁（4単位）
34埋	深鉢	口縁部～底部	III層	口唇部：側面圧痕（LR）、側面圧痕（単軸絡糸体第5類）	微隆帯：刺突（棒状施文具）	単軸絡糸体第1A類	小波状口縁（4単位）
35埋	深鉢	口縁部～底部	III層	口唇部：LR、側面圧痕（L）	微隆帯：刺突（棒状施文具）	結節回転文（R）、結束第1種（RL・LR）、結束第2種（RL・LR）	
36埋	深鉢	口縁部～底部	II層	口唇部：RL、側面圧痕（R）	隆帯：刺突（棒状施文具）、側面圧痕（R）	多軸絡糸体	小波状口縁（4単位）
37埋	深鉢	口縁部～底部	II・III層	口唇部：RL、隆帯：刺突（棒状施文具）、側面圧痕（RL）、刺突（棒状施文具）	刺突（棒状施文具）	多軸絡糸体	小波状口縁（4単位）
39埋	深鉢	口縁部～底部	IX層	口唇部：LR、LR		LR	
41埋	深鉢	胴部下半～底部	I層			単軸絡糸体第1類（R）	
43埋	深鉢	胴部下半～底部	II層			多軸絡糸体	
44埋	深鉢	口縁部～胴部上半	II層	側面圧痕（LR）	微隆帯：側面圧痕（LR）	単軸絡糸体第1A類	
45埋	深鉢	口縁部～底部	II層	側面圧痕（R）、押引文（半截竹管状施文具）	刺突（半截竹管状施文具）	結束第1種（附加条）	
48埋	深鉢	口縁部～底部	II層	口唇部：RL、側面圧痕（R・L）、結節回転文（R）	微隆帯：側面圧痕（R・L）	単軸絡糸体第1A類	
50埋	深鉢	胴部下半～底部	III層			結束第1種（附加条）	
51埋	深鉢	口縁部～底部	II・III層	口唇部：LR、側面圧痕（LR）	微隆帯：刺突（棒状施文具）	結束第1種（RL・LR）	
52埋	深鉢	口縁部～底部	II・III層	側面圧痕（単軸絡糸体第5類）	微隆帯	結束第1種（附加条）	小波状口縁（4単位）
53埋	深鉢	口縁部～底部	III層	口唇部：LR、側面圧痕（LR）	微隆帯：刺突（棒状施文具）	単軸絡糸体第1A類	小波状口縁（4単位）
54埋	深鉢	口縁部～胴部上半	III層	口唇部：RL、単軸絡糸体第6A類	側面圧痕（多軸絡糸体）、刺突（棒状施文具）		波状口縁
55埋	深鉢	胴部上半～胴部下半	IV層			多軸絡糸体	
56埋	深鉢	胴部下半～底部	III層			結束第1種（RL・LR）	
57埋	深鉢	胴部下半～底部	IV層	側面圧痕（R）	微隆帯：刺突（棒状施文具）	単軸絡糸体第1A類	
59埋	深鉢	口縁部～胴部下半	II層	口唇部：押引文（棒状施文具）、LR		LR	
60埋	深鉢	胴部上半～底部				LR	
61埋	深鉢	口縁部～底部		口唇部：LR、側面圧痕（LR）	微隆帯：側面圧痕（LR）	単軸絡糸体第1A類	小波状口縁（4単位）
62埋	深鉢	口縁部～底部		口唇部：R、側面圧痕（R）	微隆帯：刺突（半截竹管状施文具）	結束第1種（RL・LR）	小波状口縁（4単位）

遺構外出土弥生土器観察表1

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備	考
1	BA25	3a	I A	無文	無	ナ デ	ナ デ	ス			砂粒多	○	全面無文、外面接合痕明瞭	
2			I A	無文	無	ナ デ	ナ デ					○		
3	BC22	4	I A	地文のみ	LR斜行	ナ デ	ミガキ					○		
4	BA25	3a	I A	地文のみ	LR斜行	ナ デ	クスリ・ナ					○		
5	BA24	4	I A	地文のみ	LR斜行	ナ デ	クスリ・ミガキ					○	押圧による波状口縁	
6	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					○		
7	BB24	4	I A	地文のみ	LR斜行	ナ デ	ナ デ					○	口唇部に斜位のナミ (断面半円)	[8]
8	BA25	4	I A	地文のみ	LR斜行	ナ デ	ナ デ					×	7と同一	
9	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ナ デ					○		
10	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	クスリ・ナ					○		
11	BA25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	炭				○		
12	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					○		
13	AZ24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナ					○		
14	BA24	4	I B	無文+地文	LR縦走	ナ デ	ナ デ					○		
15	AZ24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ミガキ					○		
16	BD24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	クスリ・ナ				砂粒多	○	内傾接合	
17	BB25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ミガキ					○		
18	BA25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナ	ス				○		
19	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ		炭			○		
20	BA25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ	炭				○		
21	BA25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	クスリ・ミガキ					○		
22	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ナ デ	ス				○		
23	BB24	4	I B	無文+地文	LR縦走	ミガキ	クスリ・ミガキ					○		
24	BC25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
25	BB24	4	I B	無文+地文	LR斜行	クスリ・ミガキ	クスリ・ミガキ					○		
26	AZ25	4	I B	無文+地文	RL縦走	ミガキ	ミガキ					○		
27	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	クスリ・ナ					○		
28	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ミガキ	炭				○		
29	BD24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ミガキ	ス				×	内傾接合、44と同一?	
30	BH25	4	I B	無文+地文	LR斜行	クスリ・ナ	クスリ・ナ	ス				○		
31	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナ	炭	炭			○		
32	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
33	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	クスリ・ナ	炭			砂粒多	○		
34	BA25	3a	I	無文	無	ナ デ	クスリ・ナ					○	頸?口縁部	
35	BA25	4	I B	無文+地文	LR縦走	ナ デ	ナ デ					○		
36	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ	ス	ス			○		
37	AZ24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ミガキ					○	内傾接合	
38	BB25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					○		
39	BB24	4	I B	無文+地文	LR縦走	ナ デ	ナ デ				砂粒多	○	LR原体(上)⇄(下)回転	
40	BB25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナ				砂粒多	○		
41	BD24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	クスリ・ナ	ス			金雲母	○		
42	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
43	BA24	4	I B	無文+地文	LR	ナ デ	クスリ・ミガキ	炭				○	頸部に幅5mmの横位の調整工具痕	
44	BH24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ミガキ	炭				○	内傾接合、二又突起? [29]	
45	BC21	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					○		
46	BB25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ・ミガキ					○	口唇6~7mm間隔のナミ	
47	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					○	口唇6mm間隔のナミ	
48		4	I B	無文+地文	LR斜横	ミガキ	クスリ・ナ	ス				×	49と同一	
49			I B	無文+地文	LR斜横	ミガキ	クスリ・ナ	炭	炭			○	器高33.7・口径(22.4)・頸部径(22.0)・肩部径(25.4)・底径9.8	
50	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナ					×	49と同一	
51	BC20	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ	炭				○		
52	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○	[77]	
53	BC24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ミガキ		炭			○		
54	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	ス				○		
55	BA		I B	無文+地文	LR斜行 RL斜行	ミガキ	ミガキ	炭				○		
56	BB25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
57	BC24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
58	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
59	BB24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
60	BB24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナ	ス				○		
61	BA26	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ				砂粒多	○		
62	AZ24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
63	BB24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナ	炭				○	体部内面、縦位のナミ痕(幅4mm)体部中に炭化物多量に附着	
64	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	クスリ・ナ		ケル			○		

遺構外出土弥生土器観察表2

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備	考
65	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	クスリ・ナデ					○		
66	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	ス				○		
67	BD24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナデ	ス				○		
68	BC21	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナデ					○		
69	BA25	4	I B	無文+地文	無節L	ミガキ	ミガキ					○		
70	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜縦	ナ デ	クスリ・ナデ					○	LR原体大小2種類使用	
71	BB24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ナ デ	ス				○		
72	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
73	BC22	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					○	縄文末端部痕あり	
74	BC22	4	I B	無文+地文	LR横走	ナ デ	ナ デ	ス				○	現高(16.3)・口径(20.8)・肩部径(22.4)	
75	AZ24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナデ	ス				○	現高(11.7)・口径13.0・胴部径14.8	
76	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ	ス			砂粒多	○		
77	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					×	52と同一	
78	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					○		
79	BA25	4	I B	無文+地文	LR縦走	ナ デ	ナ デ	炭	ス			○	体部外面に炭化物多量に付着。現高(21.9)・口径(24.0)	
80	BA25	3a	I B	無文+地文	LR横走	ナ デ	クスリ・ナデ					○		
81	BA25	4	I B	無文+地文	LR横走	ナ デ	ナ デ	炭				○	押圧波状口縁	
82	BA24	4	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	クスリ・ナデ	ス				○	押圧波状口縁	
83	BA25	4	I B	無文+地文	LR斜行	ミガキ	ナ デ					○		
84	BA24	4	I B	無文+地文	LR縦走	ミガキ	ミガキ	炭				○		
85	BA25	3a	I B	無文+地文	LR斜行	ナ デ	ミガキ					○	頂部二又の山形突起	
86	BC24	4	I B	無文+地文	LR横走	ミガキ	丁寧なミガキ					○	口頸部屈曲大	
87	BA24	4	I	平行沈線文	不明	ナ・ミガキ	ナ・ミガキ				砂粒多	○	壺?の口縁部	
88	BA24	4	IXA	地文のみ	LR斜行	ナ デ	ナ デ				砂粒多	×	遠賀川系壺の底部。569と同一。 底部付近二次焼成による赤色化と器表面の剥落が認められる。現高(6.6)底径(7.6)	
89	BA25	4	I	地文のみ	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○	IC類または、壺の底部?。現高(4.3)・底径9.0	
90	BA24	4	I	地文のみ	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○	現高(5.0)・底径6.8	
91	BB24	4	I	地文のみ	LR横走	ナ デ	ナ デ					○	現高(4.9)・底径7.6	
92	BB24	4	I C	1・2条沈線	LR斜行	ミガキ	クスリ・ミガキ	炭				○		
93	BA25	3a	I C	1・2条沈線	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○	内傾接合	
94	AZ24	4	I C	1・2条沈線	LR斜縦	ナ デ	ミガキ					○		
95	BA24	4	I C	1・2条沈線	LR斜行	ナ デ	ナ デ					○		
96	BA24	4	I C	1・2条沈線	LR斜行	ナ デ	ナ デ				砂粒多	○		
97	BB24	4	I C	1・2条沈線	LR斜行	ミガキ	クスリ・ミガキ	ス				○		
98	AZ24	4	I C	1・2条沈線	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
99	AZ25	4	I C	1・2条沈線	LR縦走	ミガキ	ミガキ					○		
100	BA25	4	I C	1・2条沈線	LR斜行	ナ デ	ミガキ	炭				○		
101	BA24	4	I C	1・2条沈線	LR斜縦	ナ デ	ミガキ					○		
102	BA24	4	I C	1・2条沈線	LR斜行	ミガキ	ミガキ	炭				○		
103	BA24	4	I C	1・2条沈線	LR斜行	ミガキ	クスリ・ミガキ					○		
104	BA24	4	I C	1・2条沈線	LR斜行	ミガキ	ミガキ	炭				○		
105	BA25	3a	I C	1・2条沈線	LR斜行	丁寧なミガキ	ミガキ	ス				○		
106			I C	1・2条沈線	LR斜行	ミガキ	ミガキ	ス				○		
107	BB24	4	I C	1・2条沈線	LR斜行	ミガキ	ナ デ					○		
108			I C	1・2条沈線	LR斜行	ミガキ	ミガキ	不明				○		
109	BH25	4	II A1	平行沈線文	LR斜縦	ナ デ	クスリ・ナデ					○	現高(6.7)・口径(18.0)	
110	BA25	4	II A1	平行沈線文	LR縦走	ミガキ	ミガキ	ス				×	114と同一 (112)	
111	AZ24	4	II A1	平行沈線文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
112	BA24	4	II A1	平行沈線文	LR縦走	不明	不明					×	114と同一、穿孔? [110]	
113	AZ24	4	II A1	平行沈線文	LR斜縦	ミガキ	ミガキ	ス	ス			○	頂部二又の山形突起	
114	BA25	4	II A1	平行沈線文	LR縦走	ミガキ	ミガキ					○	頂部二又の山形突起 [110・112]	
115	BA25	3a	II A2	平行沈線文	LR斜行	ナ デ	クスリ・ミガキ					○		
116	BA25	3a	II A2	平行沈線文	不明	ナ デ	ミガキ					○		
117	AZ24	4	II A2	平行沈線文	不明	ナ デ	ナ デ					○		
118	AZ25	4	II A2	平行沈線文	LR斜横	ナ デ	ナ デ					○		
119	BA25	3a	II A2	平行沈線文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					○	沈線途中断絶。 137は頂部内面にナ・ミを有す山形突起 [137]	
120			II A2	平行沈線文	LR斜横	ナ デ	ナ デ	ス	ス			○	384土坑と同一?頂部二又の山形突起。約1.5cm単位の押引沈線	
121			II A2	平行沈線文	LR斜行	ミガキ	クスリ・ミガキ					○		
122	BA24	4	II A2	平行沈線文	LR横走	ナ デ	ナ デ	ス			金雲母	○	[124]	
123	BA24	4	II A2	平行沈線文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					×	126と同一	
124	BA25	4	II A2	平行沈線文	LR横走	ナ デ	ナ デ	ス			金雲母	×	122と同一	
125	BA24	4	II A2	平行沈線文	LR斜横	ナ デ	ナ デ	炭	ス			○	頂部二又の山形突起・7単位。現高(14.2)・口径13.8	
126	BB24	4	II A2	平行沈線文	LR斜行	ナ デ	ナ デ	ス				○	[123・129]	
127	BB24	4	II A2	平行沈線文	LR斜横	ナ デ	ナ デ					×	131と同一 [128・130]	
128			II A2	平行沈線文	LR斜横	ナ デ	ナ デ		ス			×	131と同一 [127・130]	

遺構外出土弥生土器観察表3

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備	考
129	BA25	4	II A2	平行沈線文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					×	126と同一 [123]	
130	BA25	3a	II A2	平行沈線文	LR斜横	不明	ナ デ	ス				×	131と同一 [127・128]	
131	BB24	4	II A2	平行沈線文	LR斜横	不明	ナ デ					○	頂部二又の山形突起 [127・128・130]	
132	BA25	3a	II A3	平行沈線文	LR横走	ミガキ	ミガキ	炭				○		
133	BA26	3a	II A3	平行沈線文	LR斜行	ミガキ	クズリ・ミガキ	炭				○	内傾接合	
134	BA25	3a	II A3	平行工字文	LR斜行	ナ デ	ナ・ミガキ					○	粘土粒二個貼付	
135	BC22	4	II B	平行工字文	LR斜行	ナ デ	ナ デ				砂粒多	○	「長+短+長」沈線、粘土粒貼付	
136	BA25	4	II B	平行工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	炭				○	粘土粒二個貼付	
137	BA25	3a	II A2	平行沈線文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					×	119と同一、頂部内側面にナミを有す山形突起	
138			II B	平行沈線文	不明	ミガキ	ナ デ	炭				○	「長+短+長」沈線、粘土粒貼付	
139			II B	π字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
140	BA24	4	II B	流水工字文?	不明	ミガキ	ミガキ					○		
141	BA24	4	II B	流水工字文?	LR斜行	ナ デ	クズリ・ナ					○		
142	BA24	4	II B	流水工字文?	LR斜行	不明	クズリ・ナ					○		
143	BA25	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR横走	ミガキ	ミガキ	炭				○		
144	BA25	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	ミガキ	ナ デ					○	平行工字文	
145	BA25	3a	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	平行工字文	
146	BA25	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	ミガキ	ナ デ					○		
147	BA24	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	ス				○		
148	BA25	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	ス		有		○		
149	BA25	3a	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	無	ナ デ	ミガキ			有		○		
150			II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR横走	ミガキ	クズリ・ミガキ	ス				○	平行工字文	
151	BA25	3a	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
152	BA24	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR	ミガキ	ミガキ					○		
153	BA25	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	炭		有	海骨針	○	沈線内に赤色顔料残	
154	BA25	3a	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ				海骨針	○		
155	BA25	3a	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
156	BA24	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ナ デ	ナ デ			有		○	沈線内に赤色顔料残	
157	BD24	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	ミガキ	ミガキ			有		○		
158	BA24	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	ミガキ	ナ デ					○		
159	BA25	3a	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ナ デ	ナ デ	炭				○	通常無文帯に縄文施文	
160	BA24	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR横走	ミガキ	ミガキ	ス	ス			○	平行工字文4単位。現高(10.7)・口径(17.4)・肩部径(18.6)	
161	AZ24	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	ス		有		○	π字文、逆π字文4単位、沈線内赤色顔料残。器高17.1・口径(15.8)・肩部径(18.4)・底径7.2	
162	BA25	3a	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ミガキ	ナ デ					○		
163	BA24	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文?	不明	ミガキ	ミガキ			有		○		
164	AZ24	4	II C1	平行沈線 無文帯 平行工字文?	不明	ナ・ミガキ	ナ デ					○		

遺構外出土弥生土器観察表 4

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備	考
165	BA24	4	II C2	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR横走	ミガキ	クスリ・シガキ	炭	炭			○		
166	BA24	4	II C2	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	ミガキ	クスリ・シガキ	炭		有		○		
167	BA24	4	II C2	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
168	BA24	4	III B	完結型or 沈線連結型	不明	ミガキ	ミガキ					×	206と同一[169, 205, 207]	
169	BA25	4	III B	完結型or 沈線連結型	不明	ミガキ	クスリ・シガキ	炭			海骨針	×	206と同一[168, 205, 207]	
170	BA24	4	II C2	平行工字文	不明	ミガキ	ミガキ			有		○	口縁内面沈線内にもみ赤色顔料残	
171	BA25	3a	II C2	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
172	BA25	4	II C2	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR	ミガキ	ミガキ				砂粒多	○		
173	BA25	3a	II C2	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR	ミガキ	ミガキ					○		
174	AZ25	4	II C	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	ス			海骨針	○	粘土粒?貼付による平行工字文	
175	BA25	3a	II C	平行沈線 無文帯 平行工字文	不明	ミガキ	クスリ・シガキ					○	粘土粒?ミによる平行工字文	
176	BA25	4	II C	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ミガキ	クスリ・シガキ	ス				○	粘土粒?ミによる平行工字文	
177			II C	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR横走	ミガキ	ミガキ				砂粒多	○	粘土粒?ミによる平行工字文	
178	BA25	4	III ?	不明	不明	ミガキ	ミガキ	ス	有			○	粘土粒1点残存	
179	BA25	3a	III A	完結型	LR斜行	ミガキ	クスリ・シガキ	炭	炭			○	外面に炭化物多量に付着	[180・181・182]
180	BA25	4	III A	完結型	LR斜行	ミガキ	クスリ・シガキ	炭	炭			×	179と同一	[181・182]
181			III A	完結型	LR斜行	ミガキ	クスリ・シガキ	炭	炭			×	179と同一	[180・182]
182	BA24	4	III A	完結型	LR斜行	ミガキ	クスリ・シガキ	炭	炭			×	179と同一	[180・181]
183	BA24	4	III A	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					○		
184	BA24	4	III A	変形工字文?	無	ナゲ・シガキ	ナゲ・シガキ	炭				○		
185	BA25	4	III A	流水工字文 or完結型	LR横走	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有	金雲母	○	II Cと形態類似	
186	BA25	3a	III A	完結型	LR縦走	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	頂角間中点π字文。底角部刺突処理。	
187	BA25	3a	III A	完結型	LR斜行	ミガキ	クスリ・ナゲ					○		
188	BA24	4	III A	変形工字文?	不明	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ	ス		不明		○		
189			III A	工字状連結B	LR斜縦	ミガキ	ミガキ	ス	ス	有	金雲母	×	190と同一(295, 297)。沈線間刺突。金雲母多し。	
190	BC25	4	III A	工字状連結A	LR斜縦	ミガキ	ミガキ	炭	ス	有	金雲母	○	刺突、沈線内に赤色顔料残、金雲母非常に多し [189・295・297]	
191	BA25	3a	III A	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ	ス				○	三角形頂角部は文様描出の通過点。 粘土粒間2点の刺突処理	
192	BA24		III A	変形工字文	LR	ナゲ・シガキ	クスリ・シガキ	ス		有	砂粒多	○	押圧小波状口縁 口縁内面沈線中にも赤色顔料残	
193	BA24	4	III A	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ	炭				○		
194	BA25	4	III A	交互重層型	LR斜縦	ミガキ	ミガキ	炭	ス	有		○	(上) π字状連結型+(下) 完結型。頂角粘土粒内に刺突。 現高(7.7)・口径(16.4)。	
195	BA25	4	III A	変形工字文	LR横走	ミガキ	ミガキ	炭	ス	有		○		
196	BA25	4	III 波	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有		○		
197	BA24	4	III A	変形工字文	不明	不明	ミガキ					×	198と同一	
198	AZ24	4	III A	変形工字文	不明	不明	ミガキ					○	頂角は文様描出の通過点	[197]
199	AZ24	4	III A	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ	ス				○	頂角間中点π字文	
200	BH24	4	III A	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ナゲ・シガキ	ス				○		
201	BA25	4	III A	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ	ス				○		
202	BA25	3a	III A	変形工字文	不明	ミガキ	クスリ・シガキ	炭				○		
203	BA25	4	III A	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	ス				○		
204			III B	完結型	LR斜縦	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有	海骨針	○	口縁内面沈線内にも赤色顔料残。内面肩部～胴部中位に かけて焦げ付き残。現高(16.7)・口径(17.8)・肩部径(18.8)	
205	BA25	3a	III B	完結型or 沈線連結型	不明	ミガキ	ミガキ				海骨針	×	206と同一[168, 169, 207] 完結型or連結型	
206	BA24	4	III B	完結型or 沈線連結型	不明	ミガキ	ミガキ	炭			海骨針	○	頸部文様帯に無文帯、II C類と類似 [168・169・205・206]	
207	BB	4	III B	完結型or 沈線連結型	不明	ミガキ	ミガキ				海骨針	×	頂部二又山形突起、206と同一	[168, 169, 205]
208	BA24	4	III B	完結型	LR斜行	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有		○	頂部二又山形突起、内面に焦げ付き、鉢形	
209	BA24	4	III B	完結型	不明	ミガキ	ミガキ	炭	ス	有		○	頂部二又の山形突起	
210	BA25	3a	III B	完結型	LR斜行	ミガキ	ナゲ・シガキ	ス				○	頸部付近に焼成後穿孔あり	

遺構外出土弥生土器観察表5

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備考
211			ⅢB	π字状連結型	LR縦走	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有	金雲母	○	三角形内縄文有り、三角形間は上半部の縄文を磨消。斜辺と底辺は別々に描かれる。斜辺は、隣りの三角形の斜辺と連続する。現高(9.2)・口径(17.4) [212]
212			ⅢB	π字状連結型	LR縦走	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有	金雲母	×	211と同一、LR原体(左下)⇄(右上)回転
213	BA24	4	ⅢB	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					○	1.5cm(縦)×1.0cm(横)の粘土粒2点貼付
214	AZ24	4	ⅢB	工字状連結A	不明	ミガキ	ミガキ					○	連結部に縦長の刺突あり
215	BA24	4	ⅢB	交互重層型	LR斜行	ミガキ	クズリ・シガキ					○	(上)工字状連結B型+(下)不明。頂角間中点の粘土粒間刺突処理
216	BA25	4	ⅢB	交互重層型	LR斜行	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有		○	頂角間中点の粘土粒間刺突処理。口唇部沈線内に炭化物残。(上)工字状連結B型+(下)不明。現高(7.0)・口径(19.0)・肩部(19.8)
217	BA25	3a	ⅢB	π字状連結型	不明	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有		○	文様間彫り込み。口縁内沈線にも赤色顔料残。
218	AZ24	4	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					×	219と同一、頂角部間刺突処理
219	BA24	4	ⅢB	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	ス				○	頂角部間刺突処理 [218]
220	BA25	3a	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	クズリ・シガキ				砂粒多	○	頂角部刺突処理
221	BA24	4	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ				海骨針	○	頂角は文様描出の終点
222	BA24	4	ⅢB	変形工字文	LR斜行	ミガキ	クズリ・シガキ			有		○	口縁内面沈線内・突起のサミ内・口唇部沈線に赤色顔料残
223	BA24	4	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	
224	BA25	3a	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	クズリ・シガキ	ス				○	頂角部刺突処理
225	BA25	3a	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ			有	砂粒多	○	口縁内面沈線内に赤色顔料残
226	BH25	3a	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	クズリ・シガキ					○	頂角粘土間刺突状処理
227			ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	クズリ・シガキ					○	頂角部は、文様描出通過点
228	BB24	4	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ	炭	炭		金雲母	○	肩部内面に焦げ付き
229	BA25	3a	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角部刺突処理
230	BB25	4	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	頸部下に、焼成後穿孔あり
231	BA24	4	ⅢB	変形工字文	RL斜行	ミガキ	ミガキ	ス				○	三角形部内に、RL斜行縄文残。頂角部は文様描出の通過点
232	BA24	4	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	
233	BA25	4	ⅢB	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ			有		○	頂角間中点刺突処理
234	BA25	4	ⅢB	π字文 or 変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ	炭				○	二又山形突起に口唇と平行のサミ(沈線)が入る。口唇沈線内に炭化物残
235	BA25	3a	ⅢB		不明	ミガキ	ミガキ			有		○	外面沈線内に赤色顔料残
236			ⅢC	π字状連結型	不明	ミガキ	ミガキ	ス	炭	有		×	237と同一、特殊突起
237	BB24	4	ⅢC	π字状連結型	不明	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有		○	特殊突起+二又山形突起。文様間彫り込み。現高(7.8)・口径(15.6)・肩部径(17.6) [236]
238	BA25	3a	ⅢC	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ			有		○	突起上刺突内・口縁内面にも赤色顔料残
239	AZ24	4	ⅢC	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ			有		○	刺突上面、刺突内、口唇部沈線内に赤顔料残
240	BA25	4	ⅢC	不明	不明	ミガキ	ミガキ					○	
241	BA25	4	ⅢC	不明	不明	ミガキ	ミガキ					○	
242	BC24	4	ⅢC	不明	不明	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ					○	平行沈線を縦の短沈線でつなく、平行工字文
243	BB24	4	ⅢC	不明	不明	ミガキ	ミガキ					○	
244	BA25	3a	ⅢC	不明	不明	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	突起上面「8」字形
245			ⅢC	不明	不明	ミガキ	ミガキ					○	突起上面は、時計回りの渦巻き状
246	BA26	3a	ⅢC	不明	不明	ミガキ	ミガキ	ス	ス			○	
247	BB24	4	ⅢC	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ			有	金雲母	○	
248	BA24	4	ⅢC	不明	不明	ミガキ	ナ デ					○	
249	BA24	4	ⅢC	不明	不明	ミガキ	ミガキ					○	突起上面は、前後に二又となる
250	BA24	4	ⅢC	不明	不明	ミガキ	不明					○	
251	BA24	4	ⅢC	不明	不明	ミガキ	ミガキ					○	
252	BA24	4	ⅢC	流水状文型	不明	ミガキ	ナ・シガキ	炭				○	突起上刺突12個 [253]
253	BA24	4	ⅢC	流水状文型	不明	ミガキ	ナ・シガキ					×	突起上刺突11個。252と同一
254	BB25	4	ⅢC	完結型	LR斜行	ミガキ	クズリ・ナ					×	255と同一 [256]
255	BA24	4	ⅢC	完結型	LR斜行	ミガキ	クズリ・ナ					○	[254・256]
256	BB24	4	ⅢC	完結型	LR斜行	ミガキ	クズリ・ナ					×	255と同一 [254]
257	BA24	4	ⅢD	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	炭		有		○	頂角粘土間刺突処理
258			ⅢD	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有	砂粒多	○	口唇部沈線内・口縁内面沈線内にも赤色顔料残。 [259・277]
259	BA25	4	ⅢD	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	炭	ス	有	砂粒多	×	258と同一 [277]
260			ⅢD	沈線連結型	LR斜行	ミガキ	クズリ・シガキ	タル	タル		金雲母	×	内外面に炭化物多量に付着(焦げ付き・煮こぼれ)。金雲母多量を含む。砂粒多。現高(15.6)・口径(38.8) [261]
261	BD24	4	ⅢD	沈線連結型	LR斜行	ミガキ	クズリ・シガキ	タル	タル		金雲母	×	260と同一。金雲母多量を含む。砂粒多。
262	BA24	4	ⅢD	π字文 or 変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	
263	BB24	4	ⅢD	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ			有		○	頂角間中点粘土粒間刺突状処理
264	BA25	3a	ⅢD	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ナ・シガキ					○	幅2mm程度の細い沈線
265	BA25	3a	Ⅲ波	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ				海骨針	○	LR縄文施文方向 (上)⇄(下)回転
266	BA25	4	Ⅲ波	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ	炭	炭	有		○	口唇部沈線内にも赤色顔料残
267	BB24	4	Ⅲ波	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ		炭	有		○	肩部内面に幅3mmの調整工具痕
268	BB24	4	Ⅲ波	交互重層型	不明	ミガキ	ミガキ	炭	炭			○	(上)工字状連結B型+(下)不明
269	BA25	3a	Ⅲ波	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ	炭				○	
270	BA25	3a	Ⅲ波	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角粘土間刺突処理

遺構外出土弥生土器観察表 6

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備	考
271	BA25	3a	Ⅲ波	変形工字文	不明	不明	ミガキ						○	
272	BB25	4	Ⅲ波	変形工字文	不明	不明	ミガキ	炭		有			○	
273	BB24	4	Ⅲ波	変形工字文	不明	不明	ミガキ						○	
274	BB25	4	Ⅲ波	交互重層型	不明	不明	ミガキ				砂粒多		○	
275	BA24	4	Ⅲ波	交互重層型?	不明	不明	ミガキ	ス		有			○	交互3段の重層変形工字文
276	BA25	3a	Ⅲ波	変形工字文	不明	不明	ミガキ						○	
277	BA25	3a	ⅢD	変形工字文	LR斜縦	不明	ミガキ				砂粒多		○	× 258と同一 [259]
278	BA24	4	Ⅲ波	変形工字文	不明	不明	ミガキ			有			○	
279	BA24	4	Ⅲ波	変形工字文	不明	不明	ミガキ	行・ミガキ	ス				○	内傾接合
280	BA25	3a	Ⅲ体	完結型	LR斜行	不明	行・ミガキ						○	底角部刺突処理
281	BA25	3a	Ⅲ体	交互重層型	不明	不明	ミガキ	スリ・ミガキ			砂粒多		○	(上) 完結型+ (下) 不明
282	BA25	3a	Ⅲ体	変形工字文	LR横走	不明	ミガキ						○	
283	AZ25	4	Ⅲ体	変形工字文?	LR斜行	不明	ミガキ	炭		有			○	中点刺突処理。平行線→刺突→粘土粒貼り付けの順に施工
284	BB24	4	Ⅲ体	交互重層型	LR横走	不明	ミガキ						○	
285	BA25	4	Ⅲ体	完結型	LR斜行	不明	ミガキ				砂粒多		○	底角部に、縦長の刺突
286	BA25	3a	Ⅲ体	完結型	LR斜行	不明	ミガキ	炭	炭				○	内面焦げ付き、外面煮こぼれ。炭化物多量に付着
287	BA25	3a	Ⅲ体	完結型	無	不明	ミガキ						○	
288	BA24	4	Ⅲ体	完結型	不明	不明	ミガキ						○	底角部縦長の刺突処理
289	BA24	4	Ⅲ体	変形工字文	不明	不明	ミガキ						○	
290	BA24	4	Ⅲ体	完結型	LR斜横	不明	ミガキ	炭					○	隣り合う底角間に縦長の刺突
291			Ⅲ体	完結型	LR斜行	不明	ミガキ			有	砂粒多		○	底角部刺突処理
292	BC24	4	Ⅲ体	完結型	不明	不明	ミガキ	ス			砂粒多		○	
293	BB24	4	Ⅲ体	π字状連結型	LR斜縦	不明	ミガキ						○	底角部刺突処理
294	AZ24	4	Ⅲ体	完結型	無	不明	ミガキ						○	底角部縦長の刺突処理
295	BA24	4	ⅢA	沈線連結型	LR斜縦	不明	ミガキ			有	金雲母		○	× 190と同一 [189・297]
296	BA25	3a	Ⅲ体	変形工字文	不明	不明	ミガキ	炭	ス	有			○	底角内中点、刺突処理
297	BC24	4	ⅢA	沈線連結型	LR斜縦	不明	ミガキ				金雲母		○	× 190と同一 [189・295]
298	BA25	4	Ⅲ体	変形工字文?	LR斜行	不明	ミガキ						○	
299	BA24	4	Ⅲ体	変形工字文?									○	
300	BA26	3a	Ⅲ体	変形工字文	不明	不明	ミガキ				砂粒多		○	粘土粒縦サミによる平行工字文
301	BA24	4	Ⅲ体	変形工字文?	LR斜行	不明	行・ミガキ		ス				○	変形工字文の底角中点か?
302	BA24	4	Ⅲ体	変形工字文?	LR斜行	不明	ミガキ	ス	炭				○	変形工字文の底角中点か?
303	BA24	4	Ⅲ体	変形工字文?	LR横走	不明	ミガキ						○	
304	BA24	4	Ⅲ体	変形工字文?	LR斜横	不明	ミガキ						○	変形工字文の底角中点か?
305	BA24	4	Ⅲ体	変形工字文	LR斜行	不明	ミガキ	ス	ス				○	底角内中点は逆π字文
306	BA24	4	Ⅲ体	変形工字文?	LR斜行	不明	ミガキ		ス				○	2個の粘土粒貼り付けによる平行工字文または変形工字文の中点?
307	BB25	4	Ⅲ体	変形工字文?	LR横走	不明	ミガキ	行・ミガキ					○	底角内中点は逆π字文。現高(10.1)・底径(8.4)
308	BA25	3a	ⅣC	流水工字文?	不明	不明	ミガキ						○	
309	BA25	4	ⅣC	変形工字文	LR斜行	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	315と同じ器形? 底角内中点刺突処理
310	BA25	3a	ⅣC	交互重層型	LR横走	不明	ミガキ						○	(上) 工字状連結B型+ (下) 不明
311	BA25	3a	ⅣC	交互重層型	LR斜行	不明	ミガキ						○	(上) 工字状連結B型+ (下) 不明
312	BB26	4	ⅣC	完結型	不明	不明	ミガキ						○	頂角部刺突処理
313	BA25	3a	ⅣC	変形工字文	不明	不明	ミガキ						○	
314	BH24	4	ⅣC	工字状連結A	LR斜横	不明	ミガキ			有	砂粒多		○	体部外面に光沢を帯びた黒斑。器高8.5・口径10.0・肩部径10.8・底径5.0
315	BA25	3a	ⅣC	π字状連結型	LR横走	不明	ミガキ						○	
316	BA24	4	ⅣC	流水状文型	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ			有			○	2個一対の特殊突起。口縁部に径5mmの焼成後穿孔あり。沈線幅5mm、断面半円状であり砂沢式的。3mm×2mmの刺突を文様間に充填。装飾は砂沢遺跡出土の注口の文様モチーフに類似
317	BA24	4	ⅣC	平行工字文	LR斜行	不明	ミガキ			有			○	LR原体(左)⇔(右)・(上)⇔(下)回転
318	BB24	4	ⅣC	平行沈線文	LR斜行	不明	ミガキ						○	不明
319			ⅢE	波状工字文	LR横走	不明	ミガキ	ス	炭				○	台付鉢? 5mm×5mm程度の刺突充填
320	BA25	3a	ⅢE	波状工字文	LR斜行	不明	ミガキ						○	4mm×2mmの縦長の刺突充填 [321]
321			ⅢE	波状工字文	LR斜縦	不明	ミガキ						○	× 320と同一
322	BA25	3a	ⅢE	波状工字文	不明	不明	ミガキ	行・ミガキ					○	5mm×2mmの縦長の刺突充填
323	BA24	4	Ⅳ	π字文	LR横走	不明	ミガキ	丁寧なミガキ					○	口径(10.8)・肩部径(21.4)・底径(7.2)
324	BA24	4	ⅣA	流水工字文	LR横走	不明	ミガキ			有			○	流水文反転部刺突状処理 [325]
325	BA24	4	ⅣA	流水工字文	LR横走	不明	ミガキ			有			○	× 324と同一
326	BA25	3a	ⅣA	平行工字文	LR斜行	不明	ミガキ				砂粒多		○	粘土粒サミによる平行工字文
327	BC22	4	ⅣA	平行工字文	LR斜行	不明	ミガキ				砂粒多		○	「長+短+長」沈線による平行工字文
328	BA25	4	ⅣA	π字文	LR横走	不明	ミガキ						○	
329	BA25	3a	ⅣA	流水工字文?	不明	不明	ミガキ						○	流水文反転部刺突状処理
330	BA25	3a	ⅣA	流水工字文?	不明	不明	ミガキ						○	
331	BA25	4	ⅣB	平行沈線無文帯平行工字文	LR斜行	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	LR原体(上)⇔(下)回転 [332]

遺構外出土弥生土器観察表7

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備	考	
332	BA25	3a	IVB	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						×	331と同一。LR原体(上)⇔(下)回転	
333	BA26	3a	IVB	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ				有		○	粘土粒間刺突処理	
334	BA25	3a	IVB	平行沈線 無文帯 平行工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ						○	LR原体(上)⇔(下)回転	
335	BA24	4	IV	平行沈線文	不明	ミガキ	ミガキ						○		
336	BA24	4	IV	平行沈線文	不明	ミガキ	丁寧なミガキ						○		
337			IVC	平行沈線文	RL斜行	ミガキ	ミガキ						○		
338	BA25	3a	IVC	平行沈線文	LR斜行	ミガキ	ミガキ				有		○		
339	BA24	4	IVC	平行沈線文	LR斜行	ミガキ	ミガキ						○		
340	BC25	4	IVC	無文	無	ナ デ	クスリ・シガキ					砂粒多	○	肩部外面に低い張り出しがめぐる	
341	AZ24	4	VA1	完結型	無	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	底角部刺突処理。沈線幅4~5mmと幅広、断面半円状。 現高(6.9)・口径(22.6)・底径(13.0)	[343]
342	BA25	3a	VA1	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○		
343			VA1	完結型	無	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						×	341と同一	
344	AZ24	4	VA1	変形工字文	無	ミガキ	クスリ・シガキ						○	底外端部に3mm間隔のサミ。(推)底径13.0	
345	BB24	4	VA2	交互重層型	無	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	(上)π字状連結型+(下)不明	
346	BA24	4	VA2	変形工字文	無	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○		
347	BB25	4	VA2	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○		
348	AZ24	4	VA2	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○		
349	BA25	3a	VB2	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	突起上方肥厚。沈線断面半円状	
350	AZ24	4	VB2	変形工字文?	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ				有		○	口唇部沈線内に赤色顔料残。頂角間中点刺突処理	
351	BA24	4	VB2	変形工字文?	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	沈線断面半円状。縦8mm×横7mmの粘土粒	
352	BA24	4	VB2	変形工字文	不明	ミガキ	ナ・シガキ						○	突起上方肥厚	
353	AZ24	4	VB2	変形工字文?	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	突起上方肥厚	
354	BA24	4	VB2	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ				有		○		
355	BA25	3a	VB2	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	頂角間中点π字文	
356			VB2	変形工字文	不明	ミガキ	クスリ・シガキ						○	(357・358)	
357	BA24	4	VB2	変形工字文	不明	ミガキ	クスリ・シガキ	炭					×	356と同一。沈線内に炭化物?	[358]
358	AZ24	4	VB2	変形工字文	不明	ミガキ	クスリ・シガキ						×	356と同一	[357]
359	BA25	3a	VB2	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ						○	頂角間中点刺突処理	
360	BA24	4	VB2	π字文 or 変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ						○		
361	BB24	4	VB2	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ						○		
362	BA24	4	VB2	変形工字文	無	ミガキ	ミガキ						×	442と同一。頂部は文様描出の通過点。	[374]
363	BB25	4	VB1	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	二又の丸形突起。突起上面にはそれぞれ8個と9個の刺突	
364	BB25	4	VB1	変形工字文?	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						×	363と同一?	
365			V	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	沈線断面形半円状	
366	BA25	4	VC	変形工字文	LR斜行	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ					海骨針	○		
367	BA26	3a	VC	完結型	無	ミガキ	ミガキ						○		
368	BA25	4	V	変形工字文?	無	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○		
369	BA24	4	V	平行沈線文	LR斜行	ミガキ	丁寧なミガキ						○	LR原体(上)⇔(下)回転	
370	BB24	4	V	平行沈線文	無	ミガキ	ミガキ						○		
371	BC24	4	V	平行沈線文	無	ミガキ	ミガキ						○		
372	BA24	4	V	平行沈線文	無	丁寧なミガキ	ミガキ						○		
373	BA24	4	V	平行沈線文	無	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○		
374	BA25	3a	VB2	平行沈線文	無	ミガキ	ミガキ						×	442と同一。	[362]
375	BA24		V	平行沈線文	無	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○		
376	BA25	4	V	平行沈線文	無	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○		
377	BC25	4	VA	流水工字文	LR斜行	ナ デ	ナ デ					砂粒多	○	LR原体(上)⇔(下)回転	
378	BA25	3a	VA	π字文	不明	ミガキ	ミガキ						○		
379	BA25	4	VA	π字文	無	ナ・シガキ	クスリ・シガキ						○	π字文、逆π字文が上下対称に施される	
380	BA25	3a	VA	流水工字文?	無	クスリ・シガキ	クスリ・シガキ						○		
381	BA24	4	VA	流水工字文	無	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○		
382	BA24	4	VA	流水工字文	LR横走	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ						○	器高6.4・口径(20.4)・肩部径(21.0)・底径(8.8)	
383	BB24	4	VB1	沈線連結型	LR斜行	ミガキ	ミガキ						○	LR原体(左)⇔(右)、(上)⇔(下)回転。頂角部、底角内中点刺突処理	
384	BC24	4	VB1	完結型	LR横走	ナ・シガキ	ナ・シガキ						○		
385	BA24	4	VB1	完結型	LR斜行	ミガキ	丁寧なミガキ						○	LR原体(上)⇔(下)回転。底角部刺突処理。	[402]
386	BA25	3a	VB1	完結型	LR斜縦	ミガキ	ミガキ					砂粒多	○	頂角部と頂角間中点刺突処理	
387	BA25	4	VB1	完結型	LR斜行	ミガキ	ミガキ					砂粒多	○	頂角部・頂角間中点・底角部・底角内・底角間中点刺突処理。	[416]
388	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ						○		
389			VB1	完結型	不明	ミガキ	ミガキ						○		
390	BA24	4	VB1	完結型	不明	ミガキ	ミガキ						○	底角部刺突処理	
391	BB24	4	VB1	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ						○		



遺構外出土弥生土器観察表 8

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備	考
392	BA24	4	VB1	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					○		
393	BA25	3a	VB1	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					○		
394	BA24	4	VB1	変形工字文	無	ミガキ	ミガキ					○	底角部刺突処理	
395	BA25	3a	VB1	変形工字文	無	ミガキ	ミガキ				海骨針	○		
396	BA25	3a	VB1	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角間中点・底角部刺突処理	
397	BA24	4	VB1	工字状連結A型	不明	ミガキ	ミガキ					○		
398	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	丁寧なミガキ					○		
399	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	丁寧なミガキ			有		○		
400	BC24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角部刺突処理	
401	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
402	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	丁寧なミガキ					×	385と同一。頂角部刺突処理	
403	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ					○		
404	BB25	4	VB1	π字状連結型	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ					○	類屈曲部下に焼成後穿孔2点あり。斜辺1条。現高(3.5)・口径(26.0)	
405	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
406	BA25	3a	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	丁寧なミガキ					○		
407	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角部刺突処理	
408	BA25	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	丁寧なミガキ			不明	海骨針	○		
409	BA25	3a	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	口縁部に焼成後穿孔	
410	BA24	4	VB1	変形工字文	LR横走	ミガキ	ミガキ					○	沈線幅4mm。断面形半円状	
411	BB24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
412	BA25	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
413	BD24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角部、底角内中点刺突処理	
414	BA24	4	VB1	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○	焼成後穿孔2点あり	
415	BA25	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角部は、文様描出の通過点	
416	BA25	4	VB1	完結型	不明	ミガキ	ミガキ				砂粒多	×	387と同一。頂角部刺突処理	
417	BA25	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角部刺突処理	
418	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ				砂粒多	○		
419			VB1	変形工字文	不明	ミガキ	丁寧なミガキ					○		
420	BA25	3a	VB1	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ					○		
421	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角間中点刺突処理	
422			VB1	変形工字文								○		
423	AZ24	4	VB1	変形工字文	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○	LR原体(上)⇔(下)回転。底角内中点刺突処理	
424	BA24	4	VB1	変形工字文	LR横走	ミガキ	丁寧なミガキ			有		○	縄文の節内に赤色顔料残	
425	BB26	3a	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	金雲母多量に含む	
426	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
427	BA25	4	VB1	変形工字文	不明	ナデ	ナリ・ナデ					○	沈線幅4mm。断面形半円状	
428	BA24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
429	BA25	3a	VB1	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ					○	沈線幅5mm。断面形半円状	
430	BA24	4	VB2	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					×	431と同一 [432・433]	
431			VB2	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					○	口縁部外面から途中まで穿孔痕あるが、未貫通。頂角部・頂角中点・底角部刺突処理。 [430・432・433]	
432			VB2	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					×	431と同一。頂部二又の山形突起 [430・433]	
433	AZ24	4	VB2	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					×	431と同一。 [430・432]	
434	AZ24	4	VB2	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	向かい合う二又の突起	
435	BA24	4	VB2	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ					○		
436	BA24	4	VB2	変形工字文	LR横走	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ					○		
437	BA24	4	VB2	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角部刺突処理	
438	BA24	4	VB2	変形工字文	LR横走	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ					○		
439	BA25	3a	VB2	変形工字文	不明	ミガキ	丁寧なミガキ					○	焼成後穿孔2点あり	
440	BA24	4	VB2	変形工字文	不明	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ					○		
441	BA25	3a	VB2	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ				海骨針	○		
442	BA25	4	VB2	交互重層型	無	ミガキ	丁寧なミガキ					○	(上) 工字状連結A型+(下) 不明。 [362・374]	
443	BA24	4	VB1	完結型	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○	LR原体(上)⇔(下)回転。底角部刺突処理	
444	BA24	4	VB1	完結型	無	ミガキ	ミガキ					○	底角部刺突処理	
445	BA25	3a	VB1	完結型	不明	ナリ・ミガキ	丁寧なミガキ				海骨針	○		
446	BA24	4	VB1	完結型	LR斜横	ミガキ	ミガキ					○	LR原体(上)⇔(下)・(左上)⇔(右下)回転。底角部縦長の刺突処理	
447	BA24	4	VB1	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					○	頂角間中点刺突処理。内傾接合	
448	BA24		VB1	完結型	無	ミガキ	ミガキ					○		
449	AZ	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	丁寧なミガキ					○		
450	BA24	4	VB1	完結型	無	丁寧なミガキ	ミガキ					○	底角部縦長の刺突処理	
451	BA24	4	VB1	変形工字文?	LR斜行	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ					○	LR原体(上)⇔(下)回転	
452	BA24	4	VB1	完結型	不明	ミガキ	ミガキ					○	底角部縦長の刺突処理	
453	BB24	4	VB1	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
454	BB24	4	VB1	変形工字文?	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○	中点刺突処理	
455	BA24	4	VB1	変形工字文?	無	ミガキ	ミガキ					○	中点刺突処理	

遺構外出土弥生土器観察表9

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備	考
456	AZ24	4	Ⅴ体	変形工字文?	LR横走	ミガキ	クズリ・シガキ					○		
457	AZ24	4	Ⅴ体	変形工字文?	LR斜横	ミガキ	ミガキ				砂粒多	○		
458	BA24	4	Ⅴ体	変形工字文?	LR斜行	ミガキ	ミガキ					○		
459	BA24	4	Ⅴ体	変形工字文?	LR横走	ミガキ	丁寧なシガキ					○		
460	BA25	4	Ⅴ体	平行沈線文	不明	ミガキ	丁寧なシガキ					○	4mm間隔の刺突列あり	
461	BA24	4	ⅤA	変形工字文	不明	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ					○	口縁部と肩部に焼成後穿孔。頂角部刺突処理	
462	BB24	4	ⅤA	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○		
463	BD24	4	ⅤA	変形工字文	LR横走	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ					○		
464	BA25	3a	ⅤA	変形工字文	不明	ミガキ	丁寧なシガキ					○	内面沈線2本。頂角部刺突処理	
465	BA25	4	ⅤA	変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	内面沈線2本。 [468]	
466	BA24	4	ⅤB	完結型	LR斜横	ミガキ	ミガキ				有 金雲母	○	円板状突起。横幅5cm×縦幅3.3cm×高さ3.6cm程度。現高(7.8)・口径(27.0)・肩部径(27.6)	
467			ⅤB	不明	不明	ミガキ	ミガキ					○	円板状突起	
468	BA25	3a	ⅤA	不明	不明	ミガキ	ミガキ				金雲母	×	465と同一	
469	BA24	4	台部A	1・2条沈線	無	ミガキ	ミガキ					○	上端と下端に1条沈線。台部高5.3・台部下端径(10.0)・台部上端径7.6	
470	AZ24	4	台部A	1・2条沈線	無	丁寧なシガキ	ミガキ					○	台部径9.8cm。上端と下端に1条沈線。台部高5.4・台部下端径9.8・台部上端径7.8	
471	BA25	3a	台部A	1・2条沈線	無	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ					○	上端と下端に1条沈線	
472	BA25	3a	台部A	1・2条沈線	無	ミガキ	ミガキ					○	上端と下端に1条沈線	
473	BA24	4	台部A	1・2条沈線	無	ミガキ	ミガキ					○	上端と下端に1条沈線	
474	BA24	4	台部A	1・2条沈線	無	ミガキ	ミガキ					○	上端と下端に1条沈線	
475	BA25	3a	台部A	平行沈線文	無	ミガキ	ミガキ					○	上端と下端に1条沈線	
476	BA24	4	台部A	1・2条沈線	無	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ					○	上端と下端に1条沈線	
477	BA25	3a	台部A	1・2条沈線	無	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ					○	上端と下端に1条沈線	
478	BJ25	3a	台部	無文	無	ミガキ	ミガキ				砂粒多	○	台部径5.2cm	
479			台部B	流水工字文	無	ミガキ	ミガキ					○	推定台部径11.6cm。焼成軟質 [480~483]	
480			台部B	流水工字文	無	ミガキ	ミガキ					×	479と同一 [481~483]	
481	BA24	4	台部B	流水工字文	無	ミガキ	ミガキ					×	479と同一 [480・482・483]	
482	BA24	4	台部B	流水工字文	無	ミガキ	ミガキ					×	479と同一 [480・481・483]	
483	BA24	4	台部B	流水工字文	無	ミガキ	ミガキ					×	479と同一 [480~482]	
484	BA24	4	台部C	波状文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	×	485と同一	
485	BA24	4	台部C	波状文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	波状沈線3本 [484]	
486	BC22	4	台部C	波状文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	波状沈線3本。 [484, 485とは別個体]	
487	BB25	4	台部D	地文のみ	LR斜行・LR横走	ナ	デ					○	台付鉢?。台部高3.4・台部下端径6.2・台部上端径4.6	
土偶 図版 3			脚?	沈線文	無	ミガキ	ミガキ					○	脚側面に2条の平行な沈線文。土器底面?側に3条の沈線文。土製品の可能性もあり。	
488	BA25	3a	ⅤA1	平行沈線 無文帯 平行工字文	無	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ				金雲母	○	口縁部π字文。現高(3.5)・口径(8.4)	
489	BA24	4	ⅤA1	平行工字文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○		
490	BA25	4	ⅤA1	π字文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	口縁部逆π字文。現高(4.0)・口径(8.2)	
491	BB24	4	ⅤA1	π字文	無	ミガキ	クズリ・シガキ				金雲母	○	口縁部逆π字文 [495]	
492	BB24	4	ⅤA1	π字文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	肩部以下無文。口縁部逆π字文	
493	AZ24	4	ⅤA1	π字文	無	ミガキ	クズリ・シガキ				金雲母	○	口縁部逆π字文	
494	BA25	3a	ⅤA1	π字文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	口縁部逆π字文	
495	BA25	3a	ⅤA1	π字文	無	ミガキ	クズリ・シガキ				金雲母	×	491と同一	
496	BA24	4	ⅤA1	π字文	無	ミガキ	ミガキ					○	類部に、上下2列の縦長の刺突列	
497	BA25	3a	ⅤA1	平行工字文	無	ミガキ	ミガキ					○	平行工字文の中心部刺突処理	
498	BA24	4	ⅤC	平行沈線文	無	ミガキ	ミガキ					○		
499	BA24	4	ⅤC	平行沈線文	無	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ					×	500と同一	
500	BA26	3a	ⅤC	平行沈線文	無	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ					○	推定口径8.4cm [499]	
501	BB25	4	ⅤA2	π字文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	口縁部逆π字文	
502	BA25	3a	ⅤA2	π字文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	口縁部逆π字文	
503	BA25	3a	ⅤA2	π字文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	口縁部逆π字文	
504	BA25	3a	ⅤA2	π字文	無	ミガキ	クズリ・シガキ					×	505と同一。口縁部逆π字文	
505	BC24	4	ⅤA2	π字文	無	ミガキ	クズリ・シガキ					○	内面沈線2本。口縁部逆π字文 [504]	
506	BB25	4	ⅤA2	π字文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○	[507]	
507	BA25	3a	ⅤA2	π字文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	×	506と同一	
508	BB24	4	ⅤA2	不明	不明	ミガキ	ミガキ				金雲母	○		
509	BA24	4	ⅤA2	平行工字文or π字文	無	ミガキ	ミガキ				金雲母	○		
510	BA25	3a	ⅤA2	平行沈線文	無	丁寧なシガキ	ミガキ					○	現高(3.8)・口径(10.6)	
511	BA24	4	ⅤA2	平行沈線文	無	ミガキ	ミガキ					○	押圧による小波状口縁。現高(4.0)・口径10.2	
512	BA24	4	ⅤA2	変形工字文	不明	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ					○	沈線幅4mm。沈線断面形半円状。砂沢式的。 [547, 548]	
513	BA25	4	ⅤA体	π字文	不明	丁寧なシガキ	丁寧なシガキ				海骨針	×	517と同一。口縁部に平行工字文 [516~520]	
514	BA22	4	ⅤA1	平行沈線文	無	ミガキ	クズリ・シガキ				金雲母	○	体部下半に焼成後穿孔あり。その部分にタール状の物質付着。器高7.5・口径4.4・頸部4.6・胴部7.8・底径3.8。	

遺構外出土弥生土器観察表10

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備考
515	BA24	4	VIIA体	π字文	無	ミガキ	行・込キ				金曇母	○	金曇母多量に含む。口縁逆π字文(3単位)。現高(20.1)・頸部径8.0・胴部径21.0
516	BA24	4	VIIA体	π字状連結型	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ				海骨針	×	517と同一。縦11mm×横8mmの粘土粒 [513-518~520]
517	BA24	4	VIIA体	π字状連結型	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ				海骨針	○	沈線幅5mm。断面半円状 [513, 516, 518~520]
518	BA26	3a	VIIA体	π字状連結型	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ				海骨針	×	517と同一 [513, 516, 518~520]
519	BA25	3a	VIIA体	π字状連結型	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ				海骨針	×	517と同一 [513, 516, 518, 520]
520	BA25	3a	VIIA体	π字状連結型	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ				海骨針	×	517と同一 [513-516-518~519]
521	BA24	4	VIIA体	変形工字文	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ					○	517と文様・調整が類似しているが、別個体
522	BA24	4	VIIA体	交互重層型	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ					×	523と同一 [524-525]
523	BB24	4	VIIA体	交互重層型	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ					○	(上)工字状連結A型+(下)完結。下段の変形工字文の底角は刺突処理。口縁逆π字・π字文が交互に描かれる。(522, 524, 525)
524	BA24	4	VIIA体	交互重層型	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ					×	523と同一 [522-525]
525	BB24	4	VIIA体	交互重層型	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ					×	523と同一 [522-524]
526	BB25	4	VIIA2	交互重層型	不明	ミガキ	入リ・込キ					○	頂角部は、文様描出の通過点。(上)不明+(下)不明。突起上面にキ3点。 [527]
527	BA24	4	VIIA2	交互重層型	不明	ミガキ	入リ・込キ					×	526と同一
528	BC24	4	VIIA体	流水工字文	無	入リ・込キ	行・込キ				金曇母	○	(上)不明+(下)完結。流水工字文の可能性あり。
529	BA24	4	VIIA体	完結型	不明	ミガキ	ナデ				金曇母	○	
530	BA24	4	VIIA2	交互重層型	LR横走	ミガキ	ミガキ				海骨針	○	球形。二又突起がさらにキミで二分割。(上)工字状連結B型+(下)不明
531	BA24	4	VIIA体	完結型	無	入リ・込キ	ナデ				金曇母	○	
532	BA25	3a	VIIA体	交互重層型	不明	ミガキ	入リ・込キ				砂粒多	○	(上)不明+(下)完結。
533	BB24	4	VIIA体	上下重層型	不明	ミガキ	行・込キ					○	(上)底角部刺突処理
534	BA26	4	VIIA体	交互重層型	LR斜行	ミガキ	入リ・込キ					○	LR原体(上)⇔(下)回転。(上)工字状連結A型+(下)不明
535	BA25	3a	VIIA体	変形工字文	不明	ミガキ	行・込キ					○	
536	BA24	4	VIIA体	流水工字文 or 完結型	不明	ミガキ	ナデ				金曇母	○	金曇母多量に含む。
537	BA25	4	VIIA体	変形工字文	不明	ミガキ	行・込キ				金曇母	○	金曇母多量に含む。
538	BA25	3a	VIIA体	変形工字文	不明	ミガキ	ナデ				金曇母	○	金曇母多量に含む。
539	BA24	4	VIIA体	交互重層型	不明	ミガキ	ミガキ				金曇母	○	金曇母多量に含む。
540	BA24	4	VIIA体	変形工字文	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ					○	
541	BA26	3a	VIIA体	交互重層型	不明	ミガキ	入リ・込キ					○	完結型含む。
542	BC25	4	VIIA体	変形工字文	不明	ミガキ	丁寧な込キ					○	(上)頂角部・底角内中点刺突処理 (下)頂角間中点・底角部刺突処理
543	BA25	3a	VIIA体	交互重層型	不明	ミガキ	入リ・込キ					○	(上)工字状連結B型+(下)不明
544	BA25	3a	VIIA体	変形工字文	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ					○	
545	BA24	4	VIIA体	交互重層型	不明	丁寧な込キ	入リ・込キ					○	(上)工字状連結A型+(下)完結。沈線幅4mm。断面半円状
546	BA24	4	VIIA体	交互重層型	不明	丁寧な込キ	丁寧な込キ					○	(上)工字状連結A型+(下)不明。沈線幅4mm。断面半円状
547	AZ24	4	VIIA2	変形工字文	不明	丁寧な込キ	ミガキ					×	512と同一。 [548]
548	BA24	4	VIIA2	変形工字文	不明	丁寧な込キ	ミガキ					×	512と同一。 [547]
549	BA24	4	VIIA体	変形工字文	無	丁寧な込キ	入リ・込キ					○	沈線幅4mm程度。断面半円状。
550	BA25	3a	VIIA2	π字文	無	ミガキ	ミガキ				金曇母	○	口縁部逆π字文。内面沈線3本。頸部に穿孔2点 [551~553]
551	BA25	3a	VIIA2	π字文	無	ミガキ	ミガキ				金曇母	×	550と同一。 [552~554]
552	AZ24	4	VIIA2	完結型	無	ミガキ	ミガキ				金曇母	×	550と同一。 [551・553・554]
553	BA25	3a	VIIA2	完結型	無	ミガキ	ミガキ				金曇母	×	550と同一。 [551・552・554]
554	BA25	4	VIIA2	完結型	無	ミガキ	ミガキ				金曇母	×	550と同一。 [551・552~553]
555	BE21	4	VIIA体	無文	無	行・込キ	ナデ	タール				○	外面肩部以下に、タール状の物質付着。現高(12.0)・肩部径12.8・底部6.4
556	BC24	4	VIIA体	平行沈線文	不明	ミガキ	ミガキ					○	
557	BA25	3a	VIIA体	平行沈線文	不明	ミガキ	ミガキ				海骨針	○	口頸部の外反具合が、遠賀川系壺に類似
558	BB24	4	VIIA体	平行沈線文	不明	ミガキ	ミガキ					○	
559	BA24	4	VIIA体	平行沈線文	不明	ミガキ	ミガキ					○	
560	BA24	4	VIIA体	π字文 or 変形工字文	不明	ミガキ	ミガキ					○	π字文部または変形工字文の中点部刺突処理。
561	BA25	3a	VIIA体	無文	無	ミガキ	丁寧な込キ					○	現高(3.4)・口径7.4・頸部径6.0
562	BA25	4	VIIA体	平行沈線文	無	ミガキ	行・込キ					○	現高(12.4)・口径6.8・頸部径5.6・胴部径16.5
563	BD24	4	VIIA体	平行沈線文	無	行・込キ	行・込キ				砂粒多	○	内傾接合。現高(4.8)・口径(4.6)・頸部径(5.0)・胴部径(12.6)
564	BB24	4	VIIA体	平行工字文	無	ミガキ	ナデ					○	頸部平行工字文4単位。現高(4.0)・頸部径6.0
565	BA24	4	VIIA体	無文	無	行・込キ	ナデ					○	ソロバン形の胴部。現高(14.1)・胴部径(21.6)・底径(9.2)
566	BB24	4	VIIA体	不明	LR横走	ナデ	ナデ					○	現高(3.5)・底径7.2
567	AZ24	4	VIIA体	無文	無	行・込キ	行・込キ				金曇母	○	現高(7.7)・底径6.4
568			IXB	平行沈線文	無	ミガキ	ミガキ				砂粒多	○	口縁部内面に沈線一条。頸部の二条の平行沈線間に間隔3mmの刺突列。刺突は縦3mm×横4mm程度の上側が狭い長楕円形。先端の尖った直径2mm程度の棒状工具で横または斜め下から、刺突を施す。底面は中央に向かいなだらかに上がる。内外面共に、入込キは横方向が多い。口縁部内外面共に横方向の込キ。外面10YR7/2(にぶい黄褐)と7.5YR7/6(橙)。内面7.5YR7/4(にぶい黄褐)。器高17.8・口径10.0・頸部径9.2・胴部(18.2)・底径7.2

遺構外出土弥生土器観察表11

NO	地区	層	分類	(主)文様	地文	外面調整	内面調整	外炭	内炭	赤	含有物	数	備考
569			IXA	平行沈線文	LR斜行	ナデ	ミガキ	ス			砂粒多	○	88(底部)と同一。焼成は軟質で、器表面に浮き出た砂粒の周辺は、砂粒中心に放射状にひび割れが認められる。口唇部5~8mm間隔で左下がりのナデ。口縁部外面は横方向のナデ。口縁部~体部内面は横方向のナデナデ。口縁部~体部内面は横方向のナデナデ。[88]
570			IXA	平行沈線文	LR斜行	ナデ	ナデ・ミガキ				砂粒多	○	口唇部4mm間隔でナデ。口縁部外面横方向のナデ。口縁部~体部内面横方向のナデ。在地的器形。
571	AZ24	4	IXA	平行沈線文	不明	ナデ	ミガキ				砂粒多	○	口唇部6mm間隔のナデ。口縁部外面横方向のナデ。口縁部内面横方向のナデ。
572	BA25	3a	IXA	平行沈線文	刷毛目	ナデ	ミガキ	ス			砂粒多	○	口唇部10mm間隔のナデ。頸部に3本の平行沈線。1本目と2本目の間に横6mm×縦3~4mmの横長の列点文が12mm程度の間隔で施される。口縁外面は、横方向のナデ。口縁部~肩部内面は横方向のナデ。外面頸部文様以下には、横方向の細い、刷毛目状の痕跡が認められる。
573			IXA	1・2条沈線	刷毛目	ナデ・ナメ	ナデ・ミガキ				砂粒多	○	口唇部4mm間隔のナデ。頸部に幅2mm程度の細い一条の沈線。口縁部外面横方向のナデ。肩部以下の外面はナデ調整の後、刷毛目状の条線が(左上)⇄(右下)方向で施される。口縁部に近い条線がそれより下位の条線よりも新しい。条線の一単位の幅は10mm程度。内面は横方向を基本とするナデナデが行われるが、口縁部や肩部の一部に横・縦方向のナデの痕跡が認められる。在地的器形。
575	BA24	4	IXB	平行沈線文	無	ミガキ	ナメ・ミガキ				砂粒多	○	頸部の2条の平行沈線間に列点文が施される。列点は横8~10mm×縦3mm程度。頸部の平行沈線の最下部~肩部の3条の平行沈線の最上部を2条の縦沈線が結ぶ。頸肩部の横走平行沈線施文後に、縦沈線を施す。頸部付近では縦沈線は(下)→(上)へ施されている。縦沈線の全体での単位数は不明。口縁部外面は横方向のナデナデ。口縁部内面はナデナデ。肩部以下外面は横方向のナデナデ痕跡が認められる。肩部~体部中位付近の内面のナメは横方向。肩部内面付近には、縦方向のナデナデ痕跡が認められる。現高25.7口径(11.6)頸部径(10.2)肩部径(27.7)底部径(9.8) ※拓本図574では同一破片を用いて、4単位の場合の縦沈線のイメージを示しているが、実際には1・2・4単位が考えられよう。また拓本に描かれた同心円は拓本のレイアウトの都合上描いたものであり、実際の頸部と肩部の平行沈線を上方から見たものの1/3ではない。574の拓本は1/3であり、575は1/3の推定復元図である。
576			IXB	無文	無	ナデ	ミガキ				砂粒多	○	
577	BA25	3a	IXB	無文	無	ナデ	ナデ				砂粒多	○	外面に二次焼成による赤色化が認められる。外面に縦方向のナデ痕。[578]
578	BA25	3a	IXB	無文	無	ナデ	ナデ				砂粒多	×	577と同一
579			IXB	無文	無	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ				砂粒多	○	

## 遺構外出土 弥生土器 観察表凡例

(主)文様 変形工字文はその細分名のみを記した。「変形工字文」とのみ記したものは、その残存部からは細分不可能であったものである。

文様の一部のみが残存し、その文様が推定できるときには、可能性が高い文様を「変形工字文？」などと「？」を用いて記した。

地文 地文の種類。縄文の場合は施文方向ではなく、条の向きを記した。「斜縦」と記したものは、条の向きが斜行とも縦走ともとれる傾きのもの、「斜横」と記したものは、斜行とも横走ともとれる傾きのものを表している。また特殊な施文方向の場合のみ備考欄において記した。

外炭 外面の炭化物残存状況。土器の器表面の一部にでも炭化物の残存が認められた場合には、その状態によって、ス・炭・タルと記した。「ス」と記したものは、明瞭な炭状ではないが、土器製作後に付着したと思われる炭素と考えられる薄い皮膜が器表面の一部を被うもの。煮沸の痕跡であるかは不明である。「炭」と記したものは、焦げ付きや煮こぼれと考えられる炭化物の残存が認められるもの。煮沸の痕跡と考えられる。「タル」と記したものは、「炭」同様に煮沸時に付着したものと考えられるが、炭化物表面が光沢を帯びるものである。

内炭 内面の炭化物残存状況。表記方法は、外面調整と同様である。

赤 赤色顔料の残存状況。観察表の欄には有無しか記していないが、備考欄においてその残存部について記したのものもある。

含有物 砂粒を多く含む→「砂粒多」、海綿動物骨針→「海骨針」と略記した。

数量 一個体としてカウントしたのものには「○」、同一個体があるなどの理由で、カウント対象外としたものには「×」と記した。

備考 その土器の特徴や観察される製作技法、使用の痕跡、土器の器高・現存部高さ(現高と略)・各部位の直径を記した。( )内の数値は、現高を除きすべて復元推定値である。[ ]内の数値は、同一個体の番号を示している。

遺物番号	出土遺構	層	分類	(主)文様	地文	外調	内調	外炭	内炭	赤	含有物	数量	備考
1	384土	1	甕	平行沈線文	LR斜行	シガキ	ナデ				金雲母	○	波状口縁の頂部に刻み
2	384土	1	壺	平行沈線文	LR斜行	シガキ	クスリ・シガキ				海骨針	○	波状口縁頂部刻み・頸部沈線
3	384土	1	甕		結節回転	ナデ	不明	タール状			海骨針	○	胴部結節回転
4	384土	1	甕		R斜行	ナデ	クスリ・シガキ	タール状	タール状		海骨針	○	胴部R斜行
5	384土	1	甕or鉢		LR斜行	ナデ	ミガキ				金雲母	○	
6	384土	1	鉢		LR斜行	ナデ	ミガキ	炭状	タール状			○	
7	384土	1	鉢		RL斜行	ナデ	ミガキ	不明			金雲母	○	
8	384土	1	鉢	平行工字文	LR斜行	シガキ	ミガキ		タール状	有		○	変形工字文底角内中点?逆π字文
9	384土	1	鉢	変形工字文	LR斜行	シガキ	ミガキ	タール状	タール状	有		○	波状口縁頂部刻み
10	384土	1	鉢	変形工字文		シガキ	不明			有		○	
11	384土	1	鉢	完結型		シガキ	不明			有		○	
12	384土	1	鉢	上下重層型	LR斜行	シガキ	ミガキ		タール状	有		○	波状口縁・口唇部刻み・波状工字文間刺突充填
13	384土	1	鉢	π字状連結型		シガキ	ミガキ			有		○	波状口縁・先端部平坦で肥厚する山形突起
14	384土	1	鉢	平行沈線文	LR斜行	シガキ	ミガキ			有		○	
15	384土	1	鉢	変形工字文	無文	シガキ	ミガキ			有		○	向かい合う二股の突起・口唇部沈線
16	384土	1	鉢	平行沈線文	LR斜行	シガキ	ミガキ	タール状	タール状	有		○	波状口縁
17	384土	1	鉢	平行沈線文	LR斜行	シガキ	ミガキ		タール状	有		○	
18	384土	1	浅鉢	変形工字文	無文	シガキ	ミガキ					○	平坦口縁
19	384土	1	鉢	完結型		シガキ	クスリ・シガキ	タール状	タール状	有		○	平坦口縁・(上)交互重層上完結型+(下)不明
20	384土	1	浅鉢	変形工字文		シガキ	ミガキ			有		○	
21	384土	1	浅鉢	変形工字文	不明	シガキ	ミガキ			有	金雲母	○	波状口縁
22	384土	1	浅鉢	変形工字文		シガキ	ミガキ				金雲母	○	平坦口縁
23	384土	1	浅鉢	交互重層型		シガキ	ミガキ	不明		有		○	交互重層・(上)完結型+(下)不明
24	384土	1	鉢	完結型		シガキ	ミガキ			有		○	
25	384土	1	壺	交互重層型		シガキ	ミガキ				金雲母	○	波状口縁
26	384土	1	壺	変形工字文		シガキ	クスリ・シガキ			有		○	
27	384土	1	壺	π字状連結型		シガキ	クスリ・シガキ			有		○	
28	384土	1	壺	平行工字文	LR斜行	シガキ	ミガキ			有		○	L R原体上⇔下方向
29	384土	1	壺	交互重層型		シガキ	クスリ・シガキ			有		○	
30	384土	1	壺	平行沈線文	無文	シガキ	クスリ・シガキ				金雲母	○	頸部沈線間刺突
31	384土	1	壺	π字文		シガキ	クスリ・シガキ			有	金雲母	×	沈線内刺突
32	384土	1	壺	π字文	無文	シガキ	クスリ・シガキ			有	金雲母	○	
33	384土	1	壺	無文	無文	シガキ	ミガキ				金雲母	○	
34	384土	1	壺	不明		シガキ	クスリ・シガキ				金雲母	○	

畑内遺跡Ⅴ 日捨場(西捨場)出土土器観察表

図	番号	グ	ッ	P番	口唇部文様	口縁部文様	隆帯	頸部文様	胴部文様	底部文様	備考	分類	整理番号
1	1	BD	4	17	単絡1類	結節ヨコ	-		LRヨコ	?	内面単絡1類	A 1	1024
1	2	BH	1	21	LRヨコ	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1029
1	3	BG	3		LR?	結節ヨコ	-		LRヨコ	-		A 1	1142
1	4	BF	4	64	-	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ			A 1	1086
2	1	BH	0	7	LR	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1224
2	2	PG	4	2	-	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1040
2	3	BE	4		-	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1008
3	1	BE	5	44	RL側圧	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1079
3	2	BF	4	14	刻目	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1094
3	3	BE	4		-	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1164
3	4	BG	1	10	LR	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	-		A 1	1124
4	1	BE	4	275	LR	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1109
4	2	BG	3	77	-	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1112
4	3	BE	3	8	-	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1095
4	4	BE	1	17	-	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1154
5	1	BE	4	165	-、LR	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1052
5	2	BF	5	3	LR	結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1067
5	3	BF	4	92	LRヨコ	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1013
5	4	BG	3	215	-	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1129
6	1	BF	1	12	刻目、LR	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1212
6	2	BC	3	10	-	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ、結節ヨコ	-		A 1	1072
6	3	BH	1	26	-	結節ヨコ	-	LRヨコ+結節ヨコ	LRヨコ	?		A 1	1185
6	4	BF	2	13	原体側圧	結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1114
7	1	BG	1	12	指頭押圧	結節ヨコ	-		単絡1類斜・タテ	?		A 3	1228
7	2	BE	3		-	結節ヨコ	-		単絡1類タテ、単絡1類ヨコ(底部近)	?		A 3	1239
7	3	BE	2		刺突	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1248
7	4	AX	6	7	-	結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1165
8	1	BB	5	31	LR	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1100
8	2	BG	2	14	-	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1137
8	3	BF	4	6	LR	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1246
8	4	BF	3		RL側圧	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1078
8	5	BF	1	9	LR	LRヨコ+結節ヨコ	-		LRヨコ	?		A 1	1161
9	1	BF	3	97	-	LRヨコ+LR側圧	-		LRヨコ	?		A 2	1106
9	2	BF	4	11	-	LRヨコ+LR側圧	-		LRヨコ	?		A 2	1143
9	3	BF	2	20	押圧	LRヨコ+LR側圧	-		LRヨコ	?		A 2	1046
9	4	BG	3	212	LR	LRヨコ+LR側圧	-		LRヨコ	?		A 2	1116
10	1	BD	5	307	-	LRヨコ+LR側圧	-		LRヨコ	?		A 2	1214
10	2	BG	3	67	LR	LRヨコ、LRタテ			LRタテ、RLタテ	?		A 6	1066
10	3	BG	2	15	-	結節ヨコ	-		LRヨコ	有		A 6	1155
10	4	BC	4	45	-	LRヨコ	-		LRヨコ	?		A 6	1083
11	1	BE	5	1	-	LRヨコ	-		LRヨコ	-		A 6	1126
11	2	BG	3	1	LR	LRヨコ	-		LRヨコ	?		A 6	1075
11	3	BG	2	11	LRヨコ	LRヨコ	-		LRヨコ	?		A 6	1007
11	4	BD	5	87	-	LRヨコ・斜	-		LRヨコ・斜	?		A 6	1162
11	5	BH	3	44	LRヨコ	LRヨコ	-		LRヨコ	?		A 6	1001
12	1	BG	4	55	LR	LRヨコ			LRヨコ	?		A 6	1087
12	2	BF	4	27	-	LRヨコ	-		LRヨコ	有		A 6	1002
12	3	BD	3	8	-	結節ヨコ	有	刺突	LRヨコ	?		B 1	1181
12	4	BE	3	35	-	LRヨコ+結節ヨコ	有	LR側圧	LRヨコ	?		B 1	1070
13	1	BG	1	17	-	結節ヨコ	有	刺突	LRヨコ	-		B 1	1027
13	2	BC	3	12	-	結節ヨコ	有	刺突	LRヨコ	?		B 1	1202
14	1	AZ	5	33	-	LRヨコ+結節ヨコ	有	LR	LRヨコ	?		B 1	1199
14	2	AY	6	15	-	結節ヨコ	有		LRヨコ	?		B 1	1167
15	1	BD	5	452	-	結節ヨコ	有	指頭押圧	RLRヨコ	?		B 1	1240
15	2	BF	3	66	-	結節ヨコ	有	RLR側圧	RLRヨコ	?		B 1	1226
15	3	BD	4	13	-	結節ヨコ	有	刺突	LRヨコ	?		B 1	1130
15	4	BE	3		-	結節ヨコ	有	指頭押圧	単絡1類タテ、結節ヨコ	?		B 10	1238
16	1	BD	5		-	LRヨコ+結節ヨコ	有	爪形	単絡1類タテ、結節ヨコ	-		B 10	1104
16	2	BG	2	17	-	結節ヨコ	有	指頭押圧	単絡1類タテ	有		B 10	1229
16	3	BF	3	269	-	結節ヨコ	有	沈線	結節ヨコ、単絡1類タテ	?		B 10	1244
16	4	BF	3	110	-	結節ヨコ	有	沈線、単絡1類ヨコ	単絡1類タテ	-		B 10	1015

図	番号	グリッド	P番	口唇部文様	口縁部文様	隆帯	頸部文様	胸部文様	底部文様	備考	分類	整理番号
17	1	BF 1	20	—	結節ヨコ	有	指頭押圧	単絡1類タテ	—		B 10	1231
17	2	BE 5	60	—	結節	有	半竹押引	単絡1類タテ	?		B 10	1005
17	3	AX 5		—	LRヨコ	有		LRヨコ	?		B 2	1166
17	4	BD 5	117	—	LRヨコ・斜	有	LR側圧	LRヨコ・斜	?		B 2	1149
18	1	BA 6	66	?	LRヨコ	有	刻目	LRヨコ	有		B 2	1232
18	2	BI 1	55	—	LRヨコ	有	刺突	LRタテ	—		B 2	1156
18	3	BA 4		—	LRタテ	有	沈線	LRタテ	?		B 2	1065
19	1	BE 4	190	—	LR斜	有		LRタテ・斜	?		B 2	1227
19	2	AY 5	?	?	LRヨコ	有		LRヨコ	—		B 2	1236
19	3	BE 4	302	—	LRタテ	有	LRヨコ	LRタテ・ナナメ	?		B 2	1071
20	1	BH 0	6	—	LRヨコ	有	LR側圧	LRヨコ	有		B 2	1101
20	2	BF 2	3	—	RLRヨコ	有	刺突	RLRヨコ	?		B 2	1128
21	1	BD 5	393	—	LRヨコ+LR側圧	有	LRヨコ	LRヨコ・タテ	?		B 8	1223
21	2	BE 5	115	—	単絡1A類ヨコ	有	押圧	単絡1類ヨコ・タテ	?		B 11	1074
21	3	AX 6	18	—	LRヨコ	—		LRヨコ	—		B 6	1182
21	4	BH 1	2	3波状か	LRヨコ	—		LRヨコ	?		B 6	1189
22	1	BH 3	19	—	LR側圧, RL側圧	有	押圧	結束1種ヨコ	?		B 3	1062
22	2	BH 1	3	—	LR側圧	有	刺突	LRヨコ	?		B 3	1073
22	3	AR 12		刻目	LR側圧	有	LR側圧	LRヨコ	—		B 3	1023
22	4	BG 1	2	—	LR側圧, LRタテ	—		単絡1類タテ	—		B 23	1022
23	1	BC 3	52	—	結節ヨコ	—		単絡1類タテ	—		B 10b	1206
23	2	BE 3	30	—	結節ヨコ	—		単絡1類タテ	?		B 10b	1272
23	3	AY 6		4波状?	LRヨコ	—		LRヨコ	?		B 6	1138
23	4	BE 7	4	5波状, RL側圧	結束1種ヨコ	—		結束1種ヨコ	—		B 22	1080
23	5	BD 7	520	4波状	結束1種ヨコ	—		結束1種ヨコ	?		B 22	1225
24	1	BD 6	456	4波状か, 刻目	結束1種タテ	—		結束1種タテ	—		B 22	1255
24	2	BE 4	67	—	LRヨコ+単絡1類ヨコ	—		LRヨコ, 単絡1類ヨコ(底部近く)	—		B 7	1016
24	3	BB 4		—	LRヨコ	有	刺突, 沈線	単絡1類タテ	?		B 15	1243
24	4	BC 4	36	—	単絡1類タテ	有	沈線, 刺突	単絡1類タテ	?		B 11	1210
25	1	BC 4	18	—	RLヨコ	—	RL側圧	RLヨコ	?		B 6	1211
25	2	AZ 5	20	—	LRヨコ	—	LR側圧, 刺突	LRヨコ, 単絡1類タテ	?		B 17	1069
25	3	BF 2	33	—	結束1種ヨコ	—	LR・RL側圧	結束1種ヨコ	小有		B 21	1041
25	4	BA 4		#VALUE!	結束1種ヨコ	—	側圧	結束1種ヨコ	?		B 21	1004
26	1	BC 6	92	4波状, LR側圧	結束1種ヨコ	—	RL側圧	結束1種ヨコ	?		B 21	1011
26	2	BD 6	270	4波状	結束1種ヨコ	有	刺突, LR・RL側圧	結束1種ヨコ, 多絡タテ	?		B 21	1099
26	3	BF 2	39	—	結束1種ヨコ	—	RL側圧	多絡タテ	—		B 16	1123
26	4	BH 0	4	—	結束1種ヨコ	有	LR側圧	結束1種タテ	?		B 20	1044
27	1	BC 4	6	LR側圧	結束1種ヨコ	有	沈線	結束1種ヨコ・タテ	?		B 20	1025
27	2	BC 3	2	刻目	LR側圧, 結束1種ヨコ	有	LR側圧	結束1種ヨコ, 結節タテ	?		B 20	1141
27	3	BE 3	38	—	結束1種ヨコ	—	RL・LR側圧, 刺突	結束1種タテ, 単絡1類タテ	?		B 21	1084
28	1	BH 1	17	—	結節ヨコ+LR側圧	有	刺突	結節ヨコ, LR斜	?		B 24	1186
28	2	BC 5	13	—	結束1種ヨコ, RL側圧	有	LR・RL側圧	結束1種ヨコ	?		B 23	1120
28	3	BD 3	497	—	RL・LR側圧	有	LR側圧	LRヨコ, RLヨコ	?		B 24	1144
29	1	BE 3	34	—	L・R側圧	有	刺突, LR側圧	LRタテ・ヨコ, RLタテ・ヨコ	—		C 4	1103
29	2	BE 2	2	—	LR・RL側圧	—	刺突, 結節	結束1種ヨコ	?		C 7	1042
29	3	BC 3	1	4波状	R側圧	—	R側圧	LRヨコ, 結節ヨコ	?		C 5	1237
29	4	BD 4	11	LR刻目	LR側圧	—	LR側圧	結束1種ヨコ	?		C 7	1031
30	1	BD 6	267	—	LR側圧	有		結束1種ヨコ	?		C 6	1179
30	2	BB 3	53	—	LR側圧	—		結束1種ヨコ	?		C 7	1111
30	3	BD 2	511	?	LR側圧	—	LR側圧	LRヨコ, 結節ヨコ	?		C 5	1256
31	1	BE 2	6	—	LR側圧	有	刺突	多絡タテ	?		C 11	1030
31	2	BG 3	94	—	LR側圧	—	LR側圧	結束1種ヨコ	?		C 7	1121
31	3	BC 4	53	4波状	R側圧	—		単絡1類タテ	?		C 9	1222
32	1	BE 7	3	—	LR側圧	—	LR側圧	結束1種ヨコ	?		C 7	1153
32	2	BH 2	50	—	LRヨコ+LR側圧	—	LR側圧	結束1種ヨコ	?		C 7	1012
32	3	AS 11	9	—	LR側圧	—	LR側圧	LRヨコ	—		C 5	1037
32	4	BD 7	10	—	R側圧, 結節ヨコ	—	R側圧	多絡ヨコ・タテ	—		C 15	1102
33	1	BG 4	53	—	単絡1類ヨコ+LR側圧	有	刺突	LRヨコ, 結節タテ	—		B 8	1068
33	2	BH 1	14	—	単絡1類タテ	—		単絡1類タテ	—		B 14	1207
33	3	BD 5	8	2波状?, 刻目	単絡1類	—		単絡1類	?		B 14	1247
33	4	BF 3	71	4波状か	多絡タテ	—		多絡タテ	—		C 15	1127
33	5	BB 4		—	LRヨコ+結節ヨコ	—		LRヨコ・タテ, 結節タテ	?		B 6	1105
34	1	BD 4	42	—	結束1種ヨコ	—		LRヨコ	?		C 16	1184



図	番号	ｸﾞﾘｯﾌﾟ	P番	口唇部文様	口縁部文様	隆帯	頸部文様	胴部文様	底部文様	備考	分類	整理番号
34	2	BG 2	225	—	単絡5類ﾀﾞ	—		単絡5類ﾀﾞ	—		B 14	1122
34	3	BG 1	16	—	単絡1A類ﾀﾞ	—		単絡1A類ﾀﾞ	?		B 26	1113
35	1	BD 4	217	—	結束1種ｺｺ	—		結束1種ｺｺ	?		(D 4)	1064
35	2	BD 3	584	4波状	結束1種ｺｺ	—		結束1種ｺｺ	?		C 17	1107
35	3	BD 5	383	—	単絡1A類ﾀﾞ	—		単絡1A類ﾀﾞ	?		B 26	1151
35	4	BC 5	127	—	RLRｺｺ	—		RLRｺｺ	?		C 18	1245
36	1	BD 3	5	4波状か	LRｺｺ+結節ｺｺ	—	LR側圧	結節ｺｺ、LRｺｺ、RLｺｺ	?		C 18	1131
36	2	BC 6	97	4波状、—	単絡6A類ｺｺ	—	RL側圧	単絡1類ﾀﾞ	?		C 1	1009
36	3	BD 3	238	4波状	LR側圧	有	刺突	結節ｺｺ、結束1種ｺｺ	?		D 4	1135
36	4	BC 6	68	—	LR側圧、R側圧	有	刺突	結束1種ｺｺ	?		D 4	1152
37	1	BL 2	39	—	LR側圧	有	刺突	結束1種ｺｺ	—		D 4	1091
37	2	BD 6	284	4波状	LR・RL側圧	—	LR側圧	結束1種ｺｺ	—		D 4	1039
37	3	BE 2	3	4波状	LR側圧、R側圧	有		結節ｺｺ、結束1種ｺｺ	?		D 4	1055
37	4	BD 3	233	4波状	R側圧	—	R刺突	結節、結束1種ｺｺ	—		D 4	1006
38	1	BD 6	48	4波状、LR	LR側圧、刺突	—		結束1種ｺｺ	?		D 4	1057
38	2	BD 6	282	4波状、LR	LR・RL側圧	—		結束1種ｺｺ	—		D 4	1054
38	3	BD 3	235	—	LR側圧	有	刺突	結束1種ｺｺ、結節ｺｺ	?		D 4	1089
38	4	BD 4	209	L	R側圧、L側圧	—		結束1種ｺｺ	?		D 4	1096
39	1	BD 6	53	4波状、LR	LR側圧	—		結束1種ｺｺ	?		D 4	1077
39	2	BE 2	3	—	R側圧、刺突	—		結束1種ｺｺ	?		D 4	1051
39	3	BD 6	46	4波状	LR側圧	—	LR側圧、刺突	結束1種ｺｺ、結節ｺｺ	?		D 4	1139
39	4	BD 6	52	4波状	L側圧、R側圧	—		結束1種ｺｺ	?		D 4	1178
40	1	BC 4	2	4波状	単絡側圧	有	刺突	結節ｺｺ、結束1種ｺｺ	?		D 4	1117
40	2	BC 6	42	4波状	LR側圧、結節ｺｺ	—		結束1種ｺｺ、結節ｺｺ	—		D 4	1021
40	3	BD 4	319	4波状か	LR側圧、結節ｺｺ	—	LR側圧	結束1種ｺｺ	—		D 4	1020
40	4	BD 6	282	4波状	R側圧、結節ｺｺ	—		結束1種ｺｺ	?		D 4	1098
41	1	BE 2	4	4波状、LRｺｺ	LR側圧	有	刺突	結束2種ﾀﾞ	?		D 4	1014
41	2	BB 5	15	4波状、LR	R側圧	有	刺突	結束2種ｺｺ	?		D 4	1188
41	3	BD 7	261	—	LR側圧	—		単絡1類ﾀﾞ、結束1種ｺｺ	?		D 2	1053
41	4	BE 2	8	—	L側圧	有	刺突	結束2種ｺｺ	?		D 4	1196
42	1	BE 3	291	4波状、LR	R側圧	有	刺突	単絡1A類ﾀﾞ	?		D 7	1118
42	2	AZ 5	19	—、側圧	LR側圧	有	刺突	単絡1A類ﾀﾞ	?		D 7	1010
42	3	BD 2	411	4波状、LR	LR側圧、刺突	—		単絡1A類ﾀﾞ	?		D 7	1050
42	4	BD 3	332	4波状	LR側圧	有	LR側圧	単絡1A類、LRｺｺ(小)	?		D 7	1038
42	5	BD 3	22	L	L・R・LR側圧	—		単絡1類ﾀﾞ	?		D 7	1090
43	1	BD 6	62	—	LR側圧、RL側圧、刺突	—		単絡1A類ﾀﾞ	?		D 7	1063
43	2	BE 3	293	LR	LR側圧、LRｺｺ、結節	有	刺突	単絡1A類ﾀﾞ	?		D 7	1097
43	3	BD 5	103	4波状、LRｺｺ	単絡側圧	有	単絡側圧	単絡1A類ﾀﾞ	—		D 7	1017
44	1	BK 2	8	—	単絡5類側圧、刺突	有	単絡5類側圧	単絡1A類ﾀﾞ	?		D 7	1060
44	2	BD 4	259	4波状	単絡1類側圧	有	刺突	単絡1A類ﾀﾞ	?		D 7	1076
44	3	BE 3	285	4波状、刺突	単絡5類側圧	有	刺突	単絡1A類ﾀﾞ	?		D 7	1088
45	1	BA 4	34	4波状	LR側圧	有	刺突	多絡	?		D 6	1233
45	2	BC 5	20	4波状、RL	R側圧	有	刺突	多絡ﾀﾞ	—		D 6	1147
45	3	BD 6	360	4波状	R側圧	—		多絡ﾀﾞ	?		D 6	1140
45	4	BD 6	356	—	LR・RL側圧	—		多絡ﾀﾞ	?		D 6	1043
46	1	BD 6	52	4波状	単絡1類側圧	—	単絡1類側圧、刺突	多絡ﾀﾞ	?		D 6	1180
46	2	BD 4	151	4波状、LR	結節ｺｺ	有	LR側圧	多絡ﾀﾞ	?		D 6	1213
46	3	無し		LR	単絡側圧	—		結束1種ｺｺ、多絡ﾀﾞ	?		D 6	1058
47	1	BC 5	17	4波状	R側圧	有	刺突	結節ｺｺ、結束1種ｺｺ	?		D 8	1119
47	2	BA 4	36	—	LR側圧、R側圧	—	結節ｺｺ	結束1種ｺｺ	?		D 8	1092
47	3	BD 3	231	4波状	LR側圧、隆帯+刺突	—	結節ｺｺ	結束1種ｺｺ	?		D 8	1061
47	4	BB 4	30	—	LR側圧、R側圧、刺突	—	刺突	結束1種ｺｺ(O段多条反燃)	?		D 8	1209
48	1	BD 3	249	4波状	LR側圧、貼付	—	有孔、結節ｺｺ	結束1種ｺｺ	?		D 10	1242
48	2	BD 4	219	—	刺突	—		無文	—	異形土器	E 5	1133
48	3	BG 2	7	—	無文	—		無文	—		E 5	1132
49	1	BE 3	?	?	?	?		単絡1A類ﾀﾞ	—		(D 7)	1136
49	2	BD 7	5	?	?	?		単絡1類ﾀﾞ、結節ｺｺ	?		(D 1)	1150

1 項目の「図」の数字はB捨場（西捨場）の挿図図版の（）内の数字である。

2 項目の「番号」の数字は挿図図版内の番号である。

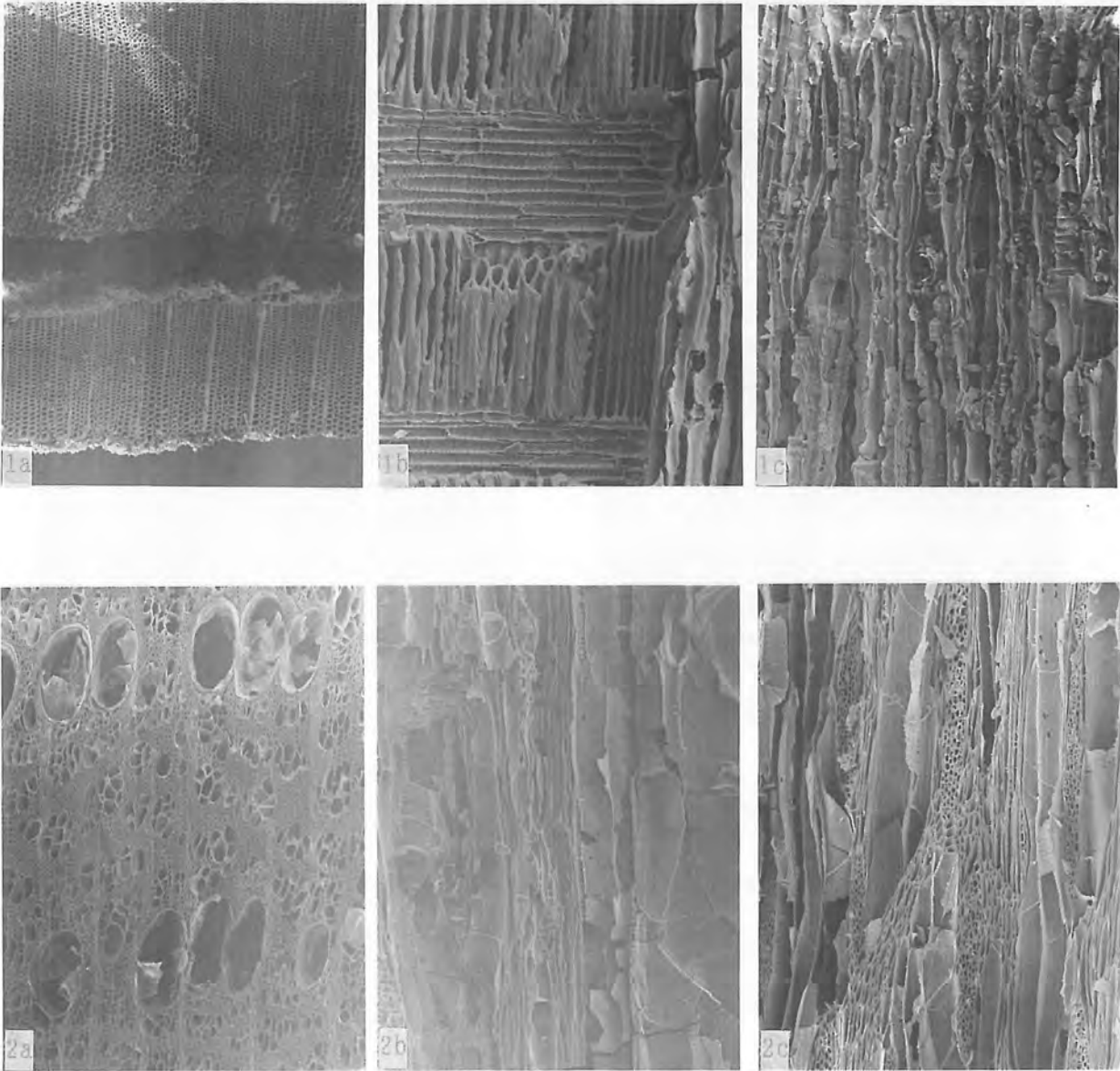
3 略称は以下のものである。

単絡=単軸絡条体、多絡=多軸絡条体、側圧=側面押圧、—=無し、結節=結節回転



# 写真図版





図版1 1. トウヒ属またはカラムツ属の一種 No. 3  
2. ニレ属の一種 No. 1

a : 木口 ×40 b : 柁目 1b ; ×150 2b ; ×100 c : 板目 ×100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ，柁目では左から右。



第55号竖穴住居跡イ区横セクション東側



第55号竖穴住居跡イ区セクション西側



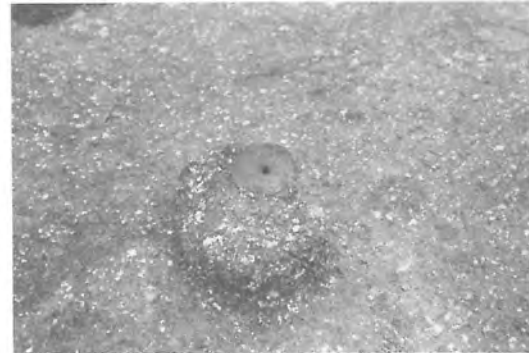
第55号竖穴住居跡上層遺物検出面



第55号竖穴住居跡ハ区中層遺物出土状況



第55号竖穴住居跡ハ区中層遺物出土状況（アップ）



第55号竖穴住居跡土製円盤出土状況



第55号竖穴住居跡球状土製品出土状況



第55号竖穴住居跡ベルト内遺物出土状況

図版2 第55号竖穴住居跡



第55号竪穴住居跡イ区南北セクション



第55号竪穴住居跡口区南北セクション



第55号竪穴住居跡ハ区南北セクション



第55号竪穴住居跡ニ区南北セクション



第55号竪穴住居跡ハ区セクション東側



第55号竪穴住居跡ハ区セクション西側



第55号竪穴住居跡口区セクション東側



第55号竪穴住居跡口区セクション西側

図版3 第55号竪穴住居跡



第55号竪穴住居跡炉7・10確認状況



第55号竪穴住居跡炉1 確認状況



第55号竪穴住居跡55c 期完掘状況



第55号竪穴住居跡完掘状況



第56号竪穴住居跡セクション



第56号竪穴住居跡セクション



第56号竪穴住居跡セクション



第56号竪穴住居跡完掘

図版4 第55号・第56号竪穴住居跡



第57号竖穴住居跡セクション



第57号竖穴住居跡セクション



第57号竖穴住居跡ピット確認状況



第57号竖穴住居跡完掘



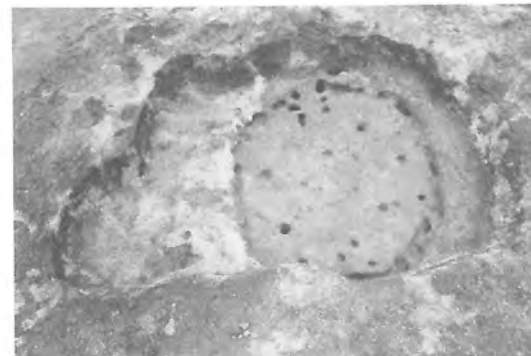
第58・77号竖穴住居跡セクション



第58・77号竖穴住居跡セクション



第58・77号竖穴住居跡セクション



第58・77号竖穴住居跡完掘

図版5 第57号・第58号・第77号竖穴住居跡

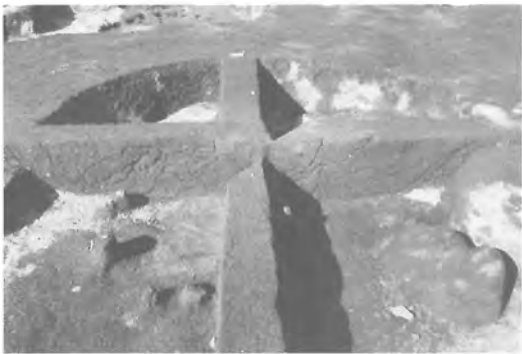




第59号竪穴住居跡東西セクション



第59号竪穴住居跡完掘状況



第62・63号竪穴住居跡東西セクション



第62・63号竪穴住居跡遺物出土状況



第62・63号竪穴住居跡Pit検出状況



第62・63号竪穴住居跡完掘状況



第64号竪穴住居跡セクション



第64号竪穴住居跡完掘状況

図版6 第59号・第62号・第63号・第64号竪穴住居跡





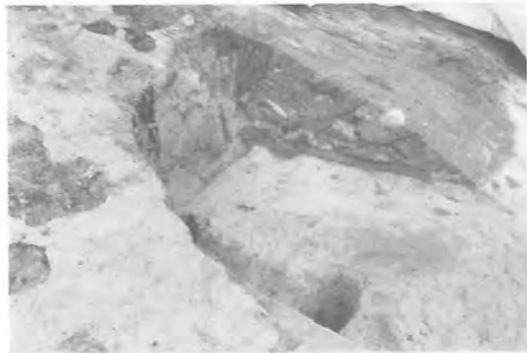
第65号竪穴住居跡セクション



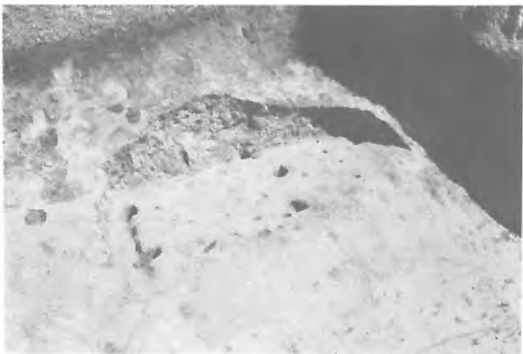
第65号竪穴住居跡セクション



第65号竪穴住居跡完掘



第66号竪穴住居跡セクション



第66号竪穴住居跡完掘



第67号竪穴住居跡セクション



第67号竪穴住居跡セクション



第67号竪穴住居跡Pit 1 セクション

図版 7 第65号・第66号・第67号竪穴住居跡



第67号竖穴住居跡完掘



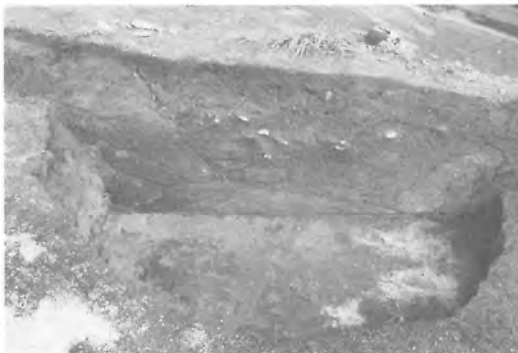
第68号竖穴住居跡 第375号土坑セクション



第68号竖穴住居跡 第375号土坑セクション



第68号竖穴住居跡 第375号土坑完掘



第69号竖穴住居跡セクション



第69号竖穴住居跡遺物出土状況



第69号竖穴住居跡完掘

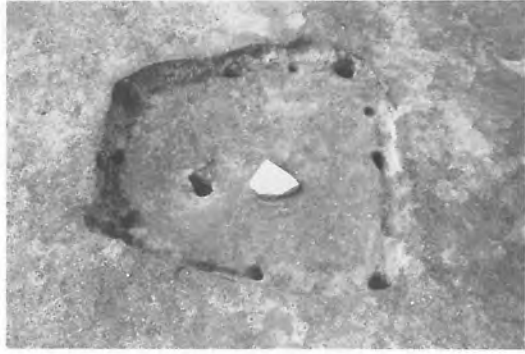


第70号竖穴住居跡セクション

図版 8 第67号・第68号・第69号・第70号竖穴住居跡



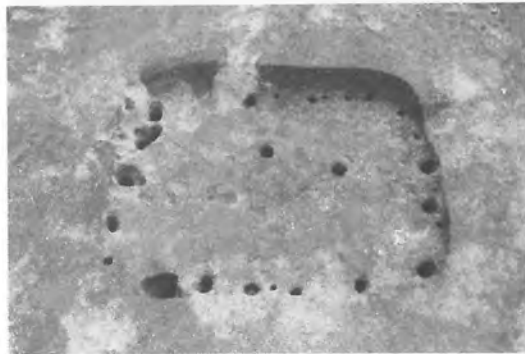
第70号竖穴住居跡セクション



第70号竖穴住居跡完掘



第71号竖穴住居跡セクション



第71号竖穴住居跡完掘



第73号竖穴住居跡セクション



第73号竖穴住居跡セクション



第73号竖穴住居跡完掘



第73号竖穴住居跡完掘

図版9 第70号・第71号・第73号竖穴住居跡



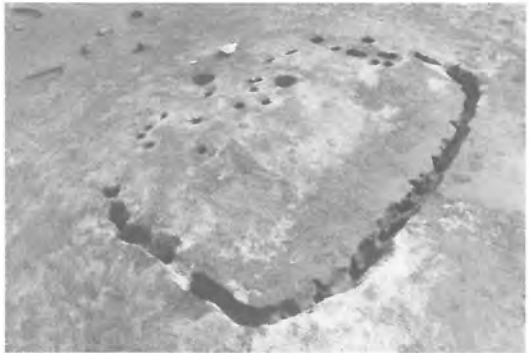
第74号竪穴住居跡セクション



第74号竪穴住居跡完掘



第75号竪穴住居跡セクション



第75号竪穴住居跡完掘



第76号竪穴住居跡セクション



第76号竪穴住居跡セクション



第76号竪穴住居跡遺物出土状況



第76号竪穴住居跡完掘

図版10 第74号・第75号・第76号竪穴住居跡



第312号土坑セクション



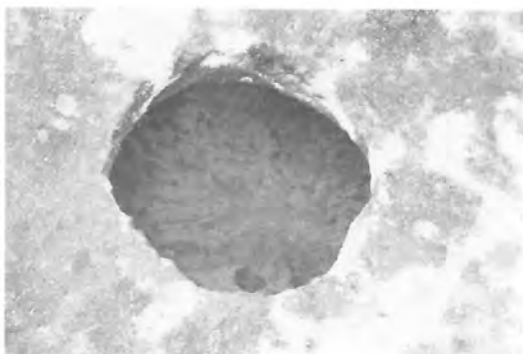
第312号土坑炭化材



第312号土坑完掘



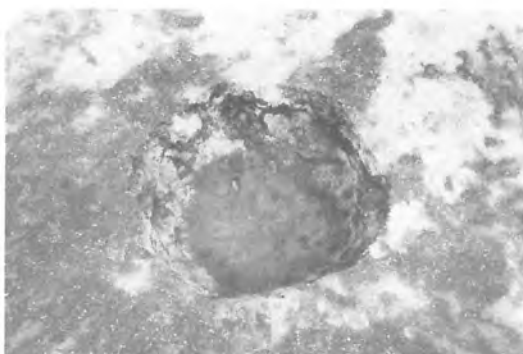
第318号土坑セクション



第318号土坑完掘



第319号土坑セクション



第319号土坑完掘



第321号土坑セクション

図版11 第312号・第318号・第319号・第321号土坑





第321・327号土坑完掘



第322号土坑セクション



第322号土坑完掘



第320・323号土坑セクション



第320・323号土坑完掘



第324号土坑セクション



第324号土坑完掘



第325号土坑セクション

図版12 第320号・第321号・第322号・第323号・第324号・第325号土坑



第326号土坑セクション



第326号土坑完掘状況



第328号土坑南北セクション



第328号土坑完掘状況



第329号土坑セクション



第329号土坑完掘状況



第330号土坑セクション



第330号土坑完掘

図版13 第326号・第328号・第329号・第330号土坑



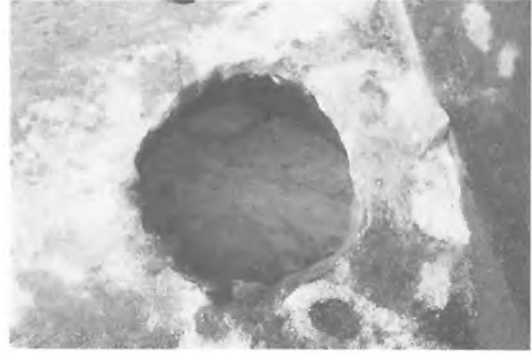
第332号土坑セクション



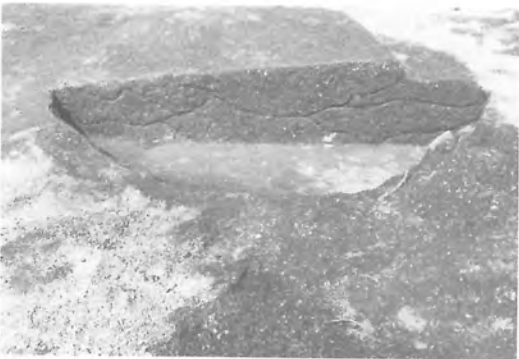
第332号土坑完掘



第333号土坑セクション



第333号土坑完掘



第334号土坑セクション



第334号土坑セクション



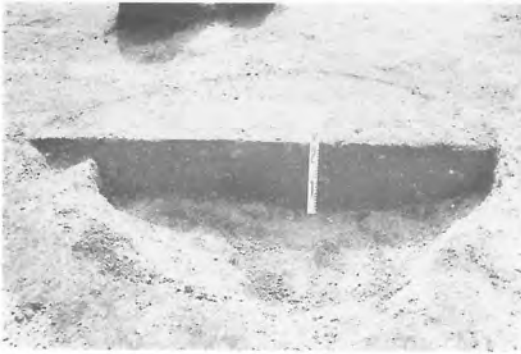
第335号土坑セクション



第335号土坑完掘

図版14 第332号・第333号・第334号・第335号土坑





第336号土坑セクション



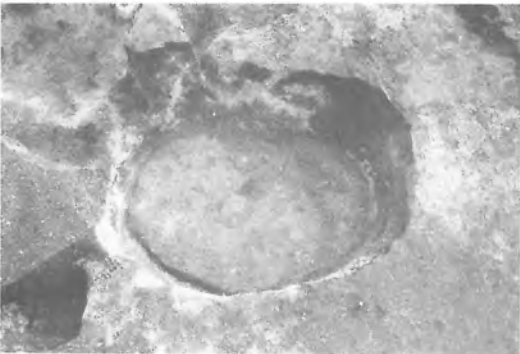
第336号土坑完掘状況



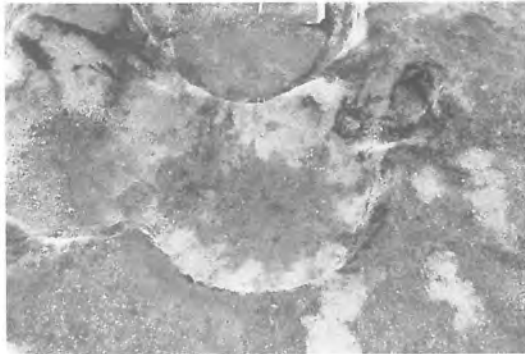
第337・338・343号土坑セクション



第337号土坑完掘状況



第338号土坑完掘状況



第343号土坑完掘状況



第339号土坑セクション



第339号土坑完掘状況

図版15 第336号・第337号・第338号・第339号・第343号土坑



第340号土坑東西セクション



第340号土坑遺物出土状況



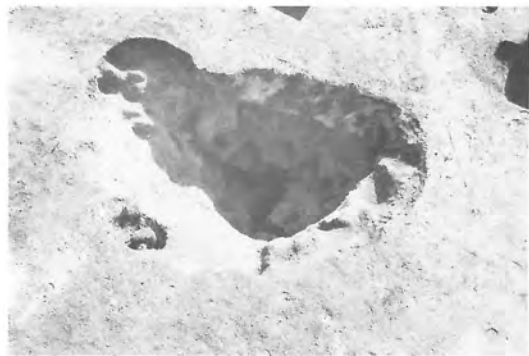
第341号土坑東西セクション



第341号土坑完掘



第342号土坑セクション



第342号土坑完掘



第344号土坑セクション



第344号土坑完掘

図版16 第340号・第341号・第342号・第344号土坑



第345号土坑セクション



第345号土坑遺物出土状況



第345号土坑完掘



第346号土坑セクション



第346号土坑完掘



第346号土坑完掘



第348号土坑セクション



第348号土坑完掘

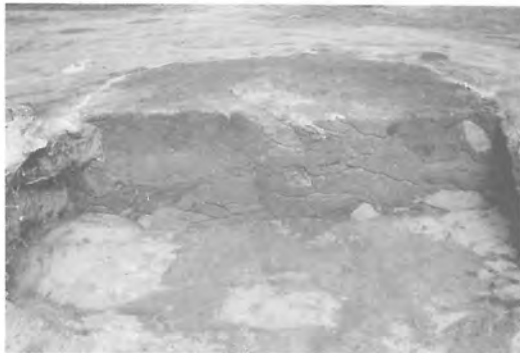
図版17 第345号・第346号・第348号土坑



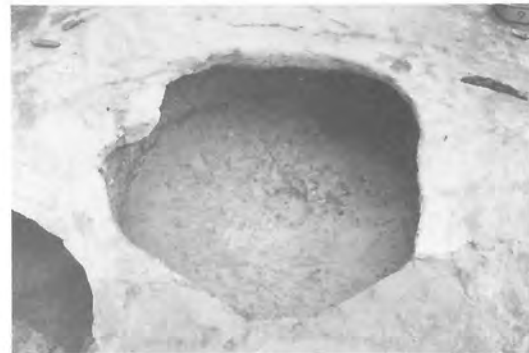
第349号土坑 セクション



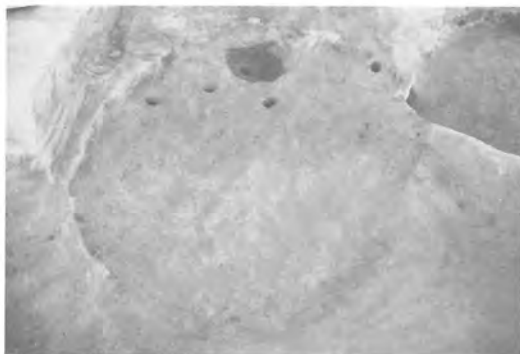
第349号土坑 完掘



第350号土坑 セクション



第350号土坑 完掘



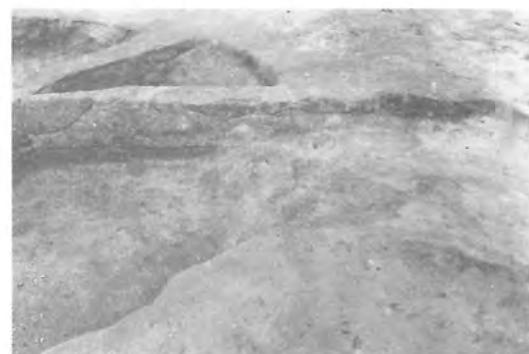
第354号土坑 完掘



第355号土坑 セクション



第355号土坑 セクション



第356号土坑 セクション

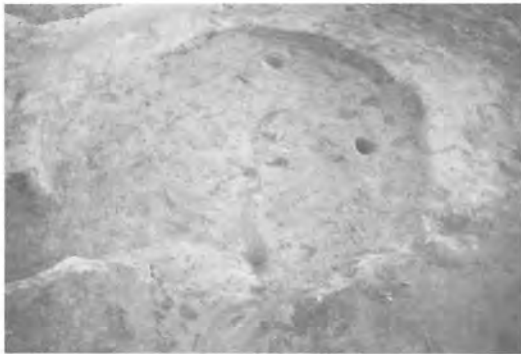
図版18 第349号・第350号・第354号・第355号・第356号土坑



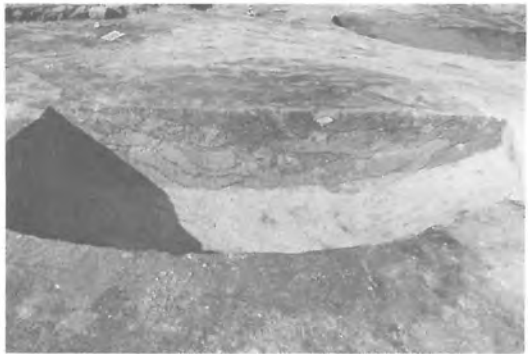
第355・356号土坑 完掘



第357号土坑 セクション



第357号土坑 完掘



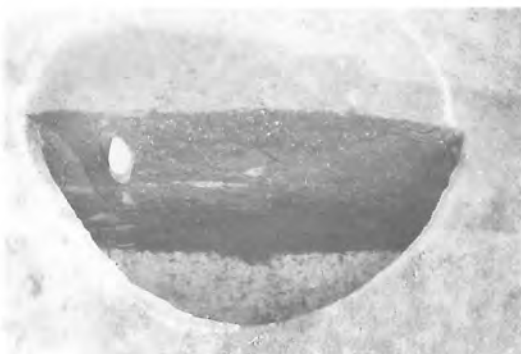
第358号土坑 セクション



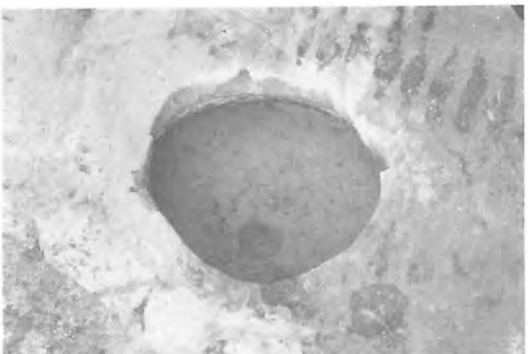
第358号土坑 完掘



第359号土坑 セクション



第361号土坑 セクション

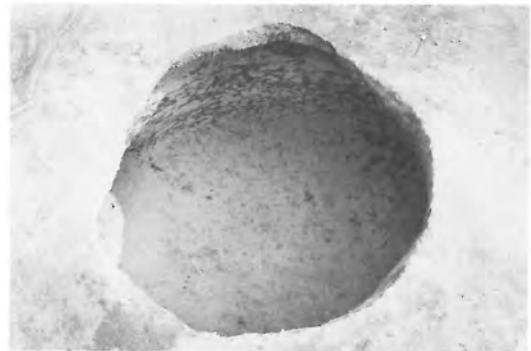


第361号土坑 完掘

図版19 第355号・第356号・第357号・第358号・第359号・第361号土坑



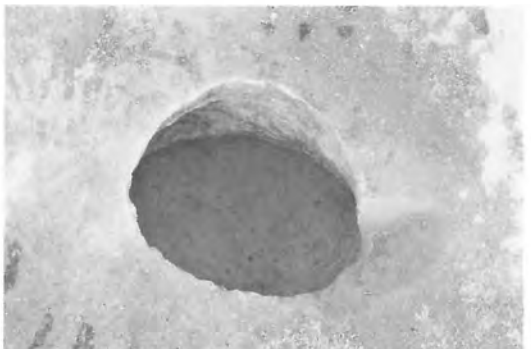
第362号土坑 セクション



第362号土坑 完掘



第363号土坑 セクション



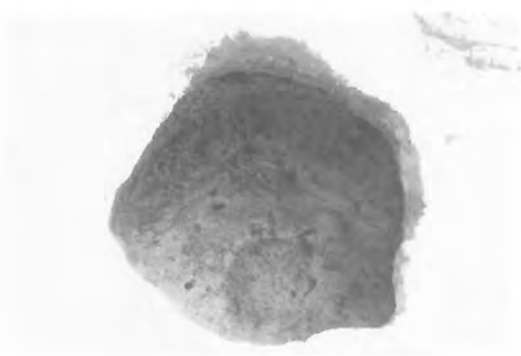
第363号土坑 完掘



第365号土坑 セクション



第365号土坑 完掘



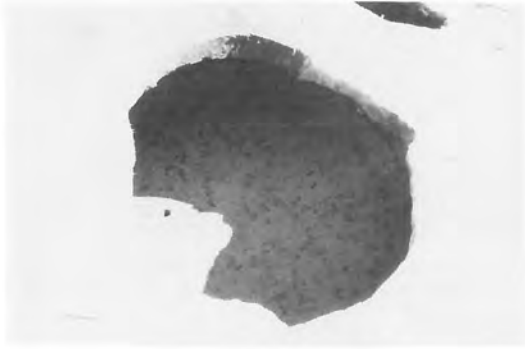
第365号土坑 完掘



第366号土坑 セクション

図版20 第362号・第363号・第365号・第366号土坑





第366号土坑 完掘



第367号土坑 セクション



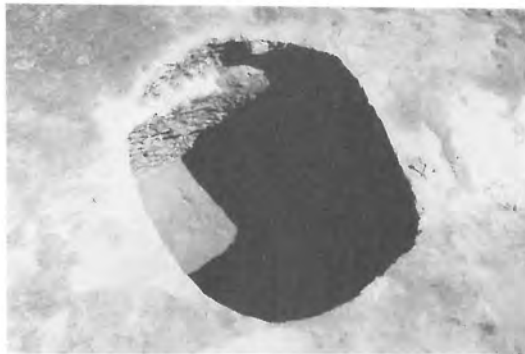
第367号土坑 完掘



第368号土坑 セクション



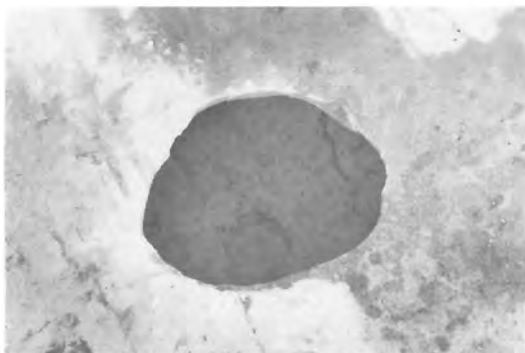
第369号土坑 南北セクション



第369号土坑 完掘



第370号土坑 セクション

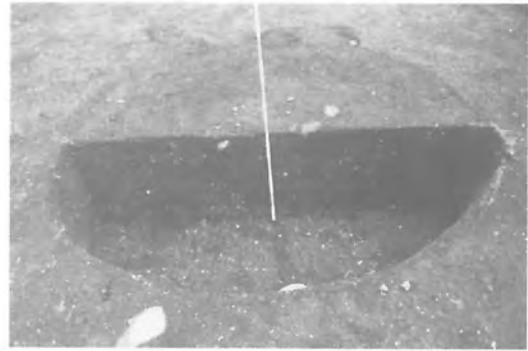


第370号土坑 完掘

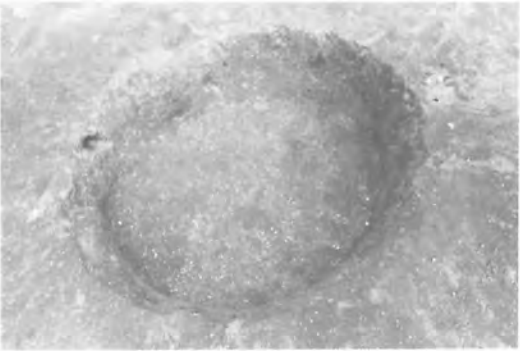
図版21 第366号・第367号・第368号・第369号・第370号土坑



第371号土坑 東西セクション



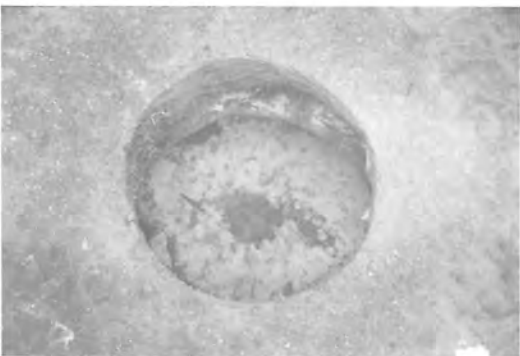
第374号土坑 セクション



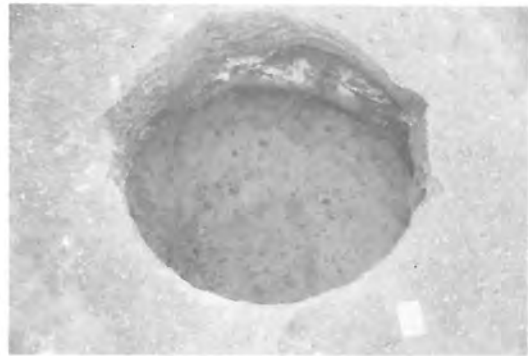
第374号土坑 完掘状況



第376号土坑 東西セクション



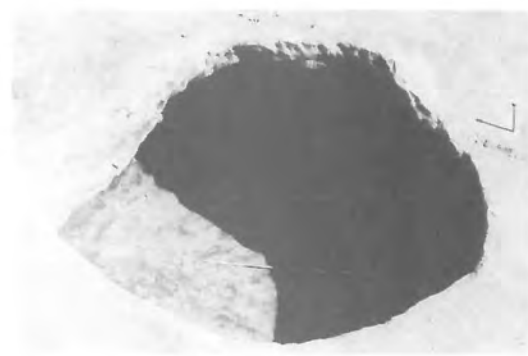
第376号土坑 完掘状況



第376号土坑 完掘状況②



第379号土坑 セクション



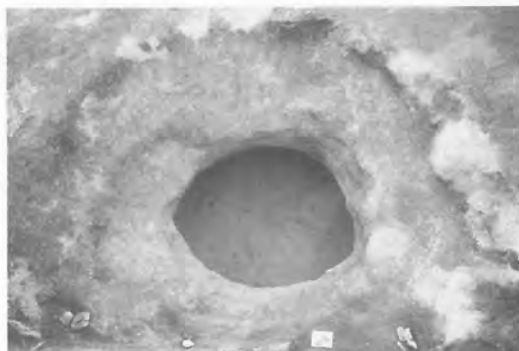
第379号土坑 完掘状況

図版22 第371号・第374号・第376号・第379号土坑





第380号土坑 セクション



第380号土坑 完掘状況



第381号土坑 セクション



第382号土坑 セクション



第381・382号土坑 完掘状況



第384号土坑 確認・遺物出土状況

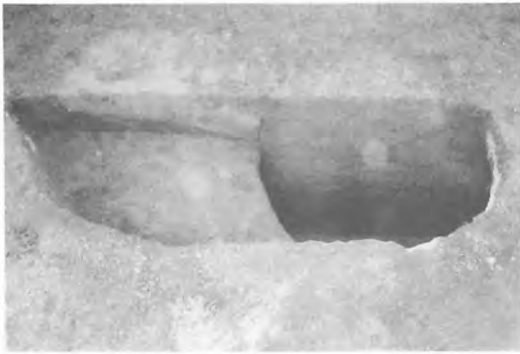


第384号土坑 遺物出土状況



第384号土坑 完掘状況

図版23 第380号・第381号・第382号・第384号土坑



第387・388号土坑 セクション



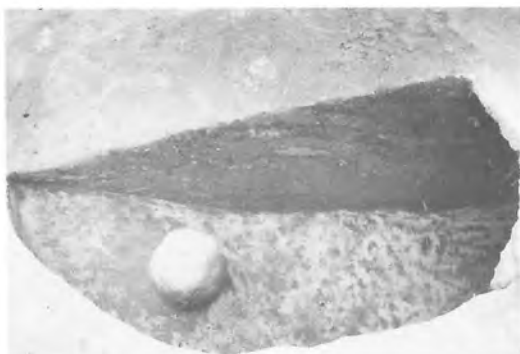
第387・388号土坑 完掘状況



第389号土坑 セクション



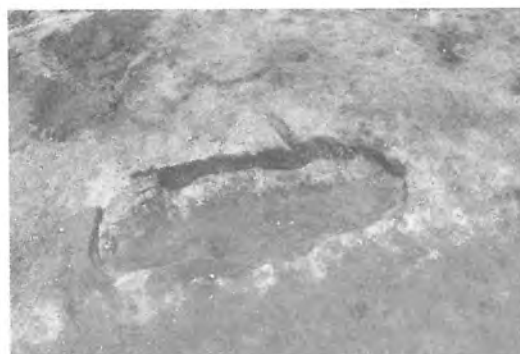
第389号土坑 完掘状況



第392号土坑 セクション



第392号土坑 完掘状況



第393号土坑 完掘状況

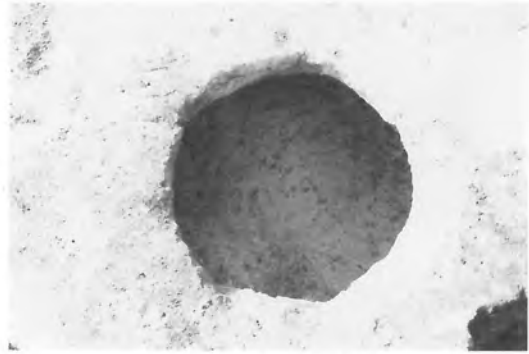


第395号土坑 セクション

図版24 第387号・第388号・第389号・第392号・第393号・第395号土坑



第397号土坑 南北セクション



第397号土坑 完掘状況



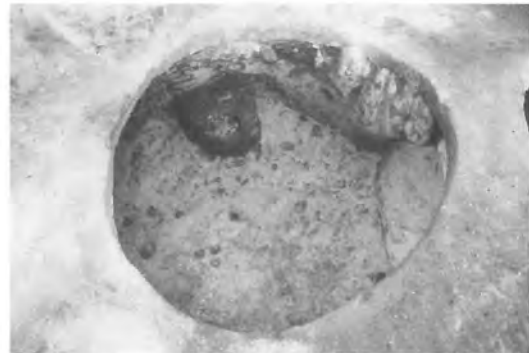
第398号土坑 セクション



第398号土坑 完掘状況



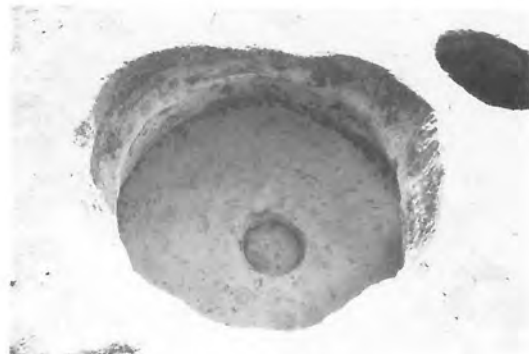
第399号土坑 セクション



第399号土坑 完掘状況



第400号土坑 セクション



第400号土坑 完掘状況

図版25 第397号・第398号・第399号・第400号土坑



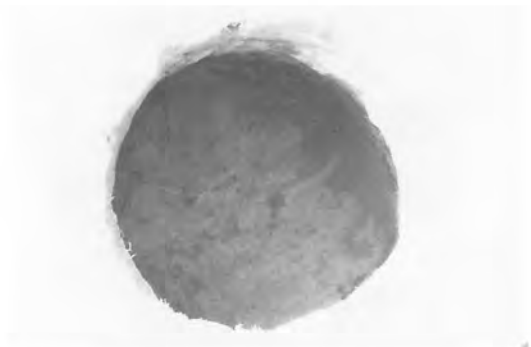
第401号土坑 セクション



第401号土坑 完掘状況



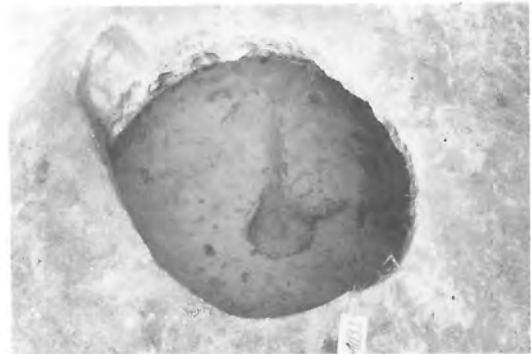
第402号土坑 セクション



第402号土坑 完掘状況



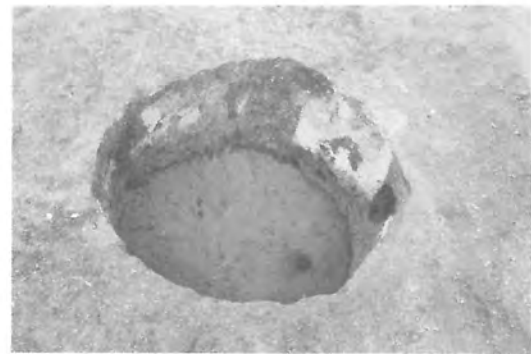
第403号土坑 セクション



第403号土坑 完掘状況



第404号土坑 セクション



第404号土坑 完掘状況

図版26 第401号・第402号・第403号・第404号土坑



第405号土坑 セクション



第405号土坑 完掘



第33号埋設土器



第31・34・35号埋設土器



第36号埋設土器



第36号埋設土器



第37号埋設土器



第39号埋設土器 セクション

図版27 第405号土坑、第31号・第33号・第34号・第35号・第36号・第37号・第39号埋設土器





第41号埋設土器 出土状況



第41号埋設土器 出土状況 (半截)



第42号埋設土器 セクション



第44号埋設土器



第50号埋設土器 セクション



第51号埋設土器



第52号埋設土器



第54・55号埋設土器

図版28 第41号・第42号・第44号・第50号・第51号・第52号・第54号・第55号埋設土器



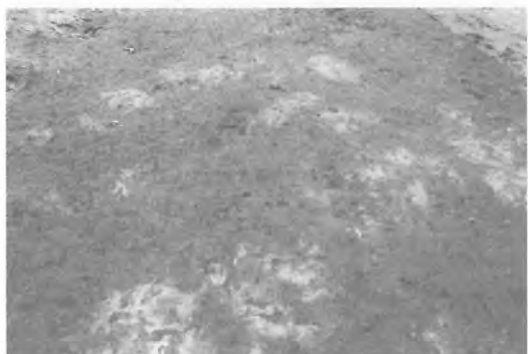
第56号埋設土器



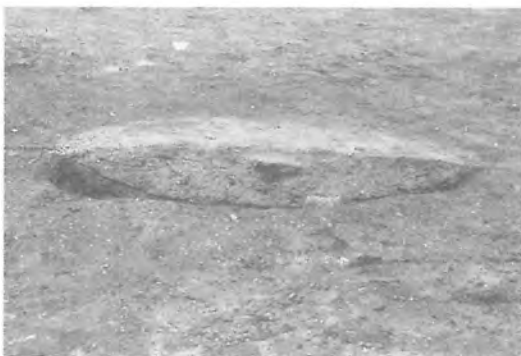
第59号埋設土器



第60号埋設土器



AW~AX-41 焼土群



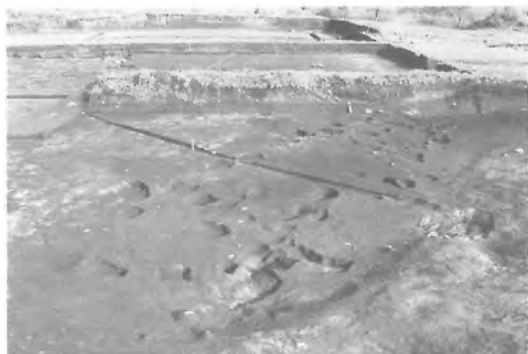
第7号焼土範囲 東西セクション



第65号焼土 セクション



第21号焼土内 ミニチュア土器



下層a北区 焼土遺構群全景

図版29 第56号・第59号・第60号埋設土器、焼土遺構



第14号屋外炉 出土状況



第14号屋外炉 セクション



第13号屋外炉 セクション



性格不明遺構 炭化物セクション



性格不明遺構 炭化物セクション



性格不明遺構 完掘状況



第7号集石 出土状況



第8号集石 確認状況

図版30 第13号・第14号屋外炉、性格不明遺構、第7号・第8号集石





第9号集石確認状況



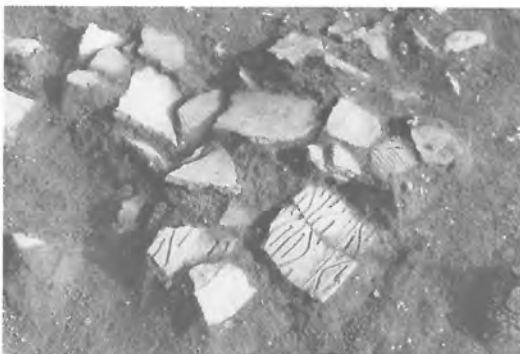
第10号集石 確認状況



第1号配石 確認状況



第1号配石 確認状況



A V - 49~50浮石混じり層下部 遺物出土状況



C E - 18区Ⅲ層 水晶製石器出土状況



B D - 25区Ⅳ層上面 遺物出土状況



B B 25区 土偶出土状況

図版31 第9号・第10号集石、第1号配石、遺物出土状況



BA-24区 遺物出土状況



AZ-25区IV層 遺物出土状況



AZ-24~25・BA-24~25区IV層 遺物出土状況



BH-19~20区 炭化木確認状況



BD-20区 炭化木確認状況



AU-41 E捨て場トレンチ



BE-26区 西壁 セクション



調査風景

図版32 遺物出土状況・調査風景

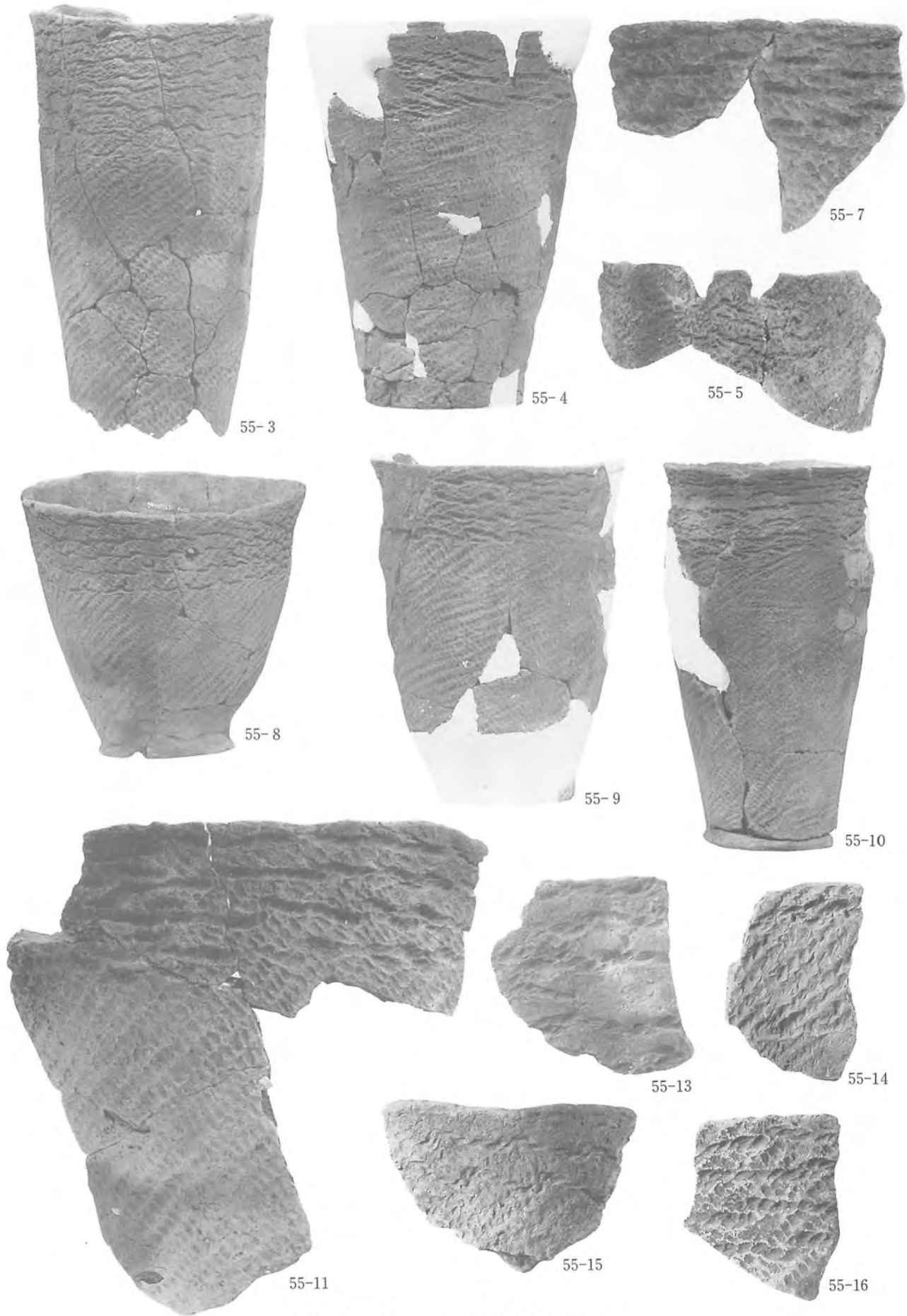


55-1

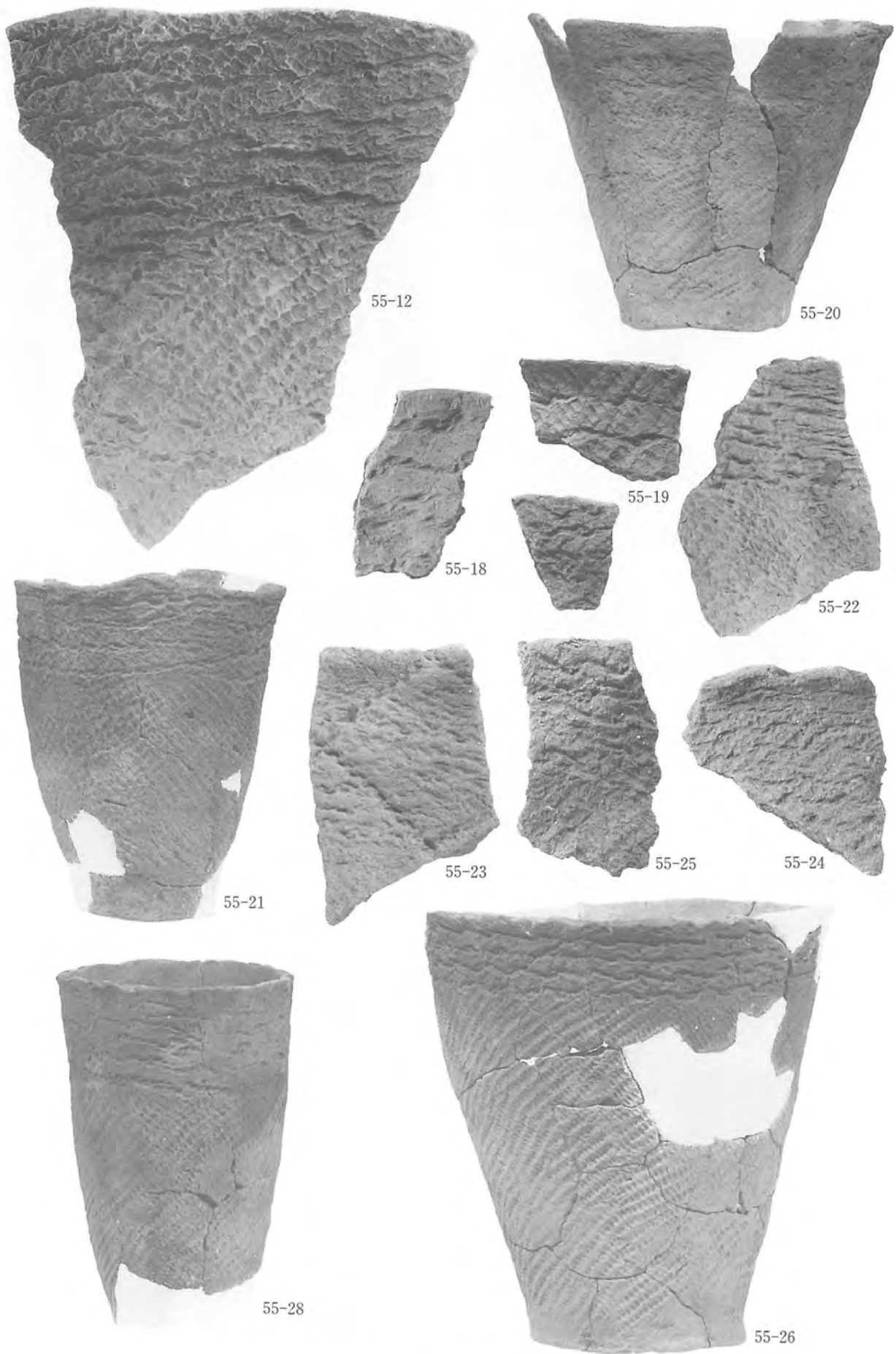


55-2

图版33 第55号竖穴住居跡出土土器①

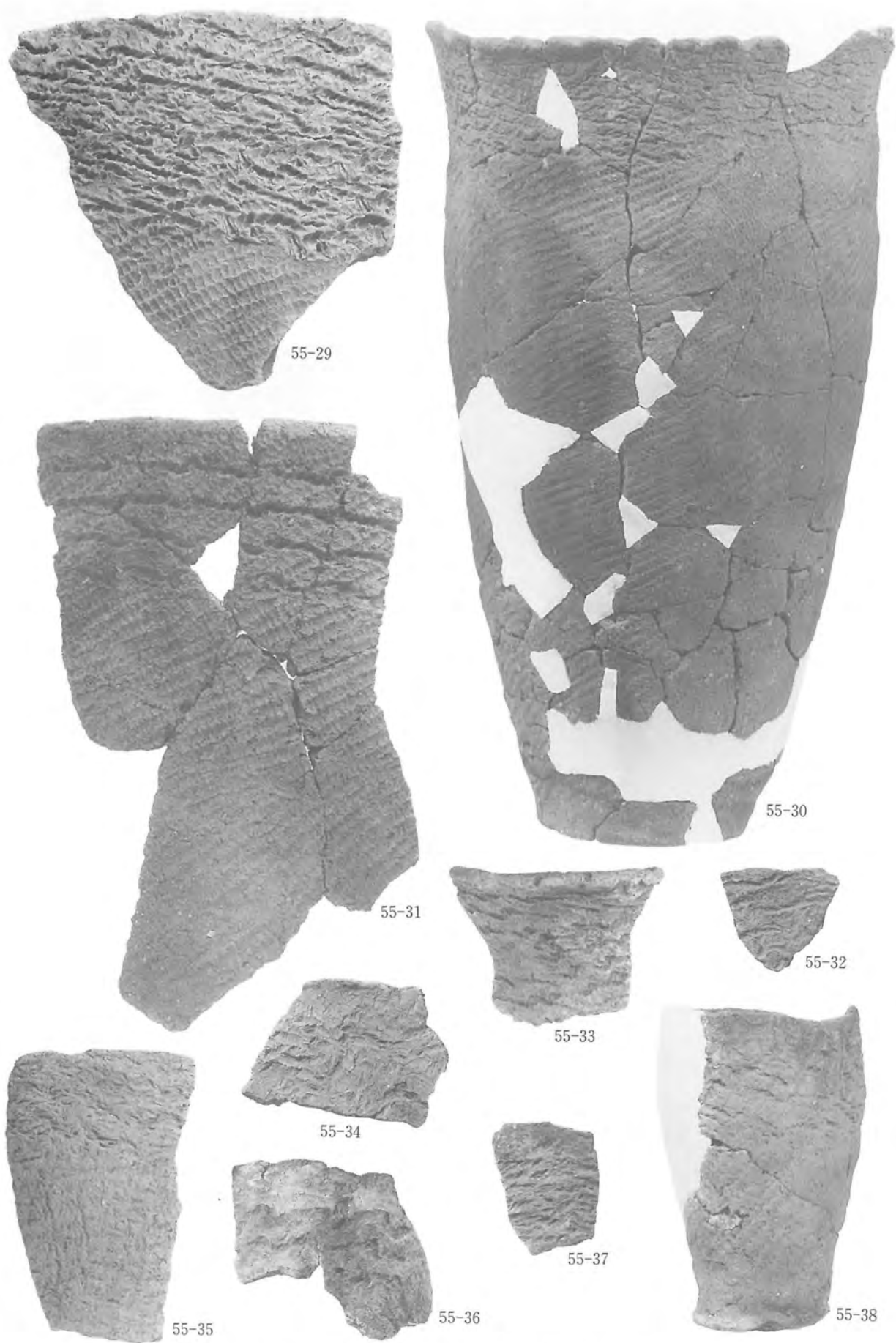


图版34 第55号竖穴住居跡出土土器②

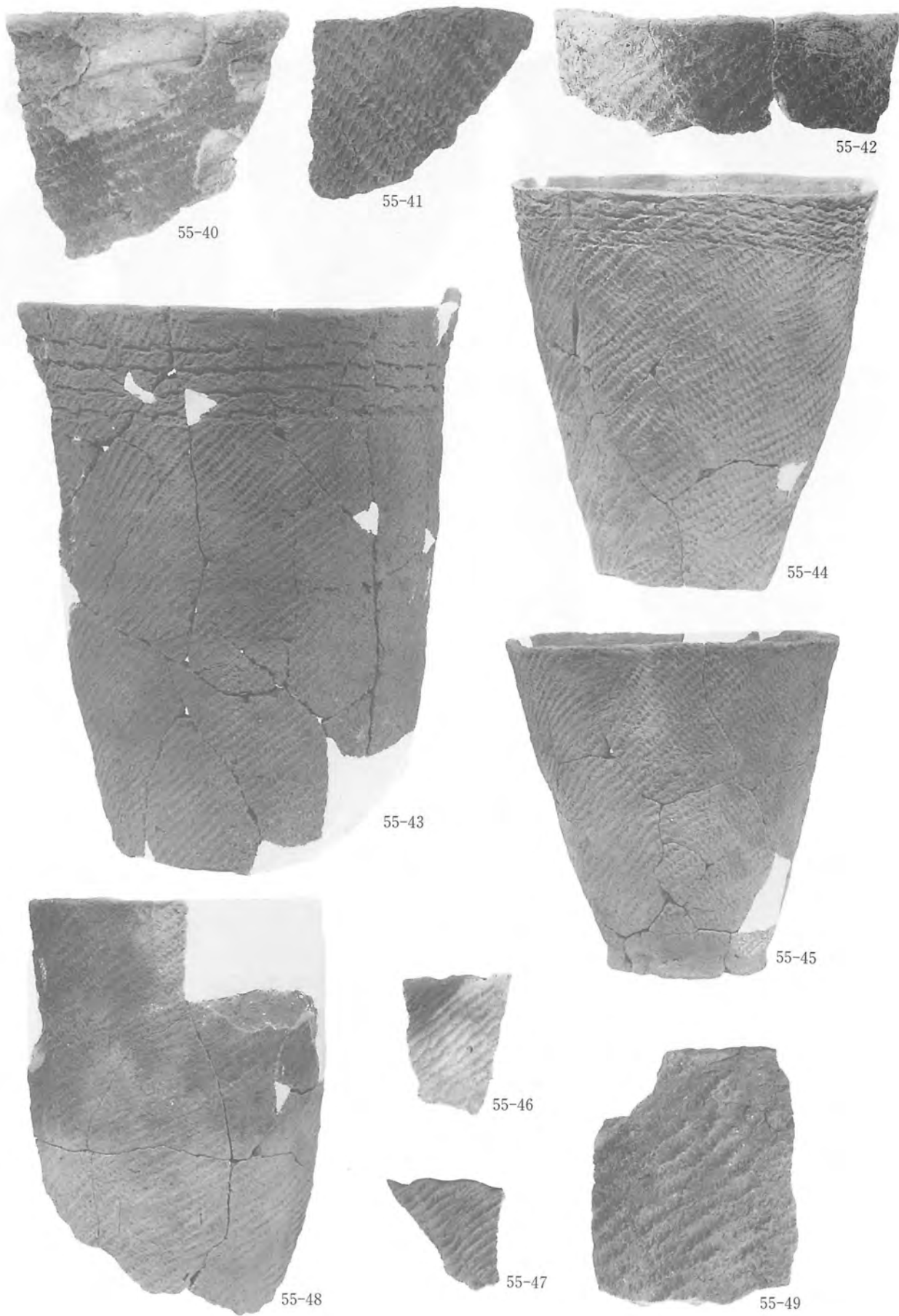


图版35 第55号豎穴住居跡出土土器③





图版36 第55号竖穴住居跡出土土器④

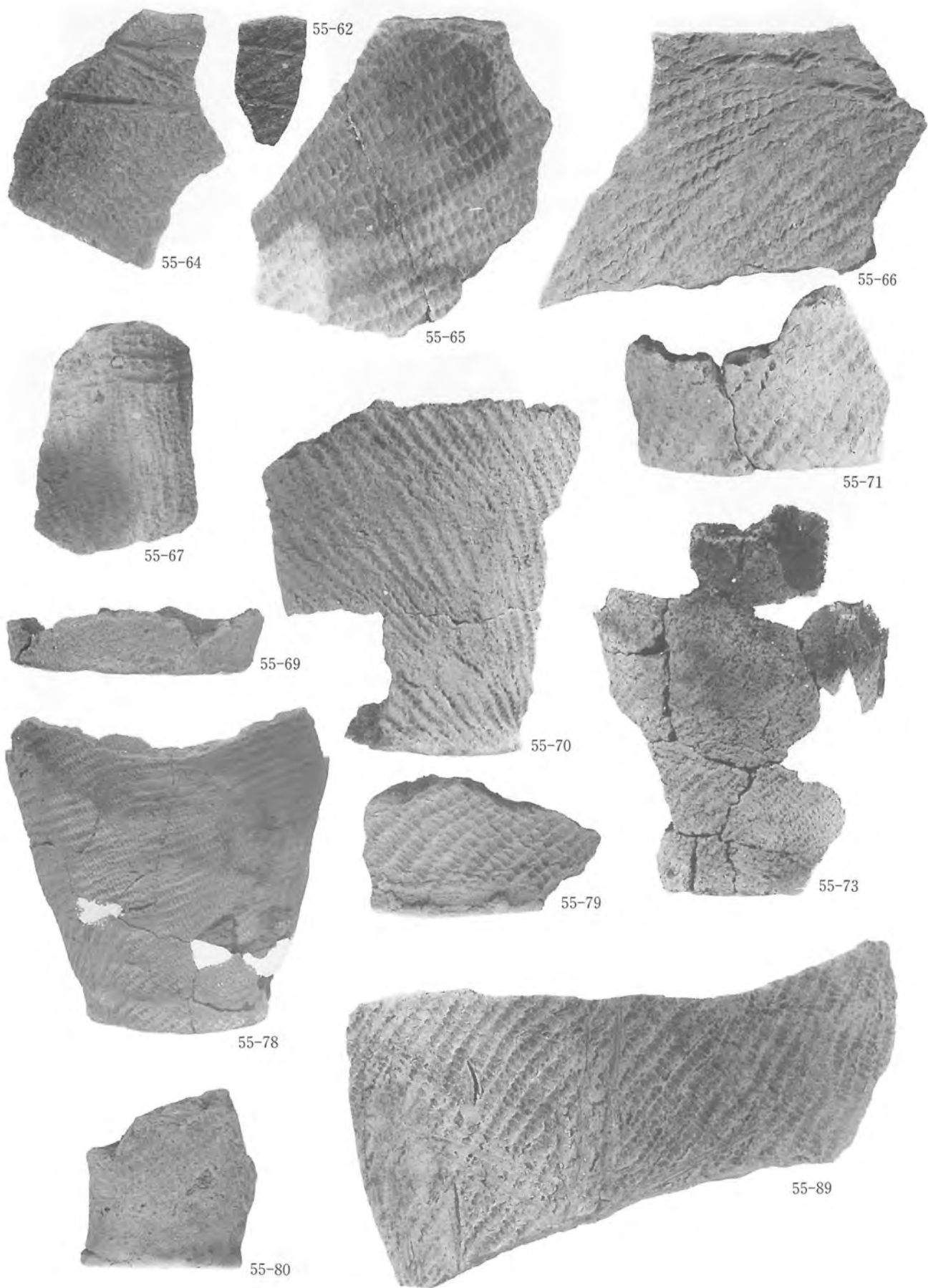


图版37 第55号竖穴住居跡出土土器⑤

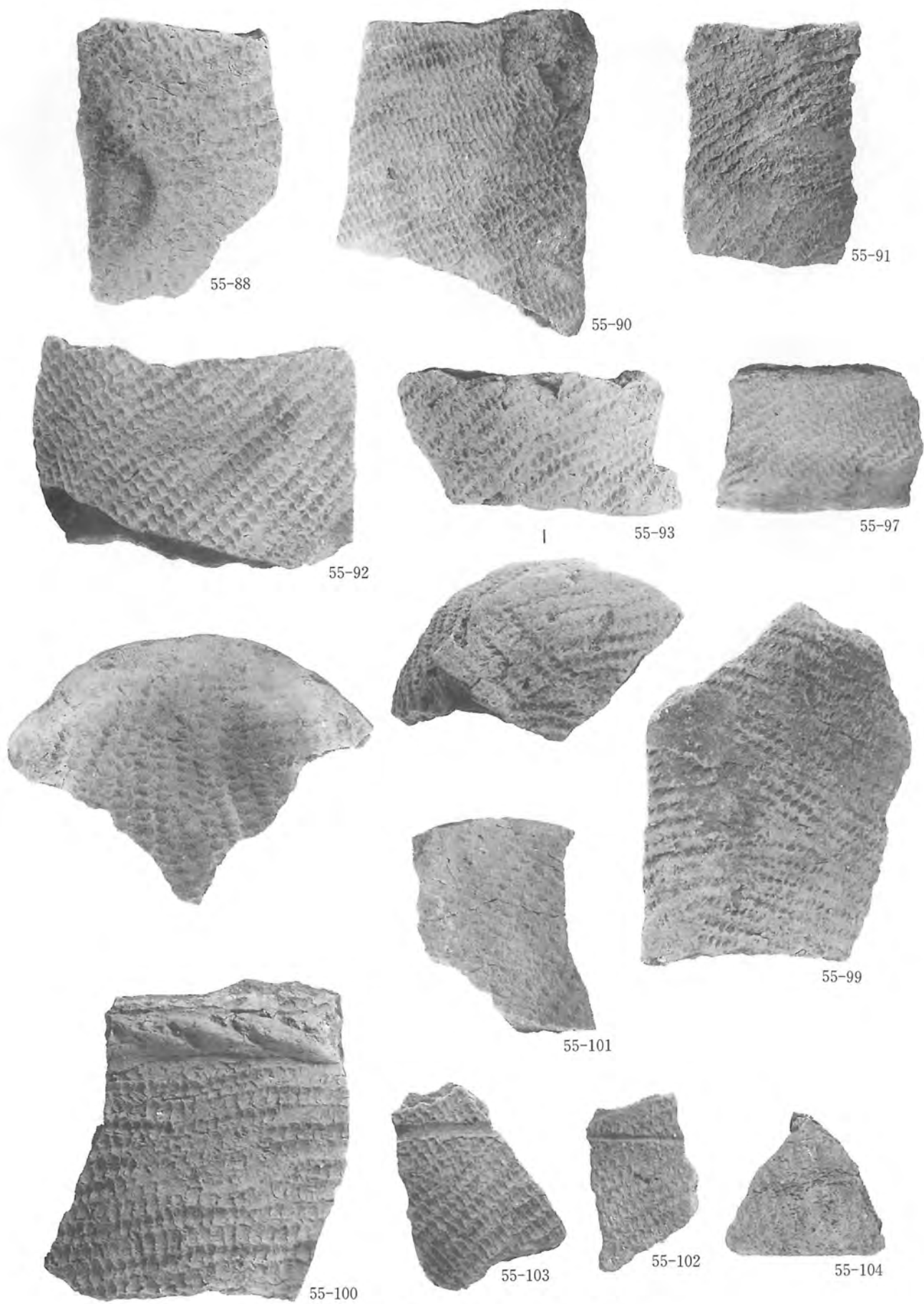


图版38 第55号竖穴住居跡出土土器⑥

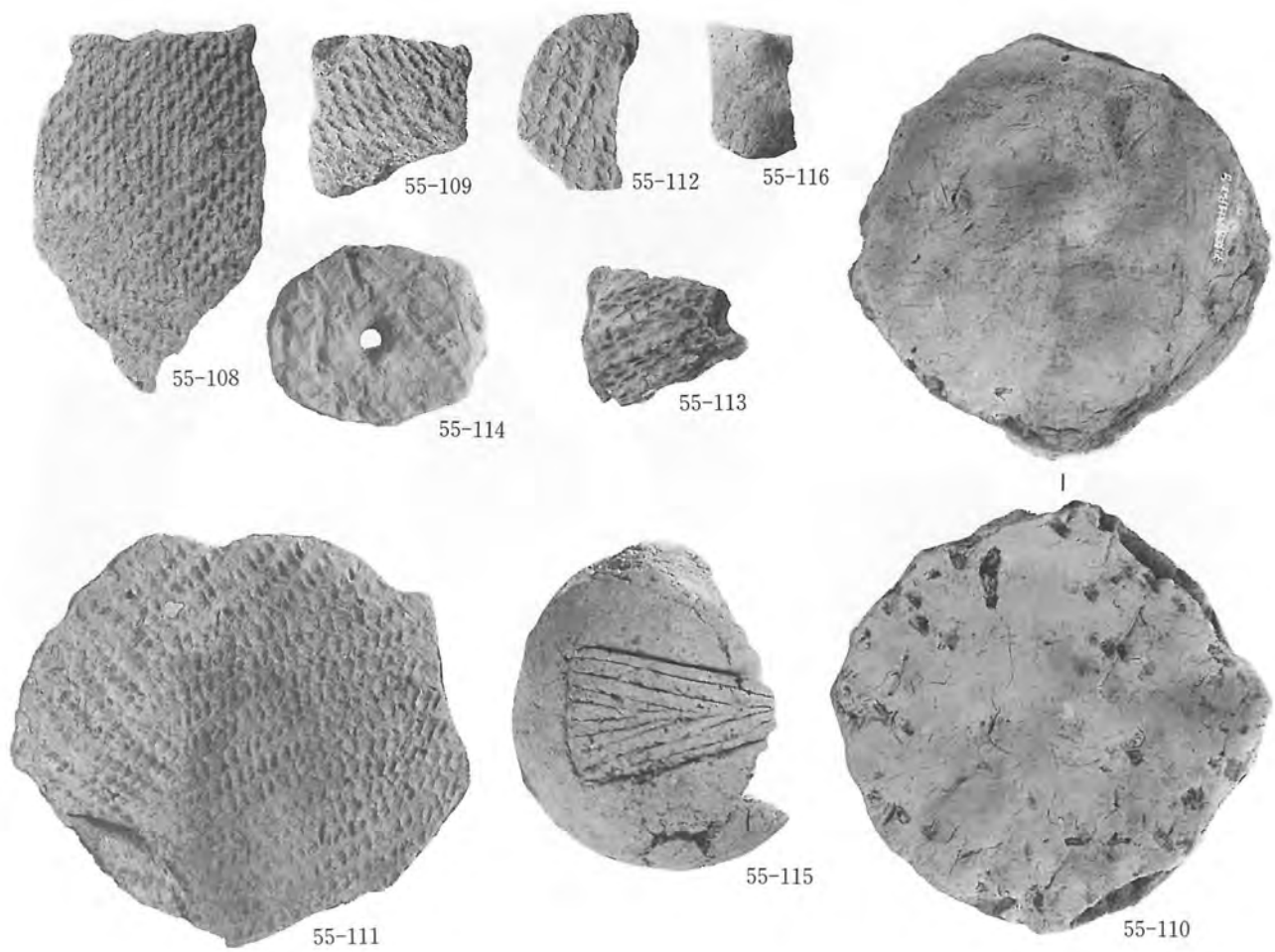




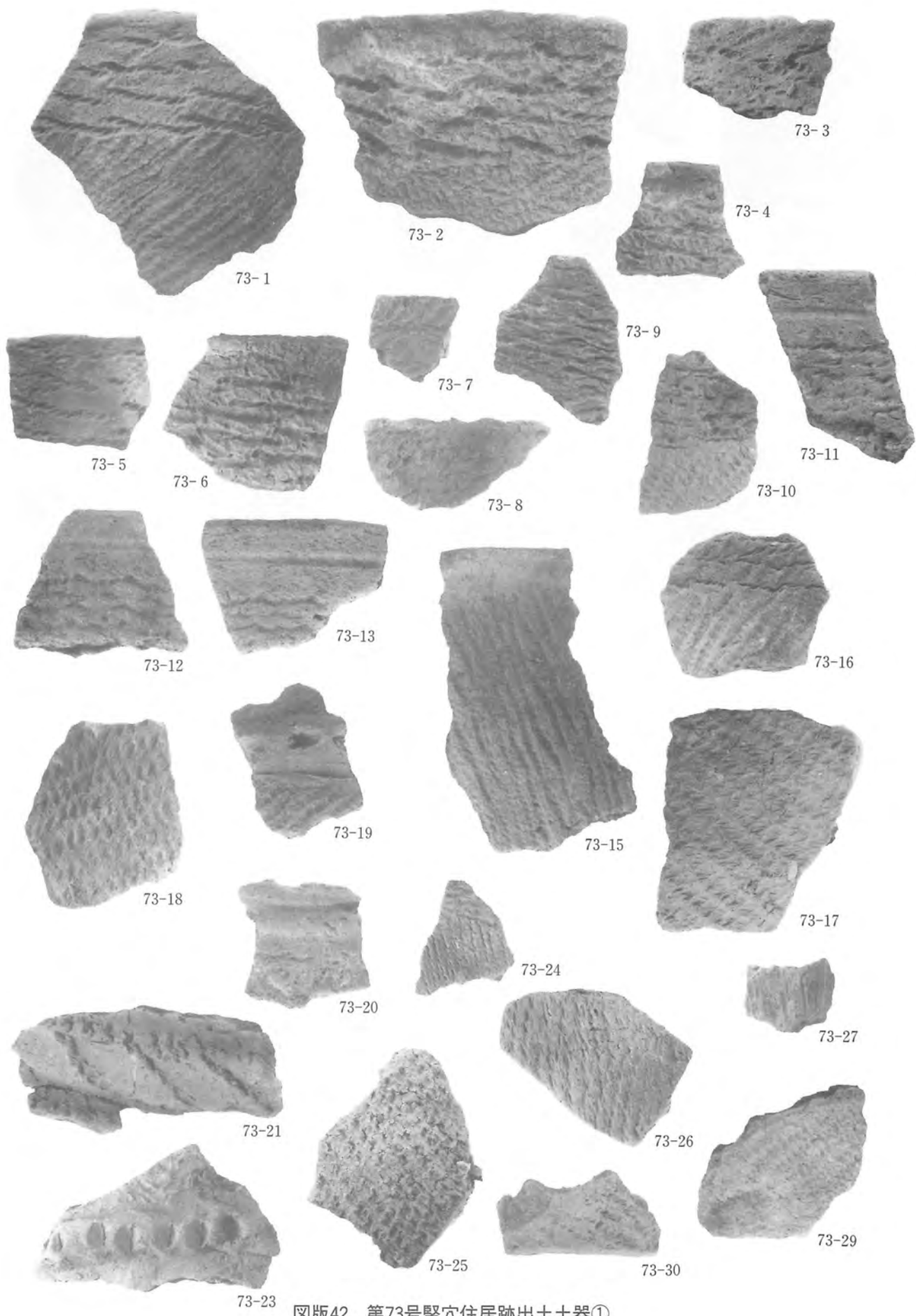
图版39 第55号竖穴住居跡出土土器⑦



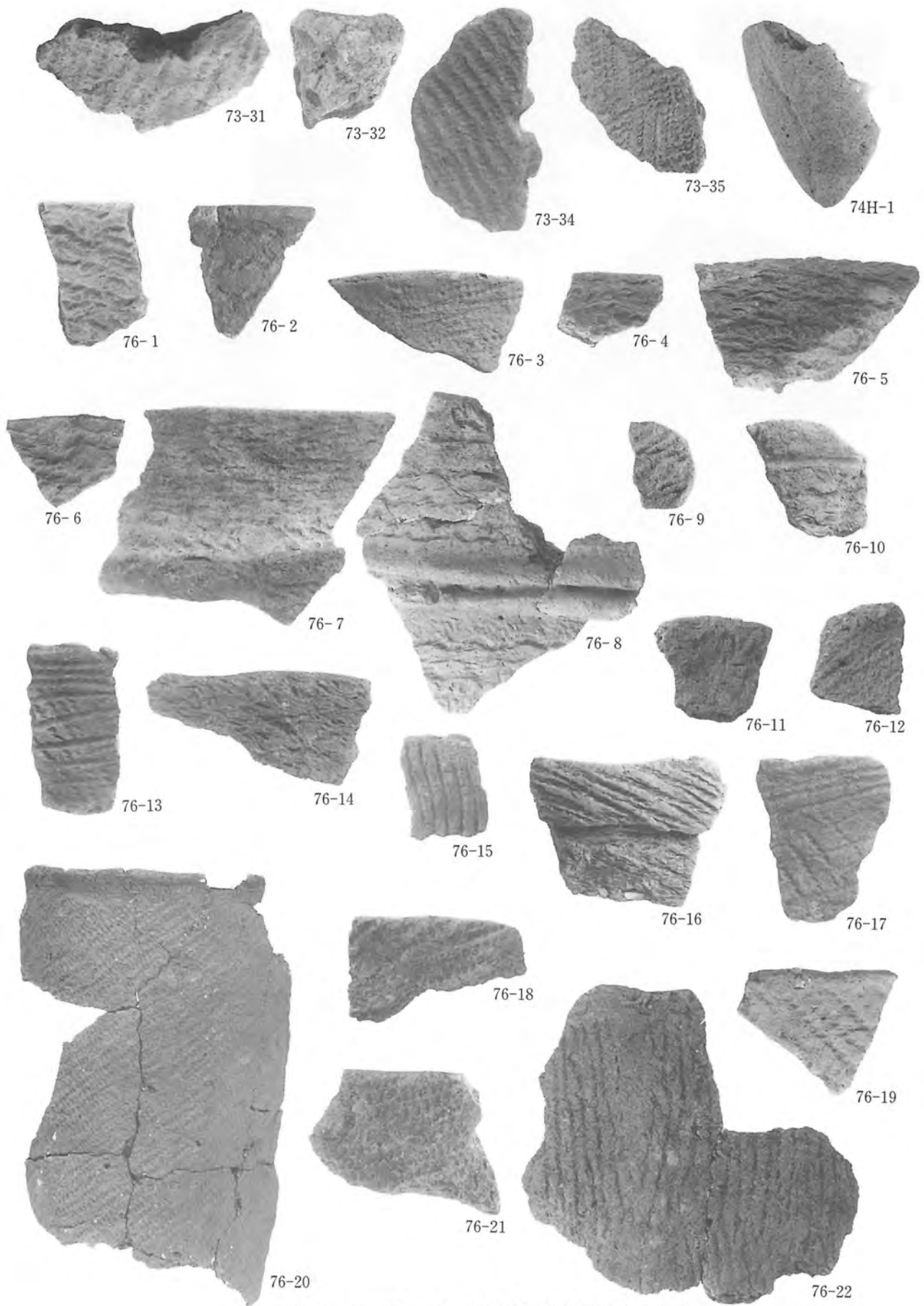
图版40 第55号竖穴住居跡出土土器⑧



图版41 第55号竖穴住居跡出土土器⑨

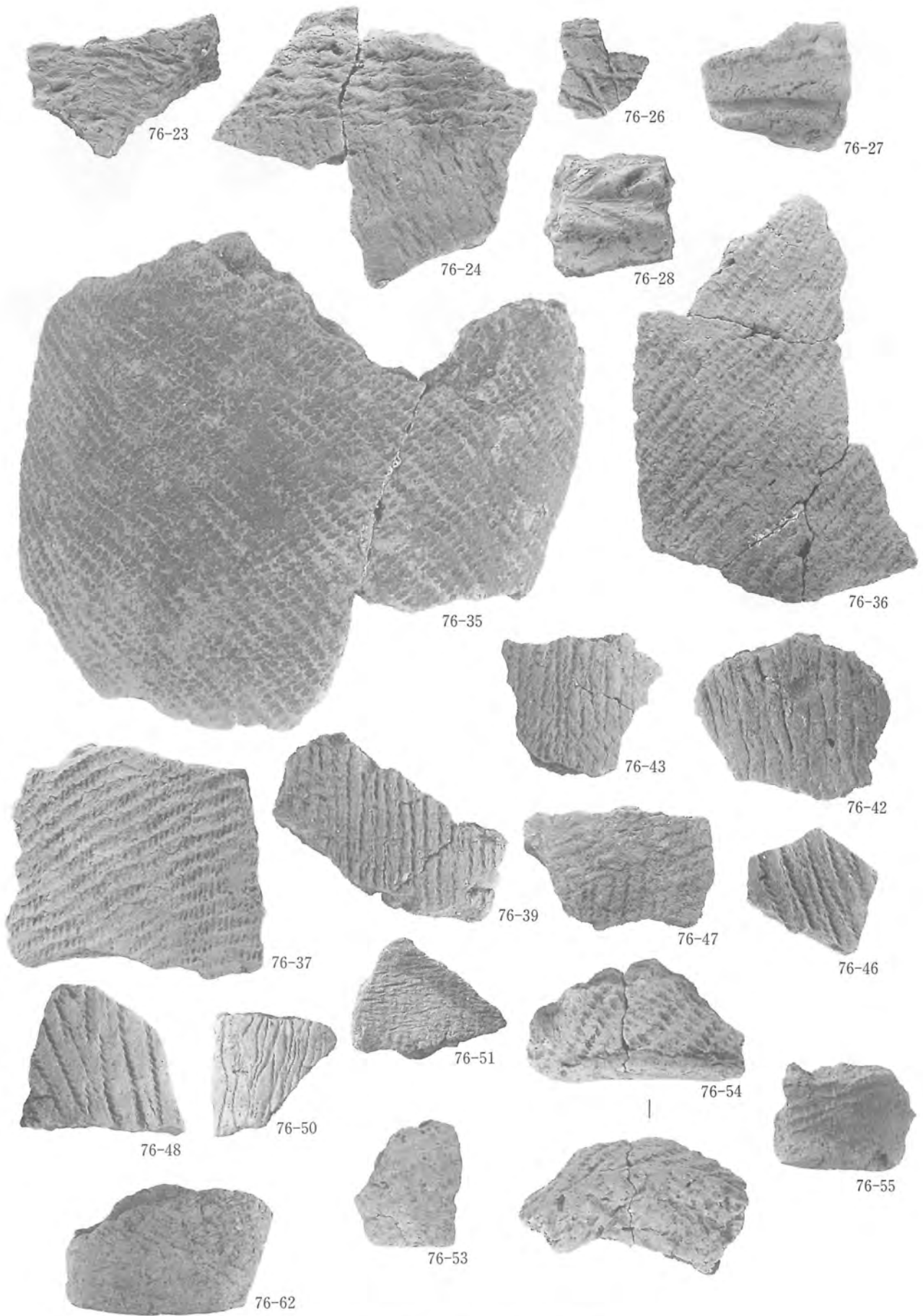


图版42 第73号竖穴住居跡出土土器①

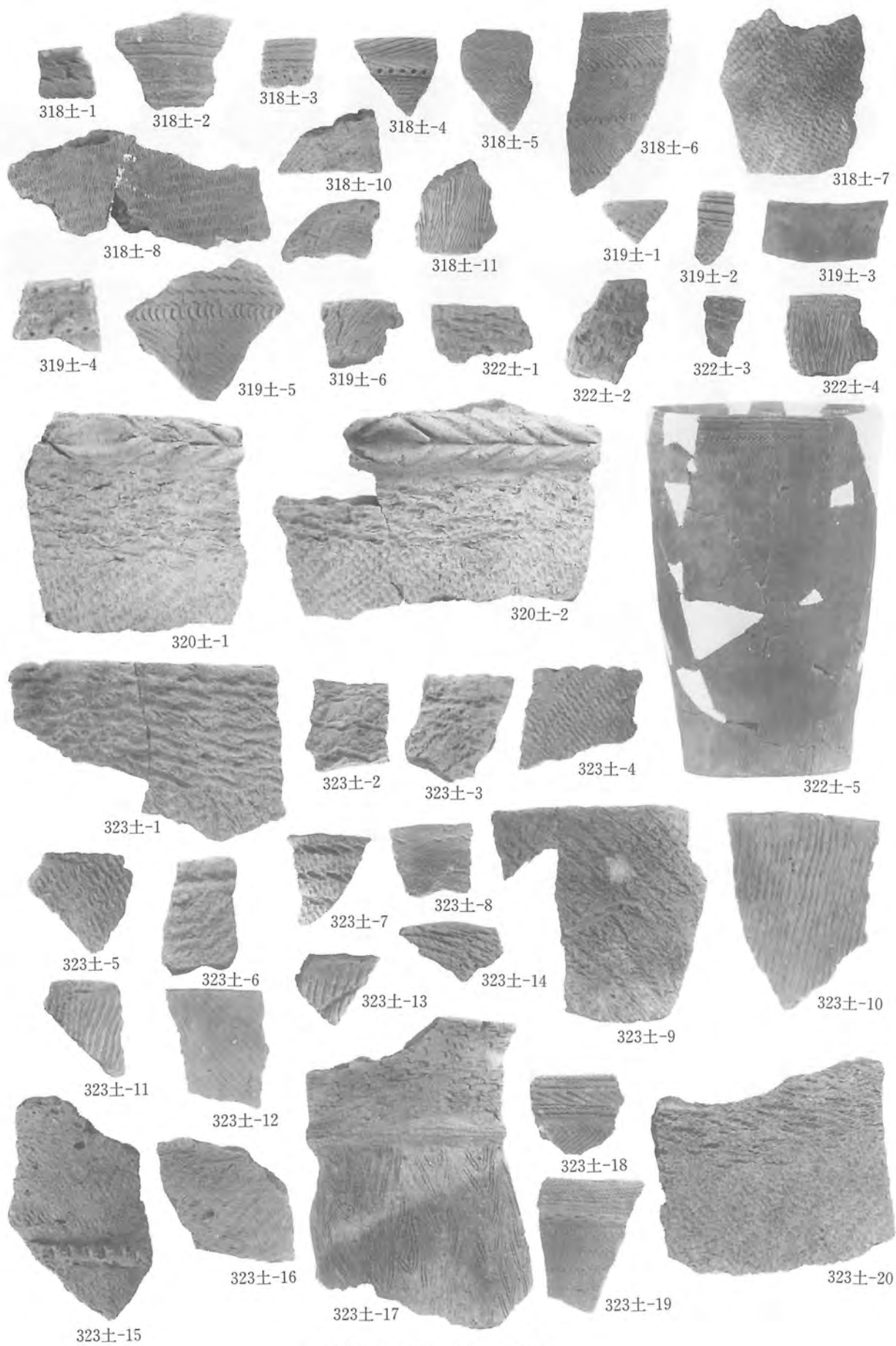


图版43 第73②·74·76号①竖穴住居跡出土土器

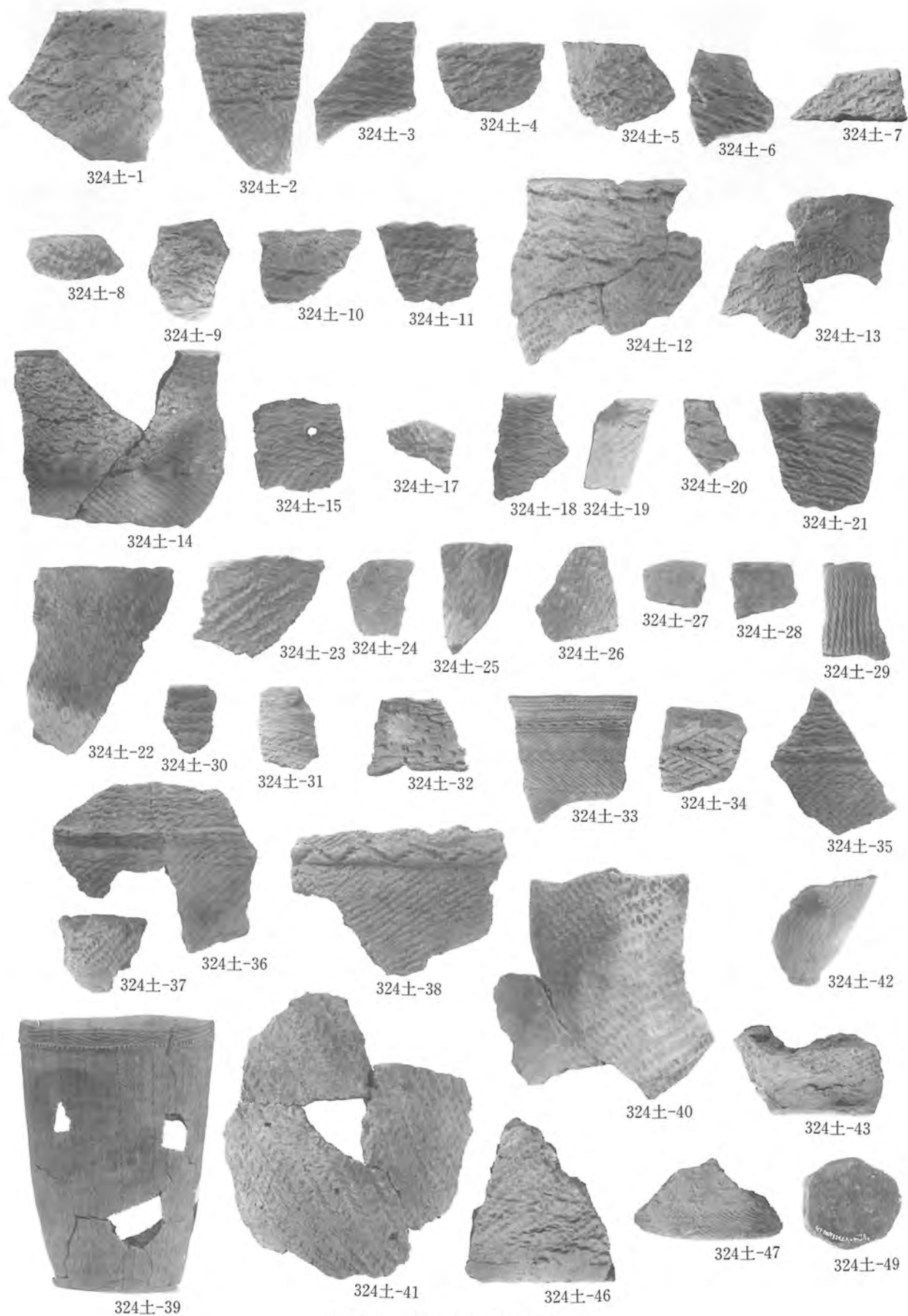




图版44 第76号竖穴住居迹出土土器②

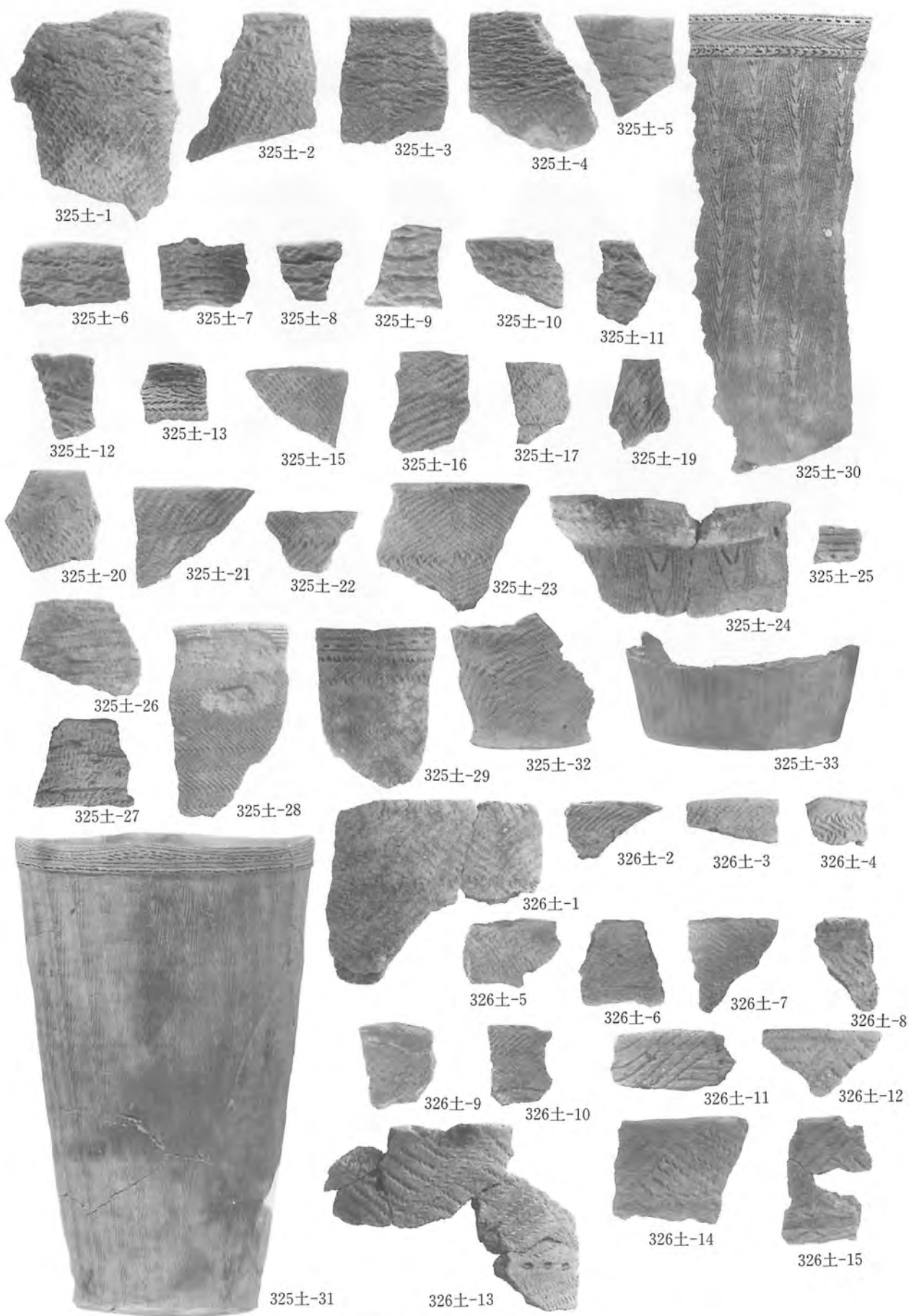


图版45 土坑内出土土器 1

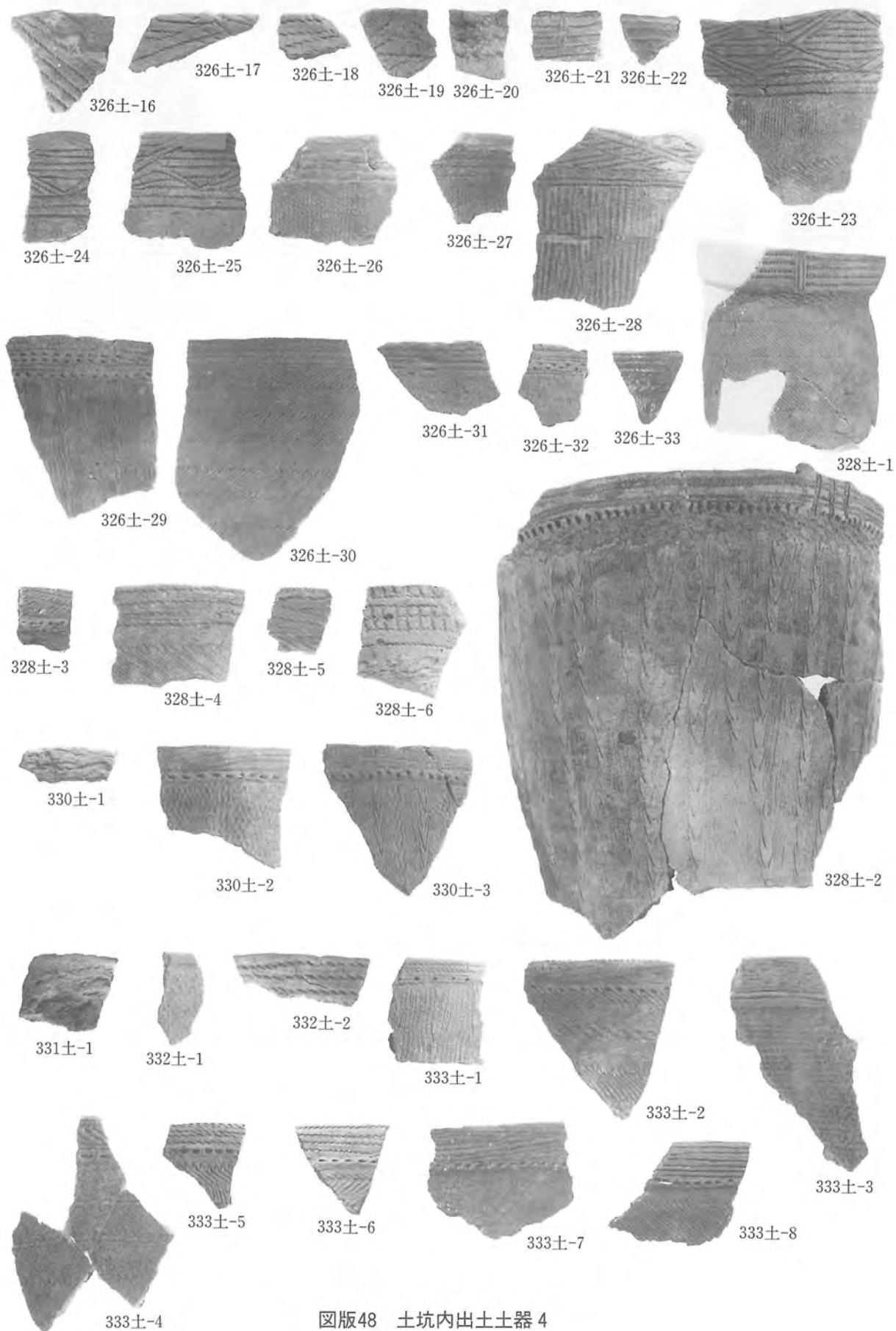


图版46 土坑内出土土器 2

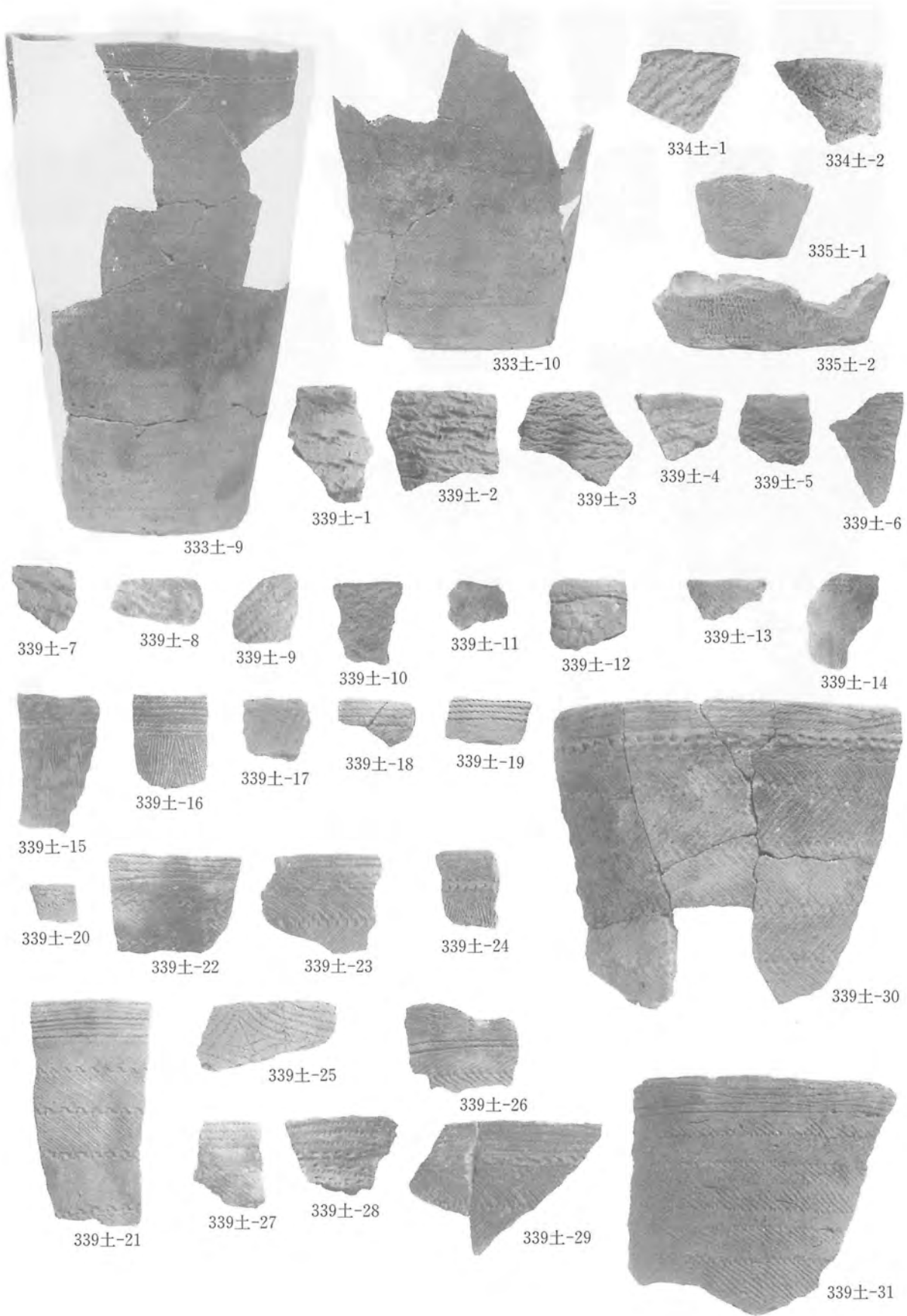




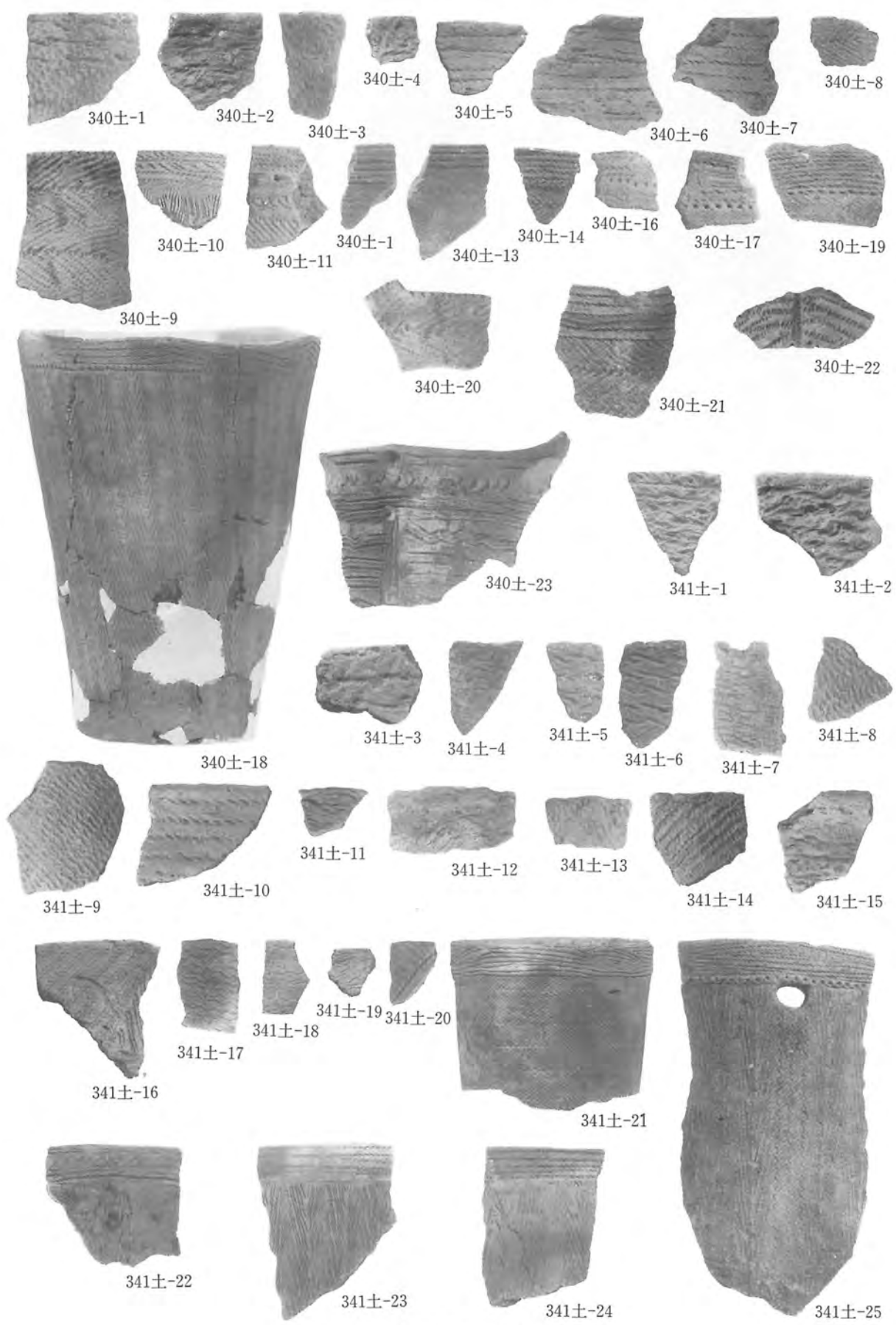
图版47 土坑内出土土器 3



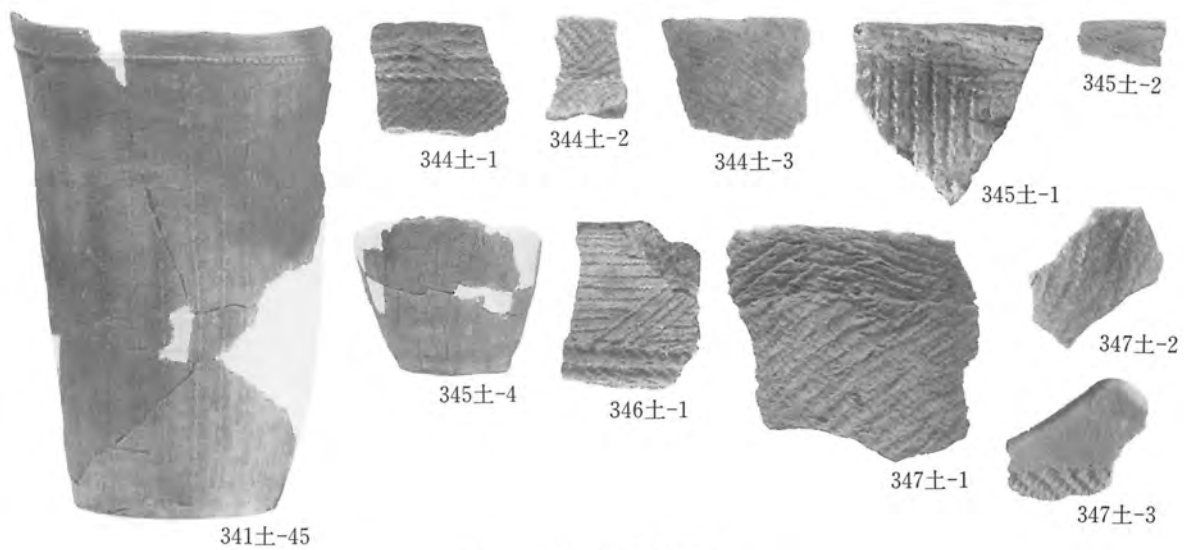
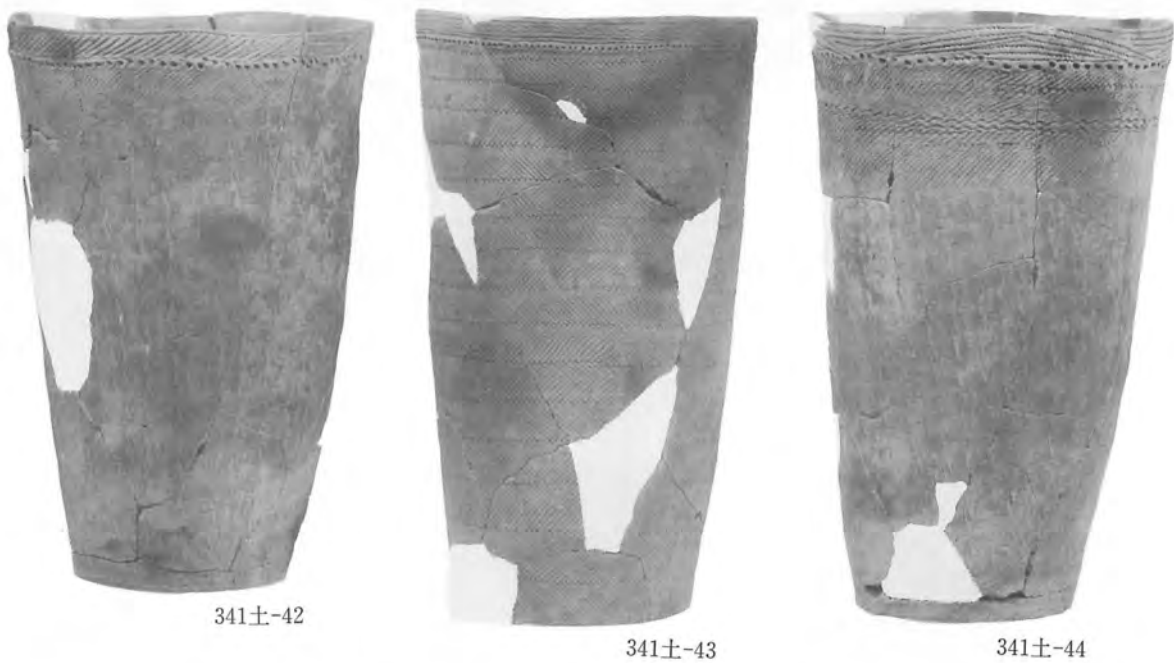
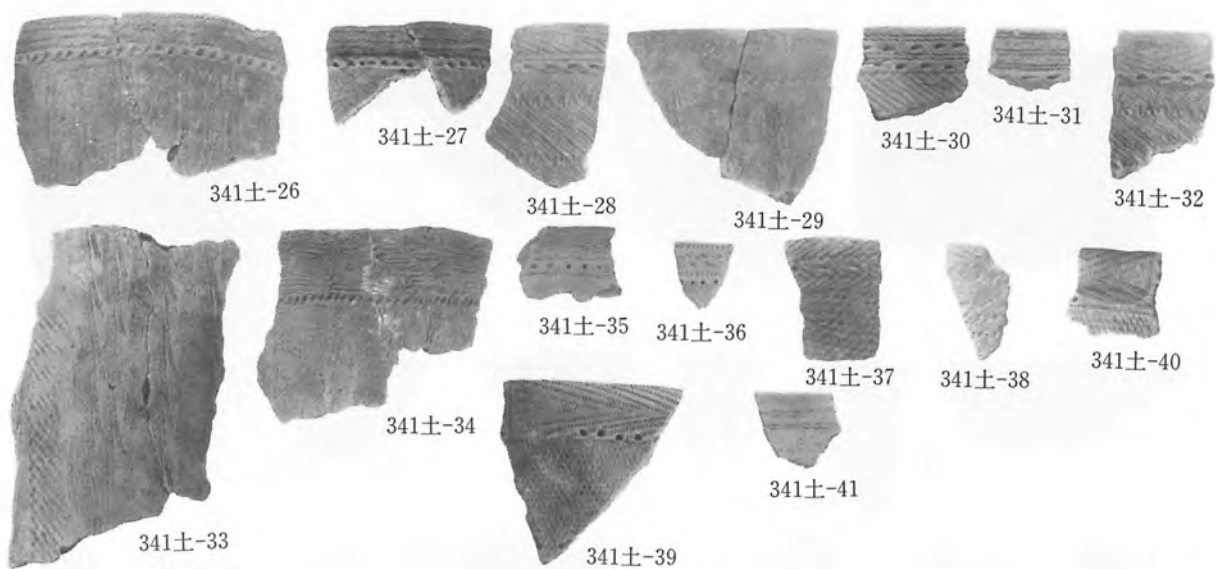
图版48 土坑内出土土器 4



图版49 土坑内出土土器 5

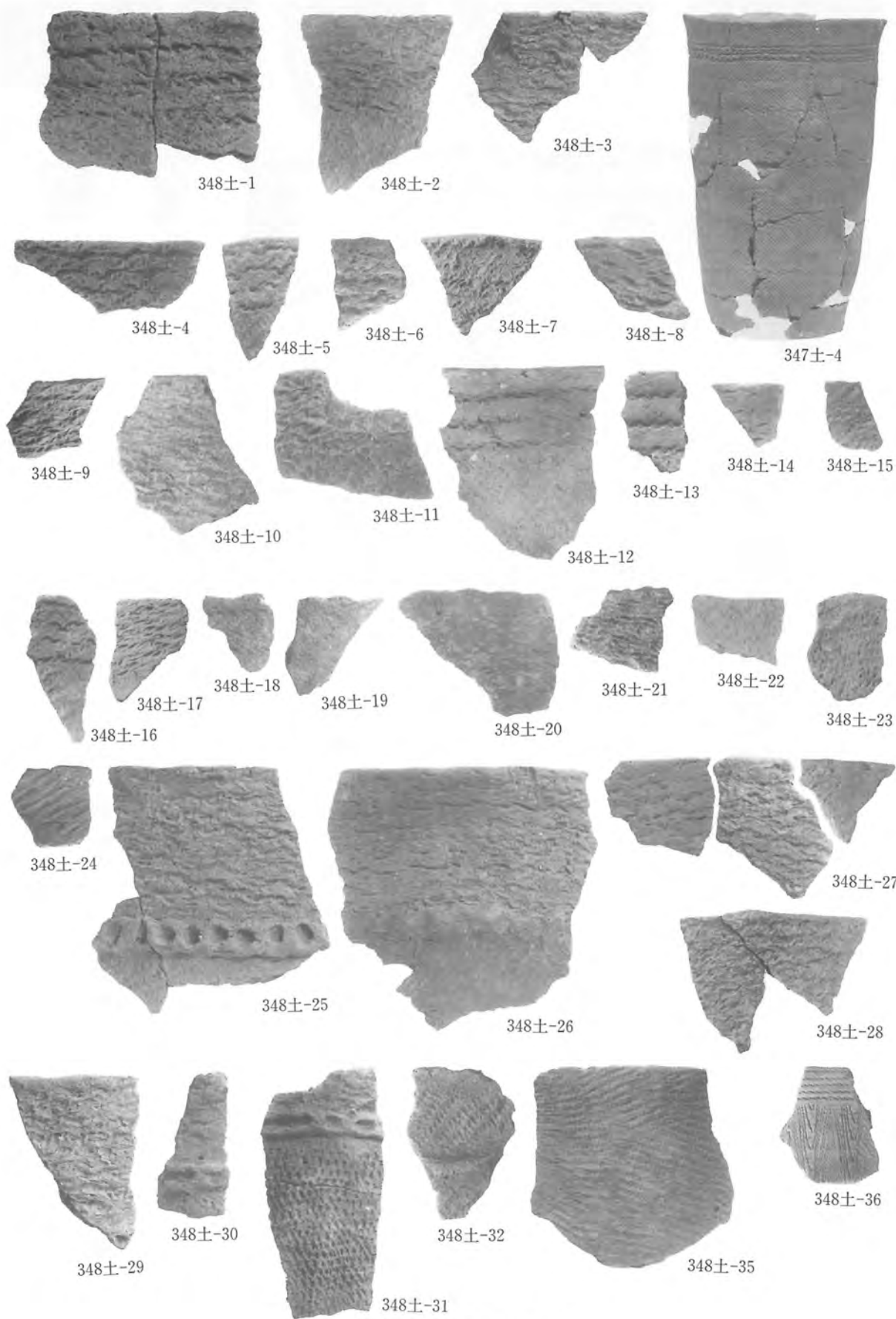


图版50 土坑内出土土器 6



图版51 土坑内出土土器 7





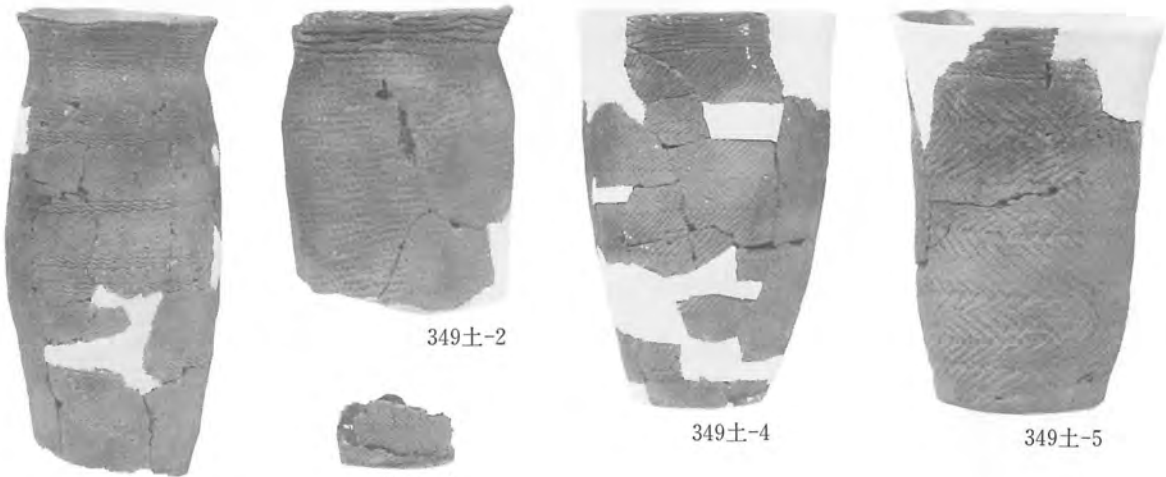
图版52 土坑内出土土器 8



348±-33

348±-34

348±-37



349±-1

349±-2

349±-4

349±-5



349±-3



349±-6



349±-9



361±-1



361±-2

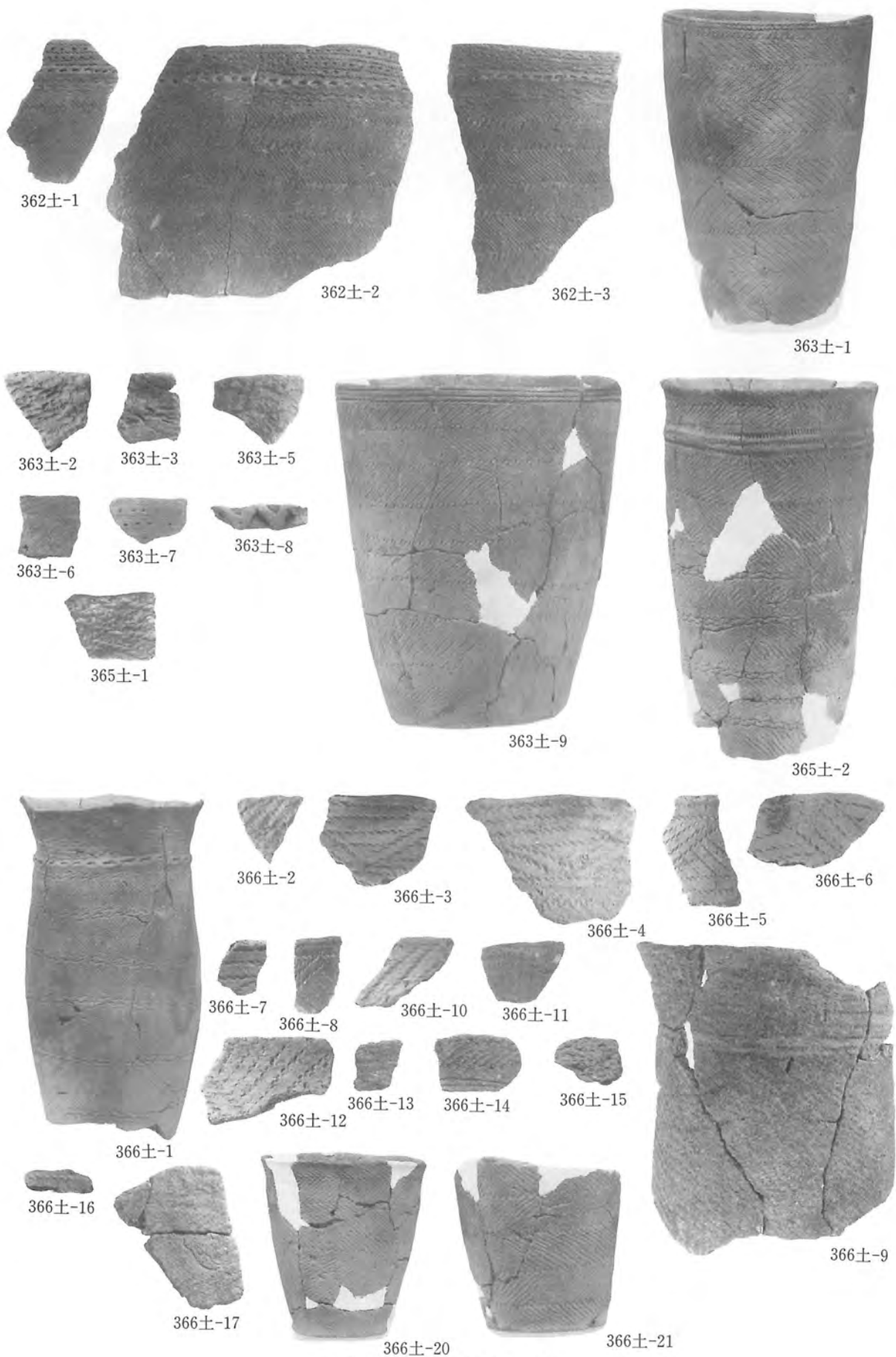


349±-7



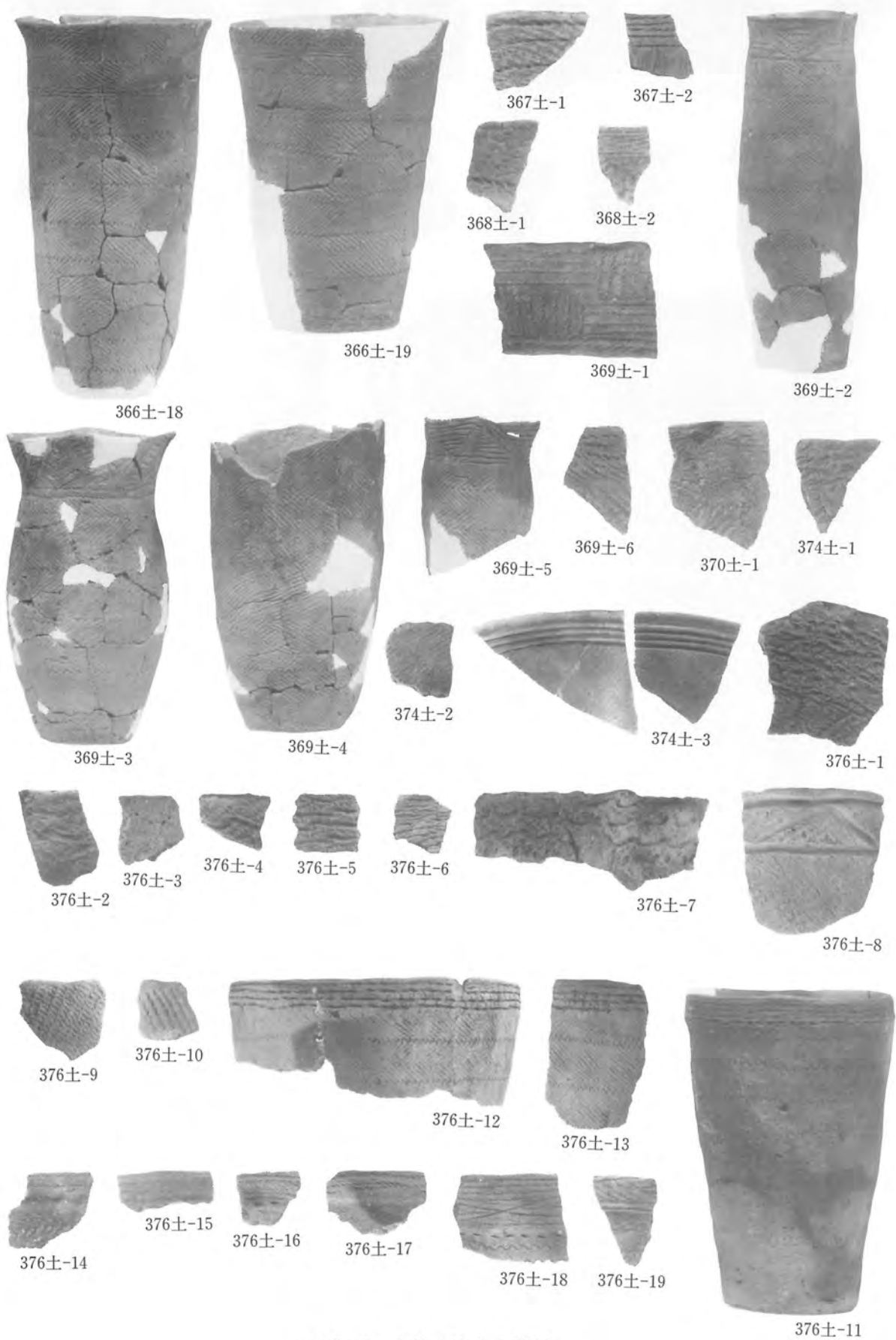
349±-8

图版53 土坑内出土土器9

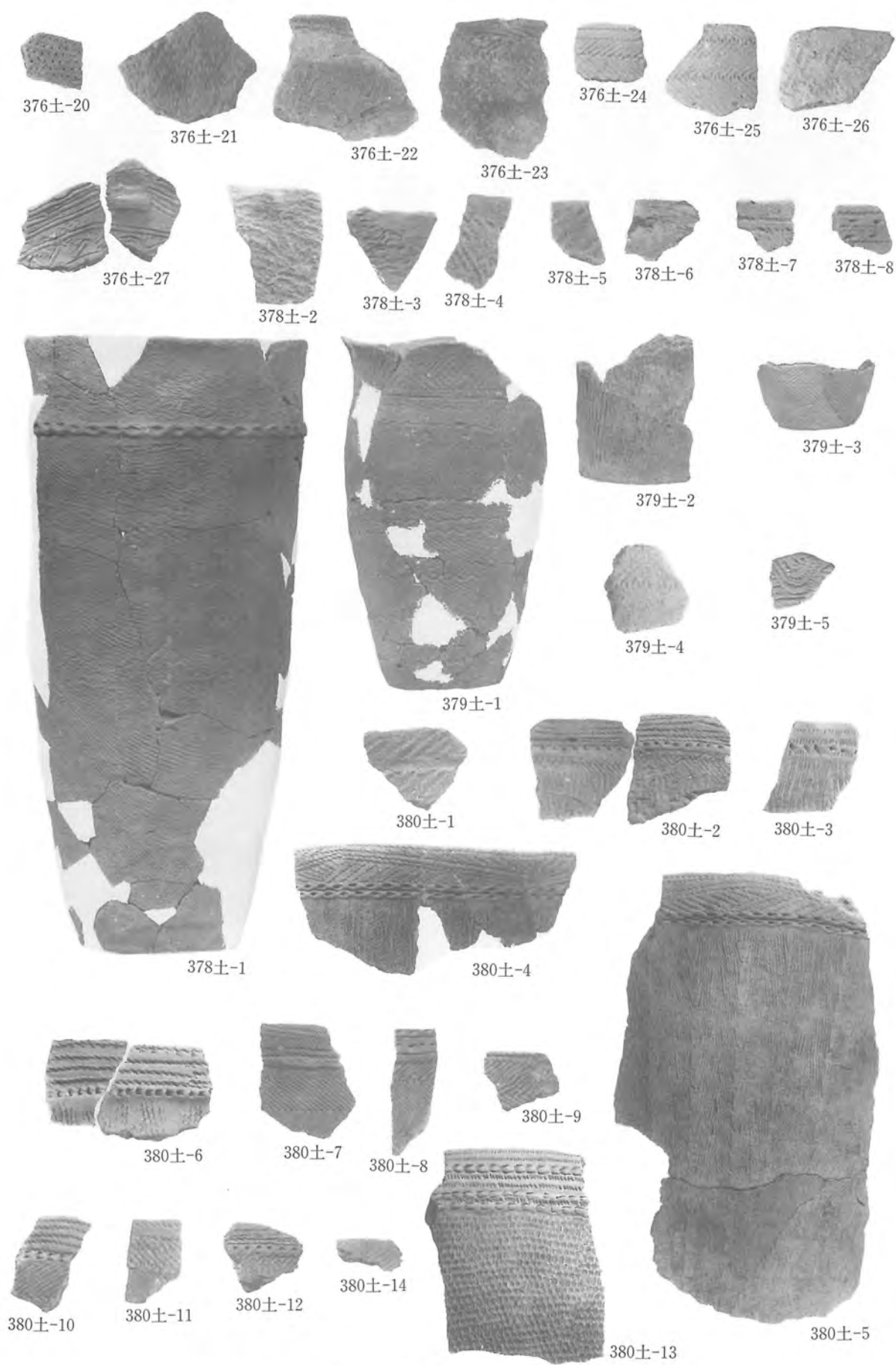


图版54 土坑内出土土器10

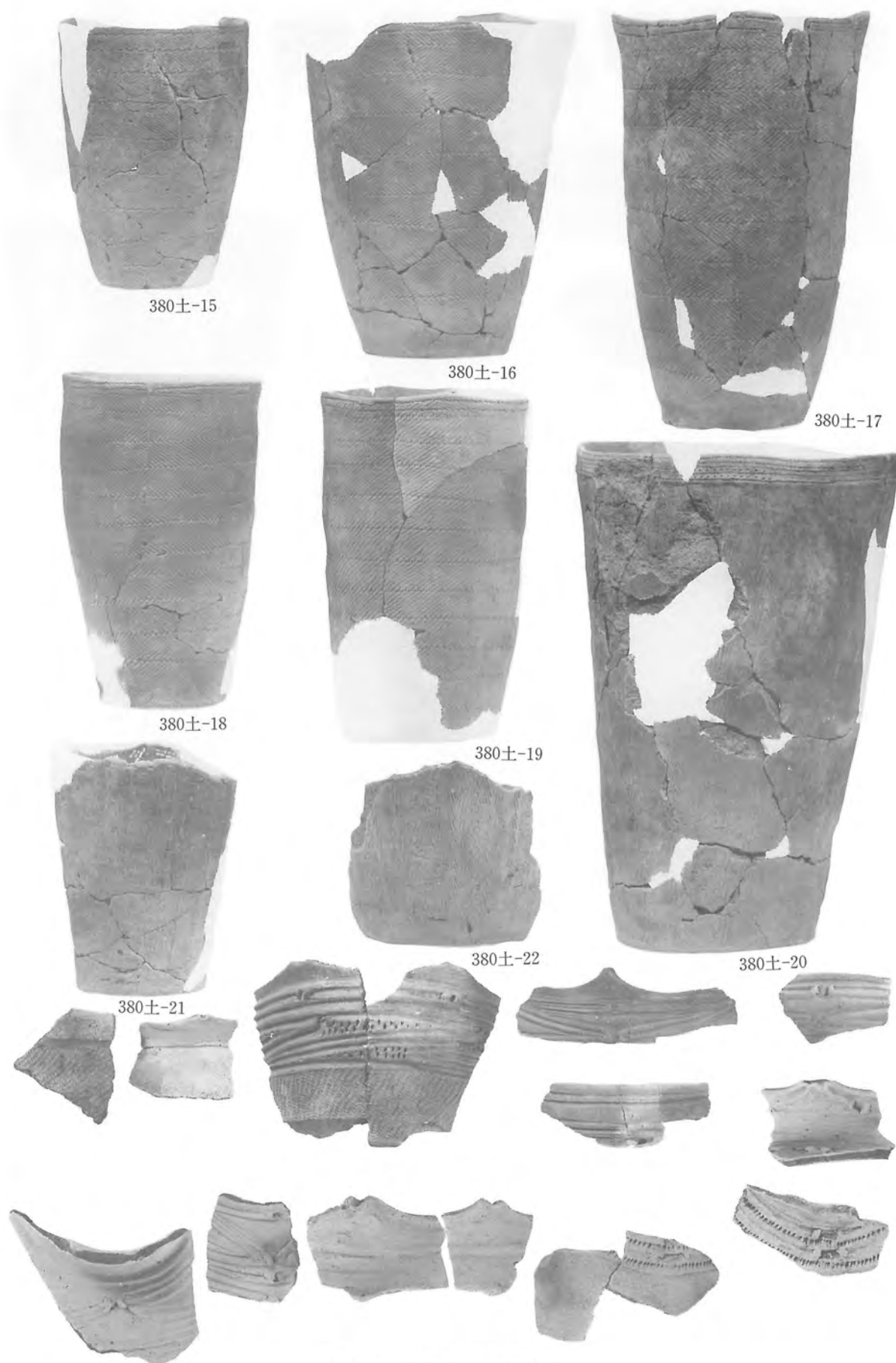




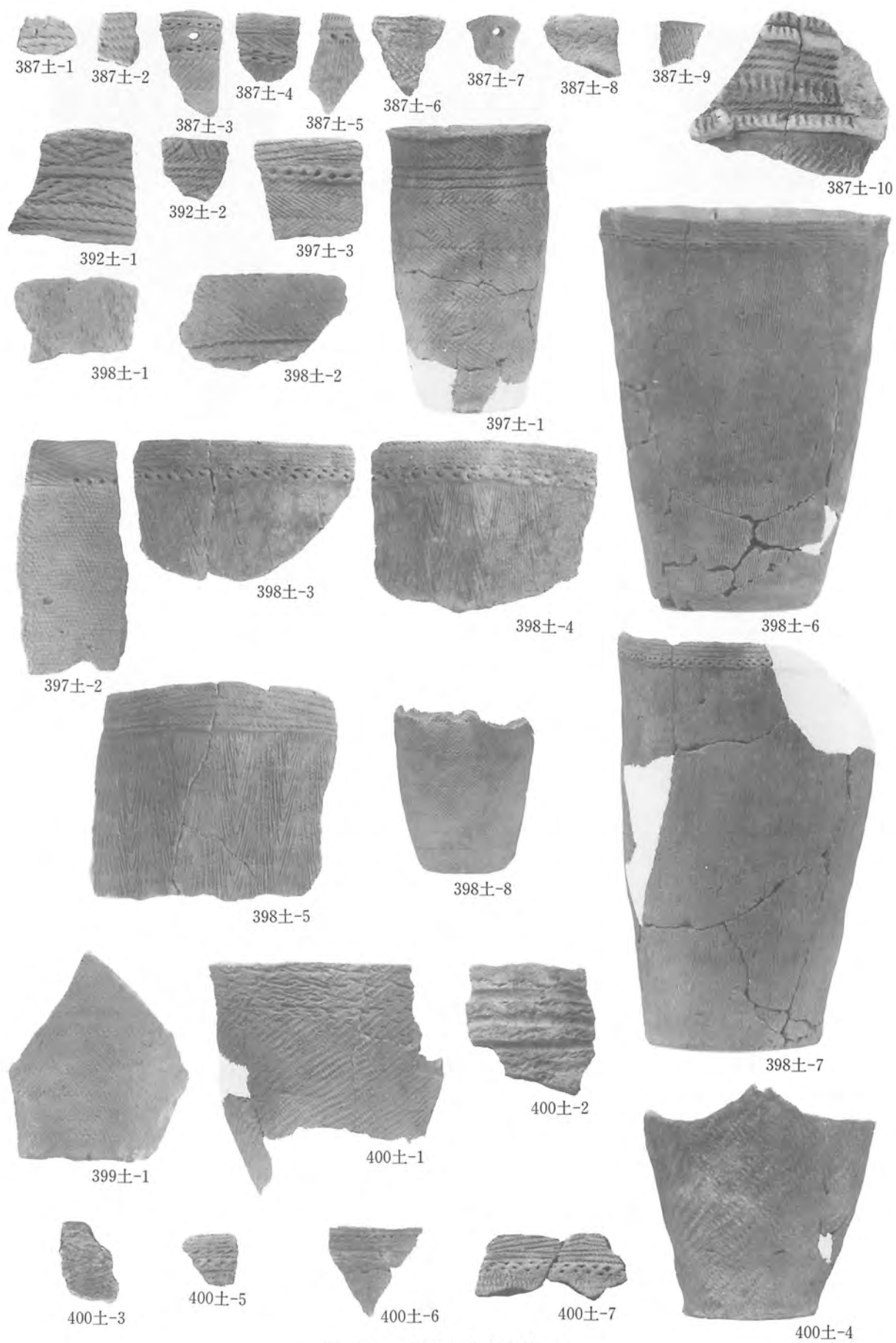
图版55 土坑内出土土器11



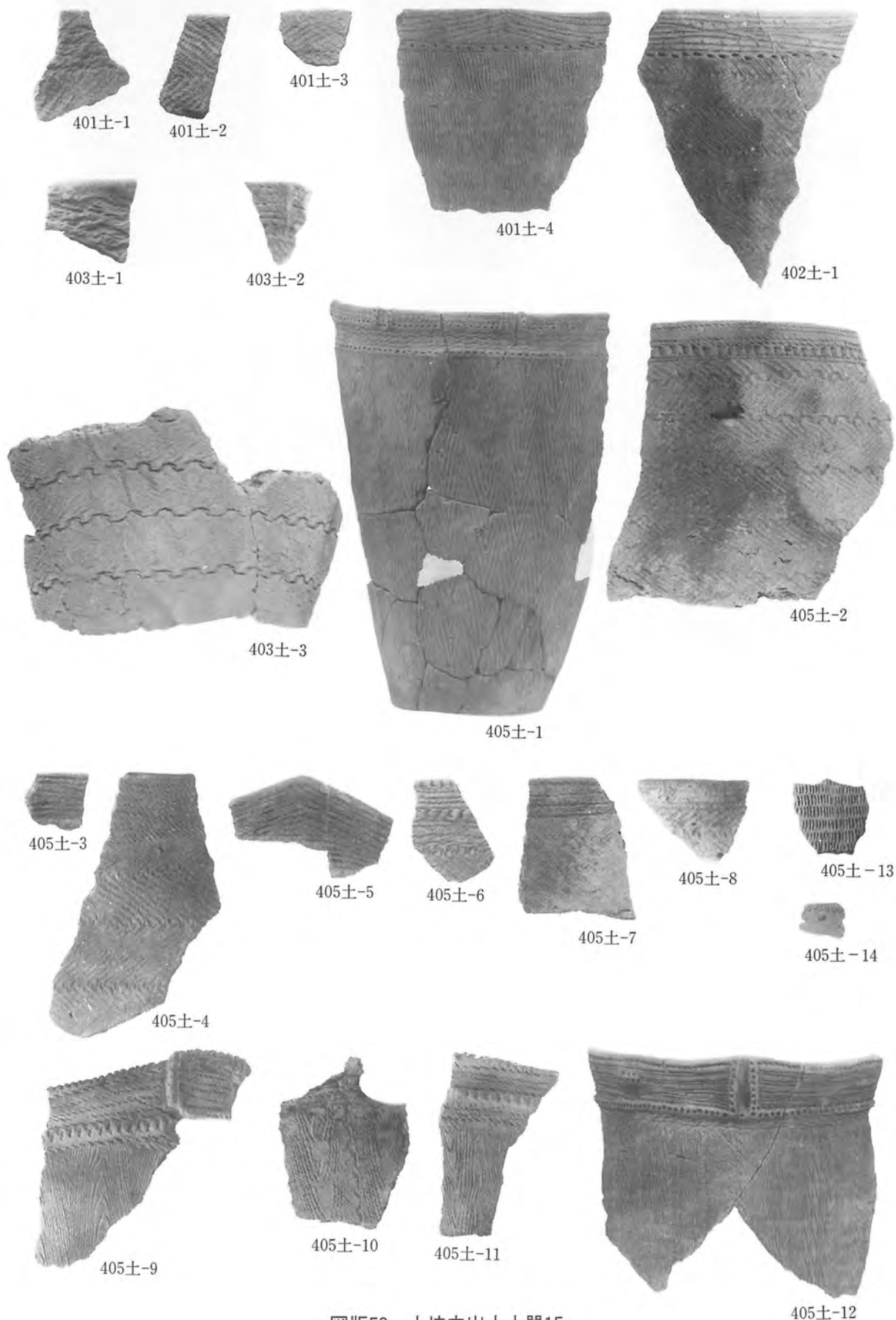
图版56 土坑内出土土器12



图版57 土坑内出土土器13



图版58 土坑内出土土器14



图版59 土坑内出土土器15



第30号埋設土器



第32号埋設土器



第35号埋設土器



第34号埋設土器



第33号埋設土器



第31号埋設土器



第36号埋設土器

図版60 埋設土器 1





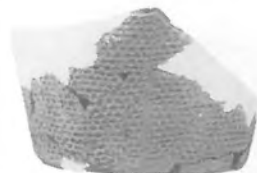
第37号埋設土器



第39号埋設土器



第41号埋設土器



第43号埋設土器



第44号埋設土器



第45号埋設土器



第48号埋設土器



第50号埋設土器



第51号埋設土器



第52号埋設土器



第53号埋設土器

図版61 埋設土器 2



第54号埋設土器



第55号埋設土器



第56号埋設土器



第57号埋設土器



第61号埋設土器



第59号埋設土器



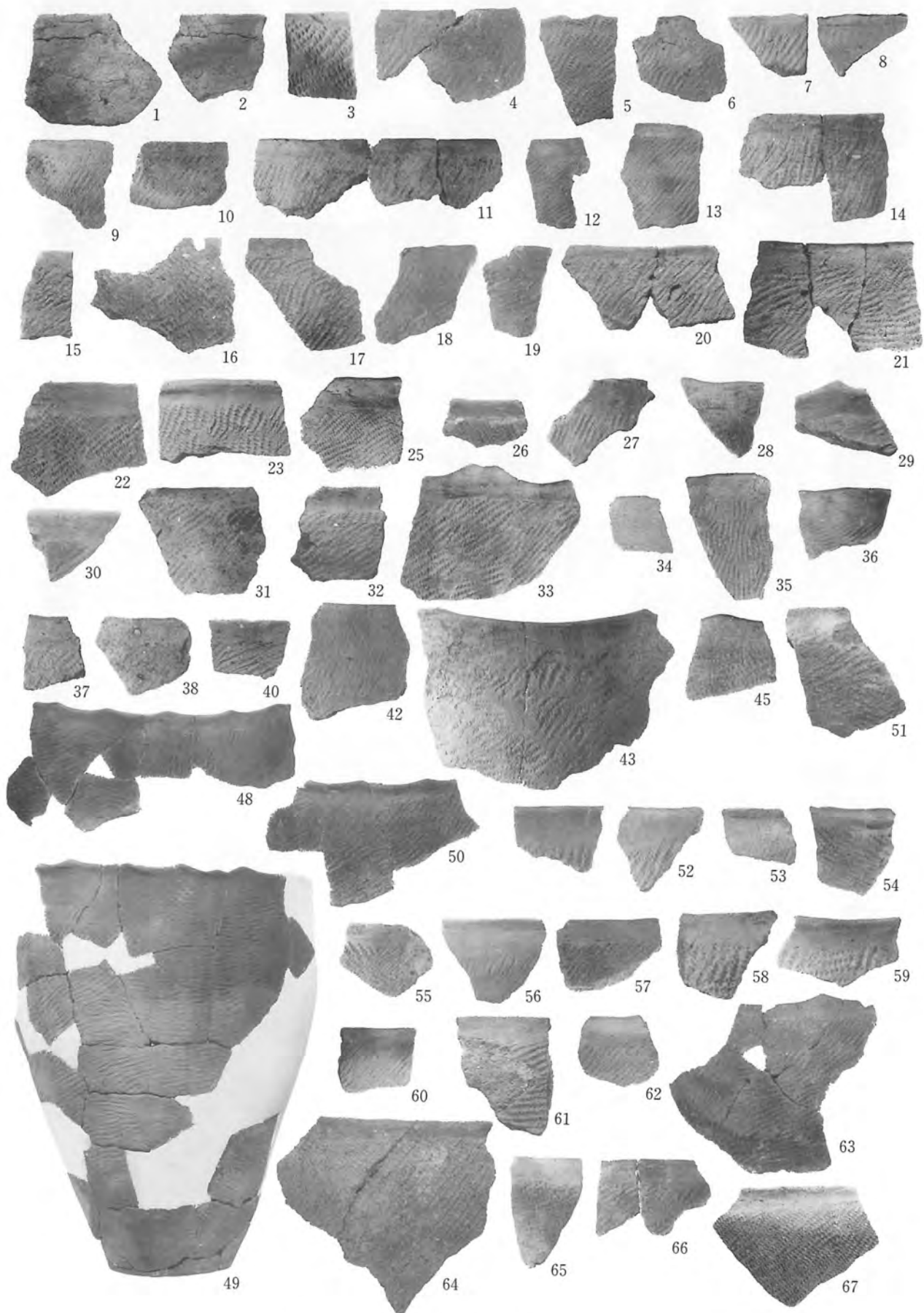
第62号埋設土器



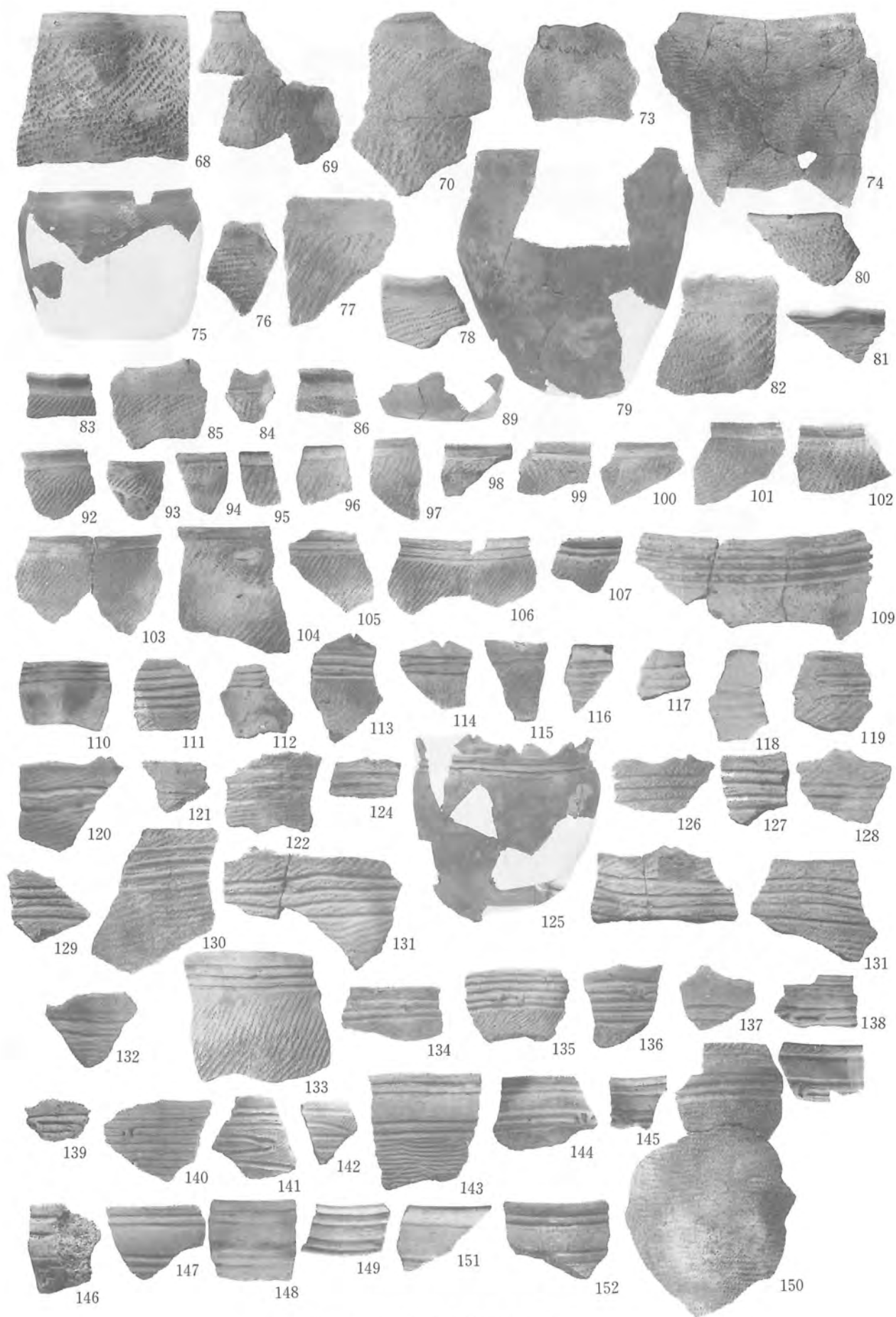
第60号埋設土器

図版62 埋設土器 3

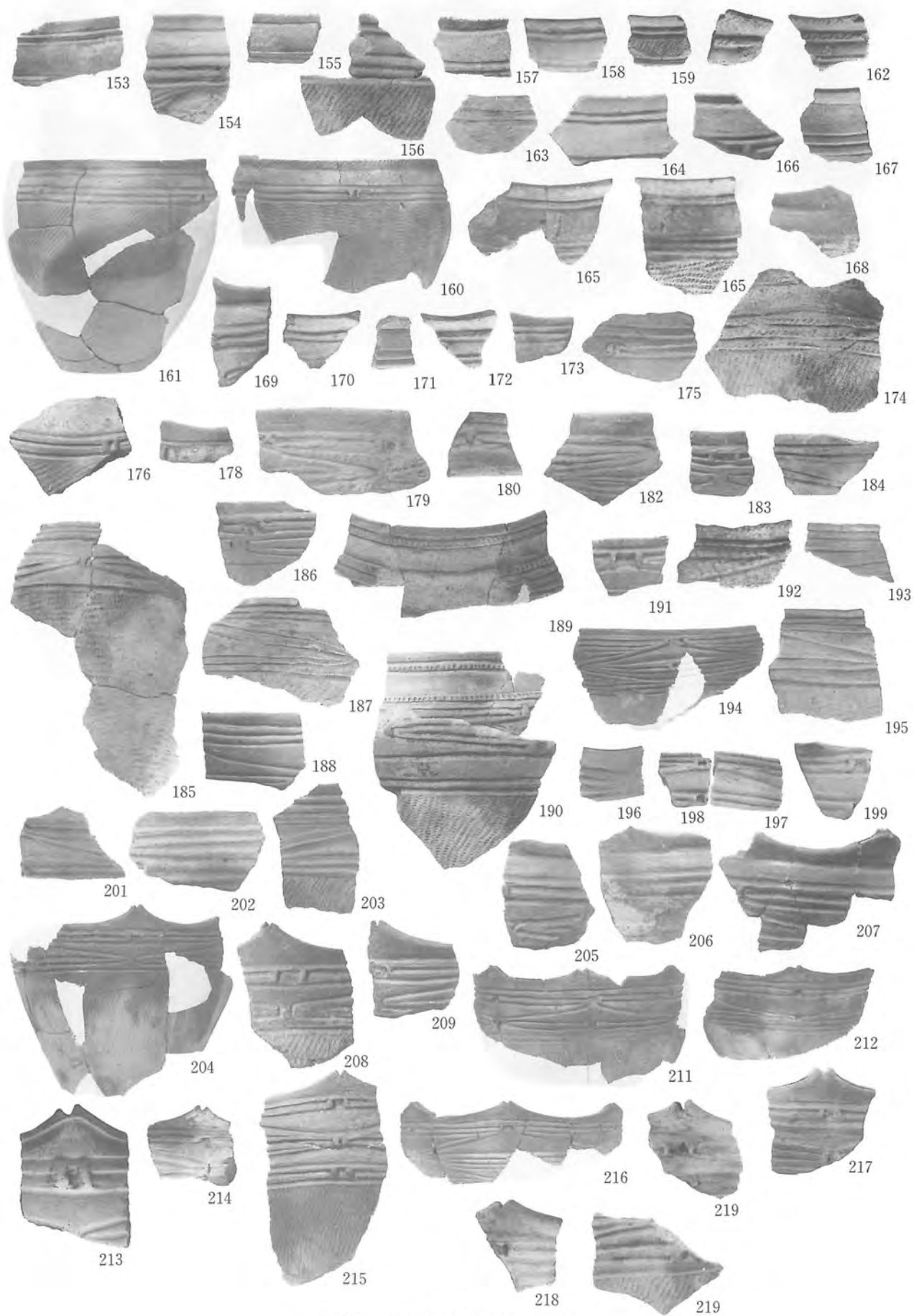




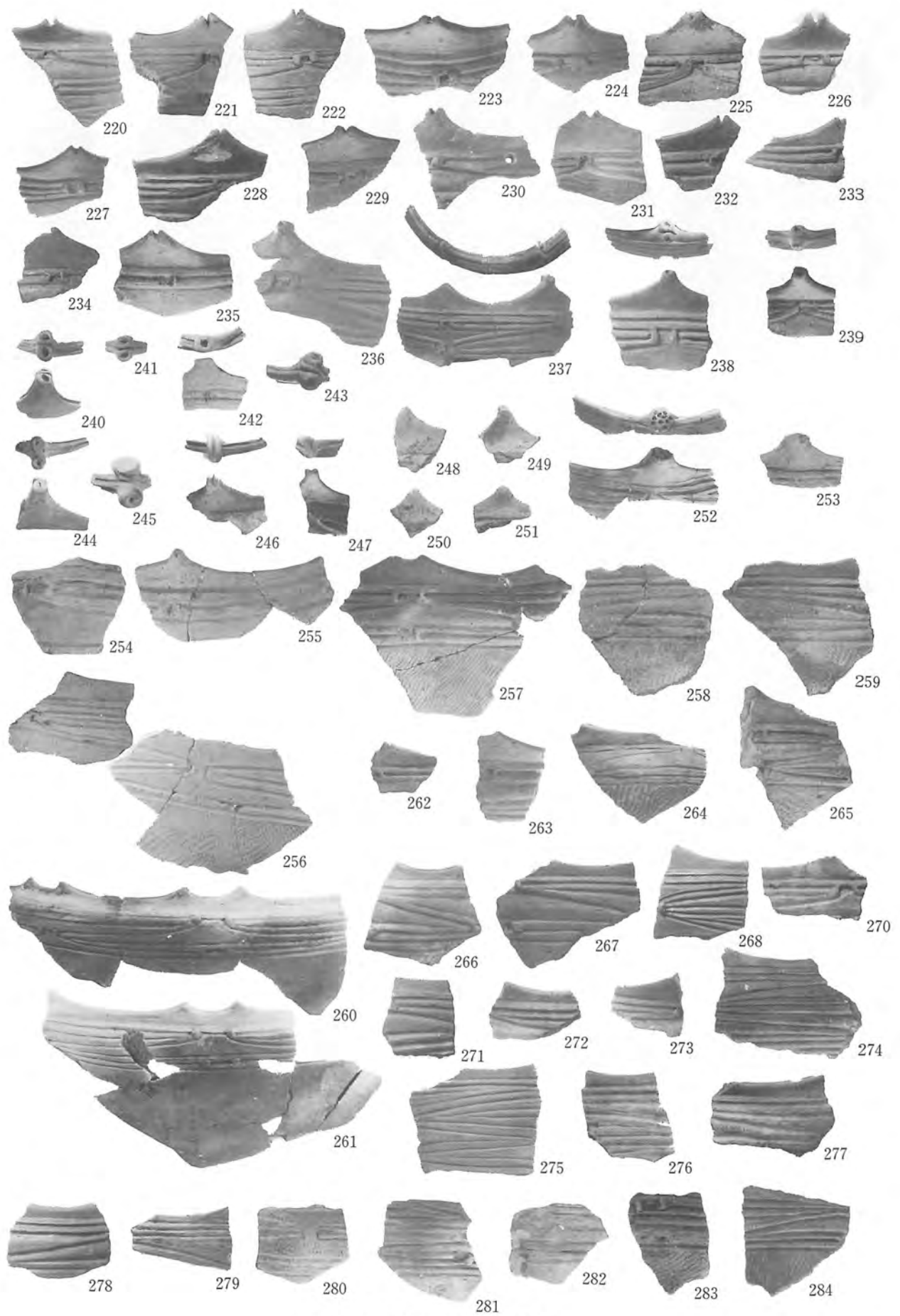
图版63 遺構外出土弥生土器①



图版64 遺構外出土弥生土器②



图版65 遺構外出土弥生土器③

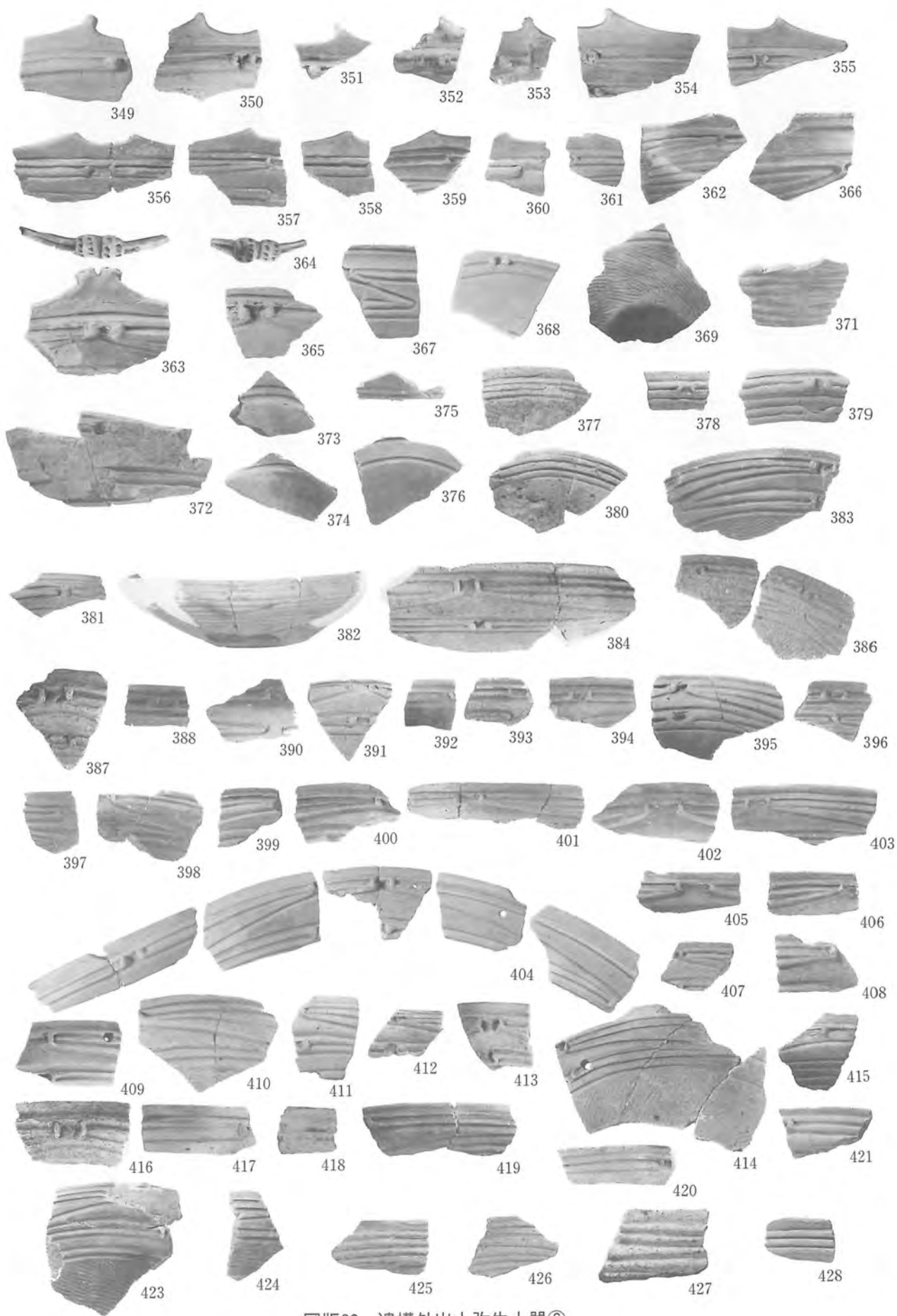


图版66 遺構外出土弥生土器④

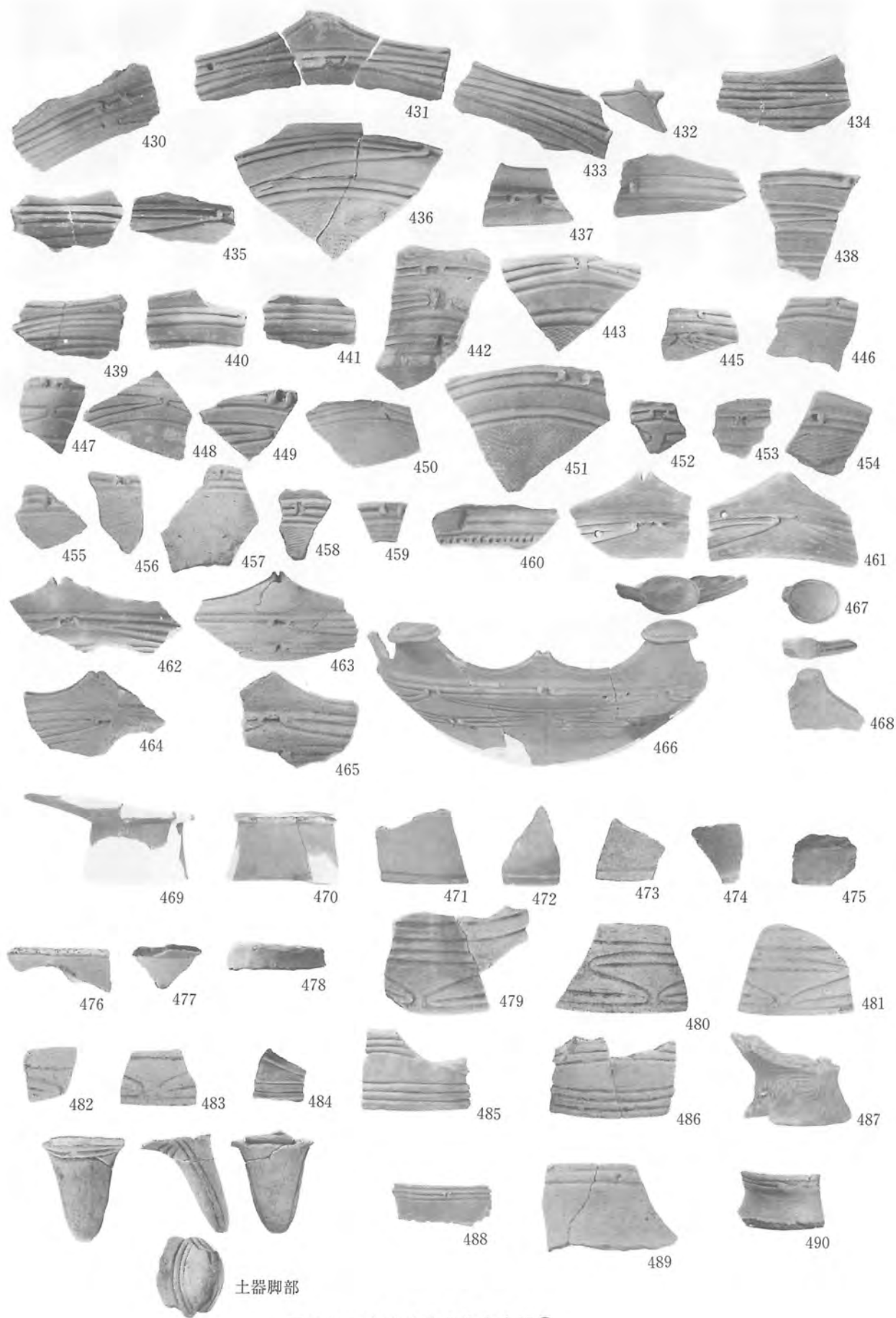


图版67 遺構外出土弥生土器⑤





图版68 遺構外出土弥生土器⑥



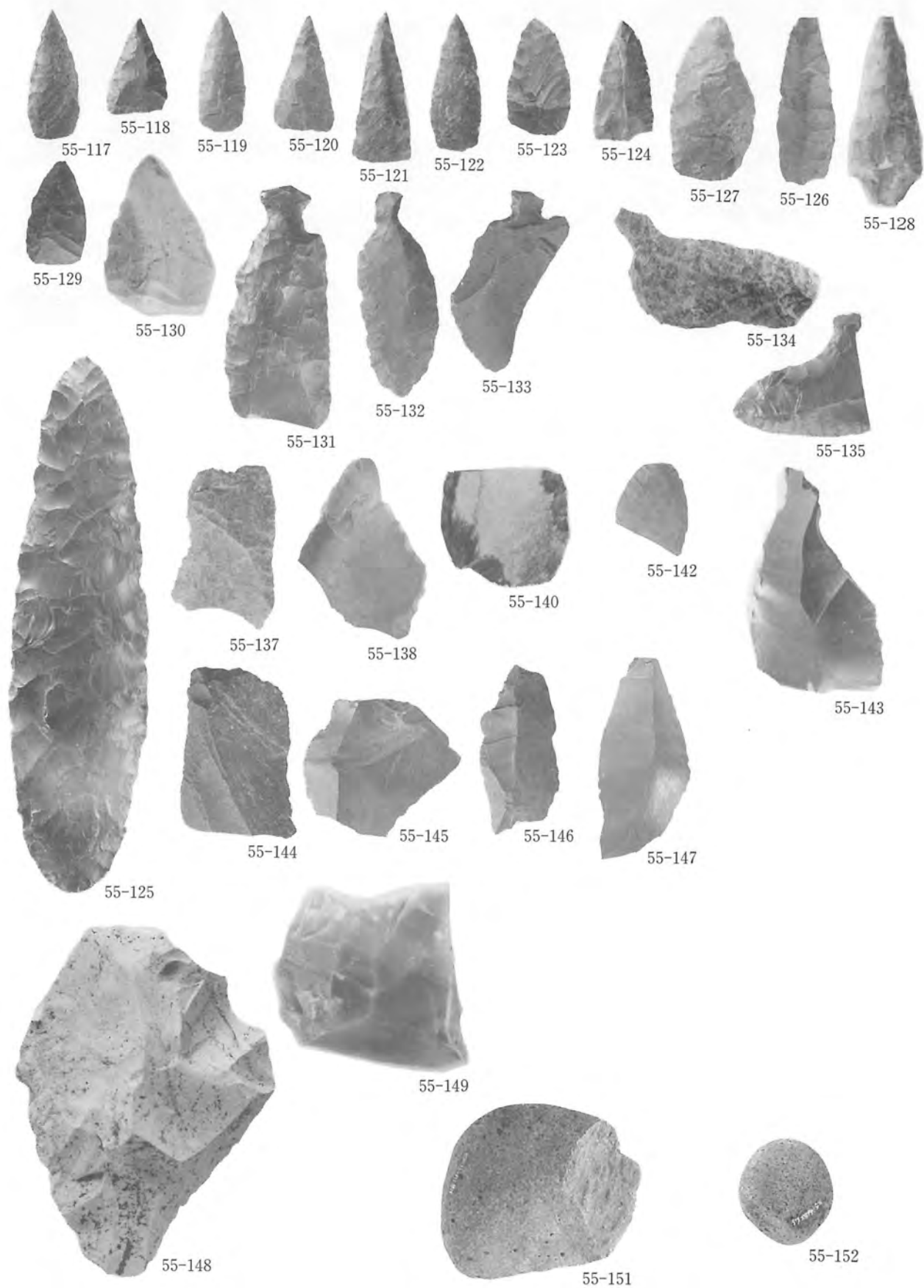
図版69 遺構外出土弥生土器⑦



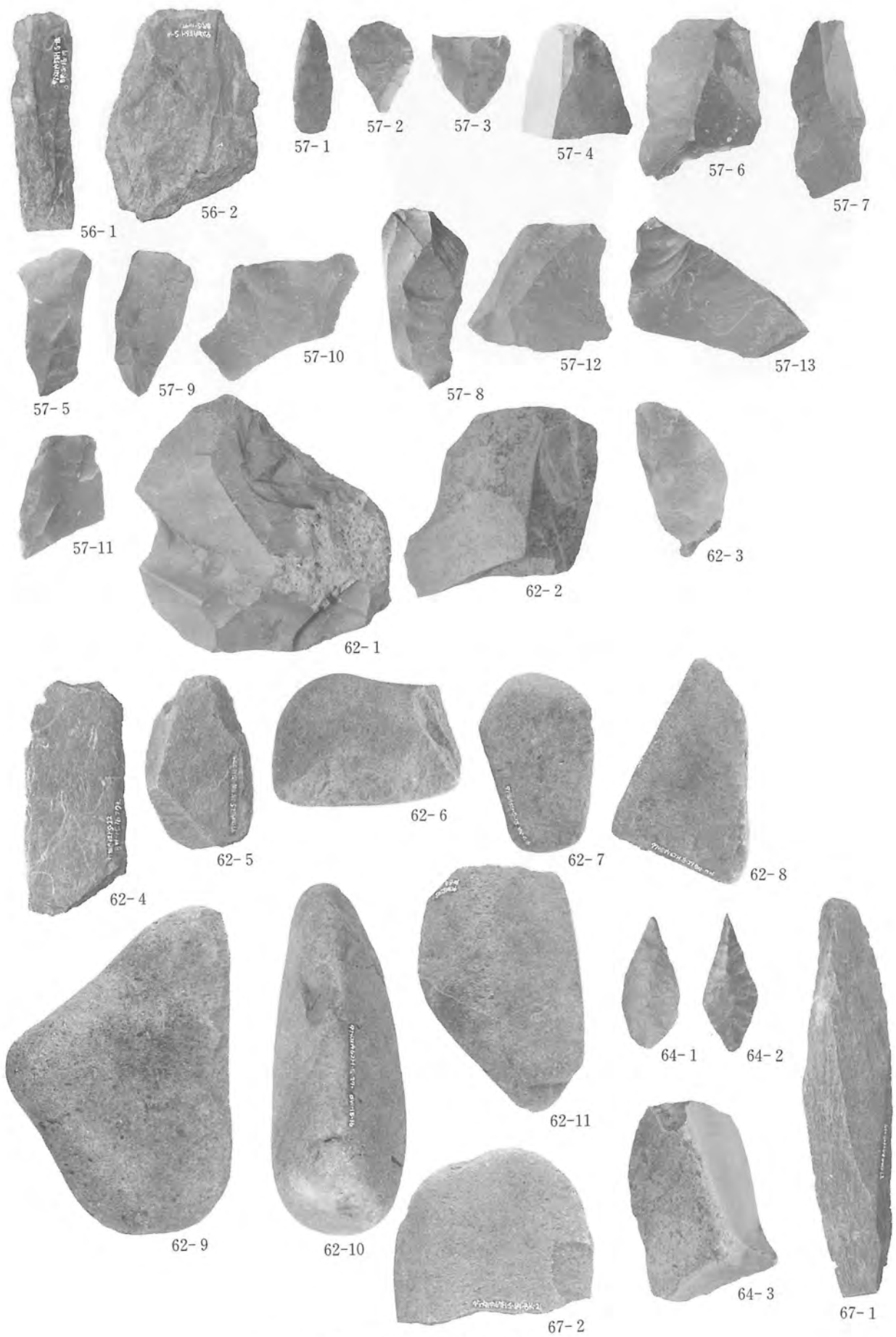
图版70 遺構外出土弥生土器⑧



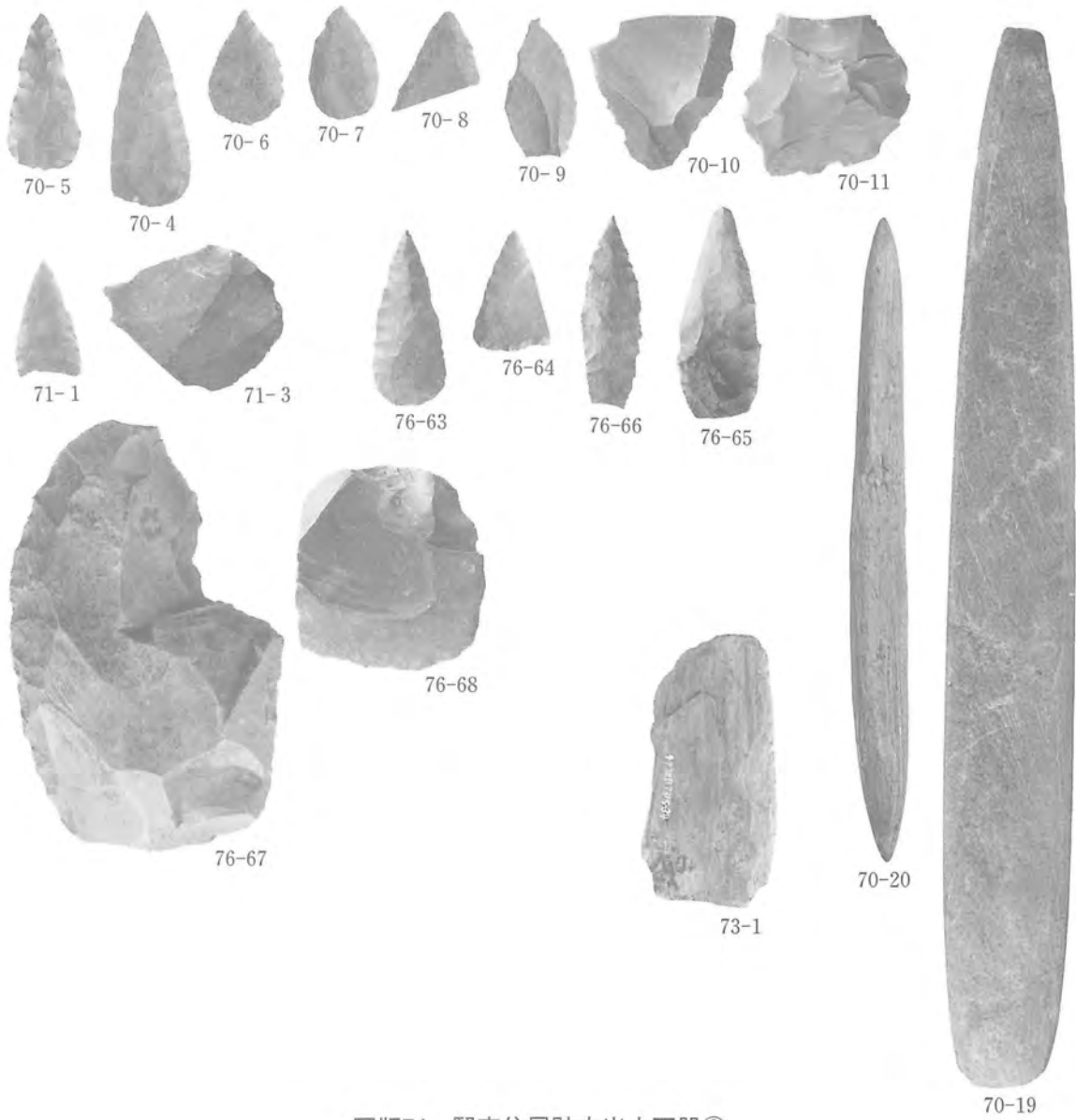




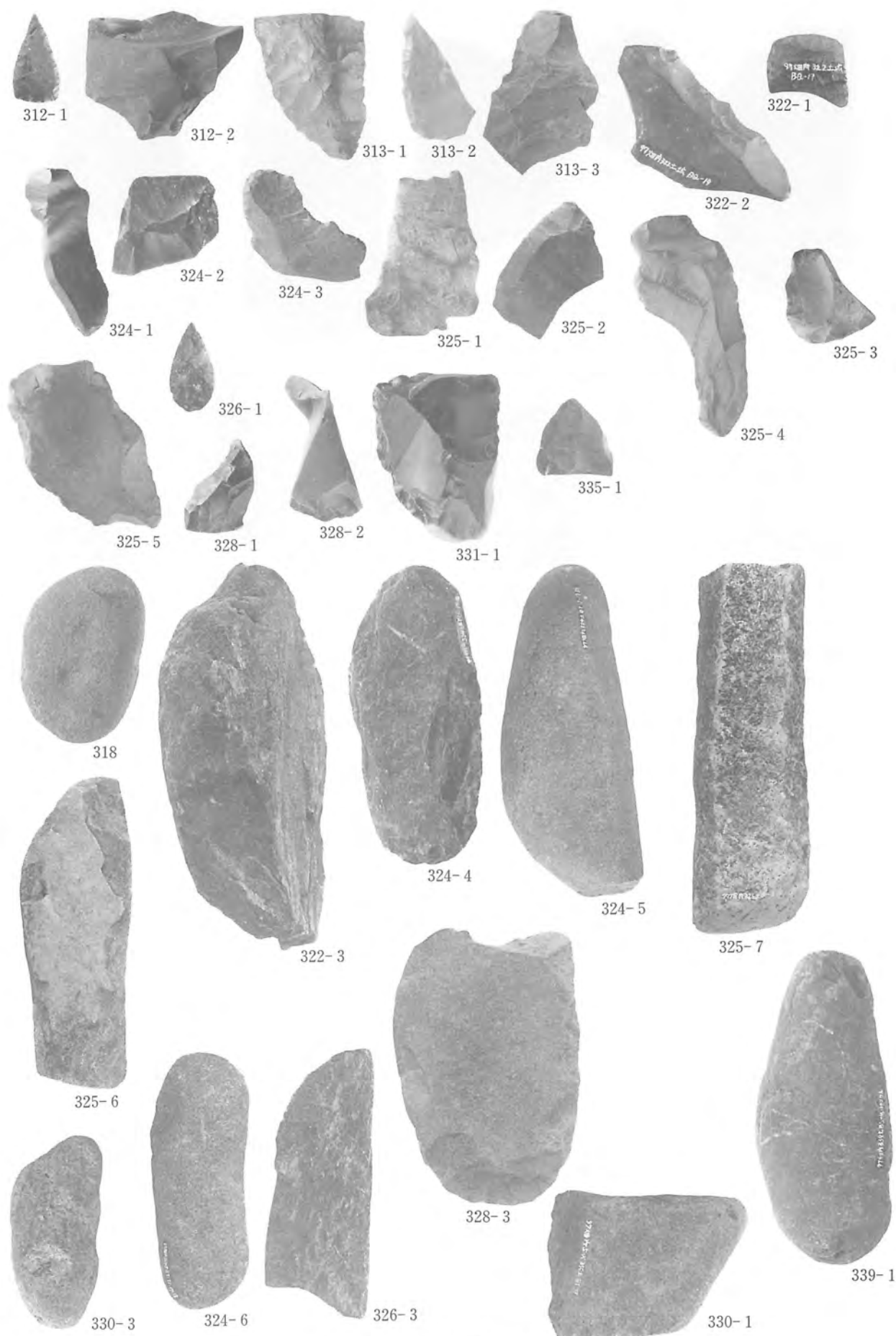
图版72 豎穴住居跡内出土石器①



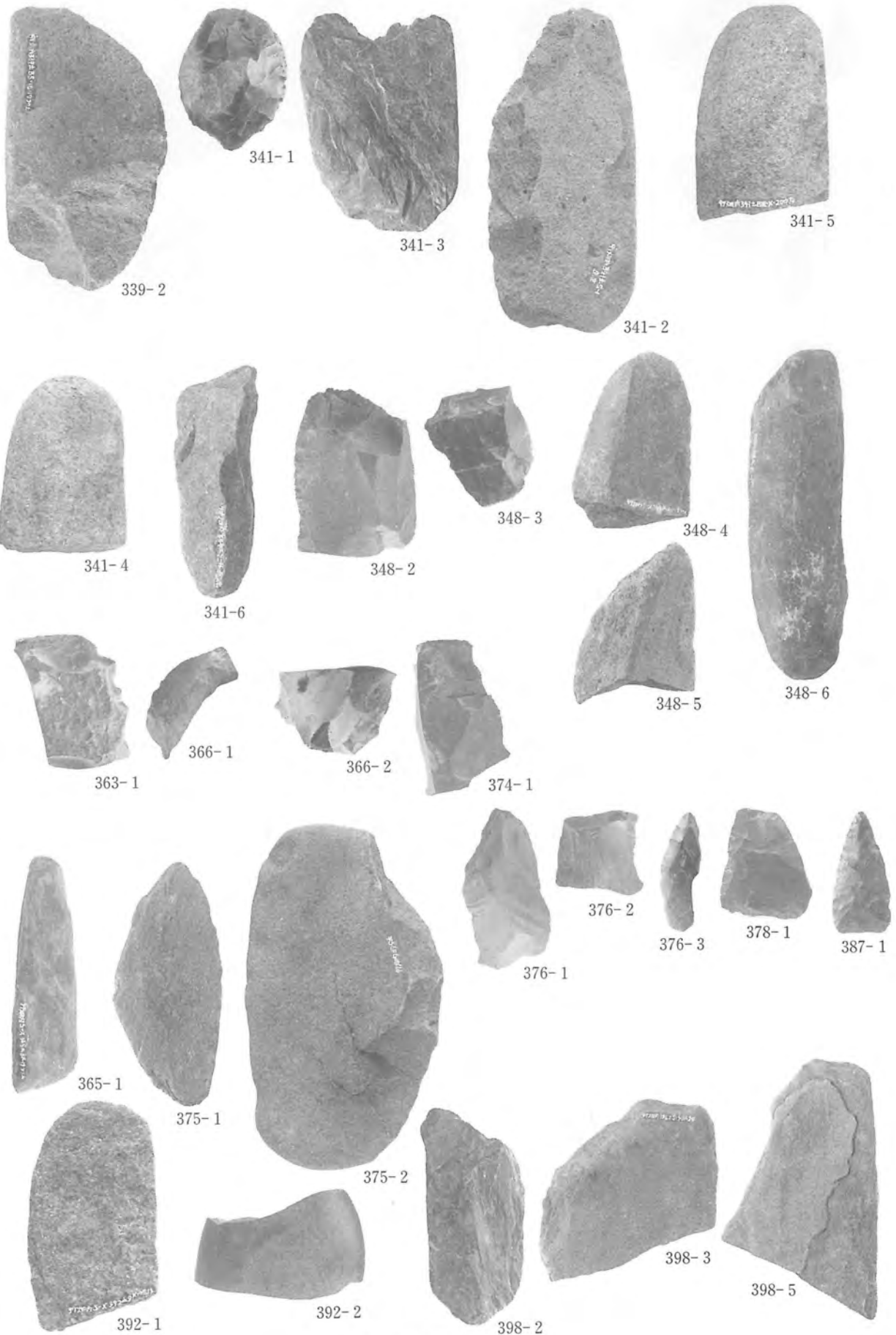
图版73 豎穴住居跡内出土石器②



图版74 豎穴住居跡内出土石器③

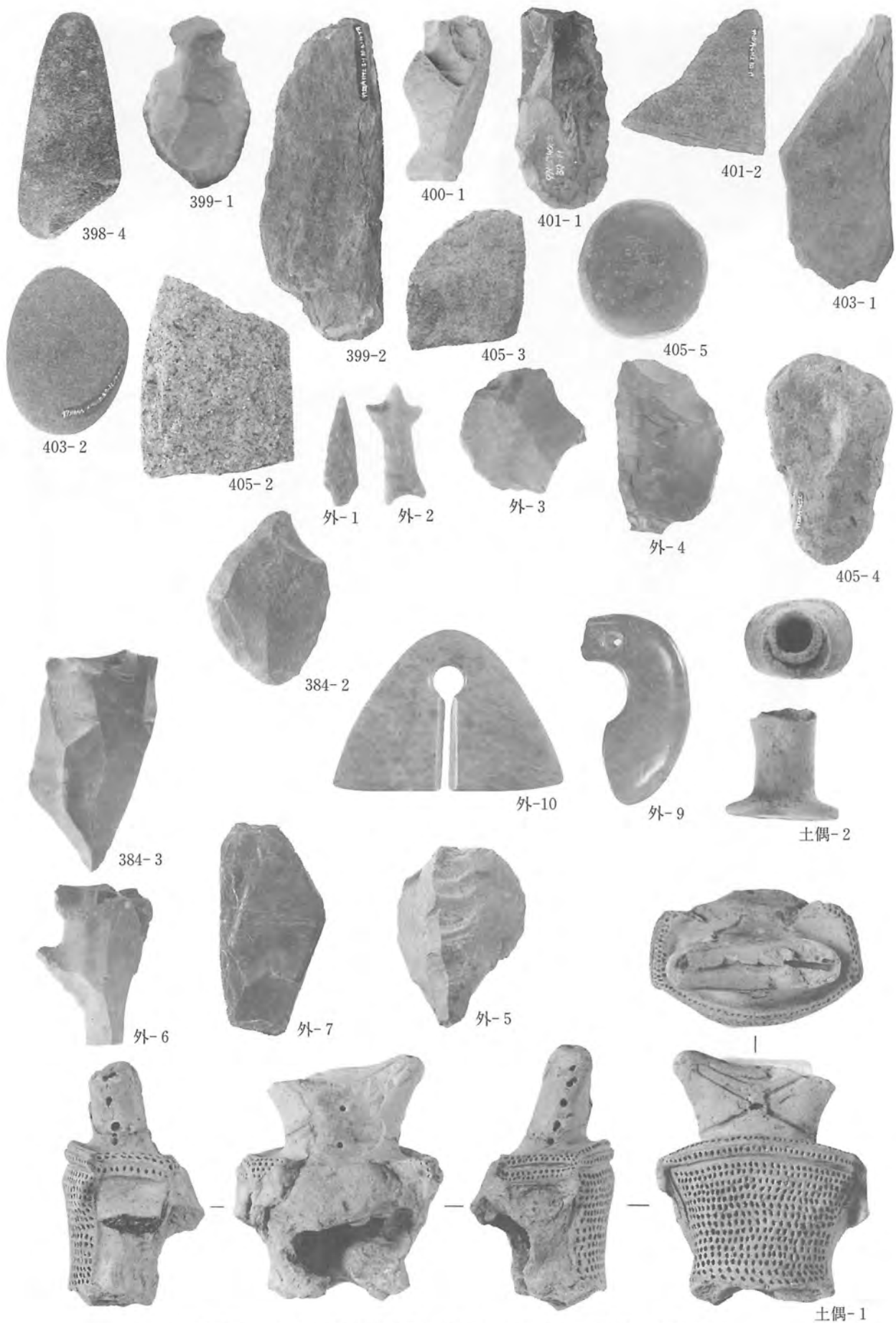


图版75 土坑内出土石器①



图版76 土坑内出土石器②

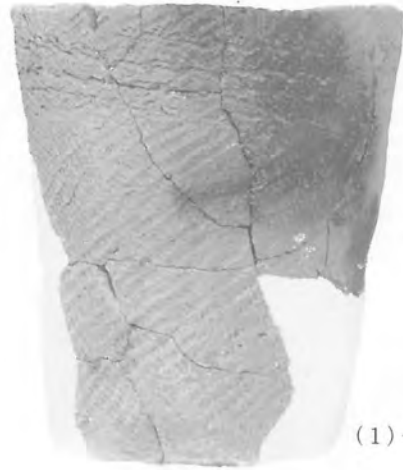




図版77 土坑内出土石器③・遺構外出土遺物（石器・土製品）



(1)-1



(1)-2



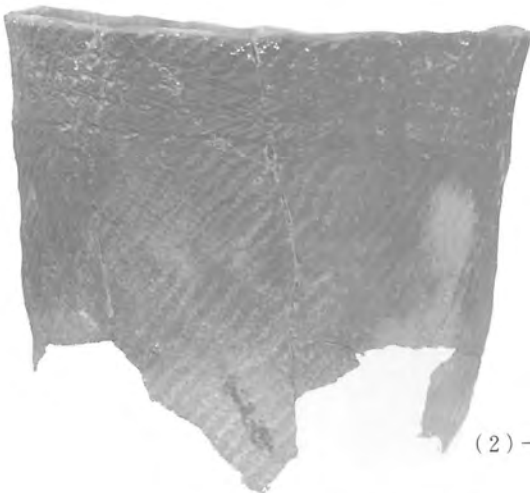
(1)-4



(1)-3



(2)-1



(2)-2

図版78 B捨場（西捨場）出土土器1





(2)-3



(3)-1



(3)-2



(3)-4



(3)-3

図版79 B捨場（西捨場）出土土器2



(4)-1



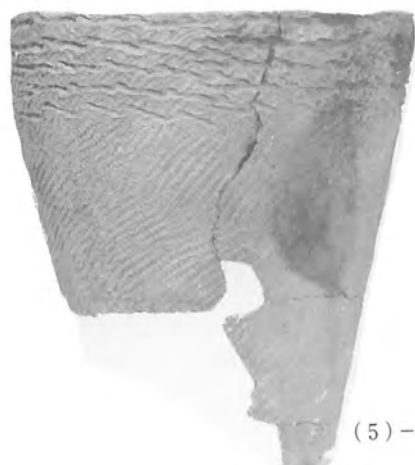
(4)-2



(4)-3



(4)-4



(5)-1

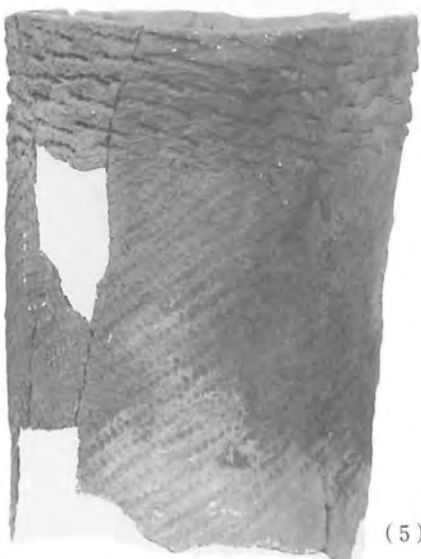
図版80 B捨場（西捨場）出土土器3



(5)-2



(5)-3



(5)-4



(6)-1



(6)-2

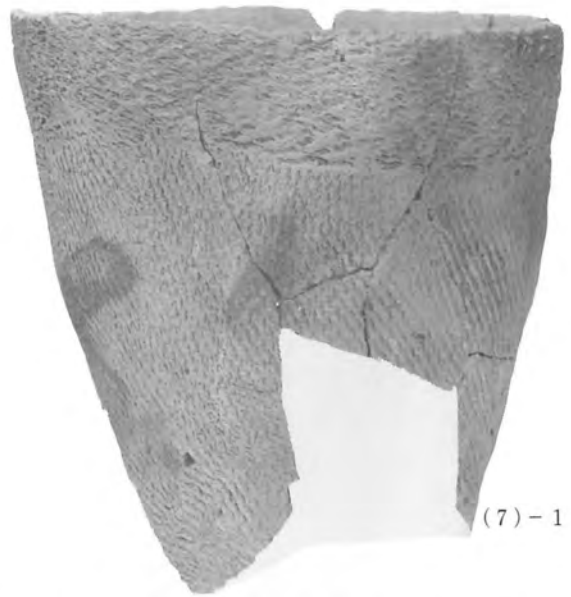


(6)-3

図版81 B捨場（西捨場）出土土器4



(6)-4



(7)-1



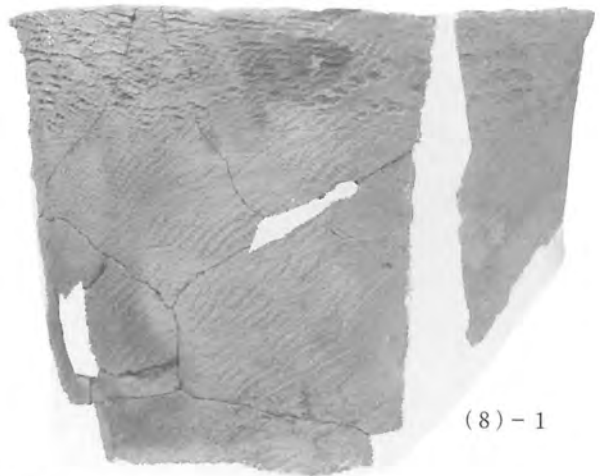
(7)-2



(7)-3



(7)-4

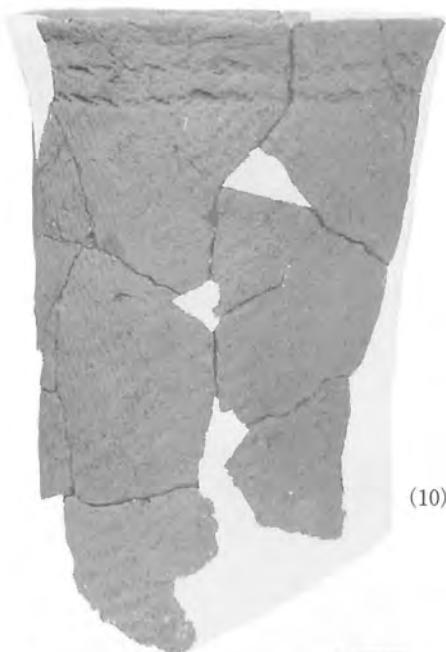


(8)-1

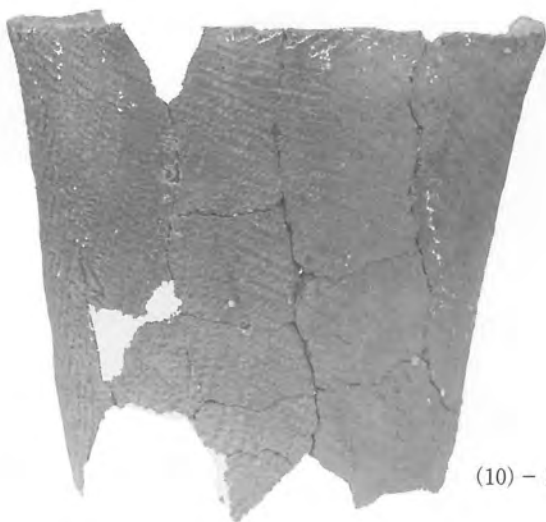
図版82 B捨場（西捨場）出土土器5



図版83 B捨場（西捨場）出土土器6



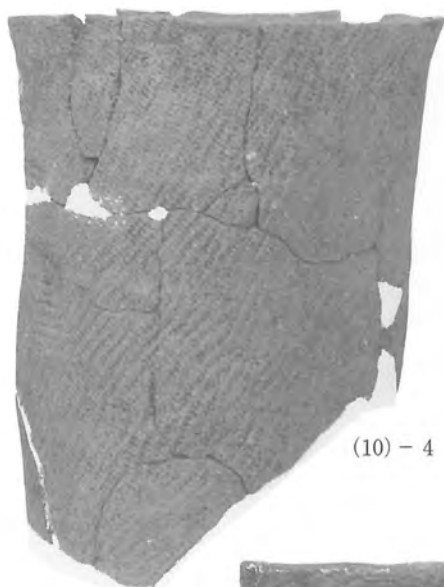
(10) - 1



(10) - 2



(10) - 3



(10) - 4

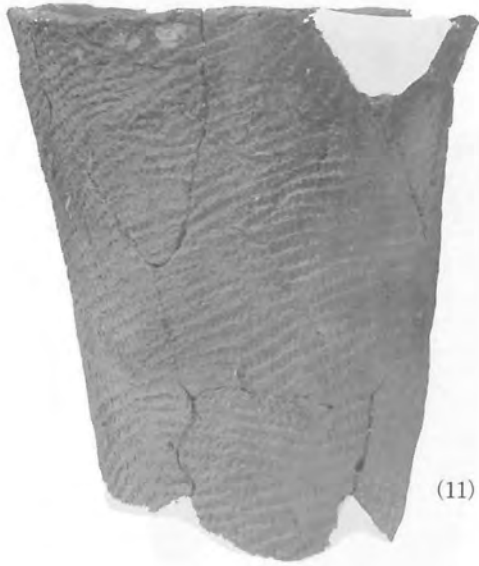


(11) - 2



(11) - 1

図版84 B捨場（西捨場）出土土器 7



(11) - 3



(11) - 4



(11) - 5



(12) - 1



(12) - 2



(12) - 3



(12) - 4

図版85 B捨場（西捨場）出土土器 8





(13) - 1



(13) - 2



(14) - 1



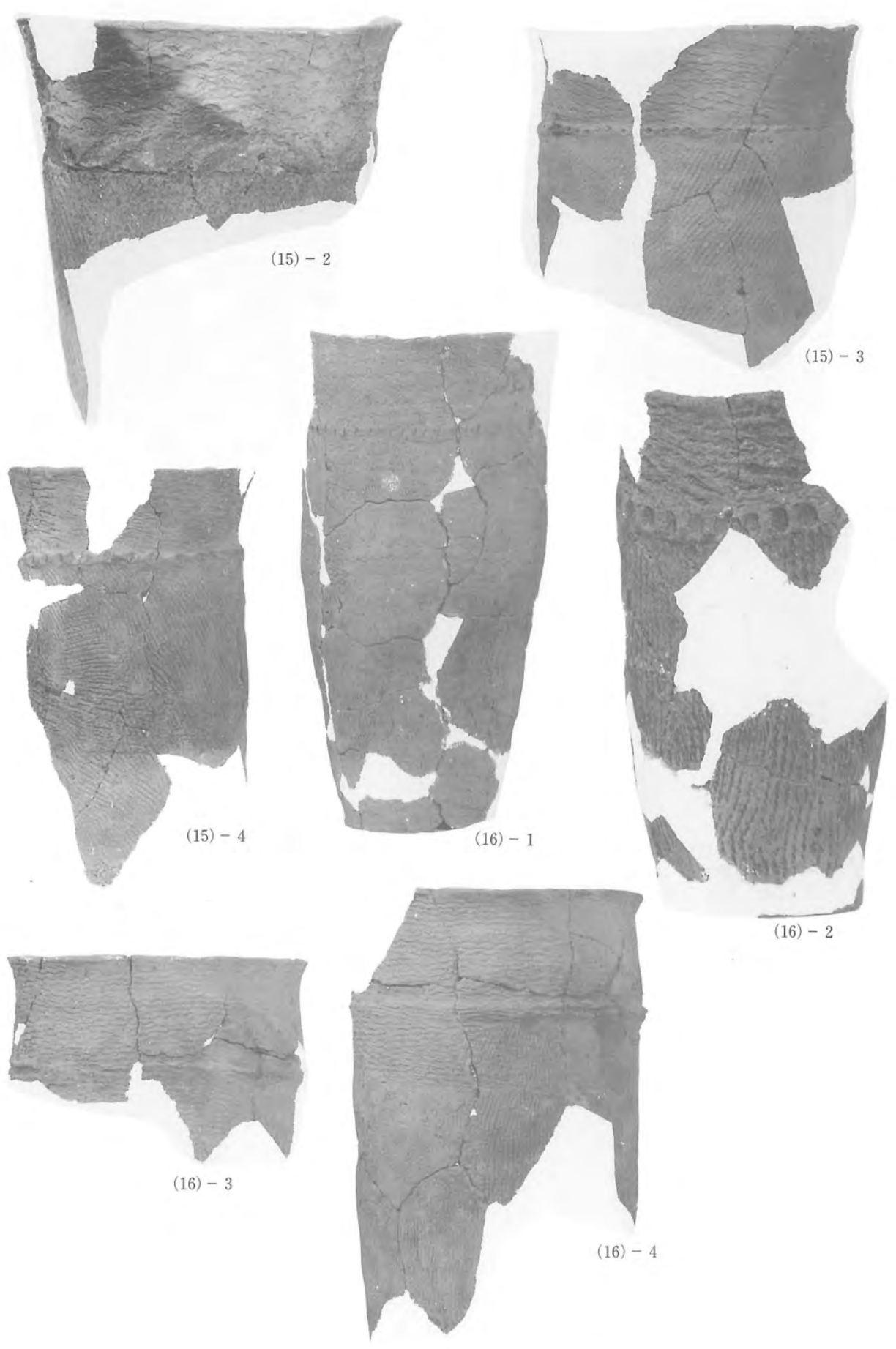
(14) - 2



(15) - 1

図版86 B捨場（西捨場）出土土器9





(15) - 2

(15) - 3

(15) - 4

(16) - 1

(16) - 2

(16) - 3

(16) - 4

図版87 B捨場（西捨場）出土土器10



(17) - 1



(17) - 2



(17) - 4



(17) - 3



(18) - 1

図版88 B捨場（西捨場）出土土器11



(18) - 2



(18) - 3



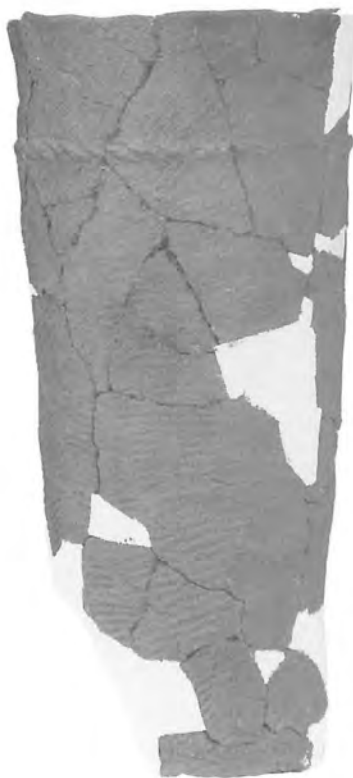
(19) - 2



(19) - 1



(19) - 3



(20) - 1



(20) - 2

図版89 B捨場（西捨場）出土土器12



(21) - 1



(21) - 2



(21) - 3



(21) - 4



(22) - 1



(22) - 2

図版90 B捨場（西捨場）出土土器13



(22) - 3



(22) - 4



(23) - 1



(23) - 2



(23) - 3



(23) - 4



(23) - 5

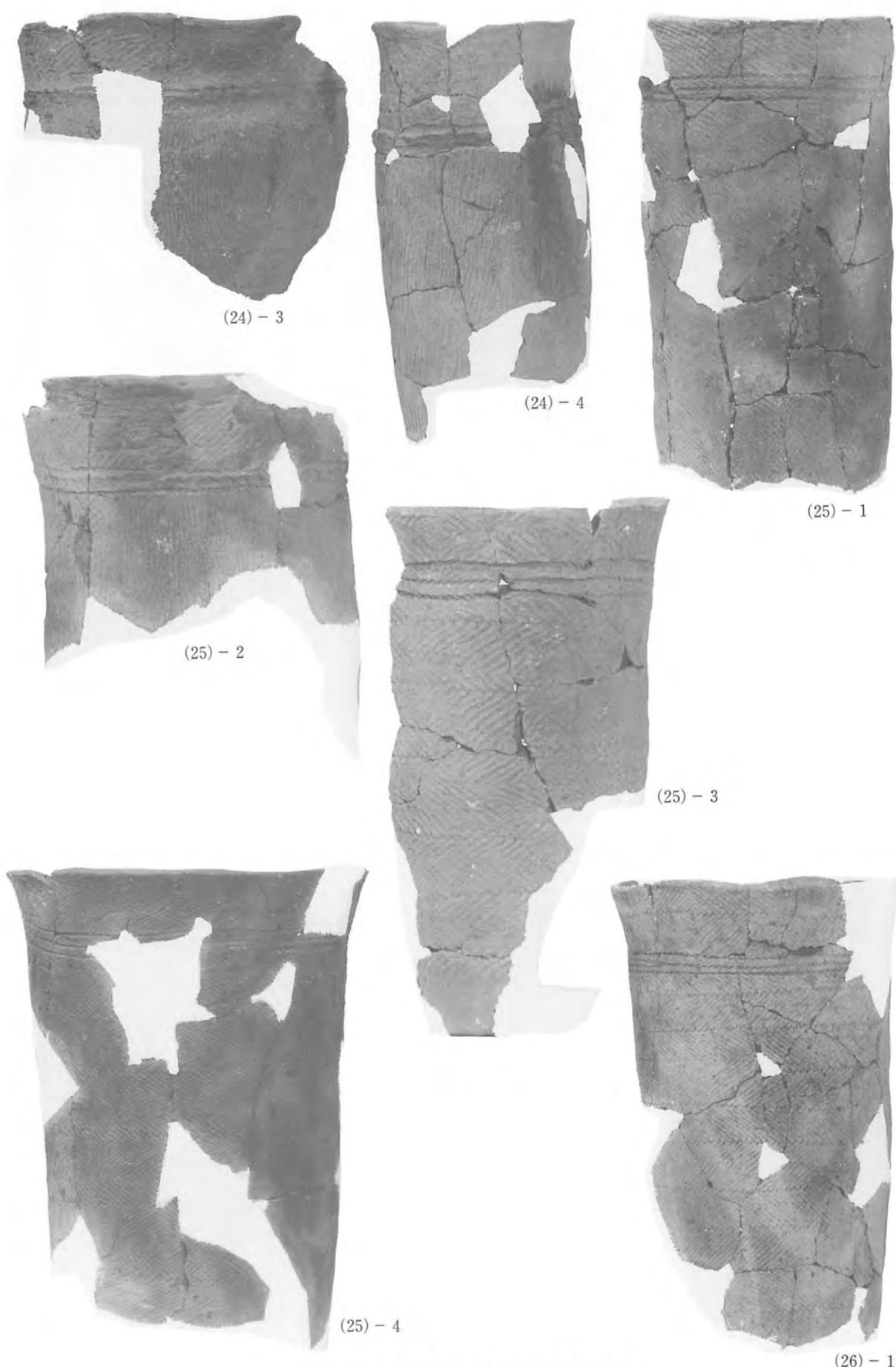


(24) - 1



(24) - 2

图版91 B捨場（西捨場）出土土器14



図版92 B捨場（西捨場）出土土器15





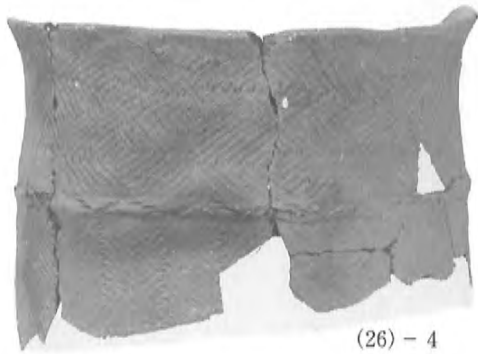
(26) - 2



(26) - 3



(27) - 1



(26) - 4

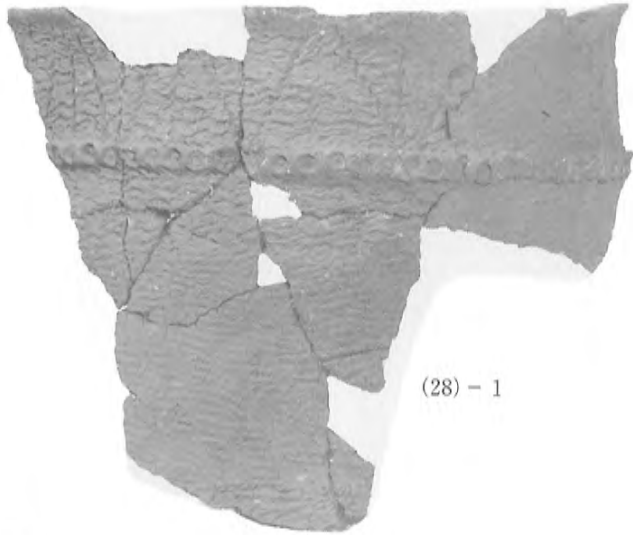


(27) - 2

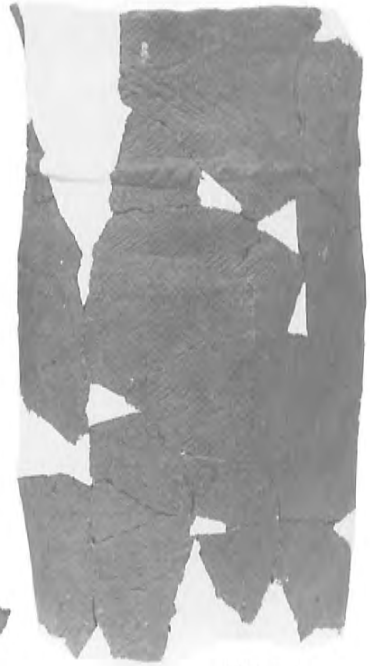


(27) - 3

図版93 B捨場（西捨場）出土土器16



(28) - 1



(28) - 2



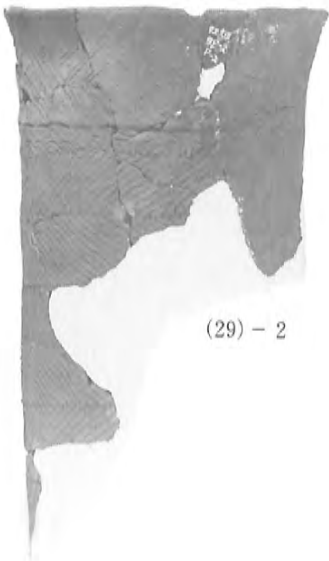
(28) - 3



(29) - 1



(29) - 4



(29) - 2



(29) - 3

図版94 B捨場（西捨場）出土土器17





(30) - 1



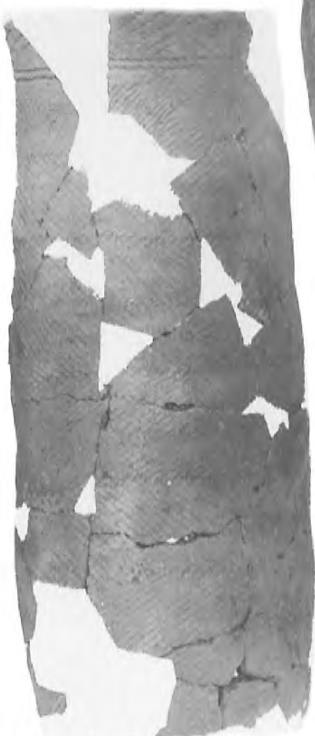
(30) - 2



(30) - 3



(31) - 1



(31) - 2



(31) - 3

図版95 B捨場（西捨場）出土土器18



(32) - 1



(32) - 2



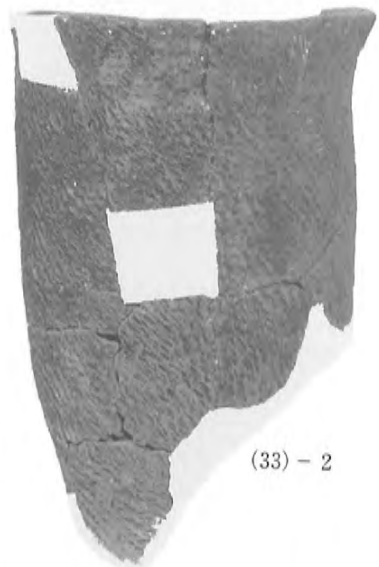
(32) - 3



(32) - 4



(33) - 1



(33) - 2

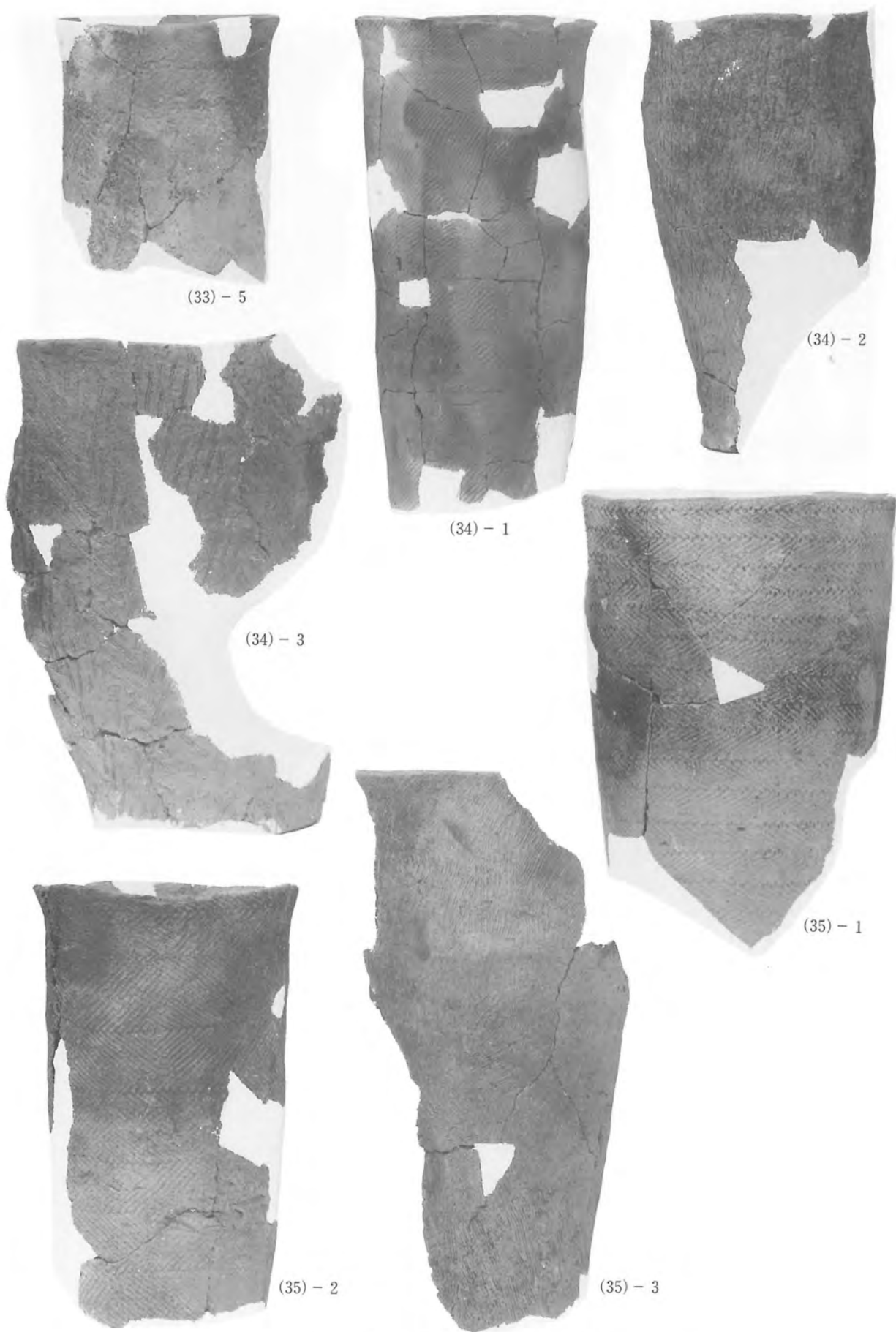


(33) - 3



(33) - 4

図版96 B捨場（西捨場）出土土器19



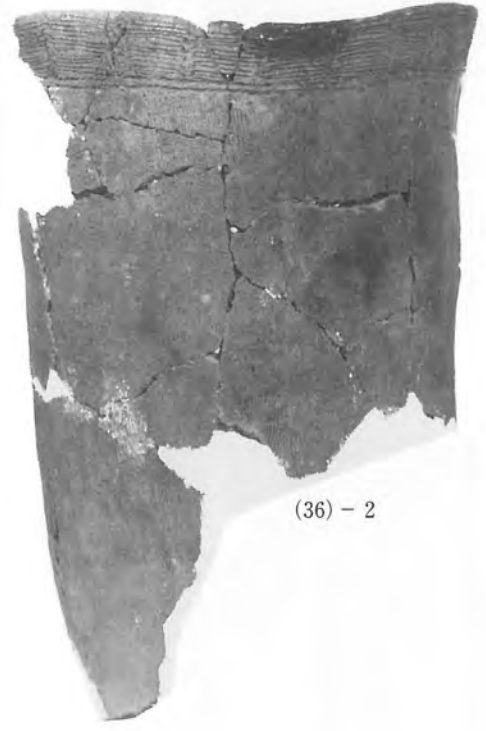
図版97 B捨場（西捨場）出土土器20



(35) - 4



(36) - 1



(36) - 2



(36) - 3



(36) - 4



(37) - 1

図版98 B捨場（西捨場）出土土器21



(37) - 2



(37) - 3



(37) - 4



(38) - 1



(38) - 2

図版99 B捨場（西捨場）出土土器22



(38) - 3



(38) - 4



(39) - 1



(39) - 2



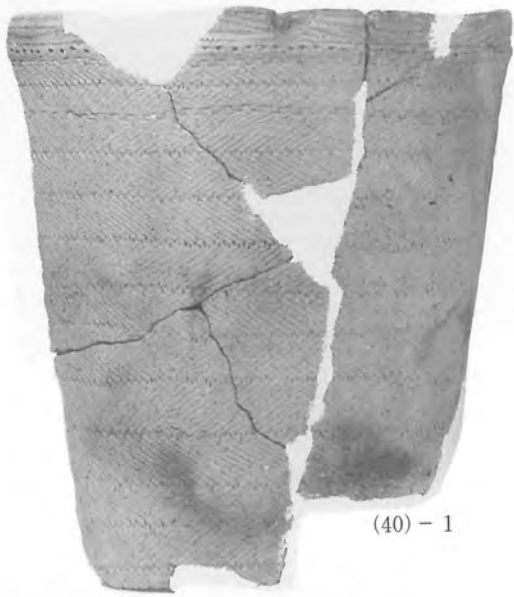
(39) - 3



(39) - 4

図版100 B捨場（西捨場）出土土器23





(40) - 1



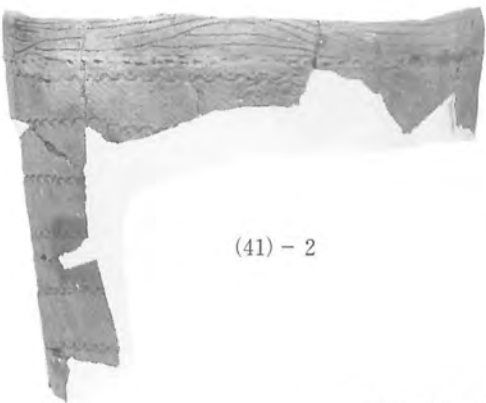
(40) - 2



(40) - 3



(40) - 4

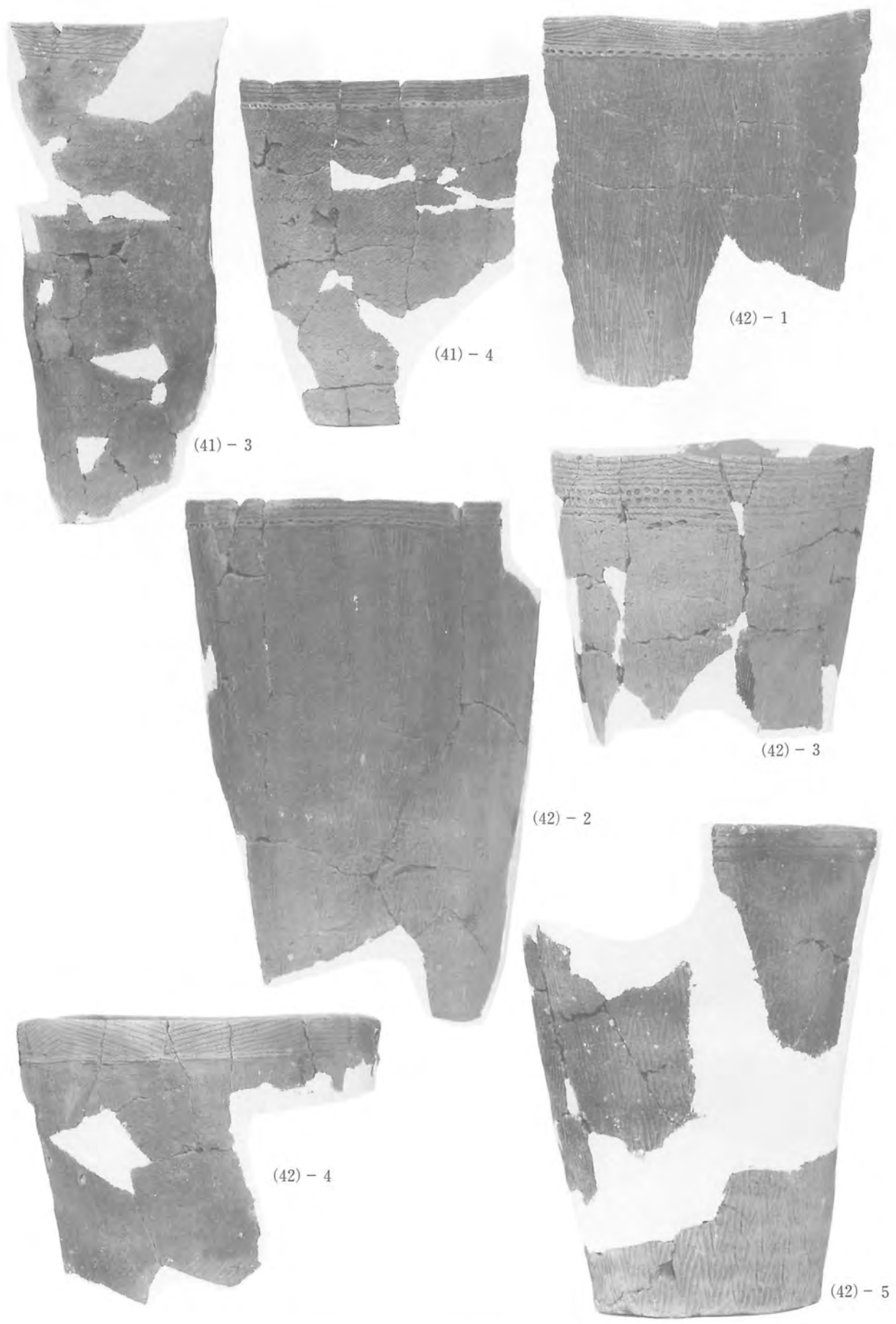


(41) - 2



(41) - 1

図版101 B捨場（西捨場）出土土器24



図版102 B捨場（西捨場）出土土器25





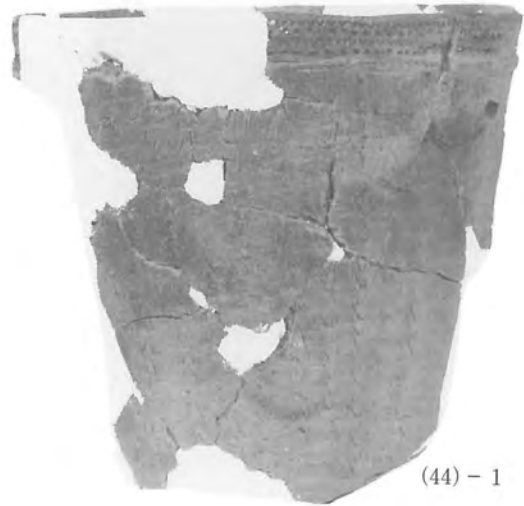
(43) - 1



(43) - 2



(43) - 3



(44) - 1

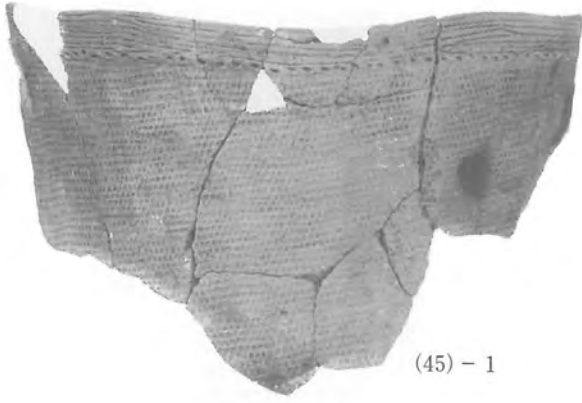


(44) - 2



(44) - 3

図版103 B捨場（西捨場）出土土器26



(45) - 1



(45) - 2



(45) - 3



(45) - 4



(46) - 1



(46) - 2

図版104 B捨場（西捨場）出土土器27



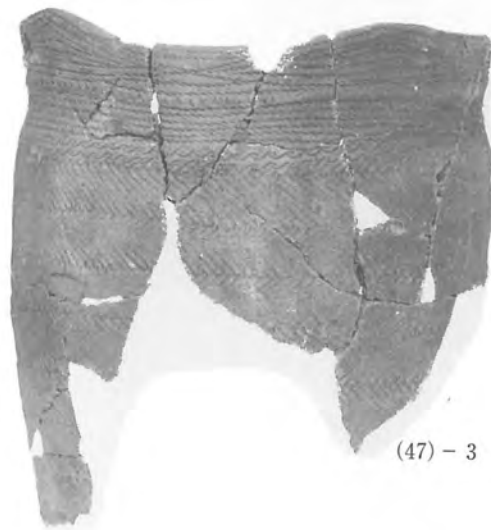
(46) - 3



(47) - 1



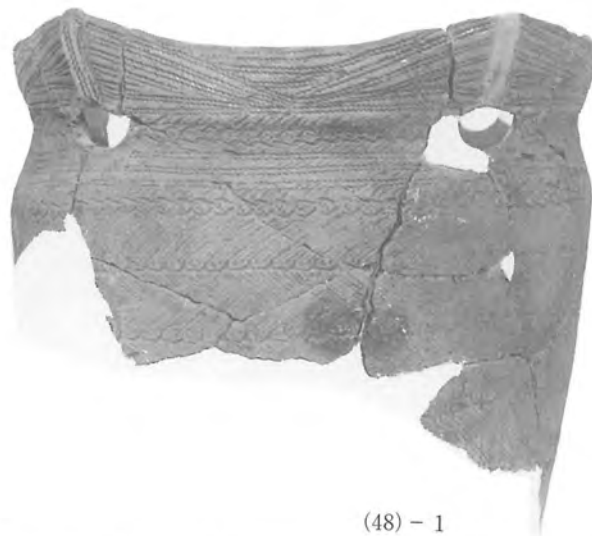
(47) - 2



(47) - 3

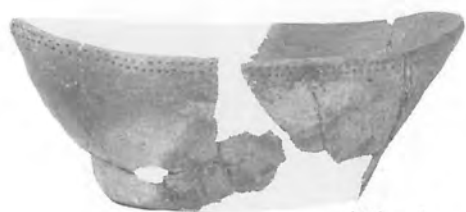


(47) - 4



(48) - 1

図版105 B捨場（西捨場）出土土器28



(48) - 2



(48) - 3



(49) - 1



(49) - 2

図版106 B捨場（西捨場）出土土器29

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	はたないいせきご							
書名	畑内遺跡 V							
副書名	八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第262集							
編著者名	木村鐵次郎・笹森一朗・佐々木雅裕・茅野嘉雄・永嶋豊・齋藤正							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター TEL 0177-88-5701							
所在地	〒038-0042 青森市新城字天田内152-15							
発行年月日	1999年 3月 25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はたないいせき 畑内遺跡	あおもりけんさんのかへぐんなん 青森県三戸郡南 ごうむらおおあざしまもりあざ 畑内4外	02448	65002	40° 22′ 50″	141° 29′ 20″	19970501 } 19971114	15,000	八戸平原開拓 建設事業（世 増ダム建設） に伴う
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
畑内遺跡	集落跡  集落跡 散布地	縄文  弥生  平安	竪穴住居跡 20軒 フラスコ状土坑 45基 土坑 27基 土器埋設遺構 28基 焼土遺構 78基 集石遺構 4基 配石遺構 1基 屋外炉 2基 土坑 1基 性格不明 1基	縄文土器 石器  弥生土器	大型竪穴住居 跡（縄文時代 前期）  遠賀川系土器			

---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第262集

畑内遺跡 V

―八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）に伴う遺跡発掘調査報告―

発行年月日 平成11年3月25日  
発行 青森県教育委員会  
〒030-8540 青森市新町二丁目3-1  
編集 青森県埋蔵文化財調査センター  
〒038-0042 青森市新城字天田内152-15  
TEL 0177-88-5701、FAX 0177-88-5702  
印刷所 長尾印刷株式会社  
〒038-0931 青森市平新田字森越17-1  
TEL 0177-26-7121、FAX 0177-26-9237

---







活彩あおもり  
—輝くあおもり新時代—